

1 維管束植物

維管束植物相の概要

岡山県は、県南の瀬戸内海沿岸域から岡山平野の低地、中部の吉備高原地帯、県北の中国山地地域へと南で低く北に高い地形となっている。これに対応して県北の中国山地地域では降水量は2,000mm前後となる低温多雨の地域である。一方、瀬戸内海沿岸地域の低地は年間降水量1,000mm程度の温暖少雨を特徴とする瀬戸内海式気候である。このような冷涼多雨から温暖少雨への大きな気候的傾度は気温の傾度であるとともに乾湿の傾度でもあり、植物の生育に大きな影響を与えている。特に瀬戸内海式気候の地域では、最も気温の高い7月から8月にかけての降水量が少なく、渇水年においては夏緑広葉樹が落葉することがあるなど、過酷な環境条件となっている。このために太平洋や日本海に面する地域においては普通種であるにも関わらず、岡山県の瀬戸内地域においては希少、もしくは欠如する種も少なくない。

このような植物分布の傾向は、特に常緑広葉樹やシダ植物で顕著であり、暖温帯域に普通にみられるスダジイは沿岸平野で欠如し、年間降水量1,400mm以上で海拔500m前後の中部吉備高原にいたってやっと自然分布する（難波・波田，1997）。

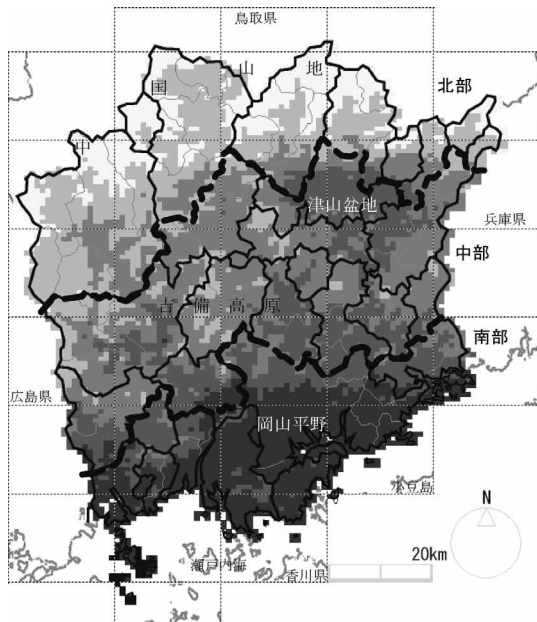


図1. 暖かさの指数の分布 (°C)

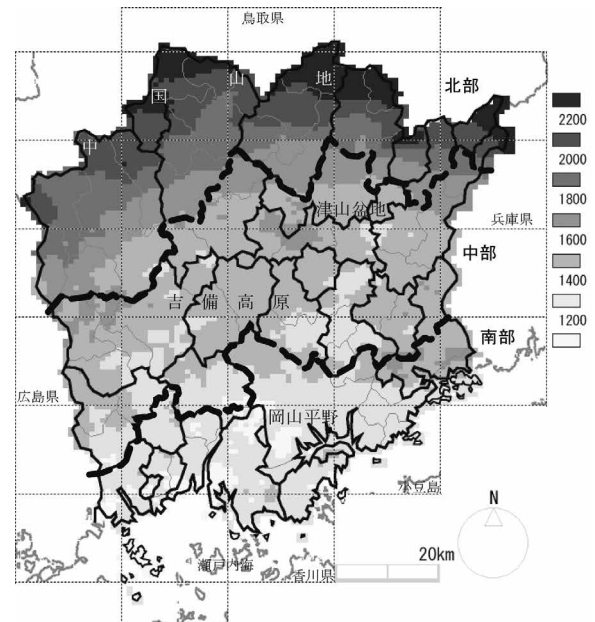


図2. 年間降水量の分布 (mm)

北部の脊梁山地は1,000～1,200m程度で、標高が低いためにブナ林域そのものが狭く、連続性に欠ける。また、昭和初期に至るまで砂鉄と木炭による「たたら製鉄」が行われた地域であり、「鉄穴流し」によって大規模に地形が改変され、製炭によって森林伐採が繰り返されてきた履歴を持つ。このようなブナ林域の改変そして狭さと分断は、植物の生育に大きな影響を与えている。現在は薪炭林としての役割を終え、回復途上にあると言えようが山塊が低いために地球温暖化は大きな影響を与えかねないと予想される。

県の北部から中部ではニホンジカの影響が表れ始めており、特に兵庫県の氷ノ山山塊に隣接する地域では、林床植生が疎となった森林に変質しつつある。脊梁域の湿原では湿原生の植物が摂食されて小型化し、消滅するなどの状況が観察されており、注意深く観察する必要がある。

絶滅危惧種の状況

2009年からの10年間に於いては、DNAなどの情報が生物の分類に反映されるようになり、大きく体系が変更された。種子植物における今回の改訂に際しては、APG体系へと変更することや、種の分類に関してもYListなどの新たな知見への対応を行う必要があり、多大な労力を費やすこととなった。新たな体系への再分類には、標本による判定が必要であり、標本の体系的な蓄積と管理が必須であるが、これに関しては倉敷自然史博物館、岡山大学資源科学研究所、岡山理科大学、岡山県自然保護センターなどに保有されている標本が貢献した。適切に管理された標本の存在が必須であった。先人の業績に敬意を表するとともに、今後ともに継続が必要である。

分類のシステムが変更され、あるいは最新の知見に対応したので、県内の野生植物相の種数を単純に比較することは適切ではないが、2009年と比較するとシダ植物は233種から247種へと14種が増加し、種子植物は2,505種から2,589種へと増加した。維管束植物全体では、2,738種から2,836種へと98種が増加したことになる。種数の増加は、分類に関する新知見によるところが最も大きい。新しく日本に定着した帰化植物および国内由来の外来種も種数の増加に貢献している。

「情報不足」および「留意」を含む絶滅危惧種は、シダ植物では8種増加し、種子植物は4種増加した。新たに県の植物目録に追加されたハマネナシカズラ、ヒゴタイ、コウグイスカグラは「絶滅」の判定となった。このため、絶滅と判定した種は、9種から15種へと激増することとなった。情報不足や留意などとして評価していた種がその後の情報の蓄積によって適切なランクに評価が行われた。その結果、評価が未確定であった種は減少させることができた。

シダ植物は在来種241種の内約30%の72種が絶滅危惧種に選定された。科別にみるとミズニラ科 (3/3)、ハナヤスリ科 (4/9)、イノモトソウ科 (6/17) などで絶滅危惧種が多かった。

種子植物では在来種1,979種の内502種が選定され、約25%の種が絶滅危惧種に選定された。科別にみるとラン科が65種の内52種が絶滅危惧種に選定され、実に80%に及ぶ。ガマ科 (6/8)、アヤメ科 (5/7)、トチカガミ科 (5/9)、フウロソウ科 (4/5)、アオイ科 (4/7)、タヌキモ科 (5/8)、キンポウゲ科 (18/47) などが絶滅危惧種の割合が高い。

生育地環境に注目すると、それぞれの生育環境によって特色が見えてくる。生育環境のカテゴリーは統一することに留意したが、厳密に定義された用語を使用することはできず、結果的に、ある程度広い概念の生育環境を示している。当然、池沼地と湿地のような類似した生育環境に重複して生育する植物は多く、生育地ごとの解析においては生育する種は重複している。種数に付記した数値は帰化率（帰化種数/生育種数）、選定種率（絶滅危惧種数/在来種数）である。帰化種に関しては栽培からの逸出・野生化も含み、意見が異なる場合もある。

「湿地」は貧栄養性の湿原から中栄養の湿った草原を含んでいる。湿地に生育する植物は268種であり、そのうち帰化植物はわずかに7種（3%）であり、帰化植物の最も少ない生育環境であったがナガエモウセンゴケ、アフリカヒナミミカキグサ、ムシトリコザクラの3種は自然の湿原への人為的植栽であり、このような行為は厳重に慎まなければならない。絶滅危惧種は71種（27%）であり、ミズトラノオは野生絶滅と判定され、イワショウブ、ミカズキグサ、オグラセンノウ、ヤチシャジン、サクラソウ、ミツガシワ、ミタケスゲ、ミカワシンジュガヤなどが絶滅危惧Ⅰ類と判定された。これらの生育環境は湿原とその周辺の湿地であり、植生遷移に伴う乾燥化や周辺森林の成長に伴う被陰などの自然現象とともに、道路や工業団地、ソーラー発電開発などが大き

な危機要因となっている。

「池沼地」に生育する植物は291種が確認され、湿地に生育する植物と1/3が共通であった。帰化植物は26種（9%）と比較的少なかったが、絶滅危惧種と評価された種は74種に上り28%の種が選定された。絶滅と評価された植物はフサタヌキモであり、イトトリゲモ、ミズアオイ、ヒシモドキ、イトクズモ、ミズニラなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。池沼地に関しては、ソーラー発電や排水路の掘削など地形改変による影響はもちろんであるが、ため池では耕作放棄地の増加によって周年満水の水位変動がない放棄ため池が増加し、湖岸の水湿地が水面上になることがない点も影響は大きい。

「水田」および「放棄水田」に生育するとされた植物は258種であった。帰化植物は44種（17%）、絶滅危惧種は35種（16%）でありミズキカシグサとミズネコノオが絶滅と判定された。選定種はデンジソウ、ミズオオバコ、ミズタカモジなどであり、水田雑草というより谷津田の水路や水湿地に生育する種であると言えるであろう。このような生育環境は基盤整備により失われ、さらには除草剤や乾田化によって生育が困難となり、耕作放棄によって失われつつある。選定種の内15種が放棄水田に生育するとされているが、放棄水田の植生は短期間で激変し、水田耕作に困む植物群の生育は放棄直後のごく短期間である。山村の崩壊が進みつつあり、状況は深刻である。

「河原」は洪水によって定常的にかく乱される立地であり、多くの植物の生育を許容している。生育種は611種におよび、そのうち帰化種は207種（34%）に上った。選定種は35種（9%）であり、ハナナズナが絶滅と判定され、ミズアオイ、カラメドハギ、キブネダイオウなどが選定種となっている。なお、選定種の中には河口の感潮域に生育するシバナ、フクド、マツモなどの塩生植物6種も含まれている。

河川環境は森林回復やダム建設などによって全体的には安定化への道をたどってきた。河川の安定化によって礫河原や砂質の河原は減少し、ツルヨシやオギなどの大型の多年草を中心とした植生が広く発達し、ヤナギ類などによる樹林化も進行してきた。その結果、一年生草本や草丈の低い河川特有の植物が絶滅の危機にさらされることとなった。一方、地球温暖化の影響を受けている可能性がある記録的な集中豪雨により、河川環境が安定化から攪乱の時代へと変遷しつつあることも伺われる。洪水に伴って河川改修が実施されることも多く、注視が必要である。

「小川」は河原との共通性が高く、河原に生育する種に包含されている。197種が生育し、帰化種は31種（15%）、32種（19%）が絶滅危惧種に選定された。サクラソウ、ミズアオイ、マダイオウ、イトクズモなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。

「塩性湿地」に生育するとされた植物は37種であり、帰化種は9種（24%）、絶滅危惧種はチャボイ、シバナ、アッケシソウなど15種（54%）にも及んでいる。汽水域の塩性湿地は干潟の減少、河川改修などによって危機的状況となっている。廃塩田の乾陸化、ソーラー発電所などへの転換などの影響も大きい。

海岸の「砂浜」には111種が生育し、帰化植物は38種（34%）、絶滅危惧種は23種（32%）であった。コケセンボンギクが絶滅と評価され、ハマボウ、ネコノシタ、ハマナツメ、ハマビシが絶滅危惧Ⅰ類と評価された。絶滅危惧種の率が高いことでわかるように、海岸の開発、防波堤の整備

などによる影響は大きく、植生の回復による土砂の流出量減少も関与している。元々海岸砂浜の存在は危機的であるが、地球温暖化によって海水面が上昇すれば、防波堤との間に残された砂浜に生育する植物の生育環境は失われる可能性が高く、高いレベルの注視が必要である。

「半自然草地」に生育する植物は141種とされた。帰化種はわずか3種（2%）にとどまり、自然性が高いことが示された。一方、選定種は46種（33%）であり、半自然草地そのものの存続が危機的であることがわかる。コケモモが絶滅と評価され、シラタマノキ、イブキトラノオ、ネコヤマヒゴタイ、オオダイトウヒレンなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。半自然草地は火入れ、放牧、刈り取りによって維持されてきた歴史を持つが、このような人間活動がほぼ失われてしまったことによる立地の変質が問題となっている。蒜山などの脊梁山地では冬季の積雪と雪崩によって人為の影響もありながら自然性の高い草地が残されている。地球温暖化によって積雪量が減少すると、これらの草原も森林化してしまう可能性がある。

「山草地」には多様な植物が生育しており632種、帰化種は41種（6%）で少なかった。選定種は181種（31%）にも上り、ホソバナアマナ、ヒゴタイが絶滅と評価され、クサヤツデ、フキヤミツバ、エヒメアヤメ、ヒメミコシガヤ、セイタカトウヒレン、キビヒトリシズカなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。山草地は谷底から尾根までの広い環境に発達する草原であるが、植林などによる樹林化が進行し、特に斜面下部から谷底にかけての草地が消滅し、このような環境に生育する植物の存続が危機的な状況になっている。

「里草地」は人間の日常的な生活圏における草地であり、1,010種が生育し、帰化種も最多の405種（40%）に上った。絶滅危惧種は38種（6%）であり、サカバサトメシダ、ハマビシ、ミチノクフクジュソウ、ラセンソウ、コケリンドウなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。

「二次林」では最も多くの1,209種の生育が確認された。里草地とともに、多様な段階の自然が多様な種の生育の場となっていることがわかる。帰化種は39種（3%）にとどまり、里草地と対照的な数値となった。絶滅危惧種は230種（20%）であり、コガネシダ、ベニバナヤマシャクヤク、マルバノキ、サルメンエビネ、クマガイソウなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。二次林はマツ枯れ病によってマツ類が枯損し、コナラなどの落葉広葉樹林へと遷移し、温暖な地域では常緑広葉樹が優勢となりつつある。二次林は伐採と再生の森林利用によって伐採直後から発達した森林までの段階の自然がモザイク状に存在していた自然であったが、燃料革命によって森林の薪炭利用がなくなり、画一的な自然となりつつある。

岡山県は自然植生の面積が狭い県であり、「自然林」には発達した二次林や社叢林も含んでいる。確認種数は637種であり、絶滅危惧種は127種（20%）であった。キヨスミコケシノブ、ヤマトグサ、ニシノヤマタイミンガサ、フクオウソウ、ヒメノヤガラなどが絶滅危惧種に選定された。

「石灰岩地」特有の植物として59種がリストアップされた。石灰岩の影響は岩壁や岩角地などの露岩地で顕著であり、岩壁などとの共通性が高い。石灰岩地では59種（53%）が確認され、イチョウシダ、キドイノモトソウ、ヒメイワトラノオなどやヒメユリ、イブキ、オニヒョウタンボクなどが絶滅危惧Ⅰ類に選定された。（波田善夫）

アスヒカズラ*Lycopodium complanatum* L.

ヒカゲノカズラ綱 ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、減少傾向が強いだけでなく、国内における分布の南西限に近く、近隣府県でも希少であるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採、植生遷移

分布状況

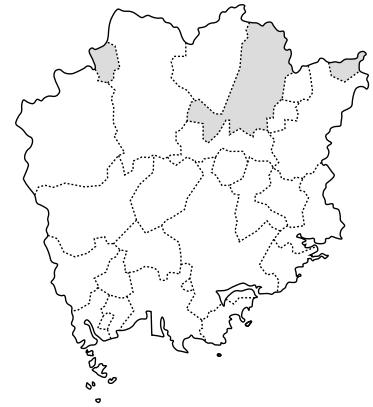
県内では北部山地の3カ所に記録があるほか、県中部には、形態も生育地も異質であることから移入と見られる1集団が知られている。県外では南千島～中部地方の寒温帯を中心に、近畿、中国、四国地方にも希に分布し、ロシア（極東・シベリア）、朝鮮、中国、モンゴル、南アジア、北米（北部）に分布する。



撮影：山下 純

生育状況

常緑性の小葉類。湿地周辺にも稜線上の斜面林床にも生じる。主軸はコケに被われた地表を長く這い、側枝は立ち上がり分枝して4列の葉を生じるが、うち2列は小さくて目立たず、大きい2列が枝の左右に偏平に並ぶので、枝全体が葉状に見える。和名はこの枝をアスナロに見立てたもの。県内では多雪山地のブナ帯のスギ植林内に生育していたが、皆伐後にススキとササが繁茂し、ニッチを奪われて現存は不明である。その近くの鳥取県側のスギ植林床には存続している（写真）。他の2カ所も60年以上前の記録があるだけで、現存は確認できない。

**主要文献**

海老原（2016）、倉田・中池（1990）（山下 純）

ミズニラ*Isoetes japonica* A.Braun

ヒカゲノカズラ綱 ミズニラ目 ミズニラ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

岡山県で確認されたのは南部のただ1つのため池のみで、存続はその水質を含めた保全にかかっている。

存続を脅かす要因

水質汚濁

分布状況

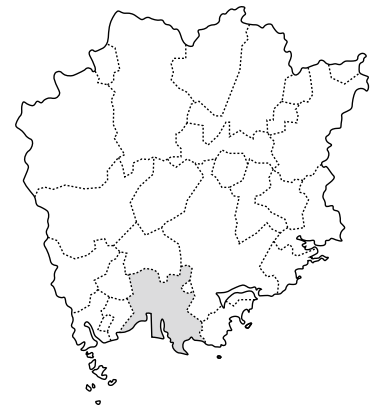
県内で確認されたのは1カ所であるが、水中の生育確認の困難や、同定上の困難もあり、他の場所でも発見の可能性はある。県外の状況は青森県～山口県まで本州に広く分布し、また四国にもわずかにある。この科の数種の中では最も広く分布するが量は…少ない。国外では朝鮮に分布する。



撮影：池畑怜伸

生育状況

和名は水中に生えているニラの意味であるが、葉は偏平ではなく、厚いかまぼこ形である。基部はやや広くなり、そこに大孢子嚢または小孢子嚢が1株内に混じって生じる。同属の他種との区別は孢子表面の形状が役立つが、本種では大孢子は蜂の巣構造（部分写真）、小孢子は滑らか（走査型電子顕微鏡による）である。6倍体である。

**特記事項**

ミズニラ類の新しい分類（高宮，1997）によって次項のミズニラモドキと区別された。同定はこの研究の過程で行われた。※本種の記述は、学名と分類上の位置および国外の分布状況を除き、2009年版による。

主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1985）、高宮（1999）、Takamiya et al.（1997）（池畑怜伸・山下 純）

ミズニラモドキ

Isoetes pseudojaponica M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono

ヒカゲノカズラ綱 ミズニラ目 ミズニラ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

ため池の水質に左右される生態であり、富栄養化が進行しがちな現状にあっては存続が安定しているとはいいがたい。また、ため池の堤防改修等により、長期間干上がると存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因 水質汚濁，池沼開発

分布状況

岡山県での分布はミズニラに比べてやや多く、20カ所ほどのため池等に生育している。日本固有種で、南東北～北関東の主に太平洋側、および近畿～中・四国の主に瀬戸内海側に希に分布する。

生育状況

ミズニラ類で唯一8倍体の新種として発表(Takamiya et al. 1997)された。ミズニラとの区別は大孢子表面の構造はほぼ同じなので、小孢子表面に一面にある突起を電子顕微鏡で確かめる困難があるが、岡山県の場合は、高宮の同定によっているので問題はない。多くは水質のよい山中のため池で、流入側の浅い水中に生育するが、秋の減水時には陸生となることもある。

特記事項

ミズニラ類の新しい分類(Takamiya et al. 1997)によって前項のミズニラと区別された。岡山県産のものがタイプ標本となっている。※本種の記述は、学名と分類上の位置および国内の分布状況を除き、2009年版による。

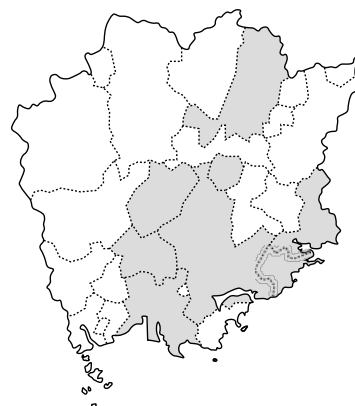
主要文献

海老原(2016), 倉田・中池(1985), 高宮(1999), Takamiya et al.(1997)

(池畑怜伸・山下 純)



撮影：池畑怜伸



オオバシナミズニラ

Isoetes sinensis T.C.Palmer var. *coreana* (Y.H.Chung et H.K.Choi) M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono

ヒカゲノカズラ綱 ミズニラ目 ミズニラ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県での分布が数カ所と極めて限られている上に、水田での農薬の影響や、水田の放棄により存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移，農薬汚染(除草剤散布)

分布状況

県内では南部を除く広い地域にごくまばらに見られるが、密度の濃い地域もある。国内の状況は主に中国・四国・九州にあり、離れて茨城・長野両県にもある。高宮の研究により、それ以前の中国地方のシナミズニラはすべて本変種とされた。国外では朝鮮に分布する。

生育状況

ミズニラとミズニラモドキの大孢子表面は明瞭な蜂の巣構造であるのに対し、本変種では、トサカ状あるいは鋭い高低のある曲がった畝状として区別される。ただし同種内の変種であるシナミズニラとはこの点が同じであり、葉の大きさ・形・その他による区別が必要であるが、現在は九州だけにあるとされているので、除外してよい。6倍体である。

特記事項

Takamiya et al.(1997)によってシナミズニラの新変種と位置付けられた。※本種の記述は、学名と分類上の位置および国外の分布状況を除き、2009年版による。

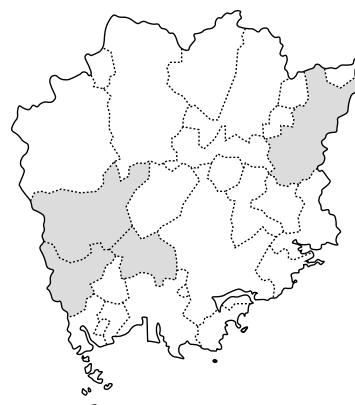
主要文献

海老原(2016), Takamiya et al.(1997)

(池畑怜伸・山下 純)



撮影：池畑怜伸



エゾフユノハナワラビ *Botrychium multifidum* (S.G.Gmel.) Rupr. var. *robustum* (Rupr. ex Milde) C.Chr.

大葉シダ綱 ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内の生育地が局限される上、国内の希産地域にあたり、近隣県でも希であるが、安定的に存続していると見られるため。

存続を脅かす要因

産地局限、食害

分布状況

県内では、北部の1地域に記録されている。国内では温帯、寒温帯を中心に北海道、本州、四国に分布し、従って温帯以上の領域が狭い近畿地方以西では希である。国外ではロシア（極東）、朝鮮、中国、ネパールに分布する。

生育状況

夏に地上部が枯れる多年草。葉は部分的二形をなし、栄養葉部と孢子葉部の違いが明らかで、どちらにも長い柄があり、両者が共通柄につながり、立体的な構造になる。フユノハナワラビに似ているが、全体に白色の毛が多い。また、基準変種のヤマハナワラビに比して全体大きく、葉の複生回数が1回多く3～4回羽状、葉質も異なるが、明確ではない。県内では標高1,000m付近の温帯落葉樹林床やスギ植林縁の半陰地に生じ、集団規模はせいぜい数十株と思われる。自然公園として管理されており、安定的な環境である。近年ニホンジカの生息密度が増加しているとみられ、食害に注意が必要である。

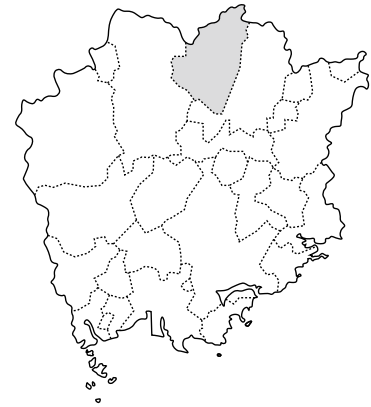
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1997）

（山下 純）



撮影：池畑怜伸

**アカハナワラビ***Botrychium nipponicum* Makino

大葉シダ綱 ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

概ね安定的に存続しているが、県内の生育地・個体数とも少ない上、植生遷移等の影響が懸念されるため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、植生遷移

分布状況

県内では希で、中部から北部で10カ所近くが記録されている。国内では北海道南西部、本州、四国、九州にかけて分布する。西日本では少ない。国外では朝鮮、中国（広西壮族自治区）に分布する。

生育状況

夏に地上部が枯れる多年草。葉は部分的二形をなし、栄養葉と孢子葉の違いが明らかで、どちらにも長い柄があり、両者が共通柄につながり、立体的な構造になる。栄養葉の形はオオハナワラビを小さくしたように見えるが、本種は冬期に紅葉し、孢子葉は孢子の飛散後に枯れて倒れる。県内では落葉樹二次林床やヒノキ植林床などに数株から数十株の集団が知られる。人通りの少ない林床の登山路上は比較的明るいので、そういう所に生じることも多い。あまり暗い所を好まず、植生遷移が進行して冬期も暗い常緑樹林になれば衰退する。栄養葉は背が低いので、密な高茎草地も生育には向かない。

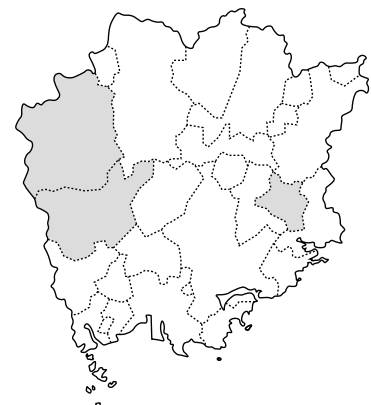
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1990）

（山下 純）



撮影：山下 純



ナガホノナツノハナワラビ

Botrychium strictum Underw.

大葉シダ綱 ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では知られる生育地が1カ所に局限され、個体数も少なく、人為の影響を強く受ける環境であるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採、踏みつけ、食害

分布状況

県内では北部の1カ所に記録されている。国内では北海道から本州、四国、九州にかけて広く分布するが、温帯域に比較的多く、西日本には少ない。国外ではロシア（極東）、朝鮮、中国に分布する。

生育状況

林床に生じる夏緑性のシダ植物。葉は部分的二形をなし、栄養葉部と孢子葉部の違いが明らかで、柄のある孢子葉が、栄養葉の葉身の基部で共通柄につながり、立体的になる。ナツノハナワラビに似ているが、葉の複生回数がより少なく、孢子葉の葉身が細長い点で異なる。スギ植林床の平坦地などに大群落を形成することもあるが、県内では今のところ唯1株がスギ植林床に確認されているのみである。2005年以降の状況は不明である。林業やキノコ栽培による踏みつけ等の影響が懸念される。

特記事項

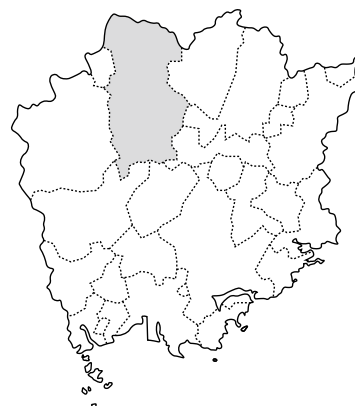
大久保（1999）は本種が新見市に産するとしているが、証拠標本を確認したところ誤同定であった。

主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、大久保（1999）（山下 純）



撮影：池畑怜伸



ハマハナヤスリ

Ophioglossum thermale Kom.

大葉シダ綱 ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地がごく少なく、人為の影響にさらされやすい環境にあるため。

存続を脅かす要因

産地局限、工事、植生遷移

分布状況

県内では、南部を中心に数カ所が記録されている。国内では北海道南西部から沖縄県にかけて比較的標高の低い所に点々と分布する。国外ではロシア（極東）、朝鮮、中国、台湾に分布する。

生育状況

砂地や荒地に生じる多年生のシダ植物。夏緑性だが暖地では常緑性。葉は部分的二形で、栄養葉部は分裂せず狭長楕円形～披針形で柄は不明瞭、孢子葉部は分裂しない棒状で柄が長く、両者の基部は共通柄につながる。孢子繁殖だけでなく、根から不定芽を生じて栄養繁殖が可能である（この性質は同属の他種にもある）。本種はかつてコハナヤスリの変種とされていたが、コハナヤスリは雑種であることが判明し、ハマハナヤスリは独立種とされるに至った。県内では干拓地、中央分離帯などの造成地に生じる。2009年版の岡山県版レッドデータブックではハマハナヤスリを含むコハナヤスリとして記載されていた。本項では葉の形態において確実性の高い標本に基づいた。

関係法令の指定状況

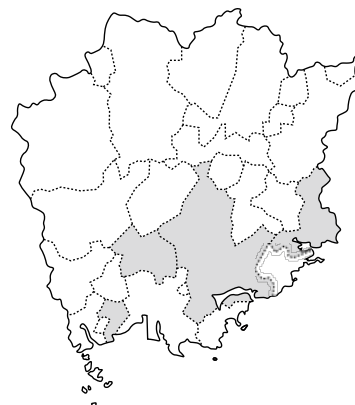
「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）（山下 純）



撮影：山下 純



マツバラン*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

大葉シダ綱 マツバラン目 マツバラン科

●岡山県：情報不足 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

国内での希産地域にあたり、近隣県でも希であり、県内の生育地が局限されるが、逸出由来の疑いが強く見込まれるため。

存続を脅かす要因

採集圧

分布状況

県内では、南部に数カ所の記録がある。国内では暖温帯から亜熱帯に分布し、四国と本州では瀬戸内地域や日本海側には少ない。国外では朝鮮（済州島）、中国、台湾、南アジア、東南アジア、オーストラリア、南太平洋に分布する。

生育状況

主に樹上や岩上、時に石垣などに生じる常緑性のシダ植物。根は無く、地上茎は直立して二叉分枝する。地下茎は分枝して菌根を形成し、任意の箇所から上方に伸びて地上茎になる。その特異な形態の化石植物との類似から原始的維管束植物とされていたが、現在ではハナヤスリ科の姉妹群として大葉類に属することが分かっている。県内では、数カ所が現存し、南部市街地の石垣や縁石、あるいは離島の民家付近などに少数ずつが生じる。古典的園芸植物として栽培されることもあるので、少なくとも一部、あるいは全部が、植木鉢や温室から孢子繁殖で逸出したものの可能性がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園の指定植物である。

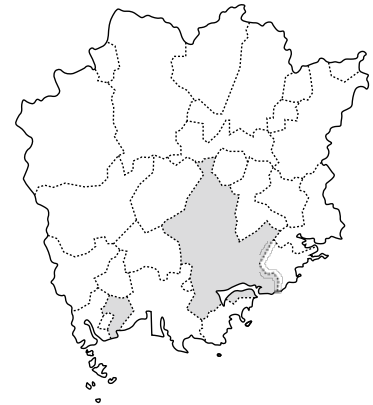
主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）



撮影：山下 純

**ヤシャゼンマイ***Osmunda lancea* Thunb.

大葉シダ綱 ゼンマイ目 ゼンマイ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育環境が限定され、環境の変化により減少傾向にあると考えられるため。

存続を脅かす要因

河川改修、ダム建設、道路拡幅、自然災害

分布状況

県内では10カ所足らずの記録がある。日本固有種で、北海道（日高）、本州、四国、九州に分布し、日本海側には少ない。

生育状況

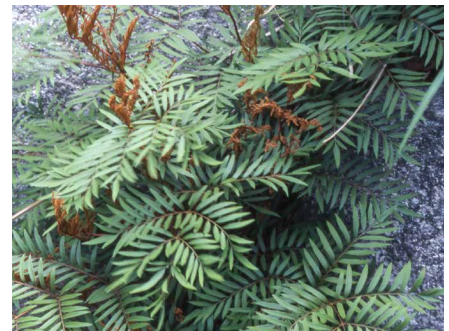
頑丈な根茎を持ち、中・上流域の溪流帯（河川敷内で増水によって浸水する立地）の岩上、岩隙に生じる夏緑性のシダ植物。葉は二形で、孢子葉と栄養葉の違いは明瞭。ゼンマイとは小羽片の形などで区別される。道路拡張や河川改修によって生育地が消滅するほか、ダムが作られることにより、その上流が広範囲にわたって水没するだけでなく、ダムの下流の流量が減り、陸生植物との競合にさらされたり、水不足になって衰退する。県内でも、上記のような理由で失われた生育地が多くあったと考えられる。現在は多数生育している所は県内に殆ど無い。ここまで少なくなると、土石流を伴うような大規模な氾濫は、競合種を退けるばかりか本種の存続にも脅威となり得る。

関係法令の指定状況

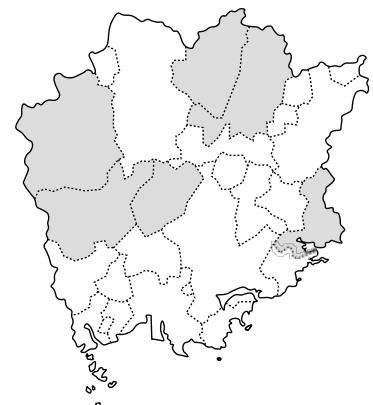
「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、氷ノ山後山那岐山国立公園の指定植物である。

主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1990）（山下 純）



撮影：山下 純



キヨスミコケシノブ

Hymenophyllum oligosorum Makino

大葉類 コケシノブ目 コケシノブ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が1カ所に局限され、集団規模も小さく、森林伐採等の環境変化に弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限, 採集圧, 森林伐採

分布状況

県内では北部に1カ所のみが記録されている。国内では栃木県北部以南の本州から四国, 九州にかけて分布し, 襲速紀地域と東海地方に多く, 日本海側と瀬戸内地域には少ない。国外では中国, 台湾に分布する。



撮影：池畑怜伸

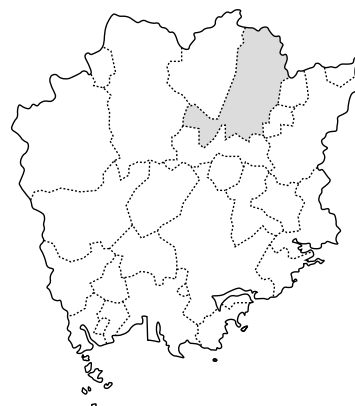
生育状況

深山で巨木の幹などに生じる, 小形の常緑性シダ植物。葉縁は全縁で, 葉身に明らかな毛があることが特徴である。包膜は二弁状で全縁～波状縁。県内では, 北部山地の温帯に近い自然林の岩壁や樹幹に希に生じる。国定公園内の人目に付かない場所であり, 今のところ環境は安定しているが, 確認現存数がごく少ない。2009年版において「ここ数年間に数cmの塊が, 数mの大群に育った」とあるのは誤りと考えられる。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992)

(山下 純)



コケシノブ

Hymenophyllum wrightii Bosch

大葉シダ綱 コケシノブ目 コケシノブ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少ない上, 集団規模も小さく, 森林伐採等の環境変化に弱いため。

存続を脅かす要因

乾燥化, 森林伐採

分布状況

県内では北部を中心に約10カ所が記録されている。国内では北海道から本州, 四国, 九州にかけて分布するが, 暖温帯以下の温暖地には希。国外ではロシア (極東), 朝鮮, カナダ西部 (ハイダグアイ), アラスカに分布する。



撮影：山下 純

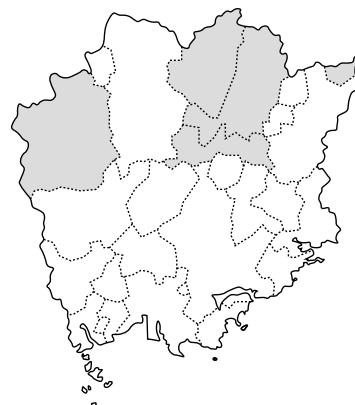
生育状況

岩壁や樹幹に生じる小型の常緑性シダ植物。葉縁が全縁であることは前種と同じであるが, 葉身には明らかな毛は無い。羽片はせいぜい5, 6対, 中軸に対して45度よりも狭い角度に前傾し, 羽片の裂片が数個と少なくてしばしば長いことは, 国内同属他種との区別点になる。包膜は二弁状で全縁。県内では, 北部山地で渓谷沿いの林床岩壁や, ブナ帯の巨木の積雪に埋まるような高さの樹幹などに生じる。2016年以降に4地点の生育地を追加したもの, 全て合わせても10カ所未満であり, 多くは概ね30cm四方程度, 大きいところでも2m四方程度の集団である。ただし, 気付かれにくいだけで, 今後も生育地が追加されると思われる。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1987)

(山下 純)



デンジソウ*Marsilea quadrifolia* L.

大葉シダ綱 サンショウモ目 デンジソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内だけでなく全国的に減少傾向が強いため。

存続を脅かす要因

農薬汚染（除草剤）、植生遷移、その他（農業形態の変化）

分布状況

県内では、南部の低地を中心に記録がある。国内では北海道（まれ）から九州にかけて分布する。国外では朝鮮、中国、ベトナム、ヨーロッパに分布する。

生育状況

夏緑性の異形孢子性のシダ植物で、浅い水辺や湿った土地に生育する。孢子嚢果の位置でナンゴクデンジソウと区別される。およそシダらしからぬ姿で、水面より上に伸びて展開する葉は、夜になると4枚の羽片を重ねて閉じる就眠運動を行う（水面の浮葉は閉じない）。水面の広がるような明るい場所では根茎を長く伸ばして盛んに繁殖するが、遷移が進んで背の高い植物に被われると、たちまち衰退する。かつては水田雑草であったが、湿田の減少などによって生育適地が減ったほか、除草剤の影響などで減少した。県内では放棄田や河川敷の湿地などに希に見られるが、生育地は減少傾向にある。同種または近縁種が園芸店で販売されているのをよく見かけるので、栽培系統が逸出すれば、自然分布の混乱や、野生系統の遺伝的攪乱も懸念される。

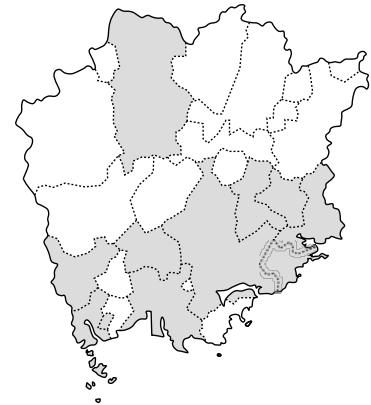
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1987）

（山下 純）



撮影：山下 純

**オオアカウキクサ***Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

大葉シダ綱 サンショウモ目 サンショウモ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県内で現認できる確かな生育地は1カ所だけとなった。

存続を脅かす要因

産地局限、農薬汚染（農薬・除草剤散布）

分布状況

県内では南部の、冬に水の涸（か）れない条件の1カ所の水田に生き延びている。他府県も同様であろうが標本はあっても実在しない現状である。国内では本州、四国、九州で、比較的低位地を中心に分布する。アカウキクサよりもやや北に偏る。日本固有種。

生育状況

アカウキクサとの見分け方は、前者が正三角形なのに対し、本種は部分写真に見るようにいわばアメーバ形である点である。藍藻類と共生して、空中窒素を固定する性質がある。

特記事項

アイガモ農法に伴って、外国産の種が方々の水田やため池に生育しており、これとの見分けは現場では事実上不可能である。※本種の記述は、学名と分類上の位置および県外の分布状況を除き、2009年版による。

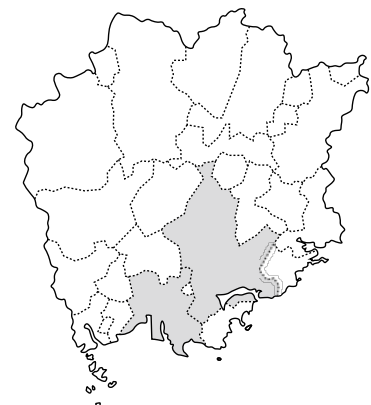
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1987）

（池畑怜伸・山下 純）



撮影：池畑怜伸



アカウキクサ

Azolla pinnata R.Br. subsp. *asiatica* R.M.K.Saunders et K.Fowler

大葉シダ綱 サンショウモ目 サンショウモ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県内の状況は2～3カ所のため池に見られるだけである。除草剤の影響で激減しており、存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

産地局限，農薬汚染（農薬・除草剤散布）

分布状況

県内では南部の2地域の、ため池と水田にわずかに生育する。それも除草剤に追われる状態が目前に見え、危うい限りである。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球列島で、低地を中心に分布する。国外では朝鮮、中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布する。

生育状況

水田やため池の水面に浮かぶ、小さい葉の集合した、ほぼ正三角形（1辺は1cm余り）の姿である。ふつう大集団で水面を覆い、冬には紅葉して一面に紅くなる。よく似たオオアカウキクサは三角形の形をとらないで、不規則に凹凸の縁を持った塊あるいは枝分かれ型となり、和名通りにやや大きい。除草剤の影響で激減している。

特記事項

※本種の記述は、学名と分類上の位置および県外の分布状況を除き、2009年版による。

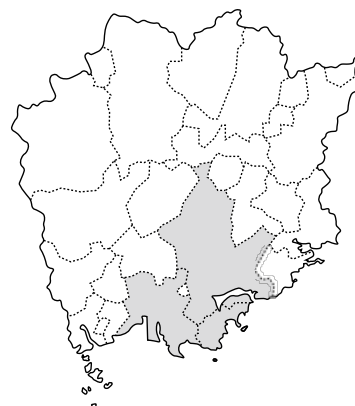
主要文献

海老原（2016），倉田・中池（1987）

（池畑怜伸・山下 純）



撮影：池畑怜伸



サンショウモ

Salvinia natans (L.) All.

大葉シダ綱 サンショウモ目 サンショウモ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内だけでなく全国的にも減少傾向が強いため。

存続を脅かす要因

農薬汚染（除草剤），その他（湿田の減少，溜め池の管理放棄による水質汚濁）

分布状況

県内では、南部の低地を中心に20カ所余りから記録されている。国内では本州、四国、九州にかけて分布するが、西南暖地には少ない。国外ではロシア、朝鮮、中国、台湾、インド、東南アジア、ヨーロッパに分布する。

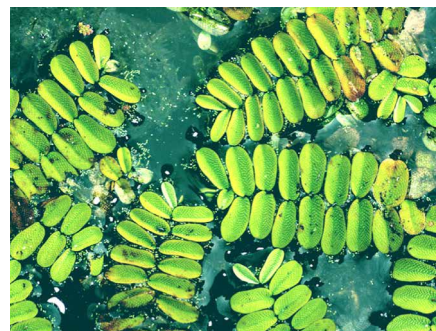
生育状況

浮遊性の水生シダ植物。明るい水面を好み、低地の水田や池に生じる。国内では一般に野外では一年生であるが、暖地や温室内では越冬する。根は無く、各節から生じる水中葉が根の役割を担う。異形孢子性。湿田の減少や溜め池の環境悪化、除草剤の影響などによって全国的に減少傾向にあり、県内でも殆ど見られなくなった。一方で園芸店の水生植物売り場などに由来の不明な個体が偶然に生じていることもあり、こうした系統が逸出して自然分布の混乱や在来系統の遺伝的攪乱を生じる恐れがある。

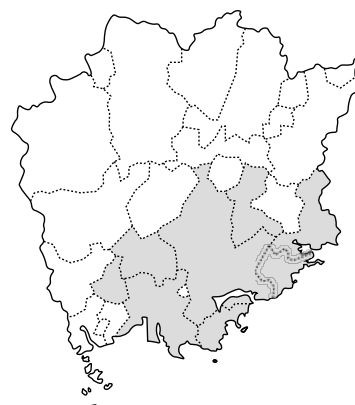
主要文献

海老原（2016）

（山下 純）



撮影：池畑怜伸



タカサゴキジノオ*Plagiogyria adnata* (Blume) Bedd.

大葉シダ綱 ヘゴ目 キジノオシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は分布域の北縁にあたり、県内では生育地が1カ所に局限されるだけでなく、生育環境が悪化しているため。

存続を脅かす要因

産地局限、自然災害（風倒木）、植林伐採

分布状況

県内では、瀬戸内地域に比べて降水量が多い北部で、比較的温暖な低丘陵地に1カ所が記録されている。国内では降雨量の多い襲速紀地域から東海地方の暖温帯を中心に、琉球列島、中国地方などにも分布する。国外では中国、台湾、南アジア、東南アジアに分布する。

生育状況

林床や林縁に生じる常緑性シダ植物。孢子葉と栄養葉の違いは明瞭。栄養葉の頂端は頂羽片が不明瞭。葉柄の断面は台形で、裏面（背軸面）が扁平であることがオオキジノオやキジノオシダとは異なる。他県の温暖多雨地では珍しくないが、県内では北部の社叢に小規模な1集団が確認されているのみである。ヒノキ植林の風倒木と伐採によって環境が大きく変化し、影響が懸念される。2019年現在で林縁部に10株前後の群生などが確認でき、大きなものは栄養葉が80cmに達する。

特記事項

2009年版の岡山県版レッドデータブックにコスギダニキジノオとして掲載されていた。

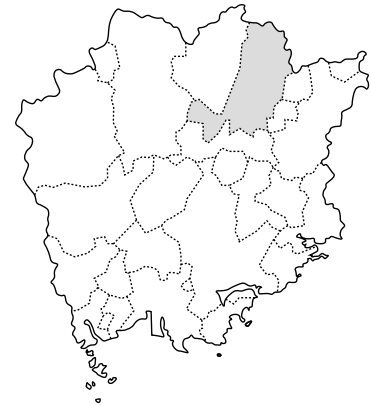
主要文献

海老原（2016）

（山下 純）



撮影：山下 純

**イシカグマ***Microlepia strigosa* (Thunb.) C.Presl

大葉シダ綱 ウラボシ目 コバノイシカグマ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

安定的に存続しているが、県内での生育地が限られているだけでなく、国内では比較的分布の少ない地域であり、近隣県にも少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では、南部の島（干拓で陸と繋がった島を含む）に約2カ所の記録がある。国内では西南暖地の照葉樹林が発達する温度域を中心に分布し、海に近い地域で見かけることが多く、北緯35度以北では殆ど見られなくなる。国外では、朝鮮、中国、台湾、南アジア、東南アジア、南太平洋に分布する。

生育状況

多雨暖地には普通な常緑性のシダ植物。孢子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、盛んに栄養繁殖する。葉身は2回羽状複生、小羽片はさらに羽状に中～深裂する。ソーラスは葉縁に近く、包膜の前縁は裂片の辺縁に届く。県内では陸繋島や離島などで、海岸から離れた山林に現存が確認され、集団の規模は小さいが、環境は発見当時から安定している。本土側の1集団では、モウソウチク林縁などに少数ずつが点々と生じ、2019年の時点では旺盛に殖えている様子は無い。

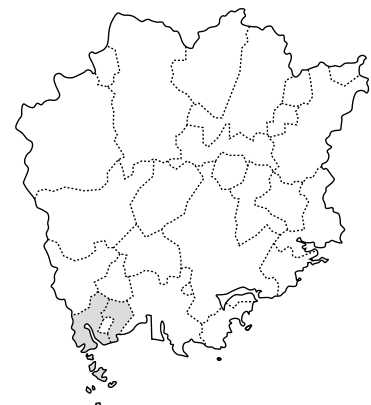
主要文献

海老原（2016）

（山下 純）



撮影：山下 純



フジシダ

Monachosorum maximowiczii (Baker) Hayata

大葉シダ綱 ウラボシ目 コバノイシカグマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内での生育地が局限されており、環境の変化に弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限, 乾燥化, 採集圧

分布状況

県内では、中部と北部の4カ所から記録されている。国内では栃木県以南の本州、四国、九州にかけて分布し、暖温帯から温帯まで見られるが、ごく普通なものではない。国外では、中国、台湾に分布する。

生育状況

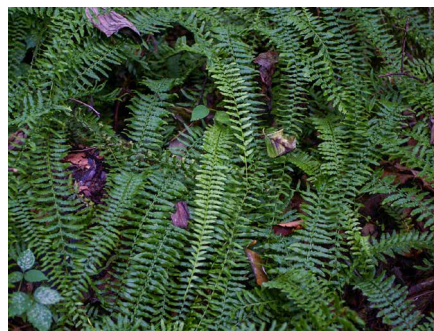
主に岩壁や岩上に生じ、中軸先端の無性芽でも繁殖する常緑性のシダ植物。林床斜面に広がる苔生した岩礫地に見渡す限り群生していることもよくある。葉は単羽状複生、線状披針形で細長く、羽片は短く、深い鋸歯縁。県内では暖温帯のやや冷涼地で、落葉樹や常緑樹が混交する林床やスギ植林床の、谷沿いの岩壁や崖錐に生育が確認される。最も古くから知られる1カ所は自然公園に含まれており、個体数が多く、集団の規模は数百mに及ぶ。2009年に発見した1カ所は数株程度であり、近づくことすら難しい岩壁上である。2カ所は現存が確認できない。本種を暖地で美しく栽培するのは難しい。

特記事項

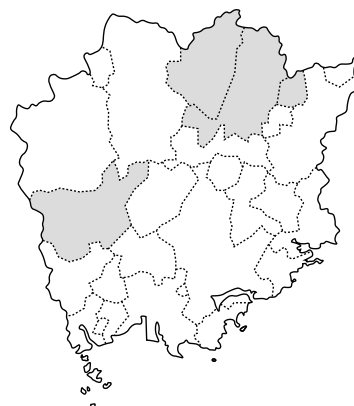
津山市は証拠標本が無いが、筆者が生育を確認した。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1979) (山下 純)



撮影：山下 純



オオフジシダ

Monachosorum nipponicum Makino

大葉シダ綱 ウラボシ目 コバノイシカグマ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

概ね安定的に存続しているが、県内での生育地が局限されており、環境の変化に弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限, 乾燥化, 採集圧

分布状況

県内では中部と北部の4カ所から記録されている。国内では新潟県以西の本州、四国、九州で、暖温帯のやや冷涼な所に多い。国外では、中国に分布する。

生育状況

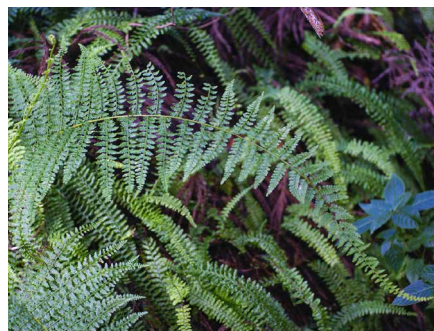
林床の岩壁や崖錐に生じ、胞子繁殖のほか中軸先端の無性芽でも繁殖する常緑性のシダ植物。葉身は三角状広披針形で下部が最も広く、2~3回羽状複生。ヒメムカゴシダと異なり、中軸の途中には芽を生じない。県内では暖温帯のやや冷涼地で、谷沿いの林床岩壁や崖錐の岩礫斜面に生じる。現存が確認されている3カ所はいずれも伐採や採集が制限された自然公園内にある。最大の集団は数百mにわたって広範囲に生じ、フジシダの集団と交錯しており、雑種アイフジシダが見られる。他の2カ所は数十および数百個体程度である。本種を暖地で美しく栽培するのは難しい。

関係法令の指定状況

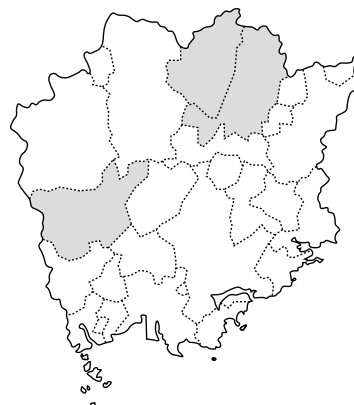
「自然公園法」における水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1979) (山下 純)



撮影：山下 純



タキミシダ*Antrophyum obovatum* Baker

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が局限され、個体数が少ない上、環境の変化に弱く、全国的にも希少であるため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、土砂災害、採集圧

分布状況

県内では2カ所から記録されている。国内では本州(千葉県以西)、四国、九州の暖温帯に希に分布する。国外では、中国、台湾、インドシナ半島、南アジアに分布する。

生育状況

湿度の高い場所で、主に岩壁や岩上に生じる常緑性シダ植物。井戸の中の石垣に生じることもある。ごく小さな葉はヒメサジランに似て見えるが、本種の葉身は中肋がないことで明らかである。葉脈は網状で、ソーラスは葉脈に沿い、包膜は無く、胞子嚢に混じって混紡状の側糸がある。県内では、林床の渓谷沿いに少数が生じ、ごく小さい個体が殆どである。少雨による乾燥化、豪雨による増水や土砂災害の影響を受けやすい。採集による減少も懸念される。

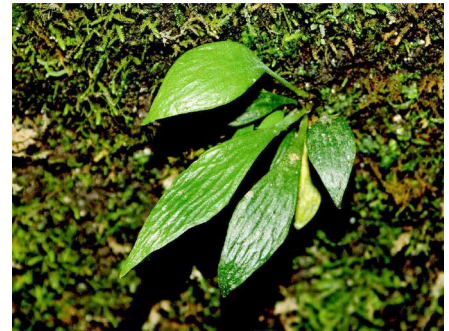
関係法令・特記事項

シシラン科とされたこともあったが、現在はシシラン科がイノモトソウ科に含まれる。保護のため、分布情報図を非公開とする。「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992)

(山下 純)



撮影：池畑怜伸

**ヒメミズワラビ***Ceratopteris gaudichaudii* Brongn. var. *vulgaris* Masuyama et Watano

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

まだ希とまでは言えないが、県内では減少傾向が強いため。

存続を脅かす要因

開発行為、耕作放棄、植生遷移、農薬汚染(除草剤)

分布状況

県内では、南部の低地を中心に多数の記録がある。国内では、山形県以南の本州から沖縄県にかけて主に低地に分布する。国内では、朝鮮、中国、台湾、ネパール、グアム、ハワイに分布する。

生育状況

主として水田、休耕田、早期の放棄田など水辺に生じる一年生のシダ植物。葉は二形で、栄養葉の羽片に無性芽を生じることがある。胞子葉をつける個体の大きさは変異が大きく、葉長1cm程度(水の少ない所や稲刈り後の水田内部に遅くに生じたものなど)から、羽状に分裂して40cmを超えるものまである。かつては普通に見られたが、減少傾向にある。明るい場所を好み、他種との競合に弱いので、他の水田雑草が茂ったり、水田が放棄されて遷移が進むと姿を消す。また、除草剤に対しても弱い。近年は同種または近縁種が観賞用として利用されることもあり、そうした移入系統が野外に逸出すると遺伝的攪乱を招く。

特記事項

2009年版ではミズワラビとして掲載されていた。国内でミズワラビとされてきたものは、ミズワラビとヒメミズワラビの2変種に分けられ、県内に分布するものは後者とされる。

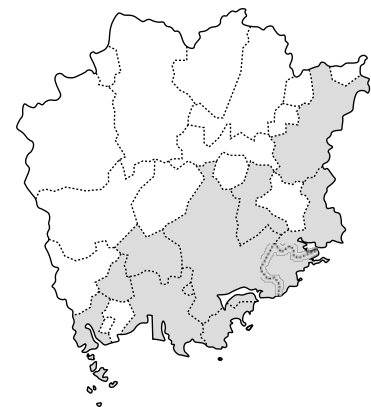
主要文献

海老原 (2016), 倉田・中池 (1979), Masuyama & Watano (2010)

(山下 純)



撮影：山下 純



エビガラシダ

Cheilanthes chusana Hook.

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

比較的安定して存続しているが、県内では生育地が少なく、道路沿いであることが多いので生育環境が脅かされる恐れが大きく、採集対象にもなりやすいため。

存続を脅かす要因

道路拡幅，法面工事，採集圧

分布状況

県内では、西部で10カ所余りから記録される。国内では、近畿地方（和歌山），中国地方（岡山，広島），四国，九州にやや希に分布する。国外では、朝鮮，中国，台湾，インドシナ半島に分布する。

生育状況

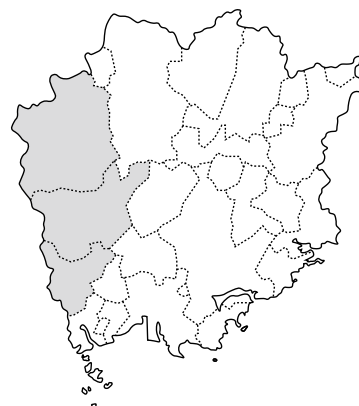
比較的乾いた岩壁や石垣などに生じる小型の常緑性シダ植物で、陰湿な所は好まない。県内では、確認される個体数はせいぜい数百程度と思われる。石灰岩地の周辺部に多く、殆どが道沿いの岩壁に見られる。大きなものは葉長40cmを超える。自生地では道の拡幅や法面の工事を避ける必要がある。暗い林床の岩壁に見られることもあるが、遷移や植林で環境が変化した結果であり、生育環境としては好ましくない。

主要文献

海老原（2016），岩槻（1992），倉田・中池（1979）
（山下 純）



撮影：山下 純



キドイノモトソウ

Pteris kidoi Sa.Kurata

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では生育地が局限され、個体数も少ないのみならず、環境の悪化や破壊の恐れがあるため。全国的にも希少である。

存続を脅かす要因

産地局限，植生遷移，採集圧，土砂災害，工事

分布状況

県内では、北西部の約3カ所で生育が確認される。国内では、中国地方，四国，九州の石灰岩地に希に生じる。国外では、台湾，中国に分布する。

生育状況

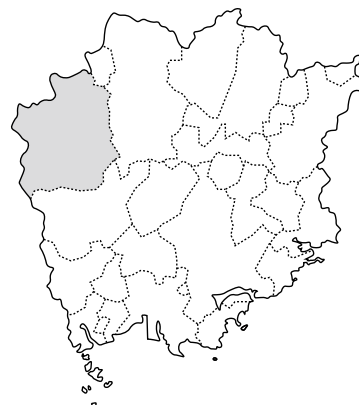
常緑性のシダ植物。中軸に翼がなく、胞子葉の小羽片の幅はおよそ5mm以下。胞子葉と栄養葉の違いは明瞭。県内では林縁や林床の石灰岩壁に生じ、現存が確認できるのは合計で数十個体である。一部では植生遷移の結果、常緑樹や草本が増え、生育地が暗くなりすぎることが懸念される。工事の巻き添えになる可能性や、大きな水害による流失の可能性にも留意する必要がある（工事や水害の後に被陰していた植生が減り、かえって生育が旺盛になった個体もある）。また、一部の集団は道から見えず、採集されやすい恐れがあり、流失することのない岩壁上の個体が2年のうちに減ったこともある。周辺にはオオバノイノモトソウやイノモトソウが多く、遺伝的攪乱に注意する必要がある。

主要文献

海老原（2016），岩槻（1992），倉田・中池（1979）
（山下 純）



撮影：山下 純



マツサカシダ*Pteris nipponica* W.C.Shieh

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

特に減少傾向にはないが、県内では生育地、個体数ともに少ないため。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

県内では暖温帯に約10カ所の記録があり、希である。国内では、暖温帯のうち温暖で降雨量の多い地域には普通であるが、それ以外の地域では急に希になる。国外では、朝鮮、台湾に分布する。



撮影：山下 純

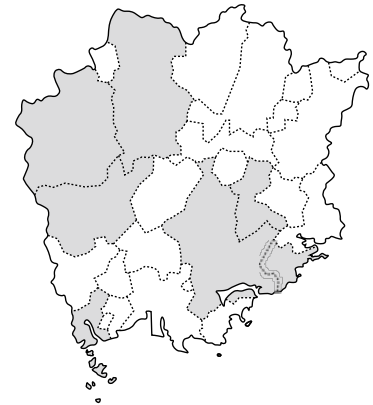
生育状況

林床や林縁に生じる常緑性のシダ植物。栄養葉の羽片が1～3対と少なく、後ろ向きの小羽片が鈍頭で短いことでオオバノイノモトソウと見分けられる。孢子葉と栄養葉の違いは明瞭。県内では、点々と少数個体が見つかるのみで、まとまった集団は知られていない。羽片の中肋に沿って淡色を帯びるが、斑の濃さには変異があり、殆ど淡くならないこともある。白斑のある栽培系統が園芸のために売られていることも多いので、栽培系統が逸出したり、自生系統と交配したりする恐れがある。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992)

(山下 純)

**アマクサシダ***Pteris semipinnata* L.

大葉シダ綱 ウラボシ目 イノモトソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

特に減少傾向にはないが、県内では生育地、個体数ともに少ないため。

存続を脅かす要因

開発行為, 石垣の改修

分布状況

県内では希で、南部を中心に暖温帯で約20カ所の記録がある(2017年に北部でも発見された; 写真)。国内では、本州(関東地方以西の太平洋側)、四国、九州、琉球列島に分布し、温暖多雨地では普通にある。国外では朝鮮、中国、台湾に分布する。



撮影：山下 純

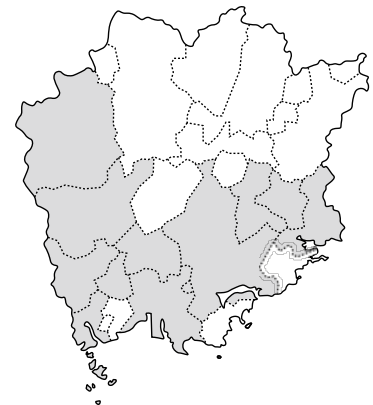
生育状況

林床や林縁の斜面、岩壁の他、石垣などにも生じる常緑性のシダ植物。羽片前側の裂片の一部が不規則に欠けることがよくある。県内では、棚田などの日当たりのよい石垣や、民家周辺の林縁、スギ植林床の路傍などに少数が生じている。人為的環境の場合、根茎が引き抜かれるような管理をされることは少ないので存続しているが、石垣の改修や宅地開発などにさらされる恐れはある。

主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1985)

(山下 純)



シモツケヌリトラノオ

Asplenium boreale (Ohwi ex Sa.Kurata) Nakaike

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、減少傾向にあるため。

存続を脅かす要因

産地局限，植林伐採，採集圧

分布状況

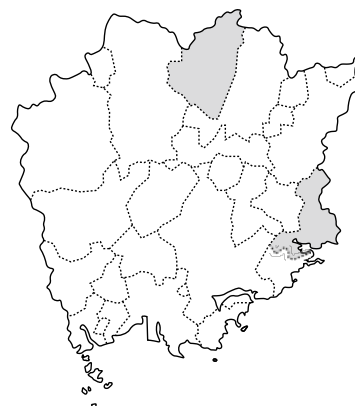
県内では、南部と北部で2カ所の記録がある。国内では、関東地方以西の本州、四国、九州に分布し、暖温帯で比較的降雨量が多く、かつやや乾いた岩壁に生じ、ヌリトラノオに比して遙かに希。国外では中国、台湾、南アジア、ニューギニアに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

小形の常緑性シダ植物。中軸に無性芽を生じないことや、丸みのある羽片の形でヌリトラノオなどと識別できる。同じ場所で比較すると、ヌリトラノオが岩壁の下部や崖錐斜面に多いのに比べて、本種はより乾き気味の岩壁上方に生じる。県内では、ヒノキ・スギ植林床の岩壁に見られ、南部の1カ所は社寺周辺であるが特段の採集防止措置は取られていない。北部の1カ所は殆ど人目に触れない場所にあり、2012年の発見時には100個体程度であったが、減少傾向にある。どちらも時期が来て植林の伐採が行われれば環境は激変する。カミガモシダやヌリトラノオとの雑種と思われる個体が見つかっている。



主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1981)

(山下 純)

ヒメイワトラノオ

Asplenium capillipes Makino

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

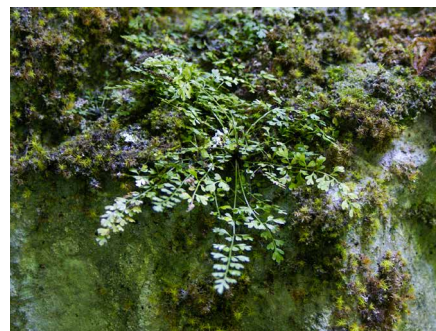
県内では生育地が局限され、個体数も少ないのみならず、生育環境が特殊であり、環境の変化に弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，乾燥化，採集圧

分布状況

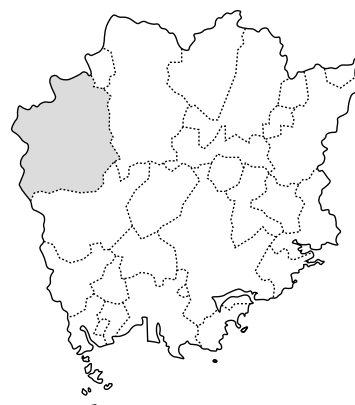
県内では、北西部から4カ所程度の記録がある。国内では、北海道から九州にかけての石灰岩地に点々と分布する。国外では、中国、台湾、南アジアに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

岩壁に生じる小形の常緑性シダ植物。中軸の羽軸分岐点に無性芽を生じる。葉は岩壁に沿うように展開し、岩に接した部分で無性芽が根を下ろす。県内では、石灰岩地のドリリーネ内で、空中湿度の高い岩壁に少数個体の集団が点々と知られている。小さく気付かれにくいために、採集から逃れて生き延びる面と、知られぬまま環境の変化によって消滅の危機にさらされる面とがある。樹木の伐採による乾燥化は問題になるが、茂りすぎて被陰が進むこともまた問題になる。



主要文献

海老原 (2016), 倉田・中池 (1981)

(山下 純)

カミガモシダ*Asplenium oligophlebium* Baker var. *oligophlebium*

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さく、環境の変化にも弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、乾燥化、採集圧

分布状況

県内では、北部と南部から4カ所程度の記録がある。国内では、伊豆半島以西の本州、四国、九州で、暖温帯に点々とやや希に分布する。日本固有種。

生育状況

林床の地上や岩壁に生じる小形の常緑性シダ植物。中軸の先端に無性芽を生じて栄養繁殖し、マット状に広がることが多い。県内では、渓谷に近いヒノキ植林床などの岩壁や崖錐で、あまり陰湿でない苔生した場所に生じる。ヌリトラノオやシモツケヌリトラノオと同所的に生じるところでは、それぞれとの雑種と思われる個体が見つかっている。

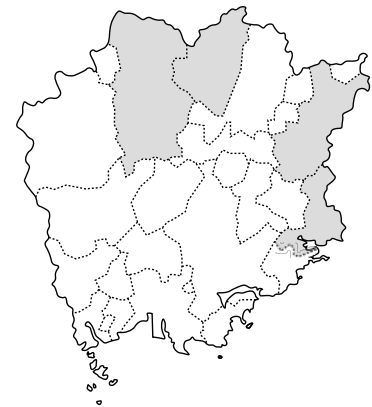
主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1982)

(山下 純)



撮影：山下 純

**オクタマシダ***Asplenium pseudowilfordii* Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さく、環境の変化に弱いため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採、乾燥化、道路工事、採集圧

分布状況

県内では、中部の3カ所から記録されている。国内では、福島県以南の本州と四国で、やや希に分布し、暖温帯でやや冷涼な地域に偏る。日本固有とされるが、中国の*A. austrochinense* Chingと同種と見なす説がある。

生育状況

林床の岩壁に生じる小形の常緑性シダ植物。アオガネシダとトキワシダの中間的な姿である(雑種ではない)。アオガネシダに比べて葉身がやや細長く、両側平行的であり、羽片の切れ込みもより少ない。県内では、湿度の高い渓谷沿いの林床で、やや乾いた(普段は濡れていない)岩壁に生じ、現存が確認されている3集団はそれぞれ数個体から数十個体である。岩壁が面する道路の拡張が計画されている場所もあり、具体的な工事計画と影響を注視する必要がある。

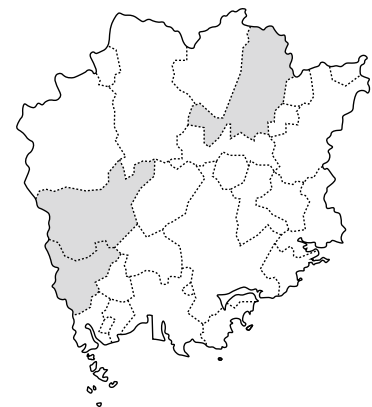
主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992), 倉田・中池 (1997)

(山下 純)



撮影：山下 純



イチョウシダ

Asplenium ruta-muraria L.

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さいため。採集対象にもなりやすい。

存続を脅かす要因

産地局限、採集圧、石灰岩採掘

分布状況

県内では、北西部および中西部で3カ所から記録されている。国内では、北海道から九州にかけての石灰岩地に点々と分布する。国外では、ユーラシア大陸と北米大陸東部に分布する。

生育状況

林床に生じることもあるが通常は非常に日当たりのよい場所を好む、小形の常緑性シダ植物。石灰岩の、割れ目や浸食された狭い溝に深く根を張り、小さな葉を伸ばすので、根茎の採集は困難であることが多い。県内では、合わせて数十個体が現存し、知られた自生地の他にも生育適地と推定される場所は多いものの、実際の調査は不十分である。探せば点々と見つかるので、人が近寄り難い場所でも知られずに生育している個体も多々あると思われる。

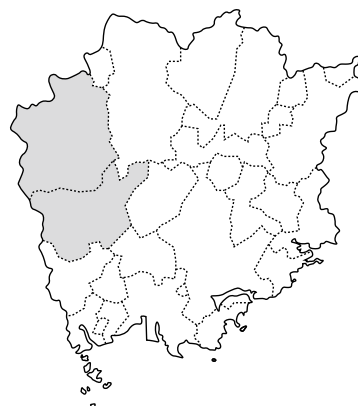
主要文献

海老原 (2016), 倉田・中池 (1981)

(山下 純)



撮影：山下 純



アオガネシダ

Asplenium wilfordii Mett. ex Kuhn

大葉シダ綱 ウラボシ目 チャセンシダ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が1カ所に局限され、集団規模も小さく、環境の変化に弱い。

存続を脅かす要因

産地局限、自然災害(崩落)、採集圧

分布状況

県内では、中部の1カ所のみで記録されている。国内では本州(伊豆諸島・関東地方以西)、四国、九州、琉球列島(沖縄島以北)に分布し、温暖で降雨量の多い地域には普通であるが、それ以外の地域では希。国外では、朝鮮、中国、台湾に分布する。

生育状況

主に照葉樹林床の湿度の高い場所で岩壁や樹上などに生じる常緑性シダ植物。羽軸上面に溝がある点でコバノヒノキシダとは異なる。県内では、川岸のヤブツバキやアラカシ等の常緑広葉樹に被われた岩壁で、約10m四方程度の範囲に大小30株以上が生じ、大きなものは50cmを超える(2015年現在)。10年以上は経過した株も多いので、2009年版で現存数が数株と記されていたのは見落としによる過小評価であったと考えられる。近年の土砂災害の影響で、調査しにくい状況である。岩壁の崩落の懸念がある。

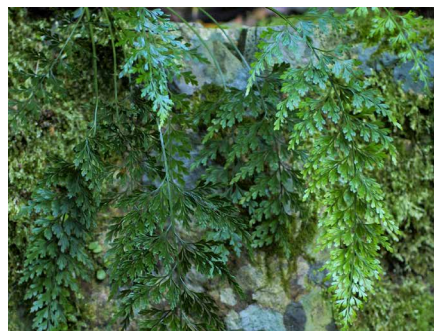
関係法令の指定状況

「自然公園法」における瀬戸内海国立公園の指定植物である。

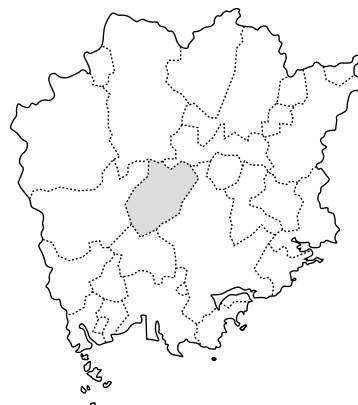
主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992)

(山下 純)



撮影：山下 純



イワヤシダ*Diplaziosis cavaleriana* (H.Christ) C.Chr.

大葉シダ綱 ウラボシ目 イワヤシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、個体数は少なくないが、環境の変化に弱く、ほぼ全ての地点で減少が見込まれるため。

存続を脅かす要因

植林伐採, 食害

分布状況

県内では、北部、中部の10カ所あまりから記録されている。国内では、本州、四国、九州に広く分布するが、やや希である。国外では、中国、南アジアに分布する。

生育状況

林床の陰湿な地上に生じる夏緑性のシダ植物。根茎は直立し、葉を叢生する。葉身は単羽状複生で側羽片に似た頂羽片がある。葉脈は網状、ソーラスは長い線形、包膜は片側に開かず背面が裂ける。葉は薄い草質、水をよく含んでいて折れやすく、大きい葉は伸長時に水不足の影響を受けやすい。県内では、谷沿いの湿潤なスギ植林床、時に落葉樹林床に見られる。2017年時点で、100個体以上の集団が1カ所、さらに1,000個体にも及ぶ集団が1カ所あるが、他の多くの地点は1～数個体である。現存個体数は多いが、植林が伐採されれば壊滅的な影響を受けるほか、大きい集団はいずれも不安定な泥土の斜面で、土砂災害の可能性も懸念される。今のところシカの食害は見られないが、県外では食害による減少が知られているので、要注意である。

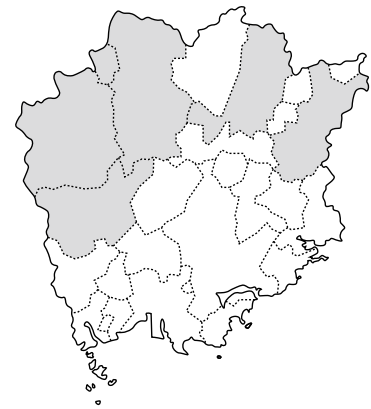
主要文献

海老原 (2016), 倉田・中池 (1997)

(山下 純)



撮影：山下 純

**ホンバショリマ***Thelypteris beddomei* (Baker) Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 ヒメシダ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が局限されるが、具体的な生育状況が不明であるため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では北部の1カ所から記録されている。国内では、静岡県以西の本州、四国、九州、屋久島にかけて希に分布する。国外では、朝鮮、中国、台湾、インド(南部)、スリランカ、東南アジアに分布する。

生育状況

常緑性のシダ植物で、孢子繁殖のほか、根茎は長く這って分岐し、栄養繁殖する。葉身は倒披針形、下部羽片は著しく短縮する。小脈は単条で裂片の辺縁に達し、ソーラスは辺縁近くに着く。県内では北部の山林で1984年に1度だけ採集された標本が確認されているのみで、具体的な生育地点や環境は不明である。

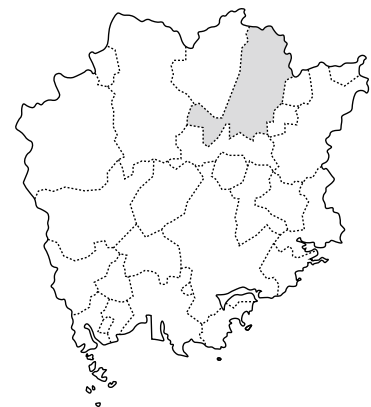
主要文献

海老原 (2016), 岩槻 (1992)

(山下 純)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ヒメハシゴシダ

Thelypteris cystopteroides (D.C.Eaton) Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 ヒメシダ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が局限されるが、具体的な生育状況が不明であるため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では中部から記録されている。国内では、伊豆半島以西の本州、四国、九州、琉球列島（沖縄島以北）で、亜熱帯から暖温帯の温暖多雨地（巖速紀地域など）を中心に分布し、北緯35度以北には殆ど見られない。国外では、中国（南部）、台湾、フィリピンに分布する。

生育状況

常緑性の小さいシダ植物。孢子繁殖のほか、根茎が長く這って分岐し、栄養繁殖する。踏みつけ圧や攪乱が少ない、比較的明るく、裸地に近いやや粘土質の地面や岩上などに生じる。葉は大きくとも20cm以下、羽片は多くとも10対前後、羽片には裂片が数対しかない。県内の自生地状況は不明である。国立科学博物館に県内産の標本が収蔵されている。考えられる絶滅要因として、植生遷移のほか、除草剤、踏みつけ、土地の転用、宅地化や舗装などが想定される。

主要文献

海老原（2016）

（山下 純）



所蔵：倉敷市立自然史博物館

ヨコグラヒメワラビ

Thelypteris hattorii (H.Itô) Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 ヒメシダ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が局限されるが、具体的な生育状況が不明であるため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では中部の1カ所から記録されている。国内では、中部地方以西の本州、四国、九州にやや希に分布する。国外では、朝鮮、中国に分布する。

生育状況

夏緑性のシダ植物。葉身は三角状卵形、ヤワラシダの葉を広くして2回羽状複生にしたような外見で、小羽片はさらに浅-中裂する。小脈は二叉し、裂片の辺縁に達しない。県内では、1999年に採集された標本が1点あるだけで、具体的な生育地点や環境は不明である。この標本は誤同定されていたもので、2015年まで存在が気付かれなかった。

特記事項

分布市町村が不明である。

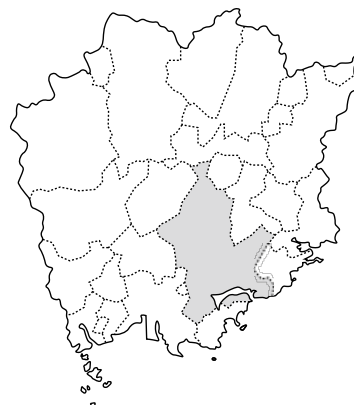
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）

（山下 純）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ミヤマワラビ*Thelypteris phegopteris* (L.) Sloss. ex Rydb.

大葉シダ綱 ウラボシ目 ヒメシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、環境の悪化により複数の地点で減少傾向にあるため。

存続を脅かす要因

森林伐採、食害

分布状況

県内では、北部多雪山地の5カ所で記録されている。また、南部の1カ所は1905年の標本が存在するが、本来の植生帯から大きく外れており、現状も不明である。国内では、北海道、本州、四国、九州、屋久島で、主として温帯から寒温帯に分布し、従って近畿地方以西では希になる。国外ではロシア、朝鮮、中国、台湾、南アジア、ヨーロッパ、北米（北部）に分布する。

生育状況

主に落葉樹林の林床に生じる夏緑性のシダ植物。胞子繁殖のほか、根茎が長く這って分岐し、栄養繁殖する。ソーラスを着ける葉の葉柄は葉身よりも長いことが多く、葉身は最下羽片や第2羽片が下向するので三角状長楕円形、最下羽片がほぼ最長、羽片の最下裂片は中軸に流れ、ソーラスに包膜が無い。県内では1,000m前後の高地に生育するが、かつて知られていた自生地のスギ植林が伐採され高茎草原化したり、ニホンジカの食害にあたりして激減し、一部では殆ど生育が確認できなくなっている。

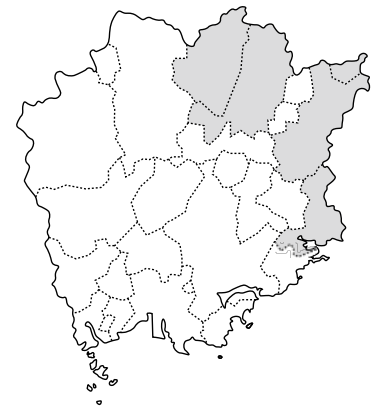
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1983）

（山下 純）



撮影：山下 純

**オオバショリマ***Thelypteris quepaertensis* (H.Christ) Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 ヒメシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では個体数が多いが生育地が少なく、食害等によりやや減少傾向にあるため。

存続を脅かす要因

森林伐採、食害

分布状況

県内では、北部多雪山地の10カ所足らずから記録されている。国内では、北海道、本州、四国、屋久島で、主に温帯から寒温帯に分布し、日本海側に多いが、中国地方では希である。国外では、ロシア（極東）、朝鮮、中国（吉林省）、北米（アラスカ・カナダ）に分布する。

生育状況

夏緑性のシダ植物。葉は短い根茎の先端に叢生し、鱗片が多く、葉柄は葉身に比して著しく短く、下部羽片は著しく短縮する。それらの点ではハクモウイノデや同属のゲジゲジシダの大形のものに雰囲気似ていなくもないが、本種は中軸に翼が無く、ソーラスに円腎形の包膜がある。県内では、標高1,000m前後の温帯域で明るい林縁の湧水付近などに生じ、しばしば群生する。主にシカの食害により、やや衰退の傾向はあるが、個体数が多い。

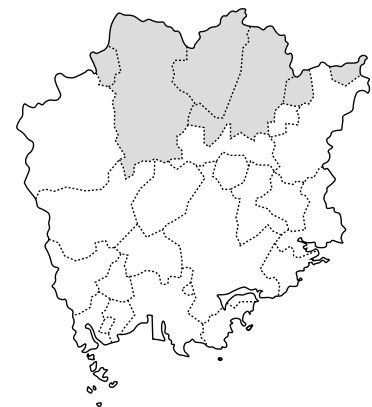
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1983）

（山下 純）



撮影：山下 純



イヌイワデンダ

Woodsia intermedia Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 イワデンダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内では生育地が少なく、複数の産地で減少傾向が強いため。

存続を脅かす要因

採集圧、植生遷移、その他（石垣改修工事）

分布状況

県内では中・北部の5カ所から記録され、広島県東部と共に国内でも比較的多い地域である。国内では、本州、四国、九州に希に分布する。国外では、ロシア（極東）、朝鮮、中国に分布する。

生育状況

夏緑性の小形のシダ植物。葉柄の頂端部に関節がある。中軸や羽片裏面には毛のほか鱗片があり、羽片の基部前側に耳片が発達する点でコガネシダと異なる。また、イワデンダに比べて、羽片が少なくてせいぜい十数対、辺縁はやや切れ込む傾向があり、上部の羽片があまり小さくならず、中軸に流れる傾向が強く、葉身先端部では多少頂羽片状にまとまる。県内では、林縁や落葉樹林床のやや乾いた岩壁、あるいは古い石垣などに生じ、あまり暗い所は好まない。国内初記録地である集団は、個体数が最も多かったが、石垣の改修や施設工事、他のシダ植物との競合によって壊滅的な状況である。自然林内の1カ所は、かつては多かったようだが、近年は採集圧と遷移によって減少傾向にある。

特記事項

1916年に吉野善介が岡山県で採ったものが従基準標本となった。

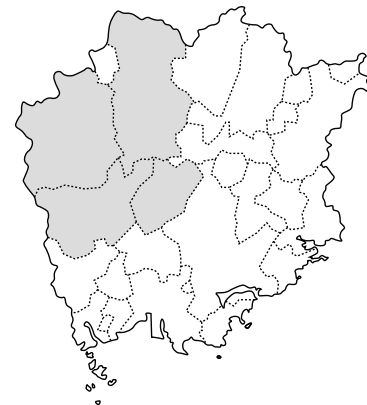
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1985）

（山下 純）



撮影：山下 純



コガネシダ

Woodsia macrochlaena Mett. ex Kuhn

大葉シダ綱 ウラボシ目 イワデンダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さいのみならず、環境の悪化によって衰退しつつあるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移、採集圧

分布状況

県内では西部の3カ所から記録されている。国内では、本州、四国、九州で、関東西部や九州北部などでは比較的多いが、中国地方を含め多くの地域ではごく希である。国外では、ロシア（極東）、朝鮮、中国に分布する。

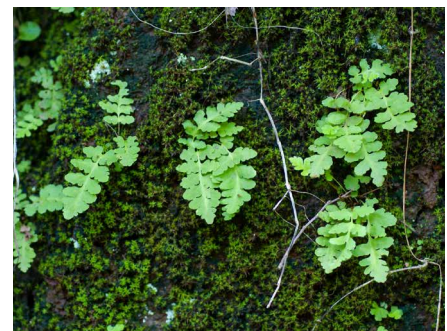
生育状況

夏緑性の小形のシダ植物。葉柄の頂端部に関節がある。葉身には毛のみがあって鱗片がなく、羽片は前後がほぼ相称で、前側の耳片はない。大きな葉では羽片は羽状に中裂する。県内では、道路沿いの明るい岩壁や、ケヤキ・コナラ・アベマキなど落葉樹の明るい林床の岩壁に生じる。2010年までに数個体の現存が確認されていたところ、2011年に高梁市で100個体近い集団（写真）を発見したことで確認現存数は急増した。しかし、植生遷移により生育環境が悪化しつつあるのでランクを据え置く。

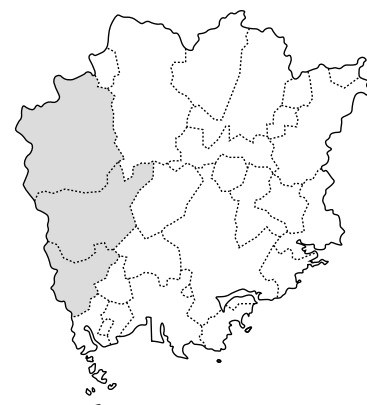
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）、倉田・中池（1979）

（山下 純）



撮影：山下 純



フクロシダ*Woodsia manchuriensis* Hook.

大葉シダ綱 ウラボシ目 イワデンド科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では安定した存続が見込まれる環境にあるが、生育地が少ないため。また中国地方では希であり、地域個体群として保全の価値がある。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では、北部と中西部から10カ所未満で記録されている。国内では、北海道、本州、四国、九州で、主に暖温帯の冷涼地から温帯に分布するが、日本海側（多雪地）には少ない。中国地方での分布は希である。国外ではロシア（極東）、朝鮮、中国に分布する。

生育状況

小形の夏緑性シダ植物。葉柄に関節が無い。羽片は羽状に深裂し、裂片の間は隙間が空くので、県内産の同属他種とは一見して異なる。包膜は囊状で、ソーラスを下から饅頭のように包み込む点も特徴的である。県内では、落葉樹林に被われた、チャートなどのオーバーハングした岩壁などに生じ、やや乾いた所では、流れ盤の水がしみ出す隙間に根を張ることが多い。

特記事項

2009年版における井原市の分布情報は、証拠標本の地名の誤記によるものであった。

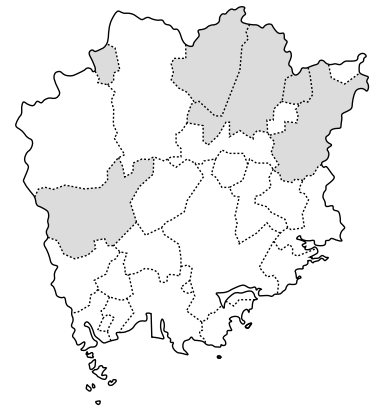
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1985）

（山下 純）



撮影：山下 純

**イワデンド***Woodsia polystichoides* D.C.Eaton

大葉シダ綱 ウラボシ目 イワデンド科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少ないが、概ね安定的に存続しているため。

存続を脅かす要因

植生遷移、自然災害

分布状況

県内では、西側に偏って約8カ所から記録されている。県外では、中国地方では少なく、温帯に比較的多く、南千島～九州、ロシア（極東）、朝鮮、中国、台湾に分布する。

生育状況

明るい場所を好み、岩壁や岩上、石垣などに生じる小形の夏緑性シダ植物。葉柄の頂端部に関節がある。羽片は20対以上（ごく小さな葉を除く）、縁は殆ど切れ込まず、基部前側に耳片が発達する。県内では、暖温帯の冷涼地で、明るい落葉広葉樹林床の岩壁や岩角地に生じることが多い。道路沿いの岩壁にある集団は崩落や工事の影響に留意する必要がある。

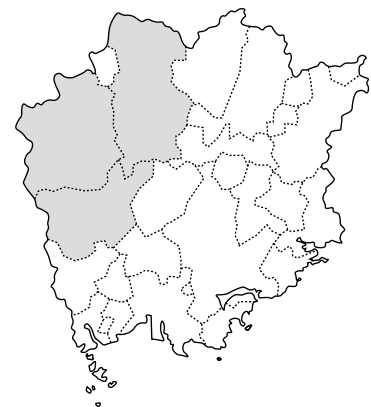
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1985）

（山下 純）



撮影：山下 純



オオカグマ

Woodwardia japonica (L.f.) J.Sm.

大葉シダ綱 ウラボシ目 シシガシラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は分布域の北縁にあたり、県内では生育地、個体数ともに少なく、現時点では存続が危ぶまれるため。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，林地利用（シイタケ栽培など）

分布状況

県内では、南部を中心に約8カ所から記録されている。国内では、概ね北緯30～35度に分布し、沿海地に比較的多く、九州とその周辺ではあまり珍しくないが、それ以外では大変少ない。国外では、朝鮮、中国、台湾、インドシナ半島に分布する。

生育状況

大形の常緑性シダ植物。コモチシダの葉身が卵形であるのに対し、本種の葉身は長楕円状。また、コモチシダは羽片の基部付近が最も幅広いのに対し、本種の羽片は中央付近で最も幅広い。葉に無性芽が着くことはない。県内では、海岸付近、かつての島、時に内陸部で、低丘陵の二次林やヒノキ植林などに約1株ずつが確認される。いくつかの地点では短い根茎が分枝して複数の成長点に分かれているが、周辺に孢子繁殖で広がっている様子はなく、今後の存続に不安がある。1カ所では既に消滅し（片岡博行，私信），ヒノキ植林の1カ所はシイタケ栽培作業の影響で株が衰弱している。県内産の最も大きな株の葉は180cmに達するが、他はせいぜい1m程度までである。本県は分布域の生育適地からは外れていると思われる。

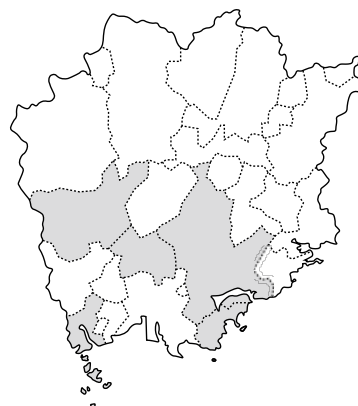
主要文献

海老原（2016）

（山下 純）



撮影：山下 純



ミヤコイヌワラビ

Athyrium frangulum Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では、生育地は多いとは言えないため。

存続を脅かす要因

植生遷移

分布状況

県内では、2003年版で「生育地が確認できていない」、2009年版で「6～7カ所」と記されていたが、現在はさらに調査が進んで北部の十数ヶ所から記録されている。国内では、栃木県以南の本州、四国、九州に分布する。国外では、中国（重慶市・貴州省・四川省）に分布する。

生育状況

夏緑性のシダ植物。県内ではスギ植林床の林道沿いなどに時に群生する。葉の表面に明らかな光沢がある。2012年頃から多産地を複数確認したほか、点々と新たな産地が判明している。既知の産地を含めて概ね植林地であるが、林床の暗い所には少なく、林縁部の草地に多いので、伐採が生育環境の消滅に直結することはなさそうである。むしろ適度な間伐が必要かも知れない。

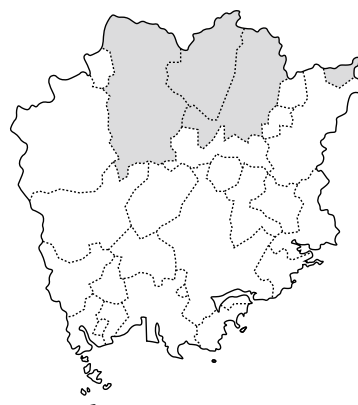
主要文献

海老原（2017），岩槻（1992），岩槻（1992），倉田・中池（1990）

（山下 純）



撮影：山下 純



サカバサトメシダ*Athyrium palustre* Seriz.

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県は本種の分布北限にあたり、県内では生育地が局限され、環境の悪化によって消滅が懸念されるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移

分布状況

県内では、中部の1カ所で記録されている。国内では、本州（岡山）、四国、九州、屋久島で、希に分布する。国外では台湾に分布する。

生育状況

夏緑性のシダ植物。小羽片が羽軸に対して下向する傾向がある。県内では、山間部の放棄水田に生じる。2008年までは生育が確認されていたが、自生地の遷移が進んで発見当時からは環境が変化してきており、最近の記録は無い。

特記事項

2000年に田中昭彦氏により本州で始めて採集された。

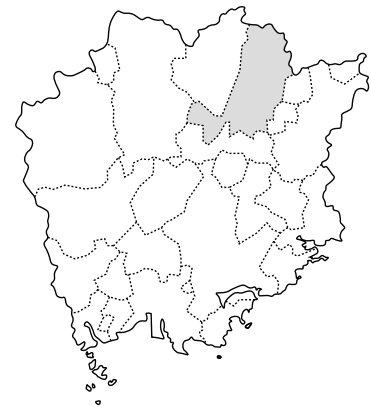
主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）



撮影：池畑怜伸

**トゲカラクサイヌワラビ***Athyrium setuligerum* Sa.Kurata

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、森林伐採や食害などによる減少が懸念されるため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、食害

分布状況

県内では、兵庫県境に近い北東部の1カ所で記録されている。国内では、愛知県以西の本州、四国（愛媛県）、九州に分布し、少ない。日本固有種。

生育状況

夏緑性のシダ植物。根茎は直立し、葉を叢生する。ホソバイヌワラビとカラクサイヌワラビの中間的な特徴を持つ。小羽片の形状はカラクサイヌワラビに似ており、基部前側は耳状に著しく突出する。羽軸や小羽軸上の刺状突起はホソバイヌワラビよりは短いが顕著である。ホソバイヌワラビと異なり、中軸上に無性芽は生じない。葉柄は紫色を帯びない。県内では標高1,000m以上の多雪山地で林床に生じるが、少ない。

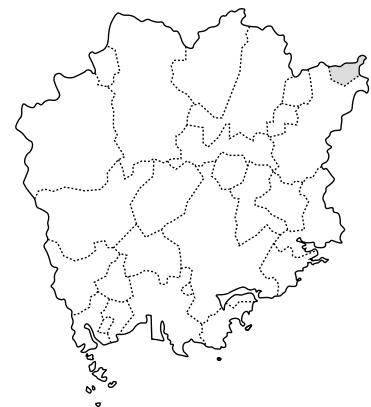
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1990）

（山下 純）



撮影：池畑怜伸



イッポンワラビ

Athyrium crenuloserrulatum Makino

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は国内の分布西限に近く、県内では生育地が局限され、集団規模も小さいため。

存続を脅かす要因

産地極限，植林伐採，食害

分布状況

県内では、北部の2カ所で記録されている。国内では、北海道、本州（広島県以東）に分布し、主に温帯に多く、近畿地方以西では非常に希である。国外では、ロシア（極東）、朝鮮、中国（北部）に分布する。

生育状況

根茎が這い、栄養繁殖する夏緑性シダ植物。県内では、北部山地の溪谷沿い堆積地のスギ植林床に生育している。2016年に小面積（1アール程度）の1集団、2017年に数株からなる1集団の発見により、新たに岡山県産植物に追加した。前者の集団はシケチシダと混生し、雑種も見られる。

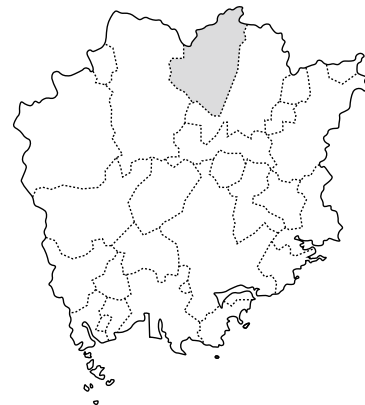
主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）



撮影：山下 純



ヘラシダ

Deparia lancea (Thunb.) Fraser-Jenk.

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が少ないため。

存続を脅かす要因

産地極限，土砂災害

分布状況

県内では、南部を中心に10カ所以内から記録されている。国内では、本州（福島県・石川県以南）、四国、九州、琉球列島にかけて、主として暖温帯下部から亜熱帯に分布し、多雨地では普通で、瀬戸内地域には少ない。

生育状況

常緑性のシダ植物。主に溪岸や石垣、多雨地の林床斜面などで、根茎を長く伸ばし、切れ込みの無い、やや波状縁の単葉を疎らに生じて群生する。県内では、低丘陵地における流水脇などの湿った場所で、石垣や崖に生じる。現存が確認される最も大きな集団は2008年頃と比べて減ったようであるが、アベマキ・アラカシ・ヤブツバキ等の林床～林縁で溪谷の土崖に沿って50m程度の範囲に断続的に群生する。ここは減多に増水しないようだが、増水や土石流による崖の浸食が脅威になり得る。

特記事項

比較的最近まで *Diplazium* とする説が主であったが、分子系統学的に *Deparia* である事が確定した。

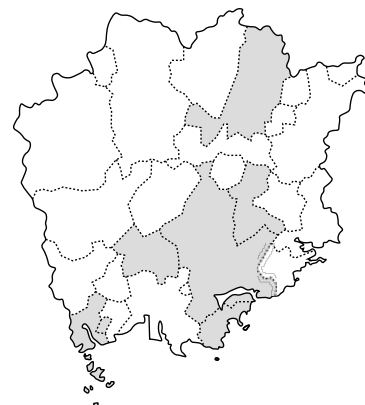
主要文献

海老原（2017）、倉田・中池（1983）、Sano et al.（2000）

（山下 純）



撮影：山下 純



ミヤマシケシダ*Deparia pycnosora* (Christ) M.Kato

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は国内では分布西限に近く、県内では生育地が局限され、概ね安定的に存続しているが、食害が懸念されるため。

存続を脅かす要因

産地極限, 食害

分布状況

県内では北部の2カ所で記録されている。国内では、北海道、本州、四国で温帯から寒温帯にかけて分布し、温帯以上の地域が狭い近畿地方以西では少ない。国外では、ロシア（極東）、朝鮮、中国（北部）に分布する。

生育状況

夏緑性のシダ植物。根茎は斜上から直立、葉を叢生する。ハクモウイノデに比べ、葉柄はやや細く、比較的長く、ほぼ無毛。ウスゲミヤマシケシダは葉柄基部に粘液を分泌する。県内では温帯の自然林の溪谷沿いに生じている。2カ所に知られ、個体数はいずれも10以上100未満程度と思われる。自然環境の改変が規制され、採集行為が制限されている場所であり、大きくは変化していない。ニホンジカによる食害の影響が懸念される。

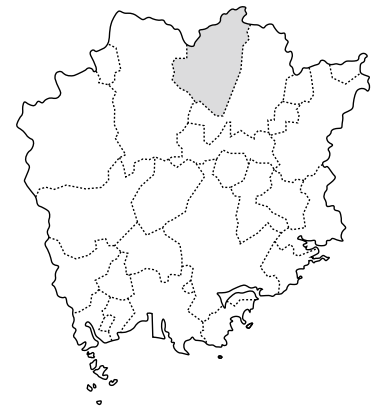
主要文献

海老原（2016）、岩槻（1992）

（山下 純）



撮影：池畑怜伸

**ビッチュウヒカゲワラビ***Diplazium ×bittyuense* Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

雑種であるが、岡山県にはタイプ産地が含まれるため。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

県内では北部と中西部の8カ所程度から記録されている。国内では山形県以南の本州、四国、九州に点々と分布し、周囲に両親種が生じていなくとも見られることがある。国外ではまだ見出されていない。

生育状況

夏緑性の大形のシダ植物。ヒカゲワラビとオニヒカゲワラビの雑種。根茎により栄養繁殖をする。県内では点々と分布するが希で、石灰岩地の湧水付近に顕著な群生地（写真）が1カ所あるほか、ドリーネ内などに少数ずつが生じる。タイプ産地の集団は存続している。本種は特に石灰岩と結びつきがあるわけではない。いずれの生育地でも、周辺にヒカゲワラビは確認されておらず、オニヒカゲワラビはある所と無い所がある。

特記事項

タイプ産地は岡山県真庭市の備中鍾乳穴である。

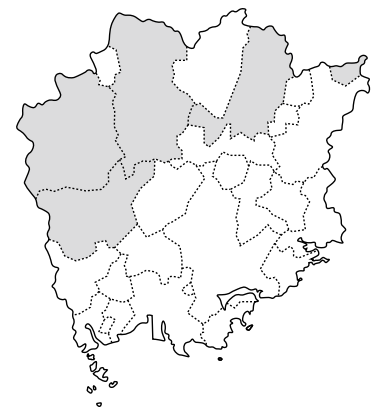
主要文献

海老原（2016）、倉田・中池（1983）

（山下 純）



撮影：山下 純



ヒカゲワラビ

Diplazium chinense (Baker) C.Chr.

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、集団規模も小さい上に、比較的多い場所を含む多くの地点で、生育地が消滅するおそれがあるため。

存続を脅かす要因

植林伐採、除草管理

分布状況

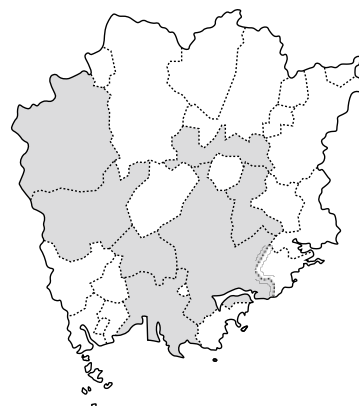
県内では希で、十数カ所で記録される。国内では、本州（新潟県以南）、四国、九州、琉球列島（沖永良部島以北）で、主に暖温帯に分布する。国外では、朝鮮（済州島）、中国、ベトナムに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

林床の地上に生じる大形のシダ植物。夏緑性だが、葉が枯れずに越冬することもある。鈍い光沢があり、ソーラスは中間生。孢子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、栄養繁殖する。2016年以降に約20株の1集団、数十株の1集団を発見したことなどで、産地数は倍増し、現存個体数は著しく増加した。しかし多くの地点は個体数が少なく、1カ所は発見後に消滅した。殆どの自生地はスギ植林地であり、伐採されれば消滅の恐れがある。現存する最大の集団は、市街地の家屋の間隙の古い地面に生じたもので、自生である可能性は今のところ否定できない。これは除草や家屋の取り壊しによる消滅の可能性がある。以上のことからランクを当面据え置く。



(山下 純)

主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

ウスバミヤマノコギリシダ

Diplazium deciduum N.Ohta et M.Takamiya

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、集団規模も小さい場所が多く、複数の箇所環境の悪化が見込まれるため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

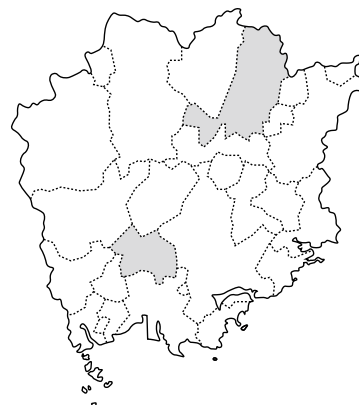
県内では、北部を中心に10カ所未満が記録され、うち1カ所は南部にある。国内では、伊豆半島以西の本州、四国、九州、屋久島にかけて、主に暖温帯の冷涼地に分布する。日本固有種。



撮影：山下 純

生育状況

夏緑性の地上生シダ植物。孢子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、栄養繁殖する。根茎の先端に当年葉のみが1枚程度つく。葉身は単羽状複生、羽片は浅裂-深裂、ごく鈍い光沢がある。ソーラスは線形、裂片の中肋寄りに着く。ミヤマノコギリシダに比べて葉質は薄く草質で、夏緑性なので前年の葉が無いこと、下部羽片の幅が特に広がることで異なる。県内では主に暖温帯の上部の冷涼な湿った林床斜面に生じる。溪岸の植林地の斜面に群生している所もあるが、今後の伐採による影響は免れない。



(山下 純)

主要文献

海老原（2017）、倉田・中池（1997）

シロヤマシダ*Diplazium hachijoense* Nakai

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地は多くなく、比較的大きい集団を含む複数の地点で、近い将来に減少が見込まれるため。

存続を脅かす要因 植林伐採、除草、食害？

分布状況

県内では、北部と西部に10カ所余りが記録されている。国内では、佐渡島以南の本州から沖縄島にかけて、暖温帯（～亜熱帯）に分布するが、瀬戸内地域では少ない。国外では朝鮮（済州島）、中国に分布する。

生育状況

林床の地上に生じる大形の常緑性シダ植物。葉身は3回羽状浅裂～中裂、表面に鈍い光沢がある。ソーラスは線形、裂片の中肋と辺縁の中間に着く。胞子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、栄養繁殖する。県内ではよく成長したスギ植林などに生じる。数株程度の小集団が数カ所知られているのみであったが、2011年に100株以上の1集団を発見したことなどで、現存確認地点数、個体数は増えた。しかしながら、最大の集団を含めて殆どがスギ植林内であり、伐採の影響を受けやすいこと、最大の集団以外は個体数がごく少ないことなどから、当面はランクを据え置く。

特記事項

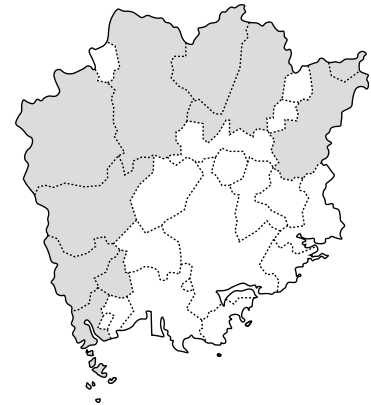
ここではタンゴワラビ *D. sacrosanctum* Sa.Kurata, nom. nud. をシロヤマシダに含めている。

主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）、倉田・中池（1997）
（山下 純）



撮影：山下 純

**ミヤマノコギリシダ***Diplazium mettenianum* (Miq.) C.Chr.

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数とも多いとは言えないが、概ね安定的に存続しているため。

存続を脅かす要因

森林伐採、採集圧

分布状況

県内ではやや希で、20カ所余りから記録されている。国内では、本州から琉球列島にかけて、暖温帯（～亜熱帯）に分布し、多雨地では珍しくない。国外では、朝鮮（済州島）、中国、台湾、インドシナ半島に分布する。

生育状況

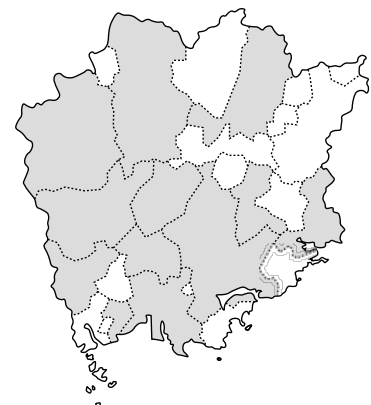
主に常緑樹林床に生じる常緑性シダ植物。胞子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、栄養繁殖する。葉身は単羽状複生、紙質、表面に鈍い光沢がある。羽片はノコギリシダと異なり羽状に浅～中裂し、前後はほぼ同形、基部前側は耳状に突出しない。ソーラスは線形、裂片の中肋と辺縁の中間か、やや中肋寄りに着く。県内で知られる自生地は、ヒノキ植林や二次林で、堆積岩の地域に比較的多い。殆どの自生地は1～数株であるが、数十株が生育する地点を含めて2011年以降に新たに発見された地点が多く、生育環境も概ね安定していることから、ランクを絶滅危惧Ⅱ類から変更した。

主要文献

海老原（2017）、倉田・中池（1997）
（山下 純）



撮影：山下 純



ノコギリシダ

Diplazium wichurae (Mett.) Diels var. *wichurae*

大葉シダ綱 ウラボシ目 メシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少ないが、多くの地点で集団が比較的大きいため。

存続を脅かす要因

産地局限，植林伐採

分布状況

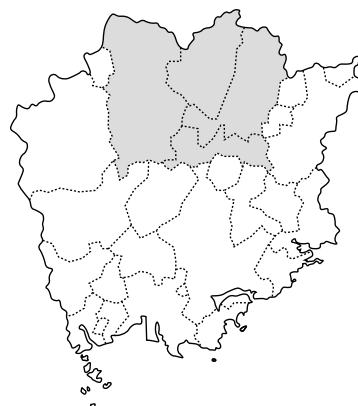
県内では北部と（北部に近い）中部で8カ所程度から記録されている。国内では、本州（福島県・石川県以南）、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島にかけて、主として暖温帯、亜熱帯にも分布し、多雨地では珍しくなく、瀬戸内地域では少ない。国外では朝鮮（済州島）、中国、台湾に分布する。



撮影：山下 純

生育状況

林床のよく湿った斜面や岩上に生じる常緑性シダ植物。孢子繁殖のほか、根茎が匍匐して分岐し、栄養繁殖する。葉身は単羽状複生、羽片は革質で光沢のある暗緑色、辺縁は重鋸歯状で、基部前側が耳状に突出する。ソーラスは線形、包膜は羽片の中肋に向かって開く。県内では、スギ植林床の陰湿な斜面や、県道沿いの湧水のある林縁斜面などに生じ、近年に生育が確認されている地点は10カ所未満であるが、広く群生している所が多い。植林が伐採されれば大きな影響を受ける。



(山下 純)

主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）、倉田・中池（1983）

ケキンモウワラビ

Hypodematium glandulosopilosum (Tagawa) Ohwi

大葉シダ綱 ウラボシ目 キンモウワラビ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では個体数は十分に多く安定的に存続しているが、特殊な生育環境を要し、全国的にも分布域が限られ、岡山県集団の保全意義が大きいため。

存続を脅かす要因

石灰岩採掘，道路拡張，法面工事，崩落，採集圧

分布状況

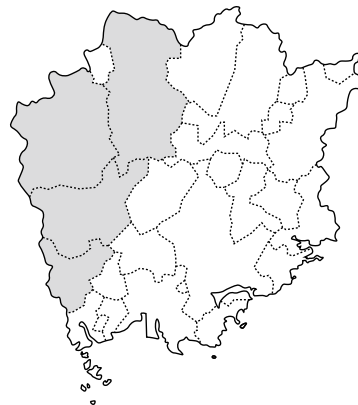
県内では西部の石灰岩地に分布する。国内では、本州（中国地方）、四国、九州の限られた地域の石灰岩地に分布し、岡山県と広島県東部は本種が最も多い地域である。国外では朝鮮、中国（福建省・河南省・江蘇省）、タイに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

主に石灰岩壁の割れ目に根を下ろし、あまり雨のかからない多少明るい場所を好む夏緑性のシダ植物。植物体に腺毛と先の尖った毛の両方がある点で、キンモウワラビやリュウキュウキンモウワラビと異なる。県内では、本種の分布する石灰岩地では珍しくなく、手の届かないような高い岩壁や、道路沿いの岩壁に群生する様子をよく見かけるが、少し分布域をはずれるとまったく見られないと言ってもよい。暗い林床の岩壁に見られることもあるが、そのような場所は植林や遷移によって暗くなったと考えられる。キンモウワラビは阿哲地域にはまだ知られていないが、精査が必要である（周辺にはケキンモウワラビと共に分布する地域がある）。



主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）、倉田・中池（1979）（山下 純）

ミドリカナワラビ*Arachniodes nipponica* (Rosenst.) Ohwi

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、集団規模も小さいのみならず、多くの地点で近い将来の減少あるいは消滅が見込まれるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採、土砂災害

分布状況

県内では、中部・北部の約6カ所から記録されている。国内では、千葉県以西の本州、四国、九州に分布し、襲速紀地域や静岡県には多いが、日本海側や岡山県周辺では希である。国外では中国に分布する。

生育状況

林床の地上に生じる常緑性シダ植物。根茎は這うが、節間の長いホソバカナワラビなどに比べると栄養繁殖能力は高くなく、集団内での株の区別が比較的つきやすい。若芽はふつう紅色を帯び、葉柄下部は成熟後も紅色を帯びることが多い。葉身は3回羽状複生、卵形で、先は頂羽片状にはならず、光沢ある鮮緑色。葉質が軟らかいのも特徴的である。県内では、近年になって点々と新たな分布地が判明している。スギ植林地で2009年に発見した集団は2019年現在で50個体以上、2016年に発見した集団も数十個体で、県内一、二の規模であるが、いずれも伐採時期が近付いていると思われる。この他の産地はごく少数個体である。

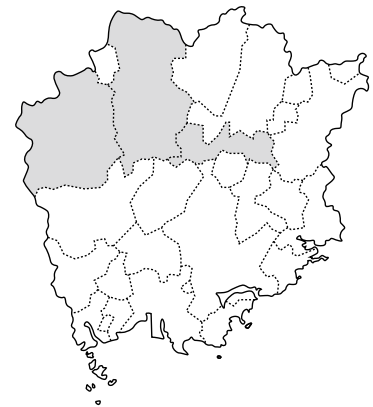
主要文献

海老原 (2017), 倉田・中池 (1979)

(山下 純)



撮影：山下 純

**コバノカナワラビ***Arachniodes sporadosora* (Kunze) Nakaike

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が1地域に局限され、個体数も極めて少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内で確実な記録は南部の1地域のみである。国内では、関東地方以西の本州、四国、九州、琉球列島に分布し、暖温帯下部に多く、多雨暖地ではごく普通であるが、岡山県と近隣地域では希。国外では、朝鮮、中国、台湾、南アジア、インドシナ半島に分布する。

生育状況

林床の地上に生じる常緑性シダ植物。根茎は這うが、節間の長いホソバカナワラビなどに比べると栄養繁殖能力はあまり高くない。葉身は3回羽状複生、先端は頂羽片状にはならない。葉質は硬く、光沢がある。ソーラスの着く葉はやや高く直立し、小羽片や葉身が細い傾向がある。県内では、かつては海に面し、照葉樹林化しつつある低丘陵地の谷沿いで、1株程度が確認されているに過ぎない。

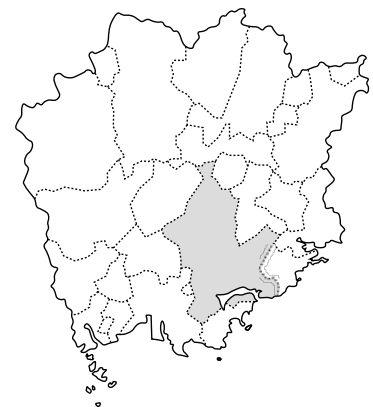
主要文献

海老原 (2017), 岩槻 (1992)

(山下 純)



撮影：池畑怜伸



メヤブソテツ

Cyrtomium caryotideum (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さく、複数の地点で消滅、衰退し、減少傾向にあるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採

分布状況

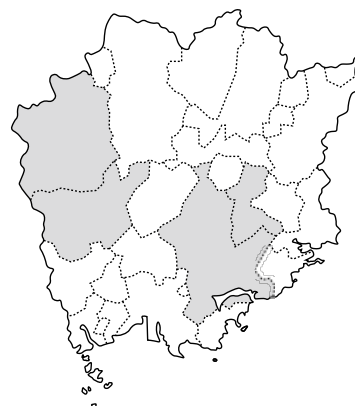
県内では、約5カ所から記録されている。国内では、福島県最南部以南の本州、四国、九州に分布するが、普通に見られる種ではない。日本海側には殆ど無い。国外では、朝鮮（済州島）、中国、台湾、南アジア、ベトナム、フィリピン、ハワイに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

常緑性の希なシダ植物。短い根茎の先端に葉を叢生する。羽片はせいぜい5対前後、基部の耳片と葉縁の鋸歯が鋭く、前側のみならずしばしば後側にも耳片がある。ソーラスが葉身の基部から先に着く点も同属他種と異なる。石灰岩地に生じることが多いとされることもあるが、県内に現在知られる5地点はいずれも石灰岩地ではない。ただし1カ所はコンクリート擁壁（狩山俊悟、私信）である。県内で最も古くから知られる岡山市の集団（10個体未満）は、2016年時点では植林床の低木が増加して暗くなり、生育が衰えていた。その周囲ではイノシシによる攪乱も認められたので、本種に被害が及ぶ懸念もある。他の2地点（各1個体）は消滅あるいは枯死寸前である。



主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）

ヒロハヤブソテツ

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、多くは規模が小さいのみならず、比較的大きい2集団を含む複数の場所で、将来に消滅が懸念される。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採

分布状況

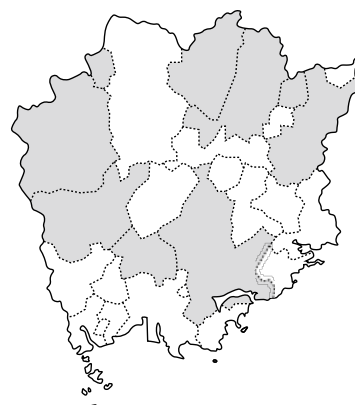
県内では、北部・中部の約10カ所から記録されている。国内では、本州（千葉県～新潟県以西）、四国、九州で、概ね暖温帯の冷涼地に分布する。国外では、中国、台湾、南アジアに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

よく湿った林床に生育する常緑性のシダ植物。短い根茎の先端に葉を叢生する。羽片は多くても10対前後、葉脈の網目は羽軸の両側で各々7～9列ある。頂羽片はその直下の側羽片より大きいことがよくある。県内では、溪谷沿いで岩盤上に土砂の積もった林床斜面などに生じる。2016年に50株以上の集団を発見したほか、既知の50株程度の1集団の存続を確認したことなどで推定現存個体数は増加した。しかしながら上記の2地点は、よく成長したスギ植林床であることから、近い将来の伐採が見込まれる。他に社寺林や国定公園など、現状改変が制限された自生地もあるが、個体数がごく少ない。2016年に新庄村で発見した集団は、形態的にやや異質な点もあり、遺伝的解析が必要である。



主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）

ツクシイワヘゴ

Dryopteris commixta Tagawa

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地、個体数ともに少なく、複数の地点で衰退と消滅が確認されているため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

県内では、南部を中心に10カ所程度で記録されている。国内では本州、四国、九州に分布し、主に暖温帯に見られ、九州南部では普通であるが、本州や四国では少ない。国外では朝鮮に分布する。

生育状況

常緑性のシダ植物。根茎は直立し、葉をやや漏斗状に叢生する。イワヘゴに似るが、葉は草質で、同じサイズの葉で比べると葉身の幅がより広く、羽片数が少なく、従って羽片が大きくなるので切れ込みがやや深く見える。包膜の発達が悪く、小さいことが多いのも特徴である。県内では、群生地は知られておらず、単生する株が点々と知られるが、消滅あるいは衰退した株が多く存続が危ぶまれる。イワヘゴ類のように根茎が直立する種は、斜面では徐々に倒れて回転する事で根茎上部が接地し、順次に新たな根を出せるが、平らな地面では直立したまま伸び上がるので根茎の上部が乾燥し、新たな根を出せないで衰弱する。

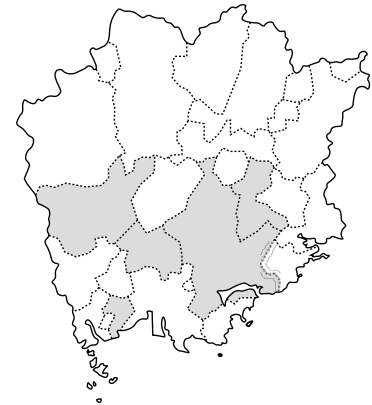
主要文献

海老原 (2017), 岩槻 (1992)

(山下 純)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ナチクジャク

Dryopteris decipiens (Hook.) Kuntze

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が1カ所に局限され、個体数も極めて少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限、植林伐採

分布状況

県内では、2014年に記録された1カ所だけが知られる。国内では、千葉県以西・埼玉県以南の本州、四国、九州、屋久島で、暖温帯に分布し、襲速紀と東海の太平洋側に多く、その他では少ない。国外では、朝鮮、中国、台湾に分布する。

生育状況

常緑性シダ植物。林床や林縁に生じ、雨量の多い地域でやや乾いた場所を好む。葉身は三角状披針形～長楕円状披針形、単羽状複生。羽片は鋸歯縁から羽状浅裂、紙質、鈍い光沢がある。西南暖地ではあまり珍しくないが、岡山県では非常に希で、低丘陵の林床に1株のみ生育が確認される。

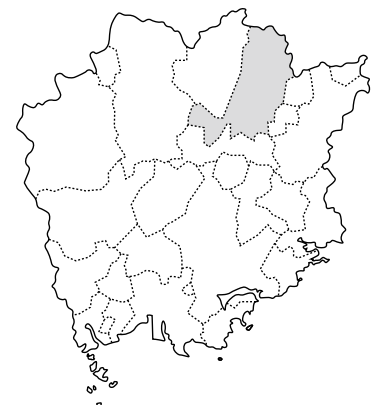
主要文献

海老原 (2017)

(山下 純)



撮影：山下 純



サクライカグマ

Dryopteris gymnohylla (Baker) C.Chr.

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が少なく、集団規模も小さいが、概ね安定的に存続しているため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移、採集圧

分布状況

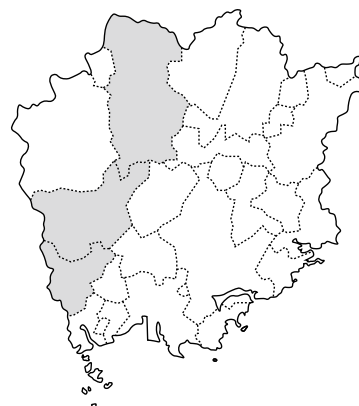
県内では希で、中西部を中心に約10カ所から記録され、概ね現存する。国内では、本州（岩手県南部以南）、九州（大分県）に分布し、日本海側にはなく、関東地方の一部では比較的多いが、その他では希。国外では朝鮮、中国、タイに分布する。



撮影：山下 純

生育状況

常緑性シダ植物。最下羽片が特に大きくて柄が長く、その後ろ側第1小羽片が明らかに大きい姿、光沢のない独特の色が特徴的である。県内では、常緑広葉樹などの林床や林縁のやや乾いた斜面や岩壁に生じる。現存が確認される集団はいずれも1～10株程度であり、比較的暗い林床であることが多いが、恐らく遷移の結果であり、本来はもう少し明るい林床の方がよいと思われる。現存地点数、個体数とも少ないが、自然公園や渓谷の探勝路として現状が保全されている場所が多く、今のところ生育環境は比較的安定している。ただし今後、遷移が進みすぎることには注意が必要である。



(山下 純)

主要文献

海老原 (2017), 倉田・中池 (1979)

イヌナチクジャク

Dryopteris integripinnula Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育環境が安定しており、当面の危機は無いと思われるが、生育地が局限される上に確認現存数が数十株と少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

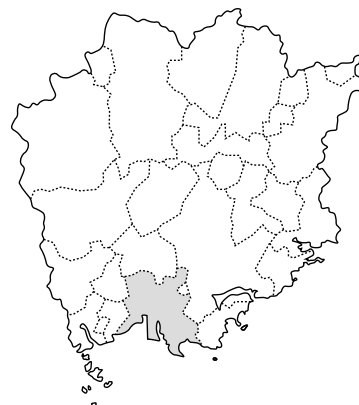
県内では、南部の1カ所に知られる。他に数カ所から記録されているが、形態や現地の状況の検討が不十分なため保留する。国内では、静岡県西部以西の本州、四国、九州で、暖温帯に分布し、少ない。国外では、朝鮮、中国に分布する。



撮影：山下 純

生育状況

常緑性シダ植物。根茎は短く、先は斜上するが、順次根を出して接地し、葉を叢生する。葉身は三角状披針形～長楕円状披針形、単羽状複生、羽片は紙質で鈍い光沢があり、ナチクジャクに比べて羽状浅裂から（下部羽片では）全裂する。県内では、低丘陵地の谷沿いのやや乾いたコナラ林床で、岩盤上に風化土や腐葉土が積もった斜面に20～30株程度がベニシダ等に混じって生育する。人目に付かない場所で、地盤が崩れる恐れもあまりなく、他の植物の競合も弱いので、大規模な伐採行為が及ばぬ限りは当面心配ないと思われる。



(山下 純)

主要文献

海老原 (2017), 中池 (1992)

アツギノヌカイトチシダマガイ*Dryopteris paomowanensis* Ching et Z.Y.Liu

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限されているが、多くの地点で概ね安定的に存続しているため。

存続を脅かす要因

産地局限、道路拡幅、崩落、植林伐採

分布状況

県内では、中西部を中心に約5カ所から記録されている。国内では、中部地方以西の本州、四国、九州の暖温帯に分布し、一部地域では普通に見られることもあるが、全国的に産地は限られる。国外では、朝鮮、中国（南部）に分布する。

生育状況

低山地の林床や林縁の岩壁などに生じる常緑性シダ植物。根茎は短く、斜上するが、順次根を出して接地するので這い、先端部に少数の葉を叢生する。サイゴクベニシダのよく切れ込み型は本種と誤認されやすく、混生することも多いが、軸の角度や羽片の柄などで区別される。県内では、照葉樹林やスギ植林などの林縁、林床で、チャートなどの岩壁や崖錐斜面に生じる。各集団は数十個体程度で、最も古くから知られる集団を含め、複数の自生地が自然公園内にあり、安定した環境にある。ただし、一部で岩壁崩落や法面工事、道路拡張工事の影響に注意を払う必要がある。2016年に井原市で発見した50株程度の集団は小羽片の切れ込みがやや浅く、検討を要する。

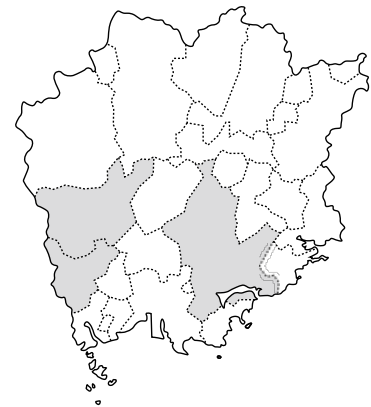
主要文献

海老原（2017）

（山下 純）



撮影：山下 純

**ミヤマクマワラビ***Dryopteris polylepis* (Franch. et Sav.) C.Chr.

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が1カ所に局限され、集団規模も小さく、食害等による減少の恐れがあるため。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、食害

分布状況

県内では、北部の2カ所で記録され、うち1カ所が現存する。国内では本州、四国、九州に分布し、生育地は暖温帯と温帯の境界付近であることが多く、ただし日本海側（多雪地）には少ない。国外では朝鮮に分布する。

生育状況

主に温帯林床に生じる夏緑性のシダ植物。直立する太い根茎の先に倒披針形の細長い葉を漏斗状に叢生する。葉柄は葉身より明らかに短い。オシダに似ているが、それよりも全体やや小さく、羽片や裂片が狭く、光沢の無い浅緑色で、鱗片は暗褐色であり、遠目にも葉色で見分けられる。県内では、北東部の1カ所のみで数十株の現存が知られる。また、北西部県境の広島県側には生育が確認される（写真）。オシダとの雑種を形成することがある。ニホンジカによる食害が懸念される。

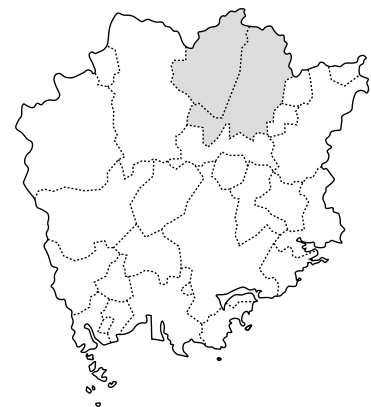
主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）

（山下 純）



撮影：山下 純



イワイタチシダ

Dryopteris saxifraga H.Itô

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ないが、概ね安定的に存続しているため。

存続を脅かす要因 産地局限

分布状況

県内では希で、北部と中西部の約10カ所で記録されているが、そのうちいくつかは現存が確認できない。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、主に温帯域に多い。国外では、朝鮮、中国（吉林省・遼寧省）に分布する。

生育状況

主に林床の岩上に生じる常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。外観はヤマイタチシダに似るが、葉柄と中軸の鱗片は下向から反曲する。本種は2倍体有性生殖であり、1胞子嚢の胞子が64個である点で無融合生殖種イヌイワイタチシダと区別されるが、県内産についてこの点は検討していない。同属の近縁種に比べて概ね小さく、10cm程度の葉でもソーラスを着ける。県内では、主に温帯林など冷涼地の林床溪岸で、岩壁の凹みなどに生じている。いずれの集団も概ね10個体未満であり、20cm未満の個体が殆どである。自生地が自然公園などに属していることが多く、生育環境は概ね安定している。

特記事項

2009年版の真庭市における分布情報は、標本の誤同定による。

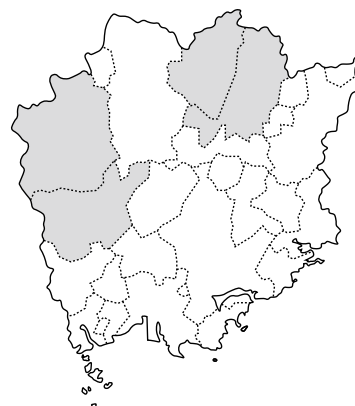
主要文献

海老原（2017）、倉田・中池（1985）

（山下 純）



撮影：山下 純



ナガサキシダ

Dryopteris sieboldii (van Houtte ex Mett.) Kuntze

大葉シダ綱 ウラボシ目 オシダ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少なく、岡山県は生育適地ではないことから現時点での存続が危ぶまれるため。

存続を脅かす要因

産地局限、採集圧

分布状況

県内では、10カ所足らずの記録がある。国内では、関東地方以南西の本州、四国、九州の暖温帯で、九州では比較的多いが、本州では希。国外では中国に分布する。

生育状況

常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。単羽状複生で、切れ込まない数対の幅広い側羽片と、ほぼ同形同大の頂羽片が *Dryopteris* の中では特徴的である。遠目には色や形がイワガネソウの小さい葉に多少似ているが、本種の葉脈は網目を作らず、包膜は円腎形である。県内では、低丘陵の林床に生じ、いずれの産地も個体数はごく少ない。近年になって新たな産地が点々と判明している。

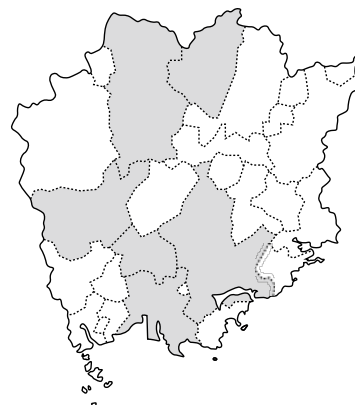
主要文献

海老原（2017）、倉田・中池（1997）

（山下 純）



撮影：山下 純



ヤノネシダ*Lepidomicrosorium buergerianum* (Miq.) Ching et K.H.Shing

大葉シダ綱 ウラボシ目 ウラボシ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では概ね安定的に存続しているが、生育地が少ないため。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

県内では北部、中部の暖温帯で約10カ所に記録されている。国内では、千葉県以西、ほぼ北緯36度以南の本州、四国、九州で、暖温帯に分布する。国外では、朝鮮、中国に分布する。

生育状況

根茎を長く伸ばし、常緑樹林床の地上に生じ、樹幹にもしばしば這い上る常緑性シダ植物。樹上などに這い上がった根茎に生じる葉は、比較的細長く、ソーラスを多数着ける。地上に生じる葉は葉身が比較的短くて幅広く、基部が張り出し、栄養葉である傾向が強い。県内では、低丘陵の溪谷沿いの林床で、多少なりとも群生し、樹上に多数這い上がっていることもある。保護された社叢内で広い面積に密生している場所もあり、このような場所が存続する限りは県内で絶滅するリスクは低いと思われる。

関係法令の指定状況

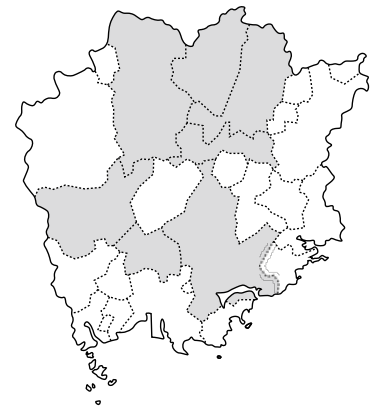
「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

海老原 (2017), 倉田・中池 (1981) (山下 純)



撮影：山下 純

**ホテイシダ***Lepisorus annuifrons* (Makino) Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 ウラボシ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が限られ、個体数も少ないため。中国地方でも希である。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

県内では、北部山地の数カ所に記録されている。国内では、北海道、本州、四国、九州の主として温帯に分布し、従って西日本では分布可能な地域に限られる。日本固有種とされる。

生育状況主に温帯、ときに暖温帯の上部で、樹上、あるいは岩壁に生じる小形のシダ植物。国内産*Lepisorus*の中で夏緑性の種は少なく、他に夏緑性の種は県内に知られていない。根茎は這い、根茎の鱗片の細胞は全て透けて見える。葉柄が明瞭で、葉は紙質で光沢が無く、縁は波打つことが多い。ソーラスを覆う鱗片は中心で盾着（じゅんちゃく）する。県内では、北部山地の温帯林に生じ、保護区域に属することが多いので生育環境は安定しているが、見かけることは殆どない。**関係法令の指定状況・特記事項**

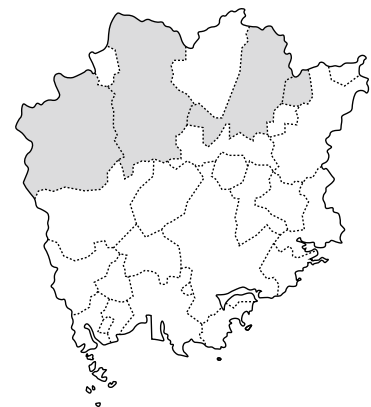
真庭市の証拠標本は無いが、生育状況の写真（片岡博行、私信）によって確認した。「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

海老原 (2017), 岩槻 (1992) (山下 純)



撮影：片岡博行



イワオモダカ

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching

大葉シダ綱 ウラボシ目 ウラボシ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地、個体数とも少なく、複数の地点で減少傾向にあるため。

存続を脅かす要因

採集圧、道路拡幅、法面工事

分布状況

県内では、北部と中西部の十数ヶ所から記録されている。国内では、北海道～九州に点々と広く分布するが、普通なものではない。国外では、朝鮮、中国（安徽省）に分布する。

生育状況

比較的明るい場所を好み、樹上や岩壁に生じる常緑性のシダ植物。乾燥に強く、冬期なども、葉身の裏面を外側にして葉縁が巻いた状態で耐える。胞子繁殖のほか、根茎が這って栄養繁殖をするが、節間が短く成長が遅いのでなかなか増えない。葉身は掌状に3～5裂し、裏面に星状毛を密生する。県内では、主に暖温帯の落葉樹林床や林縁で、樹上、石灰岩上、道路沿いの岩壁、古い屋根上、溪岸のコンクリート擁壁などに生育する。集団規模は多くて数株～10株程度、1株の場所もいくつかある。ある自然公園内の自生地では、30年近く前には容易に何株も確認できたが、現在はごく小さい個体が僅かしか見られない。

関係法令の指定状況

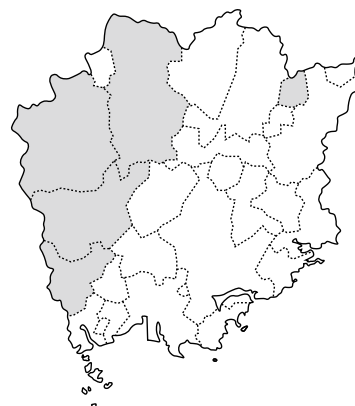
「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園、水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）、倉田・中池（1981）（山下 純）



撮影：山下 純



タカノハウラボシ

Selliguea engleri (Luer.) Fraser-Jenk.

大葉シダ綱 ウラボシ目 ウラボシ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育状況は比較的安定しているが、県内では生育地が1カ所に局限され、集団の規模も小さいため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内では、南西部の約1カ所のみから記録されている。国内では、伊豆諸島御蔵島、および伊豆半島以南西の本州・四国・九州で、主に太平洋側の県に分布する。中国地方では非常に希である。国外では朝鮮、中国、台湾、インド（北東部）に分布する。

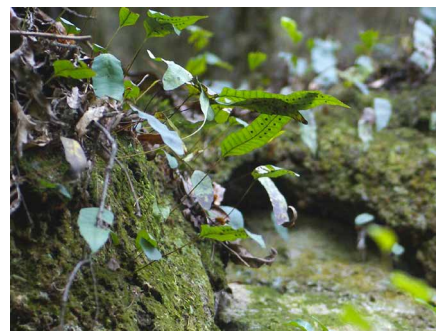
生育状況

林床の岩壁や樹幹に着生する常緑性シダ植物。葉身は分裂せず、両側が平行で、胞子表面は平滑であることなどで、ミツデウラボシと異なる。県内ではただ1カ所で、かつては海崖であったウバメガシ林床岩壁に生じている。生育環境は安定しており、3×3m程度の範囲に密生する。葉は全て分裂しないが、少なくとも一部の個体は胞子嚢の成熟が異常で、葉の生長途中の水不足の可能性もあるが、雑種の疑いもあり、検討を要する。周辺にはミツデウラボシも生じている。ごく近年になって、自生地のすぐ近くまで大規模な道路工事が迫っており、今後の推移が注目される。

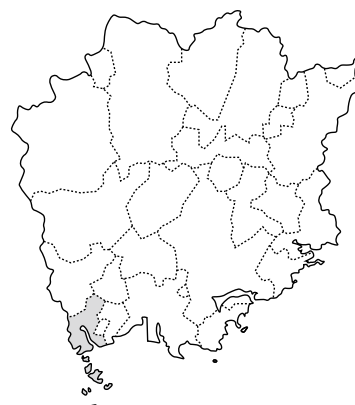
主要文献

海老原（2017）、岩槻（1992）、倉田・中池（1997）

（山下 純）



撮影：山下 純



イブキ

Juniperus chinensis L. var. *chinensis*

裸子植物 ヒノキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限定されており、個体数が少ない。生育環境が悪化すれば、絶滅する可能性が極めて高い。

存続を脅かす要因

産地局限、石灰採掘、森林伐採、自然遷移、業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では新見市、高梁市の石灰岩地や備前市の海岸岩上に生育する。国内では岩手県以南の本州、四国、九州に散在する。国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布する。

生育状況

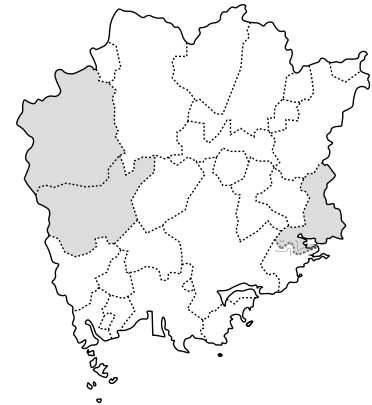
島や海岸、時に石灰岩地などの山地に生育する常緑針葉樹。高木になることもあるが、概ね低木。主幹はねじれることが多く、樹皮は赤褐色で縦裂する。葉は2型あり、多くは十字対生、鈍頭で背面に腺点のある鱗片葉だが、3輪生する針状葉をつける場合もある（植栽の場合には枝を強く刈り込んだ場合などにしばしば見られる）。雌雄異株だが、まれに同株となることもある。花期は4月、雌花・雄花とも小枝の先に1個つく。果実は翌年秋に熟し、直径5～8mmの球形で肉質液果状、紫黒色で粉白を帯びる。庭木・生垣・盆栽等として栽培され、カイツカイブキなど多くの園芸品種がある。別名、イブキビャクシン、ビャクシン。

主要文献

片岡ほか（2005）、北村ほか（1979）、大橋ほか編（2015）
（片岡博行）



撮影：狩山俊悟



ミヤマビャクシン

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A.Henry

裸子植物 ヒノキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限定されており、個体数が少ない。生育環境が悪化すれば、個体数が減少する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限、石灰採掘、森林伐採、自然遷移、その他（自生地でロッククライミングが行われている場所がある）

分布状況

北海道、本州、四国、九州～朝鮮半島、サハリン、千島の岩壁、礫地に生育する。岡山県内では吉備高原の石灰岩地にわずかに生育している。

生育状況

高さ50cmほどの常緑低木。イブキの変種で、幹が地面や岩上に伏して屈曲し、枝は枝分かれして斜上する。葉はイブキ同様2型あり、老齢木では十字対生する鱗片葉をつけるものが多いが、若齢木や長く伸びる枝には3輪生する針状葉を混生する。雌雄異株で花期は4月。花のつき方、果実の大きさはイブキとほぼ同じ。海岸や高山の岩地に適応したものといわれる。

関係法令の指定状況

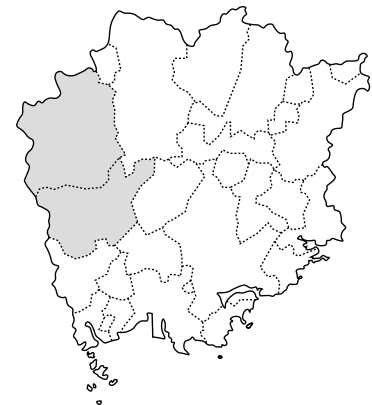
「自然公園法」により大山隠岐国立公園において指定植物に指定されている。

主要文献

狩山（2009）、北村ほか（1979）、大橋ほか編（2015）
（片岡博行）



撮影：狩山俊悟



ネズコ

Thuja standishii (Gordon) Carrière

裸子植物 ヒノキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限定されており、個体数が少ない。中国地方における生育地は極めて限られており、分布上でも重要な産地である。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移，その他（落石防止工事など）

分布状況

岡山県内では総社市の花こう岩の岩崖地にのみ生育する。国内では本州・四国に分布するが、中部地方以北に多く、近県では島根県の一部と愛媛県の石鎚山系に生育が知られるのみである。鳥取県の一部にも生育していたが、現在では絶滅したとされる。



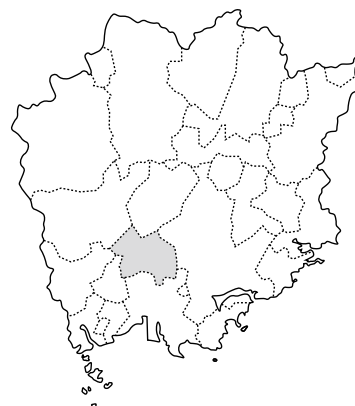
撮影：狩山俊悟

生育状況

常緑高木。樹皮は赤褐色で縦裂する。葉は鱗片葉で十字対生。ヒノキに似ているが、腺点があり、厚みがある。葉裏には灰白色の気孔群がある。花期は5月で雌雄同株。雄花，雌花ともに小枝の端に1個つく。球果は秋に成熟し，8～10mmの広卵形または楕円形。種子は長さ5～7mm，楕円形で狭い翼を持つ。別名，クロベ。

主要文献

狩山 (2009), 片岡ほか (2005), 北村ほか (1979), 倉田 (1971), 難波 (1993), 大橋ほか編 (2015), 鳥取県生物学会編 (2012) (片岡博行)



オニバス

Euryale ferox Salisb.

被子植物 スイレン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

池の改修など環境の変化により，生育地が減少しているため。また近年，動物による食害なども見られる。

存続を脅かす要因

池沼開発，土地造成，動物食害

分布状況

岡山県南部のため池，用水路に生育する。以前は各所で見られたが，次第に減少している。生育する場所でも，毎年，見られることは少なく，また，池の改修により池底に眠っていた種が発芽することがあるなど，生育状況は不安定である。本州，九州に分布する。



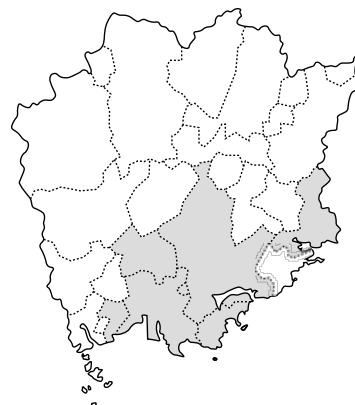
撮影：榎本 敬

生育状況

池や沼に生える一年草。浮葉植物。植物全体に鋭い棘がある。根茎は短く，多数の根を束生する。葉は根生し，芽生えの初期には水中に出し，3～4枚目からは水面に出す。浮葉は長柄があり，円形，楕状につき，裏面は紫色になる。成長した葉は径30～150cm，ときに2mを越えるという。開放花は長い花柄の先につけ，水面に出し咲き，径約4cm。花弁は多数で，紫色。閉鎖花は水中につける。花期は8～10月。果実は楕円形～球形で，棘がある。種子は球形で，肉質の種衣がある。

主要文献

角野 (2014), 狩山・榎本 (1998, 2001), 狩山ほか (1994, 2006), 小島ほか (2000), 小島ほか編 (2005), 大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編 (1980) (榎本 敬・岡田智子)



サイコクヒメコウホネ

Nuphar saikokuensis Shiga et Kadono

被子植物 スイレン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

ため池の改修やため池が使われなくなることなどで、生育地が減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発，河川開発，農業汚染

分布状況

岡山県下のため池に分布する。開発などにより、希となった。本州（中部以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

池や沼に生える多年草。浮葉～抽水植物。従来「ヒメコウホネ」とされてきたが、本州に限定的に分布する「ヒメコウホネ」と区別された。沈水葉は広卵形で薄い膜質，長さ6～30cm，幅6～20cm。浮葉と抽水葉は卵形～広卵形，長さ10～30cm，幅7～20cm。花は黄色，径3～4cm。柱頭はややいびつにならび，中心側で相接し，先端では鈍頭で柱頭盤から突き出すことは稀。花期は6～10月。コウホネやヒメコウホネなどが複雑に関与した雑種起源とされ，形態の変異は著しい。

特記事項

環境省レッドリストの「ヒメコウホネ」は本種も含まれている。

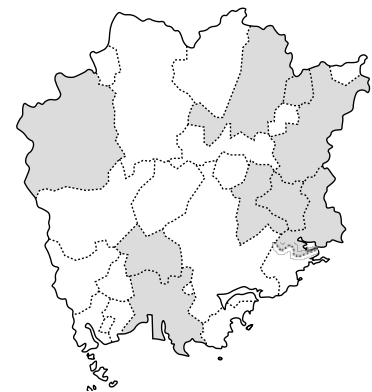
主要文献

榎本ほか（1995），榎本ほか（2003），角野（2014），狩山・榎本（1998，2005），狩山ほか（1994，2008），大橋ほか編（2015），大久保（1999），志賀・角野（2005）

（岡田智子）



撮影：岡田智子



キビヒトリシズカ

Chloranthus fortunei (A. Gray) Solms

被子植物 センリョウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内の生育地は限られており，雑木林の管理放棄などにより生育環境が悪化している。マニアなどの採取の危険もある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取（園芸採取），管理放棄，自然遷移，土地造成

分布状況

県内では，南部の産地を中心に希に分布する。また，中部や北部にもごくわずか見られる。県外では，香川県の小豆島や九州北部，近畿地方，広島県，山口県などに生育する。朝鮮半島南部，中国中部にも分布する。

生育状況

林縁や明るい雑木林の林床などに生育する多年草。ヒトリシズカに似るが，花の時期がやや遅く，苞は深く3裂し，雄しべの3本の花糸は8～12mmと長く，葯は中央の花糸の基部に2個，両端の花糸の基部にそれぞれ1個つくことで区別される（ヒトリシズカの葯は，両端の2本の花糸の下側につき，中央の花糸にはふつう葯はない）。染色体数はヒトリシズカが $2n=30$ の2倍体であるが，本種は $2n=60$ の4倍体であり，倍数性を伴って分化したものと思われる。

特記事項

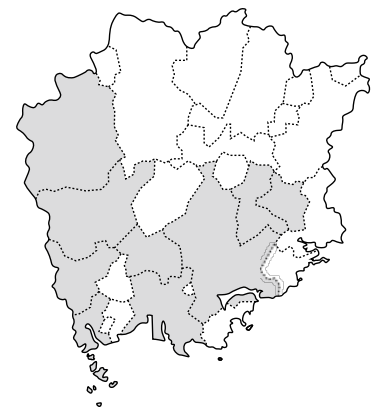
檜山庫三氏が1962年に，吉備郡水内（現在の総社市）で採集されたものをもとに新和名をつけ国内新産を報じた。

主要文献

檜山（1962），北村・村田（1961），大橋ほか編（2015），大井（1992）
（片岡博行・星野卓二）



撮影：榎本 敬



マルバウマノスズクサ

Aristolochia contorta Bunge

被子植物 ウマスズノクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県の生育地は2カ所で、個体数も少ない。生育地が道路脇ということもあり、人為的影響を受けやすい。またクズの繁茂により生育が脅かされる事態も起きている。道路工事（法面・拡幅）や除草剤の使用などでも消失する危険性があり、保護にあたっての十分な配慮が必要である。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成，産地局限，業者・マニア採取，農薬汚染（除草剤散布），自然遷移

分布状況

県内では北部の2カ所のみで生育。いずれも道路脇に生育。他の植物に絡んでツルが数mに伸び広がるが、大きな群落ではない。県外では本州（山形～島根の日本海側，長野，群馬）に点在。

生育状況

多年生のつる草で、植物体は無毛。葉は粉白色を帯び、互生して薄く、卵状三角形。葉柄は長く、基部は浅い心形となる。花期は7～8月。花はふつう黄緑色で、葉腋に数個ほど着き、萼筒は基部が球形で、筒部の先は細長く伸び、独特な形となる。さく果は緑色、長さ3cmほどの卵形で下垂し、基部から6裂する。

関係法令の指定状況・特記事項

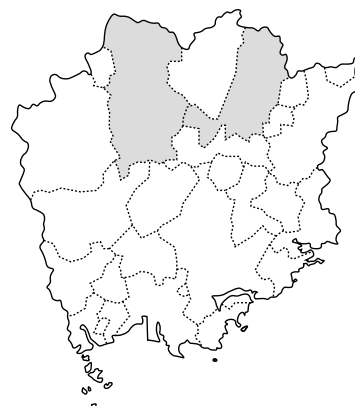
2004年に採集されて、岡山県にも生育することがわかった。「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

林(2013), 北村・村田(1961), 大橋ほか編(2015), 矢原ほか(2015)
(片岡博行・地職 恵)



撮影：地職 恵



ウスバサイシン

Asarum sieboldii Miq.

被子植物 ウマスズノクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が心配される状態ではないが、産地に限られ、個体数も少ないことから、注意深く推移を見守る必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取

分布状況

岡山県北部に分布し、溪谷沿いなどの樹林下に生える。本州（関東地方南部・中部地方～中国地方）に分布し、山地林下の湿った場所に生える。

生育状況

高さ15cmになる多年草。葉は茎の先に2個つき、1年生、質は薄く、長い柄がある。葉身は卵心形、長さ5～8cm、先は急にとがり、基部は深い心形。花は4～5月、茎の先の2葉柄間に1個つき、直径1～1.5cm。がく片の下半部は合着し、上半部は3裂、がく筒の喉部につば状の環がない。雄しべは12個、花柱は6個。果実は直径約13mm、種子は長だ円形で長さ約3.5mm。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

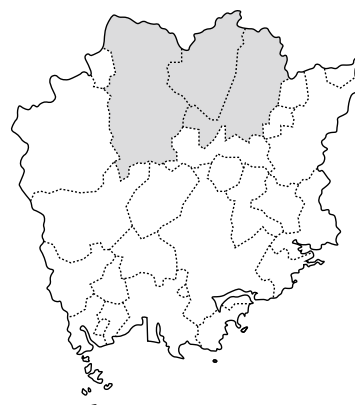
主要文献

北村・村田(1961), 大橋ほか編(2015)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



オオバクロモジ *Lindera umbellata* Thunb. var. *membranacea* (Maxim.) Momiy. ex H.Hara et M.Mizush.

被子植物 クスノキ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県が分布の西限にあたっている。多雪環境に適応して葉が大型化したと考えられており、太平洋側に広く分布する葉が小型のクロモジとの関係から、分類学的にも生態学的にも重要な意味を持つ種である。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限、気候変動

分布状況

県内では北部の中国山地で主としてブナ林などの夏緑樹林内に生育する。分布の西限にあたる県内では、次第に葉が小さくなり、境界域ではクロモジとの区分が難しくなる。県外では、北海道、本州（東北地方以南の日本海側）に分布する。

生育状況

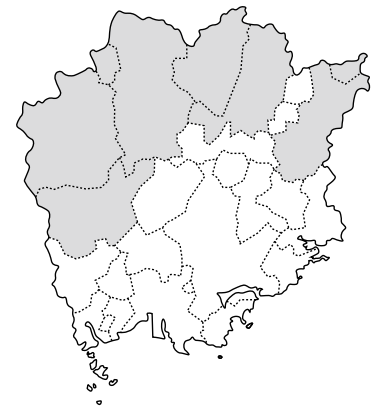
夏緑広葉樹林に生育する夏緑性低木。高さ2～5mになる。葉はクロモジよりも大きく、長さ9～13cm。裏面脈に沿って初め絹毛に覆われるが、成葉になると無毛。花被は黄緑色で、やや半透明。雌雄異株。果実は腋果、球形で、径5～6mm。県内のブナ林は、積雪の多い地域に残存していることが多く、多雪環境に適応して葉が大型化した本種が生育している。

主要文献

林 (2014), 西本・中西 (1984), 大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)
(西本 孝)



撮影：西本 孝

**アオモジ***Litsea cubeba* (Lour.) Pers.

被子植物 クスノキ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

1966年、新見市で難波早苗氏採集、大井次三郎博士同定の標本が、岡山県自然保護センターに残るのみで、現状は不明である。

存続を脅かす要因

不明

分布状況

岡山県内では難波早苗氏によって1966年に発見され、その後見つかっていない。その際の氏による標本と「阿哲郡哲多町萩尾（現新見市）の石灰岩地の谷間の、人里離れた山中で発見した」との記録が残る。新見市付近は寒冷地であることから、アオモジの生育に疑問を持つ考えもある。県外では九州（西部、南部）、琉球に分布。近年、植栽されたものからの逸出により、本州にも分布が拡大している。

生育状況

山地に生え、高さ3～7mになる雌雄異株の落葉小高木。葉は互生し、広披針形で長鋭尖頭、基部は鋭形、薄い洋紙質。表面は鮮緑色で、裏面は粉白色。樹皮は帯灰色で小枝は暗緑色となり、材には芳香がある。花期は3～4月。葉に先立って、今年枝に黄色の小さな花が散形花序につく。

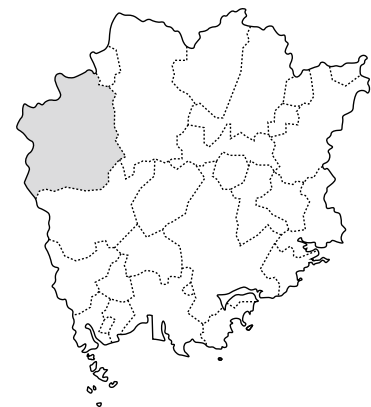
主要文献

林 (2014), 大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(地職 恵)



撮影：地職 恵



マイヅルテンナンショウ

Arisaema heterophyllum Blume

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

産地が局限されている上に、園芸採取や環境変化（自然遷移）、動物の食害等により減少している。確実な生育地は1カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限、管理放棄、道路工事、業者・マニア採取、動物の食害

分布状況

岡山県中部、北部からの報告があるが、現在確実な情報は北部のみである。竹林下ならびに水辺の日当たりの良い草地に生える。国内では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

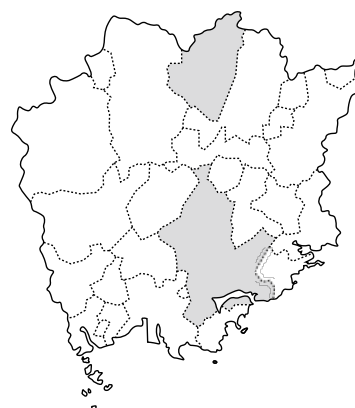
高さ40～80cm（稀に150cmを越えることもある）になる多年草。5～6月頃、地上に葉と花序を展開する。葉は1個で葉身は鳥足状に分裂。小葉は17～21枚、長楕円形または倒披針形となり、中央のもの（頂小葉）はその両脇の小葉に比べ、明らかに小さい。花は葉が展開した後に開花、仏炎苞は緑色で一部が紫色を帯びる。肉穂花序の先（附属体）は先に向かって鞭状に伸び、苞外に出て直立する。果実は秋に赤熟する。

主要文献

邑田ほか（2018）、大橋ほか編（2015）
（狩山俊悟・地職 恵・松本哲也）



撮影：地職 恵



ナギヒロハテンナンショウ

Arisaema nagense Tom. Kobay., K. Sasam. et J. Murata

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

2008年3月に新種記載されたばかりで、生育地は岡山県北部の2山系に限られ、個体数も多くない。苗がインターネット・オークションで売り出された例もあり、園芸目的のために採取され、絶滅してしまう恐れがある。また登山道沿いの草刈りのため多くの個体の上部が刈り取られたことがある。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取、その他（登山道の整備）

分布状況

岡山県では北部の2つの山系に分布が知られ、いずれも冷温帯域のササ草原あるいは低木林に生育している。同じ山系の隣接県にも生育が認められ、兵庫県と鳥取県に分布する。

生育状況

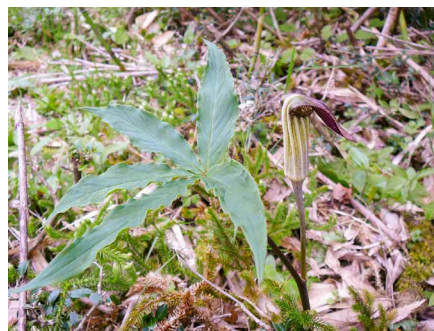
高さ10～40cmになる多年草。葉は1個、まれに2個、小葉はふつう5枚で長だ円形からだ円形、長さ4～14cm、全縁で鋭先頭。花期は5～6月。花柄は長さ1.5～11cmで葉柄より短い。仏炎苞は小さく、紫褐色、多数の白条が隆起し、筒部は長さ2～4.5cm、舷部は長い三角状から三角状長卵形で長さ3.5～7cm、長鋭尖頭。類似のヒロハテンナンショウは、小葉が広くて狭卵形から倒卵形、仏炎苞は黄緑色から緑色をしている。

関係法令の指定状況

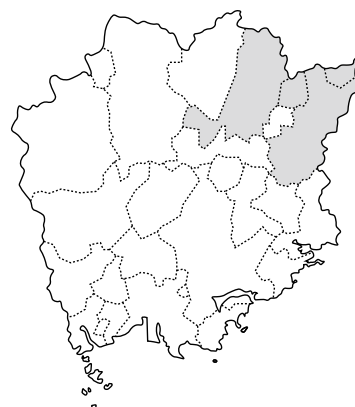
「種の保存法」による国内希少野生動植物種に指定されている。

主要文献

大橋ほか編（2015）
（狩山俊悟・松本哲也）



撮影：狩山俊悟



タカハシテンナンショウ*Arisaema nambae* Kitam.

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

集団数、個体数ともに必ずしも少ないとはいえないが、タイプ産地などでは着実に個体数を減らしており、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採、道路工事

分布状況

岡山県中部の吉備高原を中心に分布し、南部、北部にもわずかながら生育している。山地の二次林の林下・林縁に見られる。岡山県と広島県にのみ分布が知られる。



撮影：狩山俊悟

生育状況

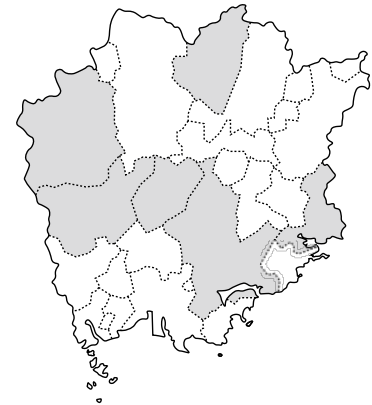
高さ15～50cmになる多年草。4月頃地上に葉と花序を出す。葉は1～2個で、偽茎部は葉柄部とほぼ等長か、やや長く、葉身は鳥足状に分裂し、小葉間の葉軸はやや発達する。小葉は5～7枚、楕円形～卵形で先は尖り、全縁または細鋸歯縁となる。仏炎苞は葉よりも早く展開し、淡紫色～紫色を帯び、仏炎苞腋部の先はしばしば反り返る。果実は夏に赤熟する。仏炎苞が緑色のものはモエギタカハシテンナンショウと呼ばれる。

特記事項

1966年、高梁市をタイプ産地とする新種として発表された。

主要文献

北村ほか(1964)、邑田ほか(2018)、大橋ほか編(2015)
(狩山俊悟・地職 恵・松本哲也)

**ヒロハテンナンショウ***Arisaema ovale* Nakai

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北部に点在し、集団数、個体数ともに少ない。中国山地の登山道沿いに生育していることが多く、不用意に登山道の整備や草刈りを行うと、個体数を減らしてしまうことになりかねない。もともと個体数が少ないので、園芸目的などによってわずかな個体が失われても種の存続には大きな影響を及ぼす。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取、その他(登山道の整備)

分布状況

岡山県では中国山地のブナ林、二次林、スギ林等の林下、ササ草原などに生育する。国内では北海道西南部、本州の主に日本海側、九州北部に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

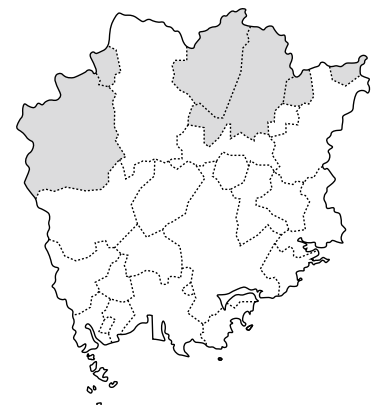
高さ15～70cmになる多年草。葉は通常1個で、偽茎部は葉柄部より短く、葉身は5～7小葉に分裂し、小葉間の葉軸は発達しない。小葉は卵状楕円形～狭倒卵形で先が尖り、全縁。花期は5～6月で、仏炎苞は葉身より遅れて開く。花序柄は葉柄部より短く、仏炎苞は緑色、時に紫褐色で、隆起する白条があり、筒部の口辺は狭く開出し、腋部の先は尖る。果実は秋に赤く熟す。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

邑田ほか(2018)、大橋ほか編(2015)
(狩山俊悟・地職 恵・松本哲也)



ムサシアブミ

Arisaema ringens (Thunb.) Schott

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内に点在するが、個体数は多くない。石灰岩地に生育していることが多いが、非石灰岩地にも見られる。山草として栽培される(大久保, 1999)。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 森林伐採, 産地局限

分布状況

岡山県中部, 北部の石灰岩地域を中心に分布し, 南部の非石灰岩地域にも見られることがある。やや湿った二次林下に見られるが, 個体数は少ない。本州(愛知県・福井県以西), 四国, 九州, 琉球に分布し, 主に暖地の海岸近くの林下に生えることが多い。



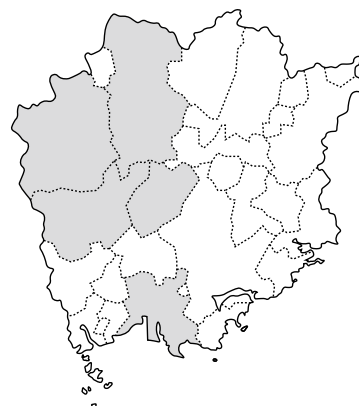
撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ70cmに達する多年草。葉は1茎に2個で, ほぼ同大。偽茎部は葉柄部より短く, 葉身は無柄で3小葉に分裂する。小葉は菱状楕円形で先は細く尖り尾状, 全縁, 上面には光沢があり, 裏面はしばしば粉白色となる。花は4~5月, 仏炎苞は葉と同時に開き, 外面は緑色, 内面は暗紫色を帯び, 両面に白い縞がある。仏炎苞全体が鐘(あぶみ)状となる。果実は秋遅く朱赤色に熟す。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。



主要文献

邑田ほか(2018), 大橋ほか編(2015), 大久保(1999)
(狩山俊悟・地職 恵・松本哲也)

ムロウテンナンショウ

Arisaema yamatense (Nakai) Nakai

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと集団数, 個体数ともに多くない。森林伐採による生育地の減少や園芸採取が懸念される。動物の食害を受けている所も見られる。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 森林伐採, 動物の食害

分布状況

岡山県では中部, 北部を中心として分布し, 二次林や植林地の林下, 林縁に生える。集団としてまとまった場所もあるが, 少ない。本州(愛知, 岐阜, 福井県及び近畿地方, 中国地方東部)に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

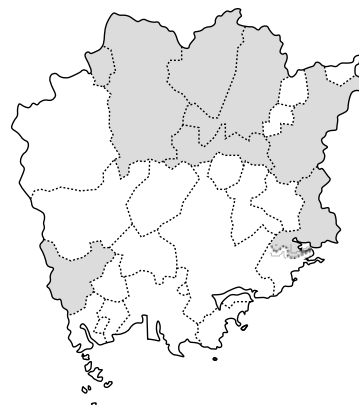
高さ80cmに達することもある多年草。鞘状葉や偽茎部の斑はやや赤みが強い。葉は通常2個で, 葉柄部は偽茎部よりはるかに短く, 葉身は鳥足状に分裂, 小葉間に葉軸が発達する。小葉は9~15個, しばしば細鋸歯がある。花は4~5月に咲き, 仏炎苞は葉身とほぼ同時に開き, 全体緑色, まれに紫色を帯びる。仏炎苞の腋部内面は微細な乳頭状突起に密に覆われ, 白っぽく見える。肉穂花序の付属体は上に向かって細まり, 光沢のある濃緑色の円頭となり, 先端が前に曲がる。果実は秋に赤熟する。

特記事項

岡山県を分布の西限とする植物。

主要文献

邑田ほか(2018), 大橋ほか編(2015)
(狩山俊悟・地職 恵・松本哲也)



オオハンゲ*Pinellia tripartita* (Blume) Schott

被子植物 単子葉類 サトイモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

吉備高原以北の林下，林縁に点在するが，集団数，個体数ともに多くない。茶花として利用されることがある（大久保，1999）。

存続を脅かす要因

森林伐採，業者・マニア採取，道路工事

分布状況

岡山県の南部，中部，北部に点在し，二次林林下，林縁などに生える。本州（中部地方以西），四国，九州，琉球に分布し，山地の常緑樹林下などに生える。

生育状況

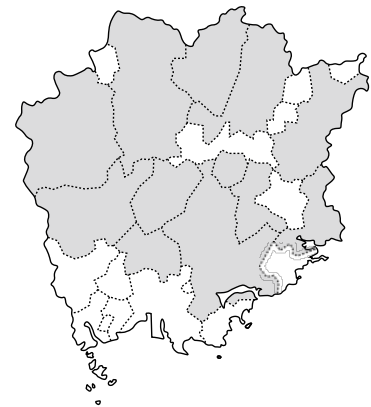
高さ20～60cmになる多年草。球茎は偏球形で，径3～5cm，上部から根を出す。葉は1～4個，葉柄にむかごをつけない。葉身は3深裂し，裂片は広卵形から狭卵円形，長さ8～20cm，幅3.5～12cm，先端は少し尾状に伸びる。花は6～8月に咲き，仏炎苞は緑色または帯紫色で，長さ6～10cm。肉穂花序の上部は線形の付属体となり，長さ12～25cm，直立する。同属のカラスビシャクは葉が3小葉に分かれ，葉柄にむかごをつける。

主要文献

北村ほか（1964），大橋ほか編（2015），大久保（1999）
（狩山俊悟・地職 恵）



撮影：狩山俊悟

**イワショウブ***Triantha japonica* (Miq.) Baker

被子植物 単子葉類 チシマゼキショウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は本種の分布南西限に近く，県内では生育地が局限され，環境の悪化による減少が懸念されるため。

存続を脅かす要因

産地局限，植生遷移，採集圧，食害

分布状況

県内では北部山地の1地域に分布する。国内では北海道，本州（西限は広島県北東部）に分布する。日本固有種。

生育状況

温帯から寒温帯の湿原に生える多年草。本種の属する *Triantha*（イワショウブ属）は，花茎に腺状突起があって粘り，種子に附属体があるなどの特徴により，系統学的な姉妹群である *Tofieldia*（チシマゼキショウ属）から区別される。国内に産する *Triantha* は本種のみである。県内では，北西部の湿原に生育が知られている。植生遷移による生育環境の悪化が懸念されるほか，近年ではニホンジカが増加しつつあり，食害のリスクも高まっている。

関係法令の指定状況

「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物。

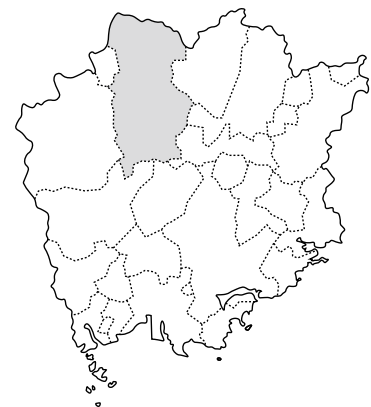
主要文献

大橋ほか編（2015），Tamura et al.（2004）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟



マルバオモダカ

Caldesia parnassiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

被子植物 単子葉類 オモダカ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

自生地が限られている。また、1カ所は農業用ため池であり養鯉が行われているなど、生育地が不安定な環境下にある。

存続を脅かす要因

産地局限, 動物食害, その他(鯉による攪乱)

分布状況

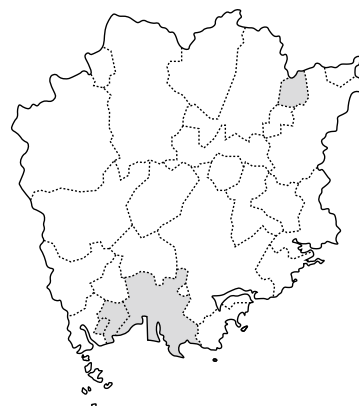
県内：南部の倉敷市のため池で採集された(1985年)が、翌年は消えた。南西部には更に古い記録もある。その後、勝田郡内のため池で50数株の自生が確認された(1996年)。さらに2002年7月、同じため池で十数株の自生が確認された。県外：北海道(南部)～九州に分布。



撮影：西本 孝

生育状況

ため池や沼地などに生える浮葉～抽水の多年草。葉は根生し、水の深浅で変化する長い柄がある。葉身は卵円形または腎形で、先は円く基部は心形に深く切れ込み水面に浮かぶ。その後は直立する葉柄で水面上に出る。夏には50～100cmの花茎を伸ばして3枝を輪生する円錐花序をつくる。花は花弁3個で白色。本種は種子と水中の花序の上のできる胎生芽で繁殖している。



主要文献

角野(1985), 大橋ほか編(2015), 大久保(1999)
(高山敬三・森定 伸)

アギナシ

Sagittaria aginashi Makino

被子植物 単子葉類 オモダカ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

山間のため池周辺や水田, 湿地に生育するが, 集団数, 個体数ともに少なく, 減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発, 湿地開発, 水質汚濁, 農薬汚染

分布状況

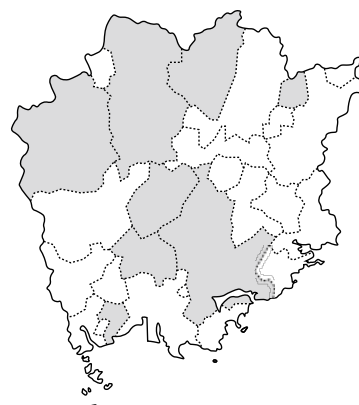
県内：北部, 中部, 南部。県外：北海道～九州。

生育状況

抽水性から湿性の多年草。茎は短く, 葉は根生, 走出枝はない。葉柄は長さ20～50cm, 成葉は矢尻形となり, やや細い頂裂片と左右に下向する側裂片からなる。側裂片の先端は尖らず円みを帯びる。花期は7～10月。夏ごろより葉柄基部の内側に多数のむかごを形成する。類似種のオモダカが雑草的性格を持つのに対し, 本種は山間の池沼や湿原など, より自然度の高い環境に生育する。



撮影：小島辰三



主要文献

浜島・須賀(2005), 角野(1994), 狩山・榎本(1998, 2001), 片山ほか(2005), 小島(2005), 大橋ほか編(2015)
(小島裕子・森定 伸)

マルミスブタ*Blyxa aubertii* Rich.

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では、加茂川町（現吉備中央町, 1966年）、倉敷市（1989年）などの標本があるが、現状は不明である。

存続を脅かす要因

池沼開発, 水質汚濁, 農薬汚染, 外来生物（スクミリンゴガイ等）の増加

分布状況

県内：中部、南部において標本採集記録あり。県外：本州～琉球に分布。

生育状況

沈水性の一年草。外見はスブタとそっくりであるが、種子に尾状突起が発達しない。表面には縦方向に稜があり、細かい突起が散在する。果実を分解して成熟した種子をみればスブタとの識別は容易である。未熟な種子では尾状突起の発達が不十分で誤認することがあるので、注意が必要である。

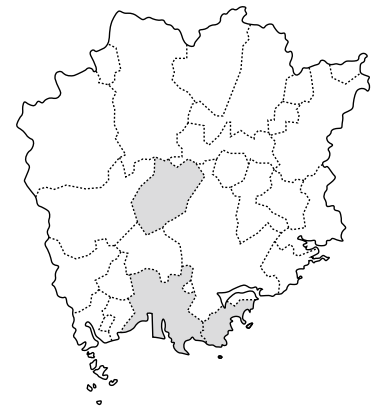
主要文献

浜島・須賀（2005）、角野（1994）、環境庁自然保護局野生生物課（2000）、狩山・榎本（1998, 2001）、狩山ほか（1999）、大橋ほか編（2015）

(小島裕子・森定 伸)



所蔵：倉敷市立自然史博物館

**スブタ***Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

古くは水田にも生育したが、農薬汚染, 水田管理の変化などで、極めて希な水草となった。山間部のため池にわずかに生育する。

存続を脅かす要因

池沼開発, 水質汚濁, 農薬汚染, 外来生物（スクミリンゴガイ等）の増加

分布状況

県内：北部、中部、南部に分布していたが、現存するため池は南部のごくわずかとなった。県外：本州～琉球。

生育状況

沈水性の一年草。茎は伸びず極めて短く、下部からひげ根を多数だす。葉は多数根生し、線形で先は細くなり鋭尖頭、長さ10～30cm、幅4～8mm、縁に細鋸歯がある。花期は8～10月、花柄は腋生する。花は両性、花弁は3枚で細長く、白色。果実は線形の筒状で、多数の種子がつまっている。種子は紡錘形で長さ1.5～2mm、表面に突起があり、両端に尾状突起がある。

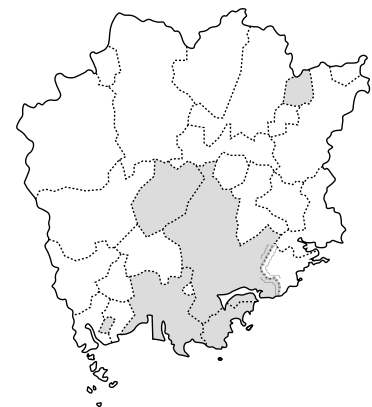
主要文献

榎本ほか（1995）、角野（1994）、環境庁自然保護局野生生物課（2000）、狩山・榎本（1998, 2001）、狩山ほか（1999）、片岡ほか（2005）、小島ほか（2005）、大橋ほか編（2015）

(小島裕子・森定 伸)



撮影：小島辰三



ヤナギスブタ

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

かつてはスブタとともに水田雑草であったようだが、農薬汚染、水田管理の変化などで、スブタとともに希な水草となった。

存続を脅かす要因

池沼開発、農薬汚染、水質汚濁、外来生物（スクミリンゴガイ等）の増加

分布状況

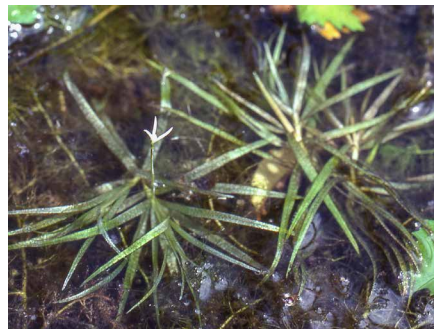
県内：北部、中部、南部の水田や溝に生育していたが現在は希。
 県外：本州～琉球に分布。

生育状況

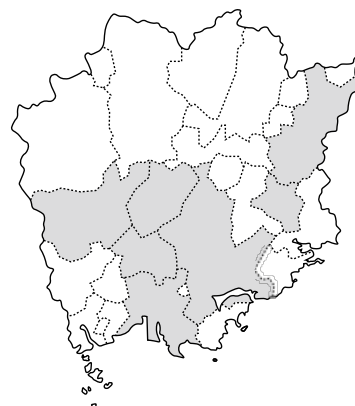
水田や溝などに生える沈水性の一年草。茎は水中に伸長し、長さ5～25cm、よく分枝し、多数の葉をつける。葉は互生で無柄、葉身は線形で、先ほど細くなる。長さ2.5～5（～8）cm、幅1.5～2.3mm、葉縁に細鋸歯がある。花期は7～10月。花弁は3枚、線形で白色、目立たない花を水面上に開く。種子は紡錘形で、長さ1.5～2mm、両端に突起はなく、表面は平滑。

主要文献

榎本ほか（1996）、浜島・須賀（2005）、角野（1994）、狩山ほか（1999）、片岡ほか（2005）、小島ほか（2005）、大橋ほか編（2015）
 （小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三



トチカガミ

Hydrocharis dubia (Blume) Backer

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育環境が悪化し、減少傾向が著しい。

存続を脅かす要因

池沼開発、水質汚濁、農薬汚染、外来生物（アマゾントチカガミ、ヌートリア、スクミリンゴガイ等）の増加、その他（水路の三面コンクリート化）、

分布状況

県内：中部、南部のため池や水路に生育。県外：本州～九州に分布。

生育状況

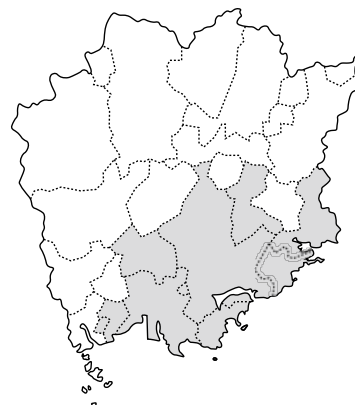
富栄養のため池、水路などに群生する浮遊性の多年草。水中葉が横に伸び、各節から根をだし数枚の葉が展開する。葉柄は長さ4～20cm、葉身は円形、直径2～7cm、基部は心形または深く切れ込む。裏面に気嚢があってふくれる。花期は8～10月。花弁は3枚で白色。雄花と雌花がある。秋から冬にかけ、水中茎の先端が長さ2～4cmの殖芽となり、水底で越冬する。葉裏の気嚢のふくらみを見れば、多種との区別は容易である。近年、外来生物のアマゾントチカガミ *Limnobiium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heineの侵入による生育地の減少や、植食性の外来生物の増加に伴い、生育数が減少している。

主要文献

榎本ほか（1996）、浜島・須賀（2005）、角野（1994、2014）、狩山ほか（1999）、片岡ほか（2005）、小島ほか（2005）、大橋ほか編（2015）
 （小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三



ムサシモ*Najas ancistrocarpa* A.Braun ex Magnus

被子植物 単子葉類 トチカガミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

極めて希な水草である。

存続を脅かす要因

産地局限，水質汚濁，池沼開発

分布状況

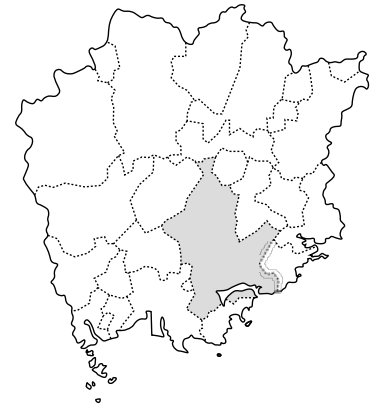
県内：南部の岡山市において標本採集記録がある。県外：本州，四国に分布。

生育状況

湖沼，ため池，水田などに極めて希に生育する沈水植物。茎は盛んに分枝し，折れやすい。葉は糸状で長さ1～2cm，幅0.15～0.2mm，縁に細かい鋸歯があり，葉は多少そりかえる。葉鞘は切形。花期は7～9月。種子は湾曲して弧を描いた形となり，長さは曲がった状態で1.5～2mm，表面にはやや縦長の模様があるが，他種の模様ほど明瞭ではない。

主要文献角野（1994），環境庁自然保護局野生生物課（2000），狩山・榎本（2001），小島ほか（2005），牧野（2008），大橋ほか編（2015）
（小島裕子）

所蔵：倉敷市立自然史博物館

**サガミトリゲモ***Najas chinensis* N.Z.Wang

被子植物 単子葉類 トチカガミ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育環境の悪化で，著しく減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁，農薬汚染，その他（水田管理の変化）

分布状況

県内：北部，中部，南部に稀。県外：本州～琉球に分布する。

生育状況

ため池や山間部の水田に生育する沈水植物。茎はよく分枝し，葉は線形，長さ1.5～3cm，幅0.3～0.6mm，縁に細かい鋸歯がある。葉鞘は，切形または円形で突出しない。花期は7～9月。雄花と雌花があり，ふつう別の葉腋につく。種子は長楕円形で長さ2.5～3mm，表面にルーペでも十分に確認できる四～六角形の大きな編み目模様がある。

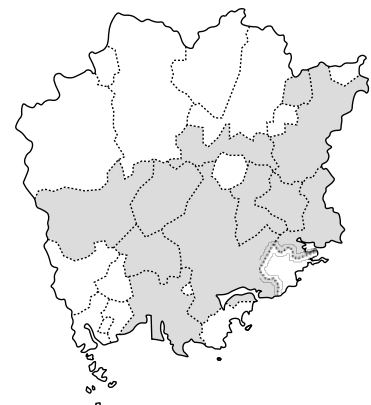
主要文献

角野（1994），環境庁自然保護局野生生物課（2000），狩山・榎本（2001），狩山ほか（1999），片岡ほか（2005），小島ほか（2005），大橋ほか編（2015）

（小島裕子・森定 伸）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



イトトリゲモ

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnus

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

かつては普通の水田雑草であったようだが、農薬や水田管理の変化などで希な水草となった。山間部の貧栄養のため池などに生き残っていると思われるが現状は不明。

存続を脅かす要因

池沼開発, 水質汚濁, 農薬汚染

分布状況

県内：中部, 南部に分布。旧加茂川町（現吉備中央町）, 旧佐伯町（現和気町）, 倉敷市, 岡山市などにおいて標本採集記録がある。県外：本州～九州に分布。

生育状況

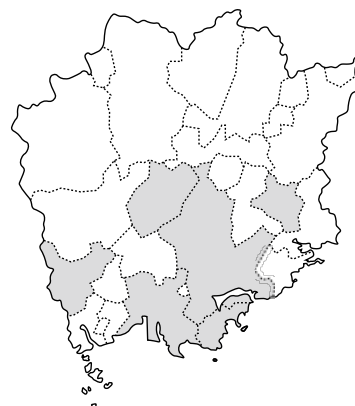
ため池, 水田と溝に生育する一年草。沈水植物。茎はよく分枝し長さ10～30cm。葉は糸状で細く各節に5輪生し, 長さ1～2cm。雌雄同株で節に1個の雄花と2個の雌花を6～9月につける。種子が節に2個並んでつく特徴がある。

主要文献

浜島・須賀（2005）, 角野（1994）, 環境庁自然保護局野生生物課（2000）, 狩山ほか（1999）, 小島ほか（2005）, 大橋ほか編（2015）
（小島裕子・森定 伸）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



イバラモ

Najas marina L.

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育環境の悪化で, 著しく減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発, 水質汚濁

分布状況

県内：南部。県外：北海道～琉球。

生育状況

淡水または汽水の湖沼, ため池, 希に河川や水路などにも生育する一年生の沈水植物。茎は硬く, まばらに分枝し, 長さ約50cmで, まばらに棘があり, 下部の節から根を出す。葉は対生し, 硬く, 線形で長さ3～6cm, 幅2～3mm, 縁にまばらに鋸歯があり, 鋸歯の先端はとげとなる。花は7～9月に咲き, 非常に小さく, 上方の葉腋につく。雌雄異株。種子は楕円形で長さ4～6mm, 幅2～3mm。

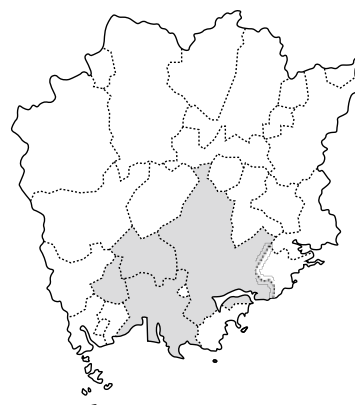
主要文献

角野（1994）, 片岡ほか（2005）, 小島ほか（2005）, 牧野（2008）, 大橋ほか編（2015）

（小島裕子・森定 伸）



撮影：狩山俊悟



ミスオオバコ*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

被子植物 単子葉類 トチカガミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1990年代までは、水田や水路などでよく見かけたが、生育環境が悪化し、著しく減少した。

存続を脅かす要因

水質汚濁、農薬汚染、外来生物（スクミリンゴガイ等）の増加、その他（水田管理の変化、溝の三面コンクリート化）

分布状況

県内：北部、中部、南部の水田や溝、ため池などに生育。県外：北海道～琉球まで広く分布。

生育状況

沈水性の一年草。ため池など深いところでは大きくなり、水田など浅いところでは小さい。葉は根生、有柄、葉身は広披針形から広卵形、質薄く、長さ10～30cm、幅2～15cmになる。花期は8～10月、花弁は白色から淡桃色で3枚。雄しべ3、雌しべ6の両性花の場合がほとんどである。近年、植食性の外来生物の増加に伴い、生育数が減少している。

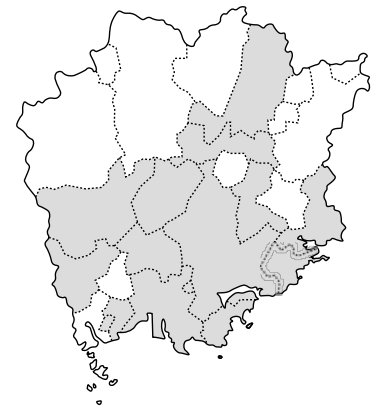
主要文献

榎本ほか（1996）、浜島・須賀（2005）、角野（1994）、狩山・榎本（1998, 2001）、狩山ほか（2006）、狩山ほか（2008）、片岡ほか（2005）、小島ほか（2005）、大橋ほか編（2015）

(小島裕子・森定 伸)



撮影：小島辰三

**シバナ***Triglochin asiatica* (Kitag.) A. et D.Löve

被子植物 単子葉類 シバナ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育環境が限られている希少な植物で、存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

河川開発、海岸開発、土地造成

分布状況

県内：南部（笠岡市、備前市）。県外：北海道～九州に分布。

生育状況

河口や干潟の縁の塩分を含む湿地に生える多年草。葉は根生し、線形で柔らかく、断面は半円形、長さ10～40cm、幅1.5～5mm。花期は6～10月。花茎は10～50cm、総状花序に小さい多数の花をつける。花は両性花、果実は6心皮からなり長さ3.5～4.5mm、熟すと6片となって落ちる。シバナ群落は適当に淡水が混ざり満潮時には水没し、干潮時には干潟となるような場所に成立する。

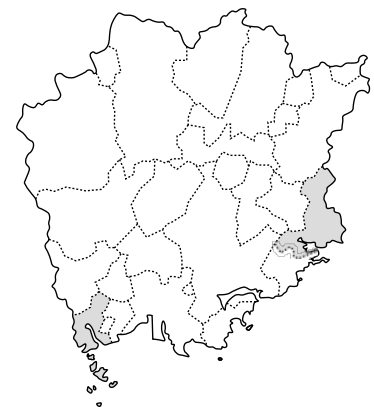
主要文献

榎本ほか（1995）、環境庁自然保護局野生生物課（2000）、狩山・榎本（2001）、大橋ほか編（2015）

(小島裕子・森定 伸)



撮影：小島辰三



コアマモ

Zostera japonica Asch. et Graebn.

被子植物 単子葉類 アマモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

埋め立てや水質・底質の悪化など、生育環境が悪くなることによる減少が心配される。

存続を脅かす要因

海岸開発，水質汚濁

分布状況

県内：南部（岡山市，倉敷市，玉野市，笠岡市，瀬戸内市の湾内）。
 県外：北海道～琉球に分布。

生育状況

湾の奥や河口の干潟などの，干潮時には干上がるような浅い海底の砂泥にはえる多年草。根茎は横に這い，節から根と枝をだす。葉は互生し，糸状，長さ10～40cm，幅1.5～2mm，先端は円頭，縁は全縁，3本の脈がある。花期は夏，花序は小さく長さ2cm，雄花と雌花がある。種子は楕円形，長さ2mm，種皮は平滑である。類似種のアマモは，葉の幅が3～7mmと広いので識別は容易。

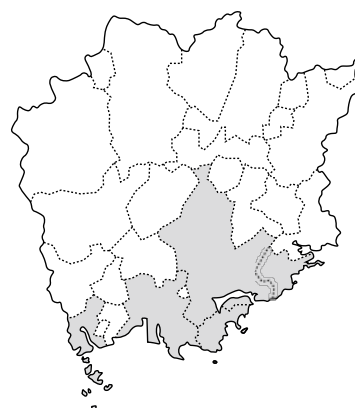
主要文献

狩山・榎本（2001），狩山ほか（2008），小島ほか（2005），大場・宮田（2007），大橋ほか編（2015）

（小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三



イトモ

Potamogeton berchtoldii Fieber

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

生育環境が悪化し，著しく減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁

分布状況

県内：北部，中部，南部のため池に希。県外：北海道～琉球に分布。

生育状況

湖沼，ため池，水路などに生育する小形の沈水植物。貧弱な地下茎が横に伸び，一節おきに水中茎が出る。葉は線形で，2～6cm，幅0.7～1.5mm，全縁である。托葉は両縁が重なり合っただけで筒状にはならない。花期は6～8月，花茎の長さ1～2.5cm，花穂の長さ3～5mm，花はかたまっつく。水中で自家受粉し結実する。秋になると枝の先が長さ1.5～2.5cmの殖芽となり水底で越冬する。ホソバミズヒキモの沈水形と混同されやすい。花か実があれば同定は容易であるが，葉だけの場合は決め手がない。

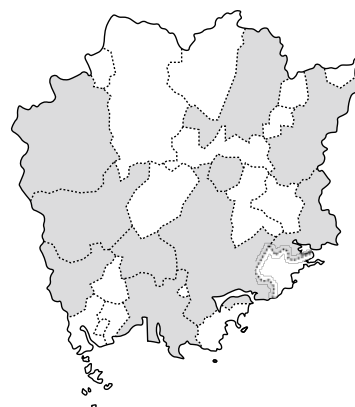
主要文献

榎本ほか（1995），角野（1994），環境庁自然保護局野生生物課（2000），狩山・榎本（1998），片岡ほか（2005），小島ほか（2005），大橋ほか編（2015）

（小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三



コバノヒルムシロ*Potamogeton cristatus* Regel et Maack

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育環境が悪化し、著しく減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁

分布状況

県内：北部，中部，南部に分布。旧美星町（現井原市），旧御津町（現岡山市），倉敷市，玉野市などにおける標本採集記録がある。
 県外：本州に分布。

生育状況

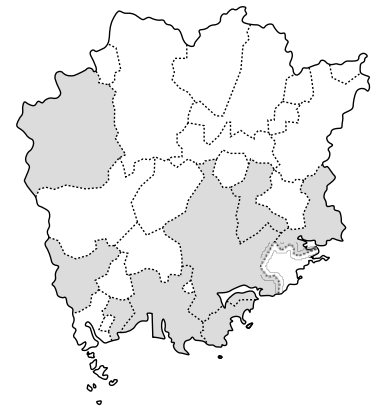
ため池などに希に産する小形の浮葉植物。水中茎は細く，よく分枝する。沈水葉は互生し狭線形で，長さ4～6cm，幅1mm以下。浮水葉は長楕円形で長さ20～27mm，幅5～11mm。花期は5～9月。短い穂状花序に淡黄緑色の細かい花をつける。秋に葉腋に越冬芽をつくる。越冬芽には2個の開出するとげ状の葉があり，これが植物体から離れて水底に沈み，翌年発芽する。よく似たホソバミズヒキモとの区別点は，果実の嘴（花柱）が長く，背後にニワトリのとさか状の著しい突起が見られることである。

主要文献

榎本ほか（1995），浜島・須賀（2005），角野（1994），環境庁自然保護局野生生物課（2000），狩山・榎本（1998，2001），片岡ほか（2005），小島ほか（2005），牧野（2008），大橋ほか編（2015）
 （小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三

**オヒルムシロ***Potamogeton natans* L.

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

1960年に和気町で採集されたが，その後絶滅したと考えられていた（大久保，1999）。2003年に津山市内のため池で再発見され，現存する自生地は1カ所のみとなっている。しかし，そのため池も堤防の改修や水質汚濁の可能性があり，絶滅が憂慮される。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁，産地局限

分布状況

岡山県では中部のため池に生育している。国内では北海道～九州に分布し，池沼や河川に生える。

生育状況

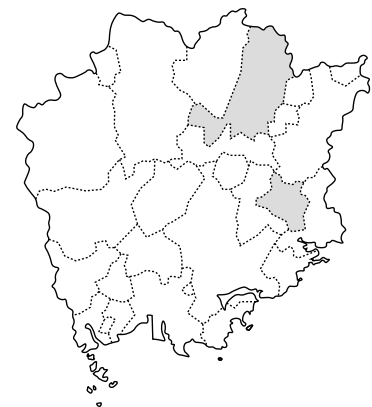
淡水に生え，長さ2～3mに達する多年草。沈水葉は互生し，狭線形，長さ12～30cm。浮水葉は長だ円形から広だ円形，長さ5～12cm，長い柄がある。花期は5～8月。花は両性，穂状花序につく。そう果は広卵形，長さ4mm。浮水葉をもつ同属の水草のうち，コバノヒルムシロとホソバミズヒキモは浮水葉の葉身の長さが4cm以下であることで，ヒルムシロとフトヒルムシロは沈水葉の葉身が皮針形であることで区別できる。

主要文献

角野（1994），北村ほか（1964），大橋ほか編（2015），大久保（1999）
 （狩山俊悟・森定 伸）



撮影：狩山俊吾



リュウノヒゲモ

Potamogeton pectinatus L.

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育環境の悪化で、減少傾向である。備前市浦伊部では1993年を最後に見えなくなった。

存続を脅かす要因

水質汚濁，海岸開発，河川開発

分布状況

県内：南部（倉敷市）。県外：北海道～琉球に分布。

生育状況

湖沼，河川などに生育する沈水植物。海岸近くの水域に産することが多いが，内陸部にも時に見られる。水中茎は上部で盛んに分枝。沈水葉は針状で長さ5～15cm，幅0.3～1.3mm，1脈，全縁。葉の基部は托葉と合着して茎を抱き，長さ1～3cmの葉鞘となる。花期は7～9月。花茎は長さ5～20cm，花穂は長さ1.5～4cm，疎に花をつける。夏ごろより地下茎の先端に長さ4～8mmの塊茎を形成する。これが栄養繁殖ならびに越冬の手段となる。

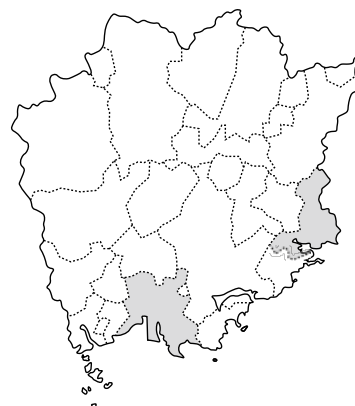
主要文献

榎本ほか（1995），角野（1994），環境庁自然保護局野生生物課（2000），狩山・榎本（1998，2001），小島ほか（2005），大橋ほか編（2015）

（小島裕子・森定 伸）



撮影：小島辰三



ツツイトモ

Potamogeton pusillus L.

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

元々分布量が多くなかった上に，海岸部やため池の整備に伴って生育が減少したため。

存続を脅かす要因

産地局限，水質汚濁，海岸開発，池沼開発

分布状況

県内：南部のため池に分布する。50年以上前に採取された標本があり，2017年に倉敷市内で再確認された。県外：北海道～九州に分布する。

生育状況

主に沿岸部の湖沼や河川，水路などに生育する繊細な多年生の沈水植物。葉は無柄，線形で長さ2～5cm，幅0.5～1mm，鋭頭。イトモに似るが，托葉の両側が合着して筒状になる。花茎は長さ1.5～2cm，花穂の長さ5～7mm，開花が進むと花は上下2段に離れる。果実はイトモよりもひとまわり小さく長さ1.2～2mm。秋に形成される殖芽はごく細く，長さ1.5～2cm。

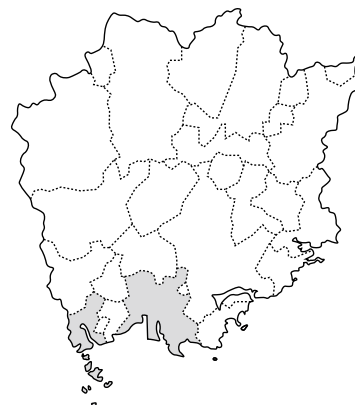
主要文献

角野（2014），大橋ほか編（2015），藪内（2018，2019）

（森定 伸）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



イトクズモ

Zannichellia palustris L.

被子植物 単子葉類 ヒルムシロ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育環境の悪化で、著しく減少している。

存続を脅かす要因

水質汚濁，河川開発，土地造成

分布状況

県内：南部の干拓地等に分布する。県外：北海道～琉球に分布。

生育状況

海岸沿いの湖沼，干拓地の水域などに生育する繊細な沈水植物。地中を這う地下茎から水中茎がのびる。葉は対生もしくは輪生状となり，無柄，線形で長さ2.5～7 cm，幅0.3～0.8mm。花は単性花，雄花と雌花が同じ葉腋に並んで付く。果実は三日月形。

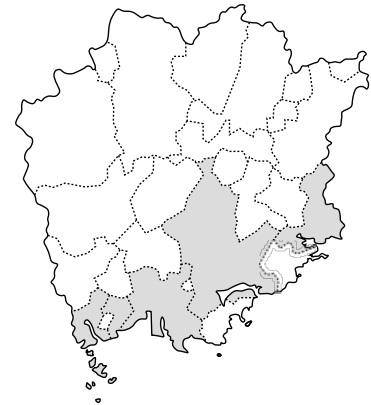
主要文献

榎本ほか(1995)，角野(1994)，環境庁自然保護局野生生物課(2000)，狩山・榎本(1998, 2001)，狩山ほか(2006)，小島ほか(2005)，大場・宮田(2007)，大橋ほか編(2015)

(小島裕子・森定 伸)



撮影：小島辰三



カワツルモ

Ruppia maritima L.

被子植物 単子葉類 カワツルモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育環境の悪化で激減している。

存続を脅かす要因

水質汚濁，海岸開発

分布状況

県内：南部に分布する。県外：北海道～琉球，小笠原に分布。

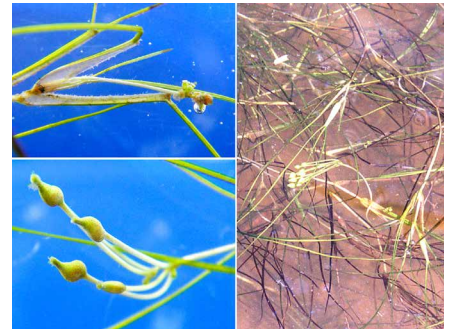
生育状況

海岸沿いの湖沼や塩田跡の水たまりなどに生育する多年生の沈水植物。茎も葉も極めて細い。葉は狭線形で長さ5～10cm，幅0.3～0.5mm，基部は長さ8～15mmの葉鞘となって茎を抱いている。春から秋まで，次々と花をつける。果実は左右非対象の卵球形で，長さ2～2.5mm，先は嘴状に突出する。

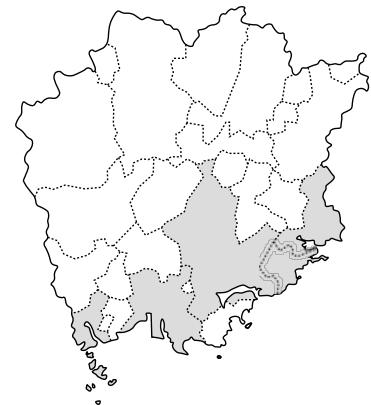
主要文献

榎本ほか(1995)，角野(1994)，環境庁自然保護局野生生物課(2000)，狩山・榎本(1998, 2001)，狩山ほか(2006)，狩山ほか(2008)，小島ほか(2005)，大場・宮田(2007)，大橋ほか編(2015)

(小島裕子・森定 伸)



撮影・所蔵者：小島辰三



ネバリノギラン

Aletris foliata (Maxim.) Bureau et Franch.

被子植物 単子葉類 キンコウカ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が局限されるが、具体的な生育状況が不明であるため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

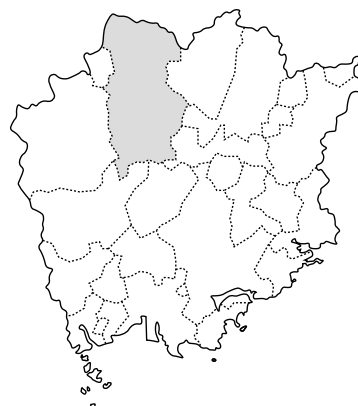
県内では北部山地に1カ所の記録があり、1959年に難波早苗が採集した標本1点が岡山県自然保護センターに保存されている。北海道（南西部）、本州、四国、九州に分布する。日本固有とされるが、朝鮮半島の種との異同について研究を要する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

温帯から寒温帯の草原に生じる多年草。外観が別属のノギランにやや似ているが、花茎や花被外面に粘る腺毛がある。県内では、1959年に採集されて以来、これ以外には現在まで具体的な生育地も生育情報も知られていない。今回の絶滅リスク判定基準に従えば、現時点では絶滅となるが、有力な生育候補地域が広範囲であるため、気付かれずに生き延びている可能性が期待される。



関係法令の指定状況

「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編（2015）

（山下 純）

ヒナノシャクジョウ

Burmattia championii Thwaites

被子植物 単子葉類 ヒナノシャクジョウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

これまでにわかっている県内の生育地は1カ所のみで、そこでの個体数は10数株しかない。伐採などにより生育環境が変わるとただちに絶滅する恐れがある。また小さい植物なので気づかずに踏みつけられてしまう可能性がある。わずかに水の流れのある真砂土がたまり積した場所に生え、大雨によって土砂が流れ込むと生育場所が埋もれてしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、踏みつけ、自然災害

分布状況

山のやや湿り気のある樹林下に生育する。国内では本州（関東以西）、四国、九州、沖縄島に分布し、林下の落ち葉の中に生える。



撮影：岡本泰典

生育状況

高さ3～15cmになる菌従属栄養多年草。茎は直立し、白色、まばらに鱗片葉をつける。花期は8～10月。花は茎頂に2～10個が頭状に集まる。花被片は6個、基部が筒状に合着する。外花被片は3個、三角形で直立し、内花被片は3個、さじ形で小さい。

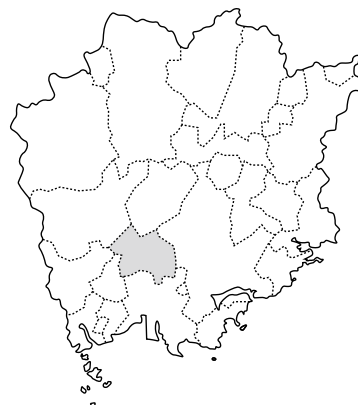
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟・岡本泰典）



ウチワドコロ*Dioscorea nipponica* Makino

被子植物 単子葉類 ヤマノイモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

本種の国内における分布の西限地域に近く、県内では生育地が局限され、集団規模も小さいが、概ね安定的に存続していると思われるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移

分布状況

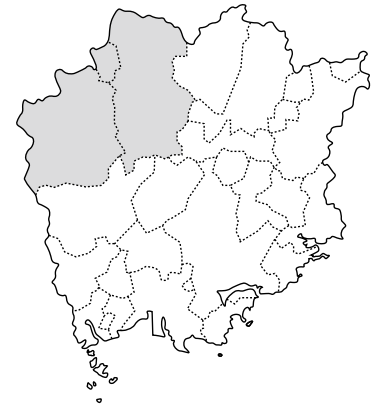
県内では、北部の約4カ所で記録されている。国内では、北海道、本州に分布する。温帯に多く、西日本での分布は少ない。国外では、ロシア（アムール・ウスリー）、朝鮮半島、中国に分布する。



撮影：山下 純

生育状況

主として山地帯に生える、雌雄異株で夏緑性の多年生蔓植物。温帯（冷温帯）の草原や林縁に生じる。地上茎は左に巡回して物に巻き付く。葉は互生、葉身はふつう掌状に浅裂する。葉裏脈上のほか、葉縁にも微細な刺状毛が生じることにより、花や実が無くとも同属の他種から見分けられる。また、根茎が直径1cm程度の長い円柱状であることも特徴である。雄花はやや倒卵形で、花被片の先は内曲する。果実は3翼のある倒卵形で、偏平な種子の片側に膜質の翼が発達する。県内では北部山地の林縁や溪谷沿いの林床に生じている。暗い場所では殆ど開花しないので、長く這って分枝する根茎で栄養繁殖するほかなくなる。

**主要文献**

Yamashita and Tamura (2016)

(山下 純)

ホンゴウソウ*Sciaphila nana* Blume

被子植物 単子葉類 ホンゴウソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

遷移の進んだ安定した森林の落葉が堆積した場所に生育する多年生の菌従属植物。確認例が少なく、わずかな環境変化で絶滅する可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地極限

分布状況

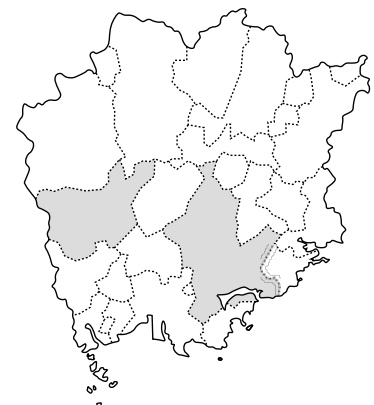
本州、四国、九州に稀に産する。東南アジアにも分布する。



撮影：波田善夫

生育状況

多年生の腐生植物で地上茎の高さは3～8cm、茎は赤紫色を帯び、太さ0.5mm以下で極めて繊細。地下に白色の根茎がある。葉は鱗片状で長さ1.5mm。0.5～2cmの総状花序をつける。花序の下部に雌花、上部に押す花がつく。雌花の直径は1mm、花柄は2mm。果実は倒卵形、長さ0.7mmであつまって径1.5～2mmの集合果となる。種子はだ円形で1/3mm。花季は7～8月。落葉の間や葉を分解して穴をあけて茎をのぼす。

**関係法令の指定状況・特記事項**

もともと稀な植物ではあるが、落ち葉の中に生育しており目立たない小さな植物であるので、きわめて見つかりにくい。自然公園法による瀬戸内海国立公園並びに氷ノ山後山那岐山国立公園の指定植物である。

主要文献

狩山 (2000), 小橋 (2005), 大橋ほか編 (2015), 山尾・波田 (2008)
(波田善夫)

ヒメナベワリ

Croomia japonica Miq.

被子植物 単子葉類 バイクブ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内に知られる産地は数カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採

分布状況

県内：南東部の丘陵低地。県外：本州（広島県・山口県），四国，九州，奄美諸島に分布する。

生育状況

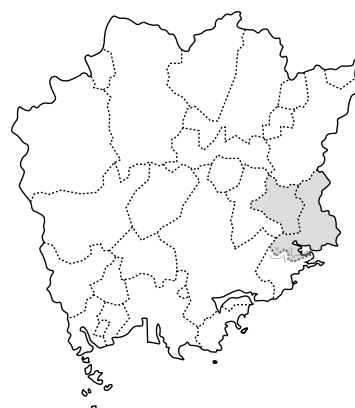
根茎は匍匐し，その先端に地上茎が出て毎年更新する。地上茎の下部は直立し，上部は横に寝て葉を互生する。葉は卵状楕円形，基部はほぼ円形から浅心形，掌状脈，葉縁は波状に縮れる。花柄は葉腋から長く下垂して花は下向きに咲く。花被片は4枚，ほぼ同形同大，やや反曲し，内面には微細な乳頭状突起がある。葉に光沢があり，花被片が同形である点で，同属のナベワリとは異なる。

主要文献

北村ほか編(1964), 牧野(2008), 大橋ほか編(2015), 大井(1992)
((山下 純・森定 伸))



撮影：斎藤彰男，地職 恵



オオウバユリ

Cardiocrinum cordatum (Thunb.) Makino var. *glehnii* (F.Schmidt) H.Hara

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

本変種の分布南西限に近く，県内では生育地が少ないが，安定的に存続していると見られるため。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，食害

分布状況

県内では，北部山地に分布する。県外では，南千島，北海道，本州（北部～中部），サハリンに分布する。本州西部では少ない。

生育状況

基準変種のウバユリが暖温帯でも見られるのに対し，オオウバユリは多雪地や北方に多い。ウバユリに比べて全体大形，花数が多い（10～20）のが特徴であるが，変異が連続し，明確な線引きは難しい。

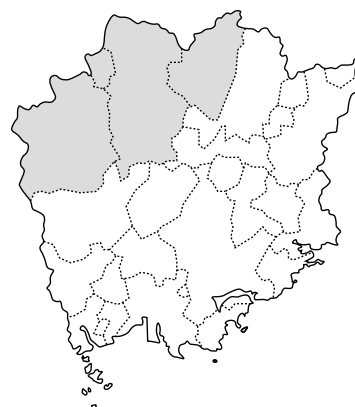
主要文献

大橋ほか編(2015)

(山下 純)



撮影：狩山俊悟



ホンバナコバイモ*Fritillaria amabilis* Koidz.

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

生育地は比較的多く、今のところ減少傾向はないが、日本固有種で、分布域も限られ、岡山県集団を保全する意義が高いため。

存続を脅かす要因

産地局限、管理放棄、植生遷移、採集圧

分布状況

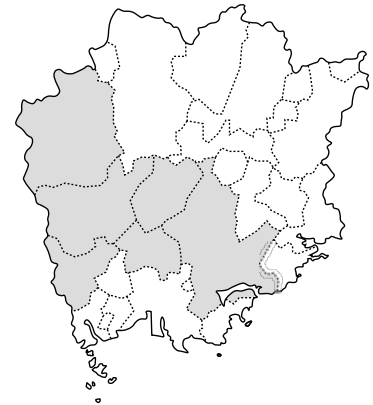
岡山県は本種の分布東限に近く、県内では中西部を中心に20カ所あまりから記録されている。国内では、本州（兵庫県以西）、九州（北部・中部）に分布し、希。日本固有種。



撮影：山下 純

生育状況

3～4月に花を開き、夏には地下の鱗茎で休眠する多年草。開花する茎は、上部に1対、その上に3輪生の葉を着ける。花は1個で鐘状筒形。花被片の基部内面から上方にかけて腺があり、花被片は基部で外側に張り出す。葯は黄白色。県内では、タバコやブドウの栽培で落ち葉が利用される石灰岩地の明るい二次林床や、低丘陵の農耕地に面した明るい林縁や路傍など草刈り管理がされる場所に生じる。植生遷移の影響を受けやすく、農耕などによって維持管理されてきた半自然環境が生育地として重要である。環境が暗くなるとサイズが小さくなり、開花に到らず衰退する。

**主要文献**

大橋ほか編 (2015)

(山下 純)

ミノコバイモ*Fritillaria japonica* Miq.

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

日本固有種で、岡山県は本種の分布西限にあたり、県内の生育地は環境変化に留意する必要があるため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移、採集圧

分布状況

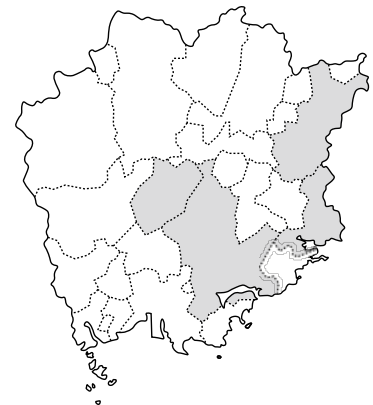
県内では中部、東部に10カ所程度が記録されており、本種の分布西限にあたる。国内では、本州（石川県、岐阜県、愛知県～岡山県）に分布し、希。日本固有種。



撮影：山下 純

生育状況

3月下旬～4月頃に花を開き、夏には地下の鱗茎で休眠する多年草。開花する茎は、上部に1対、その上に3輪生の葉を着ける。花は1個で広鐘形。花被片内面の基部から1/3ほどの所に腺があり、その部分で花被片が外側に角張る。葯は黄白色。県内では、低丘陵の草刈り管理がされる路傍斜面などに生じる。植生遷移の影響を受けやすく、農耕などによって維持管理されてきた半自然環境が生育地として重要である。環境が暗くなるとサイズが小さくなり、開花に到らず衰退する。

**主要文献**

大橋ほか編 (2015)

(山下 純)

ヒメユリ

Lilium concolor Salisb.

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

県内では生育地が少なく、集団の規模も小さく、いずれの場所でも減少傾向が強いため。

存続を脅かす要因

管理放棄、植生遷移、採集圧

分布状況

県内では北部を中心に南部まで点々と知られる。国内では、本州、四国、九州に分布し、やや希。国外では、朝鮮、中国、アムールに分布する。

生育状況

夏緑性の多年草。6～8月、茎の上部に1～15個程度の花を上向きに咲かせる。花被片は濃朱色、内面に濃赤褐色の斑点がある。無性芽は生じない。県内では、主に石灰岩台地や蛇紋岩地における半自然草地に生じる。新見市と高梁市北部以外では現存が確認できない。現存が確認されている自生地の中は、草地を管理する土地所有者によって半自然的に維持されている。しかし、しだいに管理者の高齢化が進み、広面積の管理が難しくなっている。管理されない場所では遷移が進み、被陰によって開花しなくなり、減少傾向にある。一部の管理者によって種子繁殖技術が確立されており、増殖が試みられている。

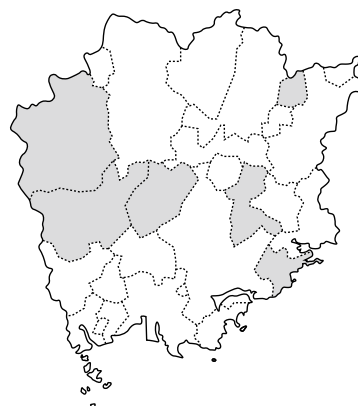
主要文献

大橋ほか編（2015）

（山下 純）



撮影：山下 純



ホンバノアマナ

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では50年以上生育が再確認されないため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移

分布状況

県内では東部に1カ所の記録があり、難波早苗が1960年に採集した標本が、岡山大学と岡山県自然保護センターに保存されている。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する。国外では、朝鮮、中国（北東部）、ウスリー、サハリン、千島（パラムシル島以北）、カムチャッカに分布する。

生育状況

山地の草原に生じる多年草。同属のチシマアマナとは、花茎に花を1～5個（チシマアマナは1個）着け、花被片に腺体が無いことで異なる。県内では、1960年に記録されて以降は生育が確認されおらず、絶滅と判断した。

関係法令の指定状況

「自然保護法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

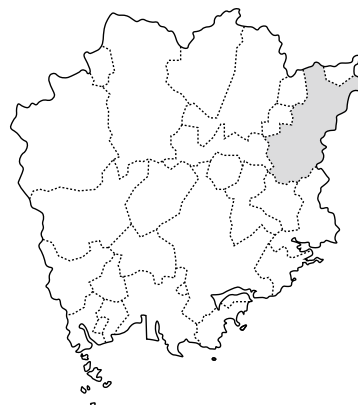
主要文献

大橋ほか編（2015）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟



タマガワホトトギス

Tricyrtis latifolia Maxim.

被子植物 単子葉類 ユリ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では産地が局限され、個体数も少ないと考えられるが、古い生育情報しか無く、現状が確認できないため。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, 採集圧

分布状況

県内では北部山地に数カ所の記録がある。国内では、本州、四国、九州に分布する。国外では、中国に分布する。

生育状況

主に温帯で水分の多いところなどに生える。夏緑性の多年草。茎や葉はほぼ無毛。葉の基部は心形で茎を抱く。花は7～9月、茎頂と上部の葉腋に散房状に咲き、花は上向き、花被片は黄色を基調とし、斜開し、平開も反曲もしない。県内産の標本は、難波早苗による1960年代のものがあるが、他には確認できていない。

関係法令の指定状況

「自然公園法」における大山隠岐国立公園の指定植物である。

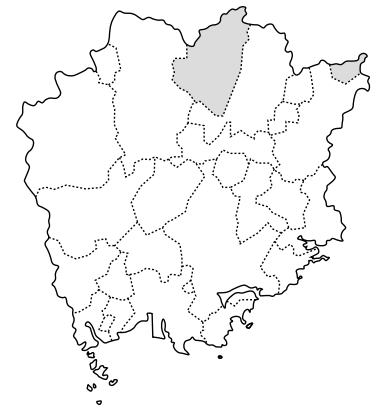
主要文献

大橋ほか編 (2015)

(山下 純)



撮影：山下 純



ヒナラン

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

岡山県内では、南部から北部まで、広い範囲に点在して生育するが、園芸目的での採取が後を絶たず、消失してしまった生育地もある。また溪谷の岩場に生えることから、落石防止のための工事なども減少の要因となる。減少の一途をたどっており、希にしか目にしない。

存続を脅かす要因

道路工事, 業者・マニア採取 (園芸採取), その他 (落石防止工事)

分布状況

県内では南部から北部まで広く分布し、陽地から半日陰までの山地の岩上、河川の崖地・岩壁に生育する。県外では本州 (茨城県・栃木県・静岡県以西)、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ5～15cmの多年草で、やや斜めに立つ。葉は長楕円形、茎の下部に1枚つき、基部は茎を抱く。花期は6～7月。淡紅色の小さな花が一方に偏ってつく。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

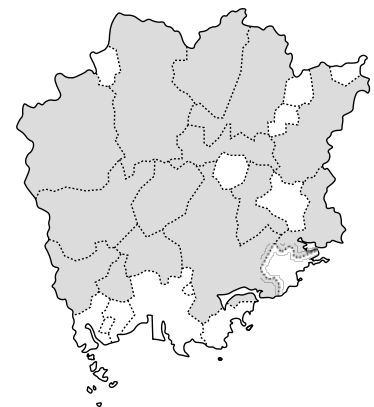
主要文献

北村ほか (1964), 中原・羽賀 (1983), 大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(地職 恵)



撮影：地職 恵



シラン

Bletilla striata (Thunb.) Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

瀬戸内丘陵のアカマツ林やササ草原の湿った場所に生育していたが、しだいに湿地が乾燥して姿を消した集団がある。また、道路工事のため排水がよくなって絶滅した集団もある。

存続を脅かす要因

湿地開発, 道路工事, 業者・マニア採取, 自然遷移

分布状況

岡山県では吉備高原以南に分布し、日当たりのよい湿地や川岸に生える。国内では本州（福島県以南）、四国、九州に分布し、日当たりのよい湿り気のある斜面に生える。



撮影：浅井幹夫

生育状況

高さ30～70cmになる多年草。葉は長だ円形から皮針形、長さ15～30cm、硬い草質で縦にしわがある。花期は4～5月。花は花茎の先に3～7個が総状につき、紅紫色とときに白色。がく片と側花弁は狭長だ円形、長さ25～30mm、唇弁はくさび状倒卵形で花被片とほぼ同長。果実は長だ円形、長さ30～35mm。

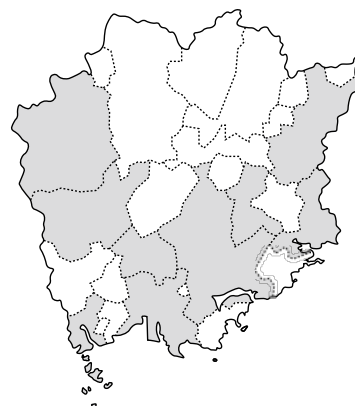
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



マメツタラン

Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

小さい植物なので気づかれずに工事等で失われていることがある。園芸目的の採取も絶えない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 道路工事

分布状況

岡山県中部に点在し、山地の岩上に生える。自生地では本種がしばしばマット状に広がっている。国内では本州（福島県以南）、四国、九州、琉球に分布し、山地の樹幹または岩上に着生する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

着生する常緑の多年草。根茎は細長くはい、まばらに葉をつける。葉は革質で、だ円形または卵円形、長さ7～13mm、円頭、基部はほぼ無柄。花茎は葉の基部から出て糸状、長さ7～10mm。花は淡黄色、6月ごろ咲き、花茎の先に1花がつく。がく片は3個、ほぼ同大で広皮針形、長さ7～8mm。花弁は無毛、長だ円形、長さはがく片の3分の1程度。唇弁は広皮針形、がく片より短く、外曲する。

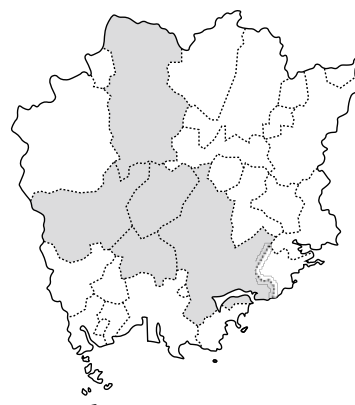
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1964）大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



ムギラン*Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

小さい植物なので気づかれずに工事等で失われていることがある。園芸目的の採取も絶えない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取，森林伐採，ダム建設

分布状況

岡山県中部に点在し，山地や溪谷の岩上に着生する。国内では本州（宮城県以南），四国，九州に分布し，常緑樹林などの林内樹上や岩上に着生する。

生育状況

着生する常緑の多年草。根茎は横にはい，まばらに偽球をつける。葉は肉質で厚く，倒皮針形または長だ円形，長さ1～3.5cm，円頭。花茎は偽球の基部から出て，長さ6mm。花は帯黄白色，6月ごろ咲き，花茎の先に1～3花がつく。がく片は3個，卵状だ円形で長さ3～3.5mm，中片は少し短い。花弁は中がく片とほぼ同長。唇弁はやや小型で厚く，狭卵形，先は反曲する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園，大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

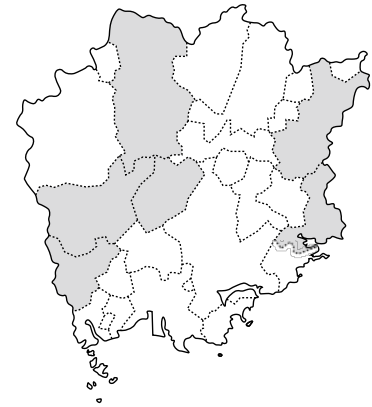
主要文献

北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：斎藤彰男

**エビネ***Calanthe discolor* Lindl.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

おもに園芸・販売目的の採取により激減した。現在残っている生育地の多くは個体数が少なく，採集圧にさらされたり，生育環境が悪化したりすれば，消滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取，森林伐採，土地造成

分布状況

岡山県内では全域で記録があるが，個体数は多くはない。県外では北海道（西南部），本州，四国，九州，琉球まで分布する。

生育状況

雑木林の林床などに生える多年草。葉は2～3枚根生し，長さ15～30cm，幅4～8cm，無毛で先は尖る。花は4～5月，葉の展葉と同時に20～50cmの花茎を出し，多数の花を総状につける。ふつうがく片3個と側花弁2個は褐紫色で唇弁が淡紅白色だが，花の色は変異が大きく，多くの品種がある。和名は球状の偽球茎が横に連なった様子を見立てたもの。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

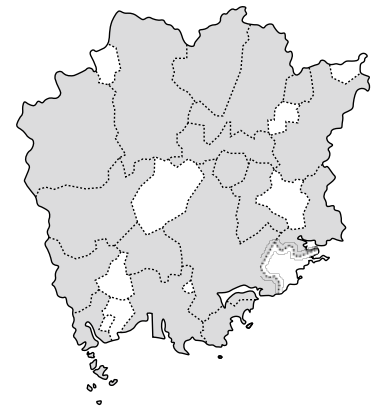
主要文献

畔上（1996），北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（片岡博行）



撮影：片岡博行



キンセイラン

Calanthe nipponica Makino

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県北部の夏緑樹林下で溪流脇の湿り気のある生育地が、森林の伐採によって植林に換わったために少なくなったこと、また個体が採取され急激に減少した。現状では保護下にあるが、盗掘や気候変動などの影響が引き続き危惧される。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取、その他（気候変動）

分布状況

新庄村などの県北部の夏緑樹林内に生育する。盗掘や森林伐採などにより、希になった。県外では北海道、本州、四国、九州（宮崎県）に分布する。

生育状況

山地の夏緑広葉樹林の明るい林内や林縁に生える多年草。手入れされた植林内にも見られる。根茎は短い。葉は3～5個、広披針形で、長さ15～30cm。花茎は高さ30～50cm、まばらに淡黄色の花を5～12個つける。がく片は3枚で黄緑色。花弁は、2枚の側花弁と1枚の唇弁からなり、唇弁はがく片と同長で、暗紫色の基部より急に広がって白色となり、3裂し、側裂片は左右に張り出し、中裂片は4角に近い楕円形で、先端はとがり、縁は波をうち、中央にとさか状のひだが3条ある。花期は6～7月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

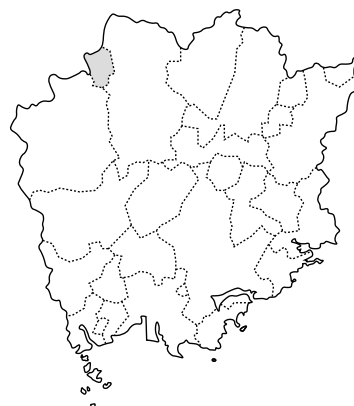
主要文献

大橋ほか編（2015）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：難波靖司



ナツエビネ

Calanthe puberula Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) Hiroe

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

おもに園芸・販売目的の採取により減少。もともと個体数が少ない植物であり、採集や生育環境の悪化により絶滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採、林相変化（針葉樹林転換）

分布状況

岡山県内ではおもに北部の中国山地の夏緑広葉樹林下に希に生育。県外では本州、四国、九州に分布。

生育状況

山地の湿り気のある夏緑広葉樹林下に生える多年草。葉は3～5枚が根生し、長さ10～30cm、幅3～8cmの狭長楕円形、先は尖る。花は7～8月、高さ20～40cmの花茎を出し、10～20個の淡紫色の花をまばらな総状につける。花茎の上部は子房とともに短毛がある。がく片は長さ13～20mm、先が尖り、中片は狭卵形、側片は斜卵形で花時には反り返る。花には距がなく、側花弁は細く弓状に曲がり、唇弁は長さ約1.5cm、3深裂する。

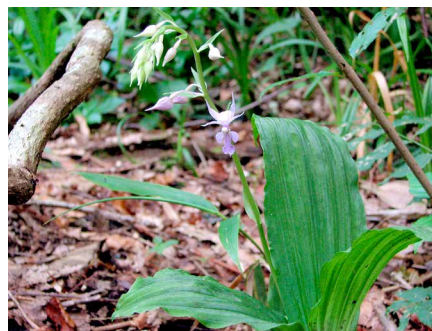
関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

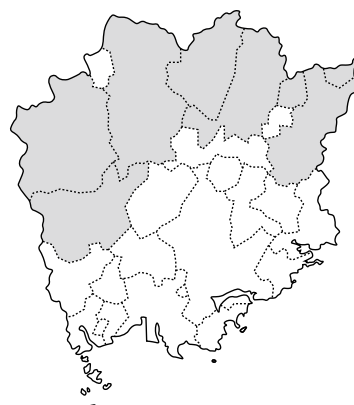
主要文献

畔上（1996）、北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（片岡博行）



撮影：片岡博行



キエビネ

Calanthe striata R.Br.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

おもに園芸・販売目的の採取により減少。自然条件下での生育個体数は少なく、採集や生育環境の悪化により消滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 森林伐採, その他 (近縁種との交雑 (エビネ))

分布状況

岡山県内では新見市, 岡山市でわずかに記録があるのみ。県外では本州 (静岡県以西), 四国, 九州に分布。

生育状況

暖地の樹林下に生える多年草。エビネに似ているが, 全体に大型で…で花は鮮黄色, 唇弁の中裂片が2裂しない点異なる。葉は2~3枚根生し, 長さ20~30cm, 幅5~10cm。花は4~5月, 30~50cmの花茎に10個前後の花をまばらな総状につける。がく片は卵状長楕円形, 長さ22~34mm, 幅7~13mmあり, エビネより大きい。花の距はがく片より短い。エビネとの間にタカネ (タカネエビネ/ソノエビネ *C. × striata*) という雑種を生じる。

関係法令の指定状況

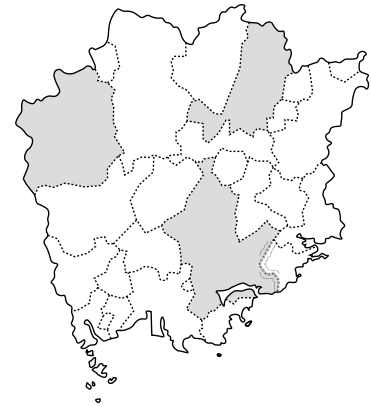
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

畔上 (1996), 林 (1983), 林 (1989), 北村ほか (1964), 大橋ほか編 (2015) (片岡博行)



撮影：地職 恵



サルメンエビネ

Calanthe tricarinata Lindl.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内における自生地はきわめて限定されており, 園芸目的の採取, 常緑針葉樹の植林による生育環境の悪化により減少しつつある。

存続を脅かす要因

産地局限, 業者・マニア採取, 森林伐採, 林相変化 (針葉樹林転換)

分布状況

県内では, 真庭市のごく限られた地域にのみ分布する。県外では北海道, 本州, 四国, 九州に分布。

生育状況

ブナ帯の夏緑広葉樹林下に生える多年草。葉は2~4枚根生し, 長さ15~40cm, 幅3~8cmの倒卵状狭長楕円形で無毛, 先は尖る。花は5~6月, 高さ30~50cmの花茎に7~15花をまばらな総状につける。がく片, 側花弁は黄緑色。唇弁は紫褐色~朱紅褐色を帯び, 下垂してがく片と同長, 3裂する。側裂片は小さく, 中央裂片は大きくてふちが縮れ, 中央に3個のとさか状突起がある。花に距はない。和名は唇弁が赤みを帯びてしわがある様子を猿の顔に例えたもの。

関係法令の指定状況

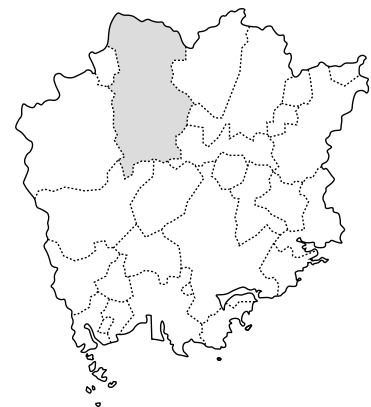
「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

畔上 (1996), 北村ほか (1964), 大橋ほか編 (2015) (片岡博行)



撮影：片岡博行



ギンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地のひとつである雑木林の管理停止により遷移が進行し、生育環境が悪化。加えて園芸目的の採取により減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄、業者・マニア採取、土地造成

分布状況

岡山県内ではほぼ全域に分布するが、各生育地における個体数は少ない。県外では北海道から九州まで全国的に分布。

生育状況

山野の林内に生える多年草。同属のキンランやササバギンランよりやや小型で、茎は高さ10～30cmで無毛。葉は3～6枚が互生し、長さ3～8cm、幅1～4cmの狭長楕円形、鋭尖頭で無毛、基部は茎を抱く。花は5～6月、茎頂に5～10個の白色の花をつける。花は長さ1cmほどで半開し、平開することはない。がく片は長さ7～9mmの披針形、唇弁は3裂し、側花弁は広披針形でがく片よりやや短い。唇弁の基部は短い距となり、花の外に突き出す。

関係法令の指定状況

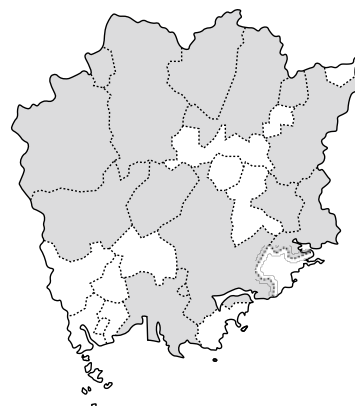
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

畔上(1996)、林(1983)、林(1989)、北村ほか(1964)、大橋ほか編(2015) (片岡博行)



撮影：片岡博行



ユウシュンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地、個体数ともに僅かで、隣接地の森林への干渉や開発など、多少の影響に関わらず絶滅要因となりかねない。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、道路工事

分布状況

北海道から九州まで分布するが自生地は少ないようである。県内でも北部山地に分布するが極めて希である。

生育状況

山の疎林や林縁の腐葉の中に生える多年草。ギンランに似ているが、葉は退化して鱗片状やさや状になっているか、あっても長さ2cm以下で緑色も薄い。花の数も少なく、淡いクリーム色を帯びた冴えない白で、見るからに弱々しくすぐにも消えてしまいそうな植物である。高さはおよそ15cm以下で、花期は5月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

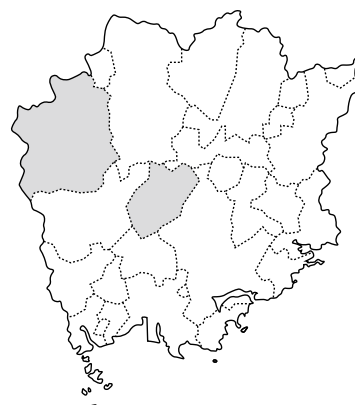
主要文献

北村ほか(1964)、大橋ほか編(2015)

(難波靖司)



撮影：三好 薫



キンラン*Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

おもな生育地である雑木林の管理停止により遷移が進行し、生育環境が悪化。加えて園芸目的の採取により減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄、業者・マニア採取、土地造成

分布状況

岡山県内ではほぼ全域に分布するが、各生育地における個体数は少ない。県外では本州、四国、九州に広く分布。

生育状況

日当たりの良い夏緑広葉樹林内に生える多年草。茎は直立して30～70cm、稜条がある。葉は5～10枚が互生し、長さ8～15cm、幅2～4.5cmの広披針形で先端は尖り無毛、基部は茎を抱く。花は4～6月、茎頂に3～12個の鮮黄色の花をつける。花は長さ1.5cmほどで半開し、平開することはない。がく片は長さ14～17mmの卵状長楕円形、鈍頭。唇弁は3裂し、側花弁は卵形でがく片よりやや短い。中裂片は円心形で内面に黄褐色の肥厚した隆起線が数本ある。

関係法令の指定状況

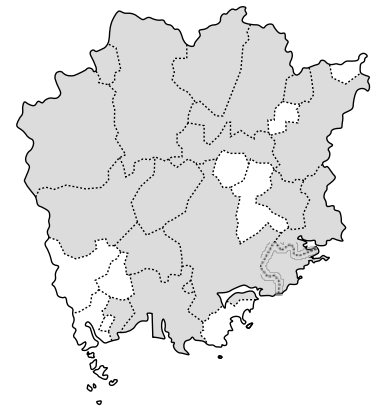
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

畔上(1996)、林(1983)、林(1989)、北村ほか(1964)、大橋ほか編(2015) (片岡博行)



撮影：片岡博行

**ササバギンラン***Cephalanthera longibracteata* Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと集団数、個体数ともに少ないうえに、園芸目的と思われる採取が絶えない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採

分布状況

岡山県中部、北部にあり、山地高所の樹下に希に生育する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、山の木陰に生える。

生育状況

高さ30～50cmになる多年草。茎は直立、やや細く、6～8葉をつける。葉は長だ円状皮針形または線状皮針形で、長さ7～15cm、幅1.5～3cm、基部は茎を抱き、下面とふちに白色の短毛状突起をつける。花は白色、5～6月に咲き、花序に数花がまばらにつく。花序は有毛、苞は線形で下部の1～2個は花序よりも長い。がく片は皮針形、長さ11～12mm、花弁は少し短くて幅が広い。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

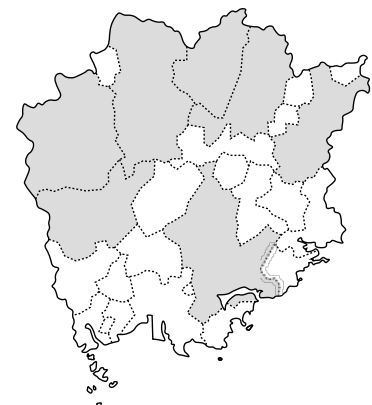
主要文献

北村ほか(1964)、大橋ほか編(2015)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



クゲヌマラン

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地が県南部と中部にわずかに知られるだけで、個体数も多くない。県中部の道路沿いの林縁に生えている集団は、道路の拡幅工事や草刈り、土砂崩れなどの影響で消滅することが懸念される。

存続を脅かす要因

道路工事，自然災害，その他（草刈り・除草）

分布状況

岡山県南部の集団は埋立地にある緑地の樹下にあり，狭い範囲に数十株が生えている。埋立地であることから植栽木とともに移入された可能性がある（神奈川県植物誌調査会編，2018）。一方，岡山県中部の集団は山地の道路沿いの林縁・草むらにあり，まばらに数十株が生えている。国内では北海道，本州，四国，九州に分布する。

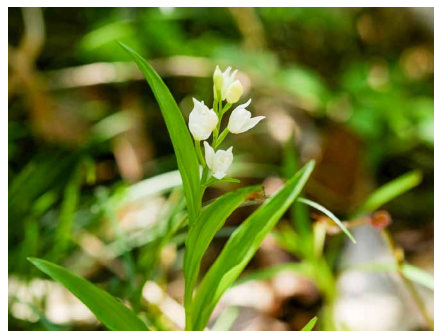
生育状況

高さ20～40cmになる多年草。葉は互生し，無毛。花期は4月下旬～5月。花は白色，茎頂に10個ほどつく。唇弁は基部の距が短く，わずかしが突出しない。同属のギンランとササバギンランは唇弁基部の距が明らかに突出することでクゲヌマランと区別できる。

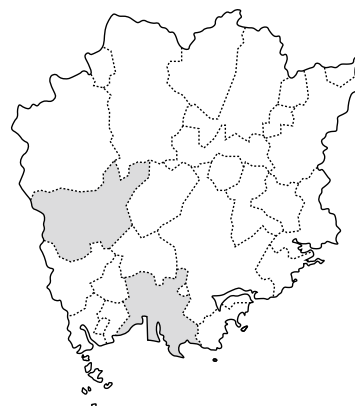
主要文献

神奈川県植物誌調査会編（2018），北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟・高原千春）



撮影：高原千春



ヒメノヤガラ

Chamaegastrodia sikokiana Makino et F.Maek.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

確認されている生育地は1地域の2カ所。地下で菌類と共生し栄養を得ている菌従属栄養植物のため，その生育は安定していない。森林伐採などの，少しの環境変化でも容易に絶滅してしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

踏みつけ，森林伐採，産地局限，その他（登山道の改修）

分布状況

岡山県内ではごく限られた地域に生育する。自然度の高い樹林下の，落ち葉がたまった腐植質の林床に点在して生える。咲いていても，茎や花の色は落ち葉の色に溶け込んで，見つけにくい。前年と同じ場所に出るとは限らず，出現数も変動する。県外では本州（岩手県以南），四国，九州，屋久島に分布する。

生育状況

茎は直立し，高さ5～12cm，淡橙色～淡紅色をしているが，地下部は白く，4～10mmの白い薄膜質の鱗片葉が互生する。花期は7～8月。茎と同じ色の2～2.5cmの穂状花序となり，5～10花をつけ，下部は袋状にふくれる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

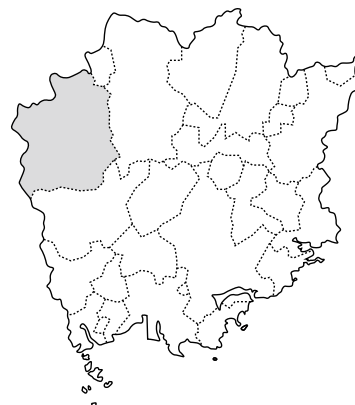
主要文献

林（1989），北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



トケンラン*Cremastra unguiculata* (Finet) Finet

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内ではごく限られた地域でのみ記録されており、非常に希である。生育環境が悪化すれば、絶滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限, 業者・マニア採取, 森林伐採

分布状況

県内では真庭市北部と新庄村, 新見市で採集された標本がある。県外では北海道, 本州, 四国に分布。国外では韓国(済州島), 中国に分布。

生育状況

山地の夏緑広葉樹林下に生える多年草。葉は1~2枚が球形の偽球茎に頂生し, 長さ10~12cm, 幅3~5cmの長楕円形, 先はとがり, 無毛。しばしば紫斑点がある。花は5~6月, 高さ25~40cmの細い花茎の先に数個~12個の花をまばらにつける。がく片は線状倒披針形, 側花弁は線形, とともに鋭頭で黄褐色の地に紫の斑がある。唇弁は白色で暗紫色の斑があり線形, 3裂する。側裂片は長さ約2mmで直立し披針形, 中裂片は長さ約5mmで倒卵形, 円頭で縁が波状。

関係法令の指定状況

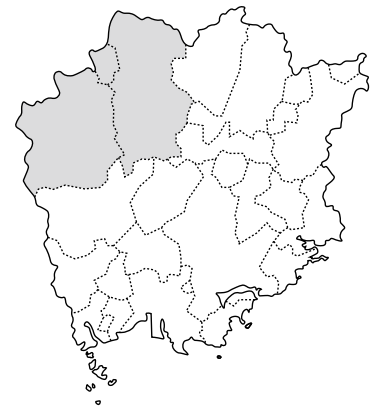
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか(1964), 大橋ほか編(2015) (片岡博行)



撮影：狩山俊悟

**マヤラン***Cymbidium macrorhizon* Lindl.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では1カ所の自生地が知られるのみで, 個体数もごくわずかである。夏緑広葉樹を主とした自然林内に生えるが, 歩道脇にあり, 花がない時期には気づかずに踏みつけてしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 踏みつけ, 業者・マニア採取, 森林伐採

分布状況

岡山県では新見市の1カ所にのみ生育が知られ, 2003年に5株, 2004年に3株程度が確認されている。国内では本州(関東以西), 四国, 九州, 琉球に分布し, 山林内に生える。

生育状況

高さ10~30cmになる多年草。緑葉をもたない菌従属栄養植物。地下茎は地中を長くはう。地上茎は直立, 多少微毛があって, 下部に数個の鱗片葉がある。花期は7~8月。花は茎頂に2~6個つき, 白色で紅紫色を帯びる。がく片は倒披針形, 長さ20mm, 鋭頭。花弁は狭長だ円形, がく片より少し短い。唇弁は長だ円形, 長さ15mm。

関係法令の指定状況

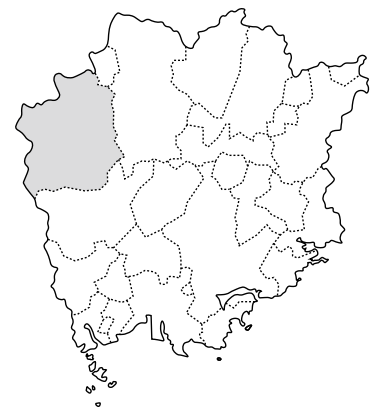
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか(1964), 大橋ほか編(2015) (狩山俊悟)



撮影：谷口啓一



クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

自生地が限られており、山草マニアによって絶滅に追い込まれている。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、管理放棄

分布状況

北海道(西南部)、本州、四国、九州。生育地では群生の状態であるが、自生地が少ない。岡山県では、中部、北部に数カ所の群生地がある。近年、移植されたりして自生地が増えているが、もともとの群生地は少ない。

生育状況

山地の林内に生える多年草で、自生地では群生している。特にスギ林や竹林に多い。茎は直立し、高さ20～40cm。根茎は横に伸び、3～4年に1本の割で株が増える。葉は2個対生、下部は鞘状で茎をまき、上部は扇状円形、直径10～20cmある。花期は4～5月頃、茎頂に1個下垂してつくが、花の形が変わっていて袋状唇弁の大型の花で、この花が熊谷次郎直実の母衣に似ていることが和名の由来である。

関係法令の指定状況

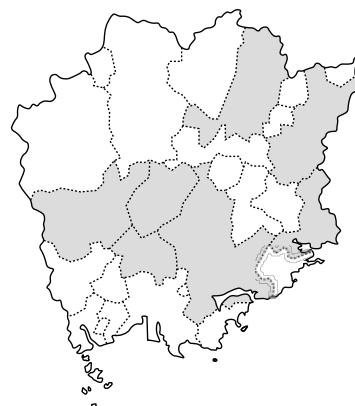
「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

狩山・榎本(1998, 2001), 難波(1993), 大久保(1999)
(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ツチアケビ

Cyrtosia septentrionalis (Rchb.f.) Garay

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数は少なくないが、いずれの集団でも個体数はわずかで、森林伐採などのちょっとした環境変化でも絶滅の恐れがある。

存続を脅かす要因

森林伐採、管理放棄

分布状況

岡山県に広く点在するが、南部ではごく希。山地の樹下に生える。北海道(南部)、本州、四国、九州に分布し、山の木陰に生える。

生育状況

高さ40～90cmになる多年草。緑葉をもたない腐生植物。地下茎は横に長くはう。茎は直立、太くてかたく、上部は分枝して褐色の短毛をつける。葉は鱗片状となり、3角形、背面がふくらむ。花は黄褐色、6～7月に咲き、径約2.5cm、複総状花序に多数花をつける。がく片は長だ円形、長さ15～20mm。花弁はほぼ同形でやや短い。唇弁は広卵形、内面に突起をもつとさか状の線条があり、ふちは細裂する。果実は肉質で狭長だ円形、長さ6～8cm、赤熟して下垂する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

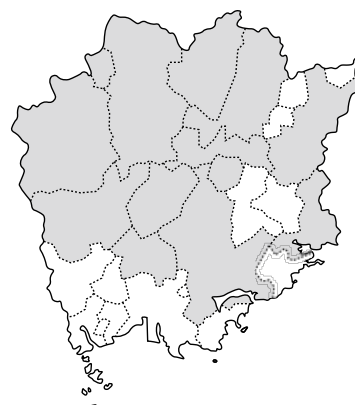
主要文献

北村ほか(1964), 大橋ほか編(2015)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



イチヨウラン*Dactylosteinia ringens* Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内に知られる産地は数カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

県内：北部の山地。温帯林床。県外：南千島，北海道，本州，四国，九州，サハリン。

生育状況

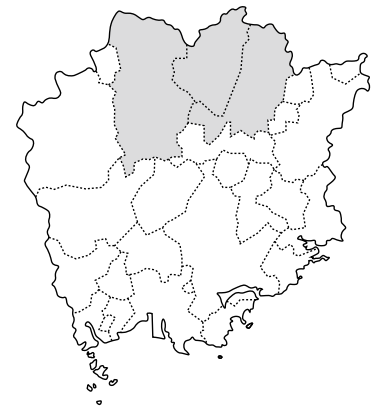
針葉樹林帯に生じることが多いが，県内ではブナ帯以下に生じる。葉は根茎の先端に1個着き，柄は1～2cm，葉身は卵形～広卵形，長さ3～6cm。花茎は側生し，高さ10～20cm，花を1個頂生する。外花被片と側花弁は淡緑色，倒披針形～線状披針形，長さ20～25mm，唇弁は卵形，3裂し，白色で紫斑がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献北村ほか（1964），牧野（2008），大橋ほか編（2015），大井（1992）
（山下 純）

撮影：狩山俊悟

**セッコク***Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岩上や樹上に着生するラン科の絶滅危惧植物は，採取の上で危険が伴わないものは全て取りつくされているのではと考えられる。到達不可能な場所での存続が望まれるが，調査の目も届きにくく，十分な状況把握がなされていない点に注意したい。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取，道路工事，森林伐採，土地造成

分布状況

本州，四国，九州，琉球（吐噶喇列島以北）。岡山県では北部，中部でわずかに自生している。

生育状況

岩上や樹上に着生する常緑の多年草。高さ10～30cm。茎は円柱形で束生し，節間が1.5～3cmある。古い茎には葉はつかず，葉の落ちた節から細い花茎を出し，花を1～2個つける。葉は革質，披針形で数個が互生する。花期は5～6月頃，白色またはわずかに淡紅色を帯びた唇弁花で，つよい芳香がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

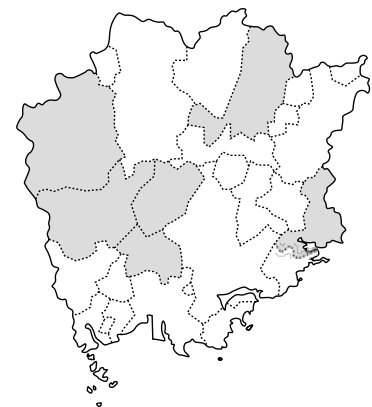
主要文献

大橋ほか編（2015）

（難波靖司）



撮影：難波靖司



エゾスズラン

Epipactis papillosa Franch. et Sav.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともにごくわずかである。園芸目的での採取のほか、森林施業の変化により、個体数が減少している可能性がある。新見市の自生地では最近姿を見ないので、絶滅したかもしれない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、産地局限、森林伐採、管理放棄、自然遷移

分布状況

岡山県中部、北部にあり、二次林林下に希に生える。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の林下に生える。

生育状況

高さ30～70cmになる多年草。茎は直立、花序とともに褐色の短毛があり、5～7葉をつける。葉はだ円状卵形または広皮針形で、長さ7～12cm、幅2～4cm、葉面および葉脈上に白色の毛状突起をつける。茎下部の1～2葉は小さく、鞘状となる。花は緑色、7～8月に咲き、20～30花を総状花序につける。がく片は狭長卵形、長さ9～12mm、花弁はやや短く、卵形。唇弁は淡緑色で、花弁とほぼ同長。同属のカキランは湿地に生え、全草無毛、花弁は黄褐色でやや大きい。

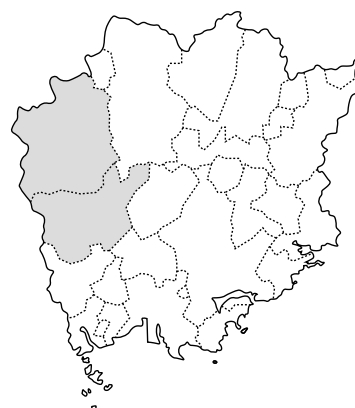
主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



オニノヤガラ

Gastrodia elata Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと集団数、個体数ともに少ない。共生菌の存在が必要で、森林伐採などのちょっとした環境変化でも絶滅の恐れがある。

存続を脅かす要因

森林伐採、管理放棄

分布状況

岡山県中部、北部にあり、山地樹下に希に生育する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、山の木陰に生え、ナラタケと共生する。

生育状況

高さ40～100cmになる多年草。緑葉をもたない菌従属栄養植物。地下にある塊茎はだ円形、長さ10cm、径3.5cmに達する。茎は円柱形で直立し、帯黄褐色、膜質の鱗片葉をまばらにつける。花は黄褐色、6～7月に咲き、20～50花を長さ10～30cmの総状花序につける。がく片は3個が合着してつば状になり、長さ7～8mm。唇弁は卵状長だ円形、基部近くでやや3裂し、中裂片は大きく、ふちは細裂する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

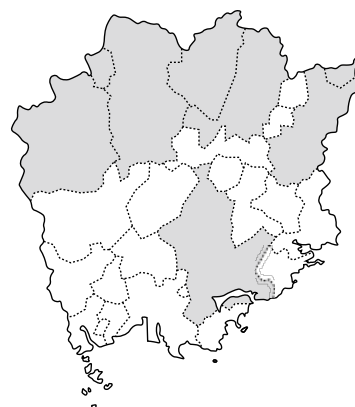
主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ナヨテンマ*Gastrodia gracilis* Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

岡山県中部の植林内で発見された菌従属栄養植物である。産地が限られており、生育地の管理などによる影響を受ける可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 管理放棄, 自然遷移, その他 (生育地の管理に依存)

分布状況

吉備高原地域で1993年に最初見つけた。その翌年には真庭市における徳山鎮也氏の確認情報がある。標本に関していえば、過去、西原禮礼之介氏による標本採取情報があるものの、現認できる標本については無い状態が続いている。県外では本州 (千葉県以西)、四国、九州に分布する。

生育状況

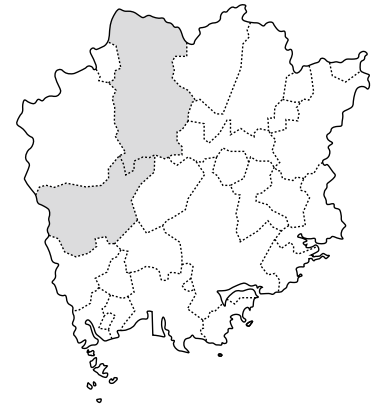
細長い地下茎から高さ10～60cmの細い茎を伸ばす。花期は6～7月。花は5～15個が花茎に対して横向きにつき、淡褐灰色。同属のオニノヤガラは唇弁の縁が細裂するのに対し、本種の唇弁は細裂しない。

主要文献

牧野 (2008), 大井 (1992), 大久保 (1999)
(高田真一・狩山俊悟)



撮影：高田真一

**ベニシュスラン***Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では南部・中部でごく希。個体数もきわめて少ない。個体数が少ないうえに、園芸目的の採取圧が高いことで、絶滅が心配される。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 産地局限, 森林伐採

分布状況

県内では南部, 中部にごく希に生育。自然度の高い樹林の林床や、岩上のコケの間に生える。希に、茎が横に広がってマット状に生育していることもある。県外では北海道 (南部), 本州, 四国, 九州に分布する。

生育状況

高さ4～10cmになる多年草。茎は基部が横に這い、上部は斜上する。葉は3～4個あり、卵形または長卵形、互生する。表面は灰緑色または赤みを帯び、主脈を中心に白っぽい斑が入る。裏面は白緑色または赤みを帯びる。花期は7～8月。横向きには、淡紅色の筒状の花が1～3個咲く。子房、萼片ともにまばらに長い縮毛がある。花弁は線形で萼片と同長。唇弁は長さ17～20mm、基部はふくれて内面に毛があり、舷部は長く披針形で先は反曲する。

関係法令の指定状況

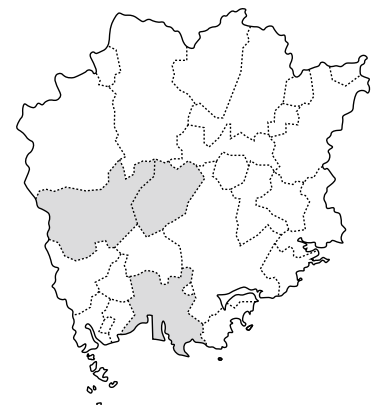
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

橋本ほか (1993), 大橋ほか編 (2015) (地職 恵)



撮影：地職 恵



ミズトンボ

Habenaria sagittifera Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

湿地に生育する植物であるが、湿地の陸化、周辺部での開発などの環境の変化による乾燥化に伴って減少したことが大きな原因である。引き続き盗掘も危惧される。

存続を脅かす要因

湿地開発、業者・マニア採取、自然遷移

分布状況

県下全域に分布する。湿地の乾燥化による減少の一方で、森林伐採などで湿地の状態が良好になって回復することもある。国内では北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

日当たりのよい湿地に生える多年草。茎は3角柱状で、高さ40～70cmで、群生すると湿地ではよく目立つ。葉は茎の下半部に数枚あり、線形で長さ5～20cm。花は淡緑色、径8～10mm、茎の上部に多数が咲く。花はトンボが留まったように見え、白色の3枚のがく片と2枚の側花弁はトンボの頭部、淡黄緑色で十字形の唇弁は、側裂片が左右に広げたトンボの翅、中裂片は下垂して、トンボの腹部のように見える。距は長さ15mmで、下垂し、先端は球状に膨れて、蜜が溜まる。花期は8～9月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

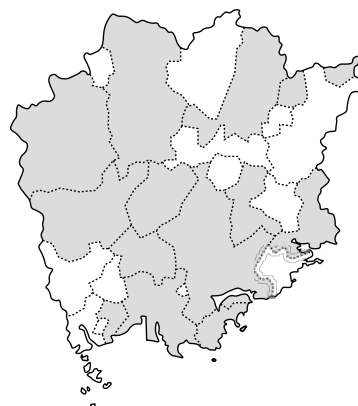
主要文献

大橋ほか編（2015）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：西本 孝



ムカゴソウ

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) J.Vuijk

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

個体数が極めて少ない。その上、開発などにより存続が危ぶまれている。

存続を脅かす要因

産地局限、湿地開発、草地開発、道路工事（林道工事）、自然遷移

分布状況

県内：北部、中部、南部。岡山市、総社市、瀬戸内市の標本があり、大久保一治氏は新見市と東栗倉村（現美作市）での確認を報告している。

県外：北海道（西南部）、本州、四国、九州、琉球。

生育状況

山の草地に生える多年草。地下には2個の球状の根と数個の細根がある。茎は直立して高さ20～45cm、葉は広線形で長さ8～20cm、幅5～10mm。花は淡緑色で6～8月頃、長さ5～15cmの穂を作って密につく。花は径5mmで唇弁は長さ5～8mm、中ほどで3裂し、中裂片はごく小さく、側裂片が長い。距はない。唇弁が識別点となる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

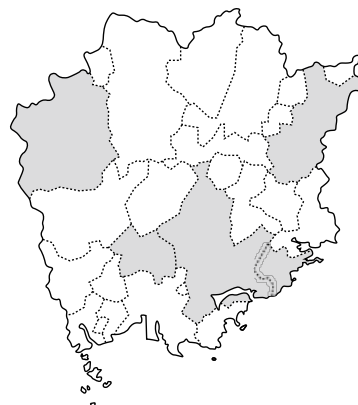
主要文献

榎本ほか（2003）、狩山ほか（2008）、片岡ほか（2005）、北村ほか（1964）、小嶋ほか（2005）、大橋ほか編（2015）、大久保（1999）

（小嶋 裕子）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ホクリクムヨウラン*Lecanorchis hokurikuensis* Masam.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

常緑樹林下に生育する菌従属栄養植物である。限られた生育地が森林伐採によって失われると、生育できなくなる危険性が高く、県内の分布が隔離分布であることから、きわめて貴重性が高い。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限

分布状況

県内の南部や北部の神社の樹林下に希に見られる。菌根菌に寄生しており、出てくるのが珍しい。国内では本州の東北地方南部以南であるが、西日本では隔離的に見られることがあり、四国や九州でも一部で確認されたとされている。



所蔵：岡山県自然保護センター

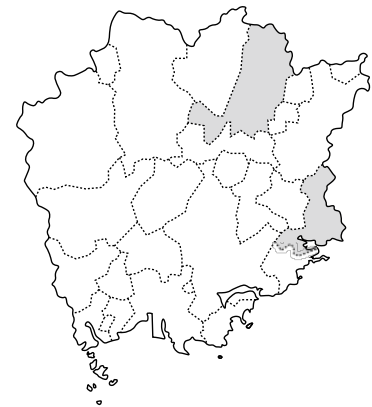
生育状況

常緑広葉樹林下に生育する葉緑素のない菌従属栄養植物である。落ち葉の溜まった湿り気のある樹林下で、菌根菌に寄生して生育する。根茎は細いひも状で、深く地中に入る。茎は直立し、暗紫色、高さ20～40cm、乾くと黒くなる。葉は名前の通りなく、退化した鱗片状の葉がつく。花はめったに観察されることがなく、咲くと5～8個程度を、横向きから多少垂れ下がってつけて、ほとんどが完全に開かず、多くが自家受粉している。花を覆っている苞は披針形、背がく片、側がく片は倒披針形で、淡褐色。側花弁は倒卵状披針形、唇弁は倒卵形で、淡紫色。花期は5～7月。

主要文献

大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(西本 孝)

**ムヨウラン***Lecanorchis japonica* Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が局限されている上、個体数も少ない。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、道路工事（林道工事）、自然遷移

分布状況

県内：中部、南部で採集された標本がある。高梁市臥牛山では1988年に採集された標本があるが、その後消滅した。

県外：本州（岩手県以南）、四国、九州、琉球。

生育状況

常緑広葉樹林下にはえる菌従属栄養植物。茎は高さ30～40cm、毛はなく、数個の鞘状葉をまばらにつける。花期は5～6月、花は数個つき淡黄色、時には淡褐色を帯び、長さ約2cm、筒状で平開しない。花被片は倒披針形、唇弁も倒披針形で先端は3裂し、中裂片の内側に長毛が散生する。わずかに香りがある。果実は狭長楕円形で、長さ3～4cm、茎とともに乾くと黒くなる。

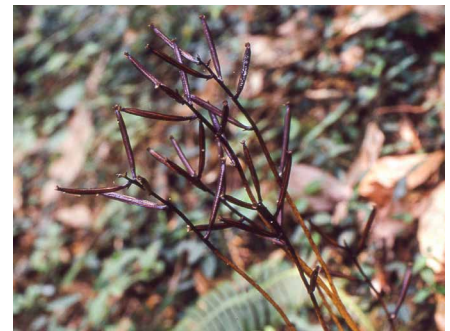
関係法令の指定状況

「自然公園法」による水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

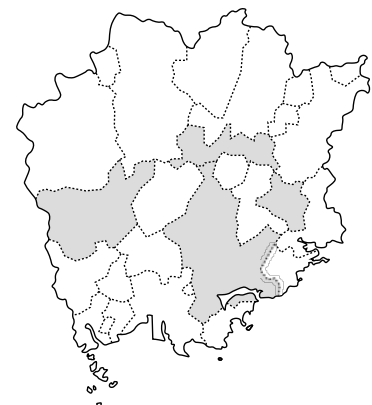
主要文献

北村ほか (1964), 大橋ほか編 (2015)

(小島裕子・狩山俊悟)



撮影：小島辰三



クロムヨウラン

Lecanorchis nigricans Honda

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が局限されている上、個体数も少ない。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，道路工事（林道工事），自然遷移

分布状況

県内：中部，南部で採集された標本がある。高梁市臥牛山では1988年に，備前市八木山では1984年に採集された標本があるが，その後どちらも消滅した。

県外：本州（関東地方以西）四国，九州，琉球。



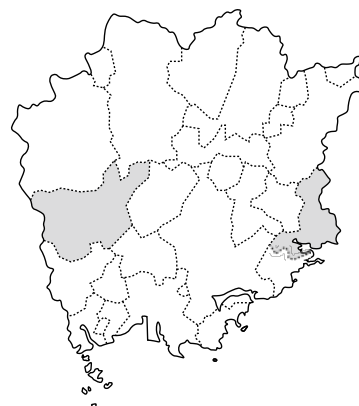
撮影：小島辰三

生育状況

常緑広葉樹林下にはえる菌従属栄養植物。茎は細くて硬く，高さ20～40cm，暗紫色で乾けば黒色にかわる。花期は6～7月。花は暗紫色で5～10個つき，筒状，あまり開かない。子房は平滑，唇弁は3裂し，中裂片の内側に密毛がある。類似のムヨウランは花の色が淡黄色であるのに対して，クロムヨウランは淡紫色である点が異なる。

主要文献

狩山ほか（2006），牧野（2008），大橋ほか編（2015）
（小島裕子・狩山俊悟）



ギボウシラン

Liparis auriculata Blume ex Miq.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県内に知られる産地は数カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

県内：北東部，北西部の山地。

県外：北海道，本州，四国，九州，屋久島。



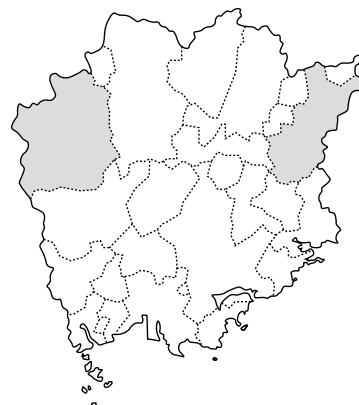
撮影：斎藤彰男

生育状況

温帯～暖温帯の湿った林床や湿原に生じる。茎は卵形，葉は広卵形，基部は心形～円形，急鋭頭，花茎は高さ15～30cm，総状花序に十数個の花を着ける。花は淡黄緑色，外花被片は線状長楕円形で鋭頭，側花弁は線形で鈍頭。唇弁は倒卵状楔形，円頭，基部に2個の突起があり，中央の溝に暗紫色を帯びる。花期は7～8月。

主要文献

北村ほか（1964），牧野（2008），大橋ほか編（2015），大井（1992）
（山下 純）



セイタカズムシソウ*Liparis japonica* (Miq.) Maxim.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内に知られる産地は数カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

県内：北部，中西部。

県外：北海道，本州，四国，九州，朝鮮半島，中国（東北），アムール。

生育状況

茎は楕円状球形。葉は卵形～卵状長楕円形，鈍頭，長さ6～12cm。花茎は直立し，高さ10～30cm，総状花序に淡緑色または帯紫色の花を30個程度まで着ける。外花被片は線状披針形で鈍頭，側花弁は糸状。唇弁は長さ9～12mm，反曲せず，微凸端，基部に突起が無い。花期は6～7月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

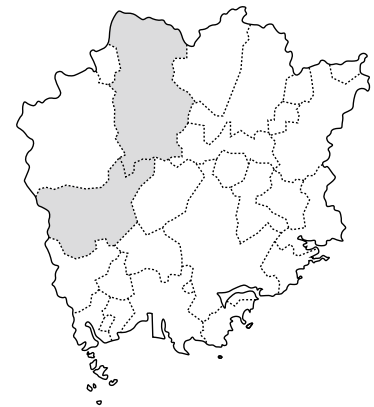
主要文献

北村ほか（1964），牧野（2008），大橋ほか編（2015），大井（1992），大久保（1999）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟

**ニラバラン***Microtis unifolia* (G.Forst.) Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数，個体数ともにごく少数であり，園芸目的の採取や草地開発などによって，絶滅に追いやられている。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取，草地開発

分布状況

岡山県南部にあり，日当たりのよい草地や露岩のすき間に生える。国内では，本州（千葉県以西），四国，九州，琉球に分布し，海岸近くの日当たりのよい草地に生える。

生育状況

高さ10～40cmになる多年草。地下に径5～8mmの球茎がある。地上茎は直立し，1葉がある。葉は線形で長さ15～25cm，断面は円く，径2～2.5mm，基部は長い鞘となって茎を包む。花は淡緑色，4～5月に咲き，20～30花を2～8cmの穂状花序につける。中央のがく片は広だ円形で長さ約2mm，側のがく片は狭長だ円形で中がく片より少し短い。花弁は狭長だ円形，長さは中がく片より短い。唇弁はやや肉質で開出し，4角状長だ円形，長さは中がく片とほぼ同長，基部の両側のふちに突起がある。

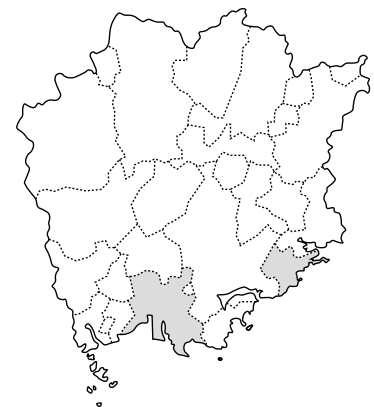
主要文献

北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：小島辰三



フウラン

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

産地がきわめて限られており、山草マニアによって絶滅に追い込まれている。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取

分布状況

本州（関東南部以西）、四国、九州、琉球。岡山県では中西部にごく希に生育している。

生育状況

細い気根を枝に巻きつけるようにして樹上に着生する常緑の多年草。茎は短く、葉は厚くて硬く、長さ5～10cm、幅6～8mmの広線形で先は鈍頭、基部に節がある。花期は7月。葉腋から長さ5～10cmの花柄を出し、先に3～5個白色花をつける。花弁は線状披針形で唇弁は長さ7～8mm、距は細長く4cm内外あり、湾曲して下垂する。

関係法令の指定状況

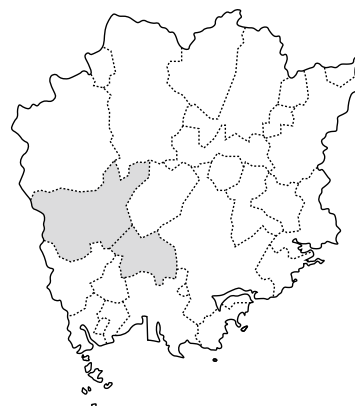
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

狩山・榎本（1998, 2001）、狩山ほか（1990）、大久保（1999）
（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



ノビネチドリ

Neolindleya camtschatica (Cham.) Nevski

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

林道脇のやや湿った日当たりの良い草地や日が差し込む明るい樹林下で生育しており、生育地が森林伐採で失われたことや、採取によって減少しており、引き続き危険な状態が続いている。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取、森林伐採

分布状況

県内では山地の限られた場所で生育するに過ぎない。国内では北海道から九州までの湿った草地に分布するが、西日本では少ない。

生育状況

山地の湿った林内や湿った草地に生える多年草。茎は太くて直立し、高さ30～60cm。葉は5～10個、楕円形で長さ7～15cm、幅2～6cm。葉脈には縦に幾筋もの折り目があり、先がとがり、縁が波状にちぢれ、基部では茎を抱く。多数の薄紅紫色の小さい花が穂状にかたまって咲く。花弁はがく片と同様に赤紫色で、2枚の側花弁と1枚の唇弁があり、唇弁は浅く3裂、中裂片とやや長い2つの側裂片に分かれる。側花弁は唇弁の上部で2枚の側がく片とともに兜型となり、雄しべや雌しべを囲む。距は湾曲して前につき出る。唇弁以外の花被片は離れて横に張り出す。花期は5月。

関係法令の指定状況

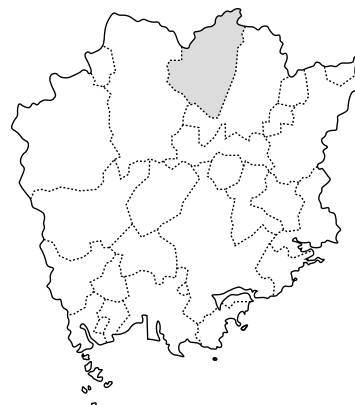
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編（2015）、大久保（1999）
（西本 孝）



撮影：西本 孝



コフタバラン*Neottia cordata* (L.) Rich.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内で知られる産地は約1カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

県内：北東部の山地。温帯林床。

県外：北海道，本州，四国，九州，国外では周北極に広く分布する。

生育状況

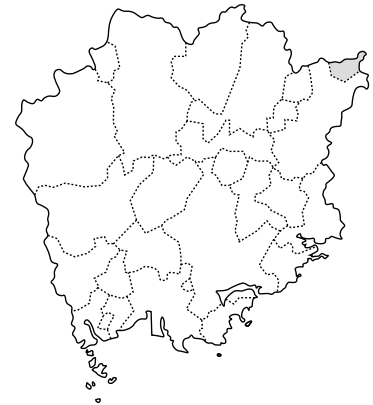
針葉樹林帯に生えることが多いが，岡山県に針葉樹林帯は無く，知られる産地はブナ帯以下である。茎は直立し，花を着ける場合は高さ10～20cm，中部に2枚の葉を向かい合って着ける。葉は三角状腎形，鈍頭凸端，基部は浅心形，長さ1～2cm。茎の上部に4～10個の花が散生する。唇弁の基部両側に1対の小裂片を出し，唇弁先端は2深裂して開き，裂片は鋭頭。花期は6～8月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献北村ほか（1964），牧野（2008），大橋ほか編（2015），大井（1992）
（山下 純）

撮影：狩山俊悟

**アオフタバラン***Neottia makinoana* (Ohwi) Szlach.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと集団数，個体数とも少ないうえに，生育地が伐採されるなどすると環境の変化により絶滅してしまう可能性が高い。また山野草の愛好家による採取圧も高い。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取

分布状況

岡山県では北部の深山樹林下に生える。県外では本州，四国，九州に分布し，山の木陰に生える。

生育状況

高さ10～20cmになる多年草。茎は細く，直立する。葉は三角状卵形，長さ幅ともに10～30mm，2個が茎の基部近くに対生状につく。鱗片葉は茎の上部に3～7個がつく。花期は7～8月。花は淡緑色，まばらに5～10個がつく。唇弁は基部に耳状裂片がなく，先は2裂して円頭。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

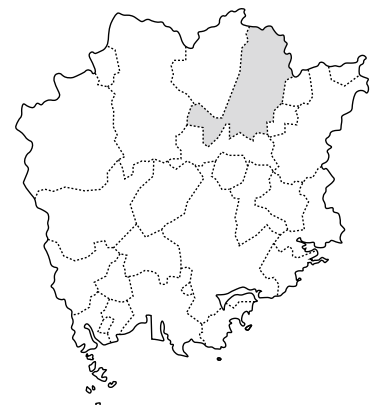
主要文献

北村ほか（1964），大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：佐葉信也



サギソウ

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内には広く分布し、昔から栽培されたが、近年、湿地が開発や周辺環境の変化により乾燥化するのに伴って個体数が急激に減少してきた。採取圧は依然高く、森林の発達に伴う湿地の乾燥化も進行している現状では、引き続き注意深く監視していく必要がある。

存続を脅かす要因

湿地開発、土地造成、業者・マニア採取、自然遷移

分布状況

県下全域に分布する。国内では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

低地～低山地の湿地に生える多年草。前年の走出枝の先端に生じた球茎から地下茎と地上茎を出す。地下茎は共生する菌類が出す菌糸に覆われ、地上茎は高さ15～40cm、下部に3～5葉、およびその上部に少数の鱗片葉がある。花は白色で径約3cm。中央の唇弁は3深裂し、真ん中が鼻のように伸び出し、側裂片は偏扇形で、周囲がフリルのように深く裂ける。距は長さ3～4cm、下垂した先端が少し太く、溜まった甘い蜜をセセリチョウ類などが吸蜜に訪れる。花期は7～9月。種子は10～11月に熟し、非常に小さく多数。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。また「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域のうち、鯉ヶ窪湿原(新見市)で保護すべき種に指定され、捕獲等が禁止される。

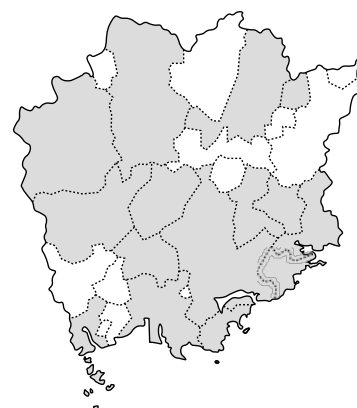
主要文献

大橋ほか編(2015)、大久保(1999)

(西本 孝)



撮影：西本 孝



イヌマムカゴ

Platanthera iinumae (Makino) Makino

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県北部の植林地内に生える植物で、県内では1カ所しか自生地が知られず、個体数も少ない。植林されているヒノキが伐採され、生育環境が変わると、絶滅してしまう可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

ヒノキの植林地であまり日が当たらない、湿り気のある場所に生育している。2016年の発見当初は3株しか見つからなかったが、2019年には十数株になっていた。国内では北海道(南部)、本州、四国、九州に分布し、山地の林縁や湿った草地に生える。

生育状況

高さ25～40cmになる多年草。葉は茎の中ほどに2枚つき、下の葉が大きく、縁が波打つ。花茎は2枚の葉の間から伸び、小さな花を総状に多数つける。花期は7月。萼片と側花弁は淡緑色で平開せず、かぶと状になる。唇弁は白色で基部の両側に小さな三角状の裂片がある。距は白色で小さく、しずくがついてるように見える。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

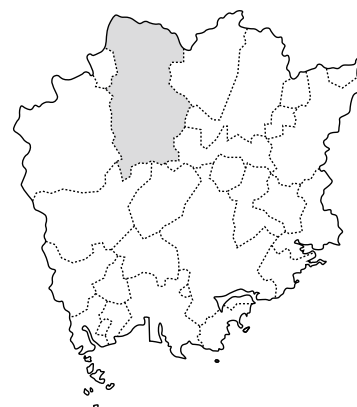
主要文献

北村ほか(1964)、大橋ほか編(2015)

(狩山俊悟・高原千春)



撮影：高原千春



ジンバイソウ

Platanthera florentii Franch. et Sav.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県北部のブナ林など夏緑樹林下の薄暗い林床に生育するが、自然性の高い樹林などの生育地が減少したため、個体数が激減した。森林の伐採やササ類の分布拡大などにより林床環境が回復していない状況が続いており、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採, 他種競合

分布状況

新庄村などの県北部に分布する。森林の伐採などにより少なくなった上に、ササ類が勢力を強めているため、回復できていない。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

山地帯の夏緑樹林内の林床に生育する地生の多年草。茎はまっすぐに伸びて高さ20～40cm。葉は地際から2枚出て、縦筋の目立つ葉脈を持ち、長楕円形で、光沢があり、縁が波状に縮れて、長さ5～12cm。茎の上部につく鱗片葉は数個、小形でまばらに互生する。花は淡緑色、5～10個、穂状にややまばらにつく。がく片、側花弁は長さ5mm、唇弁は長さ約1cmで下向きにつく。距は長さ1.5～2cmで、下方に湾曲する。花期は8～9月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

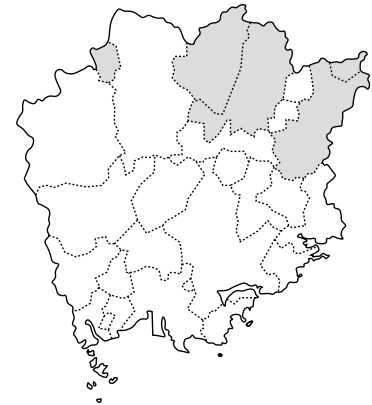
主要文献

大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(西本 孝)



撮影：狩山俊悟



ミスチドリ

Platanthera hologlottis Maxim.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県北部の湿地に生育地が限定され、開発や乾燥化により湿地が失われていることが減少の大きな原因である。いずれの生育地も安定していることから、急な減少はしないと考えられるが、引き続き注意を払う必要がある。

存続を脅かす要因

湿地開発, 自然遷移

分布状況

真庭市、高梁市などの県北中部の湿地に分布する。自生地が少ない上に、周辺環境の改変により湿地の乾燥化が進み、少なくなっている。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

山地の日当たりのよい湿地に生える地生の多年草。しばしば群生する。茎はやや太く、高さ50～80cm。葉は12～16個が互生し、下部の4～6個は大形で、線状披針形、長さ10～20cm、上部の4～6個は次第に小さくなる。茎頂に穂状に密に多数の花をつけ、多数の鳥が飛んでいる姿に見える。花は白色、香気がある。がく片、側花弁は長さ約5mm、唇弁は長さ約6～8mm、距は長さ10mm程度で、下垂する。花期は6～7月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

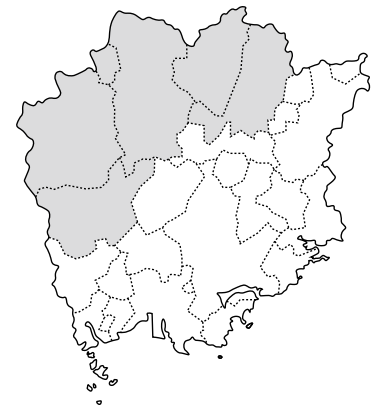
主要文献

大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(西本 孝)



撮影：西本 孝



マイサギソウ

Platanthera mandarinorum Rehb.f. var. *macrocentron* (Franch. et Sav.) Ohwi

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

湿り気のある草地が開発により減少したことが大きな原因であるが、採草地の利用が減少するにつれて、湿性草地は減少する一方であり、採集圧も依然高いため、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

湿地開発、業者・マニア採取、管理放棄、自然遷移

分布状況

鏡野町などの県北部の湿った採草地などに分布する。国内では北海道、本州、四国、九州の低地～山地に分布する。

生育状況

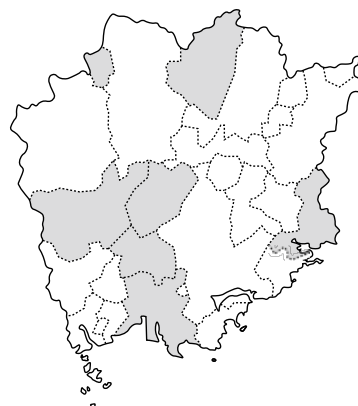
日当たりのよい湿り気の多い草地に生える多年草。茎は高さ20～40cm、稜がある。葉は最下の1個が大きく、5～10cm。鱗片葉は2～5個で、先がとがっていて、上部に行くほど小型になる。花は黄緑色で、10個ほど穂状がつく。3枚のがく片は、背がく片が円形で上部に、側がく片が左右に出し、唇弁と側花弁を囲む。唇弁は下垂して舌の形をしており、2枚の側花弁は左右の上方に伸び出す。距が跳ね上がって上を向く点は、湾曲して下を向くヤマサギソウとは大きく異なっており、シラサギの長い首を連想させる。採草地に生育する点は、同じ仲間である林床に生えるオオバノトンボソウや湿地に生えるコバノトンボソウと異なり、多数の花をつけることも特徴である。花期は5～7月。

主要文献

大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999) (西本 孝)



撮影：高原千春



キンチドリ

Platanthera ophrydioides F.Schmidt

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県北部の一部のごく限られた場所に生育するが、現状では安定している。本来、亜高山帯に生育するため、気温の上昇などわずかな環境の変化で失われる危険性が高く、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

湿地開発、自然遷移、その他（気候変動）

分布状況

県北部の鏡野町などに生育するが、きわめて希である。国内では北海道、本州、四国、九州の亜高山帯針葉樹林内に生育するが、同様の樹林のない県内では隔離して残存している。

生育状況

亜高山帯の針葉樹林に生える多年草。茎は高さ15～30cm、稜がある。葉は茎の下部に2～3個つけ、一番下の1個が大きく、卵形～楕円形で長さ3～6cm、幅2～4cm。上部の小型の1～2個は細長くて鱗片状に見える。上部に長さ3～8cmの花序をつけ、5～15個の花がまばらに穂状につく。花は淡黄緑色。背がく片は広卵形で長さ5mm、これより長い側がく片は線状披針形で左右にうでを広げたようにつき、側花弁は斜卵形、唇弁は広卵形。距は長さ6～10mmで、開花後すこしずつ前方に湾曲する。花期は7～8月。

関係法令の指定状況

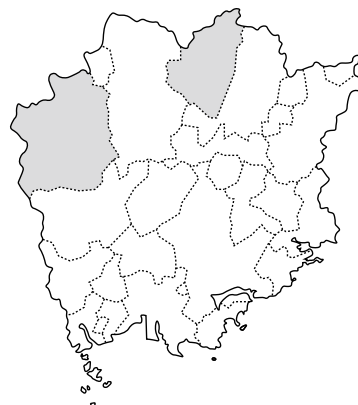
「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999) (西本 孝)



撮影：狩山俊悟



オオヤマサギソウ*Platanthera sachalinensis* F.Schmidt

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

湿り気のある樹林下や小さな流れのある林縁に生育する植物である。伐採や植林によって適した生育地が失われて急激に減少したが、現状では安定している。採集圧は依然高いことから、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取

分布状況

真庭市などの北部に分布するが、希である。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

山地の樹林下に生育する多年草。茎は高さ40～60cm、わずかに縦筋のような稜がある。葉は茎の下部につく2枚が大きく、長さ10～20cm、表面に光沢がある。上方の葉は次第に小さくなり、鱗片葉に変わる。花は淡緑色の小花を茎の上部でやや密に多数つけ、穂状に見える。がく片は3枚で、背がく片が狭卵形で長さ3.5mm、側がく片が肘を曲げた腕のように左右に出す。花卉は、側花卉が雄しべの左右に立ち上がり、唇弁が舌状で下垂して長さ約6mm。距は長さ1.5～2cmで、やや下向きの水平に突き出す。花期は7～8月。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

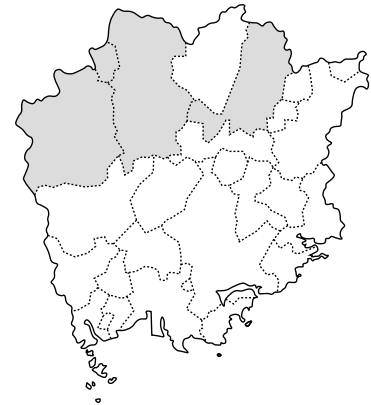
主要文献

大橋ほか編 (2015)、大久保 (1999)

(西本 孝)



撮影：狩山俊悟

**トンボソウ***Platanthera ussuriensis* (Regel et Maack) Maxim.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと集団数、個体数ともに少ない。林縁部に生える集団は森林伐採や道路の拡幅工事の影響を受けやすい。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事

分布状況

岡山県中部、北部に希にあり、二次林林縁部ならびに山草地などのやや湿った場所に生える。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、丘陵地、山地の樹下に生える。

生育状況

高さ15～35cmになる多年草。茎の下部にやや接して2葉があり、その上に数個の鱗片葉がある。葉は狭長だ円形または広倒皮針形でやや弓なりに曲がり、長さ8～13cm。淡緑色の花は7～8月に咲き、長さ3～10cmの穂状花序をつくる。上がく片は卵形で長さ約2mm、2個の花弁とともにかぶと状となる。唇弁は長さ3～3.5mm、基部から3裂し、側裂片は三角形でやや小さく、中裂片は舌状。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

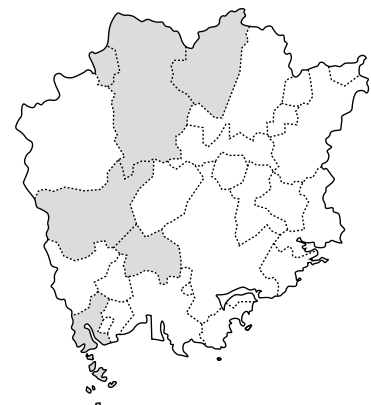
主要文献

北村ほか (1964)、大橋ほか編 (2015)

(狩山俊悟)



撮影：斎藤彰男



トキシウ

Pogonia japonica Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

県内全域の湿地に普通に見られるが、引き続き高い採集圧が続くものと考えられ、周辺環境の変化による湿地の乾燥化による減少もみられるなど、注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

湿地開発，業者・マニア採取，自然遷移

分布状況

県下全域に分布する。園芸採取などにより、少なくなった。国内では北海道，本州，四国，九州に分布する。

生育状況

日当たりのよい湿地に生える多年草。根茎は地下部で縦横にはり巡らされる。葉は根茎から出て、高さ10～30cm，基部に膜質の鱗片葉があり，披針形，長さ4～10cm，基部が翼状に細くなる。大型の葉の根元に花芽が形成された翌年，小さな葉を持った花茎の先に紅紫色の花が1個頂生し，横向きに咲く。唇弁はがく片と同長で2～2.5cm，3裂。唇弁内側に紅紫色の肉質突起が密生。花期は5～7月。花の色がトキの体の一部の色に似ることから命名された。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園，大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。また「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域のうち，鯉ヶ窪湿原（新見市）で保護すべき種に指定され，捕獲等が禁止されている。

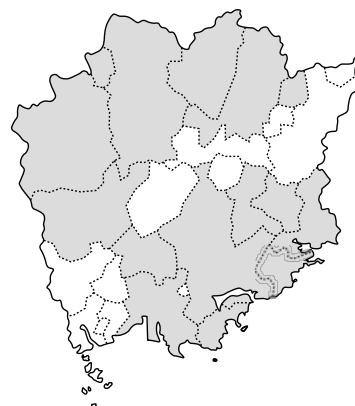
主要文献

大橋ほか編（2015），大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：西本 孝



ヤマトキシウ

Pogonia minor (Makino) Makino

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

トキシウよりも生育地は少なく，限られた湿地でしか確認されていないため，県内では個体数が少ない植物である。周辺環境の変化に伴う湿地の乾燥化による減少や採集によって失われる危険性が，引き続き高くなっている。

存続を脅かす要因

湿地開発，業者・マニア採取，自然遷移

分布状況

美作市などの県北部，岡山市などの県中南部の日当たりの良い草地に分布する。元々少ないところに加えて，湿地の開発などにより，希となった。国内では北海道，本州，四国，九州に分布する。

生育状況

低地～低山地の日当たりのよい草地や湿地に生える多年草。トキシウに似ているが，小形で，高さ15～25cm。根茎は横にはい，地上茎を出して，その先に葉をつける。葉は倒披針形，長さ3～7cm。花は微紅紫色で，やや筒状をなし，斜め上向きに咲くが，トキシウと違って，3枚の花弁が完全に開くことはない。3枚のがく片，2枚の側花弁，1枚の唇弁は，ともに長さ約1.2cm。唇弁は3裂し，中裂片には肉質の突起が密生する。花期は5～8月。

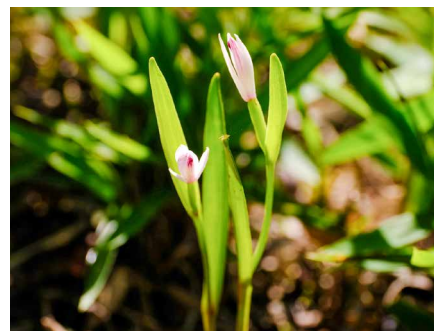
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園，大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

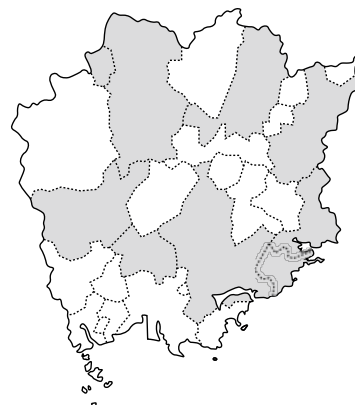
主要文献

大橋ほか編（2015），大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：高原千春



ウチョウラン

Ponerorchis graminifolia Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内に知られる産地は数カ所のみで、採取の対象になりやすく、また生育環境の消失も懸念される。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

県内：中部。

県外：本州、四国、九州。朝鮮半島。

生育状況

暖温帯の湿った岩壁などに生じる。根が球状に肥厚する。花を着ける茎は高さ7～20cm、斜上し、線形から広線形の葉を2～3枚着ける。茎の上部に紅紫色の花を数個～20個着け、花は茎の傾いた方に向かって咲く。唇弁はやや深く3裂し、裂片はほぼ同大。距は湾曲し、長さ10～15mm。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

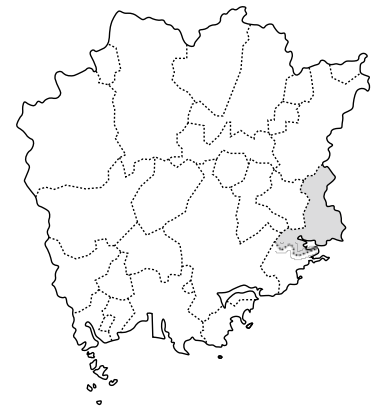
主要文献

北村ほか（1964）、牧野（2008）、大橋ほか編（2015）、大井（1992）、大久保（1999）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟



クモラン

Taeniophyllum glandulosum Blume

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともにごくわずかである。植栽木に着生する集団についてはせん定等に十分な配慮を求める必要がある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取（園芸採取）、森林伐採

分布状況

岡山県中部にあり、自然林内の樹幹あるいは植栽された古木の樹幹、枝先に着生する。国内では、本州（福島県以南）、四国、九州、琉球に分布し、樹幹や明るい部分の枝に着生する。

生育状況

着生する無葉の多年草。根は放射状に出て、緑白色、長さ2～3cm。茎はきわめて短く、先に花茎を1～5個つける。花は淡緑色、5～6月に咲き、1～3花を総状につける。がく片は平開せず、皮針形、長さ約2mm、基部は花弁と合着し、筒形となる。花弁は広皮針形で長さはがく片より少し短い。唇弁は舟形で長さ1.5mm、先は折れ曲がって細長く尖り、基部は球状だ円形の距となる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

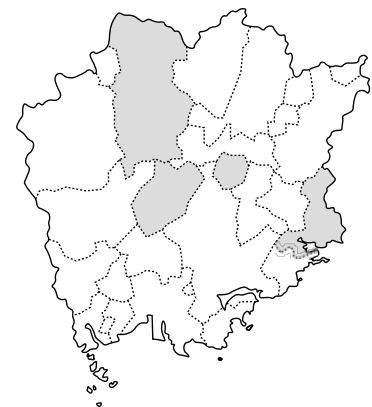
主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：地職 恵



カヤラン

Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともに多くない。大木の樹幹に着生するので、大木の伐採や枯死と運命をともにする。園芸目的の採取も絶えない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採

分布状況

岡山県中部、北部にあり、自然林あるいは二次林内の樹幹に着生する。本州（岩手県以南）、四国、九州に分布し、常緑樹林内などの樹幹に着生する。

生育状況

着生する常緑の多年草。茎は細く、長さ3～10cm。葉は10～20個が茎の左右に2列互生し、皮針形、長さ2～4cm。花は淡黄色、4～5月に咲く。花茎は葉のつけ根から出て細く、長さ2～4cm、先に2～5花をつける。がく片は狭長だ円形で長さ7～8mm、花弁はさじ状長だ円形でがく片より小さい。唇弁は浅く3裂し、中裂片は微小、側裂片は耳状に左右に突出する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

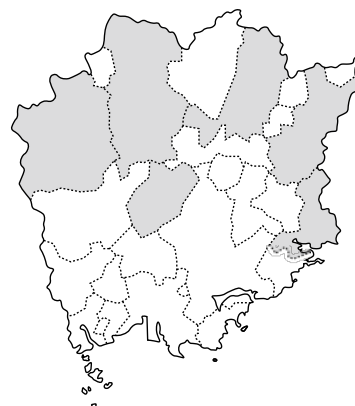
主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：高原千春



ヒトツボクロ

Tipularia japonica Matsum.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともにわずかである。園芸目的の採取が絶えない。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採

分布状況

岡山県南部、中部、北部にあり、山地の樹下に希に生える。国内では、本州、四国、九州に分布し、アカマツ林のような明るい林床に生える。

生育状況

高さ20～30cmになる多年草。地下には偽球茎があり、2～3個が連なる。葉は偽球茎から1個出て、卵状だ円形、長さ3.5～7cm、下面は紫色を帯び、長さ3～7cmの柄がある。花茎は直立、下半部に2～3個の鞘状葉がある。花は淡黄緑色、5～6月に咲き、まばらに5～15花を総状花序につける。がく片および花弁は開出し、狭倒皮針形、長さ4mm。唇弁は倒卵形、長さ約3mm、3裂し、中裂片は円頭、ふちに鋸歯がなく、側裂片には細かい歯牙がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

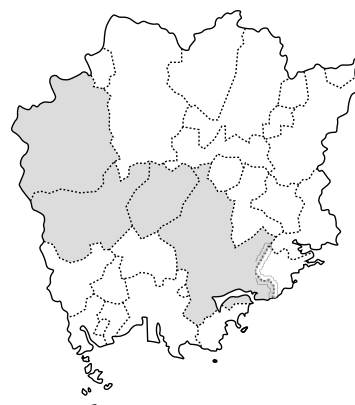
主要文献

北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）

（狩山俊悟）



撮影：斎藤彰男



ショウキラン

Yuania japonica Maxim.

被子植物 単子葉類 ラン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における記録は少なく、希。花が咲かなければ生育に気づかれにくいいため、開発や森林伐採により減少していると考えられる。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、業者・マニア採取

分布状況

県内では、真庭市、鏡野町、西粟倉村のおもにブナ林など夏緑常用樹林下で見られる。県外では北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

深山の樹林下やササ原に生える多年草。菌従属栄養植物であるため、葉緑素を持たない。地下茎は太くて長く伸び、わずかに分枝する。花茎は直立し、高さ10～30cm、乳白色でやや淡紅色を帯びる。葉は退化して鱗片状、半円形。花は6～8月、茎頂に3～7個がまばらにつき、長い柄があり肉質で淡紅紫色、径約3cm。がく片は長楕円形でやや開出。唇弁は袋状でほぼ白色、基部に紫色の斑があり、開口部には黄色の毛状突起がある。

関係法令の指定状況

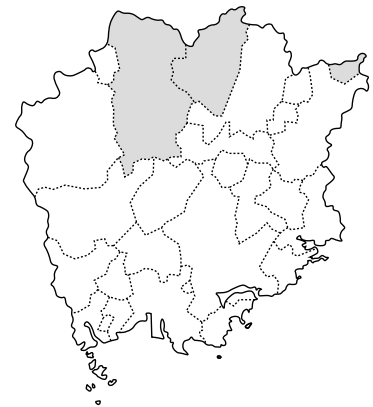
「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

畔上（1996）、林（1983）、林（1989）、北村ほか（1964）、大橋ほか編（2015）
（片岡博行）



撮影：西本 孝



コキンバイザサ

Hypoxis aurea Lour.

被子植物 単子葉類 キンバイザサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では北部の湿地や湿った斜面下部にごく希に生育していたが、湿地の開発や造成、乾燥化などにより生育適地が減った可能性がある。

存続を脅かす要因

湿地開発、土地造成

分布状況

県内の新見市、真庭市など、北部の湿原や湿った斜面にあったとされている。県外では本州（宮城県以南）～琉球に分布する。

生育状況

暖地の山地の湿地に生える多年草。根茎は塊状、径3～8mm。短い茎に数個の葉が束生する。葉は線形で、長さ10～25cm、幅は広いところで2～4mm、若いときには全体に汚黄白色の長毛を疎生する。花茎は葉腋から出て繊細で、長さ3～10cm、先に1～2花がつく。花とともに淡黄色の長毛がある。花被片は黄色で6個、3角状披針形で、平開し、長さ4～6mm。花期は4～6月。果実は蒴果で、長楕円形、長さ8～10mm。種子は球状で黒褐色で、径1.2～1.5mm、表面に小粒状の突起が密生し、付属体はごく小さい。

関係法令の指定状況

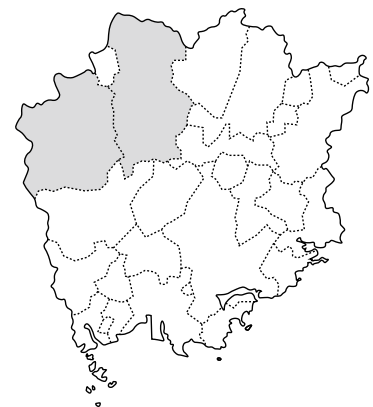
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編（2015）、大久保（1999）
（西本 孝・森定 伸）



撮影・所蔵者：西本 孝



ヒオウギ

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.

被子植物 単子葉類 アヤメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地である半自然草原の利用停止などにより、自生地が減少している。

存続を脅かす要因

管理放棄，自然遷移，草地開発

分布状況

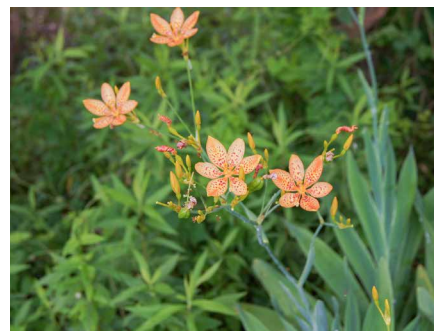
岡山県内では高梁市，新見市，真庭市で記録されているが，2000年代以降は標本が採集されていない。また，過去に植栽されたものの逸出と思われる個体も多く，正確に分布状況が把握されているとは言い難い。県外では本州から沖縄まで広く分布するが，レッドデータ種としている自治体も多い。国外では朝鮮半島，中国，東南アジア，インドにまで分布する。

生育状況

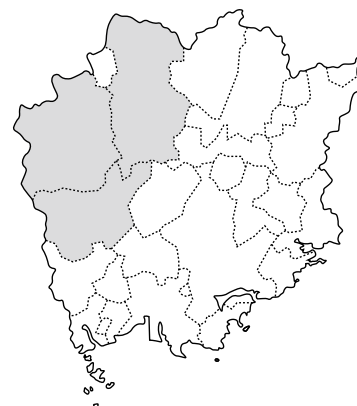
日当たりの良い山地草原に生育する多年草。葉は緑色でやや粉白をおび，扁平な剣状で扇状に並ぶ。和名は葉の様子を「桧扇」に例えたもの。花期は8～9月。高さ50～100cmの先が分枝した花茎を伸ばし，枝の先に直径3～4cmの橙色で暗赤色の斑点のある花を2～3個出す。果実は蒴果で長さ約3cm，秋に熟して裂開する。黒色で光沢のある径5mmほどの球形の種子は「ぬば玉」「うば玉」と呼ばれる。古くから栽培もされる植物であり，草丈が30～50cm程度で葉や花被片の幅が広いダルマヒオウギ，鮮赤色花の咲くもの，黄色花の咲くものなど多数の園芸品種がある。

主要文献

門田 (2013)，大橋ほか編 (2015) (片岡博行)



撮影：片岡博行



ヒメシャガ

Iris gracilipes A.Gray

被子植物 単子葉類 アヤメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県内の産地は数カ所のみ。生育環境が悪化すれば激減する可能性が高い。園芸目的での採取，シカによる食害も脅威となる。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，業者・マニア採取（園芸採取），動物食害

分布状況

岡山県内では真庭市内のみに分布が知られる。しばしば栽培もされ，栽培由来のものが広がったと考えられる場所もある。県外では北海道西南部，本州，四国，九州北部に分布。日本固有。

生育状況

山地の林床，岩場や急傾斜地などに生育する多年草。葉は叢生，淡緑色で光沢はなく，長さ20～40cm，幅5～15mmの線形，先は尖る。花期は5～6月，高さ15～30cmの花茎の先に直径約4cmの淡紫色の花を2～3個つける。花の外花被片は倒卵形，淡紫色で紫色の筋と黄色の斑があり，上面の中央以下に鶏冠状の隆起がある。良く結実し，蒴果は直径約8mmの球形。種子は赤褐色で長さ約3mm，1稜のある倒卵形。同属のシャガとは，やや小型で葉に光沢がなく冬に枯れること，結実することなどで区別される。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

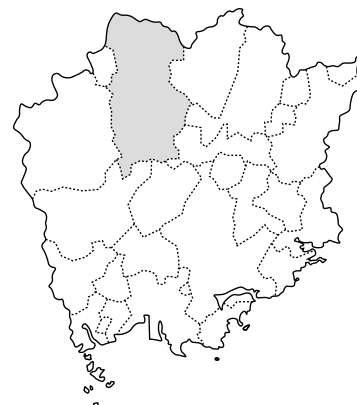
主要文献

門田 (2013)，林 (2013)，加藤ほか編 (2011)，北村ほか (1964)，大橋ほか編 (2015)，矢原ほか (2015)

(片岡博行・山下 純)



撮影：狩山俊悟



カキツバタ*Iris laevigata* Fisch.

被子植物 単子葉類 アヤメ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

山際のしみ出し水や山地の湿地に生育する植物であるが、道路工事や土地造成による湧水の減少に伴う湿原の乾燥化や、湿地の開発などによって生育地が失われている。

存続を脅かす要因

湿地開発, 道路工事, 土地造成

分布状況

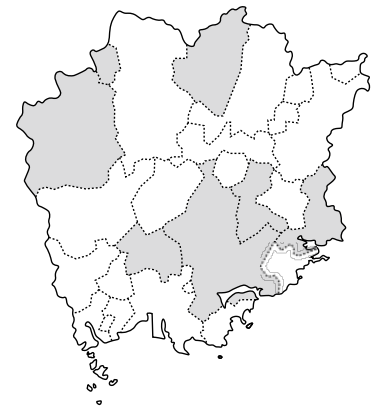
岡山県下全域の湿地や水田周辺に生育するが、多くの場合栽培しているものが逃げ出したものであると思われる。岡山県自然保護センターでは湿原造成の後、山からのしみ出し水のある場所に自然に生えてきたことから、自生地はないと言い切れない。北海道、本州、四国、九州。愛知県・京都府および鳥取県の一部では天然記念物に指定された群落がある。



撮影：西本 孝

生育状況

水湿地に生える多年草。地下茎は横にはい、繊維に覆われ、群生する。葉は長さ30～60cm、幅2～3cmで、剣形。葉の中肋にははっきりとした隆起した筋が出ない点で、アヤメやノハナショウブと異なる。花茎は高さ30～90cm、紫色の花を2～3個つける。外花被片は広卵形で、長さ6～8cm、中央基部に披針形の白い筋があり、爪部はやや黄色。内花被片は倒披針形で直立し、長さ6cm。花柱分枝の先は2裂し、やや長楕円形で全縁。花期は5～6月。果実は蒴果で、長楕円形、長さ4～5cm。

**主要文献**

門田 (2013), 大橋ほか編 (2015), 大久保 (1999)

(西本 孝)

エヒメアヤメ*Iris rossii* Baker

被子植物 単子葉類 アヤメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

生育地は岡山県南西部の一部に局限しており、国内の分布の東限にあたる。自然遷移や管理放棄により減少している。

分布状況

県内：笠岡市、浅口市（絶滅）。県外：広島県、山口県、愛媛県、佐賀県、宮崎県。

生育状況

山の草地や疎林地に生える多年草で、名前のとおり小型のアヤメ。葉は細く幅2～10cm、長さは花時には長さ10～20cm、花が終わると30cm程度に伸びる。花期は4～6月。高さ5～15cmの花茎の先に、直径4～5cmの青紫色の花が1個咲く。外花被片は狭倒卵形、基部には白色斑と黄色の線状の斑紋がある。果実は蒴果、直径8mm程度の球形。別名：タレユエソウ。



撮影：熊瀬徳輝

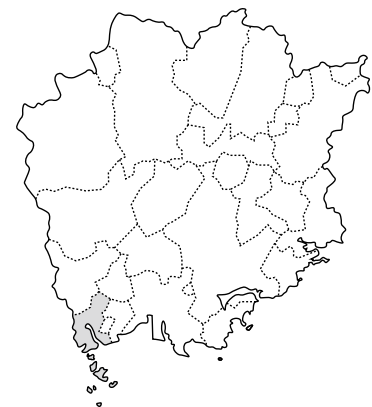
関係法令の指定状況・特記事項

笠岡市では地元住民が保存会を結成し、自生地の草刈りや実生による保護活動を行っている。また、笠岡市の「市指定天然記念物」に指定され保護されている。また、平成17年8月26日に「岡山県希少野生動植物保護条例」の指定種となった。「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物でもある。

主要文献

門田 (2013), 難波 (1993), 大橋ほか編 (2015)

(片岡博行・熊瀬徳輝)



アヤメ

Iris sanguinea Hornem.

被子植物 単子葉類 アヤメ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地は日当たりの良い草原であるため、半自然草原の管理放棄等による減少と共に生育地も減少しつつあると思われ、将来的な存続に不安がある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、草地開発、管理放棄、自然遷移

分布状況

岡山県内ではおもに中部・北部の林縁草地などに分布すると考えられるが、古くから栽培・植栽されることが多い植物であり、逸出由来と思われるものも多いことが正確な分布域の把握を難しくしている。国内では北海道から九州まで分布しているが、代表的な生育環境としては中部地方以北の亜高山帯から高山帯にかけての自然草地ではないかと思われる。

生育状況

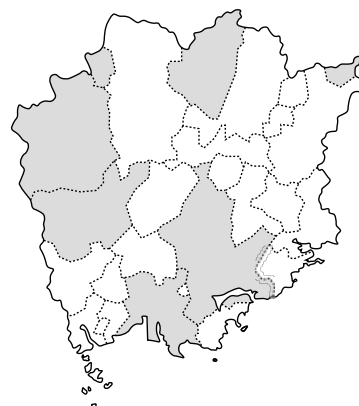
山地のやや乾いた草地に生える多年草。葉は直立して長さ30～50cm、中脈は目立たない。茎は分枝せず高さ30～60cm、茎頂に2～3個の花が咲く。花期は5～7月、花は紫色で径8cm程度、外花被片は長さ約6cmで先は垂れ下がり。爪部は黄色、爪部から拡大部は白色で紫色の筋が網目のように入る。果実は長さ約4cmの蒴果で、先端が3裂して褐色の種子を多数出す。

主要文献

門田 (2013)、林 (2013)、大橋ほか編 (2015)
(片岡博行・難波靖司)



撮影：片岡博行



ステゴビル

Allium inutile Makino

被子植物 単子葉類 ヒガンバナ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

日本固有種で、岡山県は分布西限に近く、県内では産地、個体数ともに少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限、植生遷移

分布状況

県内では、中部に10カ所足らずの記録がある。日本固有種で、本州(宮城県～広島県)、四国(香川県)に分布し、希。

生育状況

多年草。花被片の下部が合着し、植物体に「ネギ臭」が無い点などで*Caloscordum*として区別されていたが、現在では*Allium*に含められている。鱗茎は球茎。葉は偏平、晩秋に出て翌夏に枯れる。秋に花茎が出て花を咲かせる。被陰が少ない冬季に葉を着けて光合成を行っていることになる。植林や植生遷移によって常緑樹が増えたり、ササ等が密生すれば生育場所は減少すると思われる。

関係法令の指定状況

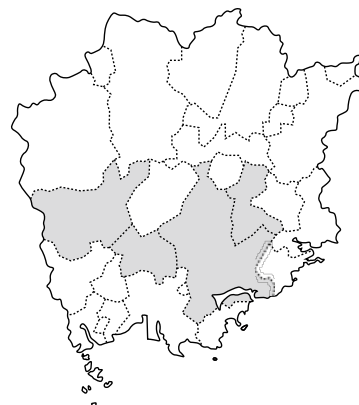
「自然公園法」における瀬戸内海国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編 (2015)
(山下 純)



撮影：狩山俊悟



ミズギボウシ*Hosta longissima* Honda ex F.Maek.

被子植物 単子葉類 クサスギカズラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、集団規模も小さく、なおかつ減少傾向が著しいため。

存続を脅かす要因

産地局限、開発行為、植生遷移、採集圧

分布状況

県内では、南部の1地域から記録されている。国内では、愛知県以西の本州、四国、九州に分布する。国外では朝鮮に分布する。

生育状況

明るい場所を好み、湿地に生える多年草。葉身は柄に向かって徐々に狭まり、急に狭くなることはなく、葉脈は表面で殆どへこまない。花の長さは3.5～4.5cm。コバギボウシの狭葉のものは誤認されやすいが、葉脈は表面でへこみ、花は5～6cm。県内では、かつては低丘陵の数カ所の湿地に見られたが、ゴルフ場開発等によって多くが失われ、現存する自生地がほぼ皆無と言ってよい。倉敷市の丘陵地に1カ所残っていた集団は、付近のゴルフ場内の池に移植されたが、現状は不明である。

関係法令の指定状況

「自然公園法」における氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

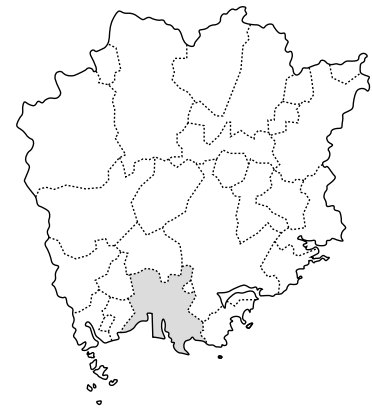
主要文献

大橋ほか編 (2015)

(山下 純)



撮影：狩山俊悟

**ワニグチソウ***Polygonatum involucreatum* (Franch. et Sav.) Maxim.

被子植物 単子葉類 クサスギカズラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では生育地が局限され、個体数も少なく、現存地点数が減少しているため。

存続を脅かす要因

産地局限、踏圧、植生遷移

分布状況

県内では北西部に3地点の記録がある。国内では、北海道南西部、本州、九州に分布する。国外では、朝鮮、中国（北東部）、ウスリーに分布する。

生育状況

山地の明るい林床に生える夏緑性の多年草。根茎は仮軸分枝し、毎年地上茎を出して葉を互生する。花序は葉腋に下垂し、花序柄の先端部に、宿存性の葉状の苞が花を包むように2個着く。花序柄や苞の裏面脈上は平滑。県内では、スギ植林とアベマキ・アカマツ林の境を通る未舗装路沿いに1カ所、ごく少数の現存が知られる。従来から踏み固めの影響が懸念されていたが、近年に集団のすぐ近くまで新たに碎石が敷かれ、その影響が今後どのように出るのかが注意する必要がある。周辺の林床は低小なササ類などが密生しているため、ワニグチソウが周辺に分布を広げる確率は低いと思われる。

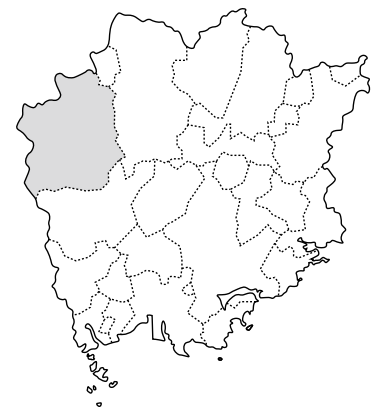
主要文献

大橋ほか編 (2015)

(山下 純)



撮影：山下 純



アオイカズラ

Streptolirion lineare Fukuoka et N.Kurosaki

被子植物 単子葉類 ツユクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県と広島県の県境付近の石灰岩地に見られ、生育地が限られている。森林伐採や道路工事などで個体数が減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採, 道路工事

分布状況

県内では新見市, 高梁市, 井原市の石灰岩地域を中心に分布する。県外では広島県東部の岡山県との県境付近の石灰岩地に見られる。

生育状況

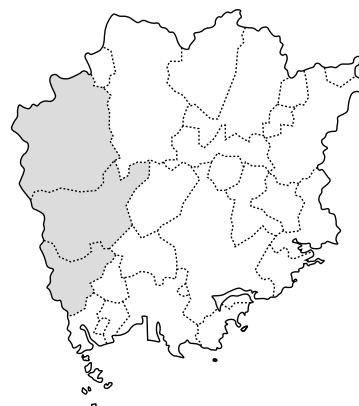
石灰岩地の林縁や山道横の日当たりの良い斜面に見られる。一年生のつる植物で、茎は長くのび、葉は卵心形で先が長くとがる。花は8～9月、葉腋や茎の先端に花軸が出て白色の花をつける。花弁は線形で反り返る。雄しべは6本で、花糸には黄色のちじれた毛がある。

主要文献

北村ほか編(1964), 大橋ほか編(2015), 大井(1992)
(星野卓二・森定 伸)



撮影：星野卓二



ミズアオイ

Monochoria korsakowii Regel et Maack

被子植物 単子葉類 ミズアオイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

岡山県内における自生地は倉敷川の1カ所となったため。

存続を脅かす要因

池沼開発, 河川開発, 農薬汚染, その他(水田管理の変化)

分布状況

北海道, 本州, 四国に分布する。県内では県南部に生育していたが、現在では自生地はごく限られている。

生育状況

一年草で茎や葉柄は多孔質で柔らかい。高さ20～40cm。葉柄は根生葉で10～25cm, 茎葉で4～10cm。葉身は心形で長さ, 幅共に4～15cm。花序は茎の先端に頂生し、葉より高い位置に青紫色の花を多数つける。花は径2.5～3cmで一つの花は一日しか咲かない。おしべの葯は5個が黄色で長さ3mm, めしべより上につく。紫色の大きな葯は長さ4mmでめしべの横の位置につく。めしべの位置が中心部より右につく花と左につく花があり、鏡面对称の花である。さく果は円錐形で長さ10mm。種子は長さ1.5mm, 太さ0.7mmでだ円形。近縁種のコナギは茎が直立せず、花はまとまってつく。花期は9～10月。

関係法令の指定状況

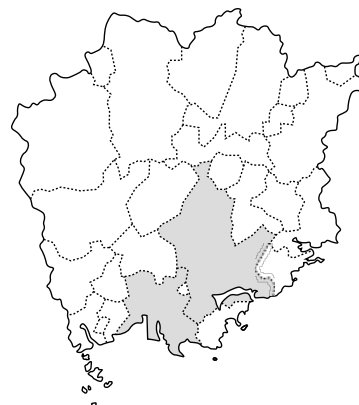
「岡山県希少野生動植物保護条例」の指定種である。

主要文献

榎本ほか(1995), 狩山ほか(1998), 狩山ほか(2001), 狩山ほか(1994), 小島ほか編(2005), 小島ほか(2000), 大久保(1999)
(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ミクリ*Sparganium erectum* L.

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

昔は、水田周辺の水路に普通の植物であったという。しかし、近年確認されている生育地は少ない。

存続を脅かす要因

池沼開発，河川開発，水質汚濁

分布状況

県内：北部，中部，南部。県外：北海道，本州，四国，九州。

生育状況

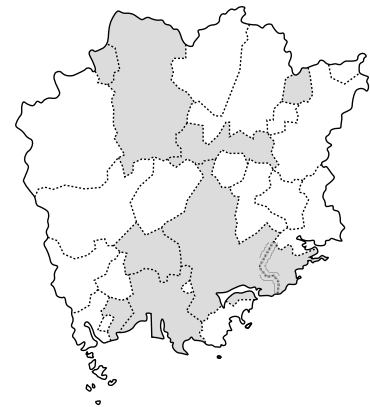
主に河川，水路に群生する多年生の抽水植物。高さ50～100cmになる。地下茎は横にはい，先に新しい株をつくる。葉は線形で直立，茎より長く，幅8～15mm。6～8月に茎の上部の葉腋から枝を出し，枝の下部に1～3個の雌性頭花，上部に多数の無柄の雄性頭花をつける。雌性頭花は熟すると径15～20mmの球形で，緑色集合果となる。果実は稜がある卵形で硬く，長さ6～9mm。

主要文献

浜島・須賀 (2005)，角野 (1994, 2014)，狩山ほか (1994)，片岡ほか (2006)，大橋ほか編 (2015)，大久保 (1999)，佐竹ほか (1982)
(小島裕子・岡田智子)



撮影：小島辰三

**オオミクリ***Sparganium eurycarpum* Engelm. subsp. *coreanum* (Leveille) Cook et Nicholls

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

1995年，岡山市大膳池で見つかったが，生育環境悪化のため消滅。2018年状況は変わらず。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁，農薬汚染

分布状況

県内：南部。県外：本州（関東地方以西），四国，朝鮮半島，中国。正確な分布実態は不明。

生育状況

本州に希に産する多年生の抽水植物。ミクリと大変よく似ているが，果実が際だって幅広く，長さ5～9mm，幅5～8mm，上部は低いドーム状である。果球は径2cm。類似のミクリの果実は長さ6～8mm，幅3～6mmで紡錘形。

特記事項

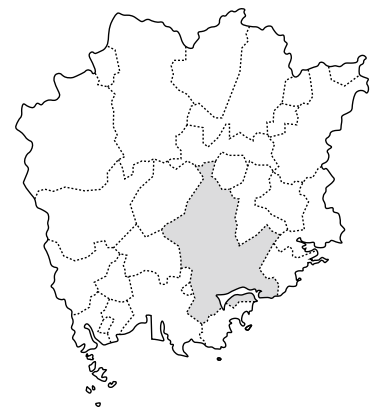
オオミクリは牧野富太郎が千葉県市川市で採集された標本に基づき，独立した分類群として認めた。

主要文献

角野 (1994, 2014)，牧野 (2008)，小島ほか (2000)
(小島裕子・岡田智子)



撮影：小島辰三



ヤマトミクリ

Sparganium fallax Graebn.

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

確認されている生育地が少ない。ため池等に生育するが、水質の悪化や樹木の繁茂などの影響が懸念される。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発，自然遷移，水質汚濁

分布状況

県内：北部，中部。県外：本州，四国，九州，アジア東部。

生育状況

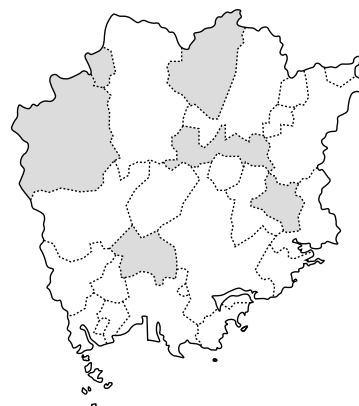
多年生の抽水植物。高さは50～120cm。葉の幅は10～20mm。花序は分岐しない。花期は5～9月。上側には雄性頭花が，下側には雌性頭花3～6個がやや離れてつく。柄の全部または一部は主軸と合着する。雌性頭花のつく部分は主軸がジグザク状に曲がっていることが多い。果期の雌性頭花は，径15～20mmになる。果実は紡錘形で長さ5～6mm。雌性頭花の柄と主軸が合着することが特徴となる。

主要文献

角野 (2014)，大橋ほか編 (2015)，佐竹ほか (1982)
(浅井幹夫・岡田智子)



撮影：浅井幹夫



ナガエミクリ

Sparganium japonicum Rothert

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

河川やため池の改修，環境の変化により，生育地が減少している。また，沈水形で花をつけない個体がしばしば見られ生育が気づかれにくい。

存続を脅かす要因

河川開発，池沼開発，水質汚濁，自然遷移

分布状況

県内：北部，中部，南部。県外：北海道（南西部），本州，四国，九州，アジア極東地域。

生育状況

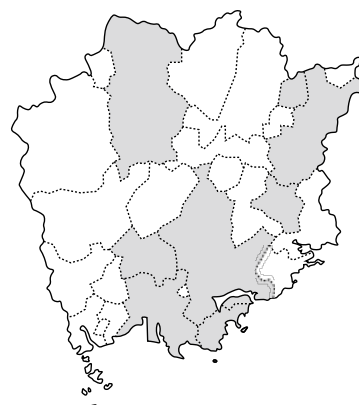
湖沼，ため池，河川，水路に生育する多年生の抽水植物。しばしば沈水形～浮葉形になる。茎の高さ70～130cm，流水中で浮葉状態になると150cmを超えることもある。葉の幅は8～14mm。花期は6～9月。花序は分岐しない。雌性頭花は3～7個で，下側のものには柄があり，主軸とは合着しない。上側の雌性頭花は着生。雄性頭花はやや接してつく。果時には径15～20mmになり，果実は紡錘形。流水中に群生するミクリ属植物は多くの場合，本種であるという。

主要文献

浜島・須賀 (2005)，角野 (1994，2014)，狩山ほか (1999)，狩山ほか (1994)，片岡ほか (2006)，小島ほか (2000)，牧野 (2008)，大橋ほか編 (2015)，佐竹ほか (1982) (小島裕子・岡田智子)



撮影：小島辰三



ヒメミクリ*Sparganium subglobosum* Morong

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

湿地の埋め立てや、池、沼、水路の改修工事など生育地への影響が懸念される。集団数、個体数ともに少ない。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発，自然遷移

分布状況

県内：北部，中部，南部。県外：北海道，本州，四国，九州，沖縄，東アジア，インド，オセアニア。

生育状況

抽水性から湿生の多年草。高さ40～90cmで茎は立ち，上部に1～3花序をつける。下部の葉は水から抜き出て，茎より長く線形，幅は2～6mm，裏面に稜がある。花は6～9月。花序には(0～)2～4個の雌性頭花と数個の雄性頭花をつける。頭花は無柄である。果実は倒卵形で，長さ4～5mm，幅2～3mm，先端の嘴を除けば低いドーム型になる。ミクリ属の果実は紡錘形のものが多いので，果実の形は花序のパターンと共に重要な特徴になる。

関係法令の指定状況

「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域のうち，鯉ヶ窪湿原(新見市)で保護すべき種に指定され，捕獲等が禁止されている。

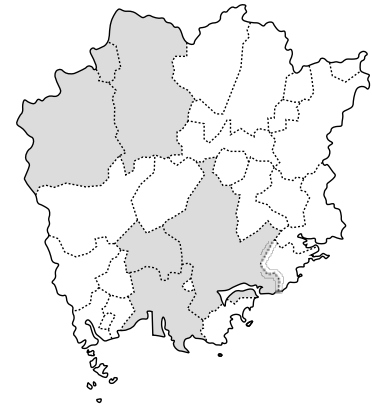
主要文献

佐竹ほか(1982)

(浅井幹夫・岡田智子)



撮影：浅井幹夫

**コガマ***Typha orientalis* C.Presl

被子植物 単子葉類 ガマ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

分布域は広いものの集団数，個体数ともに少ない。水路や休耕田など人為の影響を受けやすい環境に生育することが多く，開発行為や圃場整備などの影響を受け，生育地が減少しつつある。

存続を脅かす要因

圃場整備，管理放棄，河川開発，池沼開発，湿地開発

分布状況

岡山県内では全域に分布するが，北部には少なく，南部に多い。県外では本州，四国，九州に分布。国外では東アジアの温帯から熱帯に分布。

生育状況

河畔や池沼の水位の浅い場所や，水路や休耕田にも生育する多年生の抽水植物。同属のガマより全体に小形で茎の高さは1～1.5m。茎は直立し滑らかな円柱形で緑色。葉はガマより細く幅4～10mm，長さ50～70cm。花期は7～8月，花序は茎の先に直立し，雄花群は長さ3～9cm，雌花群は長さ4～12cmで，同属のガマ同様に雄花群の下に雌花群が接してつく。小型のガマと紛らわしい場合があるが，花粉が単粒であること(ガマの花粉は4個が合着している)で識別可能である。

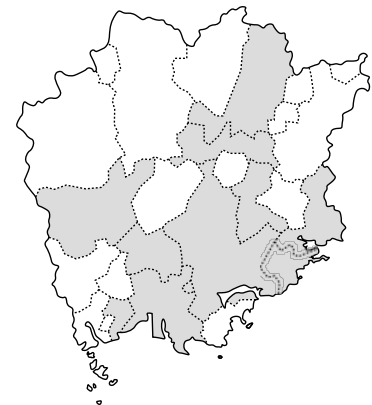
主要文献

林(2013)，角野(2014)，大橋ほか編(2015)

(片岡博行・小島裕子)



撮影：小島辰三



オオホシクサ

Eriocaulon buergerianum Körn.

被子植物 単子葉類 ホシクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

貧栄養な池沼に生育し、ツクシクロイヌノヒゲと分布傾向が似ているが、それよりも数も産地も限られている

存続を脅かす要因

管理放棄、水質汚濁、自然遷移

分布状況

台湾、中国、本州、四国、九州、琉球に分布。岡山県では、主に南部の湿地や貧栄養なため池の湖岸に稀に生える。産地、生育量ともに限られている。

生育情報

無茎の一年草。葉は披針状線形で多数、長さ8～20cm。基部の幅5～8mm、13～17脈の格子状、先端はやや鈍形。花茎は多数、高さ15～30cm、5～6肋で少しねじれる。頭花は白色でシラタマホシクサ（岡山県には産しない）に似ているが、葉が広く、頭花の白色の短毛が少ない。つまり花苞の上半部背面には白色の短毛が多いが、萼には上縁にあるだけであり、花弁はみな同長で、外方の1個が特に大きいことがないので区別できる。葉の広いことはヒロハイヌノヒゲに似ているが、花床に毛があり、花苞の上半部背面に毛が多いという違いがある。

特記事項

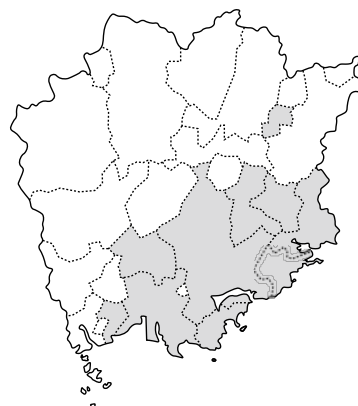
生育地においては頭花の白さが目立つが、押し葉標本では目立たない場合がある。

主要文献

大橋ほか編（2015）（波田善夫）



撮影：波田善夫



ホシクサ

Eriocaulon cinereum R.Br.

被子植物 単子葉類 ホシクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

水田や周辺の湿地に生育する一年草であり、除草剤や富栄養化、圃場整備や休耕などの営農業形態の変化によって大きな影響を受けている。

存続を脅かす要因

ほ場整備、土地造成（農地造成）、水質汚濁、農薬汚染

分布状況

本州から琉球、朝鮮、中国、台湾、フィリピン、インドシナ、インド、アフリカ、オーストラリアに分布。岡山県では中部、南部の水田耕作地帯を中心に、範囲としては広くみられるものの、生育地や生育量は少ない。

生育情報

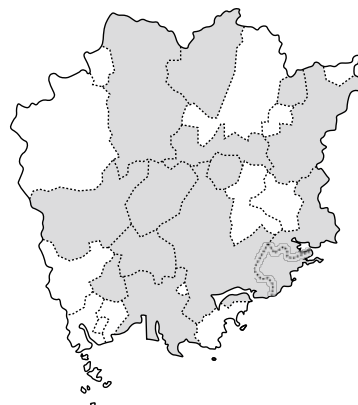
和名の語源は花序が水滴状に見えて、星をちりばめたようになることに由来している。無茎の一年草で、葉は束生し、線形で長さ3～8cm、下部の幅1～2mm、3脈があり、格子状、先のみ形になる。花は8～9月。花茎は高さ4～15cmで、肋はほとんどなく、ねじれない。鞘は長さ1～2.5cm。頭花は卵状球形で径4mmないが、灰白色または淡い褐灰色。湿地、または水田では乾湿地とも生え、地表水のある管理休耕地にも水草のように生育する。

主要文献

大橋ほか編（2015）（波田善夫）



撮影：波田善夫



ヤマトホシクサ

Eriocaulon japonicum Körn.

被子植物 单子葉類 ホシクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

産地がごく限られており、生育数も少ない。湿地のかく乱やため池の管理放棄などにより消失する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、土地改変、自然遷移、ため池の管理放棄

分布状況

岡山県と兵庫県、滋賀県、茨城県に分布している日本固有種。

生育状況

湿地や放棄水田、ため池の湖岸などに生育する一年草。花苞や萼に白色の短毛がなく、花苞の上部だけが黒褐色を帯びるので、頭花全体は汚黄褐色にみえる。総苞片は頭花と同長か少し長いとされるが、花の時期によって、あるいは花数と稔実状況によって総苞片が頭花よりも短いヒロハイヌノヒゲや頭花より長いニッポンイヌノヒゲとの区別が困難であることがある。葉の幅は2～3mmで長さの割に細い。

特記事項

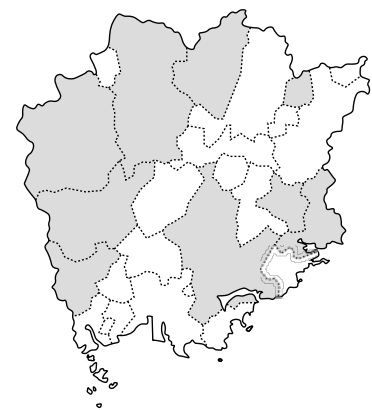
図鑑によって種の記述内容に違いがあり、最新の基準での同定が望まれる。生育状況からはニッポンイヌノヒゲに似ており、腊葉標本ではヒロハイヌノヒゲとの区別に留意が必要であろう。情報集積が必要である。

主要文献

北村ほか編(1964)、大橋ほか編(2015) (波田善夫)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ツクシクロイヌノヒゲ

Eriocaulon kiusianum Maxim.

被子植物 单子葉類 ホシクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

花こう岩・流紋岩などの貧栄養の池沼に生育する。急速な自然遷移の影響の可能性は少ないが、集水域を含めた開発には十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、水質汚濁

分布状況

本州・四国・九州・屋久島、韓国に分布する。県内では南部の貧栄養なため池の湖岸を中心に生育しており、中部・北部にも稀にみられる。

生育状況

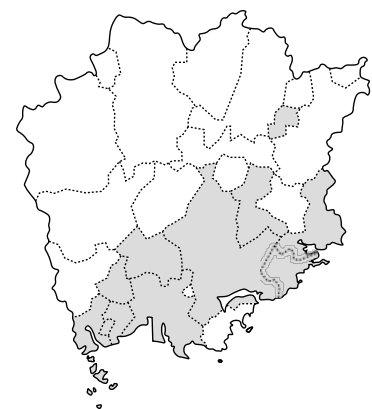
主にため池湖岸の水位変動域から浅水中に生育する無茎の一年草。葉は長さ10～18cm、基部の幅3～6mm。姿は湿地に生育するか、水没して生育するかによって大きく異なる。湿地に生育する場合には花茎は葉よりやや長い程度であるが、花期に水没すると花茎を伸ばさせて30cm以上の長さになって姿が大きく変わってしまう。頭花は黒藍色、倒円錐形で径4～5mm。総苞片は長楕円形または倒卵形で頭花より短い。花床に毛がなく、雌花の花弁の内側にも毛がない。水没していない場合にはクロイヌノヒゲに似ているが、植物体はやや大きく、頭花もやや大きく、多数花からなる点で異なる。

主要文献

北村ほか編(1964)、大橋ほか編(2015) (波田善夫)



撮影：波田善夫



ヒメコウガイゼキショウ

Juncus bufonius L.

被子植物 単子葉類 イグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅する心配は無いものの、生育環境そのものの存続が危ういことから、注意が必要である。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発

分布状況

県内では南部の池沼，河川等の湿地などで見られる。県外では北海道～九州に分布する。

生育状況

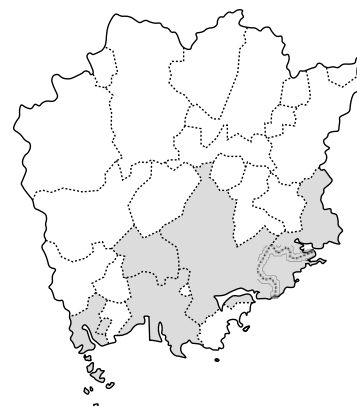
畑地，路傍，湿地，砂地に生える一年草。茎は束生し，細い円筒状で斜上し，高さ10～30cm。葉は扁平で上面に溝があり，鞘部に葉耳がない。花は6～9月，凹集散花序をつくる。最下苞は葉状で花序よりはるかに短い。花は長さ5～6mm。花被片は，緑白色，披針形で先が尖り，縁は白い膜質となり，外片は内片より長い。雄蕊は6個で，花被片の約1/2，葯は花糸の1/2～1/3。さく果は長楕円形で褐色。種子は倒卵状楕円形で長さ0.6mm。花序の形，花被片の長さ，さく果の形，色，花被片との長さの割合などきわめて変化が多い。

主要文献

北村ほか編（1964），大橋ほか編（2016）
（波田善夫・森定 伸）



撮影：波田善夫



ドロイ

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.

被子植物 単子葉類 イグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸の湿地が開発され，生育地が減少しているため。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発，産地局限

分布状況

県内では南部に希に見られ，その生育地は主に汽水の水辺や湿地である。県外では北海道～九州に分布する。

生育状況

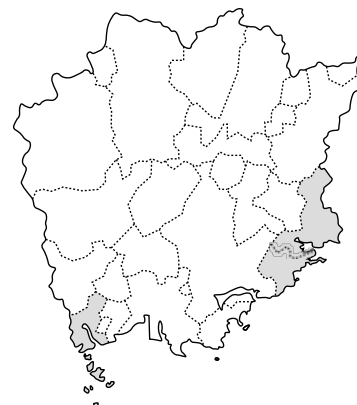
水辺や湿地の泥中にはえる多年草で，根茎は長くは，節間は短い。全株やや粉白を帯びる。茎は高さ60～70cm，円筒状。葉は線形・扁平でイネ科状，鞘部は短く，葉耳は膜質で小型である。花は5～7月，花序は凹集散状で，大きいものは長さ15cmになる。果被片は卵形で鈍頭，さく果より短い（クサイ：花被片は披針形で鋭頭，さく果と同長またはやや長い）。雄しべは花被片の1/2，やくは花糸の1/2である。

主要文献

榎本（1998a），狩山ほか（2000），狩山ほか（2006），大橋ほか編（2015）
（榎本 敬・森定 伸）



撮影：小島辰三



タチコウガイゼキショウ*Juncus krameri* Franch. et Sav.

被子植物 単子葉類 イグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅するおそれは無いものの、生育環境そのものの存続が危ういことから、注意が必要である。

存続を脅かす要因

湿地開発，産地局限

分布状況

県内では、主に南部の湿地に希に見られる。県外では北海道～琉球に分布する。

生育状況

湿地にはえる多年草で、根茎の節間は短い。茎は直立し、高さ30～60cm、円筒状で約2mm内外になる。茎葉は2～3個、茎よりいちじるしく短く、円筒状で単管質、隔壁はごく明瞭。頭花は多数つき、茎の頂に凹集散状に集まる。最下苞は花序より長い。花は8～10月。頭花は3～10花からなる。花被片は長楕円状披針形で鋭頭、緑色で長さ3～4mm、内片は外片よりやや長い。雄しべは6個で、花被片より短く、やくは卵形で花糸より著しく短い。さく果は3稜状楕円形で褐色、先は鈍いが急に凸端になり、花被片よりすこし長い。種子は倒卵状楕円形で鉄錆色、長さ約0.5mm。さく果の先の形に特徴があり、近似種から区別できる。

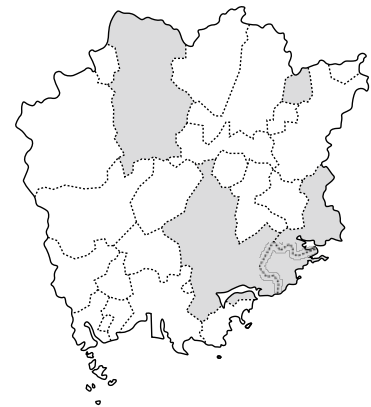
主要文献

北村ほか編（1964）、大橋ほか編（2015）

（波田善夫・森定 伸）



所蔵：岡山理科大学

**アリマイトスゲ***Carex alterniflora* Franch. var. *arimaensis* Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の生育地は数カ所で、個体数も近年減少している。車道に接した日当たりの良い斜面に生育しているため、工事により年々個体数が減少している。

存続を脅かす要因

道路工事

分布状況

県内では、中部から北部にかけて数カ所で見られる。県外では、近畿地方、中国地方に分布する。タイプロカリティは摂津の有馬。

生育状況

溪谷や林床、路傍に生える多年草。地上性の匍枝を持つのが本種の特徴である。路傍の岩場や斜面にも見られる。最近、中国地方では、広島県や鳥取県で分布が報告されている。

クジュウスゲおよびキイトスゲに似るが、匍枝や果胞の大きさで区別できる。果胞は、アリマイトスゲは3mm以下、クジュウスゲとキイトスゲは3mm以上。果胞の嘴の長さは、アリマイトスゲが大変短いことで他の2種と異なる。

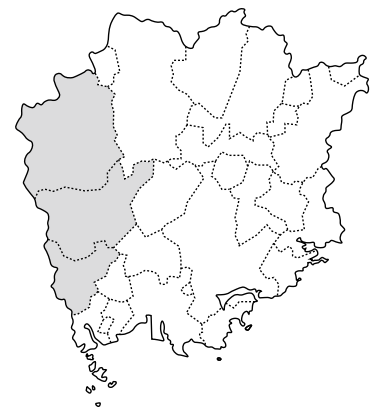
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



クジュウスゲ

Carex alterniflora Franch. var. *elongatula* Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

自然林の林縁に生育しており、伐採により個体数が減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

岡山県内では北部の津山市や、美作市（旧東粟倉村）の後山山系。県外には中国地方、四国、九州に分布する。タイプロカリティは大分県の久住山であり、その周辺にしか知られていなかったが、近年、中国地方や四国地方にも分布していることが明らかとなった。



撮影：星野卓二

生育状況

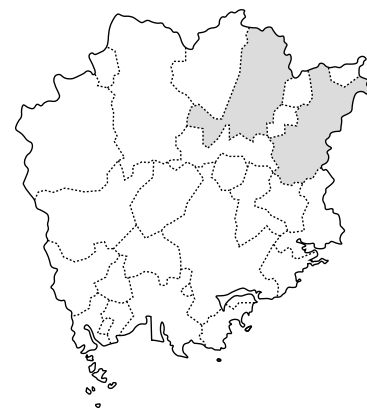
林縁や林床に生える多年草。日当たりの良い林縁から林床に見られる。短い匍枝があり、小さな集団をなし点在して生える。

クジュウスゲはホンモンジスゲ類の中でも、果胞の嘴が1 mm以上あり特に長いのが特徴である。

主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



ビッチュウヒカゲスゲ

Carex bitchuensis T.Hoshino et H.Ikeda

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

ビッチュウヒカゲスゲは、岡山県の備中町（現高梁市）の石灰岩地域に生育する。生育地が限られており、自然遷移により日照条件が悪くなり個体数が減少する可能性が高いため。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

県内の高梁市備中町と成羽町の2カ所に生育する。2002年に新種として発見された種である。近縁種のヒカゲスゲは日本に広く分布しているが、ビッチュウヒカゲスゲは岡山県など限られた地域に分布する。



撮影：星野卓二

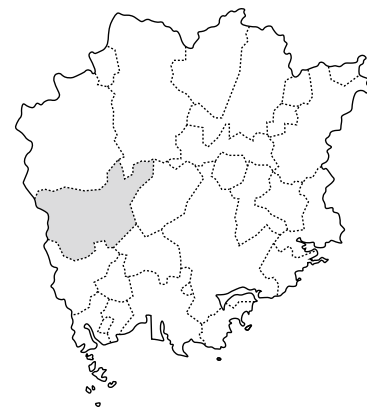
生育状況

日当たりの良い石灰岩地の尾根から林縁に生育する。

ヒカゲスゲに近縁だが、根茎（ビッチュウヒカゲスゲは長く斜上、ヒカゲスゲは短く叢生）、葉の幅（ビッチュウヒカゲスゲは2.5～3 mm、ヒカゲスゲは1～1.3mm）、雄小穂（ビッチュウヒカゲスゲは棍棒状、ヒカゲスゲは円柱状）、染色体数（ビッチュウヒカゲスゲは $2n=36$ の2倍体、ヒカゲスゲは $2n=72$ の4倍体）で区別できる。

主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）、Hoshino and Ikeda（2003）
（星野卓二）



ヒゲスゲ*Carex boottiana* Hook. et Arn.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸に広く分布する種であるが、瀬戸内地方では分布が限られており、環境の変化や海岸工事により個体数が減少する可能性が高い。

存続を脅かす要因

自然遷移, 海岸開発

分布状況

岡山県内では笠岡市の島嶼部の1カ所のみで生育している。県外では本州（千葉県, 石川県以西）, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島, 伊豆諸島, 小笠原の海岸に広く分布する。

生育状況

海岸の砂地やその近くの林縁, 岩角地, 里草地に群生する大型の多年草。密に叢生し, 根茎は短く著しく剛強。

有花茎は, 高さ30~50cm, ざらつく。果胞は, 雌鱗片より長く, 倒卵形, 長さ5~6mm, 無毛または短毛があり, 長嘴, 口部は深く鋭2歯となり外曲する。

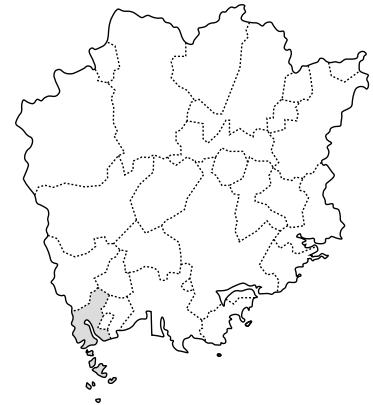
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二

**アワボスゲ***Carex brownii* Tuck.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

以前は個体数は多くないものの野外でしばしば見かけたが、最近では道路の拡張工事や草地開発などで、ほとんど見かけなくなっている。

存続を脅かす要因

道路工事, 草地開発

分布状況

岡山県内では南部に分布する。最近、個体数の減少が認められる。県外では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に広く分布する。

生育状況

山草地や平地から低山地の日当たりの良い場所で, 湿った草地や路傍に生える多年草。群生し短い根茎がある。種子の発芽率は良いが, 背丈の高い草地では成長するのが困難である。日照条件が悪くなると生育できない。

近縁なヤワラスゲとは, 果胞の嘴が短いこと（アワボスゲは1mm以下, ヤワラスゲは1mm以上）で容易に区別できる。

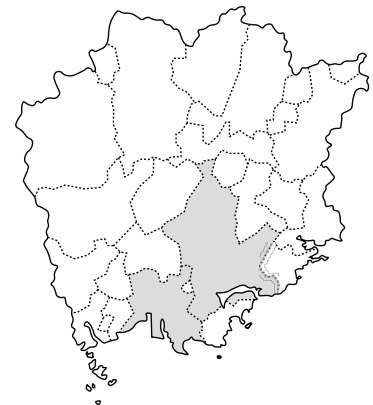
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



ダイセンスゲ

Carex daisenensis Nakai

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北部の山地の林床や林縁に生育するが、自然林の減少とともに生育地が極端に狭められている。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

県内では北部の数カ所に分布するのみ。県外では近畿地方以西、九州地方北部の日本海側に生育する。

生育状況

自然林の林床や林縁に生える多年草である。林床でも湿気の多い場所に生える。

大株となり、基部の古い鞘が著しく繊維状に細裂することで、他のカンスゲ類と区別できる。カンスゲ類のような大きい集団をつくるので見つけやすい。

関係法令の指定状況・特記事項

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。本種のタイプロカリティは鳥取県大山。

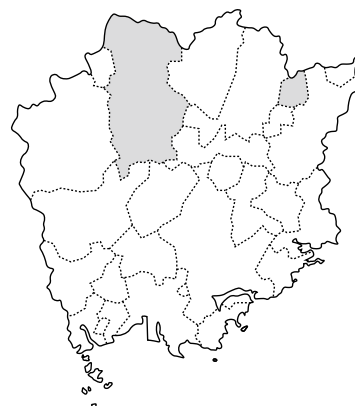
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



ヒロハノオオタマツリスゲ

Carex filipes Franch. et Sav. var. *arakiana* (Ohwi) Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

ブナ林の林縁に生育し、伐採後もわずかな個体が遺存的に残っているのが確認されるが、その後の森林の植生遷移により個体数が激減した。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

県内では鳥取県との県境付近で見られる。県外では中国地方の多雪地帯に分布する。

生育状況

自然林の林縁に生育する多年草。山道の斜面で、林縁の日陰に見られる。やや大株となることがあるが、大きな集団は形成せず、まばらに生育する。

タマツリスゲに似るが、葉の幅が広く5～10mmで大型であり、基部の鞘が赤紫色とならない。多雪地に生育が限られていて、前年の葉が枯れずに残ることでタマツリスゲと区別される。

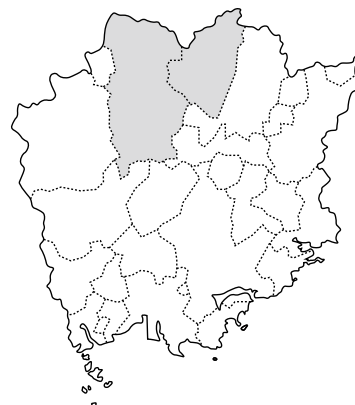
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



ヒナスゲ*Carex grallatoria* Maxim.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

溪谷や林道付近の湿った岩場に生育するため、林道工事により個体数が激減している。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事

分布状況

岡山県内では北部の2カ所のみで見られ、分布域は限られている。県外では、本州、四国および九州地方に広く分布する。

生育状況

雌雄異株で、スゲ属の中では特に小型で有花茎は15cm以下である。雄株と雌株は同一集団に混生している。山地の岩場や林床にマット状に生え、短い根茎がある。

雄株と雌株ともに、基部の鞘や鱗片が鮮やかな赤色を帯びている。有花茎は上端部に1個の小穂をつける。ヒナスゲが雌雄同株になり、端部に雄小穂、下部に雌小穂をつけるものがサナギスゲである。

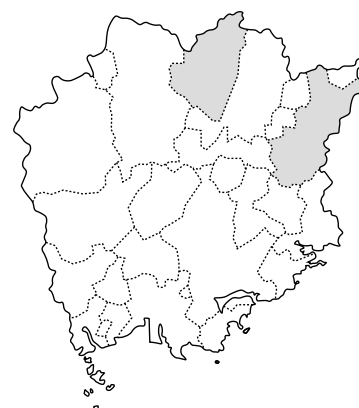
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二

**ウマスゲ***Carex idzuroei* Franch. et Sav.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

池沼地、河岸の湿地に生育するため、護岸工事により生育が狭められた。

存続を脅かす要因

河川開発

分布状況

岡山県内では中部と南部の数カ所のみでしか自生が確認されていない希少な種である。県外では本州（関東地方以西）、四国、九州地方に広く分布する。

生育状況

河岸の湿地などに群生するが、大株とならず、たく長い匍枝がある。

果胞は他の種に比べ大型で、皮革質で硬く、壊れにくい。葉に横脈があるのが他のスゲにはあまり見られない特徴である。

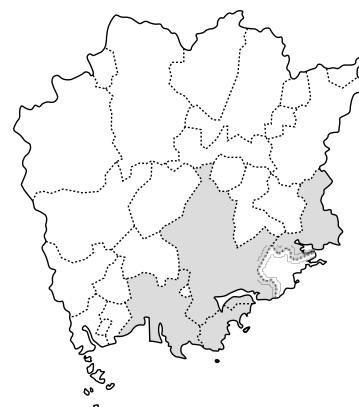
主要文献

星野・正木 (2002, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



ヒルゼンスゲ

Carex impura Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

日当たりの良いササ群落の中や周辺で見られる。定期的な刈り払いが行なわれないとササが優占し、個体数が急激に減少する可能性が高い。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

岡山県北部の蒜山地域（真庭市）のみに分布する。1960～1970年代に採集された標本には、蒜山高原の記録があるが、最近の調査では蒜山頂上付近にしか見つかっていない。

生育状況

蒜山の尾根の半自然草地に生育する多年草。ほとんどの個体が、草原のササの集団に混じって生育している。

基部の鞘が赤褐色である。北陸地方などに分布するタテヤマスゲに似るが、果胞は細長く3.5mm以上あり、先端がやや外曲し、雌鱗片は果胞より短いことで区別できる。小穂を出す株は少ないので見付けにくい。

特記事項

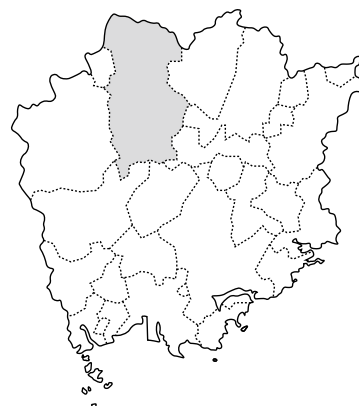
1931年に大井により蒜山をタイプロカリティとして新種記載された。

主要文献

星野・正木（2002, 2011）, 正木編（2018）, 星野（2005）
（星野卓二）



撮影：星野卓二



アオヒエスゲ

Carex insanae Koidz. var. *subdita* (Ohwi) Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

山道の法面整備など、林道工事により個体数が激減した。

存続を脅かす要因

道路工事

分布状況

岡山県内では北部、中部の数カ所に分布する。県外では本州から四国の太平洋沿岸沿いに広く分布する。中国地方の分布はやや希である。

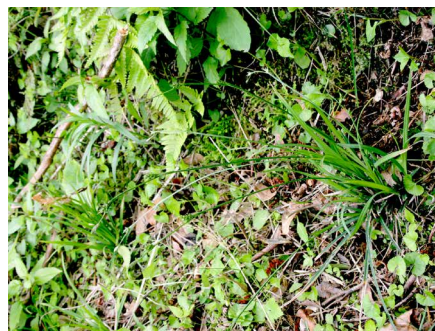
生育状況

二次林、蛇紋岩地、山地の林床や林縁に生える多年草。匍枝はあるが、短くて目立たない。

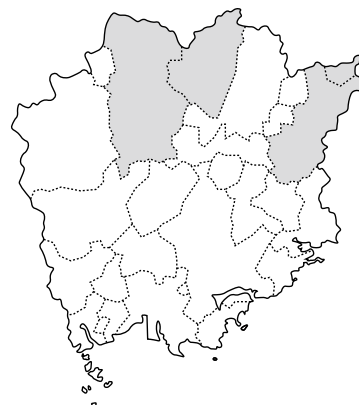
雄小穂は緑白色で、雄小穂が有花茎の中間に1～2個離れてつく。近縁なアオバスゲとは、葉の幅が狭く、雄小穂が赤褐色を帯びず、緑白色であることで区別する。県南部に見られるオオムギスゲとは、葉や基部の鞘に毛を密布しないことや、雌小穂が短く、果胞の口部が特に長いことで区別される。

主要文献

星野・正木（2002, 2011）, 正木編（2018）
（星野卓二）



撮影：星野卓二



ヒメミコシガヤ*Carex laevissima* Nakai

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

草地や路傍に生育するが、定期的な刈り払いがなければ容易に絶滅する可能性が高い。また、林道の工事により絶滅した場合もある。

存続を脅かす要因

道路工事（林道工事）、自然遷移

分布状況

岡山県内では中部や南部の数カ所に分布する。国内では岡山県と兵庫県のみ分布するが、国外では朝鮮半島、中国東北部に生育しており、大陸系の種であると考えられる。

生育状況

山地の草地や路傍に生える多年草。本種は日当たりが良く適度な湿度が必要であり、軽微な環境の変化で生育が困難になる場合が多い。岡山県では中部や南部の数カ所で生育が確認されたが、赤磐市、岡山市では絶滅した集団もある。

葉鞘の腹面がしわ状になっていて、近縁種のみノボロスゲやツクシミノボロスゲと容易に区別できる。

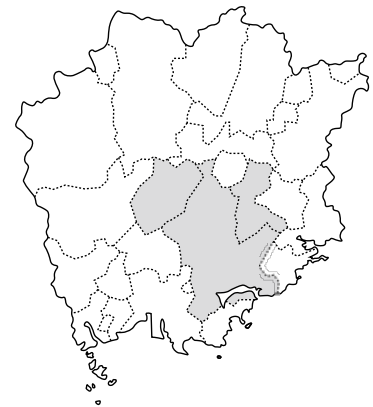
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二

**オオムギスゲ***Carex laticeps* C.B.Clarke ex Franch.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科 ●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

二次林、林縁、路傍に分布する種であり、環境の変化や道路工事により絶滅危惧種の対象となる可能性がある。

存続を脅かす要因

道路工事、自然遷移

分布状況

岡山県内では県南の沿岸地域に分布する。県外では愛知県、瀬戸内海沿岸、小豆島などに生育する。

生育状況

日当たりの良いやや乾燥した路傍や二次林の林縁に生える多年草。全体に軟毛があり、匍枝は短い。雌小穂が大きく、果胞は大型で、嘴は細長い。アオヒエスゲに似るが、小穂が大きく葉や基部の鞘などの植物全体に毛があり、花柱の基部が曲がることで容易に区別できる。別名「チュウゴクスゲ」。

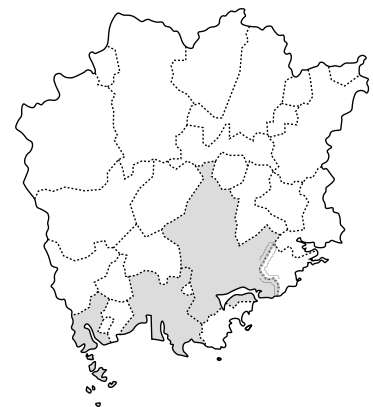
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



センダイスゲ

Carex lenta D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

赤磐市や笠岡市で分布が確認されたが、個体数は少ない。

存続を脅かす要因

道路工事，自然遷移

分布状況

岡山県内では南部の2カ所で生育が確認された。県外では，関東南部以西，四国，九州に広く分布する。

生育状況

やや乾燥した二次林内や芝に生える多年草。ゆるく叢生し，長い匍枝がある。

葉は有花茎より短く，幅1.5～3.5mm，濃緑色，硬質，ざらつく。基部の鞘は葉身があり，濃褐色，繊維状に細裂する。ナキリスゲとよく似ているが，匍枝を出し株立ちしないことで明瞭に区別できる。

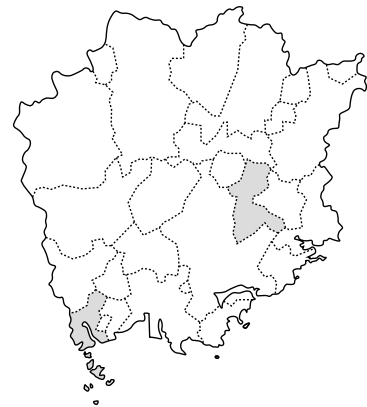
主要文献

星野・正木（2002，2011），正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



ヤガミスゲ

Carex maackii Maxim.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

河川沿いに隔離分布しており，護岸工事などで生育地が狭められるおそれがある。

存続を脅かす要因

草地開発，河川開発（護岸工事）

分布状況

岡山県内では吉井川，旭川，高梁川の下流域に分布する。河川敷や河岸の湿地に生育している。県外では，北海道，本州，九州の河川に広く分布する。

生育状況

河原や河川敷の砂地や湿った草地に生える多年草。叢生する。ホザキマスカサと同所的に生育していることが多い。

有花茎は高さ65～90cm，上部はざらつく。夏期には節間が長く伸び，その後倒れる。葉は有花茎と同長または短く，幅3～6mm。基部の鞘は淡褐色～淡栗色。

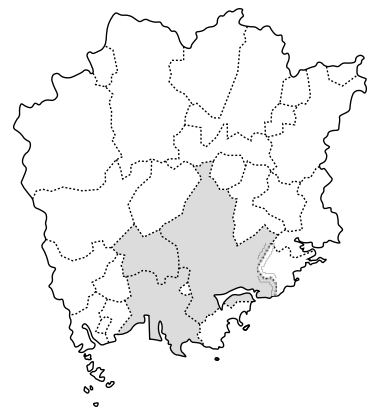
主要文献

星野・正木（2002，2011），正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



カサスゲ*Carex macrandrolepis* H.Lev.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

林道の日当たりの良い法面に見られ、拡張工事で個体数が激減している。赤磐市熊山ほか、岡山県内では2カ所で標本採集記録があるが、再調査しても発見できなかった。生育地の調査およびその保護が必要であると考えられる。

存続を脅かす要因

道路工事

分布状況

県内では赤磐市熊山や岡山市で採集された標本がある。県外では本州（東海地方以西）、四国、九州の沿岸地域に広く分布する。

生育状況

林縁に生える多年草。大株とならず、細長い匍枝を多数出す。日当たりの良い、やや乾燥した路傍に生育する。

植物体全体が硬く、有花茎は細い。果胞は長さ5～6mm、果胞の嘴は長く口部は鋭い2歯となる。

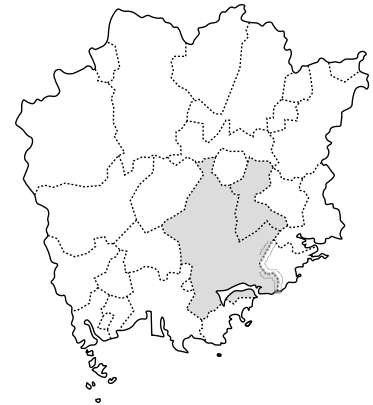
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二

**フサスゲ***Carex metallica* H.Lev.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸沿いで見られるが、海岸工事などの環境変化により絶滅のおそれがある。

存続を脅かす要因

海岸開発, 道路工事

分布状況

岡山県内の南部の備前市と瀬戸内市に分布する。県外では、本州（静岡県以西）、四国、九州、南西諸島の海岸地域に分布する。

生育状況

海岸の路傍や沿海地の草地に生える多年草。大きな集団とはならない。岡山県内に生育する個体は非常に少ないと考えられる。密に叢生する。2009年、広島県大芝島で新たに分布が確認されており、今後、岡山県の島嶼部でも発見される可能性がある。

有花茎は高さ30～70cm、上部はざらつく。頂小穂は雄性または雄雌性、長さ2～5cm、線形～棍棒状、無柄、緑色～淡褐色。側小穂は雌性、まれに基部に雄部をつける雌雄性で円柱形、長さ2～5cm、柄があり、密花。

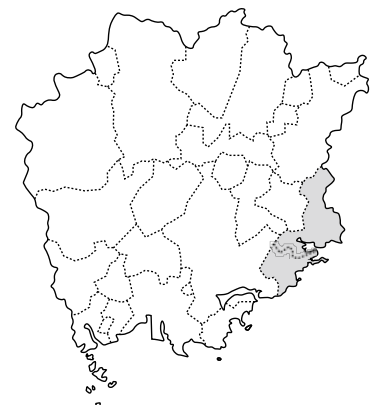
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



ミタケスゲ

Carex dolichocarpa C.A. May. et V.I. Krecz.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北の冷涼な湿地に隔離分布する種であり、開発や自然遷移による環境変化により絶滅しやすいと考えられる。

存続を脅かす要因

湿地開発，自然遷移

分布状況

中国，四国地方の分布は，岡山県の北部の1カ所のみである。県外では，北海道や本州の中部地方以北の湿原の周辺に見られるが，大分県に隔離分布することが報告されている。

生育状況

湿原に生育する多年草。中部地方以北では，湿原の中から周辺にも生育し大きな集団が見られる。岡山県の集団は，個体数も少なく湿原の中央付近に生育している。

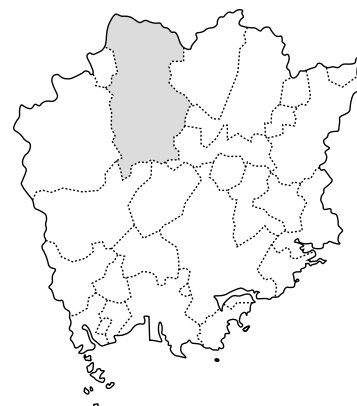
有花茎は高さ20～50cm，平滑。葉は幅3～5mm，黄緑色，わずかにざらつく。小穂は頂部にかたまってつき，頂小穂は雄性で次に続く雌小穂と密着してつき，無柄。果胞は長く，熟すと開出し，披針形，長さ10～13mm，無毛，長嘴で縁に細鋸歯がある。

主要文献

星野・正木（2002，2011），正木編（2018），西本（2005）
（星野卓二）



撮影：星野卓二



ヒメスゲ

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudo

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

山頂の尾根付近の灌木や低木が成長し日照条件が悪くなり，個体数が減少している。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

岡山県内では北部の奈義町那岐山の尾根に生育する。中国地方には那岐山の他，鳥取県や広島県の数カ所で生育が確認されている。県外では，本州，四国，九州の山地から高山の草原や火山灰土上に広く分布する。

生育状況

山頂の草地，岩場および林縁に生える多年草。マット状に生え，匍枝がある。県内では小集団が点在しており個体数は少ない。日当たりの良い草地に生育し，日照条件が悪くなると生育できなくなる。

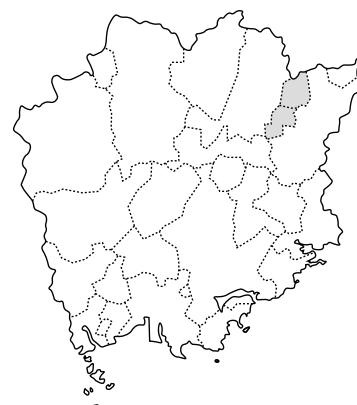
植物は小型で，小穂が頂部にかたまってつき，鞘の基部が赤褐色となることで区別できる。

主要文献

星野・正木（2002，2011），正木編（2018）
（星野卓二）



撮影：星野卓二



グレースゲ*Carex parciflora* Boott

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

山地の湿った林縁に生育することが多いが、伐採等の工事により乾燥化が進めば、個体数が急激に減少する。

存続を脅かす要因

湿地開発

分布状況

岡山県内では北部の湿地周辺に生育する。県外では、北海道、東北地方から山陰地方までの日本海側に分布する。

生育状況

山地の湿った林縁や草原に生える多年草。大株となり、匍枝はない。

コジュズスゲとよく似ているが、葉の幅が広く（グレースゲは5～7.5mm、コジュズスゲは2～5mm）、植物体が大形となることで区別する。

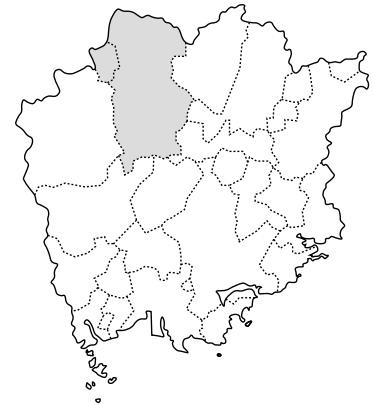
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二

**キビノミノボロスゲ***Carex paxii* Kuk.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山市のみに生育している。定期的に刈り払いなどの手入れが必要である。20年前と比較すると、個体数が減少している。

存続を脅かす要因

管理放棄

分布状況

日本では岡山県の吉備津彦神社にのみに分布する。国外では、朝鮮半島や中国に生育し、岡山県のキビノミノボロスゲは国外から持ち込まれた可能性がある。

生育状況

日当たりの良い、やや湿った草地に生える多年草。大株となる。キビノミノボロスゲが生育する神社の境内では、ロープを張って保護されている。

有花茎は高さ60～80cmとなり、先端に無柄の小穂を密につける。近縁種にミノボロスゲやツクシミノボロスゲがあるが、キビノミノボロスゲだけに果胞の上部に赤みがかった瘤状の突起物があるので容易に区別できる。

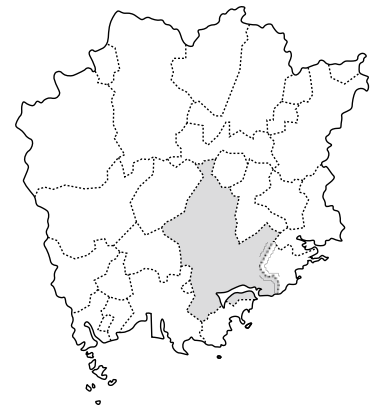
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



ホザキマスクサ

Carex planata Franch. et Sav. var. *angustealata* Akiyama

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

河川敷や河岸に生育しているため、川の増水や護岸工事などの環境変化により個体数が減少するおそれがある。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、自然遷移

分布状況

岡山県内では南部の河川沿い。県外では西日本の河川の下流域に見られる。ホザキマスクサは、最近日本各地で確認された種であり、岡山県の分布も最近明らかになった。

生育状況

河原や河岸に生える多年草。密に叢生する。

有花茎は高さ30～60cm。葉は有花茎より長く、幅2～3mm。花序は7～10個の無柄小穂を散生、長さ10～20cm。小穂は雌雄性、球形～卵形、長さ0.6～1cm、無柄。果胞は雌鱗片よりやや長く、長卵形、長さ3～3.5mm、稜間は少数脈、無毛、両側には基部から先端まで不整細鋸歯縁を持つ狭翼がある。近縁なタカネマスクサに比べ、小穂の数が多く、果胞の翼の幅と雌鱗片の芒が短いことで区別できる。

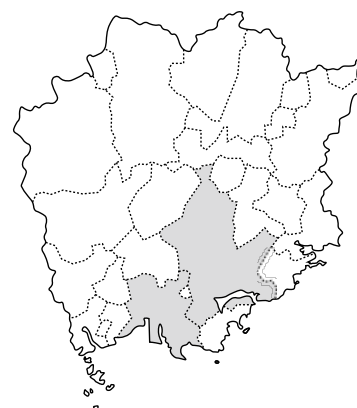
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



マメスゲ

Carex pudica Honda

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

日当たりの良い湿った草地に生育するが、植物体が小形のため発見されにくく、自然遷移や工事などの環境変化により個体数が減少している。

存続を脅かす要因

草地開発、管理放棄

分布状況

岡山県内では北部の湿地の周辺に分布するが、中部の高梁市や吉備中央町でも見られる。県外では、宮城県以南の湿地に分布する。

生育状況

湿原周辺や草地に生える小型の多年草。叢生する。岡山県の北部の生育地は湿原の乾燥化とともに、背丈の高い草本が優占し絶滅した集団もある。

有花茎は大変短く高さ2～7cmで、葉の基部に埋もれる。葉は有花茎より長く、幅2～3mm。雄小穂は長い柄があり直立する。雌小穂はすべて根生し、短い柄がある。

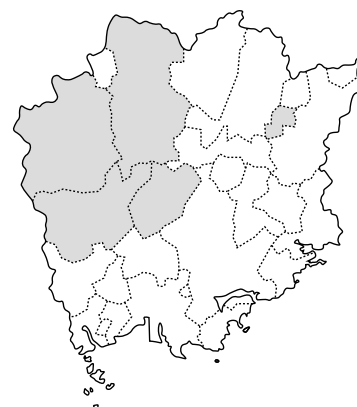
主要文献

星野・正木（2002, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



ヌマガヤツリ*Cyperus glomeratus* L.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県南部の湿地や休耕田に生育し、環境変化や雑草として除去の対象とされやすい。

存続を脅かす要因

自然遷移，草地開発

分布状況

県内では南部の岡山市と備前市の2カ所のみ。県外では、北海道、本州の中国地方以東に分布する。

生育状況

河原や湿地に生える一年草。植物体は叢生し、花穂は多数の小穂を密生してつけ、稈が肥厚して太い。

有花茎は高さ30～80cm，やや太い。葉は幅3～8mm。基部の鞘は淡赤褐色。花序は単一。花穂の中軸は3～5本，長さ10cmに達する。

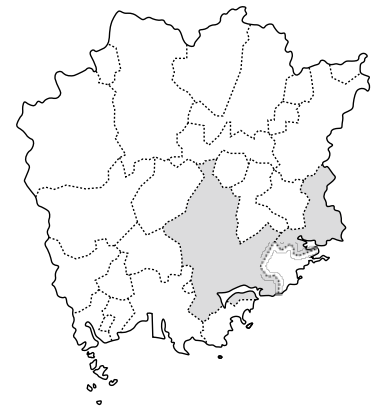
主要文献

星野・正木（2003，2011），正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：小島辰三

**クロミノハリイ***Eleocharis atropurpurea* (Retz.) J. et C.Presl var. *hashimotoi* Ohwi

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由

岡山県内では南部のため池の1カ所のみ生育している。土砂に埋もれたり，水位が高い状態が続くと絶滅するおそれがある。

存続を脅かす要因

産地局限，管理放棄

分布状況

県内では南部の岡山市のため池の縁で確認された。県外では，本州，四国，九州の水田や湿地に希に見られる。

生育状況

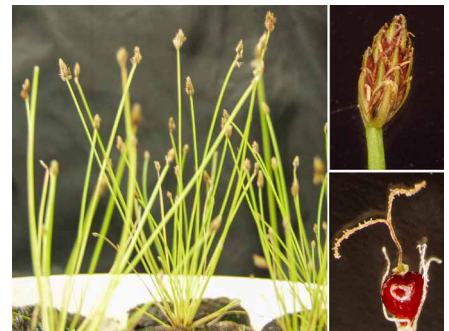
池や沼地の周辺に生える一年草。2002年に岡山市のため池の砂地で初めて確認された。生育が確認できたのは，記録的な干ばつのため，ため池の水が干上がり，埋蔵種子が発芽したためである。その後は確認されていない。

有花茎は細く，高さ5～15cm，溝がある。鱗片は狭卵形，一部に銹色の部分があり，薄質，斜開する。ハリイに似るが，小型で有花茎も細く，柱頭が2個であることで容易に区別できる。また，瘦果は黒色で光沢があり，花柱基部は3角錐状とならず板状である。

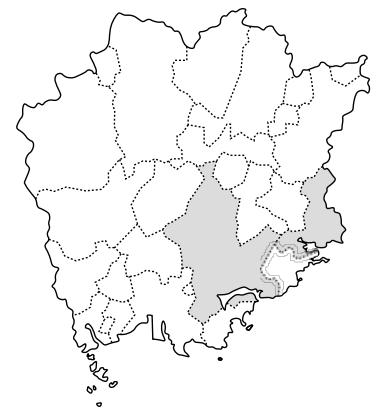
主要文献

星野・正木（2003，2011），正木編（2018），矢野ほか（2009）

（星野卓二）



撮影：星野卓二，矢野興一



チャボイ

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Palla

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

海岸沿いの湿地に生えるが、生育地が限られている。海岸植生の変遷で個体数が急激に減少するおそれがある。

存続を脅かす要因

海岸開発，産地局限

分布状況

岡山県内では南部の備前市と笠岡市の海岸。県外では，本州，四国，九州の沿岸に希に見られる。

生育状況

海水が入り出す塩性湿地に見られる。県内では，海岸沿いの湿地が干潮で干上がった場合のみ確認できる。匍枝の先に塊茎をつくり，越冬する。種子発芽率が高く，栽培しても育つ。

小穂は約3mm，有花茎は高さ3～5cmで小さく，見つけにくい。湿地や谷に広く分布する小型のマツバイとは，基部の鞘が黄白色であり，瘦果の表面は平滑で柱基がふくらまないことで区別できる。

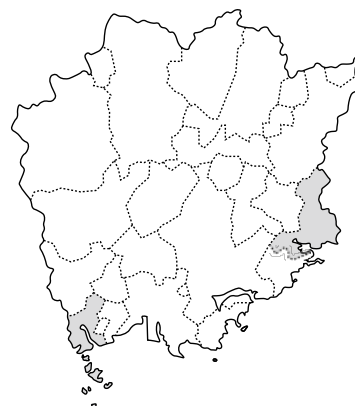
主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



ビロードテンツキ

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

本種の生育に適した海岸砂地の減少により，絶滅したものと考えられる。

存続を脅かす要因

自然遷移，海岸開発

分布状況

岡山県内では南部の笠岡市白石島で採集された標本がある。県外では茨城県や新潟県より西の海岸に広く分布する。

生育状況

海岸の砂地に生える多年草。白石島の海岸では近年改修工事が急速に進み，自然の砂浜が少なくなり絶滅したものと考えられる。

花は8～10月。太く分枝する匍枝を持ち，枯れた葉鞘に覆われる。有花茎は高さ10～30cm，やや太く硬い。植物体全体がビロード状の毛で覆われている。花序は短い柄を持つことがあり，3～10個の小穂を頭状につける。

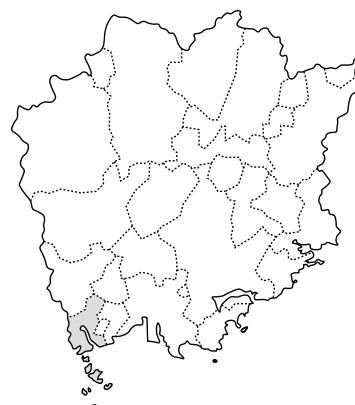
主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



クロタマガヤツリ*Fuirena ciliaris* (L.) Roxb.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

池の周辺の砂地や湿地に生育する。2008年に再発見された場所は、池の水が少なくなった岸の砂地であり、わずかな環境変化により絶滅するおそれがある。

存続を脅かす要因

産地局限, 管理放棄

分布状況

岡山県内では南部の倉敷市および岡山市のため池。県外では、関東地方、三重県、兵庫県以西、四国、九州に分布する。畑や河川の改修などで新たに出現する場合もあるが、集団の絶滅も頻繁に起こっている。

生育状況

池の砂地に生える一年草。県内では、倉敷市の個体が絶滅して以降、2008年に再発見されるまでの約50年間は確認されることがなかった。

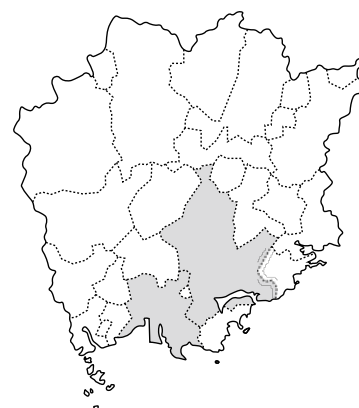
花は9～10月。和名は「黒珠蚊帳吊」で、小穂が黒いことに由来する。花被片は6本であり、そのうち3本が平板状であることで他のカヤツリグサ科植物と容易に区別できる。また、鱗片など植物全体に長い軟毛を持つ。

主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018), 池田ほか (2008)
(星野卓二)



撮影：池田 博

**ミカツキグサ***Rhynchospora alba* (L.) Vahl

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限られている。湿原近くの池の護岸工事により、乾燥化が進行し個体数が激減している。

存続を脅かす要因

産地局限, 池沼開発

分布状況

岡山県内では玉野市でのみ採集記録があるが、個体数は激減している。県外では、北海道、本州、九州の山地から亜高山帯の湿地に分布。

生育状況

日当たりの良い水湿地に生える多年草。叢生し、有花茎は細く、葉は糸状で有花茎より短い。

イヌノハナヒゲ属では、ミカツキグサだけ小穂が白いことで区別できる。

関係法令の指定状況

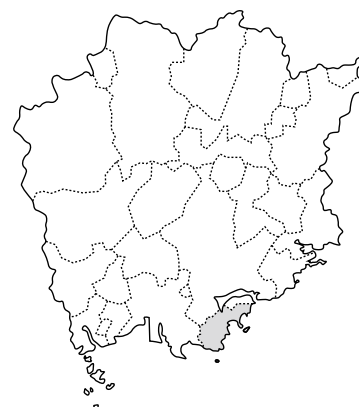
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018)
(星野卓二)



撮影：星野卓二



維管束植物

イヌヒメカンガレイ *Schoenoplectiella mucronata* (L.) J.D.Jung et H.K.Choi var. *antrorsispinulosa* (Iokawa, K.Kohno et Daigobo) Hayas.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県がタイプロカリティであり、岡山市の正和池の岸辺の湿地に生育しており、分布域が限られている。正和池の環境変化や護岸工事などで絶滅するおそれがある。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移

分布状況

岡山県岡山市の正和池にのみ分布する。

生育状況

池の岸の湿地に生育する。タイプロカリティは岡山県岡山市北区大崎正和池である。個体数は少なく，大雨による土砂の流入などの影響を受けやすい環境である。

母種ヒメカンガレイとは瘦果の刺針のざらつきが上向き（ヒメカンガレイは下向き）であることで区別する。

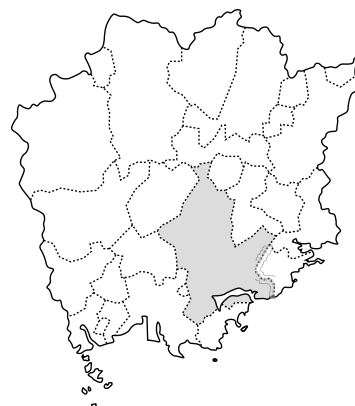
主要文献

星野・正木（2003，2011），正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



シズイ

Schoenoplectus nipponicus (Makino) Sojak

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

湿地で希に見られる。山地の湿地の自然遷移や開発などにより絶滅するおそれがある。

存続を脅かす要因

草地開発，管理放棄

分布状況

岡山県内では北部の新見市，真庭市など，中部の高梁市で見られ，南部の岡山市にも分布する。県外では北海道，本州，四国，九州の山地の湿地や水田に見られ，休耕田にも分布する。最近，全国的に個体数が急激に減少している。

生育状況

池沼地，湿地，水田やため池などの浅い水中に生えるやわらかい多年草。地下に細長い根茎を伸ばし，その先に塊茎を作る。まばらに叢生する。かつては水田の雑草として駆除の対象となったが，最近では個体数が激減し，ほとんど見られなくなった。

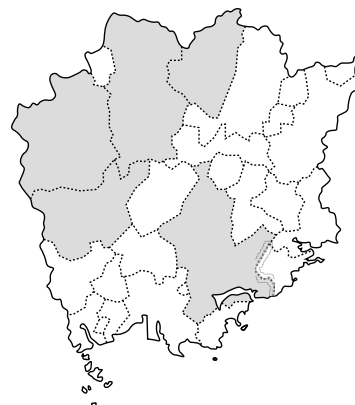
主要文献

星野・正木（2003，2011），正木編（2018）

（星野卓二）



撮影：星野卓二



マツカサスキ*Scirpus mitsukurianus* Makino

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県南部の湿地に生育するが、生育地は限られている。自然遷移や環境変化による乾燥化などにより個体数が減少するおそれがある。

存続を脅かす要因

自然遷移, 道路工事

分布状況

県内では南部の岡山市, 倉敷市, 備前市に分布するが個体数は少ない。県外では, 本州, 四国, 九州の広い地域に分布する。

生育状況

日当たりのよい平地の湿原, 池沼地に生える多年草。花は8～10月。植物体は大株となる。

稈は高さ1～1.5m, 直立し, 太くて硬く, やや丸く, 5～7個の節がある。葉は硬く線形, 幅4～8mm, 扁平。花序は散房形。小穂は無柄, 長さ4～5mm, 楕円形, 完熟すると濃褐色となり, 10～25個ずつ集まって花穂をつくる。マツカサスキは鱗片が披針形であり, 狭卵形の鱗片を持つコマツカサスキから区別できる。

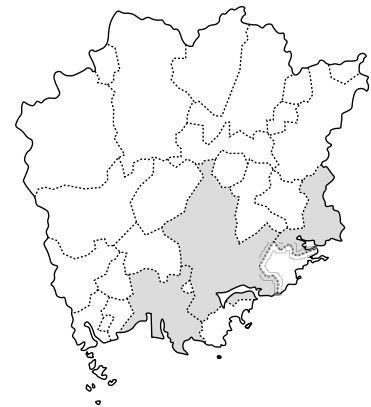
主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：小島辰三

**カガシラ***Scleria caricinum* R.Br.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

岡山県内では中部と南部の湿地に分布するが、小型の一年草であり、自然遷移や工事などの環境変化により個体数が急激に減少する場合がある。

存続を脅かす要因

自然遷移, 産地局限

分布状況

県内では中部や南部の湿原に生育する。県外では, 千葉県以西の湿原に希に見られる。

生育状況

湿地にやや希に生える小形の一年草。本種は小型であり、稈の長いイネ科やカヤツリグサ科の植物が優占する場所では見つけにくい。

有花茎は単一あるいは基部から分かれ, 高さ5～15cmで3稜。葉は長さ1～3cm, 幅2～3mmで軟質。分花序は短い柄があって葉腋につき, 長さと同幅ともに3～5mm, 淡緑色。密に小穂をつける。

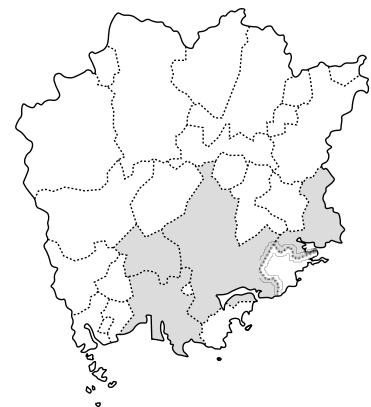
主要文献

星野・正木 (2003, 2011), 正木編 (2018)

(星野卓二)



撮影：星野卓二



シンジュガヤ

Scleria levis Retz.

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

草地に生育するため、周囲の草丈が高くなると生育条件が悪くなり、絶滅の可能性がある。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

岡山県内では南部の瀬戸内市と備前市に分布する。中国地方での記録はほとんどなく、これまで邑久郡長島で1952年に採集された標本が1点残っているのみであったが、2003年に備前市で生育が確認された。県外では、静岡県以西に希に見られる。



撮影：星野卓二

生育状況

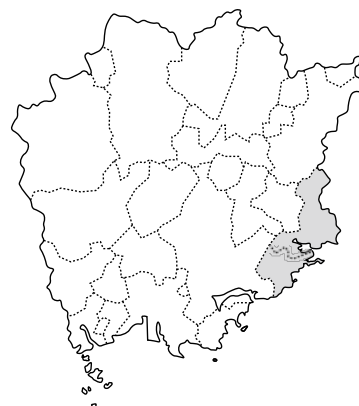
日当たりの良い、やや湿った半自然草地に生える。

有花茎は直立して、高さ70～100cm、鋭稜があって著しく下向きにざらつき、多数の節がある。多年草で大形であり、太くて長い匍枝を持ち、瘦果の表面が平滑であること、鱗片が濃紫褐色であることで、ほかのシンジュガヤ属の種とは区別できる。

主要文献

星野・正木（2003, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



ミカワシンジュガヤ

Scleria mikawana Makino

被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

生育地が限られており、個体数も少ない。岡山県では道路に接した湿地の周辺に生育するため、乾燥などの生育環境の変化で絶滅の危険性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移

分布状況

県内では南部の1カ所に生育している。県外では、関東地方以西に分布するが、個体数は少ない。



撮影：星野卓二

生育状況

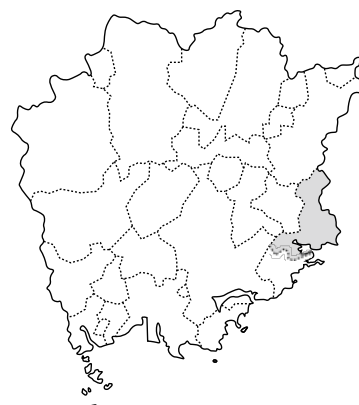
山草地や湿地に生える一年草。叢生し、全体灰緑色。有花茎や葉、花序は直立する。岡山県南部の個体数は少なく、しかも一年草であり絶滅の危機にさらされている。

コシンジュガヤに似るが、葉鞘に翼がなく、瘦果の格子紋に光沢がないことで区別される。また、瘦果の下部にある基盤の裂片は長楕円形で、先は急にとがることもコシンジュガヤと異なる。

主要文献

星野・正木（2003, 2011）、正木編（2018）

（星野卓二）



ヒロハノハネガヤ*Stipa coreana* Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

北海道、本州、四国、九州の草原や林中に生える。岡山県内では中部と北部の林縁に生育している。

生育状況

多年草で匍枝はなく、稈は直立して60～100cm。葉身は平らで長さ10～30cm、幅7～15mm、両端とも細くとがる。葉鞘口部の近くの外面に軟毛の輪がある。葉舌は1mm以下。円錐花序は少数の枝を分けるが、枝は直立し、小穂は花軸に圧着するので、総状花序のように見える。小穂は1小花よりなり、長さ12～15mm。包穎は淡緑色でともに小穂と同長、護穎は淡褐色で外面に軟毛があり、先端から2～3cmの直立した太い芒が伸び出す。花期は8～9月。近縁種のハネガヤは花序の枝が斜めに開くことなどで簡単に区別でき、別属として扱われることもある。

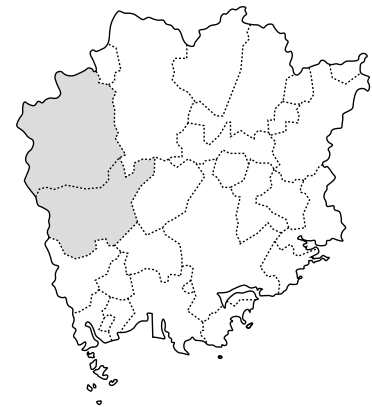
主要文献

大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬

**ヒロハノコヌカグサ***Aniselytron treutleri* (Kunze) Soják var. *japonicum* (Hack.) N.X.Zhao

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

元々の分布が限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

本州の深山中に希に生える。岡山県内では北部の高地の自然林に生育する。

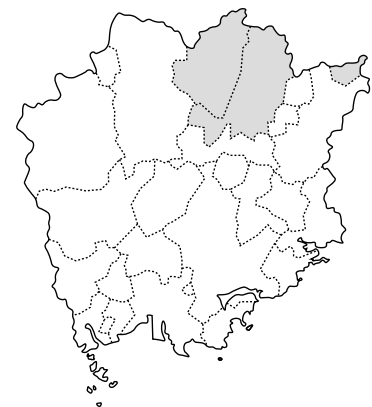
生育状況

多年草で、稈は柔らかく、高さ1m内外。全草無毛。葉は鮮緑色を帯びる。葉身は薄く、長さ20～30cm、幅10～22mm、両面ともはなはだざらつく。葉舌は高さ2～5mm。花序は円錐状で直立、長さ10～30cm。枝は輪生し、主軸から直角に出て、ざらつき、ごくまばらに小穂をつける。小穂は1小花よりなる。小穂は長さ3.5mm、包穎は小穂よりはるかに短く、第1包穎は第2包穎のほぼ半長。花期は5月。

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ヒゲノガリヤス

Calamagrostis longiseta Hack.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

分布量が少ないため。

存続を脅かす要因

草地開発

分布状況

本州の山地の草原に生える。岡山県内では北部の草原に分布している。

生育状況

多年草で根茎は短く、稈は束生する。高さ20～80cm、基部は径2mm。葉身は長さ15～30cm、幅2～4mm、上面白緑色。葉鞘は無毛。葉舌は高さ1～3mm。円錐花序は長さ7～14cm、やや密に小穂をつける。小穂は1小花よりなり、長い基毛があり、長さ4～5mm。護穎の中央脈は中央脈上部から長さ6～12mmの芒となり、途中でよじれて屈曲している。他の4脈も短芒となっている。花期は7～10月。近縁種のノガリヤスはごく普通種であり、変異も大きいですが、中央脈の基部近くから芒となることによって、区別できる。



撮影：榎本 敬

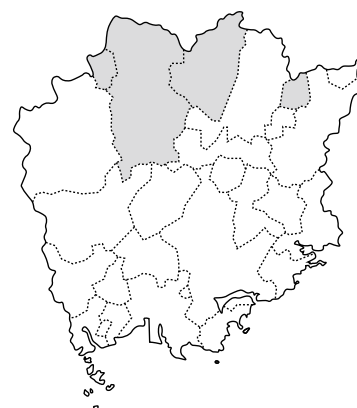
関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

狩山ほか（1990）、大久保（1999）

（榎本 敬）



ホッスガヤ

Calamagrostis pseudophragmites (Hallier f.) Koeler

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

湿地が開発され、生育地が少なくなったため。

存続を脅かす要因

海岸開発、湿地開発

分布状況

北海道、本州の河原などの湿地に自生する。岡山県内では岡山市の湿地で生育が確認されている。

生育状況

多年草で長い根茎とほふく枝により、群落を形成する。稈は高さ1.1～1.5m。葉は灰緑色、葉身は長さ10～30cm、幅3～9mm、両面とも白緑色でざらつく。葉舌は長さ3～9mm。花序は長さ20～30cm。枝は輪生し、非常にざらつく。小穂は1小花より成り、第1包穎は長さ6～9mmと第2包穎の長さ4～5mmよりも長い。護穎は先端が2裂し、その間から芒が出る。銀白色の基毛は長いですが、第1包穎よりは短い。果実は長さ1.3mm、幅0.4mm。花期を過ぎると花序全体が垂れ下がる。花期は6月。近縁種のヤマアワは包穎は同長で、芒は護穎の背面から出ることによって区別できる。

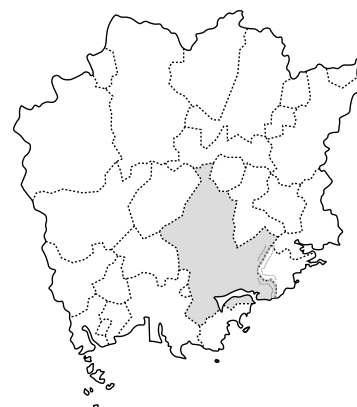


所蔵：岡山大学資源植物科学研究所

主要文献

小島ほか編（2005）、小島ほか（2000）

（榎本 敬）



ミズタカモジ*Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A.Löve

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

水路のコンクリート化などで、生育地が減少したため。

存続を脅かす要因

土地造成, その他(水田管理の変化, 水路の三面コンクリート化)

分布状況

本州, 四国, 九州に分布する。岡山県内では南部の水田のまわりなどに見られたが、現在確実に残っている場所は3カ所しかなく、その場所も開発の危険性が迫っている。



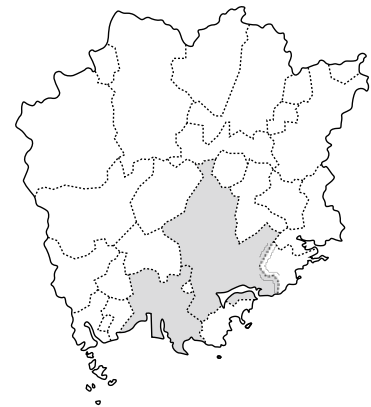
撮影：榎本 敬

生育状況

多年草で稈は束生する。高さ40～60cm。葉身は長さ7～15cm、幅3～7mm。葉鞘は無毛で、葉舌は高さ0.7mm。穂状花序は直立し長さ10～20cm。小穂は花時も花軸に圧着する。小穂は長さ17～22mm、無毛、淡緑色で成熟すると紫褐色になり、小花は5～7個。内穎は護穎と同長、果実は長さ5.5mm、幅1.2mm。花穂が成熟すると一番上の葉をつけたまま脱落する。この特徴は穂を上側に引き抜いた時にも一番上の葉がついた状態でちぎれるので、他の種類と区別するのに役に立つ。花期は5月。カモジグサやアオカモジグサと雑種を作ることがあるが、雑種は種子が不稔である。

主要文献

狩山ほか(2001), 小島ほか編(2005), 小島ほか(2000)
(榎本 敬)

**ヌマカゼクサ***Eragrostis aquaticus* Honda

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の、元々の分布地が限られているため。

存続を脅かす要因

湿地開発, 産地局限, その他(湖岸への車の乗り入れ)

分布状況

本州, 四国の沼や池のほとりに、希に分布する。岡山県内ではダム湖の水辺で生育が確認されている。

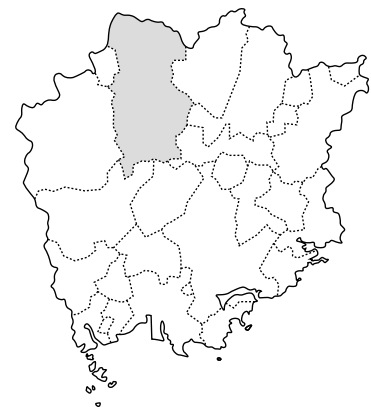


撮影：榎本 敬

生育状況

多年草で、根茎はなく、稈はまばらに束生する。高さ15～50cm。葉は線形で長さ5～20cm、幅2～5mm、先は鋭尖形、質がやや厚い。葉舌は退化し、微毛の列となっている。葉鞘口部にまばらな長毛がある。円錐花序は8～15cm、花序の枝は2～数本出ることがある。小穂は柄が短く、側小穂はしばしば無柄で枝や小枝に圧着する。小穂は暗紫色を帯びた灰色、長さ5～15mm、幅1.3～1.7mm、小花は7～22個。包穎は長さ1～2mm、護穎は長さ2mmで3脈。果実は黄褐色で長さ1mm。花期は9月。近縁種のイトスズメガヤは小穂が紫色を帯びることなく、明らかな柄があり、枝に圧着しない。

(榎本 敬)



イトスズメガヤ

Eragrostis brownii (Kunth) Nees

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

南方系の種であり、岡山県内での分布が不安定なため。

存続を脅かす要因

湿地開発

分布状況

本州、四国、九州、沖縄の日当たりの良い湿地に生える。県内では北部、南部で標本採集の記録がある。

生育状況

多年草で根茎はほとんどなく、根元にタケノコの形をした新芽をつくる。稈は少数束生、直立し、高さ20～60cm、硬くて細い。葉身は長さ10～20cm、幅1～2.5mm、ゆるく内巻きし、やや硬く、ほとんど無毛。葉鞘口部に白色の長毛がある。葉舌は毛の列となる。円錐花序は7～20cm、枝は花軸の節に単生する。小穂は腺がなく、長さ5～10mm、幅1.7～2mm、灰緑色～暗緑色、10～24小花からなる。果実はだ円形、淡緑色、長さ0.6mm。花期は10月。近縁種のヌマカゼクサの小穂は紫色を帯び、小穂は明らかな柄を持っている。

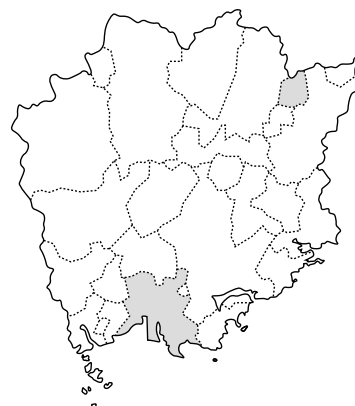
主要文献

狩山ほか (1990), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



所蔵：岡山大学資源植物科学研究所



コゴメカゼクサ

Eragrostis japonica (Thunb.) Trin.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ダムの建設などにより、河川敷の増水の頻度が少なくなり、生育地が減少したため。

存続を脅かす要因

河川開発, ダム建設, その他 (水田管理の変化)

分布状況

本州、四国、九州、沖縄の湿地や河川敷に生える。岡山県内では南部から中部にかけての河川敷や田の畦などに生育している。

生育状況

一年草で稈は叢生し、高さ50～120cm。葉身は長さ6～20cm、幅2～6mm。葉鞘は無毛。葉舌は高さ0.5mmで、上縁は細裂する。円錐状花序は長さに比べて幅が狭く円筒形、直立。多くの小枝を分け多数の微細な小穂を密生する。小穂は長さ1.3～2.2mm、幅1～1.2mm、3～7小花よりなり、紅紫色。包穎はほぼ同型で長さ0.5mm、護穎は長さ0.7mmで内穎は護穎よりわずかに短い。果実は裸出して落ち、長さ0.4mm。花期は9月。近縁種でこのように小さい小穂をつける種にヌマカゼクサがあるが、葉鞘口部と内穎の縁に毛があることで区別でき、岡山県での記録はない。

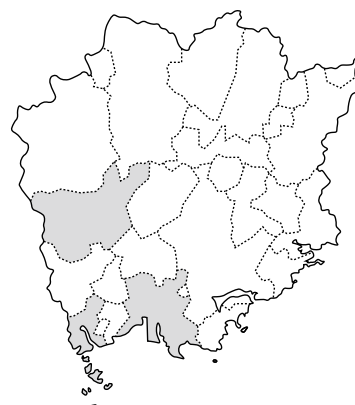
主要文献

狩山ほか (2001)

(榎本 敬)



所蔵：岡山大学資源植物科学研究所



ウンヌケモドキ*Eulalia quadrinervis* (Hack.) Kuntze

被子植物 单子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

元々の分布量が少ないため。

存続を脅かす要因

道路工事, 自然遷移

分布状況

本州, 四国, 九州, 沖縄の山地草原に生える。岡山県内では南部の花こう岩のやせた土地に生えている。

生育状況

多年草で稈は束生して直立, 高さ60~100cm。稈の基部はふくらず鱗片状で光沢のある鞘がある。葉鞘はやや密に白毛に覆われる。葉舌は切形で低い。花序は3~7個の総からなり, 総は斜めに立って長さ6~12cm。小穂は長さ5~6mm, 有柄のものと無柄のものが対になってつく。果実は長さ2mm, 幅0.8mm。花期は10~11月。近縁種のウンヌケは第1包穎の外面に毛が多く, 総全体の毛がずっと多く見え, 稈の基部はふくらんで, 黄褐色の毛を密生する鱗片状の鞘があることで区別できるが, 県内での記録はない。

特記事項

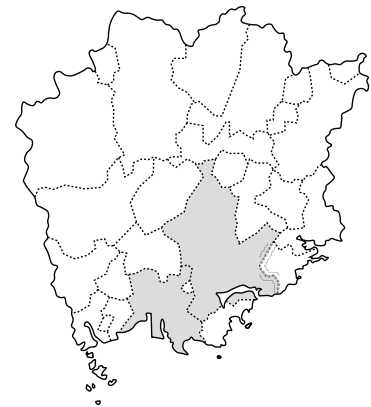
裸地を好むためか, 道路工事で切り開かれた場所などに生育を始めたこともあった。

主要文献

榎本ほか (1991), 狩山ほか (1998), 狩山ほか (2001), 狩山ほか (1990), 狩山ほか (2000), 小島ほか編 (2005), 小島 (2000), 大久保 (1999) (榎本 敬)



撮影：榎本 敬

**コウボウ***Hierochloa glabra* Trin. subsp. *sachalinensis* (Printz) Tzvelev

被子植物 单子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

北方系の植物で, 岡山県内では元々の分布が少ないため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

北海道, 本州, 四国, 九州の草原に生える。岡山県内では所々に記録があり, 草原では群生していることもあるが, 少ない。

生育状況

多年草で根茎は長くまばらに稈を立てる。稈は直立し, 高さ20~50cm。稈状の葉身は皮針形長さ1~4cm, 幅3~7mm, 根生葉や新苗の葉身は線形で長さ10~30cm, 幅2~5mm。葉鞘には下向きの毛が生える。葉舌は高さ1.5~3mm。花序は長さ4~8cm, 枝は2~3本ずつ出, それぞれ数個の淡黄褐色の小穂をつける。小穂は長さ, 幅ともに4~6mm, 3小花よりなる。3小花のうち下の2個は雄性, 上の1個が両性。花期は4~5月。

特記事項

ハンググライダーの着地点やスキー場などで見られるものは, 草刈りが行われることで, 存続しているように考えられる。

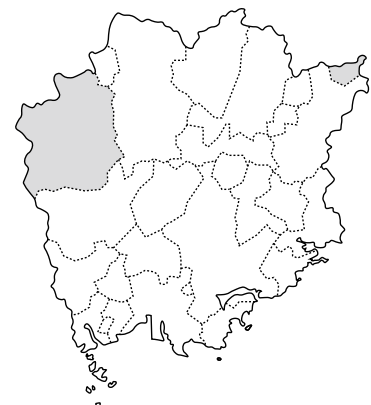
主要文献

狩山ほか (1990), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



所蔵：岡山大学資源植物科学研究所



ハイチゴザサ

Isachne nipponensis Ohwi

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

産地が限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

本州，四国，九州，沖縄などの林中，湿地に生える。岡山県内では数カ所に産地が知られているが，少ない。

生育状況

多年草で主幹は節部から発根しながら，地表をはい，節ごとに直立した稈を立てる，高さ5～10cm，無毛。葉は長だ円形から広披針形，長さ10～30cm，幅4～8mm，質は薄く，へりは白く縁取られ波を打つ。葉舌はほとんどなく，白色の長毛列となる。花序は円錐形，長さ1.5～5cm。枝は細くて，それぞれ1～5小穂をつける。小穂は長だ円形，長さ1.5mm，2小花よりなる。果実は長さ1.3mm，幅0.8mm。花期は9～10月。近縁種のチゴザサとは小穂の柄に腺がないことによって区別されるが，葉の形や生育場所などからも別種であることが推定できる。

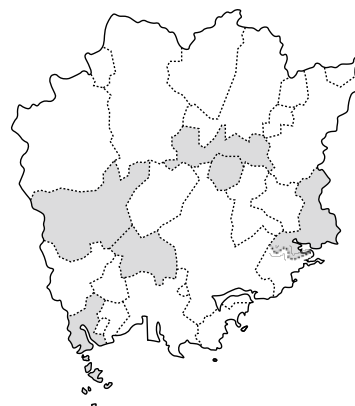
主要文献

榎本ほか（2003），狩山ほか（2006），小島ほか編（2005），小島ほか（2000），大久保（1999）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



ケカモノハシ

Ischaemum anthephoroides (Steud.) Miq.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸が開発され，生育地の砂浜が減少したため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

北海道，本州，四国，九州の海岸砂地に生える。岡山県内でも南部の砂地の海岸に生育している。

生育状況多年草で稈は束生，斜めになった基部から立ち上がり，高さ30～80cm。節部には銀白色の軟毛を密生する。葉は長さ7～20cm，幅8～12mm，葉鞘と共に平伏した密毛がある。葉舌は1mm内外。花序は扁平な2個の総からなり，総は互いに接しあって一つになっているように見える。小穂は表面に毛が生え，長柄をもつ小穂と短柄の小穂が対になっている。長柄の小穂は2個の雄性小花よりなり，短柄の小穂は1個の両性小花と1個の雄性小花よりなる。果実は長さ3mm，幅1.7mm。花期は7～10月。近縁種のカモノハシは節に毛がなく，一般的には淡水の流れている場所に生え，区別できる。

特記事項

海水浴場近くの個体群は除草などにより絶滅している。

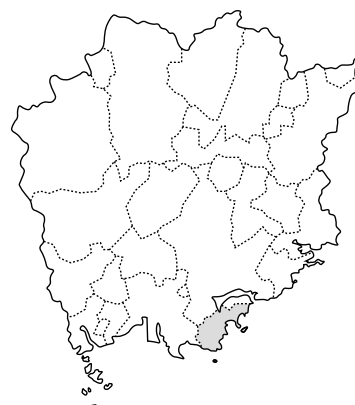
主要文献

榎本（1998a），狩山ほか（1990），大久保（1999）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



トウササクサ*Lophatherum sinense* Rendle

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では、元々の分布が限られているため。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限

分布状況

本州、四国、九州の暖地の林中に生える。岡山県内では中部にわずかに生育している。

生育状況

多年草で稈は多数叢生する。高さ60～90cm。葉身は披針形で基部は丸い。小穂は1個の稔性のある小花と護穎だけに退化した数個の小花よりなり、それぞれの穎には下向きの鋭い刺針を持つ棒状の芒があり、熟せば小穂ごと動物などに付着する仕掛けになっている。小穂は長さ7～8mm、扁平で、護穎は背側に著しくふくれ出す。小穂の幅が広いので、枝上にすき間なく並んで見える。果実は長さ4mm、幅2mm。花期は8～10月。近縁種のササクサは小穂は円筒形で、護穎は背側にふくれ出さず、枝上の小穂の間隙は空いている。県内にはササクサの方がずっと多く分布している。

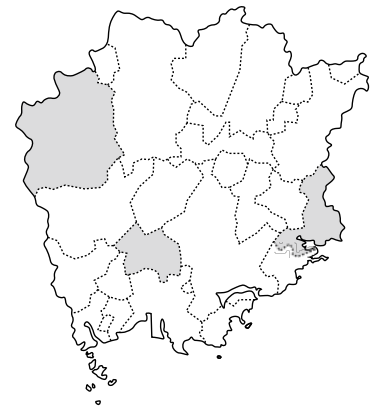
主要文献

難波（1993）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬

**イブキヌカボ***Milium effusum* L.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

北方系の植物であり、岡山県内の分布は県北の一部の産地に限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

北海道、本州、四国、九州の山林や草原に生える。岡山県内では北部の山地に自生するが少ない。

生育状況

軟弱で無毛の多年草、長い根茎が横に伸びる。稈は単立あるいは少数束生し、高さ60～120cm。葉身は長さ10～20cm、幅6～15mm、無毛。葉鞘は無毛で平滑、葉舌は高さ3～10mm。円錐状花序は直立または先が垂れ、長さ15～25cm、幅7～12cm。枝は2～5個輪生し、横あるいは少し下向きに開く。小穂は有柄、淡緑色で長さ3～3.5mm、1小花よりなる。護穎と内穎は厚くて光沢がある。果実は長さ3.3mm、幅1.5mm。花期は6～7月。

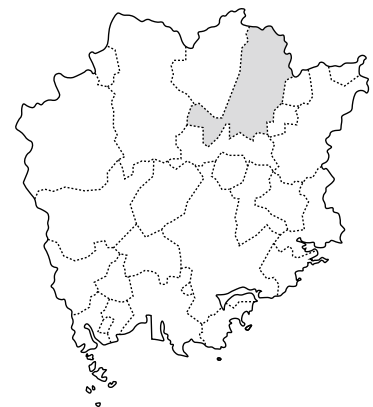
主要文献

狩山ほか（2000）、大久保（1999）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



スズメノコビエ

Paspalum scrobiculatum L. var. *orbiculare* (G.Forst.) Hack.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

南方系の種であり、岡山県内での分布が限られているため。

存続を脅かす要因

池沼開発，自然遷移

分布状況

本州，四国，九州，沖縄，旧熱帯に分布する。県内では，南部の倉敷市などで見つかった。

生育状況

多年草で稈は束生する。最下部の葉鞘にまばらに毛があることもあるが，通常は葉は無毛。高さ40～80cm。葉は平らで長さ7～25cm，幅3～7mm。葉舌は高さ0.5～2mm，葉鞘口部には少数の毛がある。花序は3～6本の総からなり，総は中軸にまばらにつき，長さ3～6cm。小穂を2～3列すき間なくつける。小穂は淡緑色，だ円形～倒卵状だ円形，長さ2～2.5mm，普通は無毛。果実は長さ2.2mm，幅1.8mm。花期は8～10月。近縁種のスズメノヒエは葉や葉鞘に毛が多く，小穂は円形で少し大きい。

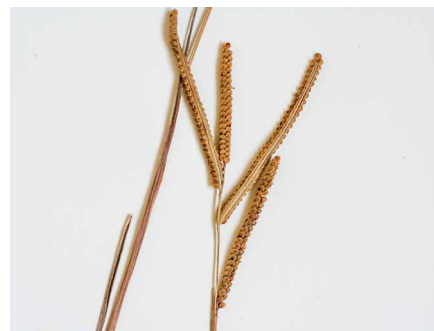
特記事項

南方系の植物であるため，分布の北限に近いと考えられる。

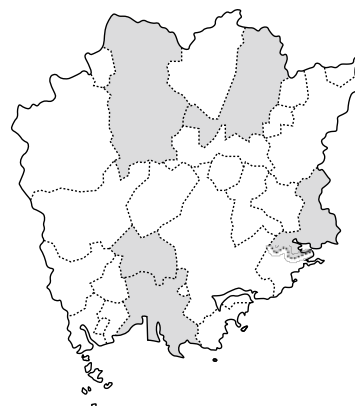
主要文献

狩山ほか（2000），狩山ほか（2006），小島ほか編（2005），小島ほか（2000），大久保（1999）

（榎本 敬）



所蔵：岡山大学資源植物科学研究所



アイアシ

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地がほぼ海岸に限られ，開発によって生育地が減少しているため。

存続を脅かす要因

海岸開発，河川整備

分布状況

北海道，本州，四国，九州に分布する。岡山県では海岸の砂浜の奥に生育している。河口付近の湿地や河川敷にも分布しているが，生育量は多くない。

生育状況

高さ1～1.5mの大型な多年草で，根茎は長く，太さ3～5mm程度。節ごとに稈を出し，横に広がり，中実。葉身は長さ20～40cm，幅1～3cm。花序は5～10本の総からなり，節ごとに対に付く。

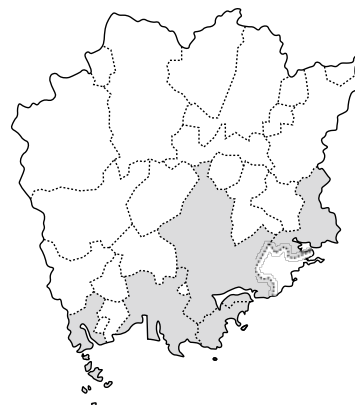
主要文献

長田（1994）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



アワガエリ*Phleum paniculatum* Huds.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

河原の氾濫原に生えることが多く、河川敷に氾濫が少なくなり、自然遷移で減少している。

存続を脅かす要因

ダム建設, 自然遷移

分布状況

本州, 四国, 九州の日当たりの良い草原に生える。岡山県内では河川敷の草原に生えることが多い。

生育状況

一年草で、稈はまばらに束生し、高さ15～50cm。葉身は線状披針形、平らで、長さ3～8mm、幅2～4mm。小舌は長さ2～4mm。円錐花序は多数の小穂が密集し、円柱形となり、長さ3～8cm、幅4～6mm。花穂は淡緑色で、熟すと黄白色となる。小穂は1小花よりなり、長さ2～2.5mm。包穎はかたく竜骨がある。護穎の縁には多くの細かい刺状の歯がある。小花は包穎のほぼ半長。果実は長さ1.5mm、幅0.8mm。花期は5～6月。近縁種のオオアワガエリは牧草として栽培され、野生化もしているが、多年草である点と包穎の側面が長方形であることなどにより、簡単に区別できる。

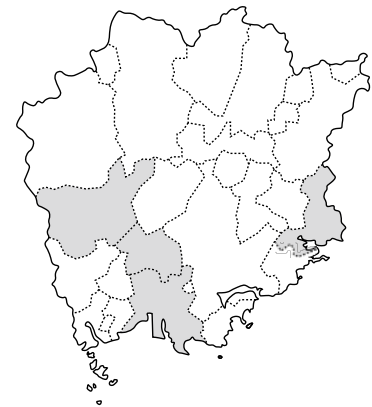
主要文献

大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬

**ムカゴツツリ***Poa tuberifera* Faurie ex Hack.

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の自生地が限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

本州, 四国, 九州に希に生える。岡山県内では北部と中部の山林中に自生している。

生育状況

多年草で根茎はない。稈はやや束生する。稈の基部の2～3節がふくれて、球状になる。高さ20～40cm。葉身は明るい緑色で柔らかく、長さ5～15cm、幅2～4mm。葉鞘は基部から中央部まで縁がゆ着している。葉舌は高さ1～2mm。花序は長さ5～10cm、枝は1～2本ずつ出て、それぞれの枝に1～3個の小穂がまばらにつく。小穂は長柄をもち 明るい緑色 長さ5～6mm 2～4小花よりなる。内穎は護穎より短く、竜骨上に長軟毛が並んで生える。花期は4～6月。稈の基部が球状になる近縁種にタマミゾイチゴツナギがあるが、小穂その他全体が大きいので見誤ることはない。

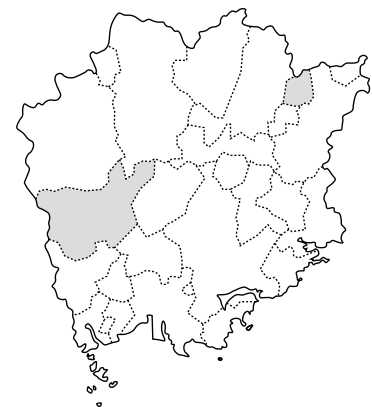
主要文献

狩山ほか (1990), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：狩山俊悟



モロコシガヤ

Sorghum nitidum (Vahl) Pers. var. *dichroanthum* (Steud.) Ohwi

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

産地が限られている。また岡山市の産地では、意識的な草刈りなどの管理によって生き延びており、放置や土地の管理方法が変われば、絶滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

管理放棄，自然遷移，産地局限

分布状況

本州，四国，九州，沖縄の明るい草原に生える。岡山県内では南部の岡山市の1カ所の群落のみが存続している。

生育状況

多年草で，高さ50～100cm。節部にだけ白毛が輪生。葉身は長さ20～50cm，幅5～10mm，へりは著しくざらつく。葉鞘の上部とへりには上向きの毛がある。円錐花序は直立，長さ10～25cm，中軸も枝も小枝を分けることなく，波状に屈曲，上部にだけ数個の小穂をつける。小穂は長さ4～5mm，褐色の長毛に覆われ，有柄の第1小穂と無柄の第2小穂が対につく。有柄小穂は雄性で，無柄小穂は両性である。包穎は革質，黒褐色で光沢がある。第2小花の護穎には長さ2～2.5cmの芒がある。果実は長さ2.5mm，幅1.3mm。花期は9～10月。

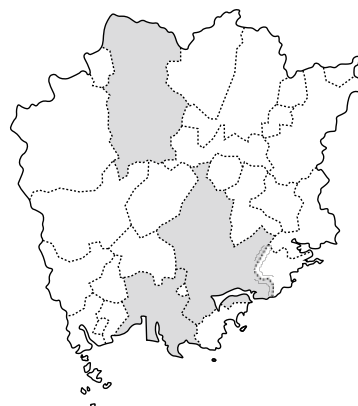
主要文献

狩山ほか（1990），小島ほか編（2005），小島ほか（2000），大久保（1999）

（榎本 敬）



撮影：岡本泰典



ヒゲシバ

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

2006年，自生地が36年ぶりに発見されたが，面積に限られ，絶滅する危険性が高いため。

存続を脅かす要因

湿地開発，自然遷移

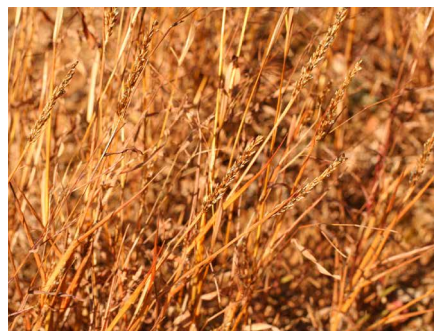
分布状況

本州，四国，九州の山間の湿地に生育する。岡山県内では北部山間の疎な草地に生育している。

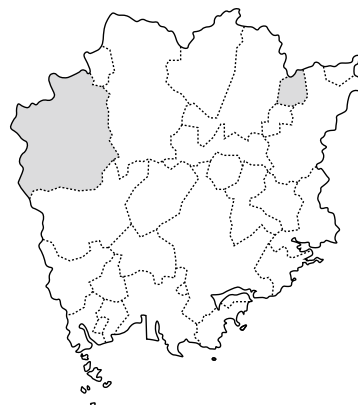
生育状況

一年草で，稈は直立または下部が腰折れする。高さ10～25cm，葉身は狭い皮針形で長さ2～7cm，幅2～4mm，縁には多くの腺点と基部のふくらんだ硬い長毛がまばらに生える。葉鞘は葉身より短く，葉舌は微細な毛の列となる。円錐花序は直立し，長さ1.5～6cm。枝が短くて直立しているため穂状花序のように見える。小穂は1小花よりなり，長さ2～2.2mm，紫色を帯びた赤褐色。果実は早くから果皮が破れて中の種子が裸出する。種子は長さ1.5mm，淡褐色。花期は8～10月。近縁種のネズミノオは多年草であり，間違えることはない。

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



ナガミノオニシバ*Zoysia sinica* Hance var. *nipponica* Ohwi

被子植物 単子葉類 イネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が海岸に限られ、開発によって生育地が減少しているため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州、四国、九州の砂浜の海岸に生育する。岡山県内では砂浜だけではなく、干潟の縁や、磯の岩の割れ目などに生えていることも多い。

生育状況

多年草で根茎は地中深くを横にはい、節ごとに直立した稈を地上に出す。稈は細くて硬く高さ10～20cm。葉身は平らまたは内側に巻き、長さ3～8cm、幅1～3mm、葉の先は刺状となる。葉鞘口部には長毛が生え、葉舌は短毛の列となる。総状花序は長さ3～5cm、幅4～7mm、柄は長く葉鞘から突き出している。小穂は長さ5～8mm、幅1.1～1.3mm、1小花よりなる。花期は6～8月。近縁種のオニシバは葉も花序も太く、花序の上半部だけが葉鞘から突き出している。四国や日本海側の海岸に生育しているが、県内の生育は確認されていない。

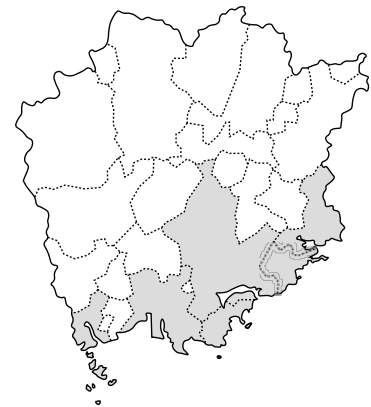
主要文献

榎本 (1998a), 狩山ほか (1990), 狩山ほか (2008), 小島ほか編 (2005), 小島ほか (2000), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬

**アズマネザサ***Pleoblastus chino* (Franch. et Sav.) Makino

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

二次林の日当たりの良い林縁に生育するが、道路の拡幅や河川の改修工事により、生育地が減少している。

存続を脅かす要因

道路工事, 河川開発

分布状況

県外は北海道南部, 本州中北部に分布する。

生育状況

ネザサ節の一種。稈は高さ2～3mになる。枝は各節から1～5本出る。葉鞘肩は水平、全株無毛であるが希に節に毛が出ることもある。葉は狭披針形。著似種に葉が披針形であるネザサがあるが、アズマネザサは葉が小さく、狭披針形であることで区別できる。

特記事項

県内にやや広く分布しているが、その群落は少なく、また群落の規模も小さい。

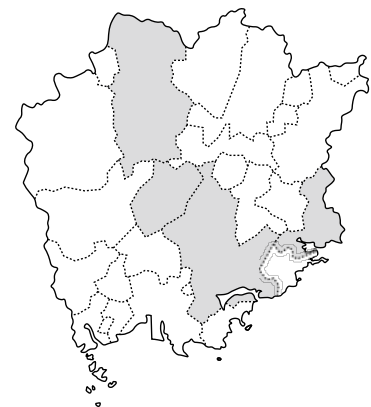
主要文献

鈴木 (1996)

(熊瀬徳輝)



撮影：片山 久



センダイザサ

Sasa chartacea (Makino) Makino et Shibata var. *chartacea*

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北西部にのみ生育している。分布範囲が狭小である。

存続を脅かす要因

産地局限，道路工事，土地造成

分布状況

県内では北西部にのみ分布している。道路脇，林縁で確認した。県外では，北海道南部，本州の太平洋側，四国，九州，いわゆるミヤコザサ節分布域に生育している。

生育状況

ミヤコザサ節の一種。やや日陰の林縁から良く日の当たる場所まで生育している。急峻な場所から平坦な場所まで生育し，土地造成などの計画に遭遇すると生存の危険性にさらされる可能性が大である。

特記事項

稈鞘，稈，節に逆向きの細毛があるものをセンダイザサと呼ぶ。鈴木（1996）は同品異名のオオクマザサなる名を避け，センダイザサの呼び名を薦めている。

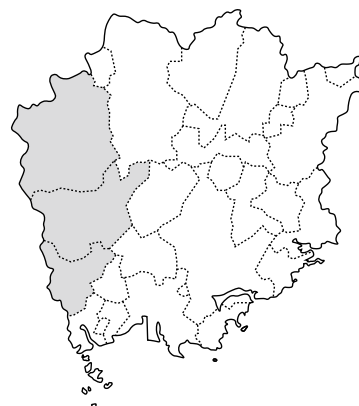
主要文献

鈴木（1996）

（片山 久）



撮影：片山 久



クテガワザサ

Sasa heterotricha Koidz. var. *heterotricha*

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では中北部に分布しているが，群落も個体数も大変少ない。

存続を脅かす要因

産地局限，道路工事。

分布状況

県内の状況は，新見市，勝田郡奈義町，高梁市に分布しているが大変狭い範囲に生育している。県外では，本州北部から西南部にわたる日本海側に産する。

生育状況

チマキザサ節の一種。県内でも希に生育しているが群落も小さく，個体数も少ない。林縁やヒノキ林の林床に生育している。草丈2mに生育し稈全体からまばらに枝を出す。稈鞘には長毛と微毛が混生する。葉鞘有毛。

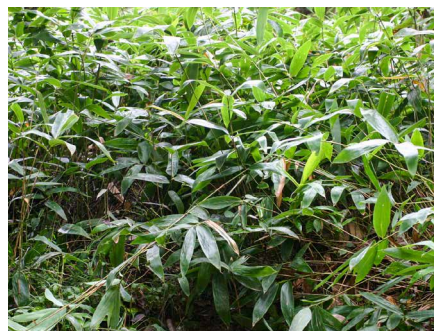
特記事項

葉裏は無毛，稈鞘は長毛と逆行する細毛が混生する。基準産地は，石川県輪島市久手川。

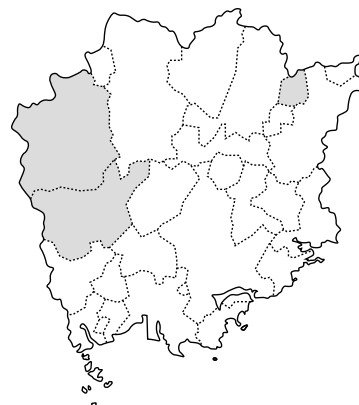
主要文献

鈴木（1996）

（片山 久）



撮影：片山 久



チシマザサ*Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino et Shibata var. *kurilensis*

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

本種は日本海側の多雪域に広く分布するが、岡山県が南西限となっている。気候変動により、積雪量の減少が恒常化すれば、多雪に適応した本種が脅威にさらされるおそれがある。

存続を脅かす要因

産地局限，気候変動，道路開発，河川改修

分布状況

岡山県内では、県北部に分布し、山地の稜線に群生するとともに、ブナ林域の林内や林縁、川岸などにも生育する。南西限である新見市鳶ヶ巣山では海拔470mの地点に生育している。県外では、千島、樺太、北海道、本州に分布する。本州では、東北地方から中国地方の日本海側に分布し、西南限は新庄村の毛無山である。

生育状況

チシマザサ節の一種。ササ類の中ではもっとも剛壯。全株無毛。桿の高さは2mを超えて、上部で分枝する。県立森林公園では鞍部の凹地では3mを超える集団も見られる。稈基部は斜上し別名のネマガリダケの態を表す。葉表裏無毛。葉脈は白く透ける。

特記事項

生育地では出筍期にスズコ狩りをするのは、この種である。

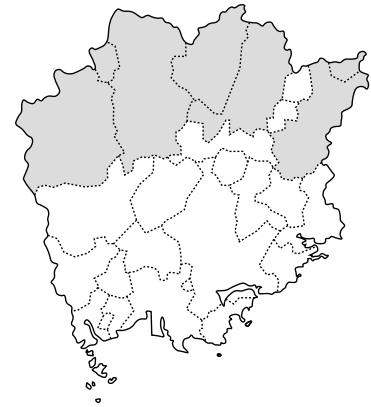
主要文献

西本（1994）、鈴木（1996）

（片山 久・西本 孝）



撮影：片山 久

**ビッチュウミヤコザサ***Sasa samaniana* Nakai var. *yoshinoi* (Koidz.) Sad.Suzuki

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

旧成羽町（高梁市）がタイプ産地であるため、保護・存続されるべき種である。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成

分布状況

県内の分布は新見市、高梁市など県北西部に片寄っている。外の分布は本州の太平洋側と四国、九州にある。

生育状況

ミヤコザサ節の一種。県北西部にしばしば生育している。林縁で見かけることが多いが、やや日陰の林床に生育していることもある。比較的大きな群落を作って生育し、他のササ類が混生していることが多い。やや乾燥しているところを好む。

特記事項

1913年に吉野善介氏が成羽町吹屋で採集し、1934年に小泉源一氏が *Sasa yoshinoi* Koidz.（ビッチュウミヤコザサ）として植物分類地理3(2)69に発表された。

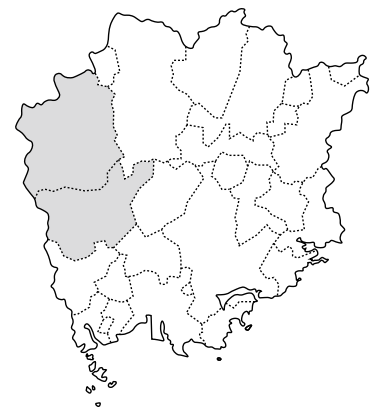
主要文献

鈴木（1996）

（片山 久）



撮影：片山 久



ミナカミザサ

Sasa senanensis (Franch. et Sav.) Rehder var. *harae* (Nakai) Sad. Suzuki

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では個体数と分布域が狭小である。

存続を脅かす要因

産地局限，河川開発，ダム建設

分布状況

県内では新見市，真庭市，苫田郡鏡野町。県外ではサハリン，千島，本州の日本海側。

生育状況

チマキザサ節の一種。基本種はクマイザサである。稈鞘，稈，葉幅が6～8cmある。稈全体からまばらに枝が出る。県北の谷川沿いや，ダム湖岸の水際などにわずかに生育。

特記事項

チマキザサ節の中でも葉が特に大きいことが特徴

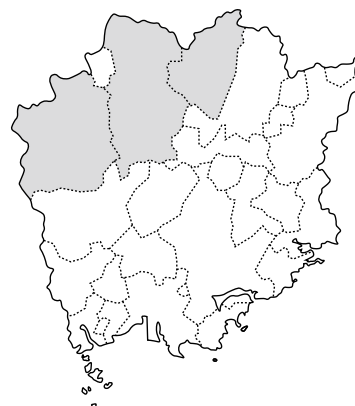
主要文献

鈴木 (1996)

(片山 久)



撮影：片山 久



カシダザサ

Sasa shimidzuana Makino subsp. *kashidensis* (Makino ex Koidz.) Sad. Suzuki

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育場所が狭小で生育個体数も少ない。生育場所は道路に面する林縁のため，道路拡幅に際しては絶滅が危惧される。

存続を脅かす要因

産地局限，道路工事

分布状況

岡山県内では東部の備前市の限られた場所のみで確認している。県外では本州の中部および西南部の太平洋側と四国，九州に分布。

生育状況

スズザサ属の一種。ハコネナンブスズの矮小型。草丈約50cm。稈鞘には開出する長毛がある。稈には逆向きの微毛がある。葉は枝先に2～3枚付き裏面には軟毛が密生する。やや日陰の乾燥した場所を好む。アラカシなど常緑広葉樹などの林床に生育している。

特記事項

岡山県内では特に生育範囲が狭小であるため，環境の変化に配慮が必要。

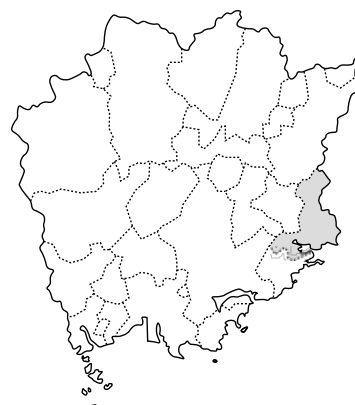
主要文献

鈴木 (1996)

(片山 久)



撮影：片山 久



ケスズ*Sasa sikokiana* Koidz.

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では狭小な範囲に少量生育しているのみであり、存続が懸念される。

存続を脅かす要因

産地局限，道路拡幅

分布状況

県内では高梁市と新見市。県外では本州北部の太平洋側と四国に産する。

生育状況

稈鞘には長毛が散生する。葉裏には軟毛が密生する。稈は2年目から分岐する。急峻な土被りの浅い林床に生育している。生育地は良く乾燥し光線も弱い。広葉樹の下草として生育している。草丈は約1m。

特記事項

岡山県内では特に生育範囲が狭小であるため、環境の変化に留意が必要。

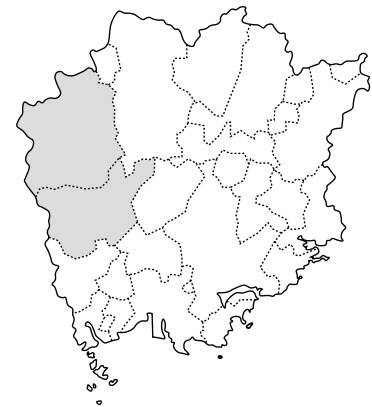
主要文献

鈴木（1996）

（片山 久）



撮影：片山 久

**オゼザサ***Sasa yahikoensis* Makino var. *ozeana* (Makino ex Nakai) Sad. Suzuki

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

狭小な範囲に少量が生育するのみであり、種の存続が懸念される。

存続を脅かす要因

産地極限

分布状況

県内では新見市で一カ所のみ確認している。県外では樺太，北海道，本州の日本海側に自生。

生育状況

ヤヒコザサの内，葉幅が広いものをオゼザサという。葉先は急尖し，葉身20～25cm，葉幅が6～8cmある。

特記事項

基準産地は福島県南会津郡尾瀬

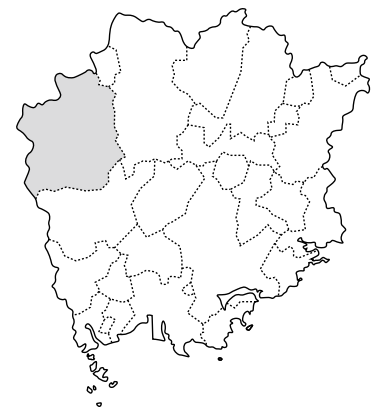
主要文献

鈴木（1996）

（片山 久）



撮影：片山 久



ジョウボウザサ

Sasaella bitchuensis (Makino) Makino ex Koidz.

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県がジョウボウザサのタイプ産地であることによる。その上、分布は少なく、開発などにより存続が危ぶまれている。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成

分布状況

県内では高梁市，新見市，総社市の林縁や道路脇に生育。県外では本州中部および西南部に産する。

生育状況

アズマザサ属の一種。県中部や北西部の林縁，道路脇に希に生育している。生育群落も狭小である。稈鞘，稈，節に逆行する細毛がある。葉鞘と葉は無毛。

特記事項

1913年当時の上房郡高梁町佐与谷で牧野富太郎博士が発見し，1914年同博士によりジョウボウザサ (*Sasa bitchuensis* Makino) と命名し，植物学雑誌28(326)31に発表された。その後，鈴木貞雄博士は1976年アズマザサ属の再検討(3)で *Sasaella bitchuensis* (Makino) Makino var. *bitchuensis* とした(植物研究雑誌51(7)221)。

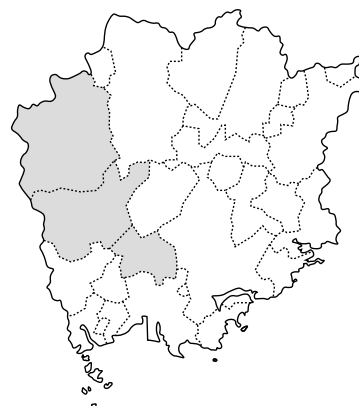
主要文献

鈴木 (1996)

(片山 久)



撮影：片山 久



オニグジョウシノ

Sasaella caudiceps (Koidz.) Koidz.

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

産地は狭小で，個体数も少ない。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移

分布状況

県内は新見市，高梁市，真庭市に局所的に生育，県外では本州中部に希。

生育状況

アズマザサ属の一種。日当たりの良い道路脇に生育しているが，個体数は少ない。稈は1～2mになり逆行する細毛がありピロード状，葉裏無毛。

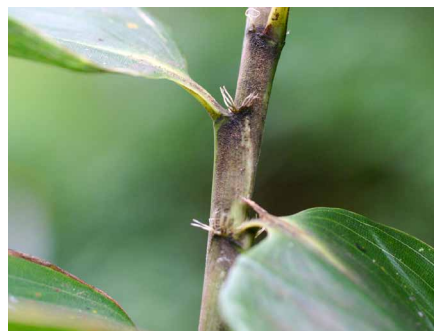
特記事項

鈴木 (1996) はカモンシノ (*S. tiutaroana* (Koidz.) Koidz.) をオニグジョウシノに統合した。タイプ産地は富山県氷見市阿尾。

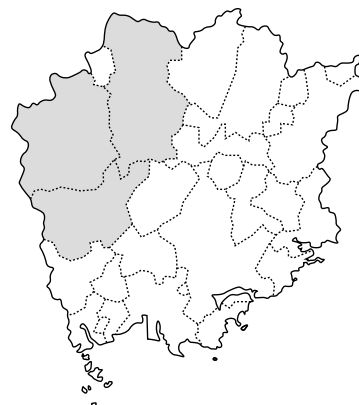
主要文献

鈴木 (1996)

(片山 久)



撮影：片山 久



ヒメスズタケ (ヤマキタダケ)*Sasaella hisauchii* (Makino) Makino

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が狭小であり、自然の遷移を受けやすい。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移、道路工事

分布状況

岡山県内は、久米郡美咲町、新見市、真庭郡新庄村などに生育していた。県外では、本州北部から西南部、九州。

生育状況

県内では、少ない場所に少量生育していたが、現在は生存を確認出来ないことが多い。稈、葉は無毛、稈鞘、葉鞘には長毛がある。

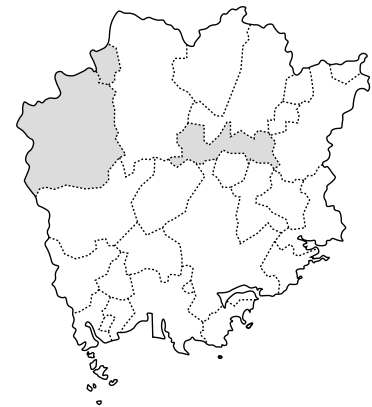
特記事項従来のタジマシノ (*S. tajimana* (Koidz.) Koidz.), カリワシノ (*S. ikegamii* (Nakai) Sad. Suzuki) は、鈴木 (1996) によりヤマキタダケに含められた。**主要文献**

鈴木 (1996)

(片山 久)



撮影：片山 久

**クマナリヒラ***Semiarundinaria fortis* Koidz.

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では真庭市の極めて狭小範囲のみに生育している。

存続を脅かす要因

産地局限、河川改修

分布状況

県外では、九州南部に分布している。

生育状況

ナリヒラダケ属の一種。稈の高さは6～8m。稈・稈鞘には逆向する短毛があり、稈鞘基部には褐色の長毛が混生する。1つの節から3～7本の枝が出る。葉鞘には上向きの短毛が密生する。葉には表裏とも基部に軟毛が密生する。

特記事項

ナリヒラダケ属の中では、本種のみが稈鞘有毛であることで、他の類似種から容易に区別できる。

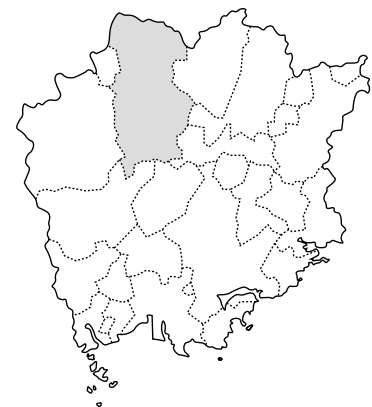
主要文献

鈴木 (1996)

(熊瀬徳輝)



撮影：片山 久



ビゼンナリヒラ

Semiarundinaria oukuboi Makino

被子植物 単子葉類 イネ科 タケ亜科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県がタイプ産地であるため。土手に生育することが多く、河川改修の影響を受けやすい。

存続を脅かす要因

河川開発，土地造成（宅地等への転換利用）

分布状況

県内では岡山市などに生育している。県外は関東地方以西で栽培されている。自生地は不明である。

生育状況

生育地は河川敷および河川の土手等である。他のナリヒラダケ属と比較して、水捌けの良い砂質土壌を好むようだ。生育場所の一つである岡山市の砂川土手には希少な個体群が残っている。しかし、県下全体では河川改修工事や土地造成により、相当数の個体群の減少が懸念される。

特記事項

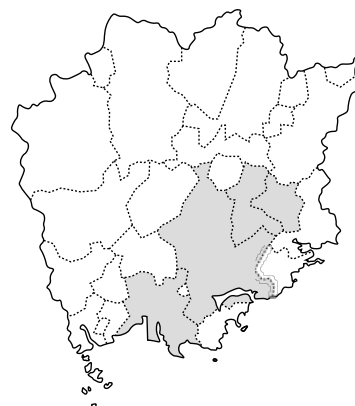
大久保一治氏により岡山県赤磐郡可真村（現赤磐市）で発見されたこの竹が、1933年、牧野富太郎博士によりビゼンナリヒラとして植物研究雑誌 8（79～80）45に新種として発表された。

主要文献

難波（1993），大井（1992），鈴木（1996）
（岡田智子・片山 久）



撮影：片山 久



キケマン

Corydalis heterocarpa Siebold et Zucc. var. *japonica* (Franch. et Sav.) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 ケシ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では元々の分布量が少なかった上，海岸の開発により，生育地が減少したため。

存続を脅かす要因

産地局限，海岸開発，業者・マニア採取

分布状況

県内では，岡山市，倉敷市，笠岡市などの海岸近くにわずかに自生している。県外では本州（宮城県以西）～琉球に分布する。

生育状況

多汁質の越年草。茎も葉も無毛で，全体的に粉白色を帯び，茎がやや太く，高さは50cmほどになる。葉は三角形で，2～3回3出羽状複葉，小葉も深く裂ける。春，長さ1.5～2cmの黄色い花が総状花序につく。果実は長さ2cm，幅3～4mmほどとやや太く，曲がりくねったりしないで，中に種子がほぼ2列に並ぶ。

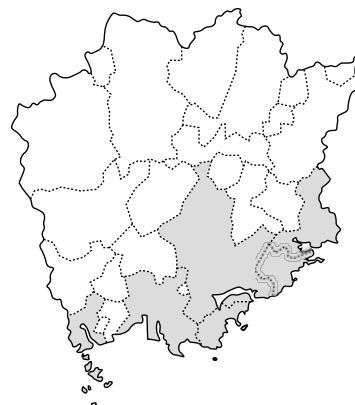
主要文献

榎本（1998a），狩山ほか（2008），小島ほか（2005），小島ほか（2000），岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編（1980），大橋ほか編（2016a），大久保（1999）

（榎本 敬・森定 伸）



撮影：榎本 敬



キンキエンゴサク

Corydalis papilligera Ohwi

被子植物 真正双子葉類 ケシ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

今すぐ絶滅するというものではないと思われるが、岡山県内に知られている産地はごく限られ、標本記録が少ないため産状も定かでない。今後の状況に十分注意する必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 自然遷移

分布状況

県内：北部に分布する。ヤマエンゴサクの類は変異幅が大きいので、見落とされている可能性もある。県外：本州（埼玉県・新潟県以西）に分布する。

生育状況

塊茎は球形、径7～15mm。地上茎を1本出し、茎は下部で分岐して高さ10～20cm。葉は2～3回3出複葉、小葉は倒卵形～楕円形。苞は披針形～扇状楔形、普通は先端に歯牙または欠刻がある。総状花序は茎に頂生して花を密集し、花冠は長さ15～25mm、青紫色でのちに桃紫色に変わる。蒴果は卵状長楕円形、長さ5～10mm、幅4～5mm。種子の縁辺付近に乳頭状突起がある。花期は4～5月。

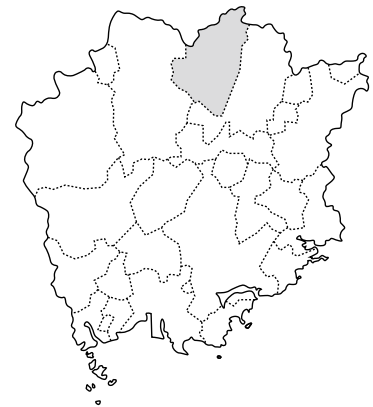
主要文献

Iwatsuki *et al.* (2004), 北村ほか編 (1961), 牧野 (2008), 大橋ほか編 (2016a), 大井 (1992)

(山下 純・森定 伸)



撮影：狩山俊悟



ヤマブキノウ

Hylomecon japonica (Thunb.) Prantl et Kündig

被子植物 真正双子葉類 ケシ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県中部、北部に点在して見られるが、個体数が少なく、生育できる環境も減少している。また、開花時期には花色がよく目立ち、園芸採取も後を絶たない。

存続を脅かす要因

産地局限, 業者・マニア採取

分布状況

県内では中部・北部の自然林や二次林の木陰、神社境内、渓谷沿いなどに生育する。希に埋め尽くすほどの群生に出会うこともある。非石灰岩地でも見られるが、石灰岩地に多い。県外では本州～九州の山地の木陰に分布する。

生育状況

高さ30～50cm、鮮緑色で柔らかな感じの多年草。根生葉は奇数羽状複葉で長い柄がある。小葉にはふぞろいな鋸歯と切れ込みがある。花期は4～6月。上部の葉腋に黄色い4弁の花を1～2個つける。

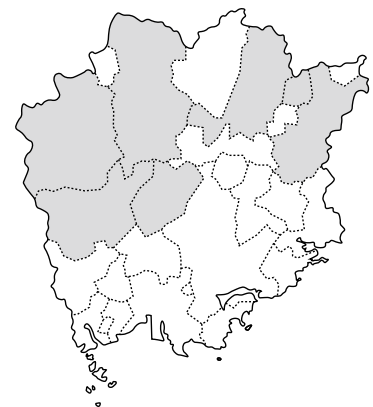
主要文献

畔上 (1996), 北村ほか編 (1961), 大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(地職 恵・森定 伸)



撮影：地職 恵



ヒロハヘビノボラズ

Berberis amurensis Rupr.

被子植物 真正双子葉類 メギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が特殊な環境で限られることや、個体数も少ないことから、管理放棄や生育環境の変化によっては、容易に減少すると考えられる。

存続を脅かす要因

森林伐採，自然遷移，道路工事，産地局限

分布状況

岡山県では中部，北部の蛇紋岩地の岩角地に生育する。県外では北海道，本州，四国，九州に分布する。

生育状況

落葉低木で，高さ3m位になる。幹は分枝し，褐灰色，縦に陵と溝がある。葉は洋紙質，倒卵形ないし楕円形，幅1.5～3cm，鈍頭から円頭。枝には各節に長さ8～20mmの刺が3～5個つく。花期は5～6月。単枝の先にやや垂れぎみの総状花序をだし，十数個の黄色い花をつける。花序はほぼ葉と同長，またはより長い。果実は長さ10mm程，楕円形で赤熟する。枝や葉柄が赤褐色のものをアカジクヘビノボラズと呼ぶ。別名，ヒロハノヘビノボラズ，オオバノヘビノボラズ。

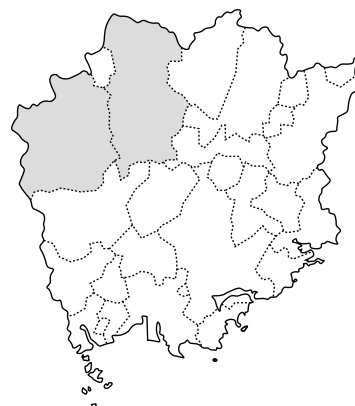
主要文献

林（2014），大橋ほか編（2016a），大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



ルイヨウボタン

Caulophyllum robustum Maxim.

被子植物 真正双子葉類 メギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと個体数，生育地ともに少ない。森林伐採などの環境変化で容易に消失する可能性があり，園芸目的の採取にも注意が必要である。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取，森林伐採，産地局限

分布状況

岡山県内では，北部山地の夏緑樹林下に点在して生育する。稀に一面の群落になることもある。県外では北海道，本州，四国，九州の主として温帯域の林床に生育する。

生育状況

高さ40～70cmの多年草。植物体は無毛。茎葉は2～3回3出複葉であるが，葉柄がほとんどなく，第1回小葉柄が長いので，1つの節より3個の複葉が輪生しているように見える。頂小葉は有柄，側小葉は有柄。小葉は長楕円形で全縁，幅の広いものは先が2～3裂し，先端は尖る。花期は4～5月。茎頂に，緑黄色で径1cmほどの集散花序になる。種子は一つの花より2個ずつでき，球形で径約8mm，青くて液果状。

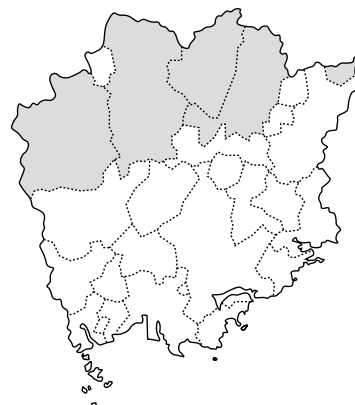
主要文献

門田ほか（2013），大橋ほか編（2016a），大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



サンカヨウ*Diphylleia grayi* F.Schmidt

被子植物 真正双子葉類 メギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと産地が局限されており、個体数も少ない。花がきれいなため園芸採取なども加わり、存続が危惧される。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県北部の中国山地のブナ帯の林床や、渓谷沿いの斜面など、多雪地に生育する。希に群生していることもある。県外では南千島、北海道、本州に分布し、温帯より亜寒帯にかけて、夏緑樹林または針葉樹林の林床に生える。



撮影：地職 恵

生育状況

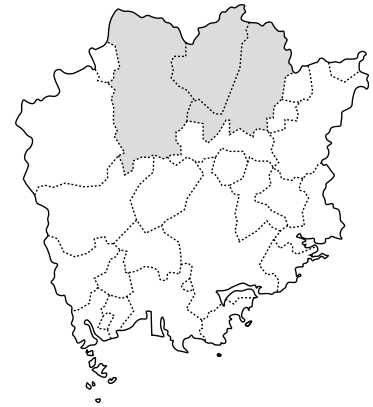
高さ30～60cm、茎や葉に縮れた毛が生える。2個の茎葉のうち、下の葉は腎円形、長さ20～30cm、幅30～35cm、不揃いな欠刻状鋸歯があり、長い葉柄に楕状につく。上の葉は小さく、無柄で楕状にならない。花期は5～6月。白色で径約2cmの6弁花を数個つける。果実は液果、藍色で白粉を帯びる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

門田ほか（2013）、大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）
（地職 恵）

**オオバイカイカリソウ***Epimedium × setosum* Koidz.

被子植物 真正双子葉類 メギ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状態ではないが、タイプ標本の産地であることと、国内においても分布が限られることから、注意深く推移を見守る必要がある。

存続を脅かす要因

道路工事、草地開発、管理放棄、自然遷移

分布状況

岡山県では、南部から北部までの西側よりに分布が偏り、中部の阿哲地域が分布の中心となる。広葉の樹林下や林縁に生育する。オオバイカイカリソウとトキワイカリソウの雑種とされるスズフレイカリソウも含まれている。県外では中国地方の主として石灰岩地に分布する。



撮影：地職 恵

生育状況

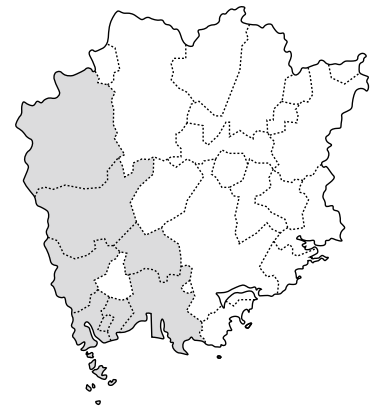
バイカイカリソウに比べると、全体に大きく、高さ25～40cmの多年草。葉は1～2回2出複葉。小葉は大きく、長さ4～10cm、卵状長楕円形で鋭頭、葉の裏面には伏した細毛があり、ふちには刺状の毛がある。花期は4～5月。花は白色で、やや多く、花序は総状、または分枝して円錐状になる。花卉に距はない。

特記事項

旧哲西町（現新見市）で採集されたものをもとに、小泉源一博士が1932年に新種オオバイカイカリソウとして発表した。バイカイカリソウとトキワイカリソウの交配種という見解もある。

主要文献

門田ほか（2013）、大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）
（地職 恵）



ルイヨウショウマ

Actaea asiatica H.Hara

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

やや湿り気のある夏緑樹林内に生育するが、手入れがされない樹林の増加に伴い、少なくなっている。伐採後に植栽された植林内でも見かけることがあるが、継続的ではなく、少なくなっている。愛好家による採集も引き続き、心配される状況が続いている。

存続を脅かす要因

森林伐採, 業者・マニア採取, 管理放棄

分布状況

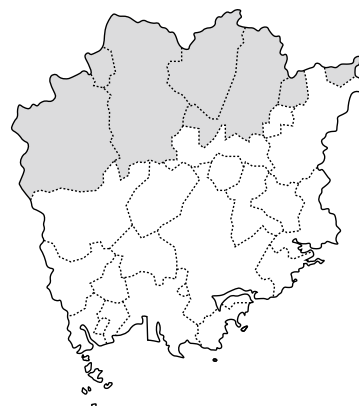
県北部の山地帯の夏緑樹林内に生育する。植林の林床にも生育し、手入れされなくなって見られなくなったり、園芸的に採取されたりするため、分布地が減少している。県外では北海道、本州、四国、九州の冷温帯に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

深山の夏緑広葉樹林内に生える多年草。根茎があり、群生する。茎は高さ30～80cmで、草丈が膝よりもやや高い。葉は互生し、大型で2～4回3出複葉。小葉は薄質、卵形または狭卵形、鋭尖頭、欠刻および鋭鋸歯がある。花は5～6月に咲き、花序はブラシ状に葉群から上部につきだして、小さな花を密につける。花弁は白色のへら形で、先端部が広く、基部が狭まって爪状になり、長さ2～3mm。雄しべは多数で、花弁より長くつきだす。雌しべは1個。花期は5～6月。がく片は倒卵形で、長さ約3mm。果実は液果で、黒く熟し、球状で径約6mm。



主要文献

大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(西本 孝)

ミチノクフクジュソウ

Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

花がきれいなので人目につくと園芸採取を受けやすい反面、草を適度に管理しないと他の植物に覆われてしまい、しだいに衰退してしまう。近年、動物による踏み荒らしや掘り返しが目につくようになっており、保護柵の設置が望まれる。

存続を脅かす要因

管理放棄, 業者・マニア採取, 草地開発, 動物食害

分布状況

県内では少なくとも6カ所の自生地があり、いずれも日当たりのよい斜面草地に生える。国内では本州、九州に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

花時、高さ10～15cmになる多年草。葉は互生、3～4回羽状に細かく分裂する。3～4月に開花し、1茎に数個の黄花をつける。果期には茎の高さが20～25cmになる。他のフクジュソウ類とは、がく片は花弁に比べて短く、約1/2～2/3、花茎は中空であるなどの特徴から区別できる。

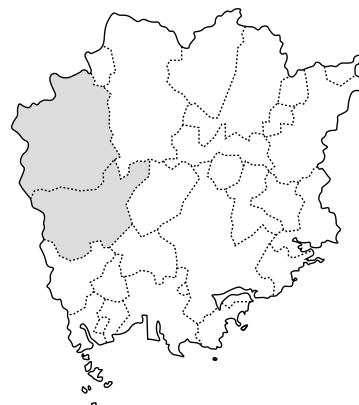
関係法令の指定状況

「岡山県希少野生動植物保護条例」に基づく指定希少野生動植物に指定されている。

主要文献

Kaneko *et al.* (2005), 大橋ほか編 (2016a)

(狩山俊悟)



サンリンソウ

Anemone stolonifera Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

本州の中部から北部にかけて生育する種が県内にも隔離的に分布することから、貴重性が高い種であるが、生育地が崖崩れなどの起きやすい不安定な場所であるので、現状がはっきりとわからない。

存続を脅かす要因

自然災害、産地局限

分布状況

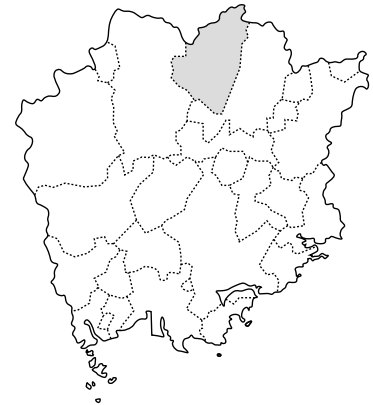
鏡野町（旧上斎原村）などの県北部の山地に分布するが、県内で見られることは希である。攪乱を受けやすい溪流辺の谷部などで生育するが、攪乱後に見られることが多く、大水などにより自生地が失われた可能性も高い。県外では北海道、本州（中部地方以北）に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

山地や亜高山帯の夏緑樹林下や林縁に生育する多年草。匍枝を出して繁殖するため、しばしば群生する。地際から出た数枚の根生葉と1～3本の花茎を束生する。根生葉は3出複葉で、小葉には短い葉柄があり、側小葉はさらに2深裂する。花茎は高さ15～30cm。全体に毛が多い。花茎の付け根には3枚の茎葉が輪生し、茎葉は柄があることで、ニリンソウと区別でき、3深裂し、裂片がさらに2～3つの欠刻がある。花は5～7月に咲き、1～3個、径約1.5cm、白色。がく片は5枚、楕円形で、白色。果実はそう果で、数個、卵形で細毛がある。



主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）

リュウキンカ

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

限られた場所しか生育しておらず個体数が少ない。また湿原の遷移により減少している。

存続を脅かす要因

自然遷移、産地局限

分布状況

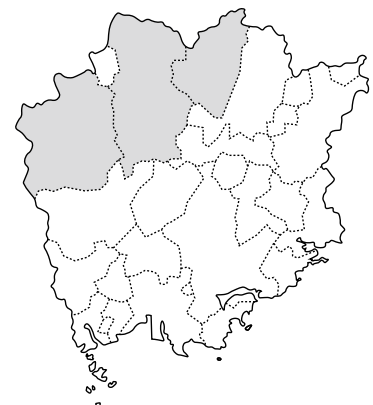
県内：北部、中部。県外：北海道、本州、九州に分布する。

生育状況

寒冷期の遺存植物で、山地の日の当たる湿原や沼地などに生える多年草。根茎は短く、太い根をつける。根生葉は腎円形。長さ幅ともに5～10cm。波状の鈍鋸歯があり、基部は深心形。花径は高さ15～50cm、直立または斜上し、上部に少数の茎葉をつける。花は茎頂および茎葉の腋より1個ずつつけ、黄色色、径2～3cm。花期は4～5月。花柄はやや長く、花後に伸びて5～11cmになる。がく片は黄色で、ふつう5枚、卵状楕円形で長さ13～16cm。果実は袋果で、長さ約1cm。花柱が残る。花柄は直立したまま枯れる。似たエンコウソウは横になって長さ50cmになる。



撮影：西本 孝



関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。また「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域のうち、鯉ヶ窪湿原（新見市）において保護すべき種に指定され、捕獲等が禁止されている。

主要文献

畔上（1996）、大橋ほか編（2016a）

（浅井幹夫）

フジセンニンソウ

Clematis chinensis Osbeck var. *fujisanensis* (Hisauti et H.Hara) W.T.Wang

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

分布範囲が狭く、里山の林縁部に生育することが多いため、道路工事や森林伐採の影響を受けやすい。

存続を脅かす要因

道路工事, 森林伐採, 自然遷移

分布状況

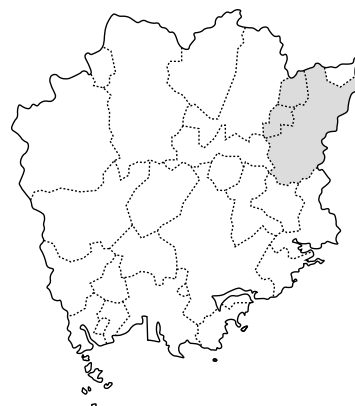
岡山県では北東部に分布し、狭い範囲にまとまって生えている。本州（関東地方～中部地方、岡山県）、九州（大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県）に分布する。標本になって茎や葉、がく片が黒変しないとセンニンソウとの区別が難しく、各地で見逃されている可能性がある。



撮影：狩山俊悟

生育状況

山野の林縁部に生えるつる性の半低木。葉は奇数羽状複葉、長い柄があり、小葉は3～5個、卵形から長卵形、乾けば茎と同様、黒紫色となる。上部の葉腋に円すい花序をつけ、7～9月に平開する花を咲かせる。がく片は4個、白色、乾くと黒変する。そう果は多数、長卵形で両面に伏毛が多い。類似のセンニンソウとは、乾いたときに葉や茎が黒変するかどうかで区別できるが、生時には区別が難しい。



(狩山俊悟)

主要文献

北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2016a)

タカネハンショウヅル

Clematis lasiandra Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における生育地は1カ所のみであり、生育環境が悪化すれば、絶滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限, 土地造成, 自然遷移, 業者・マニア採取

分布状況

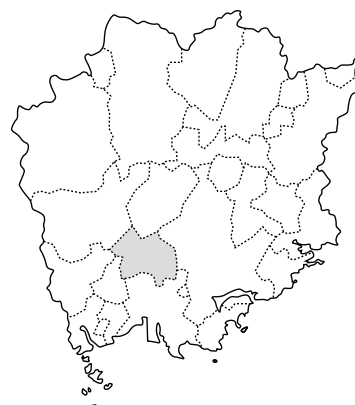
県内では総社市の1地域のみで生育する。県外では本州（近畿地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。近県では山口、広島県に生育するが、広島県でも限られた地域にのみ生育する。



撮影：片岡博行

生育状況

低地の雑木林の日当たりの良い林縁などに生育する、つる性落葉低木。葉は1～2回3出複葉、小葉は卵形～卵状披針形、先は鋭くとがり、あらい鋸歯がある。花は9～10月ごろ、当年枝の葉腋より伸ばした6～9cmの花柄の先につり鐘型の花をつける。花柄中央部に小苞はない。花は4枚のがく片をもち、先は反り返る。がく片は淡紅紫色～白色で、内側のみ色づくなど変異が大きい。



(片岡博行)

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

Akasawa (1975), 広島県版レッドデータブック見直し検討会 (1995), 片岡ほか (2005), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2016a), レッドデータブック近畿研究会 (2001)

カザグルマ*Clematis patens* C.Morren et Decne.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

林床が攪乱を受けやすい夏緑樹林内に生育する種類であるが、人の森林管理によっても維持されてきた側面があり、管理停止や攪乱が少なくなったことが原因であるとともに、栽培種としての価値が高いことの両面から、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、土地造成、業者・マニア採取、森林遷移

分布状況

岡山県北中部を中心に分布するが、非常に少なくなっている。花が目立ち、花期には明るい林内で開花することが観察される。県外では本州、四国、九州（北部）に分布する。



撮影：狩山俊悟

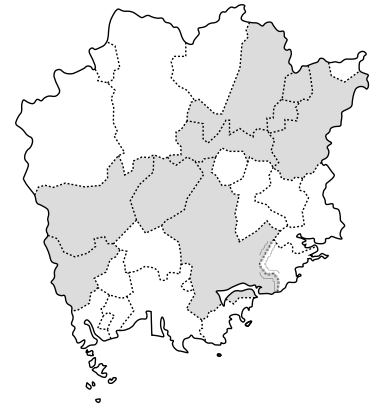
生育状況

林縁や明るい林内に生える落葉性のつる性の低木。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉。小葉は3～5個、長さ2～6cmで卵形、時には3裂するが、鋸歯はない。今年伸びた枝に1～3対の葉をつける。花は4～6月に咲き、1個が頂生し、白色または淡紫色で、上向きに完全に開き、径7～12cm。多数の雄しべと雌しべがある。花弁のように見えるがく片は普通8個で風車のように見えるが、枚数には変異が多い。果実はそう果で、広卵形、長さ5mm。湿り気の多いところを好み、湿地にも生える一方、蛇紋岩地帯にも見られる。

主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）

**ツクシクサボタン***Clematis stans* Siebold et Zucc. var. *austrorjaponensis* (Ohwi) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

名前の由来のように、国内では四国、九州の石灰岩地に分布するが、県内にも石灰岩地を中心に隔離分布しており、分布の北限となっている。人為的な管理下にあった森林が管理放棄によって遷移したことにより減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限、植生遷移

分布状況

旧哲多町を含む新見市の県北中部の石灰岩地を中心に分布するが、希である。県外では四国、九州の石灰岩地に分布し、県内のものは分布の北限にあたる。



撮影：狩山俊悟

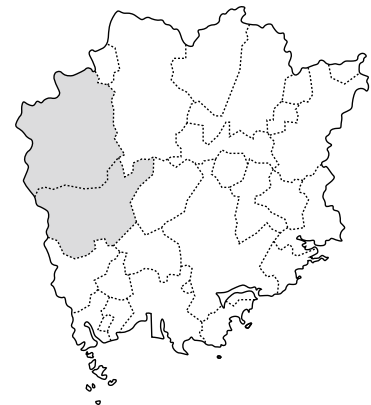
生育状況

山地の草原や林縁に生える多年草。茎は直立してつるにならず、高さ1mくらいになる。茎は、下部は木質化するが、冬には大部分が枯れても残り、上部はよく分枝して短毛が生える。葉は対生し、長柄のある3出複葉し、小葉は4～13cmで、3浅裂して粗い鋸歯があり、先は尖る。裏面脈状に縮れた毛が密生。茎の先や葉腋に円錐形の花序を出して、多数の花を下向きにつける。クサボタンの変種で、花糸が葯の2～3倍の長さ、葯は長さが約3mmとなる点で区別される。花期は8～9月。花にはすべて雄しべと雌しべがあるが、どちらかの機能が失われていて、雌、雄のどちらかが機能する雌雄異株になっている。

主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）



バイカオウレン

Coptis quinquefolia Miq.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

葉草のため、採取されることが多い。普通、自然性の高い針葉樹林下の湿り気のある場所を好むため、県内には自生できる森林が限られており、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取、気候変動

分布状況

津山市等の県北部の山地に分布するが、希である。県外では本州（福島県以西）、四国に分布する。林内の腐植のたまった岩上に生育する。

生育状況

針葉樹林の林内や林縁のやや湿り気のあるところに生える多年草。根茎は短く匍匐し、しばしば細長い横走枝を出す。根生葉は掌状複葉で、葉脈が目立つ小葉が5個で、頂小葉は倒卵形で、鈍頭、しばしば浅く3裂、凸点のある鋸歯がつき、長さ1～2.5cm。花茎は高さ7～15cm。花は径12～18mm。花弁は、がく片とともに普通5枚。花弁のように見えるのはがく片で、白色。花弁は先端が黄色くお椀型。雄しべは白色の細い軸状で、多数。花の中心には緑色の雌しべ10個程度。花期は6～8月。果実は袋果、長さが6～9mm。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

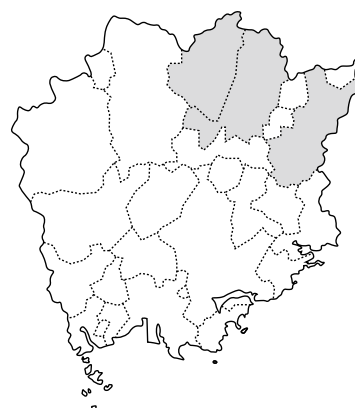
主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：狩山俊悟



キバナサバノオ

Dichocarpum pterigonocaudatum (Koidz.) Tamura et Lauener

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

生育地、個体数ともきわめて少なく、危機的な状況にある。沢沿いの、不安定な斜面に生育するため、自然災害の影響を受けやすい。植林地内に生育するものは、森林伐採による消失の危険性が高い。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、森林伐採、産地局限、自然災害

分布状況

岡山県内では北部山地のスギ植林内に生育。沢沿いの不安定な斜面にごくわずか生える。県外では本州（福井県、滋賀県、京都府、兵庫県、日本海側に偏る）に分布する。岡山県は分布の西限にあると考えられる。

生育状況

茎の長さ10～25cmの多年草。中部の茎葉は互生、上部の茎葉は対生する。頂小葉は菱形～卵状菱形、不ぞろいで鈍い鋸歯か、または欠刻状の鋸歯がある。花期は4～5月。花は緑黄色で、この属の他の種に比べると草丈や花は大きく、しっかりしている。

関係法令の指定状況・特記事項

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。保護のため分布情報図を非公開とする。

主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



トウゴクサバノオ*Dichocarpum trachyspermum* (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が沢沿いなどの湿り気のある樹林下に生育することが多いために、伐採されて植林となるなど生育地が変化したことから、減少するとともに、希少性のために採集の対象にもなっていることから、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取

分布状況

真庭市などの県中北部に分布するが、園芸採取などにより少なくなっている。県外では本州（岩手県以南）、四国、九州に分布する。

生育状況

山地帯の沢沿いなどに生える繊細な多年草。地下茎は発達しない。茎は全く無毛で、高さ5～20cm、地面から出た数枚の根出葉は、長い柄があり、1回3出複葉で、側裂片はもう一度分裂する。茎葉はすべて対生し、3小葉で、頂小葉は広卵形または広倒卵形、長さ5～15mm。鈍い鋸歯がある。花は径5～8mmで、花卉のように見えるがく片は全開せず、多くが垂れ下がって咲き、淡黄緑色～白色。花卉は軍配形で、先端が黄橙色で内側に湾曲して、反り返らないのが特徴である。雄しべは白色の葯と淡黄緑色の花糸を持ち、多数。雌しべは中心部に2個。花期は4～5月。茎の基部に閉鎖花をつける。果実は袋果で、鯖の尾の由来となった、2個がくっついて横に広がる形をしている。

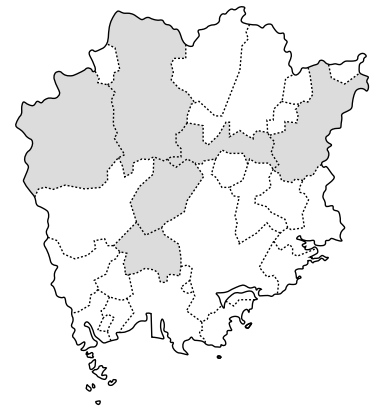
主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：地職 恵

**セツブンソウ***Eranthis pinnatifida* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

限られた地質の場所に限定して群生する希少性から、採取の対象となり急激に減少している。最近では地元の住民による保護活動が盛んになり、群生地が守られるようになっているものの、引き続き盗掘などに注意が必要である。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、道路工事、自然遷移

分布状況

新見市、吉備中央町などの県北部中部に分布する。神社の境内、桑畑の畦、山裾などに普通に生育していたが、次第に少なくなっている。県外では本州（関東地方以西）の石灰岩地に分布する。

生育状況

主に石灰岩地の夏緑広葉樹林内や林縁に群生する多年草。根生葉は長柄があり、掌状で、長さ幅ともに3～5cm、3全裂する。茎葉は2枚、不ぞろいの線形の片に欠刻。花茎は高さ5～15cm。花は花茎の先につき、径が2cm程度で白～微紅色。花期は2～3月。白色の花卉に見えるがく片は普通5枚で、卵形、長さ10～15mm。花卉は先端がY字に分かれて、先端が2つの黄色の玉のようになり、花の中心を囲むように円形の黄色い玉の列を作る。雄しべは多数で、葯が淡紫色。中心には、薄紅色の雌しべがある。果実は袋果で無毛、長さ約1cm。種子は数個で球状、褐色、滑らか。早春に花が咲くので、節分草という名がある。

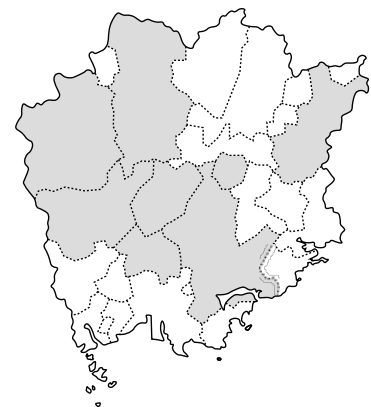
主要文献

大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：高山敬三



オキナグサ

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では「かつては中部、北部の河原や草地でたくさん見られた」という話を聞くが、近年激減し、見かけることは希になった。日当たりのよい草地の減少や、業者・マニアによる園芸採取に歯止めがかからず、絶滅が心配される。

存続を脅かす要因

草地開発、業者・マニア採取（園芸採取）、自然遷移、管理放棄、河川開発

分布状況

岡山県内では中部、北部に点在して生育。山頂草地、放牧地、水田の刈り上げ地、河原などに生育し、まれに群生している所もある。県外では本州、四国、九州に広く分布する。



撮影：地職 恵

生育状況

山野の日当たりのよい草地に生える多年草。全体に長くて白い毛が多い。根生葉は束生し、長い葉柄があり、2回羽状複葉。茎の高さ10cm程度で開花するが、花後伸長して、40cmほどになるものもある。花期は4～5月。花は1個が頂生し、釣り鐘型で下向きに開く。花弁に見えているものは萼片で、外側は長い白毛に被われ、内面は暗赤紫色。果実はそう果で、花の後伸びて羽毛状になった花柱が残る。

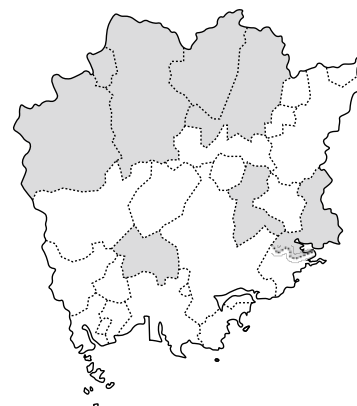
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

林 (1989), 大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(地職 恵)



オトコゼリ

Ranunculus tachiroei Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

山中のわき水が流れる湿地や、ため池の湧水場所周辺に生育するが、道路などの開発や森林の遷移や植林によるわき水の減少や、ため池の埋め立てなどによって減少しており、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

自然遷移、湿地開発、道路工事

分布状況

新見市などの県北中部に分布するが、生育地は限られている。県外では本州（福島県以南）に分布する。



撮影：狩山俊悟

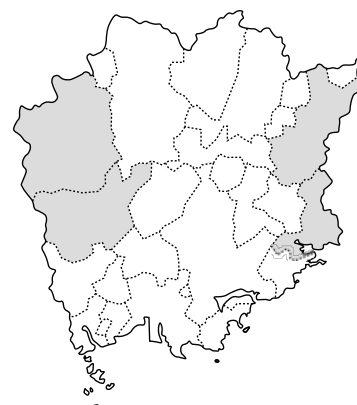
生育状況

山中の日当たりの良い水湿地や休耕田などに生える多年草。茎は直立し、やや太く、上部は分枝し、高さ50～100cm、中部や下部には葉柄とともに開出するあらい毛が密生する。根生葉および下葉はやや長柄であり、2回3出複葉で、小葉2～3深裂し、裂片は細くて1cm程度で、両面に伏せた毛が生えている。花は黄色で茎の先端部に長い花茎を出して多数がつき、径10～12mm。がく片は長さ4～5mmで、外側に反り返って、白毛がある。花弁は楕円形でがく片より長い。花期は5～8月。集合果はほぼ球形で、径1cm。果実はそう果で、扁平で3.5～4mm。葉の形がセリに似ていることから名付けられた。

主要文献

大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(西本 孝)



ヒキノカサ*Ranunculus ternatus* Thunb.

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

河川の堤防の管理方法が変わり、生育量が少なくなった。

存続を脅かす要因

土地造成、農薬汚染、管理放棄

分布状況

河川の堤防の外側斜面や、水田の畦や道ばたにたくさんあったが、急激に少なくなった。岡山市の一部では大きな群落が残っている。本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布する。



撮影：榎本 敬

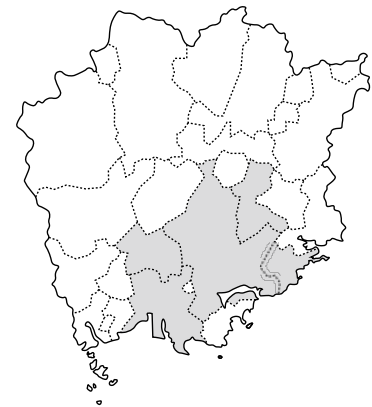
生育状況

暖帯の日当たりのよい湿った草地や流れの縁などに生える多年草。ひげ状の根のほかに紡錘状にふくらんだ根があるのが特徴。茎は基部から分枝し、高さ10～30cm。根生葉は柄があり単葉で、3深裂、長さ1～2cm。茎葉は1～4個、根生葉とともに両面にまばらに軟毛がある。花は黄色で、径12～17mm。花弁は倒卵形で、長さ6～7mm、光沢がある。花期は4～5月。果実はそう果で、円形で、長さ1.2mm。蛙の傘と書き、カエルがすむような水辺に生え、花を傘にたとえた。

主要文献

狩山・榎本（1998, 2000）、狩山ほか（2008）、小嶋ほか編（2005）、小嶋ほか編（2000）、岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編（1980）、大久保（1999）

（榎本 敬）

**カラマツソウ***Thalictrum aquilegifolium* L. var. *intermedium* Nakai

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：該当なし

選定理由

生育地が希な上、湿り気のある自然草地に生育するため、植林や乾燥化による森林への遷移によって、生育地が失われることが原因で減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、自然遷移

分布状況

岡山県では、真庭市（旧川上村）の山地にわずかに生育が確認されるが、希である。県外では北海道、本州の山地帯～亜高山帯に分布する。



撮影：西本 孝

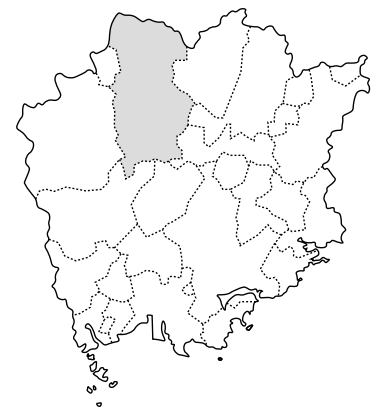
生育状況

山地帯～亜高山帯のやや湿った草地に生える多年草。全体は無毛で、やや粉白色を帯びる。高さ50～120cmで、線条がある。根生葉は柄があり3～4回3出複葉、やや大形。茎葉の基部は托葉状の葉鞘となる。小葉は倒卵形で長さ2～3cm、先が3～5浅裂する。茎頂に花序を出し、花序は密にやや多数の花をつける。花は白色～淡紅色で、径約1cm。花期は7～9月。がく片は楕円形で長さ3～4mm。果実はそう果で、10～16個が、長さ0.5～1.5cmの花柄につく。花の咲いた様子が、樹木のカラマツの葉を連想させることから名付けられた。

主要文献

大橋ほか編（2016b）、大久保（1999）

（西本 孝）



ノカラマツ

Thalictrum simplex L. var. *brevipes* H.Hara

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

日当たりの良い草地に生育する植物で、県内では、石灰岩地の管理された採草地に生育していたが、畑地として利用されたり、管理放棄や植林により生育地が失われたりしたことによって減少している。県内の分布の現状は不明である。

存続を脅かす要因

草地開発

分布状況

高梁市で確認されたことがあるが、その生育地は植林にかわったため、現状は不明である。県外では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

日当たりのよい草地に生える多年草。細長い地下茎を出して繁殖する。茎は高さ60～120cm、鋭い著しい稜がある。茎葉は多数、1～2回3出複葉、小葉は長さ2～4cm、細長く、裏面は白色を帯び、上部が浅く2～3裂することが多い。花序は細い円錐状。花は花弁がなく、葯が目立ち淡黄緑色に見え、径約1cmで、柄が長さ5mm程度。花期は6～9月。がく片は長さ約3mm、4～5個、楕円形。果実は瘦果で、2～6個。多数のおしべとめしべがカラマツの葉を連想させ、平地の草原に生えることから名付けられた。

関係法令の指定状況・特記事項

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。分布の現状が不明であるため分布情報図を非公開とする。

主要文献

大橋ほか編(2016a)、大久保(1999)

(西本 孝)



撮影：倉敷市立自然史博物館

(写真は県外産の標本)



モミジカラマツ

Trautvetteria caroliniensis (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T.Shimizu

被子植物 真正双子葉類 キンボウゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

北海道、本州(北、中)、四国、九州の亜高山帯～高山帯に分布するものが隔離的に分布している。現状では問題ないが、県内の生育地が限定されているため、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

鏡野町などの県北部の限られた場所に分布する。県外では北海道、本州(中国・近畿地方以北)、四国(徳島県、愛媛県、高知県)、九州(大分県、宮崎県)の亜高山帯～高山帯に分布する。

生育状況

亜高山帯～高山帯の湿地の周辺にある草地に生育する多年草。地下に細長い匍枝を伸ばす。茎は直立し高さ25～60cm、2～3葉がある。根生葉および下葉は長柄があり、同心形または腎円形、長さ5～12cm、掌状に7～9深裂または中裂し、裂片には欠刻や鋭い鋸歯がある。茎葉は小さく柄がない。花序は径10～13mmの白色の花をまばらに10個程度つける。花は白色のおしべが目立ち、花弁はなく、がく片は早く落ち、多数のおしべは葯と花糸がともに白色で、長さが5～8mm、めしべは黄緑色で中心に多数ある。花期は7～8月。果実はそう果で、20個程度、広卵形でやや扁平、長さ2.5～3.5mm。掌状に切れ込んだ葉の形がモミジの葉を連想させることから名付けられた。

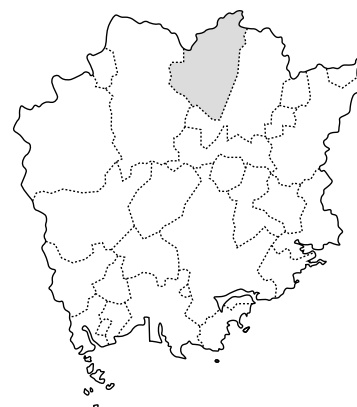
主要文献

大橋ほか編(2016a)、大久保(1999)

(西本 孝)



撮影：西本 孝



チョウセンヒメツゲ*Buxus microphylla* Siebold et Zucc. var. *insularis* Nakai

被子植物 真正双子葉類 ツゲ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

ただちに絶滅が心配される状態ではないが、国内での分布地が岡山県と広島県だけで、また生育地が石灰岩の岩上という特殊な環境に限られていることから、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 石灰採掘, 業者・マニア採取

分布状況

岡山県では吉備高原の日当たりのよい石灰岩上に生える。国内では岡山県と広島県にのみ分布が知られている。

生育状況

高さ2mになる常緑低木。枝は密に分枝し、若枝に4稜がある。葉は対生、葉身は長さ約1cm、葉縁が狭く内曲し、若枝や葉柄に微毛がある。若枝や葉柄の微毛はわずかしがなく、全株無毛のツゲとの区別が明瞭でないこともある。雌雄同株。花期は3～4月。花は上部の葉腋や枝先に束生し、淡黄色。果実は卵円形、長さ約1cm、先に3個の角状突起がある。

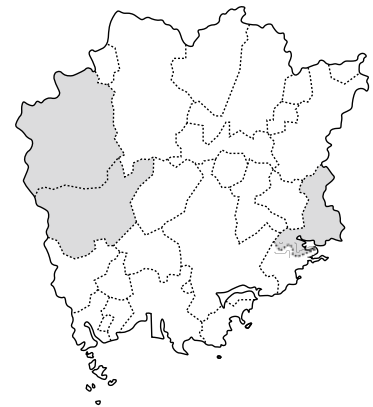
主要文献

北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2016a)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

**ヤマシャクヤク***Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

被子植物 真正双子葉類 ボタン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県内では広い範囲に点在して分布するが、園芸採取等による減少が著しい。スギ植林内でのものは伐採による影響も懸念される。

存続を脅かす要因

森林伐採, 業者・マニア採取, 道路工事

分布状況

県内では中部・北部の夏緑林や、時に植林地の林下に生育する。かつては大きな群生地に出会うこともあったが、減少が著しい。県外では北海道、本州、四国、九州に分布する。日本固有種。

生育状況

高さ30～50cmの多年草。根茎は丈夫で水平に伸びる。中部の茎葉は2～3個、2回3出複葉、伏毛または無毛。花期は5月、茎頂に単生して直立し、径6～10cm。花卉は通常6個で、白色、全開せず半開のまま。雌蕊はふつう2～3個で柱頭は緩やかに反曲する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海・大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

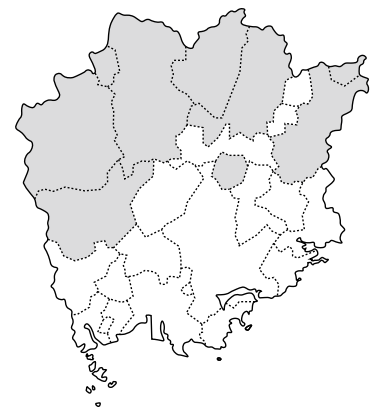
主要文献

中原・羽賀 (1982), 大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(地職 恵)



撮影：地職 恵



ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ボタン科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

もともと生育地、個体数ともに少ない。主に夏緑樹林内に生育するが、人工林化されたことで減少した地域もある。植林されてからも細々生き残っている所もあるが、花が特に目立つことから園芸採取の対象となっている。備前市のものは近年見られないなど、消失した生育地もあり、存続がきわめて憂慮される。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取、産地局限

分布状況

岡山県内では、主に北部の夏緑樹林や植林地の林床に点在して生育する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

茎の高さは30～60cmの多年草。葉は2～3個互生し、2回3出複葉。花期は6月、茎頂に単生して直立し、径7～10cm。花弁は通常5個で、淡紅紫色～濃紅紫色、開花しても全開せず半開のまま。時に白花のものもあり、ヤマシャクヤクと紛らわしいが、雌蕊がふつつう4～5個で、柱頭が鉤状に著しく曲がることで区別できる。また、開花時期は本種のほうが明らかに遅い。

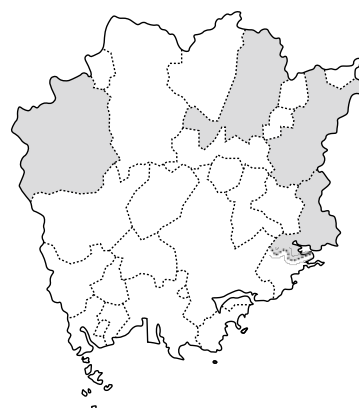
主要文献

大橋ほか編(2016a)、大久保(1999)

(地職 恵)



撮影：高原千春



コウヤミズキ

Corylopsis gotoana Makino

被子植物 真正双子葉類 マンサク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地、個体数ともに多くはない。岡山県中部では人家周辺に個体群を形成しており、人為的影響が懸念される。備前市ではダム建設で自生地の一部が水没した。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取、道路工事、河川開発、森林伐採、ダム建設

分布状況

岡山県内では、山地の岩地などやせ地に点在して自生している。県外では中部地方以西の本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島に分布する。

生育状況

高さ2～5mになる落葉小高木。葉は互生、長さ5～12cm、幅3～9cmの卵状楕円形、葉柄基部は心形で左右非対称、縁には浅い鋸歯がある。葉の表面には無毛または軟毛が散生、裏面は粉白色で伏した長毛が散生するが、特に脈上に多い。花期は3～4月、葉の展葉に先立って開花し、長さ3～4cmの下垂する総状花序に花が3～10個つく。花弁は長さ9～11mm、淡黄色で葯は暗赤色。果実は蒴果で、直径7～8mmの球形。種子は黒色で光沢があり、長さ3～4mm。

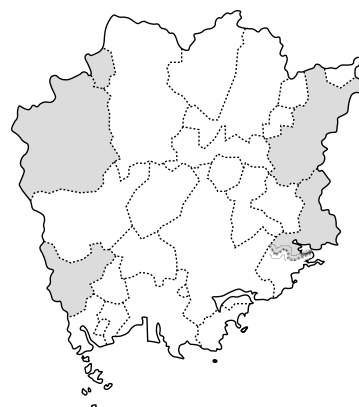
主要文献

茂木ほか(2000b)、難波(1993)、大橋ほか編(2016a)

(片岡博行・高田眞一)



撮影：高原千春



ヒュウガミズキ*Corylopsis pauciflora* Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 マンサク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の生育地は北部の1カ所のみである。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, 業者・マニア採取, 道路工事

分布状況

本州（岐阜県, 石川県～兵庫県の日本海側地域）・四国（高知県）・九州（宮崎県）に分布するとされるが, 2016年に県内でも見つかった（地職, 2017）。生育地は県北部の, 急峻な地形の夏緑樹林と植林地の林下で, 切り立った岩場にも生える。



撮影：地職 恵

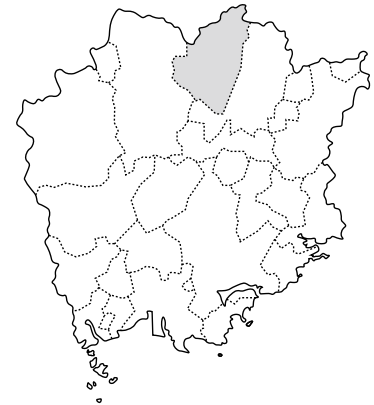
生育状況

夏緑性の低木で, 高さ1～2m。同属の中では, 葉も花序も一番小さい。若枝は, はじめ短毛が散生するが, すぐに無毛となる。葉は卵円形, 長さ2～3cm, 幅1.5～2.5cm, 先は尖り, 基部は切形～浅心形。裏面脈上に伏した長毛が散生する。花期は3～4月。花は短い穂状花序となり, 長さ1～2cm, 2～3個がつく。葯は淡黄色から黄褐色。仮雄蕊は2裂しない。庭園や公園にも植栽される。

主要文献

地職（2017）, 大橋ほか編（2016a）

（地職 恵）

**マルバノキ***Disanthus cercidifolius* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 マンサク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の自生地は北部の1地域のみ。個体数は比較的豊富であるが個体群の拡散が見られず, 産地局限である。茶花・園芸用採取による影響や, 生育地が植林されていることによる将来的な人為的影響も懸念される。

存続を脅かす要因

産地局限, 業者・マニア採取, 林相変化, その他（森林利用）

分布状況

中部地方以西の本州と四国に分布。中国地方では広島・岡山両県内に産地局限。広島県の生育地はアカマツ林が卓越する吉備高原面の谷川沿い。県内の自生地は北部（暖帯域の上限域）の1地域のみで, 中部にも生育情報があるが, おそらくは植栽と考えられる。栽培もされている。



撮影：難波靖司

生育状況

日当たりのよいやせた岩地に生育する。通常低木で, 希に亜高木程度にはなる夏緑広葉樹。落葉前の10～11月頃, 紅葉しながら花が咲くため, 大変風流である。花は暗紅紫色で2個の花が背中合わせに咲く。葉はハナズオウに似て円心形で全縁。別名：ベニマンサク。

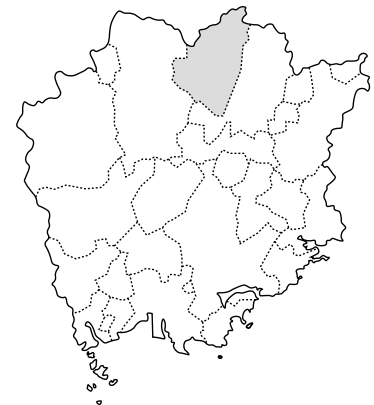
関係法令の指定状況

岡山県希少野生動植物保護条例（平成15年制定）による指定希少野生動植物（平成16年7月16日指定）である。

主要文献

茂木ほか（2000b）, 大橋ほか編（2016a）

（片岡博行・難波靖司）



ヒメユズリハ

Daphniphyllum teijsmannii Zoll. ex Kurz

被子植物 真正双子葉類 ユズリハ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

産地が限られ、場所によっては個体数が非常に少ないところがある。特に本土側の生育地は、島しょ部の生育地に比べ人手が加わる可能性が高く、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

海岸開発、産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県では瀬戸内海の島しょ部と本土側沿海地に生える。国内では、本州（福島県以西）、四国、九州、琉球に分布する。

生育状況

高さ10mになる常緑小高木。葉は互生、葉身は長だ円形～倒皮針形、長さ4～15cm、側脈は8～10対、明瞭な網状脈がある。雌雄別株。花期は5～6月。がく片は3～6個、花弁はなく、雄花は褐紫色のやくが、雌花は淡黄色の柱頭が目立つ。果実はだ円形で長さ8～9mm、紺色に熟す。同属のユズリハは、がく片がないか、あっても1～2個、葉は大きくて長さ15～20cm、側脈は16～19対ある。

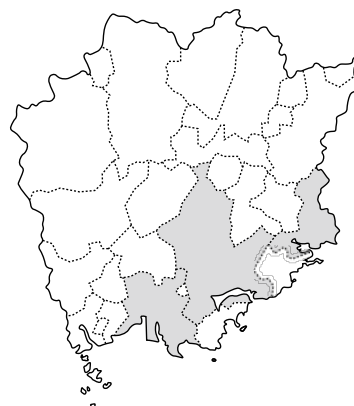
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2016a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ヤシャビシャク

Ribes ambiguum Maxim.

被子植物 真正双子葉類 スグリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

ブナ等の老木に着生して生育するため、生育地が限定されており、個体数も少ない。本種が着生できる老木が生育する森林自体が減少しており、本種の生育数も減少しつつあると考えられる。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では中国山地のブナ林に希に生育。国内では本州、四国、九州の温帯林に分布。国外では中国大陸西部にも分布する。

生育状況

よく発達した温帯林のブナ等の老木の樹上に着生する落葉低木。根は太く、着生した樹上をはう。幹はよく分枝し、全体高さ30～50cm。枝は長枝と短枝があり、はじめは褐色で短毛があるが、古くなると樹皮がはがれ灰色となる。葉は互生で短枝の先に集まってつき、直径3～5cmの五角状円形で葉柄と両面に短毛がある。花は4～5月、短枝の先に淡緑白色の5弁花をつける。子房には針状の腺毛が密生し、果時にも残る。果実は球形～卵球形で直径7～10mm、同年の秋に緑色に熟す。別名、テンノウメ。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

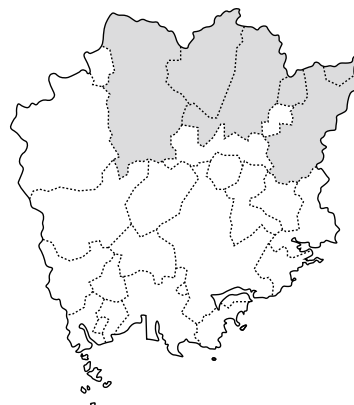
主要文献

狩山（2009）、北村・村田（1979）、茂木ほか（2000b）、大橋ほか編（2016a）

（片岡博行）



撮影：片岡博行



イワネコノメソウ

Chrysosplenium echinus Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、北部山地に生育するが、集団数、個体数ともに少ない。溪流の脇や、谷沿いなど、不安定な立地に生えるため、自然災害を受けやすく、また、植物体が小型で軟弱なため、森林伐採や踏みつけなどで、たやすく消失する危険性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、踏みつけ、産地局限、自然災害

分布状況

本州（福島県南部、関東、東海地方）、四国、九州に分布するとされるが、2007年に県内でも見つけた（地職、2008、2010）。北部山地の湿った岩の上、湿土上、コケの間など、溪流の近くに点々と生育する。

生育状況

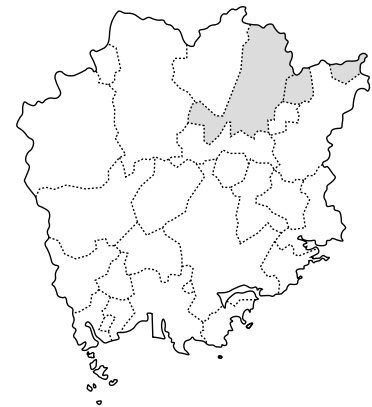
温帯林の隠湿地に生える多年草。高さ5～12cm。根生葉は花時には枯れる。葉腋を除き、茎・葉共に無毛。茎葉は対生し、3～5対の内曲した鋸歯がある。花後、花茎の基部から伸びる走出枝の葉は、先端ほど大きく、鋸歯も鋭く明瞭になり、先端にロゼットを作らない。花期は4月。花は径3～5mm。萼裂片は花時に平開し、三角形で緑色、時に部分的に暗赤紫色をおびる。雄しべは8個、裂開直前の葯は橙赤色。2個の心皮は大きさが異なり、種子には隆状に列生する棍棒状突起がある。

主要文献

地職（2008、2010）、北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016a）
（地職 恵）



撮影：地職 恵



ツルネコノメソウ

Chrysosplenium flagelliferum F.Schmidt

被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では個体数も少なく、産地が局限されている。生育地は微気象の上に成り立っているため、森林伐採などの環境の変化では容易に消失してしまう。

存続を脅かす要因

踏みつけ、産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県内では、北部の主に石灰岩地に生育する。洞窟からの冷気が当たるような特殊な環境下の谷間で見られるが少ない。県外では北海道、本州（近畿地方以北）、四国（剣山）に分布し、山地沢沿いの湿地で見られる。本来は寒冷地に生育する種であるが、岡山県では特殊な環境下に遺存している。

生育状況

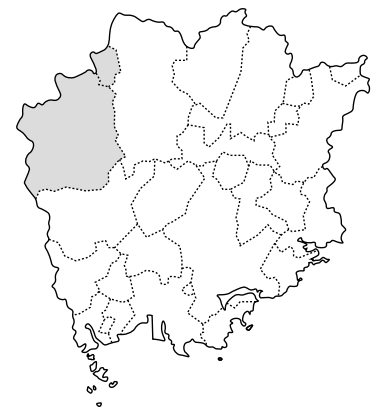
山地の湿地に生育する多年草。花後に出る走出枝は急速に伸長し、その先端は発根して新個体となり、大きな根生葉を出して独立することが特徴となる。根生葉は花時には枯れる。花茎は高さ5～15cm、ほとんど無毛。茎葉は互生し、円形で縁に5～7個の鈍鋸歯がある。花期は4～5月。花は径3～6mm、短い花柄がある。萼裂片は広卵形、黄緑色で花時に平開する。雄しべは8個で、裂開直前の葯は黄色。

主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016a）、大久保（1999）
（地職 恵）



撮影：狩山俊悟



コガネネコノメソウ

Chrysosplenium pilosum Maxim. var. *sphaerospermum* (Maxim.) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内では、中部以北に点在して分布するが、集団数が多いとはいえない。植物体が小型で軟弱なため、森林伐採や踏みつけなどで、たやすく消失する危険性がある。ネコノメソウ属は、溪流の脇や、谷沿いなどの、不安定な立地に生育するため、自然災害を受けやすい。

存続を脅かす要因

森林伐採、踏みつけ、産地局限、自然災害、その他（砂防ダム等保全工事）

分布状況

岡山県内では中部・北部の、林下・林縁に点在し、山地の沢沿いや、陰湿地に生育する。県外では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

山地の陰湿地に生育する多年草。根生葉は花時には枯れる。走出枝はよく発達し、白色軟毛を密生する。葉は対生し、扇形、長さ5～15mm、5～10個の丸い鋸歯がある。花茎は高さ5～10cm、暗紫色を帯び白色軟毛を散生する。花期は4～5月。花は径3～4.5mm、中央のもの以外は無柄。萼裂片は花時鮮黄色または黄緑色で直立し、広卵形、花後緑色になる。雄しべは8個、裂開前の葯は鮮黄色。種子は卵形で、十数個の隆条に、乳頭状突起が並ぶ。

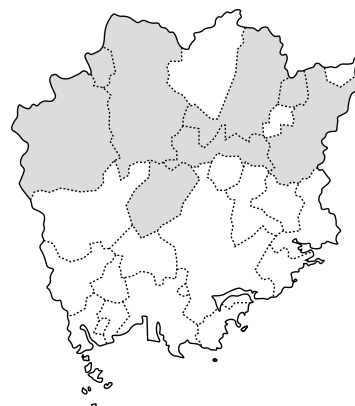
主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016a）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



マルバネコノメソウ

Chrysosplenium ramosum Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地、集団数ともに少ない。ネコノメソウ属は、溪流の脇や、谷沿いなど、不安定な立地に生育するため、自然災害を受けやすい。また、植物体が小型で軟弱なため、森林伐採や踏みつけなどで、たやすく消失する危険性があり、注意を要する。

存続を脅かす要因

森林伐採、踏みつけ、産地局限、自然災害

分布状況

北海道と近畿地方以北に分布するとされるが、2008年に県内でも見つかった（地職、2008、2010）。北部の山地の湿った林下、沢沿いの水際や、飛沫のかかる岩の上に生え、数カ所の生育地があるが個体数は少なく、群落は一カ所のみ（地職・高見、2012）。

生育状況

山地の、沢沿いの湿地に生育する多年草。根生葉は花時には枯れ、花後多数の走出枝を伸ばす。花茎は高さ7～15cmで、開出する白毛を散生し、1～2対の葉を対生する。茎葉は有柄、縁に3～7個の低い鈍鋸歯がある。花期は4～5月。花は径5mm程。4個の萼裂片は緑色、広卵形で、花時に平開する。雄しべは8個で萼裂片より短い。裂開直前の葯は濃黄色。

特記事項

県内の生育地は分布の西限にあたると思われる。

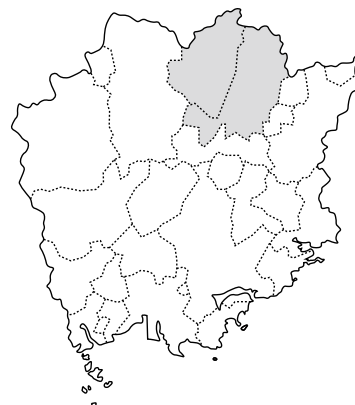
主要文献

地職（2008、2010）、地職・高見（2012）、北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016a）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



ダイヤモンドソウ*Saxifraga fortunei* Hook.f. var. *alpina* (Matsum. et Nakai) Nakai

被子植物 真正双子葉類 ユキノシタ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

滝周辺や溪流辺の岩上に生育地とするため、森林伐採による乾燥化、園芸採取などにより減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取、河川改修

分布状況

岡山県では、北部山地に分布する。主に溪流辺や滝周辺の、飛沫を浴びる湿った岩上に生える。採取困難な岩上のものは保護されているが、登山道わきなどでは少なくなった。県外では北海道、本州、四国、九州の低山から高山帯まで広い範囲に分布する。



撮影：狩山俊悟

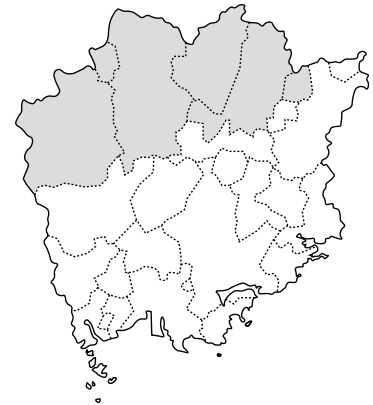
生育状況

山地の湿り気のある岩上などに生育する多年草。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は5～20cm、葉身は腎円形で、長さ3～15cm、幅4～20cm、基部は心形またはくさび形、5～17浅裂する。葉には金平糖状の蔞酸塩の結晶があり、ふつう長毛を生じる。花期は8～10月。花茎は高さ5～40cm。花弁は花時に平開し、白色まれに淡紅色。上側の3弁は楕円形で長さ3～4mm、下側の2弁は線状楕円形で長さ4～15mm、大の字に似る。上向きに咲く花では花弁は5弁ともほぼ同長となる。

主要文献

大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999)

(地職 恵・西本 孝)

**ホンバノキリンソウ***Phedimus aizoon* (L.) 't Hart

被子植物 真正双子葉類 ベンケイソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

道路の開発や工事により産地が消失するなど、個体群の存続が懸念される。

存続を脅かす要因

道路工事、業者・マニア採取

分布状況

県内では、吉備高原の標高約500mの山地に希に自生し、中部の石灰岩地、北部の玄武岩地に見られる。県外では、北海道、本州中部以北にみられる。



撮影：高田眞一

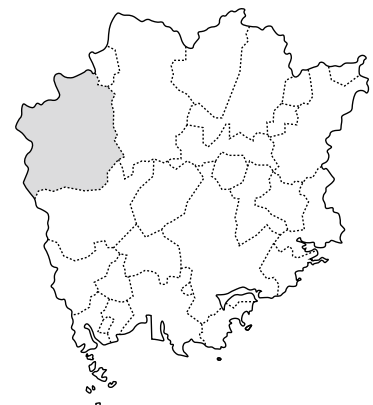
生育状況

山地の草むらの中や、海岸の草原に生える多年生草本で、茎は群生せず数本が直立し、高さ40cm程度になる。葉は菱状楕円形から楕円形となり、縁には尖った鋸歯があり、やや厚みがあり2～5cmとなる。花は黄色で、花期は7月である。キリンソウに比べると、花が密につき、葉の幅は狭く、鋸歯が尖ることで区別できるとされる。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016a), 梅沢 (1989)

(太田 謙・高田眞一)



タイトゴメ

Sedum japonicum Siebold ex Miq. subsp. *oryzifolium* (Makino) H. Ohba

被子植物 真正双子葉類 ベンケイソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸が開発され、生育地を失ったため。

存続を脅かす要因

道路工事, 業者・マニア採取 (園芸採取), その他 (落石防止工事)

分布状況

県内では海岸の岩上, あるいは固まっている砂の上に生える。国内では, 本州 (関東以西), 九州, 奄美大島に分布している。

生育状況

海岸の岩石の隙間や, 崖地に生える多年生草本である。茎は地上を這って多数に分枝し, 分枝した先端部が立ち上がって葉と花をつける。葉は互生し, 多肉質で円柱状倒卵形となり, 長さ3~6mmで円頭となる。花をつけない茎では葉が非常に密につく。夏に茎の先端が分かれて花序をつけ, 黄色の花が咲く。近縁種にオカタイトゴメ, オウシュウマンネングサなどがあるが, これらの帰化植物は主に市街地に生育している。タイトゴメは大唐米で, 小粒で味は悪いが, 炊くとよくふえる米のこと。小さな厚い葉をこの米にたとえたものである。

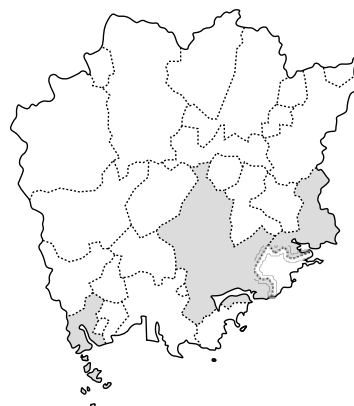
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016a)

(太田 謙・榎本 敬)



撮影：榎本 敬



アズマツメクサ

Tillaea aquatica L.

被子植物 真正双子葉類 ベンケイソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県では2カ所のの生育地が知られるのみである。岡山市の生育地では古くからの低湿地が残り, 周辺を含め公園として整備されている。非常に狭い範囲に生育しているだけで, 不用意に除草してしまうと絶滅してしまう可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限, その他 (管理者による除草)

分布状況

岡山県では公園内や社寺付近のハナショウブ園湿地にのみ生育が知られる。岡山市の生育地では付近にオオアブノメやカワヂシャなどの希少種も生育している。国内では北海道, 本州, 四国に分布する。

生育状況

水田や湿地, 海浜泥地に生える一年生の小型の草本であり, 高さ2~6cmくらいになる。茎は単一あるいは分枝してのびる。葉は対生してやや多肉質で長さ3~7mm程度となる。5~6月に葉腋に白色の小さな花をつける。

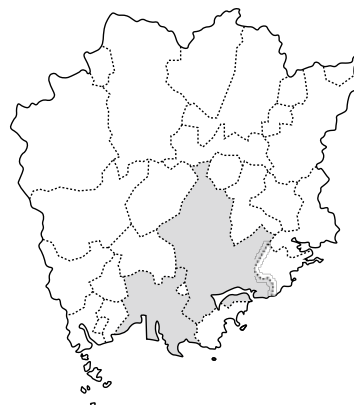
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016a)

(太田 謙・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



タコノアシ*Penthorum chinense* Pursh

被子植物 真正双子葉類 タコノアシ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県内では、3大河川沿いを中心に広く点在していたようであるが、河川改修などで激減した。本種が生育できる環境は現在も減り続けている。

存続を脅かす要因

河川開発（河床平坦化，護岸工事），湿地開発，管理放棄，自然遷移

分布状況

県内では、中部地域の3大河川（吉井川・旭川・高梁川）沿いを中心に、広い範囲に分布する。川の岸辺，泥湿地，休耕田，水路，河原などに見られる。県外では本州，四国，九州，奄美大島に分布する。

生育状況

水位変動の大きい場所に多い多年草。茎は高さ30～80cm，淡紅色を帯びることが多く，分枝せず直立する。葉は互生し，狭披針形，縁には細鋸歯がある。花期は8～9月。花序の枝は，初め先端が渦巻き状に外向きに巻いているが，後に伸長して長さ4～12cmになり，径5mmほどの花を多数つける。花には花弁はない。秋になると紅葉し，果実が付いた花序は赤く染まり，タコの足のように見える。

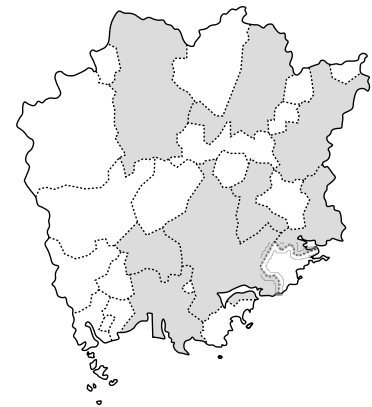
主要文献

林（1989），大橋ほか編（2016a），大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵

**オグラノフサモ***Myriophyllum oguraense* Miki

被子植物 真正双子葉類 アリノトウグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

全国的にも減少傾向の著しい水草。岡山県内の生育地は少なく，さらにため池の改修工事や水質汚濁により減少する懸念がある。

存続を脅かす要因

池沼開発，河川開発，水質汚濁

分布状況

県内：南部。県外：本州，四国，九州。

生育状況

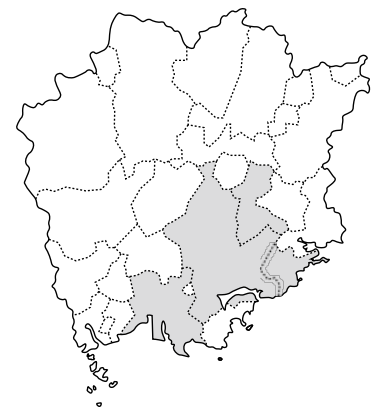
湖沼，ため池，河川などに生育する多年生の沈水植物。葉は4～5輪生で，羽状葉の全長2～4cm。花期は7～9月。気中葉のある花序を水面上に出し，上に雄花，下に雌花をつける。気中葉は粉を吹いたような緑白色。殖芽は2.5～8cmの細長い棒状。普通に見られるホザキノフサモの花序は水面上にのびるが気中葉がない。

主要文献

榎本ほか（1995），浜島・須賀（2005），角野（1994，2014），環境省自然保護局野生生物課（2000），狩山ほか（1999），狩山ほか（1994，2008），小島ほか（2000），大橋ほか編（2016a），佐竹ほか（1982）
（小島裕子・岡田智子）



撮影：小島辰三



ウドカズラ

Ampelopsis cantoniensis (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxim.) F.Y.Lu

被子植物 真正双子葉類 ブドウ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では1カ所からのみ標本が得られていたが、50年以上にわたって新たな標本も生育情報も得られていない。

分布状況

倉敷市立自然史博物館には、1913年に総社市内で採集された標本がある。備中植物誌（吉野，1929）にも同所での記録があるが、その後だれも発見にいたっていない。国内では本州（紀伊半島および山口県）、四国、九州に分布する。

生育状況

夏緑性のつる性木本。枝は無毛で、巻きひげによって上昇する。巻きひげは葉と対生し、先は2分する。葉は柄があり、長さ12～30cm、2～4対の羽状複生となり、最下の羽片はさらに3出する。小葉は卵形～長だ円形、長さ3～10cm、幅1.5～5cm、ほとんど無毛で、脈上にだけ短い毛がある。花は6～7月ごろ開き、小さくて黄緑色、花弁は5個で長さ約2mm。果実は球形で赤熟し、径約7mm。

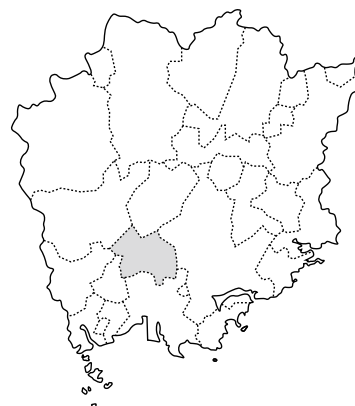
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2016a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



シラガブドウ

Vitis shiragae Makino

被子植物 真正双子葉類 ブドウ科

●岡山県：留意 ●環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

現状では集団数、個体数ともに少なくないが、国内では岡山県にのみ分布が知られる植物であり、今後の推移を見守る必要がある。

存続を脅かす要因

河川開発、道路工事、自然遷移、管理放棄

分布状況

高梁川およびその支流沿いの二次林林縁部あるいは河川敷に生える。中流部に多く、下流部にも生える。国内では岡山県にのみ生育が知られている。

生育状況

夏緑性のつる性木本。若い枝には稜角があり、綿くずのような薄いクモ毛におおわれる。葉は薄く膜質で、長さも幅も7～15cm、3浅裂し、基部はVまたはU字状心形、上面は若時のみクモ毛があるが、下面は常に灰白色から淡黄褐色の薄いクモ毛におおわれる。網状脈は下面に隆起し、脈上にはかたい短毛が疎生する。花は6月ごろ咲き、総状の円錐花序となる。果実は球形で径約7mm、黒く熟す。

特記事項

1918年、備中地区をタイプ産地として新種記載された。国外では朝鮮半島南部および済州島、中国（南部）に分布する。シラガブドウの和名と学名は、牧野富太郎博士が講師を務める植物講習会の世話人であった白神壽吉を記念してつけられた。

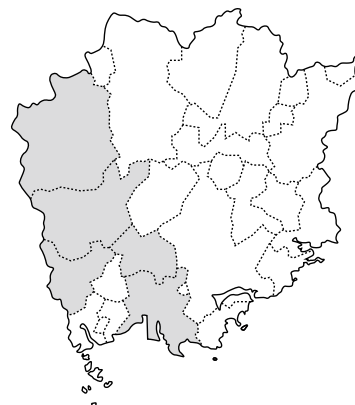
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2016a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ハマビシ*Tribulus terrestris* L.

被子植物 真正双子葉類 ハマビシ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

現在確実な生育地は倉敷市のわずか2か所となっている。どちらも除草剤の使用や土地開発の影響を受け、絶滅寸前の状況である。

存続を脅かす要因

海岸開発，農薬汚染（除草剤使用），その他（除草作業）

分布状況

岡山県内では，笠岡市と倉敷市の海岸の砂浜で記録があるが，笠岡市では30年以上確認されていない。かつては児島半島から西の海岸（島を含む）に自生したとされる。県外では，本州，四国，九州と亜熱帯，熱帯の海岸に生育し，国外では内陸部にも生育する。



撮影：榎本 敬

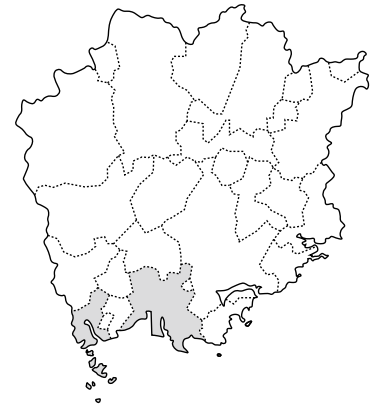
生育状況

果実の刺のために忌避され除草されるほか，除草剤使用の影響を受け，1か所の生育地では消滅寸前。種子は初夏から初秋にかけて随時発芽するため，除草剤が使用されてもすぐに消滅するわけではないが，散布範囲や使用頻度が増えれば影響は免れない。

一年草あるいは二年草で，茎は分枝して地面をはい，長さ1mに達することがある。葉は4～8対の羽状複葉となっており，花柄や葉の軸と共に曲がった短毛および開出毛がある。花は黄色で5弁，花期は7～10月。果実は径約10mmで5分果に分かれ，するどい木質の刺がある。日本には他にハマビシ科の植物は分布していない。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

**主要文献**

林 (2013), 狩山・榎本 (1998, 2001), 狩山ほか (1990), 大橋ほか編 (2016a), 大久保 (1999) (片岡博行・榎本 敬)

モメンヅル*Astragalus reflexistipulus* Miq.

被子植物 真正双子葉類 マメ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では数カ所で採取されていたが，生育が確認できなくなっていた。その後，2004年に旧御津町（現岡山市）で再発見された。しかし，生育地は局限され，個体数も少なく，減少しつつあるため絶滅が危惧される。

存続を脅かす要因

産地局限，道路工事，自然遷移

分布状況

岡山県内では，県の中中部で大久保一治氏の記録と，難波早苗氏の標本採集記録がある。県内で近年確認されたのは南部である。県外では，北海道，本州（広島県以東）に分布する。



撮影：小島辰三

生育状況

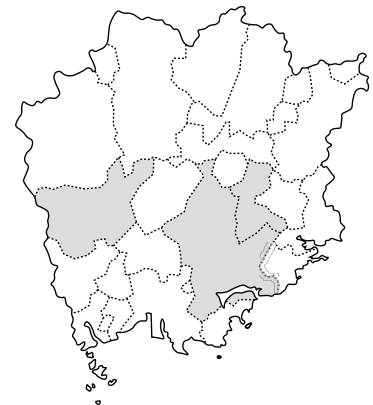
山地や原野に生える多年生草本で，地下に絹質の根を持つ。茎はやわらかく，長く伸びて地上を這って，先端が立ち上がり長さ60～90cmになる。葉は互生して，小葉は5～10対の奇数羽状複葉で，長さ15～30cm。葉腋から葉よりもやや短い花序を出し，6～8月ごろに淡黄緑色の花を8～15個つける。

特記事項

大久保一治氏（昭和31年）によると，旧備中町（現高梁市），旧山陽町（現赤磐市），旧御津町（現岡山市）で確認されていたが，その後，見られなくなったと報告している。現在は，難波早苗氏の標本採集地である高梁市臥牛山でも見られなくなった。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016a) (太田 謙・小島裕子)



ハマナタマメ

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

被子植物 真正双子葉類 マメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸が開発され、好適な生育場所が少なくなったため。また、岡山県の気候条件では種子繁殖に至らないことが多いため。

存続を脅かす要因

海岸開発，産地局限

分布状況

岡山県内では南部の海岸に点在していたが、現在も生育している地域は少なくなった。国内では本州（太平洋側は千葉県以西，日本海側は山形県以南），四国，九州，琉球に分布する。

生育状況

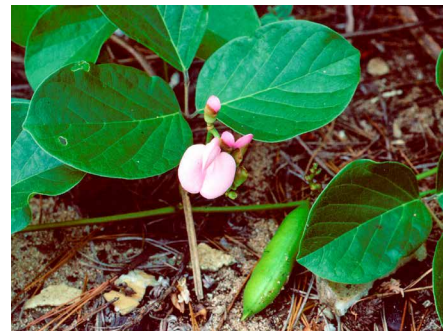
暖地の海岸に生えるつる性の多年生草本で、茎は砂地や岩の上を横に這って伸びて繁茂する。葉は互生し、長い葉柄を持つ3出複葉で、表面に光沢がある。花は淡桃色で節に2～3個つき、1花序に10個以上集まって咲く。花期は7～8月。種子は海流で散布される。本種の生育地の中心は岡山県よりも南方のため、岡山県の気候条件では種子繁殖に至らないことが多いようである。

関係法令の指定状況

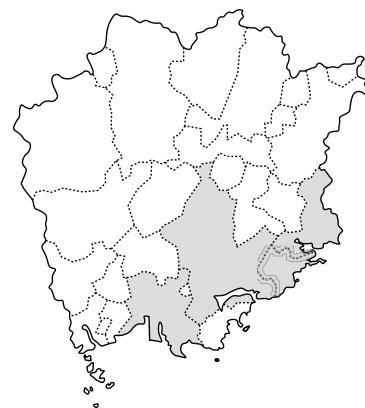
「自然公園法」による瀬戸内海・大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 奥田ほか(1997), 大橋ほか編(2016a)
(太田 謙・榎本 敬)



撮影：小島辰三



イタチササゲ

Lathyrus davidii Hance

被子植物 真正双子葉類 マメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数，個体数ともに少なく，採集圧ならびに開発圧が加わると容易に絶滅する恐れがある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取（園芸採取，茶花用としての栽植目的で採取される），道路工事，森林伐採

分布状況

県内では，中部の石灰岩地，北部の玄武岩地に分布している。県外では，北海道，本州，九州に分布する。

生育状況

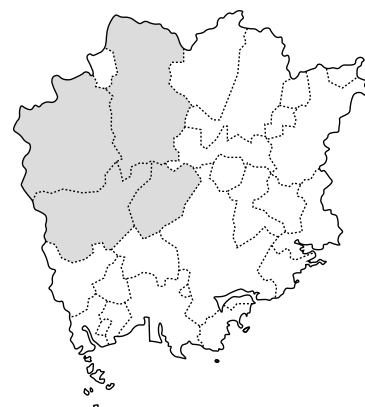
山野の日当たりの良い場所に生える多年生草本で、やや軟弱で高さ90cmくらいになる。茎は丸く、ほとんど無毛。托葉は緑色で長さ12～35mmとなり、時に歯牙がある。葉は偶数羽状複葉となり、葉軸の先は分枝した巻きひげになる。小葉は卵形またはだ円形で4～8個、長さ3～8cm、幅2～4cm、下面は白緑色となる。花は夏季に咲き、総状花序に10～30個がつき、黄色でのちに黄褐色に変わり、長さ15～18mm。果実は偏平な線形で無毛、長さ8～10cm、幅5～6mmになる。

主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 奥田ほか(1997), 大橋ほか編(2016a)
(太田 謙・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



カラメドハギ*Lespedeza inschanica* (Maxim.) Schindl.

被子植物 真正双子葉類 マメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

2000年に岡山市北区玉柏旭川河川敷で発見（近くに自動車運転練習場がある）されたが、現在知られている生育地は1カ所である。個体数も少なく、存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

産地局限，河川開発，自然遷移

分布状況

県内では南部でのみ生育がみられる。国内では四国に生育しているとされる。

生育状況

カラメドハギは、小葉が長楕円形または倒卵形で、先端は鈍形から円頭またはやや凹形となる。メドハギによく似ているが閉鎖花の萼裂片に3脈あることで区別できる。メドハギの閉鎖花の萼裂片は1脈である。またカラメドハギの豆果は萼裂片と同長かわずかに短い、メドハギの豆果は萼裂片の2倍ある。

特記事項

道路法面緑化のために、国外から導入された帰化植物ではないかという見解もある。

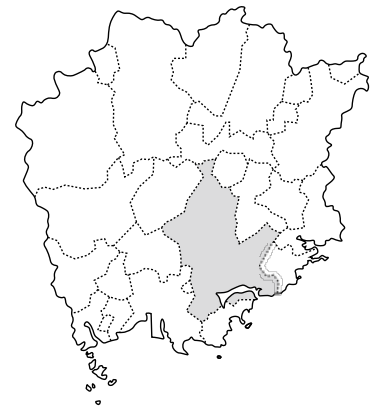
主要文献

岡山県（2010），大橋ほか編（2016a）

（太田 謙・小島裕子）



撮影：小島辰三

**イヌハギ***Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Siebold ex Maxim.

被子植物 真正双子葉類 マメ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に減少傾向の著しい草地生植物で、岡山県内でも個体数が減少している。

存続を脅かす要因

草地開発，河川開発

分布状況

岡山県内では、北部，中部，南部に分布するが、南部の方が生育地はやや多い。県外では、本州から琉球に分布する。

生育状況

山地の草原や海に近い砂地に生育する多年生草本で、高さ60～150cmになる。全体に黄褐色の軟毛に被われる。花期は7～9月である。長い総状花序に多数の白色の蝶形花を付ける。閉鎖花は総状花序の基部，時には先端に生じ，よく結実する。県内では水路わきの草地や川原に生育していることが多い。

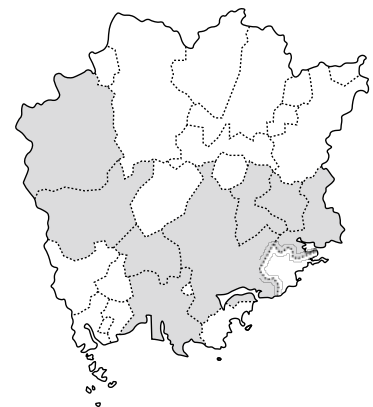
主要文献

牧野（1989），岡山県（2010），大橋ほか編（2016a）

（太田 謙・小島裕子）



撮影：小島辰三(右)・地職恵(左)



ヒメヨツバハギ *Vicia venosa* (Willd. ex Link) Maxim. subsp. *cuspidata* (Maxim.) Y.Endo et H.Ohashi var. *subcuspidata* Nakai

被子植物 真正双子葉類 マメ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

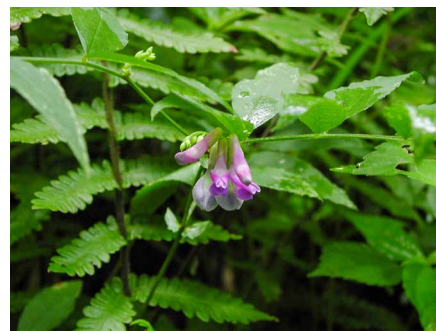
道路べりの林縁部に生えていることが多く、道路の改修や拡幅工事のために減少している。また林内のものも他の植物が繁茂すると減少する可能性がある。

存続を脅かす要因

道路工事, 管理放棄

分布状況

岡山県内では主として中部の吉備高原地域を中心に分布し、草地や林縁部に見かけることが多い。国内ではほかに九州（佐賀，大分，熊本）に飛び離れて分布する。



撮影：狩山俊悟

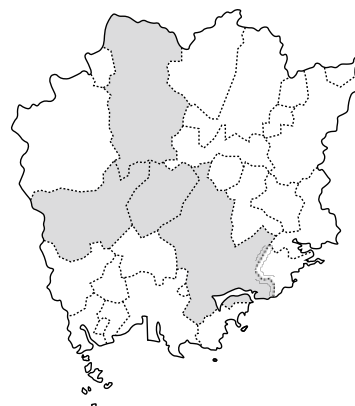
生育状況

高さ40～60cmになる多年草で、茎は直立する。葉軸の先端は針状突起に終わる。小葉は卵状長だ円形で6～10枚あり、長さ2～4.5cmとなる。花期は6～9月。花は紅紫色または青紫色で長さ12～15mm、葉腋から花柄を出し、総状花序に2～5個の花をつける。小葉が大きくなるとエビラフジに似るが、エビラフジでは小葉が卵形で先端が鋭尖形または尾状に伸びるのに対し、ヒメヨツバハギでは小葉が卵形またはだ円形で先端は鋭形となる。

主要文献

岡山県（2010），大橋ほか編（2016a）

（太田 謙・狩山俊悟）



ヒナノキンチャク *Polygala tatarinowii* Regel

Polygala tatarinowii Regel

被子植物 真正双子葉類 ヒメハギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県内で現存するのは1カ所のみ、個体数もきわめて少ない。一年草ということもあり、生育は安定していない。生育場所が道端であることから、人為的影響を受けやすく、道路拡幅工事などでは一挙に絶滅してしまう危険性が高い。全国的にも絶滅、あるいは危険度の高いランクとなっている。

存続を脅かす要因

道路工事, 草地開発, 業者・マニア採取, 管理放棄, 産地局限

分布状況

県内では2カ所の生育地が知られていたが、現在では中部の石灰岩地の1カ所に生育するのみである。日当たりの良い道路脇の石灰岩上や割れ目、また地面に生育するが、ごく狭い範囲にしか見られない。県外では本州（太平洋側岩手県以南，日本海側山形県以南），四国，九州に分布する。



撮影：地職 恵

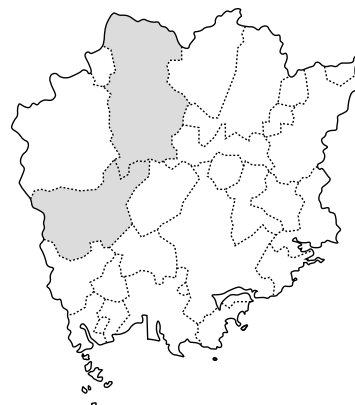
生育状況

高さ7～15cmの一年草。茎はほとんど無毛、基部でしばしば分枝する。葉は薄く、卵円形または楕円形で、長さ1～3cm、基部は急に細まり、葉柄に沿下する。葉のふちに細毛がある。花期は7～10月。花は淡紅紫色で長さ約2mm、多数が密生した総状花序につく。下から順次咲きあがり、花期は長い。蒴果は片側につき、円形、扁平で径約3mm。

主要文献

門田ほか（2013），大橋ほか編（2016a），大久保（1999）

（地職 恵）



チョウジザクラ*Cerasus apetala* (Siebold et Zucc.) Ohle ex H.Ohba var. *tetsuyae* H.Ohba

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

今すぐ絶滅するほどではないが、生育環境が限られており、開発などで急激に減少するおそれがある。

存続を脅かす要因

道路工事, 業者・マニア採取 (園芸採取), その他 (落石防止工事)

分布状況

岡山県中部の新見市と高梁市を中心とする高梁川流域の石灰岩地に生育する。県外では本州 (東北地方から広島県に至る太平洋側), 九州 (熊本県) に分布し, 主に石灰岩地などに点々と見られる。山地の自然林や二次林に分布するが, 二次林にやや多いとされる。

生育状況

山地に生える落葉小高木で, 葉は卵形で先端が尾状に伸びて約5 cmになる。若枝, 葉柄, 花柄, 葉裏などに短くやわらかい開出毛がある。花期は4月, 葉の展開と同時に, それよりわずかに早い。花は長さ1.5cm程度で花弁は白色でやや淡紅色を帯びる。花序は葉腋から1~3個が下向きに咲く。

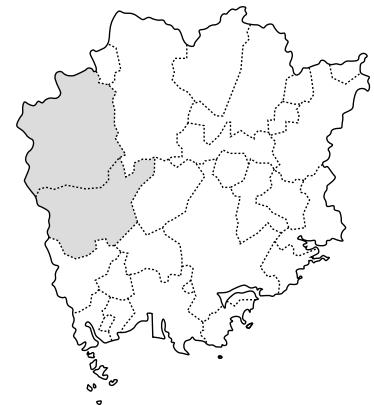
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：地職 恵

**キンキマメザクラ***Cerasus incisa* (Thunb.) Loisel. var. *kinkiensis* (Koidz.) H.Ohba

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地は露岩上や, 石灰岩地などの日当たりの良い場所に限定されており, 個体数も多くない。石灰岩の採取, 生育地の植生の発達による生育条件の悪化や, 遊歩道の整備などの際に気づかず伐採されるなどして, 減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

道路工事, 管理放棄, その他 (観光開発, 諸処の開発)

分布状況

岡山県中部の石灰岩地, 北部の玄武岩地に, ごく稀に生育する。県外では本州 (富山県, 石川県, 福井県, 長野県南部, 岐阜県および近畿, 中国地方) に分布する。

生育状況

山地に生える落葉小高木で, 葉は小さく卵形から倒卵形で, 長さ3~6 cmとなる。花弁は基部が細く, 白色または淡紅色で, 新葉の展開に先立って開花する。花序には1~3個つき, 下向きに咲き直径は1.8~2 cmほどで, 花数は少ない。若い枝は無毛である。県内では南部から北部まで広く分布し, 陽地から半日陰までの山地の岩上, 河川の崖地・岩壁に生育する。

関係法令の指定状況

「岡山県自然保護条例」により, 自然環境保全地域 (塩滝地域) の野生動植物保護地区において保護すべき種に指定されている。

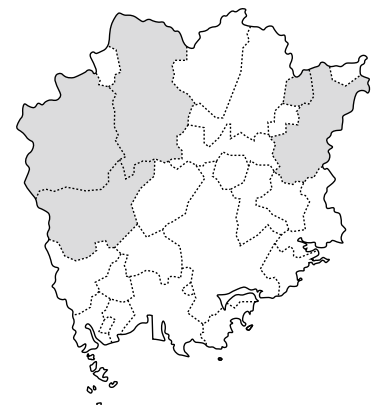
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博・片岡博行)



撮影：狩山俊悟



クサボケ*Chaenomeles japonica* (Thunb.) Lindl. ex Spach

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の北部および中部に生育するが、最近では見かけることが極端に少なくなりつつある。人里近くの日当たりの良い草地や林縁に生えるので、不用意に草刈りをされたり、園芸目的のために採取されたりする可能性がある。

存続を脅かす要因

土地造成，管理放棄，自然遷移，業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では，南部から北部の山間の集落周辺・草地に稀に生育している。国内では，本州および九州に自生する。

生育状況

丘陵地から山地に生える落葉小低木で，茎は地際から枝分かれして地を這うように伸びて，やがて斜めに立ち上がる。小枝は棘状となる。葉は互生し，倒卵形で長さ2～5cmと小さい。花は4月に展葉に先立って開花し，花弁は緋赤色で，雌雄異花となる。花が美しく，果実が民間療法に用いられるため，人家によく植えられている。そのため，自生のものか逸出のものか判断に迷うものもある。

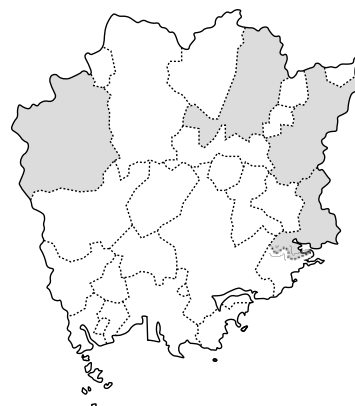
主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，奥田ほか(1997)，大橋ほか編(2016b)

(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：地職 恵

**オニシモツケ***Filipendula camtschatica* (Pall.) Maxim.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

河畔林の樹冠に遮蔽されてしまわない程度の規模の谷川沿いに生育し，よく土砂の堆積した水辺の砂洲にブッシュを形成している。生育地そのものも限られているが，それが主要な地域連絡道に接しており，拡幅・路線変更を含めた道路工事により，存続が脅かされる状態に追いやられている。

存続を脅かす要因

森林伐採，道路工事

分布状況

岡山県では北部のブナ帯に生育する。国内では北海道と本州に分布する。北方系の植物で，北海道や東北に多く生えるが，本州の西部に行くほど生育地は限られる。

生育状況

冷温帯域の適湿なところに生育する多年草である。大型で高さ1～2mに達する。葉は羽状複葉だが，頂小葉は大型でほぼ円形。托葉は大型で茎を抱く。初夏の頃に枝先または上部の葉の葉腋から花序を出し多数の花をつける。花は白色で，花柄には毛が生える。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海・大山隠岐国立公園の指定植物である。

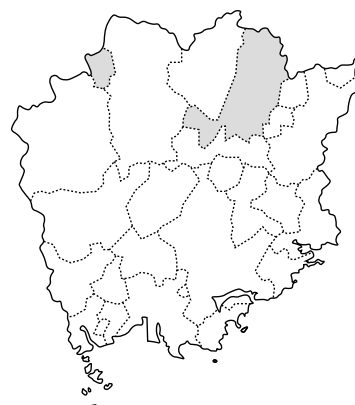
主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，奥田ほか(1997)，大橋ほか編(2016b)

(太田 謙・池田 博・難波靖司)



撮影：地職 恵



シモツケソウ*Filipendula multijuga* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では湿った林縁部などに生える。分布地は点在しているが、生育地が人間の生活圏や農耕地に近い個体群については、土地造成による直接的な影響の他に、人為的干渉の低下に伴う自然遷移によっても減少していく可能性がある。乱獲の影響も否めないことから、様々な方面から、生育環境への影響について注意していく必要がある。

存続を脅かす要因

湿地開発，草地開発，土地造成，業者・マニア採取，管理放棄，自然遷移

分布状況

岡山県内では、北部の脊梁山地を中心とする山地に生育する。県外では本州（関東以西）、四国、九州に分布し、山地の日当たりの良い稜線や、湿地に生えるとされる。

生育状況

草原や湿地の周辺に生える多年草である。葉は羽状複葉で多くの小葉がある。夏季に、茎の先または上部の葉の腋から花序を出し、たくさんの花をつける。花柄は無毛。花は小型で、通常ピンク色を呈す。

関係法令の指定状況

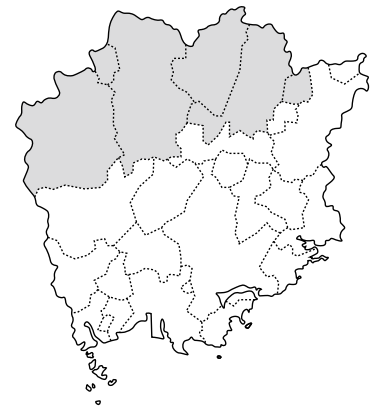
「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)
(太田 謙・池田 博・難波靖司)



撮影：地職 恵

**バクチノキ***Laurocerasus zippeliana* (Miq.) Browicz

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

瀬戸内海の無人島に1集団が生育しているだけで、個体数もごくわずかである。島内には踏み跡程度の歩道があり、歩道の整備にあたっては、誤って伐採することのないよう十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採，産地局限（特に限定的）

分布状況

県内では玉野市内の島にわずかに自生しているのみである。国内には、本州（関東南部以西）、四国、九州、琉球に分布する。

生育状況

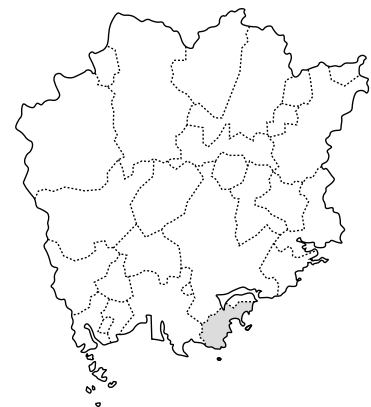
暖地の低山から山地に生える常緑高木で、幹は灰紫色を帯びる褐色だが、あちこちが鱗状にはがれ、その跡が茶色のまだら模様になる。葉は長さが8～14cmの長だ円形で、やや分厚く、表面が濃緑色、裏側は淡緑色、無毛である。葉の縁に鋭く小さな鋸歯があり、葉脈が葉裏に隆起する。花は9月ごろ、葉腋に白い5弁の小花が穂のような花序を作って咲く。果実はゆがんだ長だ円形で、翌年の初夏に黒紫色に熟する。

主要文献

牧野 (1989), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)
(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



ズミ

Malus toringo (Siebold) Siebold ex de Vriese

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに元々多くないが、主な生育地である湿地の開発や、管理放棄による生育環境の悪化により減少しつつある。

存続を脅かす要因

湿地開発，草地開発，河川開発，管理放棄，土地造成

分布状況

岡山県では北部の湿地周辺や小河川の岸などに生え、日当たりが良く、やや湿った場所に好んで生育する。岡山県外では北海道、本州、四国、九州に分布する。北方系の植物であり、本州西部から四国、九州では生育地は限られる。



撮影：片岡博行

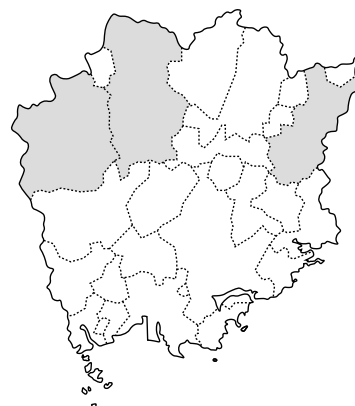
生育状況

山地の草原や湿地の周辺の日当たりの良いところに生える落葉小高木または低木で、樹高は10m程度となる。葉は狭卵形から広卵形で、しばしば3裂する。小枝はしばしば刺状になる。樹皮は古くなると縦に割れ目が出る。花は春に咲き、花弁は白色で多数つき、満開時には樹冠が真っ白になる。果実は球形で、直径6～10mmとなる。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b), 鮫島 (1989)

(太田 謙・池田 博・片岡博行)



オオウラジロノキ

Malus tschonoskii (Maxim.) C.K.Schneid.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北部の中国山地を中心に夏緑樹林内に生えるが、ごく希である。植林のために伐採されて、個体数は少なくなった。現状では危険な状態ではないと思われるが、森林伐採などにより絶滅する恐れがある。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

岡山県では北部・中部の山地を中心にやや希に生育する。国内では、本州、四国、九州（九重山）に分布する。



撮影：地職 恵

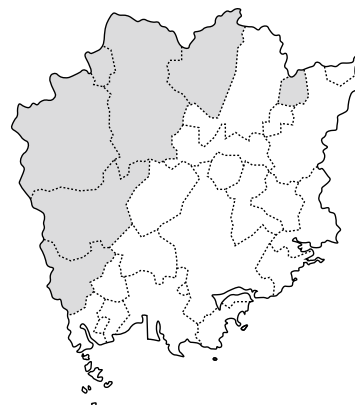
生育状況

山中に散在する落葉高木で、樹高20mに達する。葉はだ円形から広卵形で、若い時には両面に白色または淡黄色の綿毛を密生するが、のちに表面はほぼ無毛となり光沢がある。花は5月、短枝の先に4～6個が散状につき、白色で直径約3cmとなる。果実は球形で直径約2cm、赤熟し、頂端に直立する萼裂片が残る。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博・西本 孝)



オオカナメモチ*Photinia serratifolia* (Desf.) Kalkman

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：野生絶滅 ●環境省：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

岡山県では、昭和37年に日生町と隣接する備前市で、大久保一治氏により初めて発見された。発見された当時はかなりあったとされるが、今は絶滅している。自生起源の系統が諸処に植栽されている上、それとは無関係に庭木などとしても流通するようになってきているため、野生絶滅としている。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取（野生絶滅となった要因）

分布状況

岡山県内では備前市にかつて自生していた。国内では奄美諸島、琉球（西表島）に分布する。

生育状況

常緑高木で、高さは4～6m、時に10m以上に達する。枝は無毛。葉は長だ円形、カナメモチより1.5～2倍大きくて、20cmほどの長さになる。花序も壮大で直径15cmほどになる。花期は4～5月で、白色である。果実はほぼ球状で総状につき、直径6mmで紅色に熟し、中に1個の種子がある。

特記事項

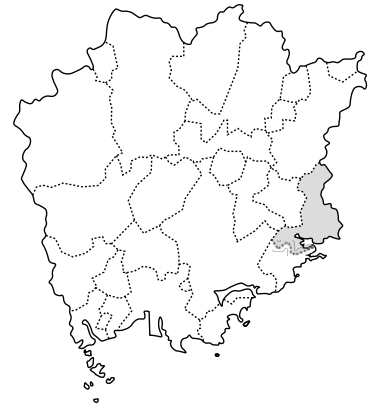
岡山県南部には、植栽された個体から種子散布されたと思われる実生や若木が時折見られる。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）
（太田 謙・池田 博・難波靖司）



撮影：小島辰三

**ヒメヘビイチゴ***Potentilla centigrana* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県ではただ1カ所の生育地が知られるのみである。林道の脇の非常に狭い範囲に生育しているだけなので、道路の拡張工事などが行なわれると絶滅する危険がある。

存続を脅かす要因

道路工事，産地局限

分布状況

岡山県は西限に近く、確実な産地は1カ所のみである。国内では、北海道、本州、四国に分布する。北海道や東北ではやや普通だが、本州の西部では主に日本海側に分布する。近年、広島県で生育地が発見された。

生育状況

山地または原野の湿地に生える匍匐性の多年生草本で、茎は地表をはって広がる。葉は3小葉からなり、質は薄く表は淡緑色、裏は緑白色を呈す。花は6月に咲き、直径約1cm、花は匍匐枝の葉腋につくように見えるが、実際は枝の先に着いている。一見ヘビイチゴに似るが、副萼は小さく、ヘビイチゴのように大きくはない。

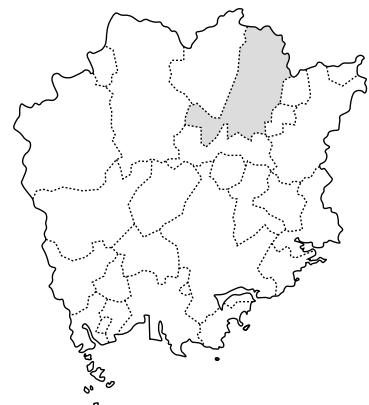
主要文献

池田ほか（2003）、池田・吉野（2005）、牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）

（太田 謙・池田 博）



撮影：狩山俊悟



カワサイコ*Potentilla chinensis* Ser.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

河原の環境適応種として知られており、河川敷の中でも水面からある程度高さのある礫地に生える。本来であれば洪水時に一掃されてしまうほどの攪乱と、平常時の乾燥、樹木や大型の草本が定着しにくい礫地であることが生命線である。近年では河川開発などによる直接的な影響の他、ダムによって洪水が減り、生育地の環境が変化してきたことも減少の一因と考えられる。その他にも、近年河川敷においてシナダレスズメガヤが繁茂する状況が見られるようになってきたことが、今後の懸念される減少の要因である。

存続を脅かす要因

河川開発、道路工事、その他（ダムによる水位管理、帰化種との競合）

分布状況

岡山県では中部および南部の河原に生育する。国内では本州、四国、九州に分布する。本来の生育地ではないが、以前は倉敷市の埋立地に群生地があった。これについては工場建設にともなって絶滅状態となった。

生育状況

河川や海岸付近の乾いた砂礫地に生育する多年草で、地下茎は太く、直根が地下深くに伸びる。葉は羽状複葉で多数の小葉からなり、小葉はさらに深く切れ込む。花は6～8月、根出葉の腋から集散花序に多数の黄色い花をつける。

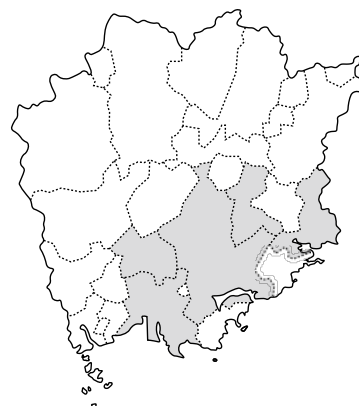
主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 奥田ほか(1997), 大橋ほか編(2016b)

(太田 謙・池田 博・難波靖司)



撮影：狩山俊悟

**ミツモトソウ***Potentilla cryptotaeniae* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の生育地では、いずれの場所でも個体数は多くはなく、生育環境の悪化や開発行為、林道工事などにより個体数が減少したり、あるいは生育地自体が消滅したりする恐れがある。

存続を脅かす要因

草地開発、管理放棄、道路工事、自然遷移

分布状況

岡山県では北部から中部の湿った林縁や草地などに点々と分布する。岡山県外では北海道、本州、九州に分布する。

生育状況

山地の水辺に近いところや、草原、牧草地などに生育する多年草である。茎は直立し、毛が生える。葉は羽状複葉で花時に根出葉はない。花は7～9月、茎の先に集まってつく。花は直径約1cm。エゾノミツモトソウに似るが、托葉の半分以上が葉柄に合着することで区別される。

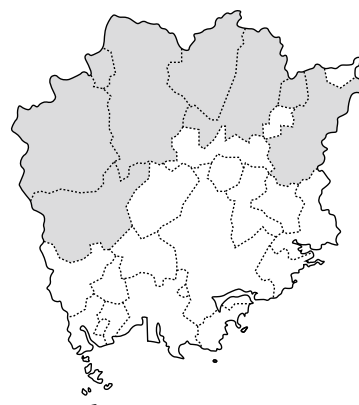
主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 大橋ほか編(2016b)

(太田 謙・池田 博・片岡博行)



撮影：片岡博行



イワキンバイ

Potentilla dickinsii Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では既知の分布地が少なく、また生育環境が限定されていることから、注意を要する。生育地近傍の登山道の整備にあたっては十分な配慮が必要である。

存続を脅かす要因

踏みつけ、その他（登山道の整備）

分布状況

県内では北部に分布する。中国山地の稜線部の岩石地に点々と生育している。国内では北海道から九州まで分布する。

生育状況

山地の乾いた岩の間に生える多年生草本である。全体に伏した毛がある。根は岩の間に伸びて、太く発達する。茎は根もとから分枝して、10～30cmの高さにのび、6～7月頃、径1cmくらいの黄色い花をつける。葉は3～5小葉がついて、小葉は硬く、菱形で縁にはあらい鋸歯があり、裏面は粉白色で伏毛がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

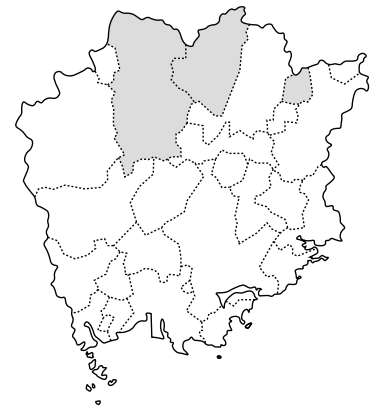
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：地職 恵



ツチグリ

Potentilla discolor Bunge

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：野生絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では、赤磐市で採集された標本が倉敷市立自然史博物館に納められているが、現在は確認されておらず、野生状態のものは絶滅状態である。河川改修などで生育地が改変されたためではないかと考えられる。

分布状況

岡山県中部にかつて分布していた。国内では、本州（愛知県以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

山地や原野にみられる多年生草本で、根元から茎が数本分かれて立ち上がり、高さ30cm程度になる。田や畑の畦、草地などに生育することが多い。根は紡錘形となり、デンプンを貯蔵していて食用となる。葉は羽状複葉で、裏面は白い毛で密に覆われる。春に根出葉の腋から集散花序を出し、黄色い花弁の花をつける。花序も白い毛で覆われている。

特記事項

現在野生状態のものは確認されておらず、岡山県下では絶滅したのではないかと考えられる。

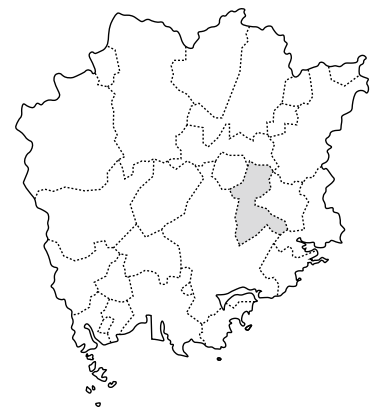
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博)



撮影：狩山俊悟



ミチノクナシ

Pyrus ussuriensis Maxim. var. *ussuriensis*

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧 I B類(EN)

選定理由

岡山県中部を中心とした人里近くに稀に生えているが、個体数は少ない。人家付近にも生えるので、不用意に伐採や工事が行われないう、注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採, 道路工事, 土地造成

分布状況

岡山県中部に広がる吉備高原を中心に点在する。国内では、本州、九州北部に分布するとされる。

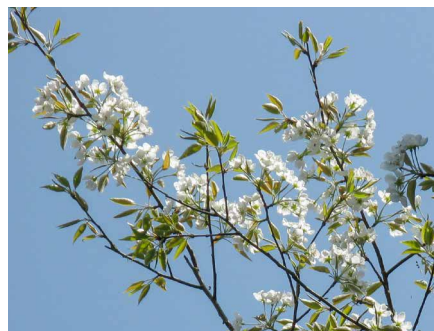
生育状況

低山や里地の周辺に生える落葉高木で、樹高は高さ15mに達する。ミチノクナシは葉の大きさ、鋸歯、花柱の基部の毛、果実の大きさ、形などに変異が大きく、これまで多くの種が記載されてきた。岡山県からは、オクマンダナシやキビナツナシなどが記載されているが、これらはミチノクナシの変異の中に入ると考えられる。

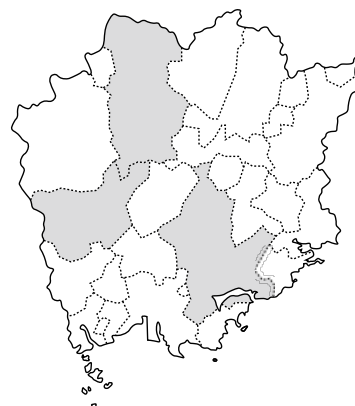
近年の研究により、日本国内に生育するミチノクナシの多くは、古い時代に帰化したニホンナシと交雑していると指摘されている。遺伝的に真のミチノクナシとみられる個体群は東北の北上山地に分布することが指摘されているが、岡山県内の個体群がどのような由来のものかは解明されていないため、情報不足としている。

主要文献

Iketani *et al.* (2010), 牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b) (太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



シロヤマブキ

Rhodotypos scandens (Thunb.) Makino

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I B類(EN)

選定理由

全国的に希少な植物であり、国内の自生地が非常に限られている。よく栽培されているため、他地域産の個体の自生地への侵入や、自生地の個体と交雑が懸念される。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取, 道路工事

分布状況

岡山県内では、新見市や高梁市の石灰岩地において、アベマキ林の林縁などに生える。県外では本州（中国地方）に分布する。

生育状況

石灰岩地に稀に生える落葉小低木で、幹は叢生して高さ2mほどになる。若枝には早落性の軟毛があり、のちに無毛となる。葉は卵形で無毛、先端は鋭尖頭で、基部は円形か時にやや心形、縁には鋭い重鋸歯がある。葉の裏面には軟伏毛がある。花期は4～5月。花は大きく直径3～4cm、白い4枚の花弁がつき、非常に可愛い。瘦果は1花に4個つき、秋に光沢のある黒色に熟して特徴的である。

関係法令の指定状況・特記事項

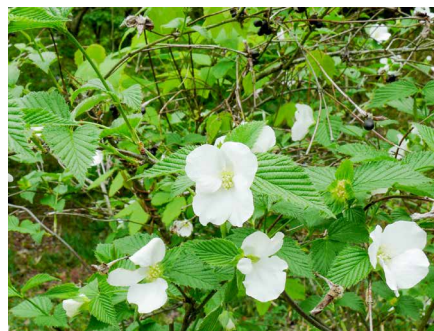
明治36年、牧野富太郎が日本で初めて、現在の新見市で自生地を発見した。よく栽培されるが、他地域産の個体を自生地付近に持ち込まないよう注意すべきである。

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

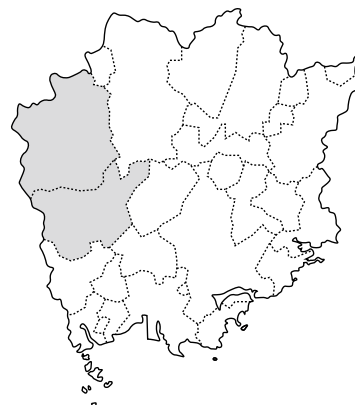
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 奥田ほか (1997), 大橋ほか編 (2016b)

(太田 謙・池田 博・山下 純)



撮影：地職 恵



モリイバラ*Rosa onoei* Makino var. *hakonensis* (Franch. et Sav.) H. Ohba

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、吉備高原から中国山地にかけての中部、北部に点在するが、出会うことは希である。花や果実がないと他種との区別が難しく、気づかれぬまま伐採や工事が行われてしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、土地造成

分布状況

岡山県では北部から中部にかけてやや希に生える。国内では、本州（関東以西）、四国、九州に生える。九州では標高700m以上、関東では標高600～1200mに生えるとされる。

生育状況

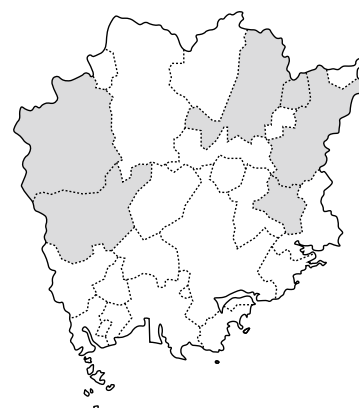
山地の夏緑広葉樹林内に生える落葉低木で、茎は無毛。とげはやや細長い。葉は5～7小葉からなる。花は5～6月、小枝の先に通常1個（まれに2個）の花をつける。花は直径2.5cmである。花柄には腺毛が生える。花弁は白色。果実はだ円形で長さ7～12mmになる。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）
（太田 謙・池田 博・狩山俊悟）



撮影：地職 恵

**ヤブイバラ***Rosa onoei* Makino var. *onoei*

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の中中部・南部に点在するが、分布は限定的で個体数は多くない。花や果実がないと目立たない植物なので、気づかれずに伐採や工事が行われて失われてしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、土地造成

分布状況

岡山県では中中部から南部を中心に所々に生育する。国内では、本州（関東西部以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

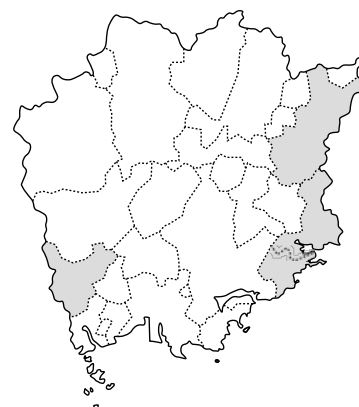
山地の林内に生える落葉低木で、高さは2～3mくらいになる。茎は緑色で無毛、棘は長さ3～5mmで、まばらにつく。葉は5～7枚の小葉からなり、小葉は長さ1～2cm。花は5～6月で、細い花序に小數つき、直径1.5cmで芳香がある。花弁は倒卵形で白色。果実はほぼ球形で、長さ5～6mmとなり、秋に赤く熟する。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）
（太田 謙・池田 博・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



クロイチゴ

Rubus mesogaeus Focke

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では中国山地の3カ所に分布が知られるのみで、個体数はごくわずかである。林道沿いの林縁部などに生えるので、不用意に刈り取ってしまわないよう、注意が必要である。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、道路工事、森林伐採、土地造成、自然遷移

分布状況

岡山県では北部の限られた地域に生育するのみである。国内では、北海道、本州、四国、九州に生える。

生育状況

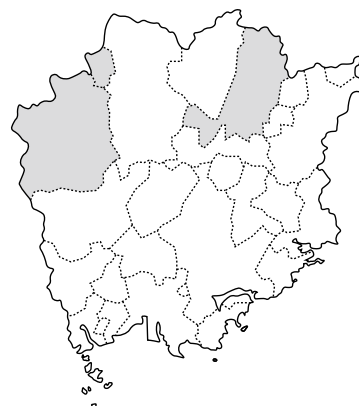
山地の林縁や林内に生えるつる性の落葉低木である。枝には下向きの刺と細い毛が生える。葉は3出複葉、または5小葉を持つ羽状複葉となる。葉の裏面には白色の毛を密生する。葉柄には細毛を密生する。花は6～7月。花序は頂生または葉腋から出し、4～9個の花をつける。花序には短毛を密生する。果実は球形で、紅色を経て紫黒色に熟する。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b)
(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



キビナワシロイチゴ

Rubus yoshinoi Koidz.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状況にはないが、生育地は石灰岩地に限られ、個体数もやや少ない。「吉備」の名の付く岡山県にゆかりの深い植物であり、安定して生育できるように留意する必要がある。

存続を脅かす要因

石灰採掘、管理放棄、森林伐採、林相変化（針葉樹林転換）

分布状況

岡山県内では新見市、高梁市、真庭市などの主に石灰岩地に分布している。岡山県外では本州（福島県以南）、九州に分布する。

生育状況

日当たりの良い原野や林縁に生える、つる性の小低木である。茎にとげがあり、長く伸びて地上を這う。葉は互生し、3出複葉となる。小葉はナワシロイチゴより細長く、長卵形で先が次第に鋭くとがり、縁に不ぞろいな重鋸歯がある。葉の表面は無毛で、裏側は初め白い綿毛があって白いが、次第になくなって淡緑色になる。花期は5～6月、花は枝先に数個が集まって咲き、淡紅紫色となる。果実は赤く熟し、直径約1cmの球形で、結実の状況は良くない。

特記事項

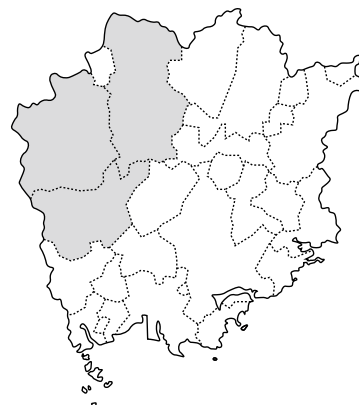
明治36年（1903）吉野善介が日本で初めて現在の岡山県新見市内で採集した。その後、大正2年に小泉源一が吉野善介から送られた標本によって命名し、発表した。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b)
(太田 謙・池田 博・片岡博行)



撮影：地職 恵



シモツケ*Spiraea japonica* L.f.

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、脊梁山地の一部にだけ点在し、個体数も多くない。花が美しいので栽培されることがあり、園芸目的での採取が懸念される。また自生地の山頂付近が大規模に開発されたことがある。

存続を脅かす要因

産地局限、業者・マニア採取、その他（観光開発）

分布状況

県内では新見市や真庭市内のごく一部の山地に自生するのみである。県外では、本州、四国、九州に分布し、山地の日の当たりやすい林縁の他、木本類が生育しにくい湿地や蛇紋岩地にも見られる。また、観賞植物として庭によく植えられている。

生育状況

各地の山野に生える落葉小低木で、茎は根元からよく分かれて束生し、高さ1m程度になる。葉は卵形で、葉先はとがり、基部は円形からくさび形となる。葉の縁は不規則な重鋸歯があり、裏側に軟毛がある。花期は夏で、小花群が枝先に皿状に集まって咲き美しい。花は雄蕊が長く突き出て、濃淡さまざまなピンク色となる。なお、葉の大きさや形態、毛の状態などについては、変異が著しい。

関係法令の指定状況

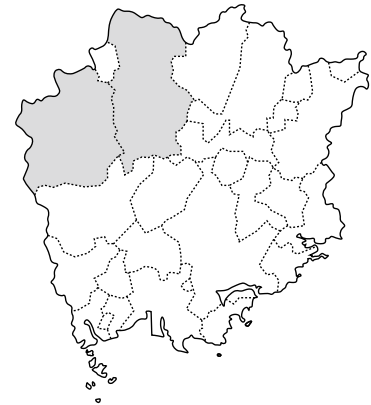
「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

牧野(1989)、岡山県(2010)、奥田ほか(1997)、大橋ほか編(2016b)
(太田 謙・池田 博・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

**ユキヤナギ***Spiraea thunbergii* Siebold ex Blume

被子植物 真正双子葉類 バラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、自生と思われるものが少ない上に、自生地に栽培からの逸出個体が侵入するなど、自生個体と栽培個体との間で遺伝的かく乱が起こる恐れがある。

存続を脅かす要因

河川開発、ダム建設、その他（遺伝的攪乱）

分布状況

県内では、各地の河川の岸辺に時々見られる。全国的には、本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

河川の岩上や岸辺に生える落葉小低木である。溪流帯（増水によって冠水する場所）に多い。幹は叢生して、枝は細く長く弓なりに伸び、長さ1～2mになる。花は3～5月に、展葉より前に白色の花を散形状につけ、多数の花序が前年枝にやや密につく。花序の基部に数個の苞をつける。花の咲いている姿が、雪をかぶった枝垂れ柳のように見えることから「雪柳」の名がある。

特記事項

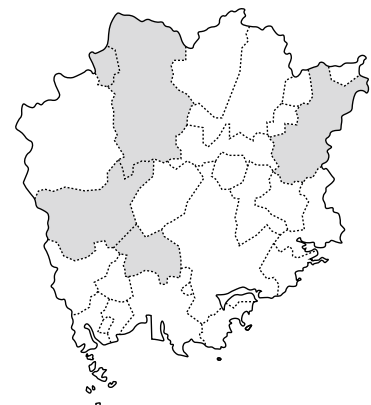
庭園や公園、緑地帯などに観賞用として植えられており、時に逸出したものが野生化している。岡山県産のものが真の自生のものか、野生化したものかの判断は非常に難しい。

主要文献

牧野(1989)、岡山県(2010)、大橋ほか編(2016b)
(太田 謙・池田 博・山下 純)



撮影：狩山俊悟



マメグミ

Elaeagnus montana Makino

被子植物 真正双子葉類 グミ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北東部の一山系に分布が知られるのみで、産地が限られているうえに森林伐採や登山道整備による除伐の可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, その他（登山道の整備・拡充）

分布状況

岡山県では中国山地の標高の高い場所に分布し、ブナ林や山地上部の二次林、半自然草原に生える。本州（宮城県以南）、四国、九州（市房山以北）に分布し、太平洋側の山地、ブナ帯に生育する。

生育状況

高さ3mになる落葉低木。若枝は赤褐色の鱗片が密生する。葉は互生、葉身は卵状だ円形、長さ6～8.5cm、葉裏は鱗片のみで星状毛はなく、先端は長くとがる。花は両性または雌雄雑居性、白色のちに黄白色、がく筒は子房の上でくびれ、内面に星状毛が散生する。果実は卵状球形、長さ約10mm、赤く熟して下垂する。同属のアキグミは果柄が短く直立することで、ナツアサドリは若枝や葉柄、葉裏などに星状毛があることで、トウグミはがく筒内面に星状毛がないことで区別できる。

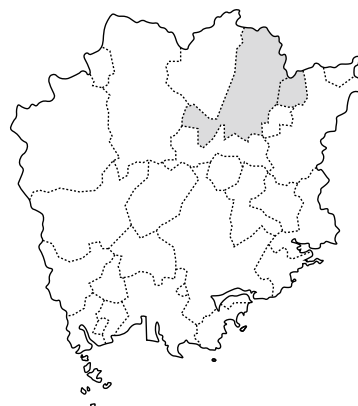
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2016a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ナツアサドリ

Elaeagnus yoshinoi Makino

被子植物 真正双子葉類 グミ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県がタイプ産地であることによる。

存続を脅かす要因

管理放棄, 自然遷移

分布状況

本州（兵庫県以西）、四国（愛媛県）に分布し、岡山県内では海岸域を除く、ほぼ一円に見られる。特に中部吉備高原面のアカマツ林ではよく見られたが、二次林の管理放棄や自然遷移によって全体としては減少傾向がうかがえる。ただ林縁や、林道・土採り場の切土裸地等、人目につきやすい場所では依然として存続している。比較的森林の発達豊かな北部においては、岩角地で点々と見られ、こういった自然遷移の影響を受けにくい場所が本来の生育地と思われる。

生育状況

夏緑性小高木。葉形は卵状だ円形で見た目の特徴に乏しいが、若枝・葉ともども黄褐色の星状毛を密生しており、ビロード状の手触りがよいことが識別ポイントである。葉裏は鱗片の様子によっては銀白に見えることもあり、あまり色合いには囚われない方がよい。果実が初夏の6月ごろに熟するのが名前の由来。

関係法令の指定状況・特記事項

1902年、吉備中央町をタイプ産地として新種記載された。「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

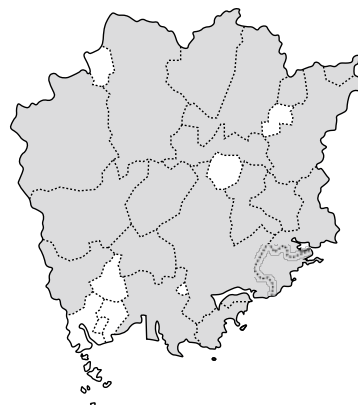
主要文献

難波（1993）

（難波靖司）



撮影：難波靖司



ホナガクマヤナギ*Berchemia longiracemosa* Okuyama

被子植物 真正双子葉類 クロウメモドキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

人里近くの二次林に生える集団では、森林伐採の危険にさらされている。場所によっては知らず知らずのうちに消滅していることがある。集団数、個体数ともに少ない。

存続を脅かす要因

森林伐採, 自然遷移

分布状況

岡山県北部の二次林林縁部に希に生育する。本州の日本海側山地に分布する。

生育状況

つる性の夏緑性低木。若い枝は緑色で無毛。葉は薄く、卵形～だ円形、長さ4～10cm、幅3～6cm、縁に鋸歯はなく、鈍頭またはやや円頭、7～11対の側脈があり、上面は無毛、下面は脈腋にわずかに毛がある。葉柄は長さ8～20mm、無毛。花序は枝先につき、総状で長さ5～10cm、多数の小さな花を密につける。小花柄は3～4mm、無毛。花は6～8月に開き、黄緑色。果実は狭長だ円形、長さ7～8mm。同属のクマヤナギは県下一円に分布し、花序が円錐花序となるのに対し、ホナガクマヤナギは細長い総状花序となる。

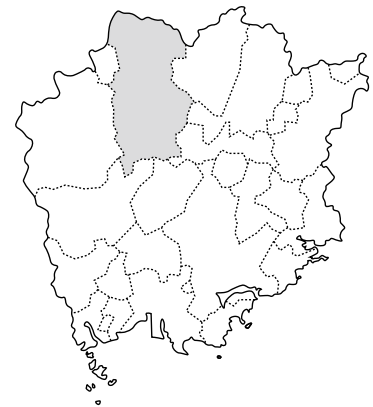
主要文献

北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2016a)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

**ハマナツメ***Paliurus ramosissimus* (Lour.) Poir.

被子植物 真正双子葉類 クロウメモドキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県東部の本土側3カ所、島しょ部2カ所の計5カ所に知られる。うち島しょ部の1カ所はその後の調査で生育を確認できない。また本土側の1カ所は生育地の整地により消滅した。残る3カ所も個体数がきわめて少なく、危機的な状態にある。最近ではシカ食害の影響が指摘されている。

存続を脅かす要因

海岸開発, 道路工事, 産地局限, 動物食害

分布状況

岡山県では備前市と瀬戸内市にのみ知られる。海岸の砂浜及び岩上に生える。国内では本州(東海, 南畿, 山陽地方), 四国, 九州, 琉球に分布するが、分布の東限に当たる静岡県ではすでに絶滅したとされる。

生育状況

高さ3mになる落葉低木。よく分枝し、幼樹には托葉の変化した刺がある。若い枝には淡褐色の細毛が密にある。葉は互生し、広卵形または卵円形、長さ3～6cm、幅2.5～4.5cm、細かい鈍鋸歯があり、3脈がある。葉の上面はただちに無毛となるが、下面脈上の軟毛はあとまで残る。花は8～9月、枝の上部の葉腋から短い柄をのぼし、数個の花をつける。果実は木質で半球形、上端に3浅裂して歯牙のある広い翼が発達する。

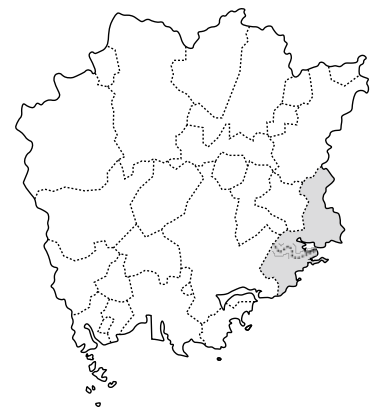
主要文献

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編 (2015), 北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2016a)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



キビノクロウメモドキ

Rhamnus yoshinoi Makino

被子植物 真正双子葉類 クロウメモドキ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

石灰石の採掘や道路工事，一部ではチョウマニアによる採取により減少している。

存続を脅かす要因

道路工事，森林伐採，石灰採掘，業者・マニア採取（ベニモンカラスシジミの食樹）

分布状況

岡山県中部・北部の石灰岩地に生え，日当たりの良い岩角地あるいは二次林下に生育する。国内では本州（中国地方），四国，九州に分布する。

生育状況

夏緑性低木。枝は横に張り，無毛，紫褐色を帯び光沢がある。小枝はしばしば刺になる。葉は互生ときにやや対生し，短枝上のは先に束生，倒卵形または倒卵状長円形で，長さ3～9cm，幅1～4cm，基部はくさび形，縁に鋸歯がある。葉の上面には伏毛がまばらに生え，下面には脈上と脈腋に毛がある。花は葉腋に束生し，黄緑色，雌雄別株。果実は倒卵状球形で黒く熟し，径約7mm。

特記事項

1904年，哲多町（現新見市）をタイプ産地として新種記載された。

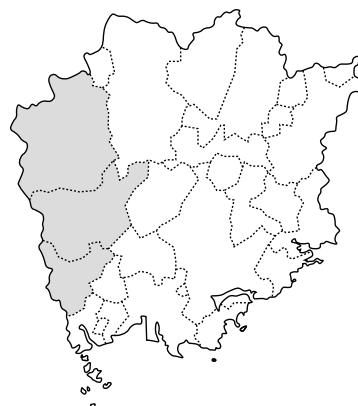
主要文献

北村・村田（1971），大橋ほか編（2016a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



カラハナソウ

Humulus lupulus L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 アサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

確認されている生育地は3市村のみで，いずれの場所でも個体数は多くない。適度な草地管理を行わないと存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

草地開発，管理放棄

分布状況

岡山県では北部の山地林縁部や山草地に生える。国内では，北海道，本州（主に中部地方以北）に分布する。本州の中部地方では決して珍しい植物ではないが，関西以西では岡山県と広島県，高知県でわずかに生育が知られているだけである。山崎（2000）が中国地方での初見として，新見市を報告している。

生育状況

つる性の多年草で，茎と葉柄には下向きの刺毛がある。葉は卵円形，ときに中ほどまで3（～5）裂し，長さ4～12cm，基部は心形となる。葉縁にはやや不ぞろいな鋭鋸歯がある。雌雄異株で，花期は8～9月。雄花序は大きな円錐花序となり，雌花序は卵円形の球果状となる。果実はふくれたレンズ形で円形，細かいくぼみと黄色い腺点がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

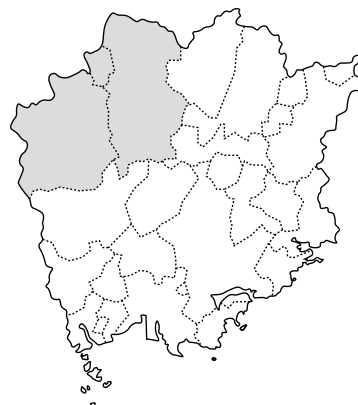
主要文献

北村・村田（1961），高知県ほか（2009），窪田（1998），大橋ほか編（2016a），山崎（2000）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ヤナギイチゴ

Debregeasia orientalis C.J.Chen

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県における生育地は瀬戸内海の無人島1カ所のみだが、現在は確実な生育は確認できておらず、危機的な状況にある。

存続を脅かす要因

管理放棄、自然遷移、森林伐採

分布状況

1992年に倉敷市沖の無人島で採集された標本が倉敷市立自然史博物館にある。発見当時は島内の二次林林下に1株だけ生育していた。その後は生育が確認されておらず、現状不明である。国内では本州（関東南部～近畿南部の太平洋側）、四国、九州、琉球の暖地に生える。瀬戸内海沿岸地域での分布は希で、岡山県に隣接する県での生育は知られておらず、岡山県は分布上も貴重な生育地である。



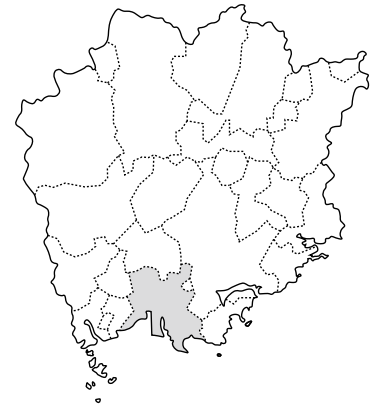
撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ2～3mになる夏緑性低木。小枝に短い伏毛がある。葉は互生し、長さ7～15cm、幅12～25mm、皮針形あるいは線状長だ円形となる。葉の上面は暗緑色で多少光沢があり、下面は白綿毛が密生する。雌雄異株で、雄株、雌株ともに多数の花が集まって1～3個の団集花序を作る。果実は多汁質で橙黄色に成熟し、食べられる。

主要文献

北村・村田（1979）、茂木ほか（2000a）、大橋ほか編（2016a）
（片岡博行・狩山俊悟）



タチゲヒカゲミズ

Parietaria micrantha Ledeb. var. *coreana* (Nakai) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

個体群数、及び個体数が限られている上、雑草防除のための農薬散布により存続が危ぶまれている。生育範囲の狭い個体群は、柵の設置などにより立ち入り制限を行うなどの対策が必要である。

存続を脅かす要因

踏みつけ、農薬汚染（除草剤散布）

分布状況

岡山県内では中部の石灰岩地の山地、洞窟周辺に希産する。県外では、本州、四国、九州に点々と分布する。国外では朝鮮半島に分布。



撮影：狩山俊悟

生育状況

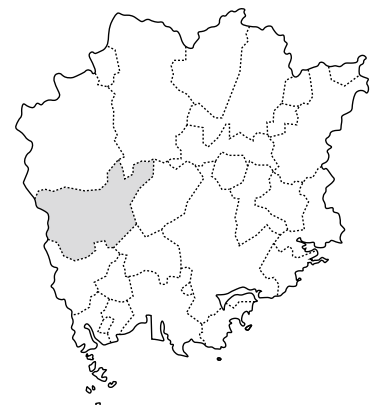
深山の林下、または山地の岩場や洞窟に生える一年草。全体が柔らかく、茎は匍匐して上部が斜上し、高さ10～20cm程度になる。葉は卵形、鈍頭で長さ4～25mm、幅3～20mmで両面に開出毛がある。葉柄は葉身とほぼ同長。花期は8～9月、雄花、雌花、両性花が混じって葉腋につく。全体に開出する長軟毛がある点で、分枝して曲がった短毛があるヒカゲミズと区別される。

特記事項

1955年、小坂弘氏・高田真一氏による調査で石灰岩の洞穴付近に群生する集団が確認された。当初ヒカゲミズと考えられていたが、後に本種と判明した。

主要文献

牧野（1931）、大橋ほか編（2016a）、大井（1992）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・高田真一）



サンショウソウ

Pellionia minima Makino

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における産地は限られている。生育環境が変化すれば減少する恐れがあり、既知の産地における森林伐採などには十分注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

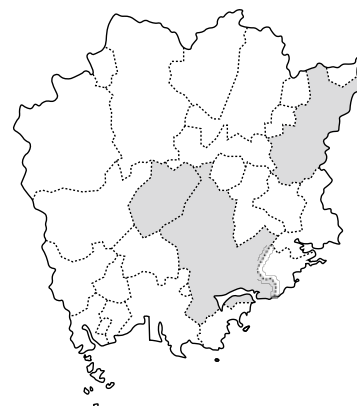
岡山県内では北部, 中部にまれに生育。県外では本州（関東地方以西）, 四国, 九州, 沖縄に分布。国外では中国南部に分布。オオサンショウソウとの区別が困難な場合があり, 県内については今後詳細な調査・検討がなされれば, 分布は変わる可能性がある



撮影：狩山俊悟

生育状況

山地の陰湿地に生育する多年草。茎は長く這い10～30cm, いくらか分枝し, 密に短毛がある。葉は互生, 葉柄はごく短く, 葉身はゆがんだ倒卵形で0.8～3cm, 鈍頭, 葉縁は波状から欠刻状の鈍鋸歯が4～5対ある。表面は濃緑色でわずかに短毛があり, 裏面は淡緑色で脈上に短毛がある。花期は3～6月, ごく短い柄を持ち花被片が紫褐色, 集散状の雄花序と, ほとんど無柄で花被片が淡緑色, 球状の雌花序を葉腋につける。雌雄同株だが, 雌花のみをつけることが多い。



主要文献

Iwatsuki *et al.* (2006), 北村ほか (1961), 牧野 (2008), 大橋ほか編 (2016a), 大井 (1992), 大久保 (1999)
(片岡博行・山下 純)

オオサンショウソウ

Pellionia radicans (Siebold et Zucc.) Wedd.

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内に知られる産地はおよそ10カ所程度であり, 森林伐採等によって生育環境が変化すれば容易に消滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

森林伐採, 自然災害 (河川氾濫)

分布状況

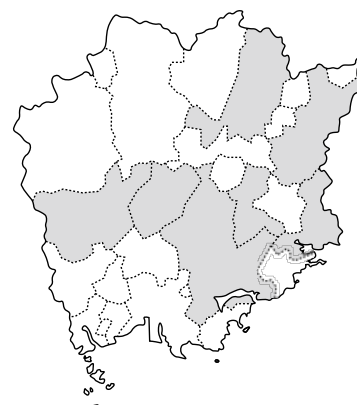
岡山県内では県北部, 中部, 南部と広く分布するが, 生育地, 個体数ともに多くはない。県外では本州（伊豆半島以西）, 四国, 九州, 沖縄に分布する。国外では中国, 台湾, ベトナムに分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

林床の陰地, 溪谷沿いの岸壁や岩上に生育する。雌雄同株だが, 雌花のみをつけることが多い。茎の長さは10～50cmと, 生育環境や個体によって幅がある。長く這って分枝し, 無毛または有毛, 葉を互生する。葉柄は短く, 短毛を生じ, 葉身は斜卵形, 基部は非対称で前側が楔形, 後側が浅心形, 鋭頭もしくはやや鋭尖頭, 葉縁は波状から鈍鋸歯縁, 表面は深緑色で針状の伏毛を散生, 裏面は淡緑色で無毛または脈上に短毛を散生する。サンショウソウとは, 葉が大きく3cmを超え, 葉の先が尖る点で区別されるが, 区別が困難な場合も多い。



主要文献

Iwatsuki *et al.* (2006), 北村・村田 (1961), 牧野 (2008), 大橋ほか編 (2016a), 大井 (1992)
(片岡博行・山下 純)

ミヤコミズ*Pilea kiotensis* Ohwi

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地は高梁市西部にわずかに自生するにすぎない。生育地のひとつでは雑草とみなされ除草剤が散布されていた。レッドデータ種としての認識や保護が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，農薬汚染（除草剤使用）

分布状況

岡山県内では，高梁市西部の数か所のみ。県外では近畿地方以西の本州（日本海側），九州北部に分布する。

生育状況

山地の湿った林下や林縁の道沿いに生え，高さ20～40cmになるやわらかい一年草。葉は対生，長さ3～12cmの狭卵形～長楕円形で基部はくさび形，先は尾状にとがる。鋸歯は鈍頭で少なく，7～13対。葉柄は葉身よりやや短い。花期はやや遅く9～10月，葉腋に集散花序がつく。雌雄同株で普通雄花序と雌花序は別であるが，ときに雄花と雌花が同じ花序に混生する。花序の柄に乳頭状の短毛がある。

特記事項

生育地のひとつが県指定天然記念物（穴門山の社叢）となっている。

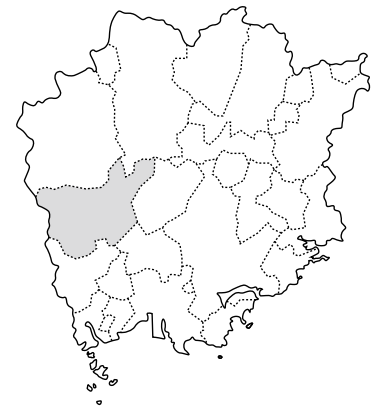
主要文献

北村・村田（1961），大橋ほか編（2016a）

（片岡博行・小島裕子）



撮影：小島辰三

**ホンバイラクサ***Urtica angustifolia* Fisch. ex Hornem. var. *angustifolia*

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における生育地は多くはないうえ，河川敷の湿った場所である場合が多く，河川改修などにより生育地が消滅する恐れがある。

存続を脅かす要因

河川開発，産地局限

分布状況

岡山県内では，高梁川水系（新見市，高梁市，総社市）と，旭川水系（岡山市）に分布している。県外では北海道～九州，国外では朝鮮半島，中国東北部，シベリア東部，カムチャッカに分布。

生育状況

山地の林縁や谷沿いなどにやや湿った場所に生える多年草。高さ50～150cm。葉は対生，葉はエゾイラクサに似ているが，より細く幅4cm以下，長さ8～15cmの長楕円状披針形，長鋭尖頭，縁には粗い鋸歯がある。葉柄は長さ1～3cm，茎や葉柄，葉に刺毛が多い。花は8～9月，葉腋に小花が集まった花序をつける。普通，雌雄異株。エゾイラクサとは本種の葉柄基部の托葉が離生し4個であること，葉の幅がより狭いことで区別される。変種に，多くは雌雄同株で，葉がさらに細く薄く，葉の毛も薄いナガバイラクサ var. *sikokianaha* がある。

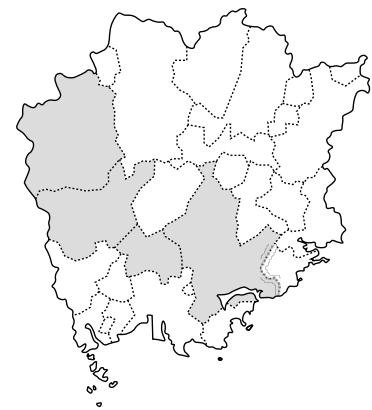
主要文献

門田（2013），北村・村田（1961），大橋ほか編（2016a）

（片岡博行・小島裕子）



撮影：小島辰三



エゾイラクサ

Urtica platyphylla Wedd.

被子植物 真正双子葉類 イラクサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限られており、個体数も多くはない。ただちに絶滅の恐れはないが、河川改修などにより生育地が消滅する恐れがある。

存続を脅かす要因

河川開発，管理放棄，その他（ツルヨシ等，他の植物との競合）

分布状況

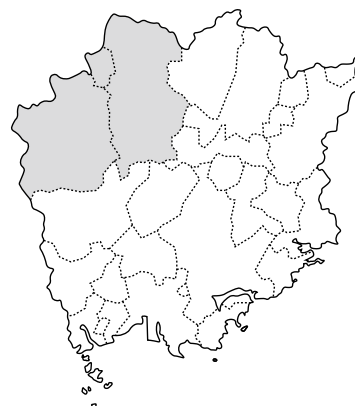
岡山県内では北部（真庭市，新庄村，新見市）の河川敷などの湿った草地にまれに生育している。岡山県外では北海道，本州（中部以北），千島，サハリン，シベリア東部，カムチャッカに分布するとされ，岡山県は隔離分布となっている。



撮影：片岡博行

生育状況

山地のやや湿った場所に生える多年草。高さ50～180cm。葉は対生，葉は狭卵形から卵状長楕円形で，単鋸歯を持つ。葉柄は葉身より短い。茎や葉に刺毛を持ち，皮膚に触れると刺さって痛む。花は7～10月，葉腋に小花が集まった花序をつける。普通雌雄異株だが同株となる場合もある。よく似たホソバイラクサとは本種の葉柄基部の托葉が合着して2個であること，葉の幅が4～8cmと広いことで区別される。



主要文献

門田（2013），北村・村田（1961），大橋ほか編（2016a）
（片岡博行・小畠裕子）

イチイガシ

Quercus gilva Blume

被子植物 真正双子葉類 ブナ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では中部に限られた神社社叢でのみ見られる。個体数が非常に限られるうえ，若木の後継樹の生育がほとんど見られない。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採

分布状況

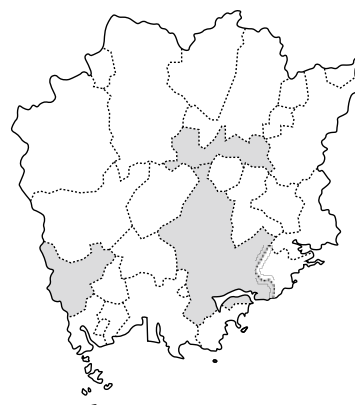
県内では中部の3カ所の社叢に生育する。神社の社叢にしか見られないため，植栽された可能性も考えられる。国内では本州（関東地方南部以西の太平洋側），四国，九州に分布する。



撮影：地職 恵

生育状況

常緑高木。樹皮は灰黒褐色で，皮目が多く，不ぞろいな薄片になってはがれ，波状の模様ができる。若枝は黄褐色の星状毛を密生し，縦方向に走る溝がある。葉は互生，倒披針形で革質。先端は鋭く尖り，上半分に鋭い鋸歯がある。若い葉には黄褐色の垢状の毛が密生するが，すぐに落ちる。裏面には黄褐色の星状毛が密生し成葉になっても残る。主脈は裏面に突出する。雌雄同株。花期は4～5月。年内に成熟する。人家や寺社に植栽されることもある。



主要文献

林（2014），大橋ほか編（2016b），大久保（1999）
（地職 恵）

ハシバミ*Corylus heterophylla* Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

被子植物 真正双子葉類 カバノキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地は岡山県北部の一部に局限している。

存続を脅かす要因

産地局限, 湿地開発, 自然遷移

分布状況

県内：北部, 中部のごく一部地域。鯉ヶ窪湿原では山林と湿原域との境界や, 林縁部に見られる。

県外：北海道, 本州, 九州から朝鮮半島, 中国に分布。



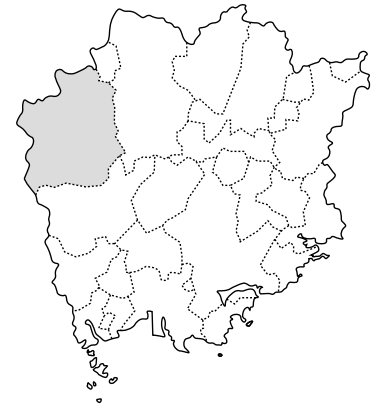
撮影：難波靖司

生育状況

落葉低木。比較的日当たりの良い山林の中や湿地の近くなどに生えている。若枝や葉柄に軟毛があるほか、硬い腺毛があることもある。葉は互生、ほぼ広倒卵形、先が急に鋭尖形となり、基部は浅心形。葉の表面にしばしば紫斑がみられ、初めは毛があるが、のちに無毛となる。葉裏は短毛がある。雌雄同株。花期は3～4月。雄花序は黄褐色で下垂し雌花序は小枝に上向きにつく。近縁のツノハシバミに似ているが、果実を包む総苞が徳利状にならない。果実は食べられる。

主要文献

北村ほか (1971), 大橋ほか編 (2016b), 茂木 (2000a)
(浅井幹夫)

**オオシラヒゲソウ***Parnassia foliosa* Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 ニシキギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、一地域の2カ所で確認されている。1カ所は存続が危機的なほど少なく、他1カ所は群落をつくるが、生育範囲はごく狭く、河川改修や、河川の氾濫により、消失する危険性を多分に含む。また園芸採取も存続を脅かす要因となり、保護にあたっての十分な配慮が必要である。

存続を脅かす要因

河川開発 (護岸工事), 業者・マニア採取, 産地局限, その他 (増水などによる流出)

分布状況

県内では北部山地の溪流脇の湿岩上や、湿った側壁などに生育する。県外では秋田県から兵庫県にいたる日本海側に分布する。県内の生育地は分布の西限にあたると思われる。

生育状況

多年草で、花茎は高さ15～30cm。根生葉の葉身は長さ幅とも4～6cm。茎葉は広卵形で2～4個、無柄で茎を抱く。花期は8月末～9月。花は径3～3.5cm、花卉の縁は糸状に深く切れ込む。シラヒゲソウによく似るが、本種は全体に大型であるとともに、生育環境が異なる。

関係法令の指定状況

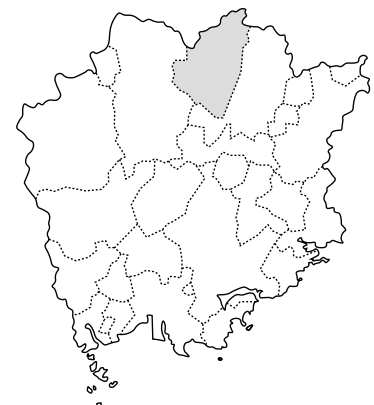
「自然公園法」による水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

畔上 (1996), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2016b)
(地職 恵)



撮影：地職 恵



ヒョウノセンカタバミ*Oxalis acetosella* L. var. *longicapsula* Terao

被子植物 真正双子葉類 カタバミ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北部の脊梁山地の林内に群生するが、生育地は限られている。また森林の伐採、開発による土地利用などにより、生育地となる安定した環境が失われる可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取

分布状況

県内では、鏡野町と西粟倉村の高所の植林地（ヒノキ）の林床や、二次林の林縁に群生している。国内では、北海道西南部、本州（日本海側）のブナ林に生えるとされる。

生育状況

深山の林床に生える小型の多年草で、高さ15cm程度となり、主にブナ帯に群生してみられる。根茎が細長く地中を伸びて、古い葉柄の基部が残り、先端から多数の葉を出す。葉柄はやや長く10cm程度まで伸びて、小葉の幅は2.5～5cmとなる。よく似ているコミヤマカタバミに比べると、全体がやや大きい。

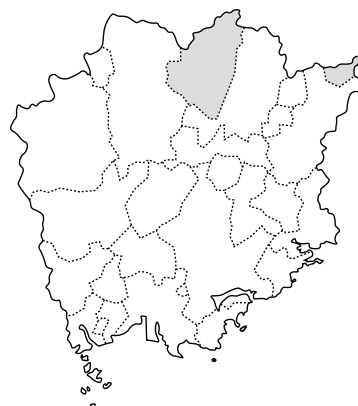
主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 奥田ほか(1997), 大橋ほか編(2016b)

(太田 謙・高山敬三)



撮影：榎本 敬

**ノウルシ***Euphorbia adenochlora* C.Morren et Decne.

被子植物 真正双子葉類 トウダイグサ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

集団数、個体数ともに少ない上に、人里近くに生えることが多いため、開発行為により容易に絶滅する可能性がある。道路拡幅工事により湿原が消失し、絶滅した集団もある。

存続を脅かす要因

道路工事, 湿地開発, 土地造成, 海岸開発

分布状況

岡山県北部の田間湿地及び海岸の砂浜に希に生育する。岡山県北部においては、2カ所の集団が人里近くに知られていたが、1カ所は道路工事のため消失している。岡山県東部の海岸ではイワタイゲキと隣接して生えている場所がある。北海道・本州・四国・九州に広く分布するが、絶滅あるいは現状不明の都道府県が少なくない。日本固有。

生育状況

茎は直立し、高さ40～60cmになる多年草。葉は縁に鋸歯がなく、茎の下部のものは互生、茎頂のものは輪生する。輪生葉の付け根から枝を出し、枝先に杯状花序をつける。花は4～5月に咲き、花序の下部の包葉が黄色を帯びて美しい。子房は球形で、外面にいは状の突起がある。このいは状の突起は果実になっても残る。種子はほぼ球形で径約3mm、表面は平滑。

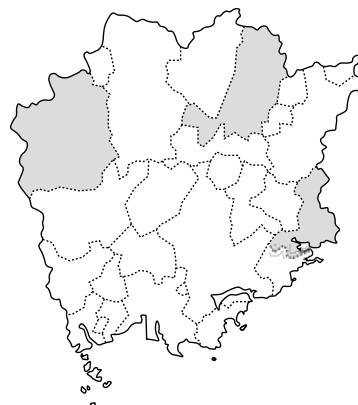
主要文献

北村・村田(1961), 大橋ほか編(2016b)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



イワタイゲキ

Euphorbia jolkinii Boiss.

被子植物 真正双子葉類 トウダイグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県東部の島しょ部ではまだ多くの集団が見られるが、護岸工事の進んだ本土側で見られる場所は極めて希である。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

岡山県東部の海岸岩上あるいは砂浜に生える。国内では、本州(千葉県以西)、伊豆諸島、四国、九州、琉球に生え、場所によっては多産するが、岡山県では限られた場所でしか見ることができない。

生育状況

全株無毛の多年草。茎は太くて直立、高さ40～80cmになる。葉は密につき、長さ5～8cm、幅6～15mm、縁に鋸歯がない。茎頂には輪生葉があり、付け根から枝を出して杯状花序をつける。花は4～5月に咲き、花序の下部の包葉が黄色を帯びる。果実は径約6mmで、表面にいぼ状の突起が密にある。種子はほぼ球形で径約3mm、表面は平滑。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

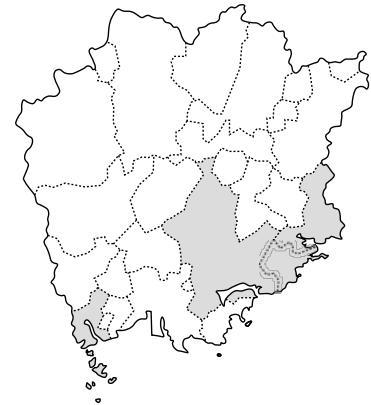
主要文献

北村・村田(1961)、大橋ほか編(2016b)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



タカトウダイ

Euphorbia lasiocaula Boiss.

被子植物 真正双子葉類 トウダイグサ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

手入れのされた草地や林内に生える植物であり、近年そのような場所が適度に管理されなくなったことにより、しだいに見る機会が減ってきている。

存続を脅かす要因

自然遷移、管理放棄、草地開発

分布状況

岡山県の南部、中部に分布し、二次林の林内あるいは林縁部に生育する。アカマツ林などの衰退に伴い、しだいに見る機会が減っている。国内では本州、四国、九州に広く分布し、変化が多い。

生育状況

高さ20～70cmになる多年草。茎は直立し、ふつう白軟毛がある。葉は縁に細かい鋸歯があり、長さ2.5～12cm、幅6～12mm。茎の先に輪生葉があり、葉の付け根から枝を出して杯状花序をつける。花は6～7月に咲く。果実は径約3.5mmで、表面に小さいいぼ状突起が密生する。種子は広だ円形で平滑、長さ約1.8mm。同属のノウルシ、イワタイゲキとは葉の縁に細かい鋸歯があること、果実がひとまわり小さいことで区別できる。

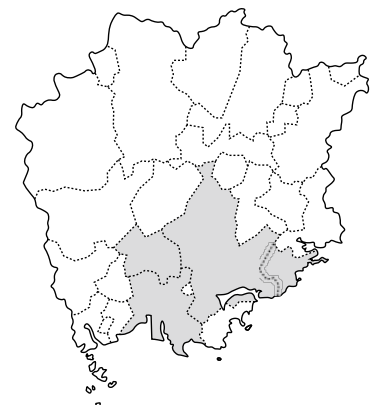
主要文献

北村・村田(1961)、大橋ほか編(2016b)

(狩山俊悟)



撮影：稲岡 勝



バッコヤナギ

Salix caprea L.

被子植物 真正双子葉類 ヤナギ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内での確認は数カ所のみで、個体数も少なく存続が懸念される。これは国内分布の西限にあたる。

存続を脅かす要因

道路工事，河川開発，産地局限

分布状況

県外では、北海道西部。本州の近畿地方以東に分布する。四国の山地にも希に生育する。北海道の石狩川には、幹径が60cmに及ぶものが生育していた。

生育状況

ヤナギ属の落葉小高木。県内では、海拔500m以上の北部の山間に希に生育している。日当たりの良い場所を好むが生育地の湿り気の多少にはあまり影響されない。県内最大級のものは旧東栗倉(美作市)で胸高径20cmに及ぶものを確認した。

特記事項

木質部表面の隆起線はヤナギ属の中でもっとも顕著に表れる種類に属する。別名ヤマネコヤナギ。

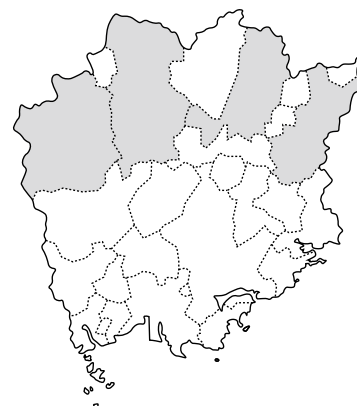
主要文献

大井・北川 (1992)

(片山 久)



撮影：片山 久



コゴメヤナギ

Salix jessoensis Seemen subsp. *serissifolia* (Kimura) H.Ohashi

被子植物 真正双子葉類 ヤナギ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では全域に分布するが、生育個体数が少ない。

存続を脅かす要因

河川開発，洪水による流失

分布状況

県内では、生育個体数が少なく、河川敷に生育している。県外では関東，中部，近畿地方に分布している。

生育状況

ヤナギ属の落葉高木。シロヤナギの亜種。県内のものは河川敷や川岸に生育しており、大きいものでも胸高直径20cmであった。県外では胸高径100cmに及ぶものが見られる。

特記事項

近似種のシロヤナギとは子房に毛がないことで見分けられる。

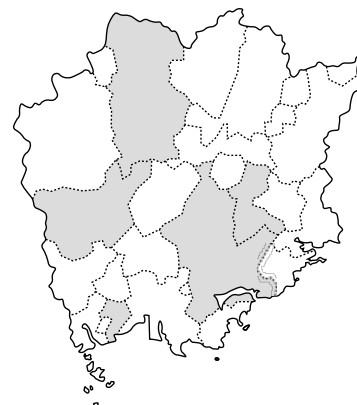
主要文献

大井・北川 (1992)

(片山 久)



撮影：片山 久



ワケノカワヤナギ*Salix × mictostemon* Kimura

被子植物 真正双子葉類 ヤナギ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県和気郡和気町がタイプ産地である。

存続を脅かす要因

道路工事，河川開発

分布状況

岡山県内の状況は旭川の上流域（真庭市）に広範囲に生育している。また吉井川の中流域（久米郡美咲町）にも生育している。県外の状況は鳥取県，鳥根県，兵庫県の日本海側の大きな河川に生育している。

生育状況

ヤナギ属の落葉小高木。生育は数本又は、数十本という株立で河川敷や川岸に生育している。あまり大木には育たず、胸高径15cmぐらいまでである。同属のオオタチヤナギに似るが葉の鋸歯があまりないこと，1穂の中に花糸が1本のものと，花糸の先が2分しているものが混在することなどで近縁のオオタチヤナギと区別できる。

特記事項

1926年に岡山県で発見されたワケノカワヤナギは，1934年の洪水で流失したものと考えられていた。しかし，最近，県内外で生育の確認が相次いでいる。

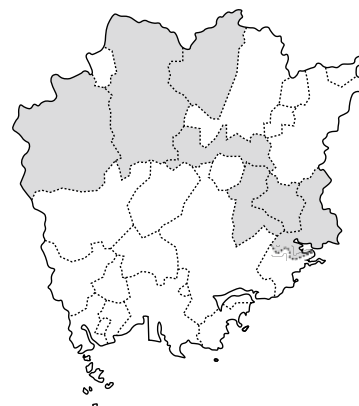
主要文献

大井・北川（1992）

（片山 久）



撮影：片山 久

**エゾノタチツボスミレ***Viola acuminata* Ledeb.

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の自生地は，津山市北部の1地域の山地でしか確認されておらず，個体数も少ない。また国内分布の西限に当たる。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移，管理放棄

分布状況

中部地方以北の本州と北海道。それより西は伊吹山と津山市北部に隔離分布する。

生育状況

有茎性の多年生草本。花期には，茎は垂直に近く立ち上がり，高さ20～40cmになる。根生葉の数は少なく，長さ1.5～2.5cmの卵形～心形，夏季には枯れていることが多い。茎葉は長さ2～5cm，下位茎葉は円形で小さいが，上位茎葉は心形で大きく，葉先は鋭尖形と形も変わる傾向がある。托葉は荒い櫛の歯状に切れ込み，縁に微毛がある。花柄は腋生につき，花は淡紫色，側弁基部は有毛。花柱の先には微細な突起物が見られる。距は短く，その先端から下方にかけて溝状に凹むのも特徴のひとつ。花期は遅く5～6月。林道側の明るい草地，林縁などで見られるが，林道の管理放棄や植生の自然遷移により個体数はかなり減少している。

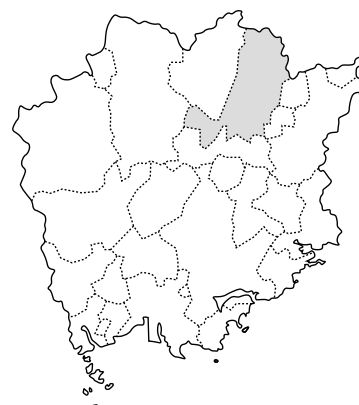
主要文献

門田（2013），いがり（2004），大橋ほか編（2016b）

（片岡博行・三好 薫）



撮影：三好 薫



エゾノアオイスミレ*Viola collina* Besser

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

明るい林床や林縁に生育するが、下草やササ類の繁茂などによって生育環境が悪化しつつある。生育地域も限られている。

存続を脅かす要因

自然遷移，管理放棄，産地極限

分布状況

岡山県内では、新見市北部のいくつかの地域に自生する。国内では本州（おもに中部地方以北）、北海道に分布する。本州中部では火山灰地域、北海道では超塩基性岩地に多い。国外では東アジアに広く分布。

生育状況

山地～亜高山の落葉樹林下や林縁に生育する高さ3～10cmの多年草。地上茎がなく、地下茎は太く、節間は短い。4～5月、葉の展葉に先立って青紫～淡青紫色または淡紅紫色で径1.5cmほどの花を咲かせる。花期の葉は長さ2～4cmの卵形、3～10cmの葉柄をもち、基部は深い心形、両面に密毛がある。夏期の葉は大型となる。アオイスミレに似るが、本種は花の側弁がふつう有毛で距が短いこと、葉の先端が尖ること、開花の後に匍匐茎を出さないこと、冬期には地上部が完全に枯れて越冬葉を持たないことなどで区別可能である。別名：エゾアオイスミレ，テシオスミレ，マルバケスミレ，ニオイケスミレ。

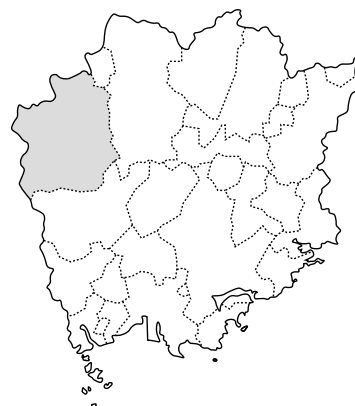
主要文献

門田（2013），いがり（2004），大橋ほか編（2016b）

（片岡博行）



撮影：和田 優

**エイザンスミレ***Viola eizanensis* (Makino) Makino

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数・個体数ともに少なく，減少傾向にある。

存続を脅かす要因

自然遷移，産地局限，業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

岡山県内ではおもに北部の林内に分布，希に中部でも見られる。県外では本州，四国，九州に分布する。日本固有。

生育状況

高さ5～15cmの多年生草本。地上茎はなく，葉は花期には長さ5～9cm，3全裂するが，さらに両側の裂片が深く2裂して一見5小葉のように見える場合もある。各裂片の縁には不揃いの鋸歯がある。花後の葉は長さ10～15cmと大型となる。花は直径2～2.5cm，ときに芳香があり，淡紅紫色から白色，側弁基部には毛がある。花弁の縁が波打つように見えるのも特徴の一つ。花期は3～5月。生育環境は，日陰の林内，特に夏緑広葉樹林下，あるいは林縁である。県内に自生するスミレ属で葉が深裂するものは，他にヒゴスミレがあるが，明るい草地を好み，葉身は基部からいきなり5裂する点で，エイザンスミレと異なる。

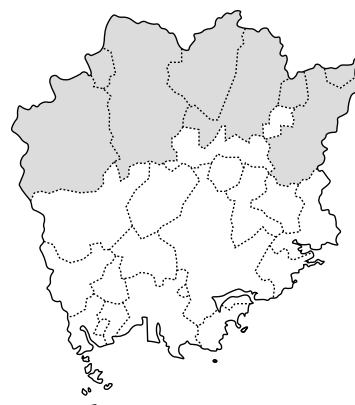
主要文献

門田（2013），いがり（2004），大橋ほか編（2016b）

（片岡博行・三好 薫）



撮影：三好 薫



ツルタチツボスミレ*Viola grypceras* A.Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

個体数は比較的多いが、林道や登山道沿い等に生育することが多く、草刈りの時期や踏み付けなどの外部要因によって影響を受けやすい。生育環境の変化により個体数を減らす可能性がある。

存続を脅かす要因

道路工事（林道工事）、管理放棄、踏みつけ、自然遷移

分布状況

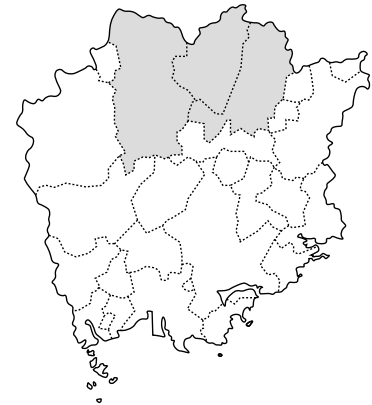
岡山県内では津山市、真庭市、鏡野町の標高の高い山地の林縁や日当たりのよい林床に生育している。県外では本州（秋田県の鳥海山～中国山地）の日本海側の標高800～1,700m程度の山地に点々と分布する。日本固有。



撮影：三好 薫

生育状況

夏緑広葉樹林下の湿り気のある林床に生育する地上茎のあるスミレ。草丈は5～8cm、地上茎は無毛。葉は扁3角形で長さ1.5cm、幅2cm前後、基部は浅い心形、両面無毛。花は5～6月、直径1.5～2cmでごく淡い淡紫色。側弁無毛。唇弁の距は白色、長さ5～7mmで細く、先が上曲する。その名の通り、花後に長く匍匐する茎を伸ばし、先端に新株をつけて増殖することが最大の特徴。テリハタチツボスミレ (*V.faurieana*) の変種、あるいは独立種とする見解もある。別名：クモノススミレ。

**主要文献**

浜 (2002), いがり (2004), 大橋ほか編 (2016b)

(片岡博行)

ケイリュウタチツボスミレ*Viola grypceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育環境が限定されており、開発の対象になりやすい。環境が失われれば、他の溪流沿いの種もともに危機に瀕することになる。

存続を脅かす要因

河川開発、ダム建設、自然災害（河川氾濫）

分布状況

岡山県内で現在生育が確認されているのはおもに県北部である。1996年に記載された変種であり、岡山県内ではまだ広く認識されていないので、今後新たに見つかる可能性が高い。県外では本州（神奈川県以西）、四国に分布する。日本固有。

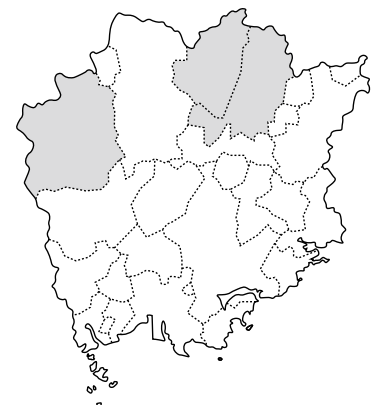


撮影：山下 純

生育状況

ある程度川幅のある明るい林縁で、堆積岩からなる溪流帯（川岸で水の増減によって浸水を繰り返す範囲）の岩上に生じる溪流沿い植物（rheophyte）である。根茎が発達し、岩の隙間に根を張る。葉身は広卵形、基部は切形から浅心形。花弁は淡紫色。陸域に生じる基準変種のタチツボスミレと隣接して生育している所では中間型が生じ、両者の区別が難しいことがある。

岡山県内の生育地では、2018年7月豪雨の際に、出水によりかなりの数の個体が消失した。出水が繰り返される場合には、生育に深刻な影響を及ぼすと考えられる。

**主要文献**

Iwatsuki *et al.* (1999), 加藤ほか編 (2011), 大橋ほか編 (2016b)

(片岡博行・山下 純)

サクラスミレ

Viola hirtipes S.Moore

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

産地はおもに岡山県北部の数カ所に限られ、各産地の個体数も極めて少ない。管理放棄などに伴う自然遷移で減少しつつある。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移、管理放棄、業者・マニア採取（園芸採取）

分布状況

岡山県内では県北部（中国山地）の半自然草原や明るい雑木林に生育。国内では北海道（東部）、本州、四国、九州に分布するが西日本では少ない。国外では朝鮮半島、中国東北部に分布。

生育状況

高さ5～15cmほどの多年生草本。地上茎はない。花期の葉は長さ3～8cmの三角状長卵形で葉柄は長さ2～5cm。花は淡紅紫色～紫紅色、側弁基部には毛が密生する。通常、花柄や葉柄には開出する毛がある。花期は4～5月。花径は2.5cm前後と、国内のスミレ類では最も大きな花をつける。葉脈に沿って紫紅色の斑が入る品種チオスミレ (f. *rhodovenia*) が自生地によっては混生している。半自然草地や林縁では管理放棄により植生遷移が進み、減少している場所が多いが、草刈り・火入れ等の保全活動が行なわれたことにより個体数の増加が見られる自生地もある。明るい植林地（スギ・ヒノキ）でも見ることがあるが、下層の植物が育つと衰退・消滅している。

関係法令の指定状況

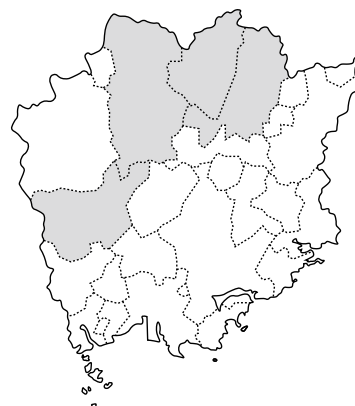
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

門田（2013）、いがり（2004）、大橋ほか編（2016b）
（片岡博行・三好 薫）



撮影：三好 薫



コミヤマスミレ

Viola maximowicziana Makino

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県内における自生地は局限されている。自生地では個体数は少ないが、生育環境が悪化すれば激減し、絶滅に瀕する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地極限

分布状況

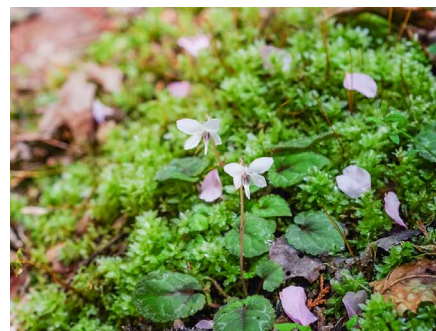
岡山県内で現在把握されている生育地は備前市の一地点のみ。国内では関東以南の本州、四国、九州に分布する。日本固有。

生育状況

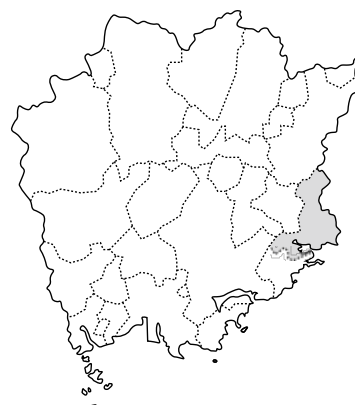
おもに太平洋側の照葉樹林やスギ林などの暗く湿った林床に生育する、高さ4～10cmほどの多年草。地上茎はなく、全体に開出する白毛が多い。葉は長さ2～4cmの卵状楕円形で基部は心形、表面は浅緑色～濃緑色、紫色や赤色を帯びるものや脈に沿って白斑が入るものなど変異が大きい。裏面は普通、紫色を帯びる。花は4～5月に咲き、白色で直径1～1.5cm、唇弁に赤紫色の筋があり、側弁は有毛。萼片は有毛で反り返り、花柄にはまばらに毛がある。

主要文献

畔上（2013）、いがり（2004）、加藤ほか編（2011）、大橋ほか編（2016b）
（片岡博行）



撮影：和田 優



ホンバシロスミレ*Viola patrinii* DC. var. *angustifolia* Regel

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

集団数・個体数ともに少なく、個体数が減少傾向を示している自生地が多いことから、今後の推移を見守る必要がある。

存続を脅かす要因

自然遷移，産地局限，管理放棄，草地開発

分布状況

滋賀県以西の本州，四国，九州。関ヶ原を境界として，東の本州と北海道には母種のシロスミレが分布する。岡山県内では北部の中国山地に点在する。

生育状況

湿った草原に生育する高さ8～10cmの多年生草本。地上茎はなく，葉は少数でほぼ垂直に近く立つか，斜上する。葉身は細長く，基部はくさび形（母種のシロスミレの葉柄基部は切形）となり滑らかに葉柄の翼に移行する。葉身は葉柄より短い。花柄は直立し，花は白色で，唇弁や側弁の紫条が目立つ。側弁基部は有毛。距は短く袋状で微かに緑色を帯びる。花期は遅く5～6月。標高の高い乾燥気味の明るい山地草原や林道側などの草地に生えるが，草刈り等の管理が停止して遷移が進行し，草木の背が高くなるにつれ衰退している自生地が多い。

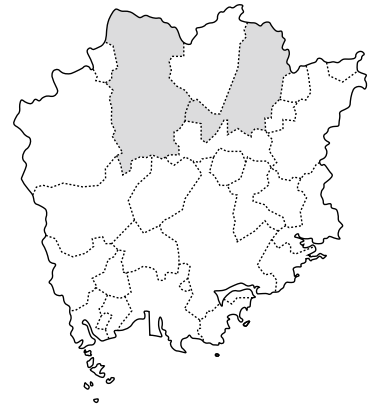
主要文献

いがり (2004)，大橋ほか編 (2016b)

(片岡博行・三好 薫)



撮影：三好 薫

**ナガハシスミレ***Viola rostrata* Pursh

被子植物 真正双子葉類 スミレ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

他のタチツボスミレ類と混生するため見落とされている可能性があるが，現在把握されている自生地は一地域のみであり，日当たりのよい道路沿いなどに見られることから，道路工事等によって減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地極限，道路工事，管理放棄

分布状況

岡山県内では真庭市北部の一地域で確認されている。国内では北海道から本州（島根県以北），四国に分布。おもに日本海側に産するが，太平洋側にも隔離的に分布する。国外では北米東岸にも分布するが，日本のものを亜種あるいは変種とする見解もある。

生育状況

低山の日当たりが良くやや乾燥気味の落葉樹林の林床や林縁，崩壊地などに生育する高さ7～20cmになる多年草。地上茎があり，横走する地下茎は肥厚して木化する。葉は濃緑色で長さ2～5cmの心形，先は尖る。托葉は櫛の歯状。花は4～5月に咲き，赤紫～淡紫色で直径1.5cm。唇弁の距は1～3cmあって細長く，斜上する。別名：テングスミレ。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

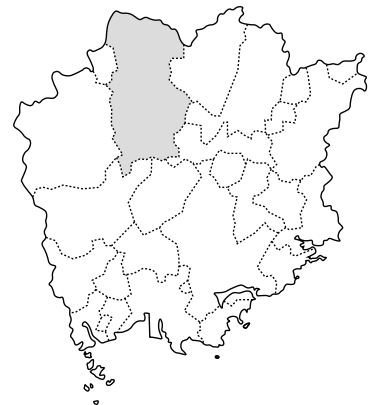
主要文献

門田 (2013)，いがり (2004)，大橋ほか編 (2016b)

(片岡博行)



撮影：和田 優



マツバニンジン

Linum stelleroides Planch.

被子植物 真正双子葉類 アマ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

県内においては、現在確実な生育は確認されていない。かつて生育が確認された際も個体数は少なく、現在はその生育地の環境も遷移の進行とともに悪化しつつあり、極めて危機的な状況である。

存続を脅かす要因

産地局限、管理放棄、自然遷移

分布状況

岡山県内では、現在の高梁市、真庭市で生育していたという情報のみで、標本の所在は不明で確実な生育情報はなかったが、2001年に美作市で生育が確認された。しかし、2009年には消失し、それ以降2019年現在まで県内では確認されていない。県外では本州および九州に分布するとされるが、稀で、多くの都道府県で絶滅危惧あるいは絶滅とされている。国外では東アジアに分布。

生育状況

日当たりの良い草地に生える高さ40～60cmの一年草。全体無毛。葉は互生、無柄で長さ1～3cm、幅2～4mmの狭長だ円形で3脈がある。花期は8～9月、茎や枝の先に直径約1cmの淡紫色の5弁花をまばらに付ける。萼片の縁に黒色の腺点がある

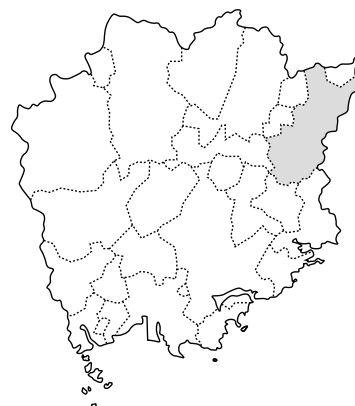
県内において2001年に生育が確認された場所はアカマツの疎林であったが、その後、植生遷移が進行して疎林とはいえない状態に変化している。

主要文献

大久保(1999), 大橋ほか編(2016b), 矢原ほか(2015), 吉野(1929)
(片岡博行・難波靖司)



撮影：難波靖司



アゼオトギリ

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 オトギリソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

生育地が人為的影響を受けやすい場所で、既知の生育地では現在生育が確認できない所が多い。

存続を脅かす要因

自然遷移、道路工事、農薬汚染、農地の荒廃

分布状況

県内では、北部および南部に稀に自生する。県外では、本州(宮城県以西)、四国、九州にみられる。

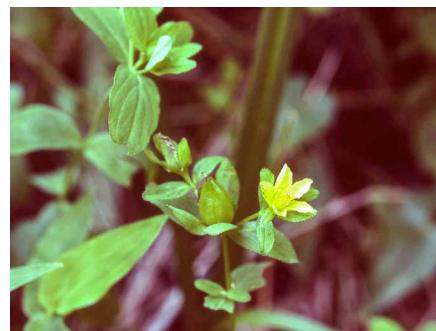
生育状況

野原や田畑の間などの、湿った日当たりのよい場所に生育する多年生草本である。茎は数本が叢生し、よく枝分かれして高さ10～60cmになる。葉は小型で対生し、倒卵形または長楕円形で、鈍頭となり、長さは13～25mmとなる。葉の基部は多少茎を抱き、密に明点が入り、ふちに黒点が並ぶ。花期は7～9月で茎や枝の先端に少数の花からなる花序をつける。花弁は5枚で黄色、長楕円形で長さ7～8mmで、黒点と明点が入り、昼間だけ開く。果実は丸みを帯び、長さ約6.5mmである。

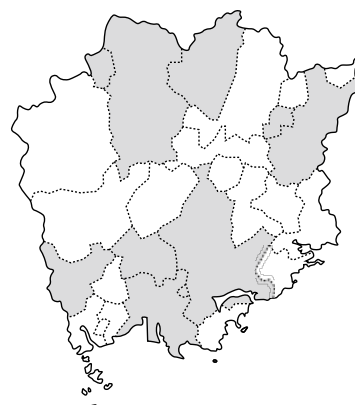
主要文献

環境省(2019), 牧野(1989), 岡山県(2010), 大橋ほか編(2016b), 梅沢(1989)

(太田 謙・小島裕子)



撮影：小島辰三



トサトギリ*Hypericum tosaense* Makino

被子植物 真正双子葉類 オトギリソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

もともと個体数が少ない上に、生育地が道路工事や自然遷移のために減少し、存続がきわめて憂慮される状態である。

存続を脅かす要因

道路工事, 自然遷移, 産地局限

分布状況

県内では、南部のごく一部に生育する。県外では、本州（近畿地方西部から中国地方東部）、四国（香川、高知）にみられる。

生育状況

日当たりのよい丘陵地や山地、超塩基性石地など岩交じりの草地に生える多年生草本である。茎は2～3本が根元から直立し、高さ15～75cmになる。茎には2条の隆起線を持ち、その上にふつう黒点がある。葉は長楕円形または長楕円状披針形で、長さ5～20mm、幅2～8mmとなり、密に黒点があり、ふちに黒点が並ぶ。花は7～8月に咲き、径15～18mm、茎の先や上部の枝先に少数つく。果実は円みを帯びた円すい形となり、長さ約7mmである。

特記事項

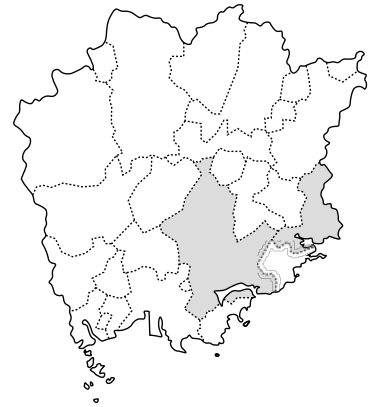
かつては岡山県南部の数カ所に点在していたが、道路工事や自然遷移のため絶滅したとされる（大久保, 1999）。現在は鳥しょ部の1カ所にごく少数の個体が知られているだけである。近隣の香川県や兵庫県でも、個体数は非常に少ないとされる。

主要文献

兵庫県（2010）、香川県（2004）、環境省（2019）、牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）、梅沢（1989）
（太田 謙・狩山俊悟）



所蔵：倉敷市立自然史博物館

**イヨフウロ***Geranium shikokianum* Matsum.

被子植物 真正双子葉類 フウロソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

岡山県では北部山地頂上付近に生育しているが、一部に限定して生育している上、ササが広がり生育環境が良くない。

存続を脅かす要因

産地局限, 踏みつけ, 自然遷移

分布状況

県内：北部の中国山地の一部の頂上付近でわずかに見られる。
県外：本州（東海地方以西）、四国・九州に分布する。

生育状況

山地の日当たりのよい草地に生える多年草で、茎は高さ50cm内外となり、茎・葉柄ともにあらい毛がある。葉は幅4～10cmで、掌状に5中～深裂し、裂片には数個の不ぞろいの鋸歯があり、表面と裏面脈上に毛がある。托葉は膜質で褐色、普通左右が合生している。花は紅紫色で径3cm、茎頂や枝先に2個ずつつく。花弁は5枚で、基部の縁にだけ白毛があり、細かく枝分かれしてはつきりした脈が3～5本ある。花期は7～9月。

関係法令の指定状況

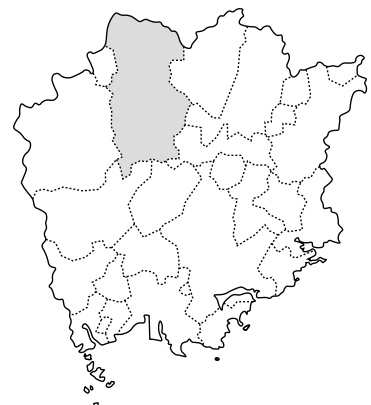
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2016b）
（高山敬三・狩山俊悟）



撮影：波田善夫



コフウロ

Geranium tripartitum R.Knuth

被子植物 真正双子葉類 フウロソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の生育地は北東部に局限しており、生育の場が草地周辺部に限られているため、環境の変化をうけやすい。

存続を脅かす要因

自然遷移, 踏みつけ, 産地局限, 森林伐採

分布状況

県内：北東部の奈義町, 美作市などの林縁, 山道沿いに自生。

県外：本州（山形県・宮城県以南）, 四国, 九州に分布する。



撮影：高山敬三

生育状況

樹林の下, 登山道・林道沿いなどに生える多年草。茎は下部から分枝して斜めに立ち, 細くて弱々しい。長さ15～50cmくらいで細かい毛がある。根生葉は4～8個, 葉柄は長さ8～15cmあり, 葉身より5～6倍の長さがある。葉身は3全裂し, 側小葉はさらに2深裂して, 裂片は頂小葉とともに数個の大きな鋸歯があり, 表面および裏面脈上にあらい毛がある。茎葉は互生する。花期は8～9月。枝先に花柄を伸ばし, 1～2個の白色小花を開く。

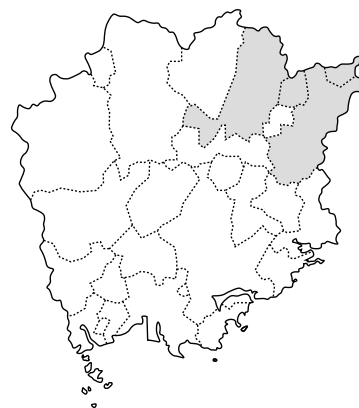
関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村・村田（1961）, 大橋ほか編（2016b）

（高山敬三・狩山俊悟）



ミツバフウロ

Geranium wilfordii Maxim.

被子植物 真正双子葉類 フウロソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県の生育地は北部の一部に局限しており、生育環境が悪化している。

存続を脅かす要因

産地局限, 踏みつけ

分布状況

県内：北部の西粟倉村, 鏡野町などに生育していたとされるが, 近年の確認情報はない。

県外：北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。



撮影：波田善夫

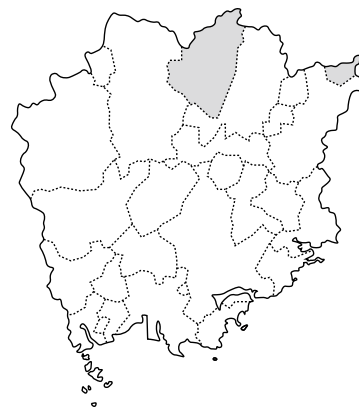
生育状況

山地や草原に生える多年草。茎は上部が立ち上がるが, 下部は倒れ伏し, 長さ30～80cm, 節が太く, 葉柄とともに毛がある。茎葉は対生し長い葉柄があり, 長さ3cm内外, 幅1.5～10cm, 3深裂する。裂片は広披針形で尖り, 整った鋸歯があつて, 表面および裏面脈上に細毛がある。花期は7～10月。葉腋から長い花柄を出し, 先に柄のある1～2個の淡紅紫色の花をつける。

主要文献

北村・村田（1961）, 大橋ほか編（2016b）, 大久保（1999）

（高山敬三・狩山俊悟）



ビッチュウフウロ

Geranium yoshinoi Makino ex Nakai

被子植物 真正双子葉類 フウロソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では北西部を中心にみられるが、生育地である草地の変化や道路の拡幅工事などで生育地が狭められる傾向にある。

存続を脅かす要因

管理放棄、踏みつけ、道路工事

分布状況

県内：中西部の高梁市などと北西部の真庭市などで見られる。
 県外：本州（長野県南部、東海地方、近畿地方北部、中国地方）に分布している。

生育状況

山の湿った草地に生える多年草。茎は長さ50cm内外になり、葉柄とともに下向きの短毛がある。葉は薄く、葉身は幅5～8cmで、掌状に5深裂し、裂片はさらに1～2回3出状に切れ込み、表面及び裏面脈上に毛がある。花期は8～10月。細長い花柄上に2花をつける。花は径2cm前後、薄紅紫色で花弁に濃い色の脈がある。花柄および小花柄に下向きの毛がある。

関係法令の指定状況・特記事項

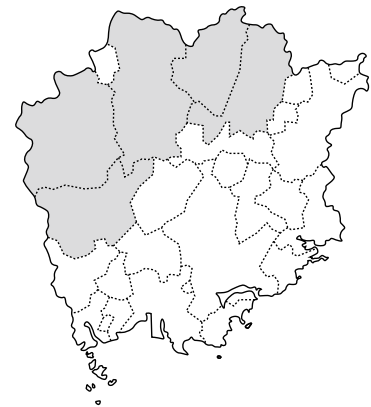
1912年、哲多町（現新見市）をタイプ産地として新種記載された。「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。また「岡山県自然保護条例」による自然保護地域のうち、鯉ヶ窪湿原（新見市）において保護すべき種に指定されており、採取等が禁止されている。

主要文献

北村・村田（1961）、難波（1993）、大橋ほか編（2016b）
 （高山敬三・狩山俊悟）



撮影：西本 孝



ミズキカシグサ

Rotala rosea (Poir.) C. D. K. Cook ex H.Hara

被子植物 真正双子葉類 ミソハギ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

1936年に岡山県南部で採集された標本が、岡山大学資源生物科学研究所に保存されている。その後は確かな生育情報がなく、絶滅した可能性が高い。

分布状況

県内では、南部において採集された標本が残されている。県外では、本州から琉球にみられる。

生育状況

田んぼや湿地に生える、一年草である。高さ10～30cmとなり、枝はよく分かれる。茎は淡緑色で、白色のひげ根を出す。葉は対生して無柄で、披針形となり長さ0.6～2.5cm、幅2～5mmとなり、上方の枝につく葉は急に小さくなる。花は8～11月に咲き、葉腋に1個ずつつき、帯紅色である。花弁は倒披針形で4個つき、がく筒とほぼ同長で宿存する。果実は球形で直径約2mm、紅紫色を帯びている。

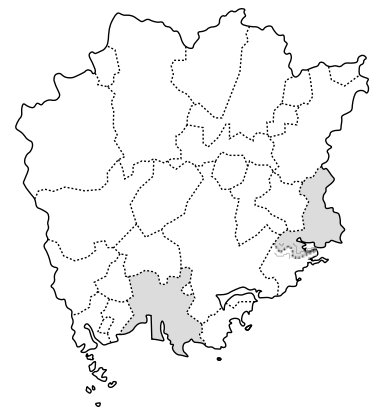
主要文献

環境省（2019）、牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2016b）、梅沢（1989）

（太田 謙・狩山俊悟）



撮影：榎本 敬



ミヤマタニタデ

Circaea alpina L. subsp. *Alpina*

被子植物 真正双子葉類 アカバナ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が心配される状態ではないが、岡山県では1カ所に生育しているだけで、個体数も多くない。付近では台風による風倒木の処理が大規模に行われたことがあり、今後の推移を注意深く観察する必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

岡山県では西粟倉村の高所にあり、樹林下に生える。国内では北海道、本州、四国、九州（屋久島まで）に分布する。

生育状況

深山の日陰や高山の日当たりの良い所に生える多年草で、高さ6～15cmくらいになる。茎の基部から細い糸状の地下茎を出し、先端に越冬芽を作る。葉は三角状広卵形で長さ1～4cm、幅7～30mm、縁に鋭鋸歯がある。花は7～8月に咲く。花弁は白色で倒卵形、先端は2つに分かれる。萼は花弁よりわずかに長い。果実はこん棒状、長さ2～2.5mm、かぎ状の刺毛があり、1室で1種子がある。

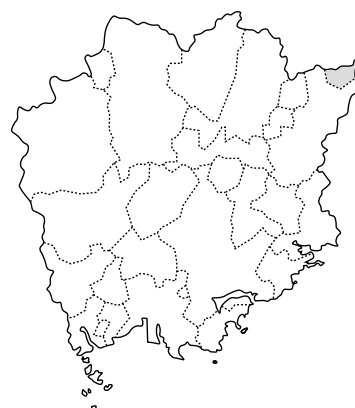
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

イワアカバナ *Epilobium amurense* Hausskn. subsp. *cephalostigma* (Hausskn.) C.J.Chen, Hoch et Raven

被子植物 真正双子葉類 アカバナ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

1956年に鏡野町で採集された標本が岡山県自然保護センターにあり、大久保 (1999) によると県北部の山地に自生が確認されたとされる。しかし、近年は標本や確かな生育情報がなく、現状は不明となっている。

分布状況

岡山県では北部の山地に自生とされる (大久保, 1999)。国内では北海道、本州、四国、九州に分布している。

生育状況

山中の湿った場所に生える多年草で、高さ15～60cmになる。茎は直立して多く分枝し、茎上部と枝には短い曲がった毛がある。葉は対生、縁に多数の細かい鋸歯があり、中部の葉は長さ1.5～9cm、幅5～30mm、長だ円状皮針形で基部は細くなる。花は7～8月に咲き、葉腋に単生して淡紅色または白色である。柱頭は頭状で花柱は柱頭よりずっと長い。果実はまばらに伏毛があるかほとんど無毛となる。同属のアカバナは柱頭がこん棒状で、葉の基部が幅広く、しばしば茎を抱くことで区別できる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

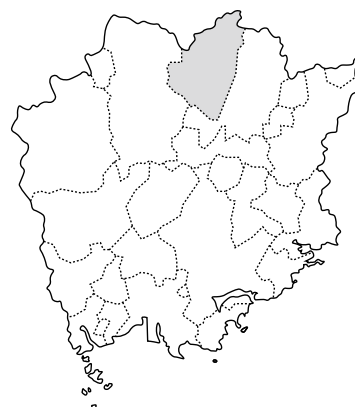
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2016b), 大久保 (1999)

(高田真一)



撮影：狩山俊悟



カラコギカエデ*Acer ginnala* Maxim. var. *aidzuense* (Franch.) K.Ogata

被子植物 真正双子葉類 ムクロジ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の西北部に自生しているが限られた場所、特に湿地、池の縁に生育している。森林の伐採、荒廃により生育条件が著しく悪化している。

存続を脅かす要因

産地局限、道路工事、管理放棄

分布状況

県内：北部。県外：北海道、本州、四国、九州に自生する。

生育状況

落葉低木～小高木。湿地に生える葉は柄があって対生し、葉身は卵状楕円形～卵形で長さ5～12cm、幅2～7cm。先端は尾状にとがり、へりに切れ込み状の鋸歯があって、表面無毛、裏面の脈腋に毛がある。特に下部浅く3裂し、裂片は先端鋭形、へりに切れ込み状の重鋸歯がある。花期は5月。若枝の先に出る円錐花序に黄緑色の花をつける。果実の翼は狭い鋭角。

関係法令の指定状況

新見市では天然記念物に指定され保護されている。

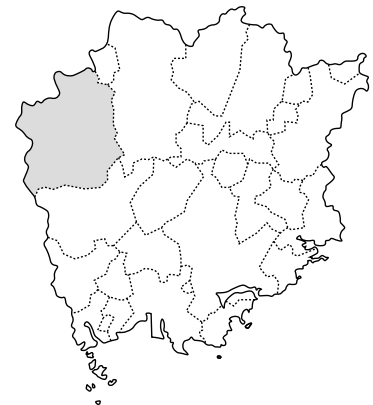
主要文献

林 (2014), 大橋ほか編 (2016b), 大久保 (1999)

(浅井幹夫)



撮影：浅井幹夫

**ハマボウ***Hibiscus hamabo* Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 アオイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

現存する集団数、個体数は極めてわずかで絶滅寸前である。

存続を脅かす要因

産地局限、海岸開発、道路工事

分布状況

岡山県では瀬戸内市の島しょ部にわずかに生育が確認されている。かつて岡山県東部の本土側海岸部に自生していたことが、大久保 (1999) などにより報告されているが、この自生地は道路整備のため絶滅している。国内では本州 (関東南部・東海地方・紀伊半島・中国地方)、四国、九州に分布し、海岸部の泥湿地に生える。

生育状況

高さ2～4mになる夏緑性低木または小高木。葉はふつう円形～広卵形、長さ3～6cm、幅3～7cm、縁に鈍い細鋸歯がある。葉先は鋭形、基部は円形またはやや心形となる。花は7～8月、枝の上部の葉腋に1個だけつく。花の径は約5cm、淡黄色で中心部は暗赤色となる。果実は卵形で、長さ約3cm、褐色の剛毛を密生する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園および大山隠岐国立公園の指定植物である。

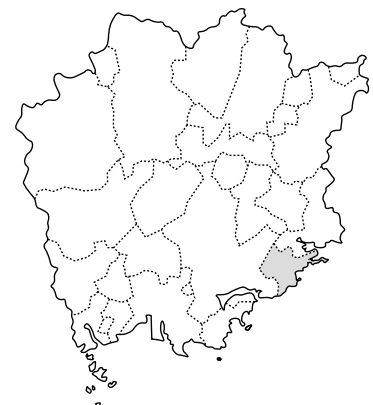
主要文献

北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2017a), 大久保 (1999)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



ヘラノキ

Tilia kiusiana Makino et Shiras.

被子植物 真正双子葉類 アオイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限られて、個体数も少なく、森林伐採や道路工事が行われると絶滅してしまう可能性が高い。また他の樹木に被圧されると生育が悪くなる可能性もある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, 道路工事, 自然遷移

分布状況

県内では南部の二次林林林にごく希に生える。県外では本州（紀伊半島・中国地方）、四国、九州の山地に分布する。

生育状況

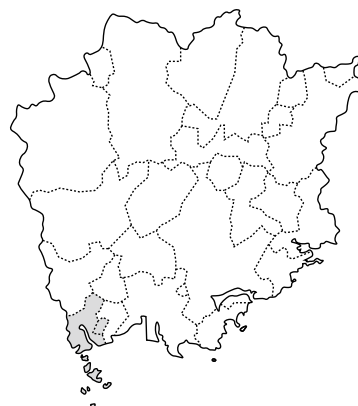
高さ8～10mになる夏緑性高木。よく分枝し、若枝には細毛がある。葉は卵形または卵状長円形、先は長く尾状にとがり、基部はゆがんだ切形または浅心形、長さ5～8cm、幅2.5～5cm。葉の上面は無毛、下面は脈上に短毛がまばらにあり、基部の脈腋に褐色の毛がある。花は7月ごろ開き、淡黄色、花弁は披針形で長さ約4mm。花序の苞は狭長円形で、果時に6～7cm、基部ないし基部から数cm上方に花柄がつく。果実は球形で径4～5mm、帯褐色の短毛を密生する。

主要文献

北村ほか編（1971）、大橋ほか編（2017a）
（狩山俊悟・森定 伸）



撮影：狩山俊悟



マンシュウボダイジュ

Tilia mandshurica Rupr. et Maxim. var. *mandshurica*

被子植物 真正双子葉類 アオイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

岡山県内で確認された生育地は2カ所で、集団数、個体数ともに少ない。個体数が減ってきているわけではないが、大陸系の植物で、国内では中国地方のごく一部に点在するだけである。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

県内：新見市に分布する。県外：広島県、山口県に分布する。

生育状況

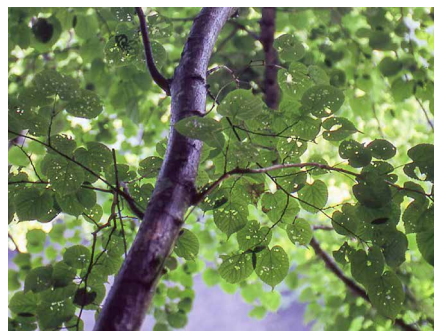
落葉高木で高さ20mに達する。若い枝には星状毛があるが早くおちる。葉はゆがんだ卵円形で長さ9～15cm、幅6～15cm、短鋭尖頭。基部は斜心形。葉の表面は無毛、裏面は星状毛を密生して、縁には鋭い鋸歯がある。花期は7月、花序には6～20花があり、花弁は長さ7～8mm。花序の苞は狭長円形で、果時に8～12cm、両面に星状毛が生える。果実は球形または、扁球形で約7mm、灰褐色の星状毛を密生する。

関係法令の指定状況

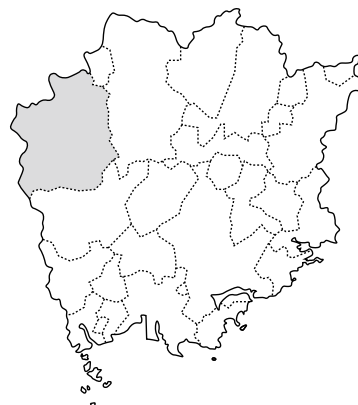
新見市では天然記念物に指定され保護されている。

主要文献

広島大学理学部付属宮島植物実験所・比婆科学教育振興会（1997）、北村ほか編（1971）、大橋ほか編（2017a）
（浅井幹夫・森定 伸）



撮影：浅井幹夫



ラセンソウ

Triumfetta japonica Makino

被子植物 真正双子葉類 アオイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

確認された生育地は極わずかであり、耕作放棄地や道端等の不安定な環境が中心で、生育数の変動も大きい。

存続を脅かす要因

産地局限、道路工事、自然遷移

分布状況

県内：北部、南部に分布する。県外：本州（関東以西）～琉球（奄美大島以北）に分布する。

生育状況

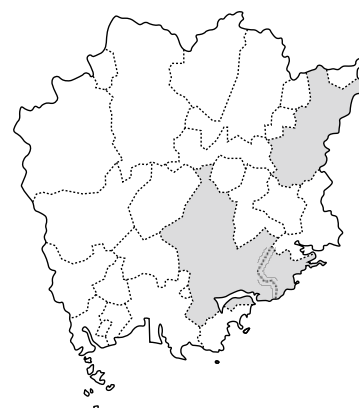
道ばたや畑に生える一年草で、茎は高さ60～120cm。葉は卵状披針形、長さ5～13cm、先は長くとがり基部は円心形、薄く、両面脈上にあらい毛がある。托葉は線形で反り曲がる。花は8～10月。黄色で径約5mm。果実は球形で径6～7mm、表面の刺毛に毛がある。

主要文献

狩山ほか（2008）、北村ほか編（1961）、大橋ほか編（2017a）
（小島裕子・森定 伸）



撮影：狩山俊悟



カラスシキミ

Daphne miyabeana Makino

被子植物 真正双子葉類 ジンチョウゲ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、北部のブナ帯に近いところに生育する。単生して生育することも多く、もともと生育地、個体数共に少ない。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、道路工事、その他（登山道・作業道の拡幅）

分布状況

県内では、中国山地のブナ帯下部の、夏緑樹林の林下、林縁に稀に生育する。県外では、北海道、本州（隠岐島および鳥取県大山以東の日本海側）に分布する。

生育状況

常緑の小低木で、高さ1mほど。枝はまばらに分枝し、濃紫褐色で無毛、若枝は緑色で有毛。葉は互生し、薄い革質で光沢があり全縁、倒披針形で、基部は長いくさび形。葉裏の主脈は隆起する。花期は6月、今年枝の先に短い総状花序を出し、4～11個の白い花をつける。花卉に見えるのは萼裂片で、萼筒の先は4裂し、開出する。果実は液果で、7～8月に赤く熟す。雌雄異株。日本固有種。

関係法令の指定状況

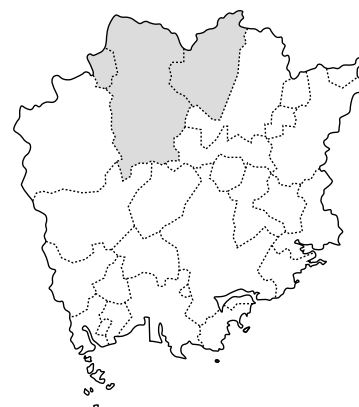
「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編（2017a）、大久保（1999）
（高山敬三・地職 恵）



撮影：高山敬三



シコクハタザオ

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *shikokiana* (Nakai) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 アブラナ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

現時点で絶滅の心配はないが、集団数、個体数ともにわずかで、今後の推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県では北部の溪側岩上または林縁部に生えている。本州（関東以西）、四国、九州の山地に生える。

生育状況

高さ20～40cmになる多年草。根生葉は広倒披針形、長さ5～15cm、両面に星状毛があり、ふちには粗い鋸歯があって、基部は長い葉柄がある。茎葉は長だ円形からだ円形、長さ2～4cm、ふちに大きな鋭鋸歯があり、基部は茎を抱く。花期は5～6月。花弁は白色。果実は長角果、長さ7～9cm、開出して先端は垂れる。種子はだ円形、翼があり、1列に並ぶ。同属のスズシロソウとハクサンハタザオは茎葉が茎を抱かず、ヤマハタザオは長角果が直立することで区別できる。

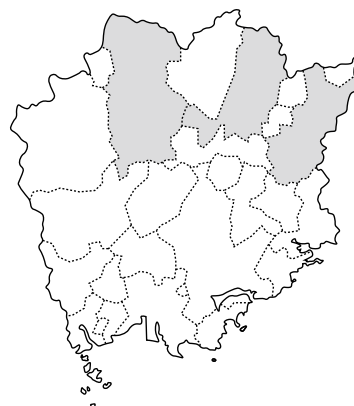
主要文献

神奈川県植物誌調査会編（2018）、北村ほか（1961）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ハナナズナ

Berteroella maximowiczii (Palib.) O.E.Schulz

被子植物 真正双子葉類 アブラナ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

対馬と本州（中国地方）に希にある。岡山県では南部の旧鴨方町遙照山（現在は浅口市）で1955年に採集された標本があるが、その後は記録がない。

分布状況

県内：絶滅。

県外：広島県では絶滅。長崎県対馬にわずかに分布し、朝鮮半島や中国（東北部）に分布する。

生育状況

越年草。茎は直立し、上部で枝を分け、高さ20～60cmになる。全体に星状毛がある。葉は倒卵形から広倒披針形、無柄または短い柄があり、長さ1.5～3.5cm、幅は5～13mm。花期は5～10月。花弁は淡紅色、披針形で長さ4mm。果実は長さ8～9mm、星状毛を密布する。

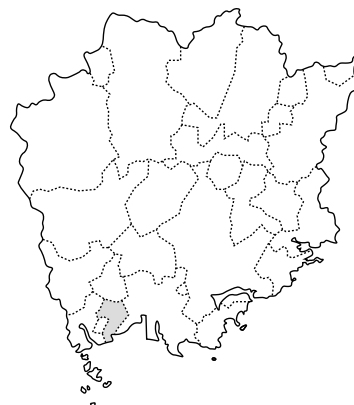
主要文献

狩山ほか（1998）、北村ほか（1961）、大橋ほか編（2017a）、レッドデータブックひろしま改訂検討委員会編（2013）

（小畠裕子）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ヒロハコンロンソウ*Cardamine appendiculata* Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 アブラナ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は分布の西限と思われるが、生育地、個体数ともに多くない。山と水田の間の溝に生えるものなどは、農地造成工事などで消失する恐れがあり、生育環境が悪化すれば絶滅の危機に瀕することが予想される。

存続を脅かす要因

産地局限、土地造成（農地造成）、森林伐採

分布状況

本州中北部に分布するとされるが、岡山県内でも北東部に点在する。山地の沢沿いや、浸み出し水のある水湿地に生え、群生していることが多い。

生育状況

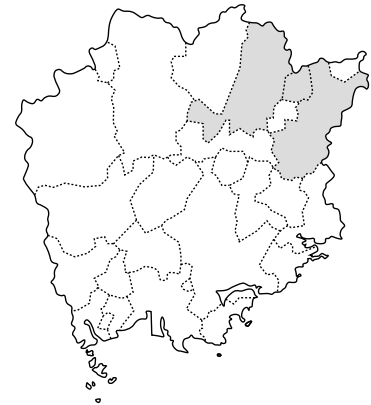
高さ30～60cmになる多年草。一見コンロンソウに似ているが、茎は無毛で、稜がある。葉柄基部は左右に張り出した耳部があり、茎を抱く。葉は奇数羽状複葉で小葉は3～7個、コンロンソウより幅が広く、先はコンロンソウのように細くとがらない。縁にはあらい鋸歯がある。花期は5月。茎の先に白い4弁の花が10～20個集まって咲く。別名、タデノウミコンロンソウ。

主要文献

畔上(1996)、狩山ほか(1998)、大橋ほか編(2017a)、大久保(1999)
(地職 恵)



撮影：地職 恵

**オオマルバコンロンソウ***Cardamine arakiana* Koidz.

被子植物 真正双子葉類 アブラナ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

オオマルバコンロンソウは、県中部を中心に比較的広い範囲で生育地が点在しているが、個体群、個体数ともに少なく、減少傾向がうかがえる状況にある。

存続を脅かす要因

自然遷移、森林伐採

分布状況

全国的にも生育地、個体数が限られる植物で、県外では京都府や兵庫県、徳島県等で知られていたが、京都府では現在、絶滅種となっており、徳島県ではレッドリスト改訂にあたり、種そのものが削除されている。県内では近年、北部での標本採取情報がなく、減少傾向がうかがえる。

生育状況

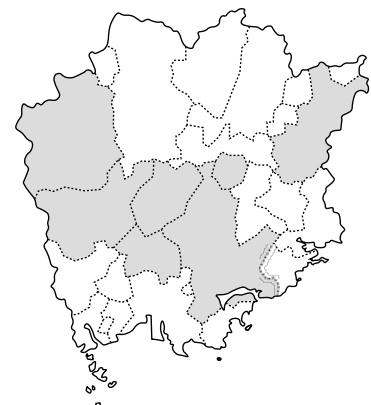
多年草。根茎は短く肥厚し、茎は高さ10～30cm、数個の葉をつける。根出葉は1～3小葉からなる。頂小葉は円腎形または腎心形。花期は4～5月。花序には数花をつけ、短く無毛。マルバコンロンソウの長角果には密に毛があるが、オオマルバコンロンソウの長角果は無毛である。

主要文献

Iwatsuki *et al.* (eds.) (2001)、狩山ほか(1997)、北村ほか(1961)、小島ほか編(2005)、京都府環境部自然環境保全課編(2015)、大橋ほか編(2017a)、徳島県希少野生生物保護検討委員編(2014)
(難波靖司・小島裕子)



撮影：小島辰三



ハマサジ

Limonium tetragonum (Thunb.) A.A.Bullock

被子植物 真正双子葉類 イソマツ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

干潟や河口が開発され、生育地が減少しているため。

存続を脅かす要因

海岸開発, 河川開発

分布状況

岡山県内では河口などの干潟に生育している。国内では、本州(三陸海岸以南の太平洋側)、四国、九州、琉球(奄美大島)の海岸に分布する。岡山市より東部には比較的、個体数が多いが、西部では見られることが少ない。



撮影：榎本 敬(右)・難波 靖司(左)

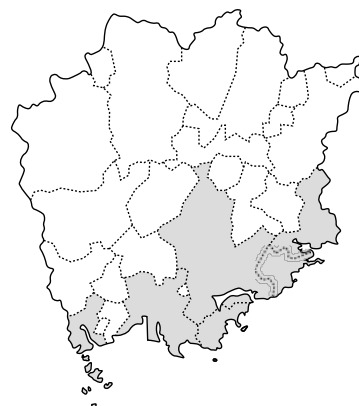
生育状況

内湾の入り江や、河口付近の砂泥地に見られる二年草で、全体が無毛となる。満潮時に冠水するような海岸の最前列に生育する。葉は根生し、長楕円状さじ形で、質感は厚くて堅く、長さ12～15cmになる。秋に花茎が葉よりもはるかに高く伸びて、多くの枝分かれした小枝の先に黄色い小さな花をつける。花冠は5深裂し、上部は黄色。萼は淡紅紫色となる。そう果は長さ3.5mm、種子は長さ3mmの紡錘形である。県内にはイソマツなどの近縁種は分布していない。

主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 奥田ほか(1997), 大橋ほか編(2017a)

(太田 謙・榎本 敬)



イブキトラノオ

Bistorta officinalis Delarbre subsp. *japonica* (H.Hara) Yonek.

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

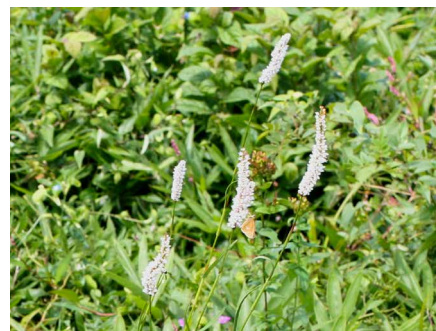
岡山県では北部の限られた山地の草原に少数しか生育していないため。

存続を脅かす要因

産地局限, 業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では北部の中国山地の日当たりの良い草原にわずかに自生している。県外では関東地方以西の本州(太平洋側)から九州にかけて分布。北海道から本州中北部にかけて分布するものは亜種エゾイブキトラノオ subsp. *pacifica* とされる。



撮影：榎本 敬

生育状況

多年草で茎は高さ50～120cm。根生葉は披針形で上部に翼のある長い柄があり、質薄く、先は尖る。基部はくさび形～切形。茎葉は5～8個つき、披針形～線形で短い柄があるか無柄。ふつう茎を抱かず、上部のものは糸状となる。根茎は太く短い。花期は6～9月。3～8cmの細長い総状花序をつける。花は淡紅色あるいは白色。そう果は3稜形で長さ約3mm、幅約2.3mm、黒褐色で光沢がある。

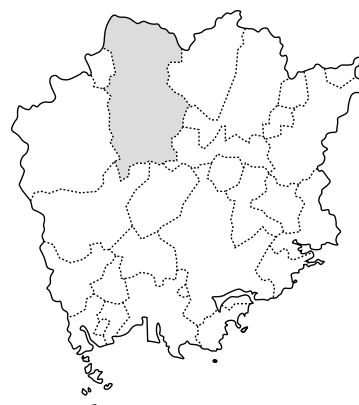
関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編(2017a), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室(1980), 大久保(1999)

(片岡博行・榎本 敬)



ヒメタデ*Persicaria erectominor* (Makino) Nakai

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地となる湿地の開発や水田の耕作放棄等により個体数が減少している。

存続を脅かす要因

湿地開発，管理放棄，河川開発

分布状況

岡山県内では南部の湿地や休耕田にわずかに見られる。同じく南部の倉敷川下流域の個体群は比較的大きかったが，現在ではほとんど見つからない。県外では，北海道から九州に分布し，国外では朝鮮半島，中国に分布する。



撮影：小嶋辰三

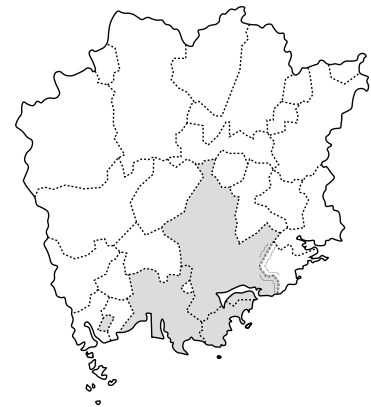
生育状況

湿った場所に生え，高さ20～40cmになる一年草。茎は無毛で，下部から直立するか斜上する。茎の上部は直立してまばらに分枝する。葉は互生し，線形で質はやや薄く，乾いても緑色。表面の縁周辺と主脈上，裏面の脈上に短毛がある。葉柄はきわめて短い。托葉鞘には伏毛があり，縁毛は托葉鞘本体1/2ほどの長さ。花はふつう淡紅色。花期は5～10月。そう果は3稜形，長さ1.4～1.8mm，黒色でつやがある。

主要文献

狩山・榎本 (1998, 2001), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室 (1980), 大久保 (1999), 山下ほか (2010)

(片岡博行・榎本 敬)

**ホンバイヌタデ***Persicaria erectominor* (Makino) Nakai var. *trigonocarpa* (Makino) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

河川の氾濫原などの不安定な環境に生育するため，護岸工事など河川管理の影響を受けやすい。また，国内分布の西限にあたりと考えられる。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事などを含む），ダム建設

分布状況

国内では近畿地方以东の本州に分布するとされるが，2010年に倉敷市の高梁川河畔で発見され，岡山県にも分布することが明らかとなった。現在，標本が採集されているのは倉敷市，総社市の高梁川河畔のみだが，旭川・吉井川水系にも生育しているとの情報もある。



撮影：狩山俊悟

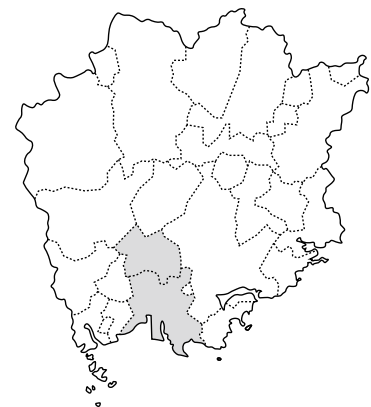
生育状況

河畔の湿った場所に生育する，高さ30～60cmになる一年草。下部の茎は地面をはい，上部の茎は直立して分枝する。葉は長さ3～13cm，幅0.8～2cmの線状披針形，基部はくさび形。表面は縁近くに短毛があり，裏面には盤状の腺点が散在し，脈上には短毛が生える。托葉鞘の縁毛の長さは本体の1/2～2/3ほど。花期は9～10月，枝先の細い円柱状の総状花序に密に花をつける。萼は長さ2.5～3mmで淡紅色，5深裂し，裂片にはまばらに腺点がある。そう果は3稜形で長さ1.5mm程度。イヌタデに似るが，葉裏や萼に腺点を持つこと，托葉鞘や苞の縁毛が短いこと，花色が淡いことなどで見分けられる。

主要文献

北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a)

(片岡博行)



サイコヌカボ

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

適度に管理された水湿地に生えるが、ため池の改修や管理放棄などのため、近年見かけることが希になった。

存続を脅かす要因

池沼開発、自然遷移、農薬汚染、管理放棄

分布状況

岡山県南部に分布し、池沼周辺および休耕田などの水湿地に生える。本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ30～60cmになる一年草。茎は細く、基部は倒れ、節から根を下ろす。茎の上部は斜上し、分枝する。葉は狭披針形または広線形で、長さ3～9cm、幅2～9mm、中央より付け根側がもっとも幅が広く、基部は円形または鈍形、両面に毛があって、茎とともに乾くと赤褐色を帯びる。托葉鞘は筒状で長さ5～10mm、ほぼ等長の縁毛がある。花期は9～10月で、枝先に5～6cmの総状花序を作り、長さ1.5～2mm、淡紅色の花をはなはだまばらにつける。果実は長さ約1.7～2.1mmのレンズ形、黒褐色で光沢がある。ヤナギヌカボとは托葉鞘がより長いこと、花序がよりまばらで果実がやや大きい点が異なる。

特記事項

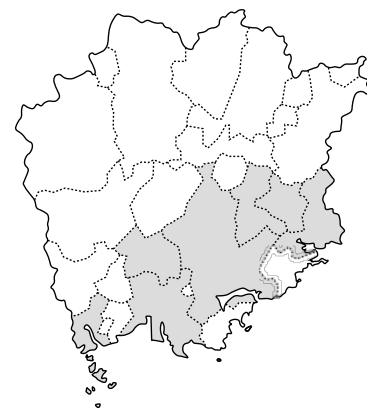
岡山市をタイプ産地とする植物である。

主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2017a）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ヤナギヌカボ

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

適度に管理された水湿地に生えるが、ため池の改修や管理放棄などのため、近年見かけることが希になった。

存続を脅かす要因

池沼開発、自然遷移、農薬汚染、管理放棄、その他（生育期にため池の水位が高いままだと発芽・成長できない）

分布状況

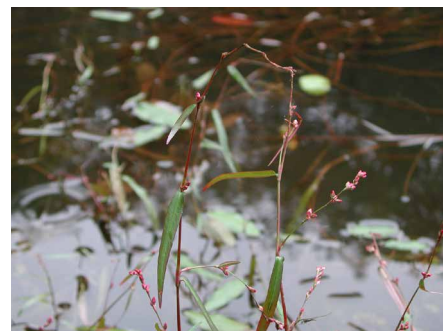
岡山県南部に分布し、池沼周辺および休耕田などの水湿地に生える。倉敷市では、ため池の浚渫土を整地した場所に一時的に生育した例がある。北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、絶滅した県や現状不明の府県が少なくない。

生育状況

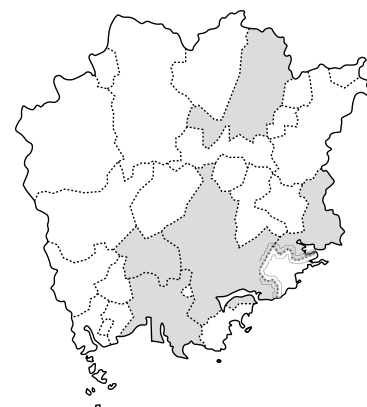
高さ30～70cmになる一年草。茎は細く、基部は倒れ、節から根を下ろす。茎の上部は斜上し、分枝する。葉は広線形で長さ2～8cm、幅3～7mm、脈上と葉縁をのぞきほとんど無毛、裏面に腺点をもつ。基部はほとんど柄がなく鈍形またはやや鋭形。葉、茎ともに乾くと赤褐色を帯びる。托葉鞘は筒状で長さ8～15mm、本体の1/3程度の長さの縁毛がある。花期は7～9月で、枝先に5～6cmの総状花序を作り、長さ1.5mmで淡紅色の花をやや断続的につける。果実は長さ約1.4～1.7mmのレンズ形、黒褐色で光沢がある。

主要文献

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2017a）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



サクラタデ*Persicaria odorata* (Lour.) Soják subsp. *conspicua* (Nakai) Yonek.

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地である湿地が開発によって消滅したり、管理放棄等によって植生遷移が進行し生育環境が悪化したりするなどした結果、生育地が減少している。

存続を脅かす要因

河川開発、湿地開発、池沼開発、管理放棄

分布状況

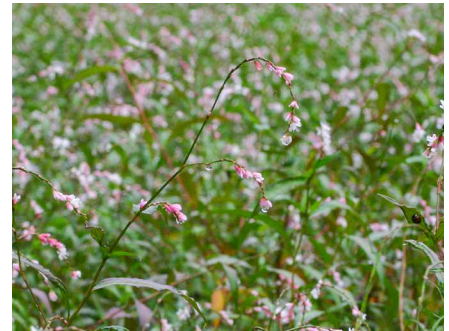
岡山県内ではほぼ全域に分布するが、各生育地の個体数は多くない。県外では本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島南部、中国に分布する。

生育状況

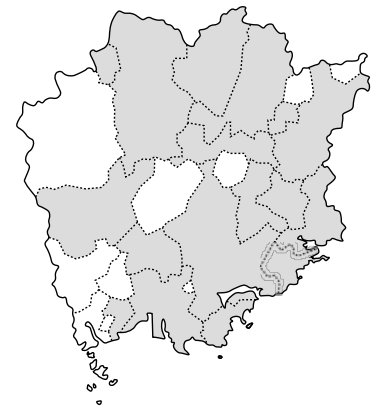
水辺や湿地に生える高さ50～100cmの多年草。茎は下部から斜上して多少分枝する。節間は無毛でまばらに腺点がある。葉は互生し、披針形で長さ6～18cm、鋭尖頭、基部はくさび形、質やや厚く両面に短毛と黄色の腺点がある。托葉鞘は短毛と腺点があり、縁には長い毛がある。花期は8～10月、花被は長さが5～6mm、淡紅色。異型花柱性をもち、結実するのは雌しべが雄しべより長い長花柱花のみで、雌しべが雄しべより短い短花柱花と両方の花が咲く集団でないとは結実しない。そのため、雌雄異株とされる場合もある。そう果は3稜形、長さ約3.5mm、黒褐色で光沢は鈍い。

主要文献

林 (2013), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a)
(片岡博行・榎本 敬)



撮影：榎本 敬

**ヌカボタデ***Persicaria taquetii* (H.Lév.) Koidz.

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

適度に管理された水湿地に生えるが、ため池の改修や管理放棄などのため、近年見かけることが希になった。

存続を脅かす要因

池沼開発、自然遷移、農薬汚染、管理放棄、その他（生育期にため池の水位が高いままだと発芽・成長できない）

分布状況

岡山県の南部、中部に分布し、池沼のまわりの湿地や休耕田に生える。ため池の堤防改修のため、水位を下げると一時的に多数生育することがある。国内では本州、四国、九州に広く分布するが、現状不明の府県が多い。

生育状況

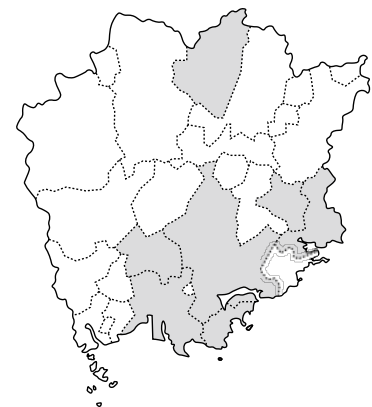
高さ10～60cmになる一年草。茎は弱々しく、下部で分枝して地をはい、節から根を下ろす。葉はほとんど柄がなく、披針形または広線形、長さ約2～8cm。托葉鞘は筒状で長さ4～6mm、ふちにほとんど等長の縁毛がある。花は7～11月に咲き、白色～淡紅色、まばらな穂状につく。花序軸は細く、花の着いた節でわずかにジグザクに屈曲する。果実は卵円形で黒緑色、3稜形かレンズ形。類似のサイコクヌカボ、ヤナギヌカボに比べ葉が薄く、葉の基部は鋭形、葉裏に腺点がない。

主要文献

北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a), 矢原ほか (2015)
(片岡博行・狩山俊悟)



撮影：大久保一治



ノダイオウ

Rumex longifolius DC.

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

生育地はもともと少ないが、開発や植生遷移による生育環境の悪化が危惧されるほか、帰化植物のエゾノギシギシとの交雑や、雑種との競合も危惧されている。

存続を脅かす要因

産地局限、河川開発、自然遷移、道路工事、帰化競合、動物食害

分布状況

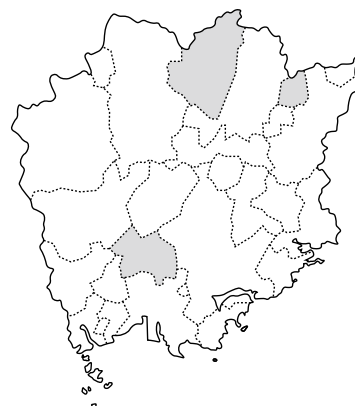
おもに岡山県北部に分布する。集団数はごく少数であるが、そこでの個体数は多い。国内では北海道、本州（島根県以東）に分布し、水湿のある草地に生える。



撮影：狩山俊悟

生育状況

山地の溪流沿い草地に生育する高さ60～150cmになる多年草。茎は太く直立して上部で分枝する。根出葉は多数で大きく、長い葉柄があって、普通、花時には枯れる。葉身は長さ35～60cm、幅15～26cm、長卵状だ円形、鈍頭で基部は浅い心形か円形となり、ふちは鋸歯がないか波状の浅い歯牙がある。上部の葉は細く小さくなり、披針形～長だ円形となる。花期は6～8月、花序は直立し、大型で密に多数の花をつける。内花被片は花後成長して果実をつつみ、円心形、長さ5～6mm、ふちに鋸歯がなく、中脈がこぶ状にふくれない。類似のマダイオウは内花被片のふちに鋸歯がある。



主要文献

門田 (2013), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a), 大久保 (1999), 矢原ほか (2015)

(片岡博行・狩山俊悟)

マダイオウ

Rumex madaio Makino

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともにもともと少ないが、30年以上、標本が採集されておらず、絶滅の可能性が高まっている。

存続を脅かす要因

河川開発、自然遷移、動物食害

分布状況

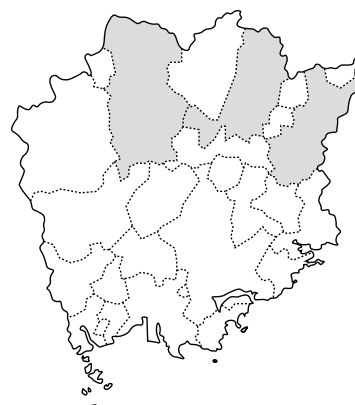
岡山県中部、北部に希にあり、河川敷などの水辺に生育する。昔は諸所にあったが、近年は少なくなったとされる（大久保, 1999）。県外では本州（宮城県、山形県以南）、四国、九州に分布する。日本固有。



撮影：浅井幹夫

生育状況

川辺などの水湿地に生える高さ70～150cmになる多年草。茎は直立して縦に溝があり、茎の下部は直径1.5cmになる。下部の葉は大きく長柄があって卵状長だ円形、長さ17～35cm、幅10～20cm、下面脈上に短い剛毛を密生する。茎上部の葉は狭い長だ円形になる。花は6～7月に咲き、大きな円錐花序につく。果時の内花被片は円心形、長さ4～5mm、幅6～9mm、ふちの下半部に鋭鋸歯があり、中脈はこぶ状にふくれない。果柄に関節がある。



特記事項

京都府では同属のキブネダイオウのシカによる食害があるという（矢原ほか, 2015）。本種をはじめ、同属のレッドデータ種についても同様のリスクがあると考えられる。

主要文献

北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a), 大久保 (1999), 矢原ほか (2015)

キブネダイオウ*Rumex nepalensis* Spreng. subsp. *andreaeanus* (Makino) Yonek.

被子植物 真正双子葉類 タデ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類

●環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

生育地の開発の他、近年では帰化植物（エゾノギシギシ）との交雑、競合により、純粋な個体群の存続が危ぶまれている。また、シカが生育地に侵入した場合には食害も危惧される。

存続を脅かす要因

河川開発、帰化競合、動物食害、その他（近縁種との交雑）

分布状況

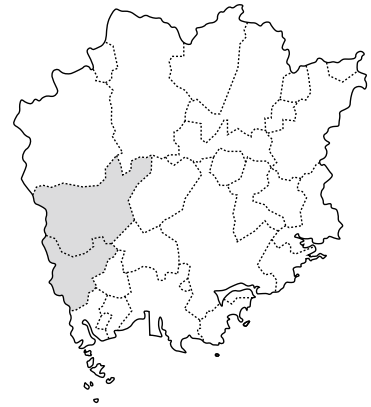
京都府と岡山県の2カ所だけに分布する氷河期の遺存種である。岡山県は第二の発見地で、高梁市（旧備中町、旧川上町）の高梁川支流に生育することが知られていたが、2014年に井原市でも採集された。日本固有。



撮影：狩山俊悟

生育状況

川岸に生える高さ1～1.5mほどになる多年草。高梁市では石灰岩地から湧出する谷川の水辺に生育している。根出葉は花時には枯れ、茎葉は卵状だ円形、円頭で基部は心形、長柄をもつ。葉の裏面の脈上には短毛が生える。花期は5～6月に茎の頂部に円錐花序をつけ、輪生状に花をつける。翼状萼片のふちに先がかぎ状に曲った長い刺毛をもつ。3個の翼状萼片のうち1個にこぶ状突起があるが、線形で不明瞭である。京都府貴船地区がタイプ産地であることからその名がある。

**主要文献**

北村・村田（1961）、大橋ほか編（2017a）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・高田真一）

イシモチソウ*Drosera peltata* Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

被子植物 真正双子葉類 モウセンゴケ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

ただちに絶滅が心配される状態ではないが、生育地である湧水湿地そのものが開発行為などによって破壊されれば、深刻な影響を受ける可能性が高い。

存続を脅かす要因

湿地開発、自然遷移、業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では主に中～南部の花崗岩地などの湧水湿地周辺で見られ、北部でも一部に生育する。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布するとされるが、九州・琉球では野生のものは絶滅したと考えられているという（大橋ほか編、2017a）。国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布。



撮影：波田善夫

生育状況

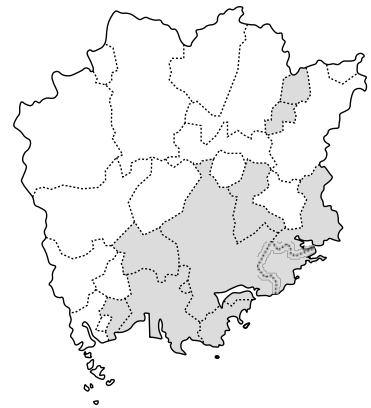
日当たりの良い貧栄養な低湿地とその周辺に生育する高さ10～30cmになる多年生の食虫植物。地下には球形の塊茎がある（部分写真参照）。葉は互生、三日月形で盾状につき幅4～6mm。葉身の縁と上面には長い腺毛があって粘り、これで虫を捕らえる。花期は5～6月、茎の上部が分枝した先に花序をつける。花は白色、径1～1.5cmほど、晴天の日の午前10時ごろに開いて午後早くに閉じる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

林（2013）、大橋ほか編（2017a）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・波田善夫）



トウカイコモウセンゴケ*Drosera tokaiensis* (Komiya et C. Shibata) T. Nakam. et K. Ueda

被子植物 真正双子葉類 モウセンゴケ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が心配される状態ではないが、生育地である湧水湿地が減少しつつあることを含めて存続に留意する必要がある。

存続を脅かす要因

湿地開発，自然遷移，業者・マニア採取

分布状況

県内では沿岸域の貧栄養な湧水湿地に点々と分布。本州（北陸および東海～中国地方），四国（香川県）に分布するとされるが，長崎県からも疑わしいものが報告されている（中西，2019）。日本固有。

生育状況

モウセンゴケ *D. rotundifolia* とコモウセンゴケ *D. spatulata* の雑種起源と推定される多年生の食虫植物。葉はふつう赤みを帯びるが日陰などに生育するものは淡緑色。葉の表面の長腺毛で小昆虫を粘りつけて捕らえる。小型のモウセンゴケと紛らわしい場合があるが，腺毛の生える範囲が葉先から葉柄状になった基部までの長さの半分程度であること，葉先が倒卵形で柄部になだらかに移行する場面が多いこと，腺毛の生える範囲が広いこと（モウセンゴケの葉先は歪んだ円形で柄部との境界が明瞭，柄部には腺毛がない）などの点で区別できる。花期は6～8月，花は淡紅色で晴天の日の午前10時ごろに開いて午後早くに閉じる一日花。種子は黒色で長さ0.7mm程度。冬期に休眠芽を形成しないため，岡山県では沿岸部の南向きの斜面など，降霜がほとんど見られない湧水湿地にのみ生育が限られる。

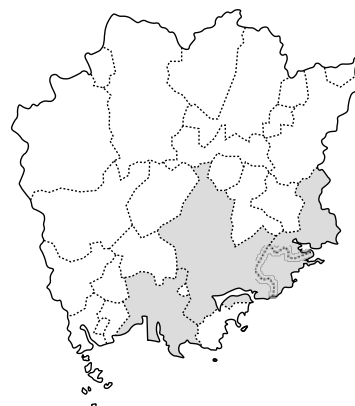
主要文献

中西（2019），大橋ほか編（2017a）

（片岡博行・波田善夫）



撮影：波田善夫

**オオヤマフスマ***Arenaria lateriflora* L.

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県に知られている産地は数カ所のみである。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移

分布状況

岡山県内では北西部と南部に記録がある。難波早苗氏が北東部で採集した記録がある（大久保，1999）が，標本は見つかっていない。県南部の暖温帯低地での記録は，本種としては特殊と思われる。県外では北海道，本州，四国，九州に分布する。

生育状況

夏緑樹二次林の明るい林床や草原に生じる多年草。茎は細く高さ10～20cm，分岐し，下向毛がある。葉は対生，無柄，広楕円形～倒披針形，基部は円形～くさび形，鈍頭～鋭頭，裏面脈上と葉縁に毛がある。花序は葉に腋生または茎頂に頂生し，1～3花，萼片は楕円形，円頭～鈍頭，花卉は白色，狭倒卵形で萼片より長い。

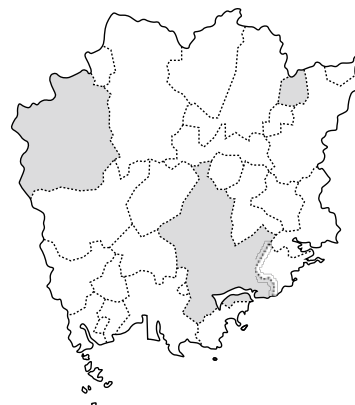
主要文献

Iwatsuki *et al.* (2006)，北村ほか（1961），牧野（2008），大橋ほか編（2017a），大井ほか（1992），大久保（1999）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟



タチハコベ

Arenaria trinervia L.

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

岡山県内では、知られている産地はごく限られており、もともとの個体数も少ない。

存続を脅かす要因

産地局限, 自然遷移

分布状況

県内では、ごく稀に分布する。県外では北海道（中部以南）、本州（北部）、四国、九州に生育し、北半球の温帯に分布する。

生育状況

山地沢沿いの、夏緑樹林の林下や林縁、周辺の岩礫地に生える、軟弱な1年草または越年草。茎は分枝して高さ8～20cm、下向毛を密生する。葉は対生、両面有毛、上部の葉は無柄、卵形～広卵形、基部は楔形から円形、鋭頭。下部の葉は有柄。花は葉腋に単生、萼片は広披針形、鋭尖頭、花弁は白色、倒卵形で萼片より短く、しばしば退化して痕跡的となる。

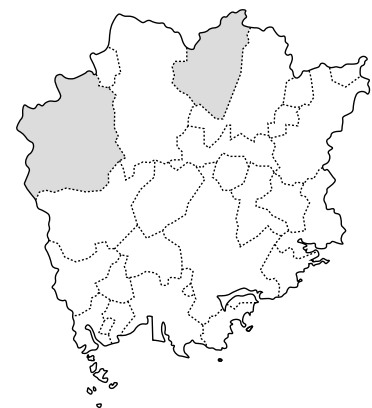
主要文献

Iwatsuki *et al.* (2006), 北村・村田 (1961), 牧野 (2008), 大橋ほか編 (2017a), 大井ほか (1992)

(山下 純・地職 恵)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地、個体数ともに少なく、森林伐採などの環境変化で、容易に絶滅に向かう危険性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

岡山県内では北部に点在して生育する。湿った半日陰を好み、夏緑樹林の林下、林縁で希に見られる。県外では本州（岩手県以南）、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ7～15cmの多年草。茎は直立、紫褐色を帯び、分枝しないか上部で分枝し、1～2列の毛がある。葉は対生し、線状さじ形～卵形、長さ1～5cm、先端は鋭頭。開放花の花期は4～6月。花は白色の5弁花で、上部の葉腋から細い柄を出し単生する。花柄は長さ1～5cm、下向きの屈毛がある。葯は暗赤褐色。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

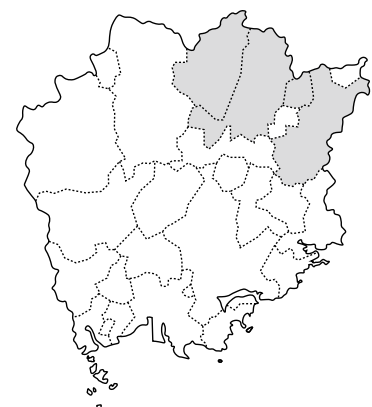
主要文献

畔上 (1996), 大橋ほか編 (2017a)

(地職 恵)



撮影：地職 恵



ワダソウ

Pseudostellaria heterophylla (Miq.) Pax

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともに少なく、存続が懸念される。登山道の拡幅・改修工事や登山者の踏みつけも減少の要因となり、注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限，踏みつけ，森林伐採，その他（登山道の改修）

分布状況

岡山県内では，北部の夏緑樹林の林下，半日陰の草地にごくわずかに生育する。県外では本州（岩手県以南），九州（北部）に分布する。

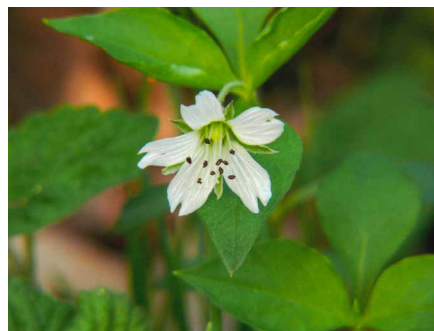
生育状況

高さ5～20cmの多年草。茎は単生して直立し，分枝せず，2列の短毛がある。葉は2形あり，上部2対の葉は広卵形で接近してつくため輪生状に見える。下部の葉は線状へら型で対生する。葉は薄く，下面脈上にまばらな毛がある。開放花の花期は4～5月。径約1cmの白色の5弁花を頂生し，2～9個が散形状につく。花柄は長さ1～2cm，短毛が生える。葯は赤褐色。ワチガイソウによく似るが，本種は上部の葉が輪生状となることと，花卉の先が浅くへこむことが特徴となる。

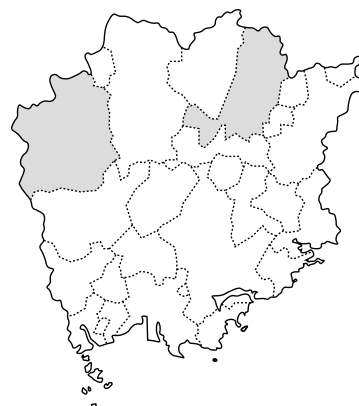
主要文献

畔上（1996），大橋ほか編（2017a）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



ヒメケフシグロ

Silene aprica Turcz. ex Fisch. et C.A.Mey.

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地，個体数ともに多くない。生育地の砂浜が開発されたことにより，生育環境が悪化，減少した。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

岡山県では，南部の海岸や砂浜に生育する。本州（中国地方），四国（香川県），九州（北部，種子島），沖縄の山野や海岸に分布する。

生育状況

海岸の砂浜に生える多年草。基本種のフシグロは林内に生え，高さ60～80cmと大型になるのに対し，本種は30cm内外と小さい。また花期もフシグロが初秋，本種は初夏に咲くなどの違いがある。茎の節の上下だけ黒紫色に染まるのでフシグロと呼ばれるが，フシグロの茎が無毛なのに対して，ヒメケフシグロは萼や茎葉に細毛が密生している。種子はごく小さく，粒状突起がある。

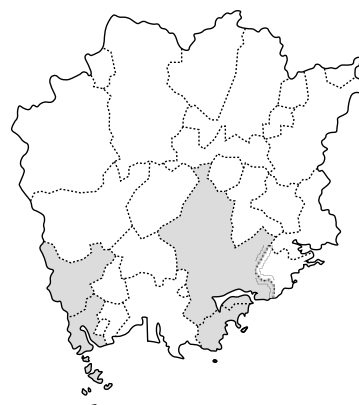
主要文献

狩山ほか（1990），大橋ほか編（2017a），大久保（1999），津坂ほか（2007）

（地職 恵・榎本 敬）



撮影：狩山俊悟



オグラセンノウ*Silene kiusiana* (Makino) H. Ohashi et H. Nakai

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

岡山県内では鯉ヶ窪湿原以外の生育地は絶滅状態で、鯉ヶ窪湿原の個体数はごくわずかである。

存続を脅かす要因

湿地開発，管理放棄，産地局限

分布状況

県内：鯉ヶ窪湿原。県外：本州（広島県北部），九州（大分県，熊本県）

生育状況

山間の湿地に生える多年草。高さ60～100cm，茎には下向きの毛がある。葉は線状披針形，鋭尖頭，両面や縁にまばらに毛があり，無柄で対生する。花期は7～8月。花は2出集散花序に数個つく。花弁は紅色，花弁の腋部は細かく深裂する。

関係法令の指定状況・特記事項

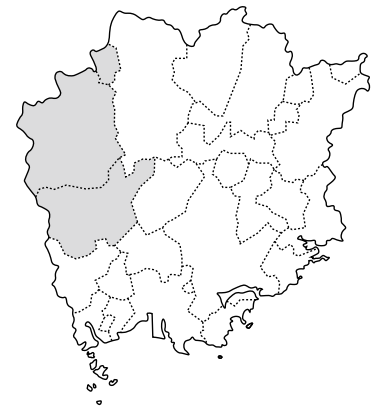
学名の*kiusiana*は九州産のことで，1903年に熊本県の阿蘇で採集された標本に基づき，牧野富太郎氏が基準標本としてオグラセンノウとした。その後岡山県内では1921年小坂弘氏が鯉ヶ窪湿原で採集され，1931年に吉野善介氏により，それがオグラセンノウであることが確認された。自生地である鯉ヶ窪湿原は，昭和54年に国指定天然記念物に指定され，「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域でもある。同地域においては保護すべき種に指定され，採取等が禁止されている。

主要文献

畔上（1996），難波（1993），大橋ほか編（2017a）
（浅井幹夫・地職 恵）



撮影：西本 孝

**オオヤマハコベ***Stellaria monosperma* Buch.-Ham. ex D. Don var. *japonica* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地，個体数ともに少ない。植林地の管理道に生育していたものは，管理放棄によって激減した。登山道脇に生育するのは刈り取られることも多く，近年はシカによると思われる食害も見かけられるようになった。

存続を脅かす要因

森林伐採，動物食害，管理放棄，自然遷移，産地局限，その他（登山道の草刈り）

分布状況

岡山県内では，北部の夏緑樹林や植林地（スギ）の，湿り気のある林下や林縁に生育する。県外では本州（岩手県以南），四国，九州に分布する。

生育状況

高さ40～120cmの多年草。茎は直立し，上部でよく分枝し，腺毛がある。葉は対生し，長楕円状披針形で全縁，ふちは多少波打ち，短柄があり，毛は少ない。花期は8～10月。花は径約1cm，頂生する円錐状の大型の集散花序につき，萼や花柄には腺毛が多い。花弁は5枚で萼より短く，先は2中裂する。蒴果には1個の種子があり，裂開しない。

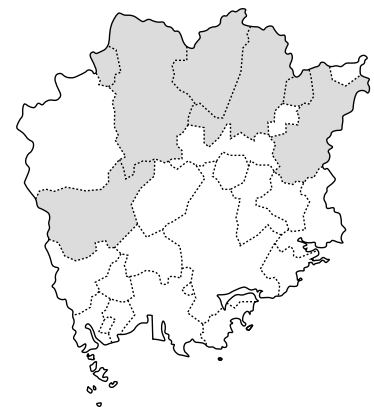
主要文献

畔上（1996），大橋ほか編（2017a）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



イソホウキギ

Kochia littorea (Makino) Makino

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

笠岡湾干拓地造成の頃は干拓地内に大量に生育していたが、現在では海岸にわずかに見られるだけになったため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州、四国、九州の海岸に生育する。岡山県内では南部の干潟や砂浜などの海岸に分布している。

生育状況

一年草で草丈は50～100cm。下部から分枝が多く枝は開出する。葉は互生し、倒皮針形、長さ2～4.5cm、幅3～7cm。基部は次第に細くなり、3脈が目立つ、全縁で両面に褐色の毛があり、やや厚い。果実は5裂の星形。倒卵形で長さ1.5mm、しわのある種子をつける。冬に茎は地際から折れ、植物体全体が風で転がりながら種子を散布する。花期は7～11月。中国原産で栽培されているホウキギは本種の母種に当たる。もう一つの近縁種であるミナトイソボウキは帰化植物であり、県内の記録はない。

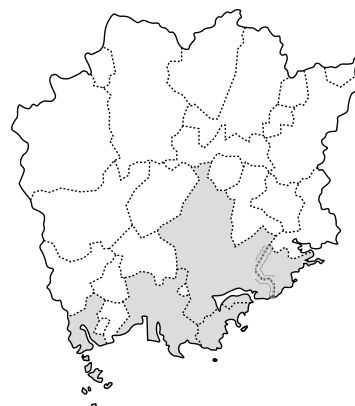
主要文献

榎本 (1998a), 榎本ほか (1987), 狩山ほか (2008), 小島ほか編 (2005), 小島ほか (2000), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編 (1980), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本敬(右)・難波靖司(左)



マルバアカザ

Chenopodium acuminatum Willd. var. *acuminatum*.

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

砂浜が開発され、分布量が少なくなったため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州、四国、九州、沖縄の海岸の砂地に生育する。岡山県南部の砂地の海岸に分布するが、個体数は少ない。

生育状況

一年草。茎はよく分岐し、高さ20～60cm。葉は互生し、有柄で分厚く、下部の葉は卵形で全縁、葉の下面に粉状物が多く、質はやや厚くて長い葉柄があり、上部の葉は長楕円状卵形。狭い円錐状花序を枝につけ、花は密集して穂状につく。種子は黒色で光沢があり、径1mm。近縁種のカワラアカザの葉は狭卵形で、種子の一部が深く湾入しているシロザ、アカザなどの葉は周辺部に切れ込みがある。花期は5～8月。

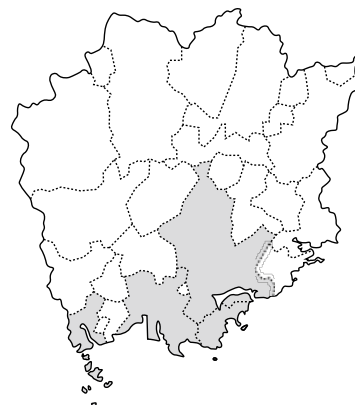
主要文献

榎本 (1998a), 榎本ほか (1987), 狩山ほか (1990), 小島ほか (2005), 小島ほか (2000), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



イワアカザ

Chenopodium gracilispicum H.W.Kung

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

元々の分布量が少ない上、同じ場所で長く存続することが難しいため。

存続を脅かす要因

道路工事

分布状況

本州（中国地方）と九州北部、朝鮮、中国北東部に自生する。岡山県内では中部の石灰岩地帯にわずかに分布が見られる。

生育状況

一年草で茎は斜上し、30～100cm。葉は互生し、三角状卵形か菱状卵形、薄く、全縁で長い柄がある。円錐状花序がまばらにつく。種子は径約1.2mm。やや光沢があり、黒色。果皮と離れにくく、果皮の表面にはしわがある。花期は9～10月。葉の形とまばらにつく。花序の様子で、近縁種と間違えることはない。

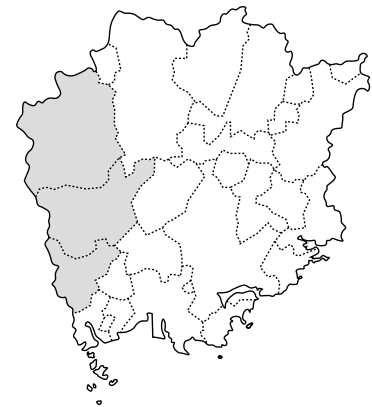
主要文献

難波（1993）、岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編（1980）、大久保（1999）

（榎本 敬）



撮影：狩山俊悟



アッケシソウ

Salicornia perennans Willd.

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

浅口市の干拓地に生育しているが、保護活動がなくなれば、消滅する可能性が高いため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

北海道と四国の瀬戸内海側、朝鮮に分布する。きわめて塩分濃度の高い干潟に生育している。瀬戸内海のもの古い時代に塩を運ぶ北前船による北海道由来という説が有力であったが、2010年、岡山理科大学星野卓二教授のDNA鑑定の結果、韓国のもとの同一種であることが判明した。岡山県内では南部の旧邑久町・旧牛窓町（現瀬戸内市）の塩田跡地と倉敷市の海岸の埋め立て地に生育している。瀬戸内市の塩田跡地の群落は人によって播種されたとの話もある。

生育状況

一年草で高さ10～30cm。茎及び枝は円柱形で肉質。分枝多く、枝、葉ともに対生し、葉は膜質で小型で目立たず、茎を取り巻いている。秋には赤色に紅葉する。種子は長さ1.5mm、だ円形で黒褐色。花期は8～9月。近縁種に帰化植物のカブダチアッケシソウがあるが、多年生植物であり、東京以外での記録はない。

関係法令の指定状況

浅口市の生育地は市指定天然記念物である。

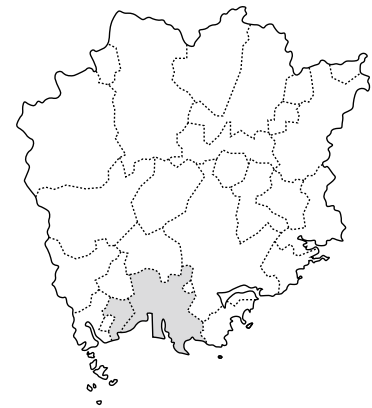
主要文献

榎本（1998a, 1998b）、狩山ほか（1998）、狩山ほか（2001）、狩山ほか（1990）、大久保（1999）、津坂ほか（2007）、Hoshino *et al.*（2010）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



マツナ

Suaeda glauca (Bunge) Bunge

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

干潟が開発され、生育地が減少したため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州、四国、九州に分布し、外国では内陸部にも生育するが、日本では海岸に生育する。岡山県内では主に干潟に生育し、砂浜に生育することもあるが、個体数は少ない。

生育状況

一年草で全株無毛。直立し、高さ40～80cm。秋に赤くなる。葉は密に互生、長さは1～3cm、高さ0.6mmほどの膜質、線形、多肉質であり、茎を取り巻く。花は円錐状花序でまばらにつく。花被片は5個で星形となる。果実、種子とも大小2型がある。大きな果実は径6mm、小さな果実は径3mm。大きな種子は褐色で径3.5mm、種皮が柔らかく、渦巻き状に巻いた子葉の形が見える。小さな種子は黒色で径2.5mm。花期は8～10月。ヒロハマツナは兵庫県と広島県には生育が確認されているが、現在、岡山県では未確認。

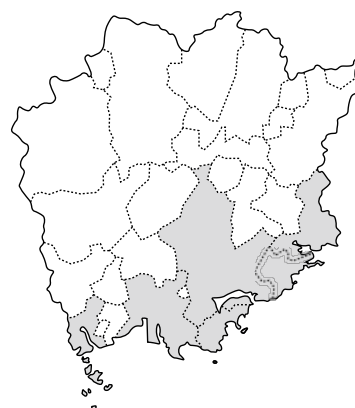
主要文献

榎本 (1998a, 1998b), 榎本ほか (1987), 狩山ほか (2008), 小島ほか (2005), 小島ほか (2000), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編 (1980), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬(右)・難波 靖司(左)



ハママツナ

Suaeda australis (R.Br.) Moq.

被子植物 真正双子葉類 ヒユ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

干潟に生育するが、干潟そのものが開発により大幅に減少しており、その影響を受けているため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

本州、四国、九州に分布する。外国では内陸部にも生育するが日本では海岸部のみに生育する。岡山県内では南部の干潟に生育し、砂浜にはほとんど見られない。

生育状況

一年草で全株無毛。下部から分枝が多く、枝は開出する。葉は密に互生、線形で肉質、幅1mm、長さは1～2cm、初め緑色であるが後に赤褐色となり、下部のものは花時に枯れる。花期は9～11月。種子は径1.5mm、2型あり、黒色でつやがあるのと、褐色でつやがなく子葉の巻いている形が見えることがある。近縁種のマツナとは葉が無柄であることと、茎が斜上することで区別できる。ヒロハマツナは葉の幅が2.5mmあり、現在岡山県では確認できない。

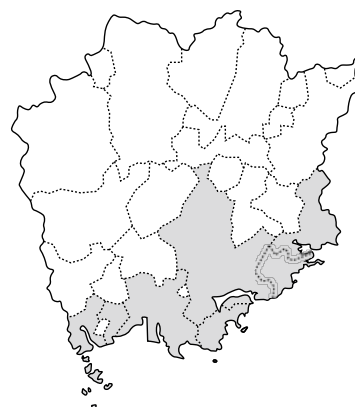
主要文献

榎本 (1998a, 1998b), 榎本ほか (1987), 狩山ほか (2006), 狩山ほか (2008), 小島ほか (2005), 小島ほか (2000), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編 (1980), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本敬(右)・難波靖司(左)



マルミノヤマゴボウ

Phytolacca japonica Makino

被子植物 真正双子葉類 ヤマゴボウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

県北部では、生育環境は比較的安定しているが、個体数は多くない。県中部では30年以上標本が得られておらず、減少傾向にあると考えられる。

存続を脅かす要因

林相変化、森林伐採

分布状況

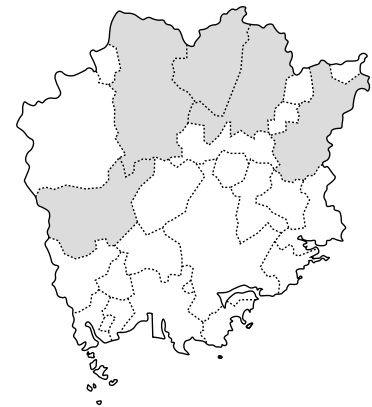
岡山県内では中～北部のやや明るい落葉樹林下にまれに生育する。県中部では高梁市で記録があるが、1987年を最後に標本が得られていない。国内では関東以西の本州、四国、九州に分布。国外では台湾、中国大陸に分布。



撮影：狩山俊悟

生育状況

山地の木陰に生育する高さ1mになる多年草。葉、茎ともに無毛。葉は長さ15～30cm、幅5～16cm、長楕円形または卵状長楕円形でやや尾状に尖る。花期は6～9月で、直立した総状花序に多数の花をつける。花は直径約6mm、淡紅色。心皮は7～10個あり、合着している。液果は直径約8mmの球状、黒紫色に熟す。種子は長さ約3mmの腎円形で黒色、細い同心円状の筋がある。中国原産とされるヤマゴボウ *P. acinosa* は葉の先が尖らず、心皮が離生し、果実は8個の分果となる。北アメリカ原産のヨウシュヤマゴボウ *P. americana* は花序の柄が長く、果期には垂れ下がる。



主要文献

林 (2013), 北村・村田 (1961), 大橋ほか編 (2017a)
(片岡博行)

マルバコウツギ

Deutzia bungeensis Hatus.

被子植物 真正双子葉類 アジサイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における産地は限られており、個体数も少ない。生育地の管理形態や植生遷移により、減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移、管理放棄

分布状況

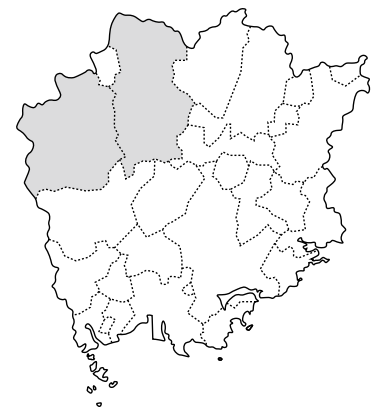
岡山県内での産地は真庭市の蛇紋岩地1カ所のみ知られていたが、2014年に新見市でも発見された。国内においては九州（熊本、大分、宮崎）、本州に分布する。本州においては岡山県のみとされていたが、広島県においても類似のものを確認している（片岡、未発表）ほか、本州中部（愛知、長野）でも類似したウツギが見出されているという（大橋ほか編，2017a）。日本固有。



撮影：片岡博行

生育状況

高さ1.5mほどの落葉小低木。当年枝には星状毛があるが、生育状態によって毛の長さに長短がある。葉は対生、長さ3～6cmの卵形～狭卵形、ほぼ無柄で花序直下の葉などはやや茎を抱くようにつく。葉の両面に4～5枝をもつ星状毛があり、ときに1枝のみ長くなって直立する。花は6～7月ごろ、枝の先に直径7～10mmの5弁の白色花を円すい状につける。果実は花柱が宿存し直径約3mm。



特記事項

真庭市産のもの染色体数は $2n=78$ で、九州産（ $2n=52$ ）とは異なるという。（Niu and Ohba, 2003）

主要文献

Iwatsuki *et al.* (1994), Niu and Ohba (2003), 大橋ほか編 (2017a)
(片岡博行)

ウラジロウツギ

Deutzia maximowicziana Makino

被子植物 真正双子葉類 アジサイ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における生育地は限られており、工事・開発行為などにより生育環境が悪化、あるいは生育地そのものが消滅する可能性がある。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成

分布状況

県内では鏡野町，津山市，美作市など北部～中部に分布する。県外では本州（長野県以西から近畿地方），四国に分布。国外では中国にも分布する。

生育状況

山地の日当たりの良い斜面や崖地などに生える高さ2mほどになる落葉低木。枝はウツギに比べ細く，よく分枝する。若枝は紫褐色で星状毛を密生する。樹皮は古くなると縦に裂けてはがれ灰色。葉は対生し，長さ3.5～8cm，幅2.5～3.5cmの狭卵形から楕円状披針形。葉の表面は緑色で星状毛があり，ざらつく。裏面は細かい星状毛に覆われて灰白色。花期は5月，枝先に狭い円すい花序を出し，白色の5弁花をややまばらにつける。花序や花弁外面，がくにも星状毛がある。果実はおわん型で直径3～3.5mm，花柱が宿存する。

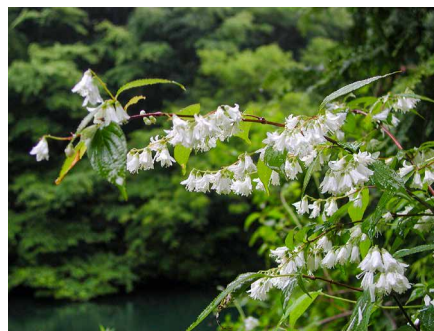
特記事項

岡山県の産地は本州における西限に当たると考えられる。

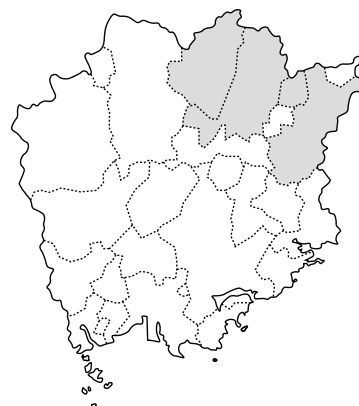
主要文献

茂木ほか（2000b），大橋ほか編（2017a）

（片岡博行）



撮影：狩山俊悟



エゾアジサイ

Hydrangea serrata (Thunb.) Ser. var. *yessoensis* (Koidz.) H.Ohba

被子植物 真正双子葉類 アジサイ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

北海道，本州（北，中），四国の高山，亜高山に分布するものが，隔離分布しているものと思われる。多くは保護下にあつて現状は問題ないが，岡山県内の生育地が西限にあたるため，注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

岡山県内では北部の中国山地で主としてブナ林などの夏緑樹林内に生育する。県外では北海道，本州（北陸地方および福島県以北）に分布するが，岡山県は分布の西限にあたる。

生育状況

主にブナ林などの夏緑樹林内に生育する夏緑性低木。ヤマアジサイよりも全体的に大形で，葉が大きく，花序の直径も倍近くになることにより区別される。葉は対生で，葉身は長さ10～17cm，幅6～10cm，広卵形で先は鋭くとがる。縁にはやや大きな鋸歯がある。花は枝先に直径10～17mmの散房花序をつけ，装飾花は青色が多く，直径2.5～4cm。花期は6～8月。日本海側に広く分布することから，多雪環境に適応して葉が大型化した種と考えられている。分布の西限にあたる県内では，次第に葉が小さくなり，ヤマアジサイとの境界域では区分はむずかしくなる。

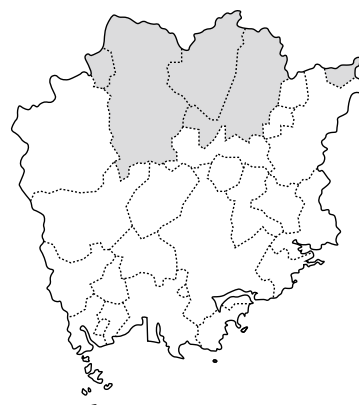
主要文献

大橋ほか編（2017a），大久保（1999），佐竹ほか（1989）

（西本 孝）



撮影：西本 孝



ハマヒサカキ

Eurya emarginata (Thunb.) Makino

被子植物 真正双子葉類 モッコク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

2003年発行の岡山県版レッドデータブックでは野生絶滅種とされたが、2005年に新たな自生地が玉野市で1カ所発見された。さらに2016年には笠岡市で1株が見つかった。いずれも個体数がわずかであり、護岸工事等が容易に行われる場所でもあるので、保護にあたっては十分な配慮が必要である。

存続を脅かす要因

海岸開発，産地局限

分布状況

岡山県では3カ所の自生地が知られる。うち1カ所では近年自生が認められず、絶滅したと考えられている。もう2カ所は現存しているが、狭い範囲に少数個体が生育しているだけで、これ以上自生環境に変更が加えられないよう、十分見守る必要がある。本州（中南部）、四国、九州、琉球に分布し、海岸付近に広く分布する。

生育状況

高さ6mになる常緑小高木。若枝に短毛を密生する。葉は互生、葉身は倒卵形で長さ2～4cm、ふちは少し裏面に巻き込む。雌雄別株。花は葉の付け根につき、淡黄緑色。果実は球形で直径約5mm、黒紫色に熟す。同属のヒサカキは葉身がだ円形から長だ円形、若枝は無毛またはわずかに毛を散生する程度であることで区別できる。

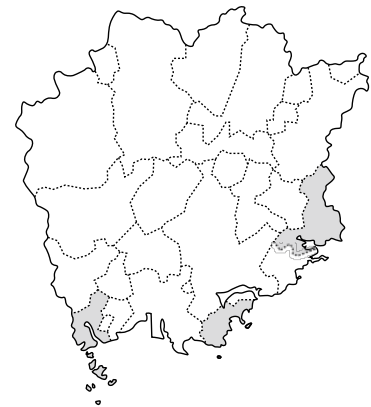
主要文献

北村・村田（1979）、大橋ほか編（2017a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



リュウキュウコザクラ

Androsace umbellata (Lour.) Merr.

被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県下においては集団数、個体数ともにきわめて少ない。地域によっては絶滅したと考えられ、危機的な状況にある。

存続を脅かす要因

産地局限，自然遷移，管理放棄，業者・マニア採取

分布状況

岡山県では二次林林縁部に生える。近年の記録は北部（新見市）のみ。南部（岡山市）では1964年の標本を最後に採集されておらず、生育に関する情報も得られていないことから絶滅した可能性が高い。国内では、本州（中国地方）、四国、九州、琉球に分布する。

生育状況

高さ3～10cmになる一年草または越年草。葉は根ぎわに多数つき、卵円形で長さ幅とも3～15mm、3角形の鈍い歯牙がある。葉柄は長さ2～20mm程度。花期は4～5月、1～13本の花茎を根元から叢生する。1本の花茎には3～8個の花がつき、散形花序となる。花茎、花柄、がくにはやわらかい開出毛がまばらに生える。がくは杯形、基部まで深く5裂する。がく裂片は卵形で平開し、花時に長さ3～4mm、果時には5～6mmになる。花冠は白色、径4～5mm、5裂して高杯形。果実は径約4mmの球形で、上部のみ5裂する。海近くの乾いた草地など、日当たりがよく草丈の低い場所に生育するとされ、岡山県では二次林林縁部に生育する。

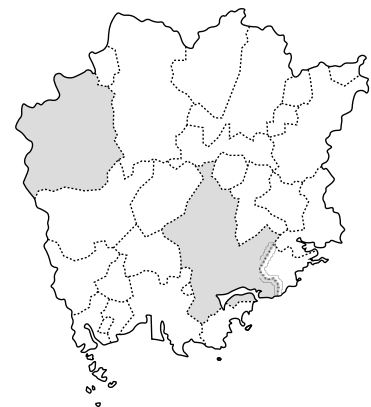
主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017a）

（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



オオツルコウジ

Ardisia walkeri Y.P.Yang

被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

現在知られている生育地は1カ所のみで、集団数、個体数ともわずかである。墓地の整理で個体数をかなり減らしたうえに、生育地一帯の過剰な清掃活動により、絶滅状態になっている。

存続を脅かす要因

産地局限、その他（墓地造成や整理・改修、生育地一帯の過剰な清掃活動）

分布状況

岡山県内では南部の丘陵地にのみ知られ、社寺林の樹下に生育する。国内では本州（千葉県以西）、伊豆諸島、九州、南西諸島北部に分布するが、その多くの都県で絶滅危惧とされている。

生育状況

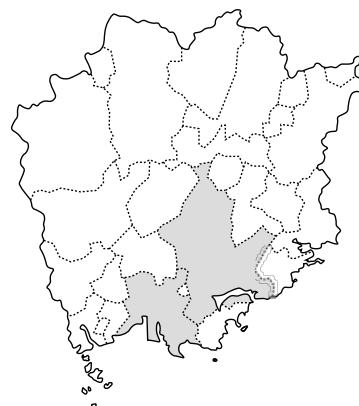
高さ10～30cmの常緑小低木。匍匐茎は長く、ときに分枝して葉はつかない。茎や葉柄、花柄に微少な粒状の毛と長毛がある。葉は互生、茎の上部の2～3節に3～4枚が輪生状につく。葉身は長だ円形から倒卵状長だ円形、長さ5～13cm、革質でふちに粗い鋭鋸歯がある。花期は5～7月、径6～8mmの白色の両性花をつける。果実は球形で赤熟し、径5～6mm。ヤブコウジとツルコウジの中間的な性質をもち、両種の雑種とも考えられている。

主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）
（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



タイミンタチバナ

Myrsine seguinii H.Lév.

被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

現状では生育は比較的安定していると思われるが、生育地は少なく、森林伐採などによる生育環境の変化には注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

岡山県内では南部の沿岸部、島しょ部の山地に分布し、岩上などに生育している。国内では千葉県以西の本州、四国、九州、沖縄に分布。国外では台湾、中国、ベトナム、ミャンマーに分布。

生育状況

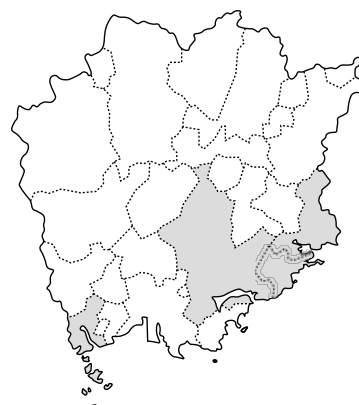
常緑の大型低木または小高木。高さ10mほどにもなるというが、岡山県下ではそこまでの大きな個体は見られない。若枝は無毛、葉柄とともに暗紫色を帯びる。葉は互生、やや枝先に集まってつき、質は厚く無毛で全縁、長さ5～12cm、幅1～2.5cmの線状長楕円形～倒披針形、基部は鋭形。葉の表面は光沢のある濃緑色で、中脈が表面でへこみ、淡緑色の裏側に隆起する。花期は3～4月、雌雄異株で前年の葉腋に多数の淡緑白色の小花を束生する。晩秋に直径5～7mmの球形の果実が黒紫色に熟れる。

主要文献

北村・村田（1971）、難波（1993）、大橋ほか編（2017a）、大久保（1999）
（片岡博行・榎本 敬）



撮影：狩山俊悟



クリンソウ

Primula japonica A.Gray

被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

現在、県内の確実な自生地は2カ所のみ。生育地、個体数ともに極めて少ないうえ、生育地の開発や植林、園芸目的での採取など、様々な絶滅リスクにさらされており、危機的な状況にある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、林相変化（針葉樹転換）、湿地開発、河川開発、道路工事、管理放棄、自然遷移

分布状況

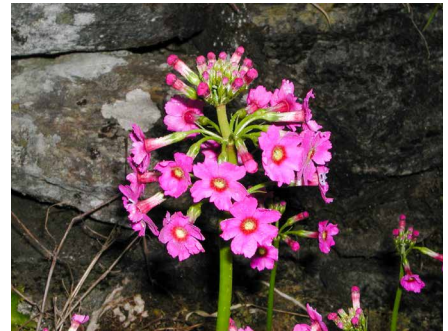
岡山県では近年は確実な生育情報がなかったが、2014年、2018年に県北部の2地域で生育が確認された。国内では北海道、本州、四国に分布する。古くから栽培され、いくつかの園芸品種がある。日本固有。

生育状況

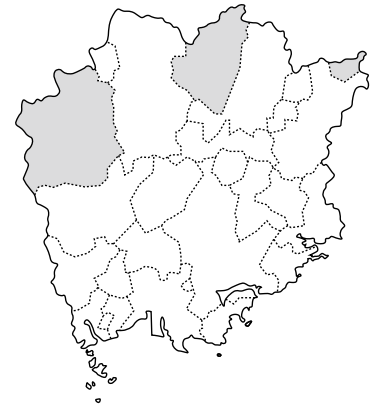
山地の湿地や谷沿いの湿った場所に生える多年草。葉は大型で根ぎわに群生して倒卵状長円形、長さ15～40cm、幅5～13cmで表面にしわが多い。基部はしだいに細くなって柄状となる。花期は5～6月、高さ40～80cmの花茎上部に2～5段に輪生して多数の花をつける。がくは狭い杯形で、花時に長さ6～8mm、果時には7～10mmとなって、1/3ほどまで5裂する。花冠は紅紫色で径2～2.5cm、筒部はやや細く、長さ15～17mm、裂片は開出する。果実は径約7mmの球形で、がく裂片とほぼ同長。

主要文献

加藤ほか編（2011）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017a）
（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



サクラソウ

Primula sieboldii E.Morren

被子植物 真正双子葉類 サクラソウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地である半自然草地の管理停止などにより減少。残存する集団も分断・孤立化が進み、地域個体群の維持が困難な状況にある。

存続を脅かす要因

管理放棄、草地開発、湿地開発、業者・マニア採取（園芸採取）、その他（遺伝子汚染）

分布状況

岡山県内では真庭市、新見市、高梁市に分布するが、真庭市以外の集団はほぼ壊滅状態。国内では北海道南部、本州、九州に分布。

生育状況

日当たりの良い山麓や川岸の湿った草地にはえる多年草。全体に縮れた長い白色毛がある。葉は根元に集まってつき、長い柄がある。葉身は長さ4～10cm、幅3～6cmの楕円形でしわが多く、ふちは浅く切れ込む。4～5月頃、高さ15～40cmの花茎の先に紅紫色の花を散形に数個～十数個つける。花は雄しべと雌しべの位置が異なる2つのタイプがあり（異型花柱性）、異なるタイプの花同士で受粉しないと種子はできない。江戸時代から盛んに栽培され、多くの園芸品種がある。

関係法令の指定状況

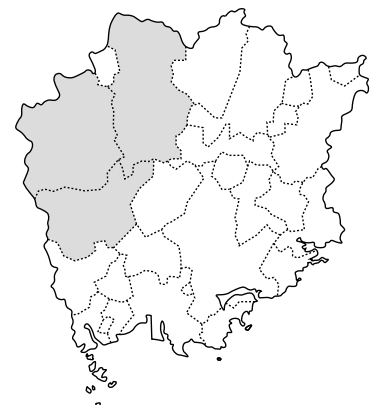
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。また「岡山県希少野生動植物保護条例」に基づく指定希少野生動植物に指定されている。

主要文献

林（2013）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017a）、鷺谷（2006）
（片岡博行）



撮影：片岡博行



クロキ

Symplocos kuroki Nagam.

被子植物 真正双子葉類 ハイノキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では2008年に初めて生育が確認された。産地は1カ所で、わずか4本の若木が生育するのみである。木の高さは大きいもので約2mである。

存続を脅かす要因

森林伐採

分布状況

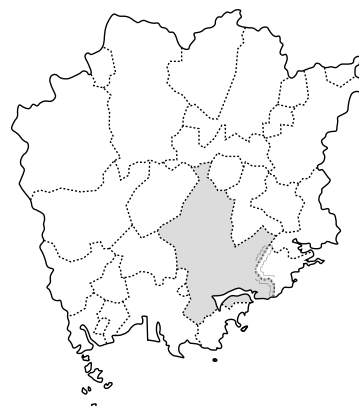
岡山県南部の岡山市東区瀬戸町（万富）に1カ所のみ見られる。国内では本州（房総半島以西，鳥取県以西），四国，九州（トカラ列島）に分布する。隣接する広島県では沿岸部や島嶼部に普通に分布しているが，吉備高原面ではほとんど見られない。



撮影：狩山俊悟

生育状況

暖地の海岸近くの照葉樹林に生える常緑小高木である。若枝は淡黄緑色，無毛で稜がある。葉は楕円形または長楕円形，長さ4～7cm，幅2～3.5cm，上部にまばらな波状の低鋸歯があり，先端は鈍頭または鋭頭となる。花は白色で，3～4月ごろ葉腋に集まってつく。果実は長楕円形，長さ10から15mm，黒く熟する。



主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，奥田ほか(1997)，大橋ほか編(2017a)

(太田 謙・小畠裕子)

ハイノキ

Symplocos myrtaea Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 ハイノキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

神社などに残存する社叢の照葉樹林下に生育する低木であり，生育地が限られるため，希少性が高い。さらに，岡山県内の生育地が本種の分布の北限にあたっているため貴重である。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

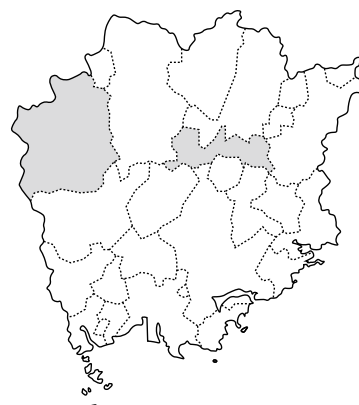
県内では中部を中心に分布が確認されている。国内では本州（近畿地方以西），四国，九州（屋久島まで）に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

暖地の照葉樹林内に生える常緑の高木で，大きなものは樹高5～10m程度になる。葉は互生し，卵形または狭卵形，やや薄い革質で両面とも無毛で長さ4～7cmとなる。葉の基部は円形で，先端は著しく尾状に伸長し，鈍端となる。花は白色で，散房状，直径1.2cmとなり，3～6個がまばらにつく。花期は4～5月である。果実は核果で，長さ7～8mm，紫黒色に熟する。



特記事項

岡山県内の生育地は分布の北限にあたる。

主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，奥田ほか(1997)，大橋ほか編(2017a)

(太田 謙・西本 孝)

アサガラ

Pterostyrax corymbosus Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 エゴノキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

溪流周辺などの湿り気の多い夏緑樹林下で生育する植物であり、植林や道路の拡幅などにより生育地が失われており、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限、道路工事

分布状況

県内では高梁市や吉備中央町などの北中部に散在している。近縁種のオオバアサガラは北中部では普通に見られるのに対して、本種は分布が限定される。国内では本州（近畿以西）、四国、九州の冷温帯の谷沿いに分布する。



撮影：狩山俊悟

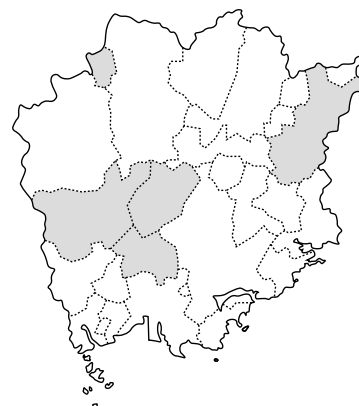
生育状況

落葉小高木。若枝に細かい星状毛がある。幹は灰褐色。枝の髄は褐色。葉は互生し、広楕円形から倒卵形で先端が急に鋭くとがり、基部は円形から広くさび形。葉の縁に細かい鋸歯があり、表裏両面に小さい星状毛が散生する。葉脈は5～8対。花は初夏、枝先に複総状花序を垂れ、白花をつける。花びらは5深裂する。おしべは10個で、外側の5個が長く、黄色の葯が目立つ。めしべは中央部に1個。果実は秋に実り、5翼があり、短毛を密生している。よく似ているオオバアサガラは、果実に10稜があり長毛を密生し、葉が大きく、葉の裏は白いことなどで区別される。

主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）

（西本 孝）



ミヤマホツツジ

Elliottia bracteata (Maxim.) Hook.f.

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

1958年、真庭市で採集された標本が岡山県自然保護センターにある。しかし、その後の確かな生育情報がなく、現状不明である。

分布状況

岡山県では中国山地の山頂付近に生育していたが、近年確かな生育情報がない。北海道、本州（北中部、鳥取県大山）に分布し、高山の日当たりの良い低木林や草地に生える。

生育状況

高さ30～50cmになる夏緑性小低木。枝はよく分枝し、若枝は無毛。葉は倒卵形で長さ3～6cm、幅12～30mm、両面とも無毛で先は円く、縁に鋸歯がない。花は7～8月に咲き、枝先に総状花序を伸ばして、3～20個の花をまばらにつける。花弁は3枚で緑白色、長さ約1cmで反り返る。花柱は長さ約9mm、先が上にひどくまがる。果実は偏球形で径約5mm。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

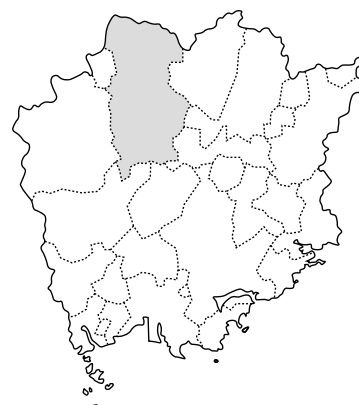
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



シラタマノキ

Gaultheria pyroloides Hook.f. et Thomson ex Miq.

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

中国山地の高所に2カ所知られるが、個体数はきわめて少なく、減少要因がわずかに加わるだけで絶滅が心配される。

存続を脅かす要因

自然遷移、業者・マニア採取（園芸採取）、産地局限、その他（登山道の草刈り）

分布状況

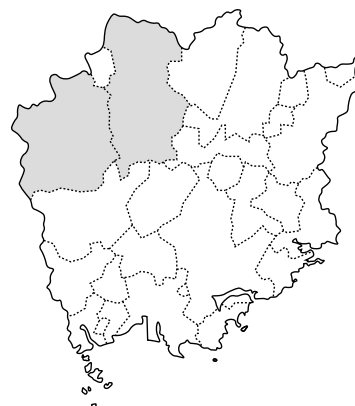
岡山県北部の高所にあり、半自然草地に生える。北海道、本州（中部地方以北、鳥取県、広島県）に分布し、高山の日当たりの良い岩地や草地に生える。



撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ10～20cmになる常緑小低木。茎の下部は地をはい、枝は細く分枝する。葉はだ円形で長さ1.5～2.5cm、幅8～20mm、先は円く、下面は緑白色。花は7～8月に咲き、茎の上部の葉腋や枝の先から総状花序を出し、2～6個の花をつける。花は白色でつぼ形、長さ約6mm。果実は球形で径約1cm、白色でときに淡紅色を帯びることがある。サロメチールに似た独特の香りがある。



関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）

（狩山俊悟）

ホンシャクナゲ

Rhododendron japonoheptamerum Kitam. var. *hondoense* (Nakai) Kitam.

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

集団数、個体数ともにそれほど少ないわけではないが、園芸用に掘り採られることが多く、しだいに減少している。

存続を脅かす要因

ダム建設、業者・マニア採取

分布状況

岡山県北部にあり、渓谷あるいは山地の岩上に生える。本州（新潟県西部以西）、四国（中北部）に分布する。



撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ4mに達する常緑低木。枝は太く、直立するかまたは下部はまがって地につく。葉は互生するが、枝先に集まっているので輪生状に見える。葉は革質で長さ10～15cm、倒披針形から狭長だ円形、縁に鋸歯はない。下面には密着した毛が一面にあって銀白色から淡褐色となる。花は4～5月に咲き、枝先の花芽から短い総状花序を出し、多数の花をつける。花は紅紫色で径5cm前後、漏斗形に広く開き、7裂、雄しべは14本。果実は円柱形で長さ14～20mm。

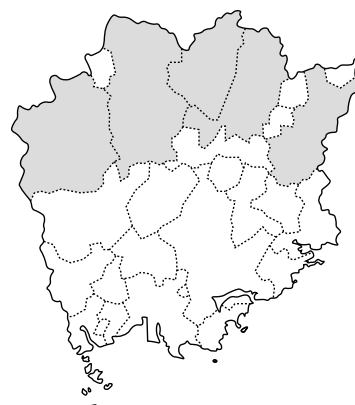
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）

（狩山俊悟）



ゲンカイツツジ*Rhododendron mucronulatum* Turcz. var. *ciliatum* Nakai

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：留意 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県を分布の東限とする植物であり、これ以上、集団数、個体数が減少しないよう、推移を注意深く見守る必要がある。

存続を脅かす要因

道路工事、業者・マニア採取

分布状況

岡山県下一円に点在し、日当たりの良い岩角地や二次林内に群生する。国内では本州（中国地方）、四国（北部）、九州（北部）に分布し、山地の岩場に生える。大陸系の植物で、岡山県を分布の東限とする。

生育状況

高さ1～2mになる夏緑性低木。よく分枝し、若枝には赤褐色で円形の鱗状毛が多く、白色の長毛が散生する。葉は互生、だ円形で長さ2.5～6.5cm、幅1.5～3cm、両面に円形の鱗状毛があり、両面や縁に毛がある。花は3～4月、葉に先だって咲く。花冠は紅紫色、広漏斗状、径約3～4cm、深く5裂する。果実は円柱形、長さ約15mm、幅4～5mm、円形の鱗状毛が密生する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

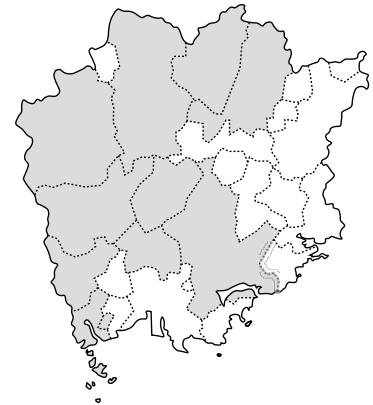
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017a）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟

**キシツツジ***Rhododendron ripense* Makino

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育環境が限定されている。河川に沿った道路拡張工事の影響を受けやすい。環境が失われれば、他の溪流沿いの種もともに危機に瀕することになる。岡山県は本種の分布東限にあたる。

存続を脅かす要因

河川改修、道路工事、ダム建設

分布状況

県内：北部、中部。分布東限にあたる。
県外：本州（岡山県・島根県以西）、四国、九州（大分県）。

生育状況

川幅のある明るい川岸で、堆積岩からなる溪流帯（水の増減によって浸水を繰り返す範囲）上部の岩盤に生じる溪流沿いの植物（rheophyte）である。半常緑性の低木で、よく分枝し、小枝と葉柄には斜上する長毛が密生し、少量の腺毛が混じる。葉は披針形から倒披針形、夏に出た葉の一部は越冬する。花冠は淡紅紫色、5裂し、上裂片の内面に暗紫色の斑点がある。雄しべは約10本。近縁のモチツツジは陸域に生じ、雄しべが約5本である。

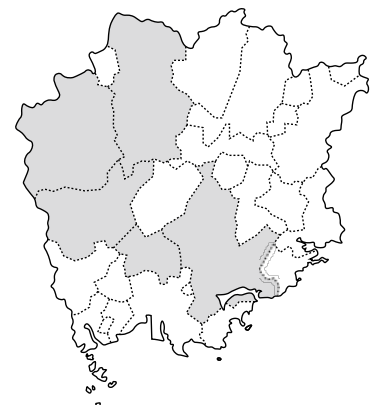
主要文献

Iwatsuki *et al.* (eds.) (1993)、北村・村田（1971）、牧野（2008）、大橋ほか編（2017a）、大井（1992）

（山下 純）



撮影：狩山俊悟



アラゲナツハゼ

Vaccinium ciliatum Thunb.

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では中国山地の1カ所に生育地が知られるのみで、不用意に森林伐採や登山道の整備を行うと絶滅してしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, その他(登山道の整備・拡充)

分布状況

岡山県では中国山地のごく狭い範囲に分布し、日当たりのよい低木林に生育している。本州(福井県西部以西の日本海側), 九州(北部)に分布し、山地の林縁に生える。

生育状況

高さ2mになる落葉低木。若枝には粗い毛が密生する。葉は互生、葉身は広だ円形、長さ4~9cm、葉裏は全面に粗い毛が密生し、ふちは鋸歯がない。花は5~6月に咲き、両性、花序は枝先につき、白色の花を下向きに多数つける。果実は球形、径約7mm、濃い青色に熟す。同属のナツハゼは、葉縁に太い腺毛があり、細かな鋸歯があるように見える。

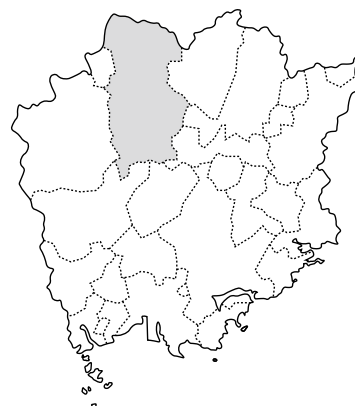
主要文献

北村・村田(1971), 大橋ほか編(2017a)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



コケモモ

Vaccinium vitis-idaea L.

被子植物 真正双子葉類 ツツジ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

1968年に真庭市で採集された標本が残されているが、その後の標本や記録がない。

分布状況

岡山県では中国山地の山頂付近に分布し、半自然草原に生えていた。国内では、北海道、本州(高山), 四国(高山), 九州(高山)に分布し、西日本では希である。高山の草地や岩上、ハイマツの林床などに生えるが、北地では海岸砂丘上あるいは酸性湿原に生えることもある。

生育状況

高さ5~20cmになる常緑小低木。茎は基部が地面をはい、上部は斜上、曲がった短毛が多い。葉は互生し、倒卵状長だ円形、長さ8~25mm、下面に黒点を散在する。花は6~7月に咲き、前年の枝先に総状花序をつける。花冠は鐘形、長さ6~7mm、白色で淡紅色を帯び、下向きに開く。果実は球形、径5~7mm、紅色に熟する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

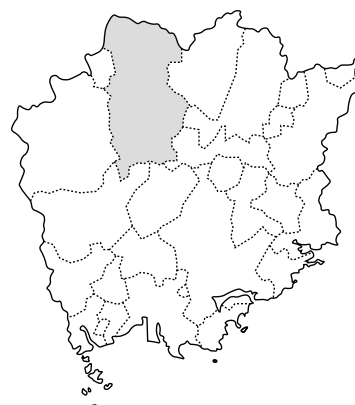
主要文献

北村・村田(1971), 大橋ほか編(2017a)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



ナガバジュズネノキ*Damnacanthus giganteus* (Makino) Nakai

被子植物 真正双子葉類 アカネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内で自生が知られているのは社寺林の1カ所のみである。かつて社寺林に生育する高木の一部が社殿を壊す恐れがあるとして伐採されたことがある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

岡山県では中部の1カ所にのみ分布し, 社寺背後の常緑樹林内に生える。国内では本州(近畿地方以西), 四国, 九州に分布し, 林内に生える。



撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ2mになる常緑低木。若い枝は曲がった短剛毛が密生する。とげは葉に十字対生するように出て, 長さ0.5～5mm。葉は対生, 葉身は長だ円形, 長さ6～14cm, 幅2～4.5cm。葉柄は長さ1～4mm。花期は5月。花は両性, 葉の付け根に2個ずつつき, 白色。果実は球形, 直径3～5mm, 赤色に熟す。

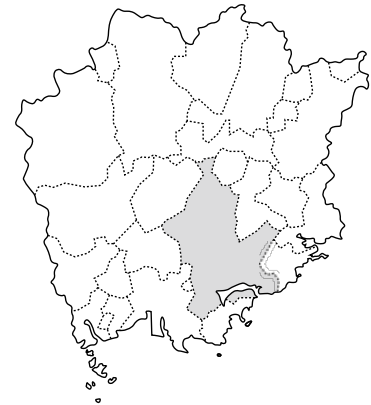
特記事項

自生地は岡山県の郷土記念物に指定されている。

主要文献

北村・村田(1971), 大橋ほか編(2017a)

(狩山俊悟)

**オオバノヨツバムグラ***Galium kamtschaticum* Steller ex Roem. et Schult. var. *acutifolium* H.Hara

被子植物 真正双子葉類 アカネ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

北海道, 本州, 四国の亜高山帯に分布するものが, 隔離分布しているものと思われるが, 生育地は登山道脇などの不安定な場所で, 踏みつけや, 管理されずササ原になるなどして, 今後の生育が危ぶまれている。

存続を脅かす要因

産地局限, 踏みつけ, その他(登山道の整備・拡充)

分布状況

県内：北部山地の一部の頂上付近に分布する。県外：南千島, 北海道, 本州, 四国の亜高山の針葉樹林中に分布する。



撮影：西本 孝

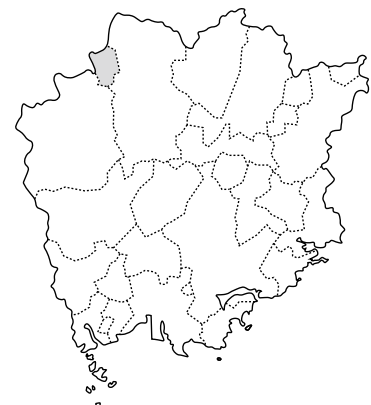
生育状況

亜高山の林内や草地に生える多年草で, 茎は直立して高さ30cm前後になり, 無毛。楕円形の葉が4枚輪生し, 縁と両面の脈状に剛毛があり, 3本の脈がはっきり見える。茎頂と上部の葉腋から出る花茎に, 黄緑を帯びた白い小さい花をまばらにつける。花は4裂し, 花期は6～7月。

主要文献

大橋ほか編(2017a), 大久保(1999)

(西本 孝, 森定 伸)



ミヤマムグラ

Galium paradoxum Maxim. subsp. *franchetianum* Ehrend. et Schönb.-Tem.

被子植物 真正双子葉類 アカネ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が北部の夏緑広葉樹林内に限定されていることと、登山道の整備などによって生育地が攪乱を受けて減少している。

存続を脅かす要因

産地局限, その他 (登山道の整備・拡充)

分布状況

県内：北部の中国山地の林内でわずかに見られる。県外：北海道～九州に分布する。

生育状況

暗い林内に生える多年草で、高さ10～20cmになり直立して茎は無毛。輪生する4枚の葉は相対する葉が2枚ずつ大小のセットになっている。葉は卵形で先はとがり、葉柄があって、縁と縁近くの表面に短い剛毛がある。7月、茎頂に短い花序が出て白色の花がまばらに咲く。花は4裂し、径2mmで小さい。

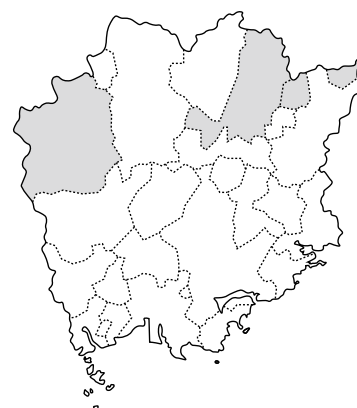
主要文献

大橋ほか編 (2017a), 大久保 (1999)

(西本 孝・森定 伸)



撮影：狩山俊悟



ヤマトグサ

Theligonum japonicum Okubo et Makino

被子植物 真正双子葉類 アカネ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県で生育しているのは1カ所のみで、面積的にも狭く、個体数も少ないため危機的な状況となっている。また、比較的地味な見た目であるため、登山者の踏みつけも脅威となる。

存続を脅かす要因

森林伐採, 踏みつけ, 業者・マニア採集 (園芸採取), 産地局限

分布状況

県内では北部の2カ所で標本採集記録があるが、現在確認できるのは自然林の林下に生育する1カ所のみである。県外では本州 (茨城県, 秋田県以南), 四国, 九州に分布する。

生育状況

山中の樹林の林床に生える多年草で、高さ15～30cmになる。茎は丸く一側に短毛があり、下部でまばらに分枝する。葉は対生、卵形または狭卵形で長さ1～3cm, 幅8～20mm, まばらに短毛があり、縁には鋸歯がない。葉柄の基部に膜質の托葉があり、1～2個の雄花または雌花をつける。花期は5月。雄花に花弁はなく、萼片3個は反り返り、雄蕊は多数つき、葯は垂れ下がる。雌花にも花弁はなく、緑色で非常に小さく、湾曲した花柱が目立つ。花がないとアカネ科のハシカグサと区別するのが難しい。

特記事項

明治20年に、牧野富太郎が日本人として初めて学名をつけた記念すべき植物であり、日本の特産種でもある。

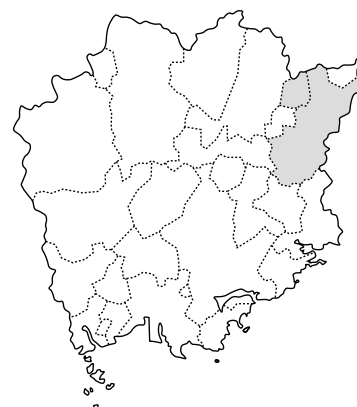
主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2017a)

(太田 謙・地職 恵)



撮影：地職 恵



コケリンドウ*Gentiana squarrosa* Ledeb.

被子植物 真正双子葉類 リンドウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少なく、生育できる環境が著しく減少している。小型の植物なので、大型の植物が繁茂すればすぐに消滅してしまう。

存続を脅かす要因

草地開発、自然遷移、産地局限

分布状況

県内では、南部と北部からの報告があるが極めて少ない。1997年に、岡山市三野浄水場の芝生の中で発見された。県外では、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

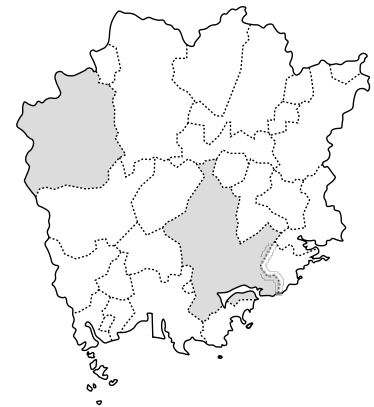
日当たりのよい原野の半裸地に生える越年草。茎は高さ3～10cmでよく分枝して茂り、長さ3～25mm、狭菱形～卵状菱形の根生葉がロゼット状になる。茎葉は小さい。枝先に長さ1～1.5cmの小さな淡青紫色の花をつける。花期は3～6月。類似のフデリンドウは萼裂片が直立するが、本種は開出かやや反る。

主要文献

北村・村田(1957)、小島ほか(2005)、大橋ほか編(2017a)
(小島裕子・地職 恵)



撮影：小島辰三

**ムラサキセンブリ***Swertia pseudochinensis* H.Hara

被子植物 真正双子葉類 リンドウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

全国的にも減少傾向の激しい草地生植物で、県内でも生育地の減少と共に、個体数の減少が著しい。

存続を脅かす要因

自然遷移、草地開発、管理放棄、道路工事

分布状況

県内では、低地から山地の日当たりの良い草地に点在し、分布域がやや東部にある。県外では、北海道(北西部)、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

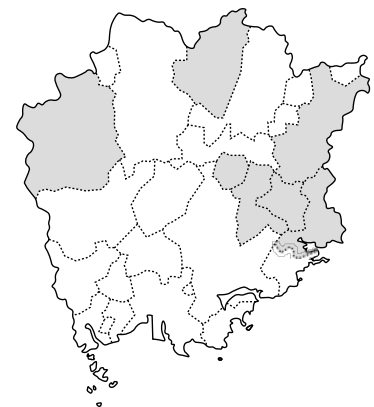
茎は太く暗紫色をおび、高さ50～70cmになるものがある越年草。茎は4稜があり、稜上には隆起する細点がある。葉は線状披針形で長さ2～5cm、やや密に対生する。花期は10～11月。花は淡紫色、花冠裂片は幅広く、長さ8～12mm。濃紫色の脈があり、蜜線溝の毛にはイヌセンブリ同様の波状隆起がある。茎葉にはセンブリと同様の苦味がある。

主要文献

狩山ほか(2001, 2006)、大橋ほか編(2017a)
(小島裕子・地職 恵)



撮影：西本 孝



イヌセンブリ

Swertia tosaensis Makino

被子植物 真正双子葉類 リンドウ科 ●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

全国的に減少傾向にある低湿地の植物で、生育地の環境変化により、岡山県でも個体数が減少している。生育地は少なくないが、その環境が維持されているところは少ない。

存続を脅かす要因

自然遷移、湿地開発、池沼開発

分布状況

県内では広く点在し、山野の湿地や、ため池周辺の湿った草地などで見られる。県外では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ10～35cmの越年草で、茎はしばしば基部から分枝する。根出葉はないかあり、時にロゼット状をなす。茎葉は倒披針形、長さ2～5cmで先は鈍い。花期は10～11月。花冠は白色で淡紫色の条があり、径15mm、5深裂し、基部に2個の蜜腺溝があり、まわりに長い毛がある。毛には顕微鏡下で波状隆起が見える。全草に苦味はない。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

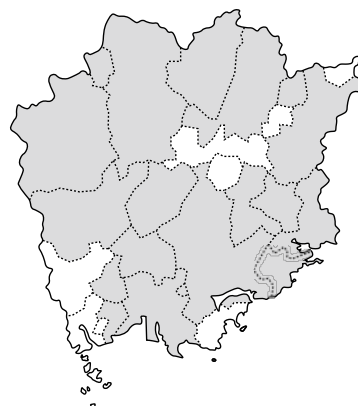
主要文献

狩山ほか(2001, 2006, 2008), 片岡ほか(2005), 小島ほか(2005), 大橋ほか編(2017a)

(小島裕子・地職 恵)



撮影：西本 孝



チョウジソウ

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

限られた環境に生育し、もともとの個体数も少なく、園芸採取と生育環境の悪化により、減少している。

存続を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、自然遷移、業者・マニア採取

分布状況

県内では中部、南部のため池の岸辺や、その周辺に生育するが少なく。県外では北海道、本州、九州に分布する。

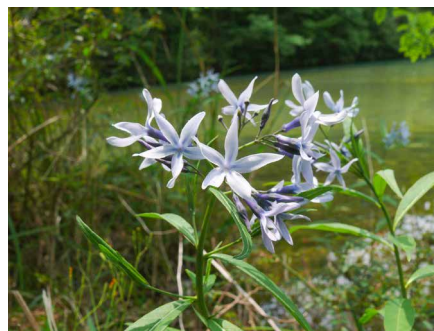
生育状況

川岸や原野のやや湿った草地に生える多年草。茎は直立し、高さ40～80cm。葉は披針形で先は鋭く尖り、長さ6～10cm、幅1～2cm、無毛。普通は互生するが、時に一部対生する。花期は5～6月、茎頂にやや多数の花を集散状につける。花冠は高杯状で青藍色、径約13mm、裂片は狭長楕円形で平開する。果実は長さ5～6cm、二股になった細長いさや状になる。茶花用として栽培もされる。栽培は容易で、地下茎で増える。

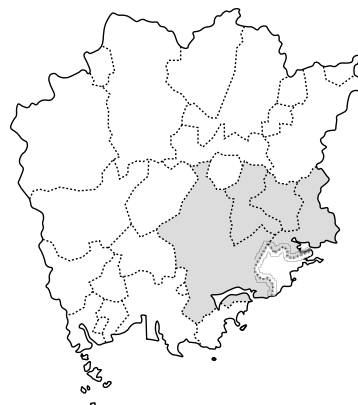
主要文献

狩山ほか(2001, 2006), 大橋ほか編(2017a), 大久保(1999)

(小島裕子・地職 恵)



撮影：地職 恵



サカキカズラ*Anodendron affine* (Hook. et Arn.) Druce

被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内で確認されている生育地は1カ所のみで、個体数も極めて少ない。生育環境や周辺の管理形態のわずかな変化で減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、その他（周辺の管理作業、他のつる植物との競合）

分布状況

県内では2008年に笠岡市の無人島で数株が確認された。県外では本州（千葉県以西）、四国、九州、沖縄に分布。国外では台湾、中国、インドに分布。

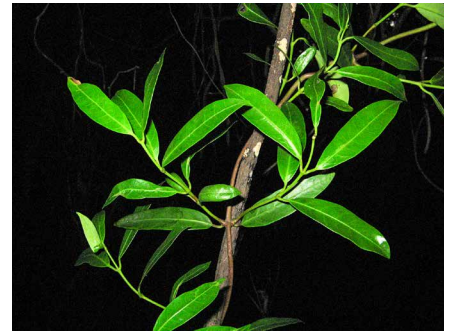
生育状況

海岸近くの山野に生育する常緑のつる性木本。全株無毛。葉は対生し長楕円形で、長さ5～10cm、幅1～3cm、葉柄は長さ1～1.5cm、全縁で革質、光沢がある。花期は4～6月、枝先の集散花序に淡黄色の花をつける。花冠の先は径8～10mmで5深裂し、裂片はらせん状にねじれる。袋果は円柱状披針形で長さ8～12cm、太さ1.3～1.5cm。2個の袋果が左右水平につく。種子は褐色で長さ1.5cmほど、長さ3cmほどの白い冠毛がつく。

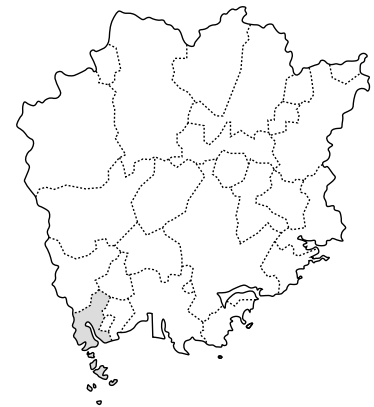
主要文献

狩山（2009）、北村・村田（1971）、茂木ほか（2003）、大橋ほか編（2017a）

（片岡法子）



撮影：片岡法子

**フナバラソウ***Vincetoxicum atratum* (Bunge) C.Morren et Decne.

被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内における分布は比較的広いが、生育地、個体数ともに少ない。生育環境である半自然草原とともに減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄、草地開発、道路工事、業者・マニア採取

分布状況

岡山県内では県西部よりの地域で広く記録されているが、生育地点は多くはない。県外では北海道から九州まで広く分布するが稀とされる。国外では朝鮮半島、中国に分布。

生育状況

山野に希に生える多年草。茎は分岐せず直立して40～80cm、葉は対生し、質厚く長さ6～14cm、幅3～8cmのだ円形～卵形で基部は丸い。葉柄は8～12mm、裏面には著しく脈が浮き出している。茎上部と葉の裏面にはピロード状の軟毛が密生する。花期は5～6月、葉腋に固まって咲き、ふつう濃紫色。小花柄およびがくには密に毛があり、花冠の外にも短毛がある。花は花後、ほとんどが落下して結実に至るものは少ない。果実は袋果で長さ7～8cmの広皮針形、細毛がある。種子は褐色で長さ約8mm、幅5mmの卵形、約3cmの白い長毛があり、風で散布される。和名は「船腹草」で裂開した果実の形が船の腹に似ていることに由来するという。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

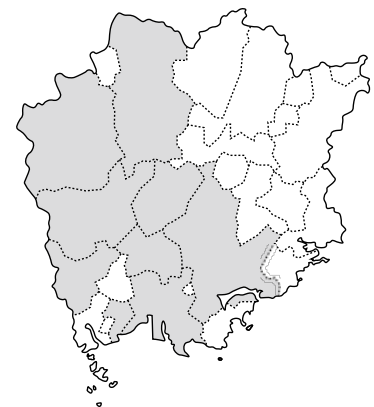
主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017a）、矢原ほか（2015）

（片岡博行）



撮影：片岡博行



ツクシガシワ

Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が少なく、個体数もわずかである。植生遷移や針葉樹の植林などにより生育地、個体数ともに減少しつつある。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採，自然遷移，林相変化（針葉樹転換）

分布状況

岡山県内では北部山地の数カ所の地域にのみ分布。国内では本州（関東以西），四国，九州に分布する。日本固有。

生育状況

山地の明るい木陰に生育する多年草。茎は無毛か微毛があって高さ50～100cmになり，上部はつる状となる。葉は対生，薄膜質でわずかに毛があり，茎下部の葉は大型となり，長さ12～25cm，幅7～15cmの卵円形または広楕円形。茎上部の葉は小型で披針形。花期は7～8月，茎の上部の葉腋などに花序を出す。花冠は暗紫色で径6～10mm。花序軸は2～5cm，花柄は1～2cm。果実は長さ5～8cm，幅約4mmの線状披針形の袋果で双生し，細毛がある。

特記事項

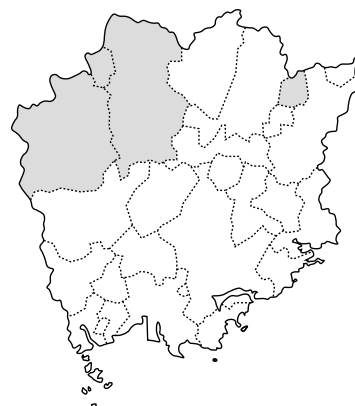
別名：ツルガシワ，オオタチガシワ。ただし，変種var. *nikoense* を区別する場合，ツルガシワの和名はこの変種を指していることがあるので，注意が必要である。

主要文献

門田（2013），加藤ほか編（2011），大橋ほか編（2017a），
（片岡博行）



撮影：片岡博行（部分写真：地職 恵）



スズサイコ

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

被子植物 真正双子葉類 キョウチクトウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

田の畦やため池の堤防，林縁の草地などに生育するが，草刈りによる管理の停止や生育地の開発などにより，本種の生育地である草地が減少し，それに伴い本種も減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄，草地開発，土地造成

分布状況

岡山県内では県下全域に広く分布するが，生育は定期的に草刈りをされるような条件の良い草地に限られる。県外でも北海道，本州，四国，九州，沖縄に広く分布する。

生育状況

日当たりのよいやや乾いた草地に生える多年草。茎は高さ40～100cmで細く直立する。葉は長さ6～13cm，幅4～15mmの長披針形～線状長楕円形でやや厚く，ほとんど無柄。無毛または表面のふちにわずかに短毛がある。花は7～8月ごろ，茎の先や上部の葉腋に長さ2～3cmの総花柄のある集散状の花序をつける。花冠は径1～2cmで黄褐色。花は早朝に開き，日が当たると閉じる。果実は袋果で長さ5～8cmの細長い披針形となる。種子は卵形でやや翼があり長さ4～5mm，先に長い白毛がある。和名は全体がセリ科のミシマサイコに似て，つぼみが鈴を思わせることから。

関係法令の指定状況

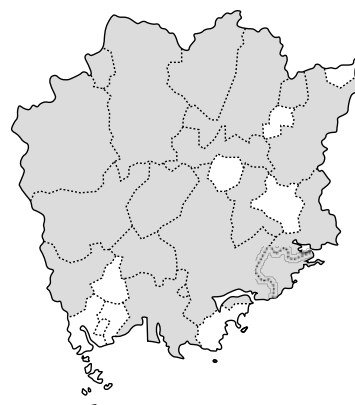
「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

林（2013），大橋ほか編（2017a），矢原ほか（2015）
（片岡博行）



撮影：片岡博行



サウルリソウ

Ancistrocarya japonica Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ムラサキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状態ではないが、森林伐採などの環境の変化には注意を払う必要がある。個体数、生育地ともに少ない。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

県内：中部・北部に点在して生育する。湿度が適度に保たれた山地林下に生え、まれに群生することもある。県外：本州（岩手県以西）、四国、九州の太平洋側に分布する。

生育状況

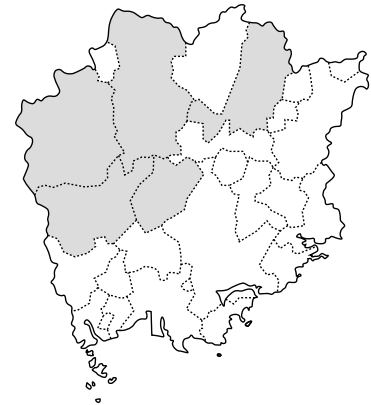
高さ50～80cmになる多年草で、茎には短い圧毛があり、直立する。葉は茎の中部に集まり、互生する。葉は長楕円形、基部は細くなって茎に続き、無柄、裏面に圧毛がある。花期は5～6月。花序は長い総状で、茎頂付近に数個つく。花は筒状鐘形、長さ1cm程で、萼は5深裂する。青紫色または白色。

主要文献

畔上 (1996)、北村ほか編 (1957)、大橋ほか編 (2017b)
(地職 恵・森定 伸)



撮影：地職 恵



ムラサキ

Lithospermum murasaki Siebold

被子植物 真正双子葉類 ムラサキ科

●岡山県：絶滅危惧 I 類 ●環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由

主に石灰岩地を中心に点々と生育が知られていたが、生育場所の環境変化により、急激に生育数を減らしている。また園芸採取等の採集圧も高く、保護にあたっての十分な配慮が必要である。

存続を脅かす要因

草地開発、業者・マニア採集（園芸採取）、薬用採取、その他（工芸採取）、管理放棄、自然遷移

分布状況

県内：中部・北部の石灰岩地や蛇紋岩地の、やや乾燥した山地の草地に点在する。県外：北海道～九州に分布する。

生育状況

高さ40～70cmになる多年草。茎は直立、上部で枝分かれし、葉とともに粗い毛が多い。葉は互生し、披針形で無柄、数個のやや並行する脈が表面にへこんで目立つ。花期は6～7月。花は白色で径約8mm、喉部は黄色みを帯びた突起がある。根にシコニンという色素を含み、昔から紫色の染料に使われた。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

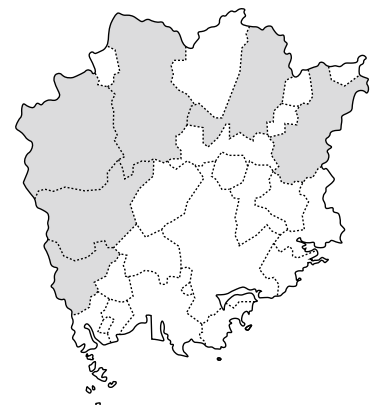
主要文献

畔上 (1996)、北村ほか編 (1957)、大橋ほか編 (2017b)、大久保 (1999)

(地職 恵・森定 伸)



撮影：地職 恵



タチカメバソウ*Trigonotis guilielmii* (A.Gray) A.Gray ex Gürke

被子植物 真正双子葉類 ムラサキ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状態ではないが、生育地、個体数ともに少ないため、森林伐採などの人為的な要因に対しての注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限

分布状況

県内：北部に点在して生育する。溪流沿いや林下など、水湿地に生育し、群生していることが多い。県外：北海道、本州に分布する。

生育状況

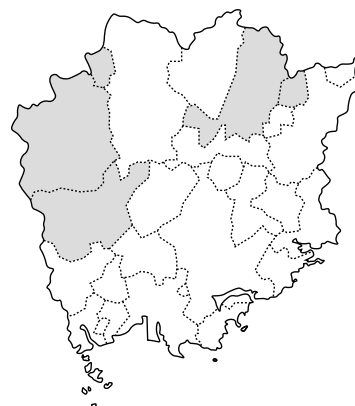
茎はやわらかく毛があり、高さ20～40cmになる多年草。葉は卵形～広卵形、基部から出る葉には長い葉柄がある。花茎は直立し、走出枝を出さない。花期は5月、総状花序には葉がつかず、ふつう枝先で2本に分岐して白色または淡青色の花序をつける。花冠は5裂し、花筒上部に黄色い付属体がある。

主要文献

畔上 (1996), 北村ほか編 (1957), 大橋ほか編 (2017b)
(地職 恵・森定 伸)



撮影：地職 恵

**マメダオシ***Cuscuta australis* R.Br.

被子植物 真正双子葉類 ヒルガオ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：絶滅危惧 I A類 (CR)

選定理由

最近では全く生育が確認されないため。

存続を脅かす要因

その他（農業形態の変化）

分布状況

岡山県内では1950年頃までは多く見られたが、現在は見つからなくなってしまった。国内では北海道から琉球まで分布している。

生育状況

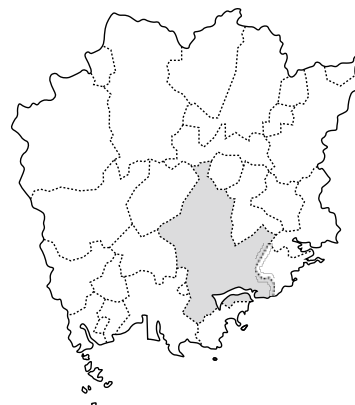
温帯から熱帯の、陽光草地、湖畔や河川の草地、耕作地、ときに海岸に生えるつる性の一年草である。サイズによく寄生していたのでこの名がついているが、宿主はマメ科植物とは限らない。茎は細長く糸状で黄色葉は鱗片になっており、目立たない。種子は径1.5mm、黄褐色で光沢はない。花冠裂片がやや鈍頭で、内部の鱗片が大きく、2裂することで、他のネナシカズラ類と区別が出来ることとされる。近年は帰化植物であるアメリカネナシカズラが様々な植物に寄生していることを見かけることが多いが、マメダオシはほとんど見つからなくなっている。

主要文献

藤井 (2018, 2019), 牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2017b)
(太田 謙・榎本 敬)



撮影：岡山大学資源生物科学研究所



ハマネナシカズラ*Cuscuta chinensis* Lam.

被子植物 真正双子葉類 ヒルガオ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内の数カ所で得られた標本や採集の記録があるが、近年は全く見られなくなってしまった。

分布状況

岡山県内では、笠岡市や備前市の海岸や島嶼に分布していた。国内では本州(神奈川県以西の太平洋側、瀬戸内沿岸)、四国、九州(?)に分布するとされる。

生育状況

温帯から熱帯に広く分布し、海岸の砂浜に見られる寄生のつる植物である。葉を持たず、黄色い糸状の茎が伸びる。よくハマゴウなどの枝に寄生し、枝や葉にからみついて広がる。寄主に接した部分には小さな吸盤ができて養分を吸収する。夏から秋に、茎の各所に花序を出して、小さな白色の花をつける。マメダオシに似るが、萼筒にいちじるしい10肋が隆起することで区別できるとされる。

特記事項

近年は、よく似ているアメリカ原産のアメリカネナシカズラばかりを見かけることが多い。

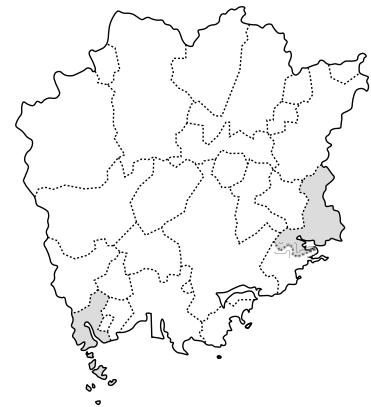
主要文献

牧野(1989), 大橋ほか編(2017b)

(太田 謙)



所蔵：倉敷市立自然史博物館

**ヤマホオズキ***Physaliastrum chamaesarachoides* (Makino) Kuang

被子植物 真正双子葉類 ナス科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

石灰岩地などのやや湿った樹林下に生育する植物であるが、開発や森林伐採により生育地が失われたほか、明るくなって乾燥化するなど生育地が変化したことから、急激に減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採, ゴルフ場, 自然遷移

分布状況

県内：井原市などの岡山県中西部に主に分布する。開発などによって、希となった。県外：本州(関東南部, 東海, 紀伊半島南部)～九州に分布する。

生育状況

山地のやや湿った林下に希に見られる多年草。茎は直立し、軟弱で、枝分かれし、高さ30～50cm。葉は薄く、卵形で先はとがり、基部は狭まって細長い柄になって、縁に少数のあらい鋸歯があり、長さ6～10cm、幅2.5～7cm。葉柄は長さ1～5cm。花は葉腋に1～2個をつける。花冠は白色で杯形、浅く5裂し、径7～8mm。花期は8～9月。果実は液果で、球形、熟すと黄色、径1cm。

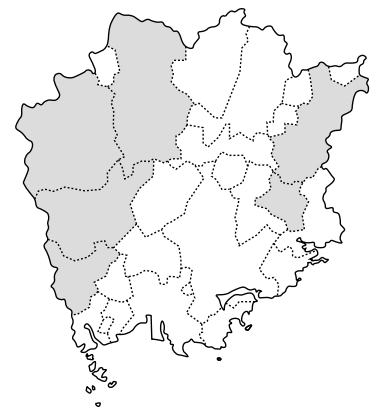
主要文献

大橋ほか編(2017b), 大久保(1999)

(西本 孝・森定 伸)



撮影：榎本 敬



ヤマトレンギョウ

Forsythia japonica Makino

被子植物 真正双子葉類 モクセイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

国内でも中国地方のみに産地が局限されており、生育数も少ない。生育環境が悪化すれば絶滅に瀕する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限, 道路工事, 自然遷移, その他(遊歩道整備に伴う伐採)

分布状況

岡山県内では中部～北部の石灰岩地や蛇紋岩地などの岩場に生育する。国内における分布は中国地方に限定される。日本固有種。

生育状況

高さ1～2.5mになる落葉低木。枝は灰黄褐色, 枝の縦断面には薄膜が並ぶ。葉は対生, 長さ7～12cmの広卵形～卵形で鋭鋸歯があり, 先はとがる。葉裏の脈上には葉柄とともに軟毛がある。花期は4月, 展葉前に腋芽の先に咲き, 直径2.5cm, 花冠は4裂し, 黄色。雌雄異株。果実は長さ約1cmのさく果で, 先はくちばし状にとがる。

関係法令の指定状況・特記事項

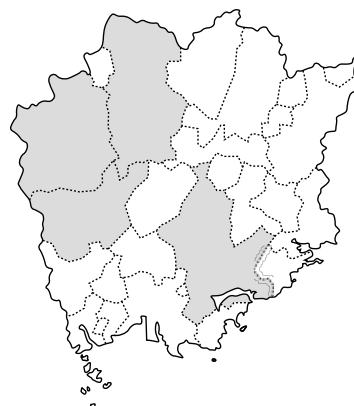
1914(大正3)年に牧野富太郎により, 新見市産の標本をタイプ標本とし, 新種として発表された。「岡山県自然保護条例」により, 自然環境保全地域(塩滝地域)の野生動植物保護地区において保護すべき種に指定され, 採取等が禁止されている。

主要文献

広島県版レッドデータブック見直し検討会(2004), 狩山(2009), 北村・村田(1971), 茂木ほか(2003), 難波(1993), 大橋ほか編(2017b)
(片岡博行)



撮影：狩山俊悟



ヤチダモ

Fraxinus mandshurica Rupr.

被子植物 真正双子葉類 モクセイ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

自生であれば, 国内分布の西限である可能性が高いが, 移入ではないかとの意見があり, 自生と結論付けるには情報が不足している。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

岡山県内では北部(真庭市蒜山地域)にのみ生育。県外では北海道, 本州(岐阜県以北)に分布する。

生育状況

山間の湿地にはえる落葉高木。高さ30mになり, 樹皮は灰白色, 縦に深く裂ける。葉は対生, 長さ約40cmの奇数羽状複葉で小葉は7～11個, 長さ6～15cm, 幅2～5cmの狭長楕円形, 細鋸歯がある。頂小葉を除いて無柄で, 小葉の付け根には茶褐色の縮れた毛が密生する。小葉の上面は無毛, 裏面は脈沿いに短毛がある。花は4～5月, 雌雄異株。果実は翼を持ち, 長さ2.5～3.5cm, 幅7～8mm。

特記事項

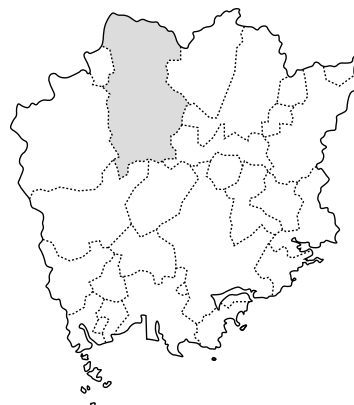
かつては数本が生育していたという情報があるが, 現在把握されている個体は2個体のみである。

主要文献

狩山(2009), 北村・村田(1971), 茂木ほか(2003), 大橋ほか編(2017b), 吉沢(1989)
(片岡博行)



撮影：片岡博行



シオジ*Fraxinus platypoda* Oliv.

被子植物 真正双子葉類 モクセイ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

山地の溪流辺に生育する種類であり、太平洋側に分布が偏っているために、県内では日本海側との接点に近い場所に生育する点で希少性が高い。現状は、群生している場所が宗教上の理由から保護されているため問題はないが、次世代の定着など生育状況には注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

岡山県内では美作市、西粟倉村の中国山地の谷間に自生している。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州の冷温帯に分布する。近縁種のヤチダモとすみ分けて太平洋側に分布し、冷涼な谷沿いに生育する。

生育状況

落葉高木。山の谷間に生える。小枝が太く、灰黄褐色で無毛。葉は7～9個の小葉から成る奇数羽状複葉で、葉柄の基部が顕著に膨らみ、対生する葉柄同士が相接している。小葉は裏側の中脈沿いに白い開出毛があるほかは無毛で、細鋸歯がある。頂小葉に1～2cmの柄があるほかは無柄。側小葉は狭長楕円形で先が急にとがって、基部がゆがむ。花びらのない、白色の花を咲かせる。

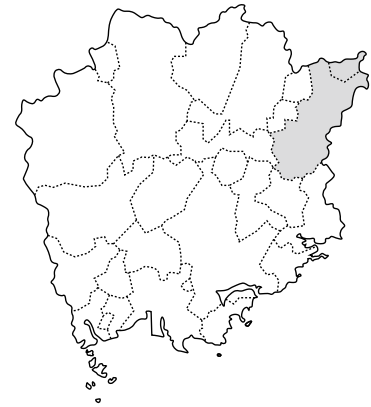
主要文献

大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：狩山俊悟

**サイゴクイボタ***Ligustrum ibota* Siebold

被子植物 真正双子葉類 モクセイ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が岡山県北西部に局限している。新見市の一部では、ダム建設により産地の多くが消失した。移植保護された個体や、周辺に残存する個体群の存続が懸念される。目立たない低木なので、気づかれぬまま伐採される可能性もある。

存続を脅かす要因

ダム建設、森林伐採

分布状況

県内では中部、北部に点在し、山地の二次林内などに生育する。県外では本州（兵庫県以西）、九州（中北部）に分布し、山地のやせ地に生える。

生育状況

高さ2～5mになる落葉低木。小枝は短毛がある。葉は対生、薄く、卵状披針形～卵状だ円形、鋭尖頭、長さ1～5cm、表面、裏面ともに中肋上に毛がある。花序は小さく、1～数花が枝先につく。花期は5～6月。花冠は筒状、白色、先が4裂し、筒部は裂片の3～4倍ある。花糸は花冠よりも短い。果実はほぼ球形、紫黒色に熟す。

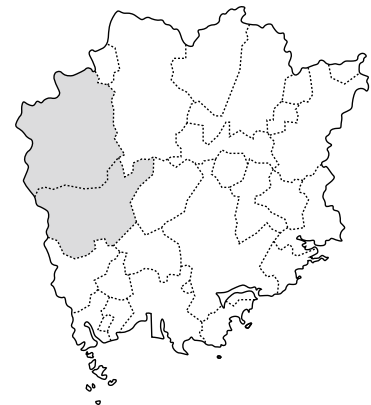
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ヤナギイボタ

Ligustrum salicinum Nakai

被子植物 真正双子葉類 モクセイ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県中部以北に点在し、希である。産地が限られている上に、森林伐採や道路工事などによって生育地が減少し、存続が危ぶまれる。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事、その他（景勝地の開発、観光開発）

分布状況

県内では北部、中部に分布し、山地の岩石地や傾斜地の林内または林縁に生育する。国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ4～6mになる落葉小高木。小枝は一部に微毛がある。葉は対生、倒卵形～倒卵状披針形、長さ6～13cm、両端ともにとがり、表面は無毛、裏面は初め短毛があるがのちに無毛となる。花序は円錐形で大きく、長さ10～20cm。花期は6月。花冠は筒状、白色、先が4裂し、筒部は裂片とほぼ同長。花糸は花冠より長い。果実は長楕円形、紫黒色に熟す。

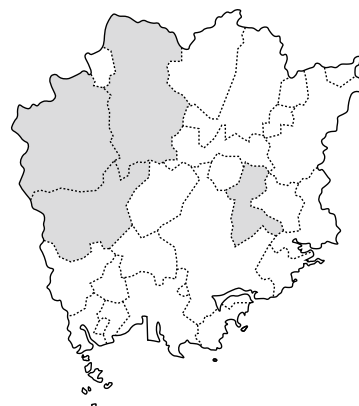
主要文献

北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



マルバノサウトウガラシ

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

湿地や水田などの常時水のある場所に生育する一年草であるが、生育環境が不安定であることによって急激に減少するとともに、一年草であることから毎年同じ場所で確認できないことなど現状がつかみにくい。

存続を脅かす要因

土地造成、池沼開発、湿地開発

分布状況

県内では、岡山県北部の旧湯原町（真庭市）などに分布している。国内では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

湿地や水田に生える一年生草本で、茎は直立し、軟弱で高さ5～20cmとなる。葉は対生し、卵円形またはだ円形、5～7本の脈があり、鋭頭、基部は円形。よく似たサウトウガラシは、葉が線状披針形で1脈のみ目立つ。花はふつう淡紫色で、長さ1～2cm、上部の葉腋につく。花期は8～10月。花は長さ4mmとなる。果実はさく果で、卵形または卵円形、長さ2mmである。

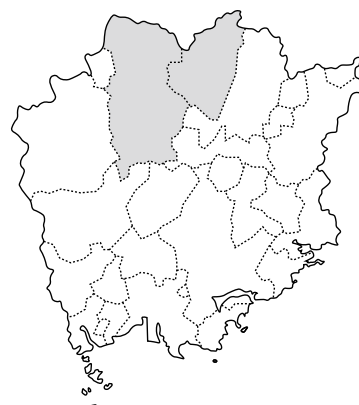
主要文献

岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）

（太田 謙・西本 孝）



撮影：榎本 敬



キクガラクサ*Ellisiophyllum pinnatum* (Wall.) Makino var. *reptans* (Maxim.) T.Yamaz.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

生育地が石灰岩地の林縁に限定される植物であるが、森林の伐採や管理放棄による自然遷移、開発などによって、生育適地が減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、土地造成、自然遷移、産地局限

分布状況

岡山県では旧備中町（高梁市）などの県中部に分布し、石灰岩地を中心に分布するが、個体数は少ない。国内では本州（近畿地方南部、中国地方）、四国に分布する。

生育状況

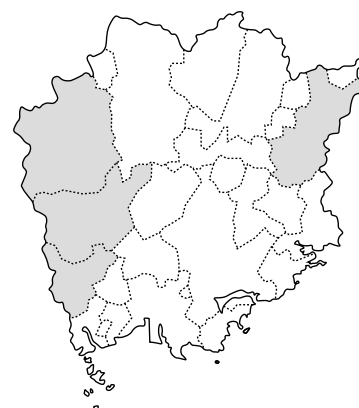
山地の日陰の湿り気のある場所に生える多年生草本である。茎は細長く地を匍匐し、まばらに葉を互生する。葉は広卵状三角形で、長柄あり、長さ2.5～6 cm。花は葉腋に単生し、直径は8～10 mmであり、花柄は長さ3～6 cmとなる。花冠は白色で直径7～8 mmとなる。花期は5～6月である。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2017b)
(太田 謙・西本 孝)



撮影：狩山俊悟

**オオアブノメ***Gratiola japonica* Miq.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

冠水するような水辺に限定されて生育する植物であるが、水田などの生育に適した水辺が減少したことや耕作植物の変化によって少なくなっている。

存続を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、土地造成

分布状況

岡山県では岡山市などの南部に分布する。国内では本州（岩手県以南）、九州に分布する。

生育状況

水田や沼の湿地に生える一年生草本である。茎は肉質で、やや大きくて柔らかく、直立して高さ10～20 cmとなる。葉は柔らかく、対生し、やや肉質となる。葉の形は狭卵状長楕円形で、縁には鋸歯がなく、長さ1～3 cm、幅2.5～7 mmとなる。花は葉腋ごとに1個つける。花冠は白色、筒形で、長さ4～5 mm。多くは花冠が開かず閉鎖花となる。花期は5～6月、果実はさく果で球形、長さ3～4 mmである。

特記事項

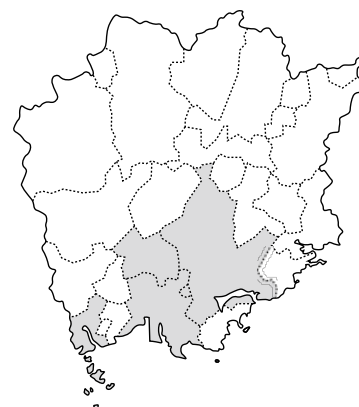
イグサ田の雑草として生育していたが、イグサ栽培の減少と共に少なくなった。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2017b)
(太田 謙・西本 孝)



撮影：狩山俊悟



シソクサ

Limnophila chinensis (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北部の水田や湿地に生育する一年草であるが、圃場整備による水田の環境の変化や農薬によって個体数が減少している。また、山からのしみ出した水がたまってできた湿地の減少などによって生育地が失われている。

存続を脅かす要因

圃場整備，土地造成，農薬汚染

分布状況

県内では、県北部の西栗倉村などに分布する。国内では本州（関東以西）、四国、九州、琉球南部に分布する。

生育状況

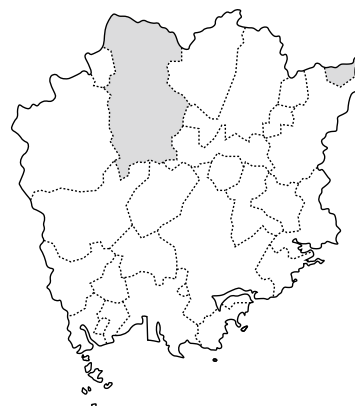
池や水田などの湿地に生育する一年生草本である。茎は直立して、基部は短く伏臥し、高さ10～30cmとなる。葉は対生して柄はなく、葉身は狭長だ円形で、柔らかく、無毛となる。葉は長さ1.5～3cm、幅3～10mmで、少数のとがった鋸歯がある。葉肉内には油点が散在し、シソに似た香りを出す。上部の葉腋から長さ7～15mmの花柄を伸ばし、1花をつける。花冠は長さ約10mm、微黄白色、先は唇形となり上唇は大きく裂けず、下唇は3裂する、花期は9～11月である。果実はさく果で、卵円形、ほぼ同じ長さの萼に包まれ、長さ4～5mmとなる。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）
（太田 謙・西本 孝）



撮影：榎本 敬



コキクモ

Limnophila trichophylla (Kom.) Kom.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では南部の水田や湿地に生育し、稲刈り後の水田に見られたが、圃場整備や湿地の変化など、生育地である水辺の環境が大きく変わったことによって、生育に適した場所が減少している。

存続を脅かす要因

圃場整備，池沼開発，農薬汚染

分布状況

岡山市などの県南部の平野部を中心に分布する。国内では本州（群馬県、兵庫県、岡山県）に分布する。

生育状況

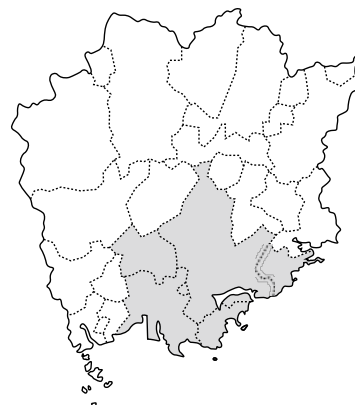
水田や沼などの水中に生える多年草である。茎は水中で多くの枝に分かれ、長さ10～70cmであり、先端の方の5～10cmが水上に直立する。葉は6～10枚が輪生し、水中葉は線状の裂片に細裂し、長さ7～30mmとなる。水上葉は卵形または皮針形で、長さ5～17mmで羽裂する。花は、水上にある葉の腋に1個つく。花冠は白色または紅紫色で、長さ7～11mm、上唇は広円形でほとんど全縁、下唇は深く3裂し、裂片は卵円形となる。花期は8～10月である。果実はさく果で、広だ円形、長さ3～3.5mm、幅3mm、ほぼ同長の萼に包まれている。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）
（太田 謙・西本 孝）



撮影：狩山俊悟



スズメノハコベ*Microcarpaea minima* (J.König ex Retz.) Merr.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内に点在するが、生育範囲は極めて限定的である。人里に生える植物であり、さまざまな人為的な影響を受けやすいことから絶滅の恐れが非常に高い。除草剤の影響で絶滅したとする見解もある(大久保, 1999)。

存続を脅かす要因

湿地開発, 河川開発, 土地造成, 農薬汚染(農薬散布)

分布状況

岡山県内の数カ所に分布し、水田またはその周辺に生育している国内では、本州(福島県以南)、四国、九州、琉球に分布する。

生育状況

水田や湿地に生える一年生草本で、高さ5~20cmになる。茎は細長く、多く分枝する。葉は対生、線状皮針形から狭長だ円形、長さ3~5mmとなる。花期は7~10月で、花は葉腋につき、淡紅色となり、長さは約2mmである。さく果は長だ円形でがくに包まれ、長さ1.2mmで、種子はごく小さく黄褐色となる。

関係法令の指定状況

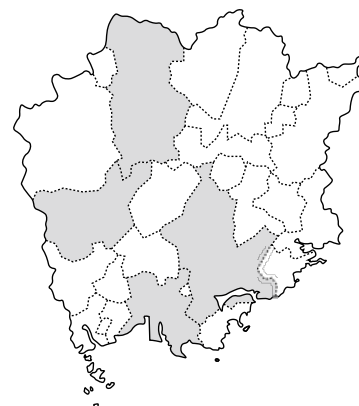
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟

**トウオオバコ***Plantago japonica* Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸が開発され、砂浜や礫浜などの生育地が減少したため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

岡山県内の海岸に点在している。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

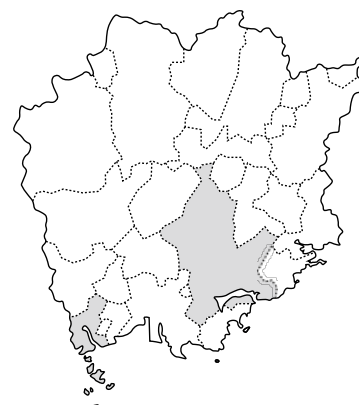
日当たりの良い海辺に生育する多年草で、全体がほとんど無毛である。葉は根生し、斜上する。卵形または卵状だ円形で、やや鈍頭、肥厚している。一般にオオバコより大型で、花茎は50~80cmとなることが多い。花は無柄で、蓋果の上蓋は半球形となる。果実あたりの種子数は10個程度で、種子は長さ1~1.4mmとなる。近縁種のオオバコは果実あたりの種子数が4~6個となる。母種に当たるセイヨウオオバコは蓋果の上蓋は低い円錐形、種子の大きさが1.4~2mmあることから区別されている。

主要文献

牧野(1989), 岡山県(2010), 大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・榎本 敬)



撮影：小島辰三



ヒシモドキ

Trapella sinensis Oliv.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

産地がきわめて限られているため。

存続を脅かす要因

水質汚濁，河川開発

分布状況

岡山県内では南部のため池や水路などに生育しているが，極めて希である。国内では，本州，四国，九州に分布する。

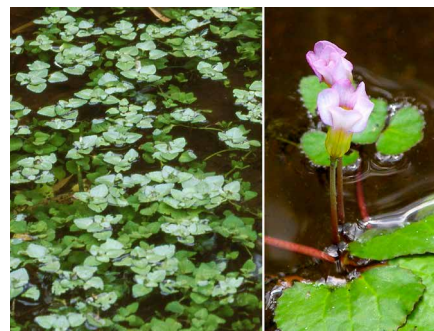
生育状況

池や沼，水路に生える抽水性の一年生の水草で，全体がヒシに似ているところからそう呼ばれている。根は泥中において，茎が水中を長く伸びる。葉は，水中葉は細長く倒卵形，浮葉は三角状円形で，ややヒシに似ている。夏季に葉腋から花柄を直立させて，水上に淡紅色の花をつける。また，葉腋には閉鎖花を多くつける。果実は萼に包まれ，萼裂片が伸長して角状となっている。

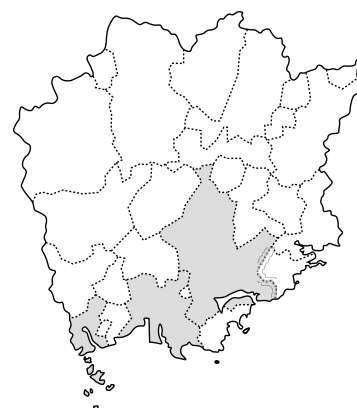
特記事項

栽培下では，猛烈に繁殖して水面を覆い尽くすこともある。しかし，水質，水温，底質などの環境条件に敏感な植物のようである。また，栽培下では滅多に開放花を付けず，閉鎖花だけで果実をつくるようである。

主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，奥田ほか(1997)，大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・榎本 敬)

撮影：榎本 敬(左)・地職 恵(右)



ヒヨクソウ

Veronica laxa Benth.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科 ●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

日当たりの良い採草地に生育する植物であるが，採草地が管理放棄や植林地化によって減少したことにより，生育地が失われたため減少している。草刈りを再開して出現する可能性もあり，現状は不明である。

存続を脅かす要因

管理放棄，自然遷移，林相変化，針葉樹林転換，その他（植林，草地減少）

分布状況

県内では西粟倉村に分布する。国内では北海道西南部，本州，四国に分布する。

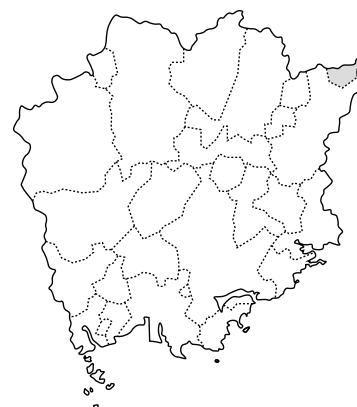
生育状況

山地の日当たりの良い草地に生える多年草である。著しい白色の開出する短軟毛がある。地下茎から直立する数本の細い茎を出し，高さ25～70cmになる。葉は対生し，10対程度つき，広卵形となる。茎の上部の葉腋から長さ5～20cmの細い花序を出し，10～30花をまばらにつける。花柄は2～3mmで，密に軟毛が生える。花冠は淡紅紫色，直径は6～8mmであり，花期は6～7月である。果実はさく果で，倒心形，先がへこみ，縁に毛が生え，長さ3mm，幅4mmとなる。

主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・西本 孝)

撮影：狩山俊悟



イヌノフグリ

Veronica polita Fr.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

帰化植物と生育地が競合し、減少しているため。

存続を脅かす要因

帰化競合，道路工事，自然遷移

分布状況

県内では，北部，中部，南部にそれぞれ分布している。国内では，本州，四国，九州，沖縄に見られる。

生育状況

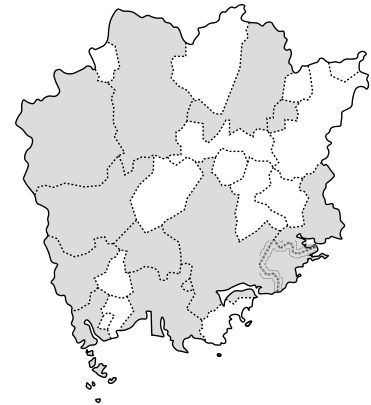
畑地や道端などの草地，石垣の隙間に生える越年草である。茎の下部は分枝して地表面に広がり，長さ10～25cmになる。葉は茎の下部では対生，上部では互生し，卵円形となり，長さ，幅とも4～11mmである。花は茎の上部の葉腋ごとに1個つく。花冠は淡紅白色で，紅紫色の条があり直径3～4mmである。花期は3～4月で，果実はさく果で平たい球形となり，中央がくびれ，上部両端は丸く，長さは2.5～3mm，幅4～5mmである。和名は果実の形による。

主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・小島裕子)



撮影：小島辰三



トラノオスズカケ

Veronicastrum axillare (Siebold et Zucc.) T.Yamaz.

被子植物 真正双子葉類 オオバコ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県南部の林縁などで生育していた植物であるが，開発などによって生育地が失われたために，現状では生育している場所が不明となっており，絶滅したと考えられる。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成

分布状況

県内では，倉敷市と旧山陽町（赤磐市）でみられた。国内では本州（静岡），四国南部，九州の低地の林内に自生する。

生育状況

暖地の林内や，林縁に生える多年草で，高さ1～2mになる。茎は斜上して円柱状であり，上部はつる状になる。葉は互生し，長さ5～10cmの長だ円形で，鋭尖頭，基部は円形となる。葉柄は長さ2～7mmである。穂状の花序を腋生し長楕円の円柱状となる。花は長さ1.5～3cmで密に多数つく。花冠は紅紫色で，花期は8～9月。果実はさく果となり，卵形で長さ3mmである。

特記事項

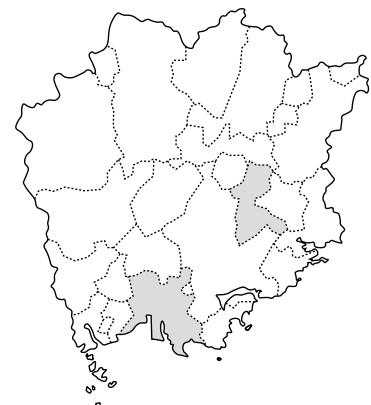
赤磐市で1952年に採集された標本があるがそれ以降の記録は残されておらず，絶滅した可能性が高い。

主要文献

牧野(1989)，岡山県(2010)，大橋ほか編(2017b)
(太田 謙・西本 孝)



撮影：狩山俊悟



ゴマノハグサ

Scrophularia buergeriana Miq.

被子植物 真正双子葉類 ゴマノハグサ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

やや湿り気のある採草地に生育する植物であるが、採草地の管理放棄や遷移によって生育地が減少したことから、急激に減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄、自然遷移

分布状況

旧川上村（真庭市）、旧哲多町（新見市）などの岡山県北中部に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。

生育状況

湿り気のある草地に生える多年草である。根の一部は紡錘状に肥大する。茎は直立し、高さ8～15cmとなり、4稜がある。葉は対生し、狭三角状長円形で、長さ6～8cm、鋭頭となり、縁にややとがった鋸歯があり基部は円形となる。茎の先に長さ20～40cmの細長い総状花序をつくり、やや密に花をつける。花柄は短く、腺毛がやや密に生える。花冠は濃紫色、長さ8～10mmである。花期は7～8月。果実はさく果で、卵形となり長さは5mmである。

関係法令の指定状況

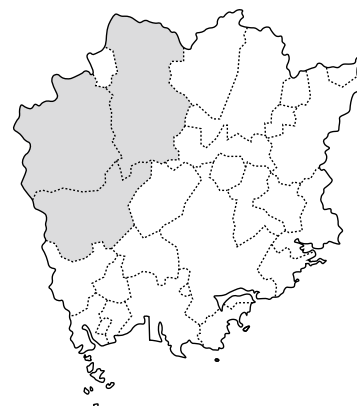
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）
（太田 謙・西本 孝）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ツクバキンモンソウ

Ajuga yezoensis Maxim. ex Franch. et Sav. var. *tsukubana* Naka

被子植物 真正双子葉類 シソ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

石灰岩地などのやや湿った樹林下に生育する植物であるが、開発や森林伐採により生育地が失われたほか、明るくなって乾燥化するなど生育地が変化したことから、急激に減少している。

存続を脅かす要因

森林伐採、ゴルフ場、自然遷移

分布状況

県内：井原市などの岡山県中西部に主に分布する。開発などによって、希となった。県外：本州（関東南部、東海、紀伊半島南部）～九州に分布する。

生育状況

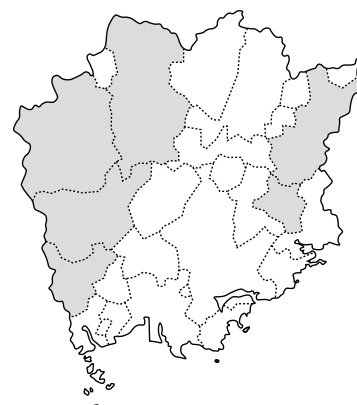
高さ5～15cmになる多年草。数本が株になって立ち上がる。葉の裏面葉脈が紫色を帯びる。ニシキゴロモの変種で、花冠上唇が短くて半円形となることにより見分けられる。花期は4～5月、花は淡紅紫色～白色。ニシキゴロモが主に日本海側に分布するのに対し、ツクバキンモンソウは主に太平洋側に分布する。

主要文献

畔上（1996）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（西本 孝・森定 伸）



撮影：榎本 敬



キセワタ*Leonurus macranthus* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

山地の草地や林縁などで見られるが、農業形態の変化や管理放棄等により、草地の植生遷移が進行して、本種が生育できる環境が著しく減少した。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事（林道工事）、管理放棄、自然遷移、その他（農業形態の変化）

分布状況

県内：中部・北部に点在して分布する山地の草原や林縁、林道脇などに見られる。県外：北海道～九州に分布する。

生育状況

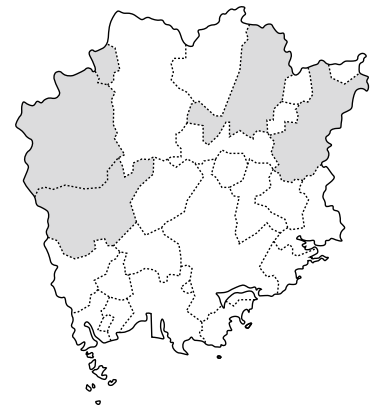
茎は四角形でほとんど枝を分けず、直立して高さ1m程になる多年草。葉は対生で縁に粗い鋸歯があり、狭卵形で先は鋭くとがる。花期は8月、淡紅色の唇形花が、茎上部の葉腋に輪生する。花は長さ3cm足らずで上下2唇に裂け、外面は毛があって白く見える。

主要文献

畔上（1996）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（地職 恵、森定 伸）



撮影：地職 恵

**ミカエリソウ***Comanthosphace stellipila* (Miq.) S.Moore

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

群生することが多いが、その生育地は多くない。スギ植林地の林床に生育するものは、今後人為的な影響を受ける恐れがある。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事（林道工事）

分布状況

県内：東部から北部に分布しブナ帯域に多い。林下、林縁、沢沿いなどに生える。県外：本州（岐阜県西部～岡山県）、四国（東部）に分布する。

生育状況

高さ40～100cmになり、下部が木質化する半低木。枝は葉の裏面や花序と同様、密に星状毛がある。葉は対生し、だ円形～長だ円形、鈍い鋸歯があり、1～5cmの葉柄がある。花期は9～10月。枝先に、10～15cmの花穂を出し、紅紫色の花をつける。花冠からは雄しべと雌しべが突き出る。

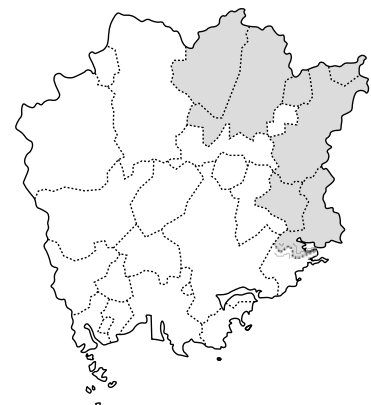
主要文献

畔上（1996）、中原・羽賀（1983）大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（地職 恵・森定 伸）



撮影：地職 恵



マネキグサ

Loxocalyx ambiguus (Makino) Makino

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地が限定されており、個体数も多くない。生育環境が悪化すれば絶滅に瀕する可能性が高い。

存続を脅かす要因

森林伐採、道路工事（林道工事）、管理放棄、産地局限

分布状況

県内：中部と北西部に分布し、山地の木陰や林縁に生育する。石灰岩地で見かけることが多いようだ。県外：本州（栃木県以西の太平洋側）、四国、九州（中北部）に分布する。

生育状況

茎は四角で直立し、高さ40～70cmの多年草。葉にはあらくて大きな鋸歯があり、1～3cmほどの葉柄がある。花期は8～9月。花は暗紅紫色で白色の縁取りがあり、1～3個を葉腋につけ、花冠の下唇は3裂する。別名、ヤマキセワタ。

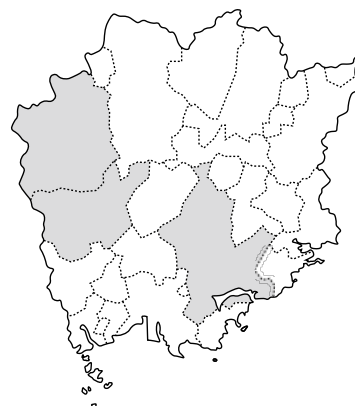
主要文献

畔上（1996）、中原・羽賀（1983）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（地職 恵・森定 伸）



撮影：地職 恵



エゾシロネ

Lycopus uniflorus Michx.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地、個体数ともに少なく、生育場所である山間の湿地の乾燥化が進み、危機的な状況となっている。

存続を脅かす要因

自然遷移、湿地開発、産地局限、その他（湿地の乾燥化による森林への遷移進行）

分布状況

県内：北部の山間の湿地に生育する。県外：南千島、北海道～九州に分布する。

生育状況

山間の湿地に生育し、細長い地下茎を伸ばす多年草。高さ20～40cmになり、茎には全体に細毛がある。葉は対生し、菱状卵形で長さ2～7cm、光沢がなく、ごく細かい毛がある。縁には鈍頭の鋸歯があり、葉脈が目立つ。花期は8～9月。対生する葉のつけねに白色で長さ2mmほどの鐘型の花が数個かたまつてつく。花はシロネの仲間では最も小さい。

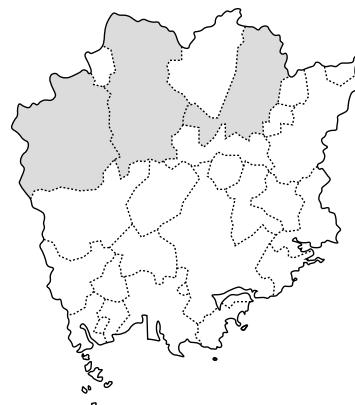
主要文献

畔上（1996）、中原・羽賀（1983）大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（地職 恵・森定 伸）



撮影：狩山俊悟



ホンバヤマジン*Mosla chinensis* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

元々の分布量が少ないため。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

県内：中部の総社市，和気町，南部の岡山市，倉敷市などから確認されている。日当たりの良い岩上などに生育する。県外：本州（兵庫県以西），九州に分布する。

生育状況

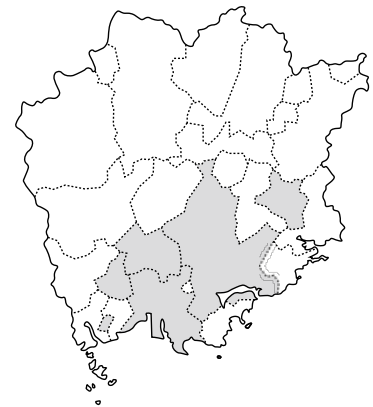
日当たりのよい丘陵地などに生育する一年草でカルバクロームを含む。高さ10～30cmになる茎は紫色を帯び，下向きの毛がある。葉は披針形～広線形で少数の低い鋸歯があり，両面に微毛がある。9～10月，淡紅紫色の目立たない花序をつける。

主要文献

狩山・榎本（1998，2001），狩山ほか（1990），小島ほか（2005），小島ほか（2000），大橋ほか編（2017b），大久保（1999）
（榎本 敬・森定 伸）



撮影：榎本 敬，地職 恵

**ヤマジン***Mosla japonica* (Benth. ex Oliv.) Maxim.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地がきわめて限られているため。

存続を脅かす要因

自然遷移

分布状況

県内：数カ所に分布するのみで，南部の倉敷市の産地では岩山の割れ目に水がしみ出す環境に生育している。県外：北海道～九州に分布する。

生育状況

日当たりのよい丘陵や裸地に生える一年草で，高さ20～50cm。帯紅紫色，茎は4稜あり，とくに節部に白短毛を多くつける。全体香気（チモール臭）がある。葉は対生。苞は大型，卵形～広卵形でがくとほぼ同長。がくは5裂し，ほぼ等長。花冠は3mmで帯紅紫色。分果は球形で，径1.3mm。暗褐色で網目模様がある。花期は9～10月。

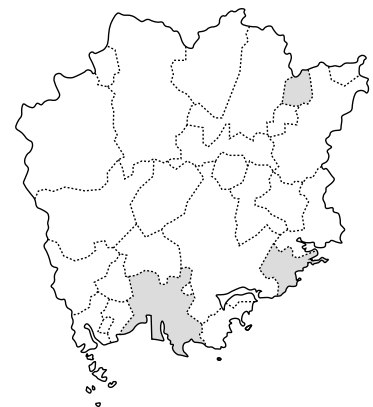
主要文献

榎本ほか（1990），狩山・榎本（1998，2001），狩山ほか（2008），岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編（1980），大橋ほか編（2017b），大久保（1999）

（榎本 敬・森定 伸）



撮影：榎本 敬



ミズネコノオ

Pogostemon stellatus (Lour.) Kuntze

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

戦前は南部の水田や湿地に点々と生育が見られたというが、50年以上にわたり確かな生育情報が得られていないため。

分布状況

県内：岡山市西部の水田に自生していた写真が残るのみで、宅地開発などにより、自生地はなくなった。県外：本州（関東以西）～九州、琉球（徳之島）に分布する。

生育状況

水田や低湿地に生える一年草。茎は高さ15～50cmでやわらかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は長さ2～6cm、細長い線形で、3～6個ずつが輪生する。花期は8～10月。花穂は茎頂と枝先に直立し、長さ2～5cmの細長い円柱状。花は白色または淡紅色で密につく。花冠の長さは約2mm、花糸にはまばらに、やや短い毛がある。



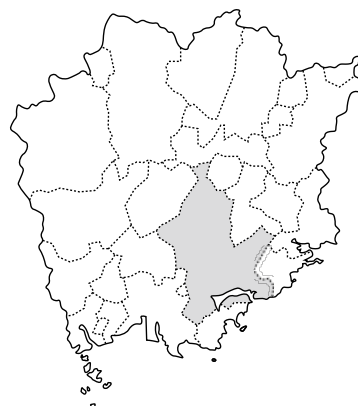
撮影：古屋野 寛

特記事項

写真は1959（昭和34）年10月25日、現岡山市北区小山の水田（稲刈り後）で、古屋野寛氏が撮影したもの。現在は宅地になっている。これを最後に生育が確認できていない（古屋野氏談）。

主要文献

北村ほか編（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（地職 恵・森定 伸）



ミストラノオ

Pogostemon yatabeanus (Makino) Press

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：野生絶滅 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

戦前は県内の山足の田間湿地に点々と自生していた（大久保、1999）というが、開発による埋め立てなどですべて消失したとみられ、生育情報が得られていない。赤磐市（旧山陽町）産のものが栽培下で存続しているが、野生のものは絶滅したため。

分布状況

県内：中部で採集された標本がある。自生地のもので栽培下で存続する。県外：本州～九州に分布する。

生育状況

低湿地や水田に生育する多年草。地下茎が長く横にはい、茎は高さ30～50cmに立ち上がる。茎はやわらかく、3～4個ずつが輪生する。葉は線形で、長さ3～7cm、先は鋭く全縁でやわらかく、柄がほとんどない。花期は8～9月。茎頂に長さ2～8cmの淡紅色の花穂が立ち、密に花を付ける。雄しべが花冠より長く突き出し、花糸には密に長毛がある。



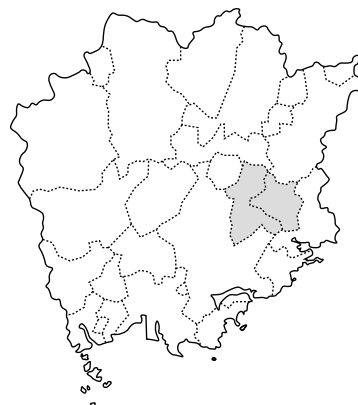
撮影：地職 恵

特記事項

赤磐市（旧山陽町）産のものが、重井薬用植物園や岡山県自然保護センターで保護されている。

主要文献

林（1989）、北村ほか編（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（地職 恵・森定 伸）



ヒメナミキ*Scutellaria dependens* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

湿地に生育するが、生育する湿地はもともと限られている上、乾燥化や開発などによって減少しつつあるため。

存続を脅かす要因

湿地開発，海岸開発，産地局限，その他（湿地の乾燥化）

分布状況

県内：北部では新見市，真庭市，新庄村，中部では美作市，吉備中央町，南部では備前市で採集された標本があるが，現状が不明な場所も多い。県外：北海道，本州，九州（種子島以北）に分布する。



撮影：波田善夫

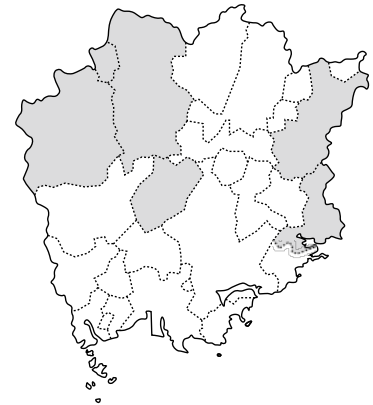
生育状況

湿地のやや草丈の高い場所に生える多年草。茎は四角形で細く，ほとんど無毛で分枝して高さ10～50cm。地下に細長い走出枝を出す。葉は対生し，長さ1～2cm，幅0.6～1cmの狭卵状三角形で，1～3mmのごく短い葉柄がある。縁には1～2対の低い鋸歯がある。花は6～8月，上部の葉腋に長さ約7mmの白色の唇形花を1個ずつ付ける。下唇には紫斑があり，外側には白い毛が生える。基部はわずかに曲がる。がくは果時に長さ2.5～3mm。分果は長さ約0.7mmで微細点のある小突起がある。

主要文献

林 (1989), Iwatsuki *et al.* (1993), 北村ほか編 (1957), 大橋ほか編 (2017b)

(片岡博行・森定 伸)

**コナミキ***Scutellaria guilielmii* A.Gray

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

元々の分布がきわめて限られているため。

存続を脅かす要因

海岸開発，産地局限

分布状況

県内：南部の砂や礫の海岸にわずかに自生している。県外：本州（太平洋側は千葉県以西，日本海側は石川県能登半島以西）～琉球（沖縄諸島以北）に分布する。



撮影：榎本 敬

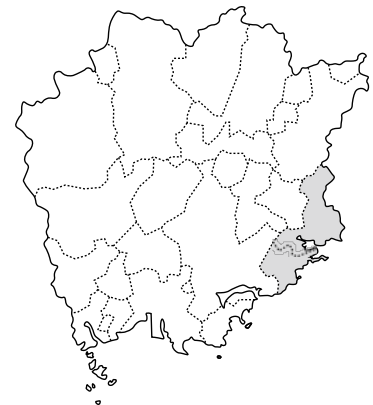
生育状況

多年草で細長い地下茎を出す。茎は分枝して，高さ20～40cm。葉は有柄で対生し，心形で長さ幅ともに1～2cm。花は葉腋に短生する。花冠は7～8mmで白色。がくには腺をもった開出軟毛がある。分果はきわめて変わった形をしている。すなわち，径2mmの翼に下側には先のとがった長い突起が密生し，全体がクラゲのような形になっている。さらに傘に当たる部分の中心部には円形にとがった短い突起が並んでいる。花期は5～9月。近縁種のヒメナミキはほとんど無毛，分果は0.7mmであることなどで区別できる。

主要文献

榎本 (1998a), 狩山・榎本 (1998・2001), 狩山ほか (2008), 大橋ほか編 (2017b), 大久保 (1999)

(榎本 敬・森定 伸)



ホクリクタツナミソウ

Scutellaria indica L. var. *satokoae* Wakasugi et Naruh.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

道路（林道）沿いの草地などに生育することが多く、道路工事等により生育地が消滅する恐れがある。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成，管理放棄

分布状況

県内：津山市，新見市，真庭市など北部で見つまっている。県外：本州（富山県以西の日本海側）に分布する。

生育状況

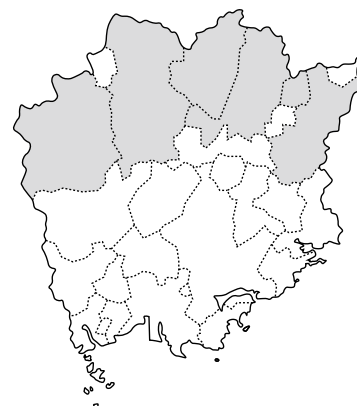
やや湿った林縁の草地などに生育する多年草。茎は四角形で高さ10～20cm，下部は分枝して匍匐枝となり立ち上がる。茎には開出する長毛が密生する。葉は対生し，長さ20～25mm，幅15～25mmの三角状卵形，先端は鈍頭，基部は浅い心形，浅い鋸歯を持つ。葉の両面には軟毛が密生し，裏面には腺点がある。花は5～6月，茎の上部の葉腋に赤紫～紫色の花を付け，3～5cmの花穂となる。花冠は長さ18～19mm，下唇には小さな紫斑があるが，ない場合もある。

主要文献

Naruhashi *et al.* (2004)，大橋ほか編 (2017b)
(片岡博行・森定 伸)



撮影：片岡博行



ツクシタツナミソウ

Scutellaria kiusiana H.Hara

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県は分布の東限と考えられるが，生育地，個体数ともに少ない。生育地が道路工事の残土により埋められるなどして減少している。

存続を脅かす要因

道路工事，土地造成，産地局限

分布状況

県内：岡山市，総社市，高梁市で記録がある。県外：本州（中国地方西部）四国（北部），九州に分布する。

生育状況

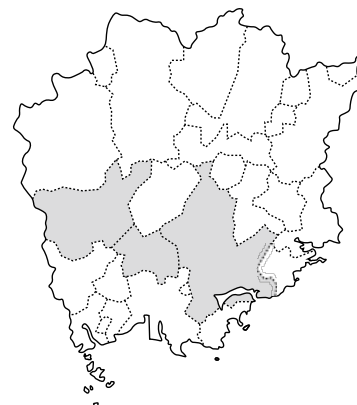
常緑樹林下に生える多年草。茎は四角形で上向きに曲がった毛があり，高さ10～30cm。葉は対生し，長さ1.5～4cm，幅1～2.5cmの三角状卵形，先端は鈍頭，基部は切形，4～7対の鋸歯がある。葉の表面と裏面の脈上にはまばらに毛があり，裏面にはまばらに腺点がある。花は5～7月，長さ2～5cmの花序を作って咲き，花冠は長さ15～20mm，紫色。分果は狭長だ円形，長さ約1.2mm，微細な乳頭状突起があり，黒褐色。

主要文献

Iwatsuki *et al.* (1993)，大橋ほか編 (2017b)
(片岡博行・森定 伸)



撮影：狩山俊悟



ミヤマナミキ

Scutellaria shikokiana Makino

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における産地は限定されており、個体数も少ない。生育環境が悪化すれば、絶滅に向かう可能性が高い。

存続を脅かす要因

管理放棄、産地局限、草地開発、踏みつけ

分布状況

県内：美作市北部の半自然草地にのみ分布。県外：本州（福島県南部以西）～四国・九州に分布する。

生育状況

標高500～1,000mの山地の木陰に生える多年草。茎は四角形で直立し高さ5～25cm、下部の茎は無毛、上部の茎には開出する腺毛が散生する。地中には細長い地下茎を出す。葉は対生、長さ1～3cmの葉柄があり、長さ1.5～5cm、幅1～3cmの広卵状三角形、先は鋭頭、基部は切形または広いくさび形、縁には数個の深い鋸歯があり、表面には毛が散生、裏面は無毛もしくは脈上に毛が散生する。花は7～8月、茎の先端や時に葉腋から花序を出し、まばらに花をつける。花冠は長さ7～8mm、白色でわずかに淡紅色を帯び、基部がわずかに曲がって斜上する。分果は長さ0.5～1mm、表面に円錐形の小さい突起がある。

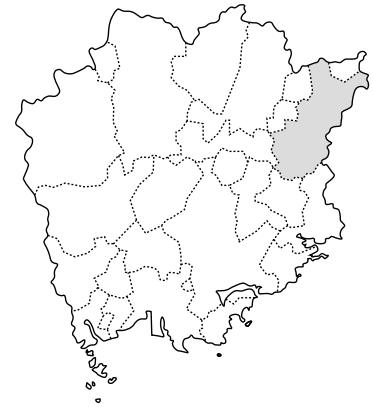
主要文献

畔上 (1996), Iwatsuki *et al.* (1993), 北村ほか編 (1957), 大橋ほか編 (2017b)

(片岡博行・森定 伸)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ナミキソウ

Scutellaria strigillosa Hemsl.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

海岸の砂浜が開発され、生育地が減少しているため。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

県内：南部の砂地の海岸に群落を形成している場所がある。県外：南千島、北海道～九州（五島列島福江島以北）に分布する。

生育状況

多年草で細長い地下茎を引く。茎は高さ10～40cm、四角形で稜には上向きの毛がある。葉は対生し、1～4mmの柄がある。花は碧紫色で葉腋について一方向に向いて開く。花冠は基部が湾曲直立し、長さ2～2.5cm。花期は7～8月。分果は長さ1.8mm、半円形をなし、円頭の低い突起を密生する。県内のタツナミソウ属の中では大きな花を葉腋につけることで他種と区別できる。

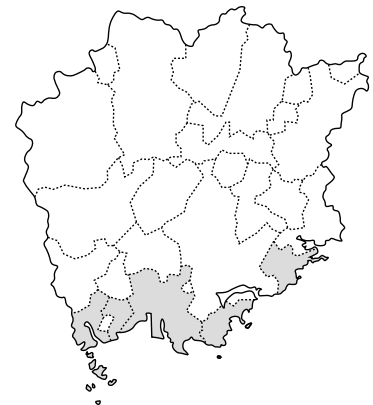
主要文献

榎本 (1998a), 狩山ほか (2008), 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編 (1980), 大橋ほか編 (2017b), 大久保 (1999)

(榎本 敬・森定 伸)



撮影：難波靖司



イヌゴマ

Stachys aspera Michx. var. *hispidula* (Regel) Vorosch.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地である河川岸や田間湿地の環境が、河川の護岸工事や土地造成などの影響を受けて激減した。本種が生育できる環境は現在も減り続けており、保護に関する注意が必要である。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、湿地開発、土地造成（農地造成）

分布状況

県内：南部から北部まで、広い範囲に点在するが個体数は少ない。河岸や田間の湿地などで見られる。県外：南千島、北海道、本州、九州に分布する。

生育状況

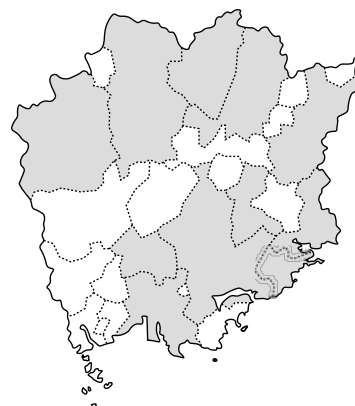
河岸や湿地などに生育する多年草。高さ40～70cm。細長い地下茎を引き、茎は直立、稜には短い下向きの刺がある。葉は対生し、長さ4～8cmの皮針形。表面にはしわがあり、裏面の中肋に短いとげがあつてざらつく。花期は7～8月。茎の先に短い花穂をつくり、淡紅色の唇形花を数段輪生する。下唇は3裂し、赤い斑紋がある。

主要文献

林（1989）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（地職 恵・森定 伸）



撮影：地職 恵



カリガネソウ

Tripura divaricata (Maxim.) P.D.Cantino

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと個体数、生育地ともに少ない。わずかな生育環境の悪化によって減少する恐れがあり、十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採取、道路工事、自然遷移

分布状況

岡山県内では中部、北部に点々と分布するが、希である。南部（岡山市）では1930年に標本が採集されているが、現在では絶滅と考えられる。県外では北海道、本州、四国、九州に広く分布する。国外では朝鮮半島、中国に分布。

生育状況

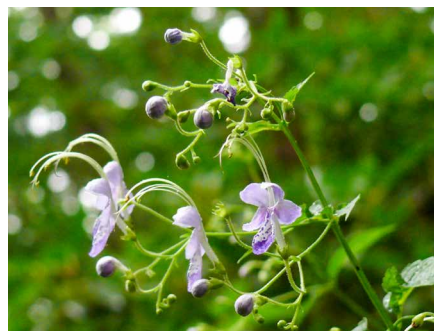
低山の林縁などに生育し、高さ1mほどになる多年草。強い臭気がある。茎は四角形で直立し、上部で枝分かれする。葉は1～4cmの柄があつて対生、広卵形で先は尖り、長さ5～13cm、幅3～8cm。縁には鋸歯があり、まばらに毛がある。花期は8～9月。葉腋から長い柄をもつ集散花序をだす。花冠は長さ8～10mmほどの花筒があり、2唇形で大きく開口し、上唇は2裂、下唇は3裂。下唇の中央裂片は特に大きく長さ約8mm、反曲する。雄しべは下向きに湾曲して、花柱とともに花外に長く突き出る。

岡山県内では、山地の沢沿いや林内の斜面、林縁に生育している。希に群生していることもある。

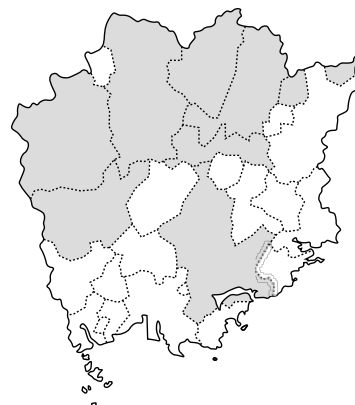
主要文献

門田（2013）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）、山下ほか（2010）

（片岡博行・地職 恵）



撮影：地職 恵



ハマゴウ

Vitex rotundifolia L.f.

被子植物 真正双子葉類 シソ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

砂浜や礫浜の開発によって生育地が減少しており、存続が懸念される集団も存在する。

存続を脅かす要因

海岸開発（護岸工事等を含む）

分布状況

岡山県内では海岸の砂地に分布するが、高梁川では中流域の河川敷にも1群落があるほか、旭川の中流域でも見つかっている。これらの分布は、高瀬舟などの漕上によって持ち込まれたとの推測もある。県外では本州から沖縄までの全国の海岸に分布。国外では東南アジア、太平洋諸島、オーストラリアと南半球にも分布する。

生育状況

匍匐性の落葉小低木で、茎は地中を長く伸びて広がる。枝は4稜があって直立または斜上し、高さ30～60cmになる。若枝や花序、萼には灰白色の短毛が密生する。葉は対生し、長さ3～6cm、幅2～4cmの広卵形～楕円形で全縁。葉表は灰緑色、葉裏は微軟毛を密生して灰白色。花期は7～9月、花序は円錐状で枝の先に密に花をつける。花は長さ1～1.5cmの漏斗状でやや唇形、淡青紫色。果実は径5～7mmの球形、下半分に萼が宿存する。濃灰褐色で光沢はない。植物体全体に芳香がある。

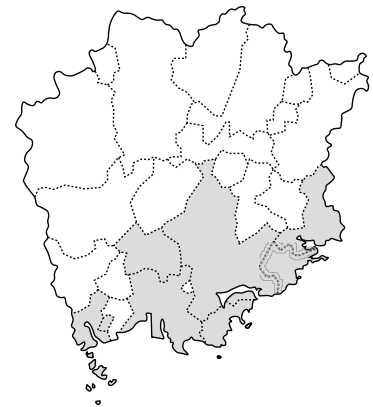
主要文献

榎本（1987, 1998）、狩山ほか（2008）、片岡ほか（2005）、中西（2018）、大橋ほか編（2017b）、岡山大学農業生物研究所雑草学研究室（1980）、大久保（1999）、山下ほか（2010）

（片岡博行・榎本 敬）



撮影：難波靖司



オオバミゾホオズキ

Mimulus sessilifolius Maxim.

被子植物 真正双子葉類 ハエドクソウ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

登山道の周辺などに生育していたと思われるが、かつての生育地には生育しておらず、現状は不明である。

分布状況

県内では1939年に笠原安夫氏によって採集されたが、それ以降は確認されていない。国内では北海道、本州（中部以北の日本海側）に分布する。岡山県には隔離的に分布していた。

生育状況

亜高山帯の湿地に生える多年草で、地下茎を伸ばして広がる。茎は直立し、枝分かれせずに高さ20～30cmとなる。葉は柔らかく広卵形で、先端は鋭尖頭となる。葉は長さ3～6cm。花は上部の葉腋に1個つく。花冠は細長く、淡黄色、がくの2倍の長さがあり、長さ2.5～3cmとなる。内面の下部には黄褐色の斑点がある。花期は7～8月である。果実はさく果で、長だ円形、大きながくに包まれる。

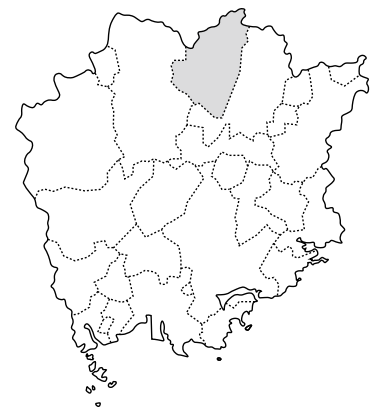
主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）

（太田 謙・西本 孝）



撮影：狩山俊悟



オオナンバンギセル

Aeginetia sinensis G.Beck

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

湿り気のある採草地に生育する一年草であるが、採草地の管理放棄や、植林などによって寄主であるススキが衰退したことによって急激に減少している。

存続を脅かす要因

管理放棄、自然遷移、草地開発、林相変化（針葉樹林転換）、その他（植林、草地減少）

分布状況

岡山県内では北部山地のヒカゲスゲに寄生するのが発見されている。国内では本州、四国、九州、沖縄に生育する。

生育状況

山地の草原に生える1年生の寄生植物。おもにイネ科やカヤツリグサ科の植物に寄生するとされる。花柄は太く高さ20～30cm。萼は長さ3～4cmで淡紅紫色、先はとがらない。花冠は長さ4～4.5cmで、先は浅く5裂し、裂片には細菌があり、同型で広く開く。数枚の鱗片状の赤褐色の葉が互生する。果実は球形で先のとがるさく果で熟すと黒褐色となり、多数の細かな種子をもつ。近縁種のナンバンギセルは萼の先がとがり、花冠は明るい紅紫色で、縁に鋸歯がなく、全体に小型である。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

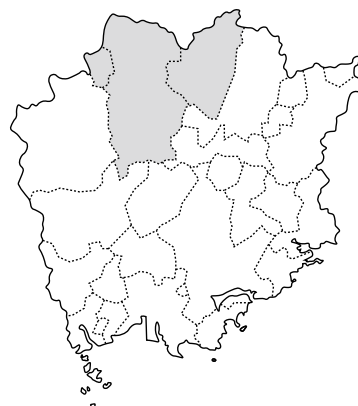
主要文献

大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（片岡博行・西本 孝）



撮影：西本 孝



ゴマクサ

Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. var. *lutea* (H.Hara) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県南部の湧水地周辺に生育する植物であるが、産地が限られていることに加えて、開発や森林の遷移による湧水の減少によって生育地が縮小し、急激に減少している。

存続を脅かす要因

湿地開発、土地造成、自然遷移、産地局限

分布状況

県内では、県南部の倉敷市などに分布する。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。

生育状況

湿地の草原に生える一年生草本で、高さ10～60cmになる。葉は対生し、広線形で先がとがり、縁は全縁か少数の歯牙があって、長さ2～5cm、幅2～8mmで、両面に毛がある。花は茎の上部の葉腋に1個ずつつく。花冠は帯黄色で、長さ1.5～2cmで、花期は8～9月。和名は花や果実の形がゴマを思わせることから名づけられた。湿原や湧水地などの湿り気のある場所に生育するが、周辺の森林の発達に伴い湿原が縮小するなどの影響で少なくなったと考えられる。

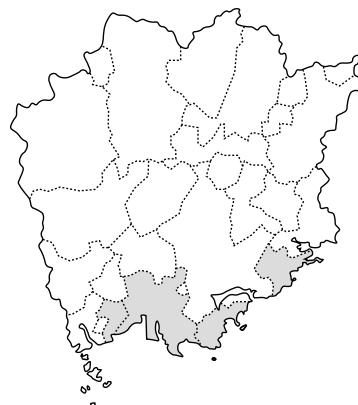
主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）

（太田 謙・西本 孝）



撮影：難波靖司



ヤマウツボ

Lathraea japonica Miq.

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

県西部の限られた場所에만生育し、集団数、個体数共に少ない。

存続を脅かす要因

産地局限，森林伐採

分布状況

岡山県内では、吉備高原面の、自然度の高い夏緑樹林の林下に生育し、樹木の根に寄生する。本州（宮城県以南）・四国・九州に分布する。



撮影：地職 恵

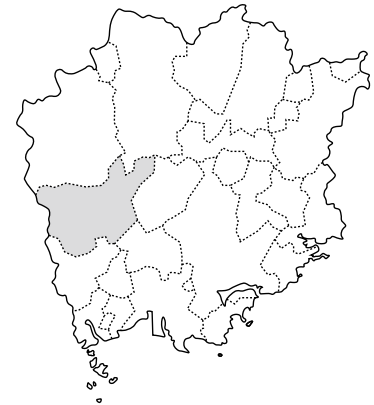
生育状況

葉緑素を持たず、ブナ科やカバノキ科、ヤナギ科などの樹木の根に寄生する。花期は5～6月。高さ10～30cmの太い花茎を直立し、穂のような総状花序をつける。花は白色～淡紅紫色，花冠は筒状で長さ約12mm，花柱は花冠から長く突き出る。萼は鐘形で、先が4裂，白毛が生える。

主要文献

大橋ほか編（2017b）

（地職 恵）



ハマウツボ

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

現在，岡山県内における確実な生育地はほぼ2地域のみだが，生育環境の変化によって，存続が危ぶまれている。

存続を脅かす要因

河川開発，海岸開発，帰化競合，自然遷移

分布状況

現在，岡山県内の確実な自生地は高梁川（総社市），吉井川（岡山市）の河川敷または堤防のみ。国内では北海道から沖縄にかけて全国に分布するが，多くの都道府県でレッドデータ種となっている。



撮影：榎本 敬

生育状況

キク科のヨモギ属，特にカワラヨモギに寄生する1年生または2年生の寄生植物。茎は花穂とともに10～30cm，鱗片状に退化した葉がある。茎は黄褐色で全体に軟毛が多い。花期は岡山県では4～5月，茎の上部に淡紫色の花を穂状につける。

岡山県下の自生地では，樹木の成長やクズなどの繁茂，シナダレスズメガヤなどの帰化植物の侵入により寄主植物であるカワラヨモギの生育範囲が狭まっている。近年は重機による樹木伐採，植生除去などの治水工事が行なわれているが，工事後の植生の状態によって，個体数が大きく増減する可能性があり，注意が必要である。

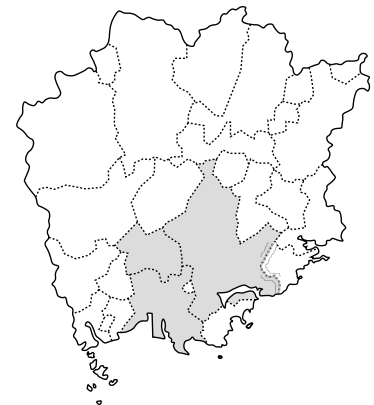
関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。

主要文献

林（2013），大橋ほか編（2017b），矢原ほか（2015）

（片岡博行・榎本 敬）



キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内の産地はさわめて少ない。開花期にのみ地上に現れる寄生植物であるため、生育が把握されにくく、気付かれないまま生育環境が破壊される恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採

分布状況

岡山県では北部と中部に分布。集団数, 個体数ともごくわずか。国内では北海道, 本州, 四国, 九州に分布するが, ほとんどの都道府県でレッドデータ種とされている。

生育状況

山地の木陰に生える高さ5~10cmの寄生植物。多年生とされ、カシ類やアジサイ類などの樹木の根に寄生する。全体に無毛, 肉質で、はじめは白色, のちには黄色を帯びる。茎は太く, 縁が膜質の鱗片葉が多数, 直立してつく。鱗片葉は卵形, 長さ4~8mm, 先は鈍頭または円頭。花期は5~7月, 茎の先に5~10個が束生状につく。花ははじめ白色, のちに黄色を帯びる。花冠は斜めに直立し, 長さ2.5~3cmの長い筒状。2唇形となって上唇は全縁あるいは浅く2裂, 下唇は短く3裂する。

関係法令の指定状況

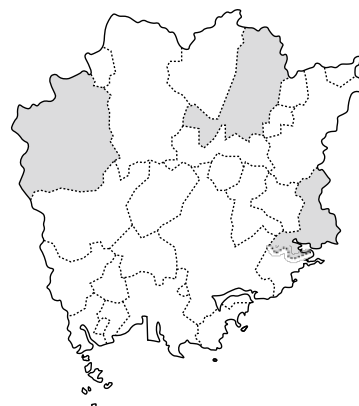
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園, 大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

門田 (2013), 大橋ほか編 (2017b), 大久保 (1999)
(片岡博行・榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ヒキヨモギ

Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

かつては岡山県下に広く分布していたが, 生育に適した半自然草地の減少や, 植生の変化に伴い, 生育個体数が減少しつつある。

存続を脅かす要因

管理放棄, 草地開発

分布状況

県内では全域で生育の記録がある。県外では北海道から沖縄までの日本全土に分布している。

生育状況

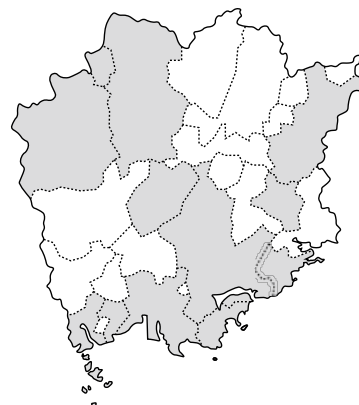
日当たりの良い草地に生育する半寄生の一年草である。茎は直立し, 高さ30~70cmとなり, 曲がった短毛が密に生える。葉は茎の下部では対生, 上部では互生し, 長さ1.5~5cm, 幅1~3cmの卵形で羽状に深く切れ込む。葉の両面, 特に裏面の脈状には曲がった短毛がある。花は8~9月, 葉腋に付く。がくは筒状で曲がった短毛が生える。花冠は2唇形, 鮮黄色で長さ2.5~3cm, 上唇の外側には長毛があり, 先は細くなり2裂する。

主要文献

牧野 (1989), 岡山県 (2010), 大橋ほか編 (2017b)
(太田 謙・片岡博行)



撮影：片岡博行



ノタヌキモ

Utricularia aurea Lour.

被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

分布範囲は比較的広いものの、生育地の数は限られている。生育地である池沼の水質の変化など、わずかな生育環境の悪化で減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

池沼開発，水質汚濁，管理放棄（ため池）

分布状況

岡山県内では、おもに南部から中部のため池にまれに分布。同属のイヌタヌキモに比べると分布は少ない。国内では北海道をのぞく日本全国に分布するが、北関東（栃木，群馬，埼玉），高知では絶滅とされている。国外ではアジア中南部～オーストラリアに分布。



撮影：狩山俊悟

生育状況

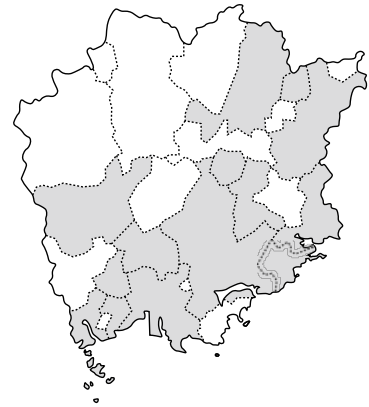
中栄養のため池に浮遊して生育する一年生の食虫植物。茎はよく分岐し、長さ1.5mに達することもある。葉は基部から3本の枝に分かれ、さらに立体的に枝分かれする。葉の裂片が三次元の配列を持つことは同属の他種にはない特徴である。葉全体の長さは3～8cm，多数の捕虫囊がつく。花期は7～10月。水上に直立する長さ7～20cmの花茎に淡黄色の花をつける。花の下面部は隆起し、ふつう赤褐色の模様がある。殖芽は形成せず，自家受粉によってよく結実する。果実は直径4～5mm，花柱が残存する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

角野（2014），大橋ほか編（2017b），矢原ほか（2015）
（片岡博行・波田善夫）



フサタヌキモ

Utricularia dimorphantha Makino

被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

50年以上にわたって確かな生育情報も標本も得られていない。

存続を脅かす要因

河川開発，池沼開発，水質汚濁

分布状況

県内では1950年に倉敷市で採集された標本のみで、その後の生育情報はなく、絶滅。国内では本州（岡山県以東）に分布するが、多くの産地で消滅し、絶滅寸前の状態にあるという。日本固有。

生育状況

平地のやや富栄養な湖沼，ため池，水路などに極めて希に生育する多年生の食虫植物。茎は長さ30～80cm，ややまばらに分枝。葉は長さ2～6cm，多数の細裂片に分かれ，房のように柔らかい。捕虫囊はごく少数しかつかない。閉鎖花の花期は6～9月，数節おきに1個ずつつき，球形で径1～2mm，8mm以下の花柄がある。開放花の花期は7～8月，花茎は長さ7～14cm，3～5花がつき，花弁は淡黄色。開放花，閉鎖花とも結実し，果実は球状，径2～3mm。晩秋，頂端にはほぼ球形で緑色の殖芽を形成する。

特記事項

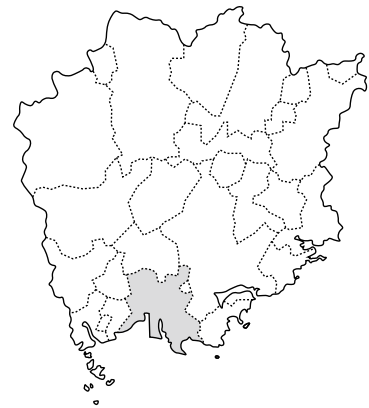
長く標本の所在が不明で，戦後間もないころに生育していたという報告（古屋野，1993）のみが県内唯一の生育情報であったが，2014年に古屋野寛氏が倉敷市立自然史博物館に寄贈した植物標本の中から，1950年8月に倉敷市粒浦で採集された標本が発見された。

主要文献

角野（2014），加藤ほか編（2011），古屋野（1993），大橋ほか編（2017b），矢原ほか（2015）
（片岡博行・波田善夫）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ヒメタヌキモ

Utricularia minor L.

被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

岡山県内では生育地は限られているうえ、生育する湿地の中でも限られた環境に生育するため、水質や日照などのわずかな環境の変化によって消滅する可能性が高い。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発，水質汚濁

分布状況

岡山県内では、おもに南部から中部の湿地やため池にまれに分布。国内では北海道，本州，四国，九州に分布する。国外では北半球の温帯～亜寒帯に広く分布。

生育状況

貧栄養の湖沼や湿地上に生育する多年生の食虫植物。根はなく茎は長さ5～30cm，水中を浮遊して生育する場合と，水深の浅い湿地などで糸状で白色の地中茎を地中に伸ばし，水底に固着して生育する場合がある。地中茎には水中茎の捕虫囊よりも大きな捕虫囊が多数つく。葉は疎らで互生，細裂片が二叉状に分枝，長さ5～15mm。花期は8～9月だが，開花はまれ。花茎は細く，長さ5～25cmで2～10花をつける。花弁は淡黄色～白色または淡桃色。晩秋，茎頂に7mm程度の球形の殖芽を形成して越冬する。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

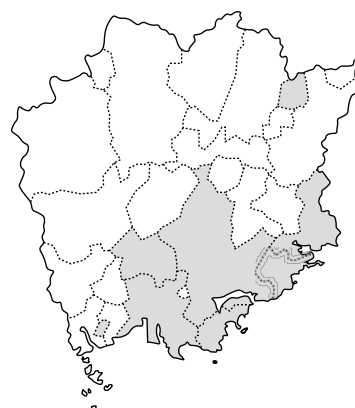
主要文献

角野（2014），大橋ほか編（2017b）

（片岡博行・波田善夫）



撮影：波田善夫(左)・片岡博行(右)



ヤチコタヌキモ

Utricularia ochroleuca R.Hartm.

被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県下における生育地はきわめて局限されている。国内の他の分布域とは隔離されており，分布上も重要である。

存続を脅かす要因

池沼開発，湿地開発，水質汚濁，産地局限

分布状況

2019年現在の岡山県下の確実な生育地は鯉ヶ窪湿原（新見市）のみ。岡山県以外では，北海道，長野県以北の本州に分布。

生育状況

腐植栄養質の湖沼の浅水域や湿原の水たまりなどに生育する多年生の沈水～湿性の食虫植物。根を欠き，茎はまばらに分枝して長さ20cm程度にまでなる。茎には水中または湿地上を横に伸長する緑白色の地表茎と，葉緑体を欠き白色糸状で地中に伸びる地中茎がある。コタヌキモ *U. intermedia* に類似するが，葉裂片の先端が鋭頭（コタヌキモは鈍頭）であること，コタヌキモは地中茎の葉のみに捕虫囊がつくのに対し，地表茎にも少数の捕虫囊が見られることなどが異なる。

特記事項

2009年版では，コタヌキモとされていたが，その後，鯉ヶ窪湿原に生育するものはヤチコタヌキモとされた。コタヌキモの記録は新見市域に数カ所あるが，ヤチコタヌキモとの関係を踏まえ，精査が必要である。

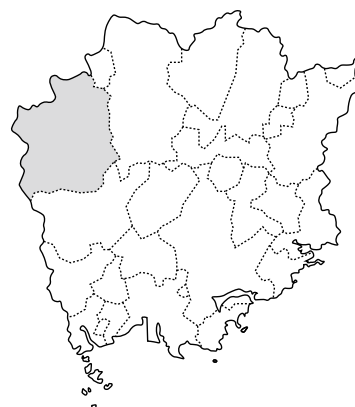
主要文献

角野（2014），大橋ほか編（2017b），矢原ほか（2015）

（片岡博行）



撮影：波田善夫



ムラサキミミカキグサ*Utricularia uliginosa* Vahl

被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

ただちに絶滅する恐れはないが、生育地である湿原自体が開発や乾燥化などによって消滅しつつあり、減少傾向にある。

存続を脅かす要因

湿地開発、池沼開発、道路工事、土地造成、自然遷移

分布状況

県内では県内全域の自然性の高い湿原に分布する。国内では北海道、本州、四国、九州（屋久島まで）に分布する。国外ではアジア～オーストラリアに分布。

生育状況

湿原に生育する小形の多年草で、泥中に捕虫囊を持ち、小型の動物プランクトンなどを捕まえる食虫植物である。泥中に細い地下茎があり、所々に3～6mmの小さなへら形の葉を付ける。夏から秋にかけて高さ5～15cmの花茎を形成し、上部に直径3～4mmの藍紫色～白色の花を1～4個つける。花茎の下部には数個の鱗片葉がある。花の距は長さ3～4mm、下向きで先はやや前方を向く。

岡山県では南部の湧水型湿原から中国山地の湿原まで広く見られるが、生育はモウセンゴケ類が生えるような良好な湿原植生が安定して保たれている自然性の高い湿原に限られる。

関係法令の指定状況

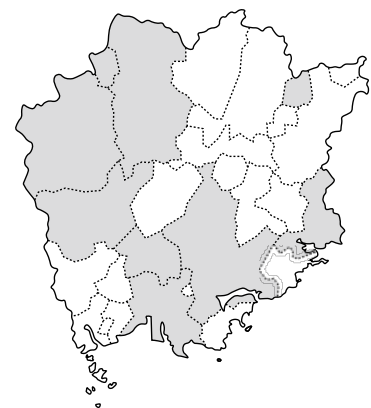
「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

林 (2013), 大橋ほか編 (2017b), 矢原ほか (2015)
(片岡博行・波田善夫)



撮影：波田善夫

**ミヤマウメモドキ***Ilex nipponica* Makino

被子植物 真正双子葉類 モチノキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内における記録は1地域のみ。道路工事・ほ場整備による湿地の埋め立てや園芸採取により減少。残りの個体も周囲の植生の発達、湿地の乾燥化により生育環境が悪化しつつある。

存続を脅かす要因

産地局限、湿地開発、道路工事、業者・マニア採取（園芸採取）、その他（不法投棄）

分布状況

県内では真庭市北部に限られた地域のみで生育する。国内では本州（東北地方・中部地方中北部・近畿地方北部）の主に日本海側に分布する。

生育状況

山地の湿地に生える落葉低木。若枝は無毛で暗灰褐色、短枝と長枝がある。葉は互生、長さ3～12cm、幅1.5～5cmの倒披針形、先はとがり、ふちには鋭い鋸歯がある。基部はくさび形で葉柄に流れ、葉柄は5～12mm、葉身の中中部から先の部分が最大幅となる。花期は6月、当年枝の葉腋に散形状に白色花をつける。雌雄別株。果実は秋に赤く熟し直径約6mmの球形で種子は4個。果柄は長さ3～8mm。

特記事項

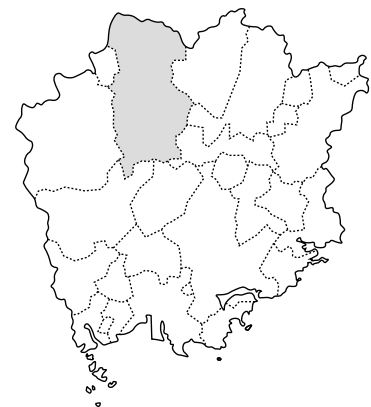
中国地方では鳥取、広島、山口県で絶滅危惧種に選定されている。自生地近辺の集落では、庭木として植栽している場合がある。

主要文献

広島県版レッドデータブック見直し検討会 (2004), 狩山 (2009), 北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2017b), 鳥取県自然環境調査研究会編 (2002), 山口県野生生物保全対策検討委員会 (2002)
(片岡博行)



撮影：片岡博行



アカミノイヌツゲ

Ilex sugerokii Maxim. var. *brevipedunculata* (Maxim.) S.Y.Hu

被子植物 真正双子葉類 モチノキ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

北海道、本州（東北地方・中部地方中北部）に分布するものが、隔離分布している。現状は保護区にあることから問題ないが、岡山県内の生育地が南限となり限定されるため、温暖化などの気候変動の影響を受ける恐れがあり、引き続き注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地極限，気候変動

分布状況

新庄村でのみ確認されている。近縁の種であるクロソヨゴは県内に普通に見られるのに対して、産地が限定される。国内では北海道、本州（東北地方・中部地方中北部）の冷温帯～亜高山帯に分布する。

生育状況

冷温帯～亜高山帯の樹林下，林縁や岩場，湿原の周辺に生育する常緑低木。高さは1～2mと低い。葉は枝に密に互生し，卵形。上面深緑色，下面淡緑色。長さ2～3.5cm。花序は若枝の下部に腋生し，長さ1～1.5cmと短い花柄がある。花は白色の小さな花を咲かせる。雌雄異株で，雄花は2～3個，雌花は1個ずつつき，花柄の途中に小さな苞葉がある。花期は6～7月。県内に多いクロソヨゴは花柄が2～3cmと長く，葉もやや大きく，樹高も2～5mと高い。

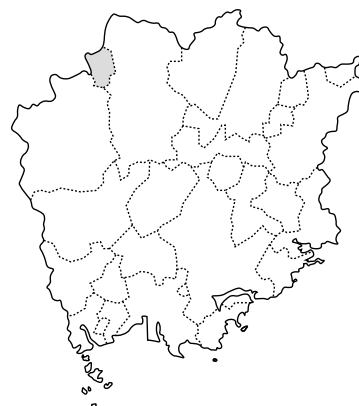
主要文献

大橋ほか編（2017b），大久保（1999）

（西本 孝）



撮影：西本 孝



フクシマシャジン

Adenophora divaricata Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 キキョウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと限られた地域に生育し，個体数が少ない。生育地は草刈り場などとして維持されてきた山地草原であることから，農業形態の変化による二次草原の減少や，管理放棄された草原の植生遷移の進行により減少している。

存続を脅かす要因

草地開発，管理放棄，自然遷移，産地局限，道路工事（林道工事）

分布状況

岡山県内では中部，北部の山地草原や林縁に生育する。県外では本州中北部，中国地方，四国（徳島県）に分布する。

生育状況

山地のやや乾いた斜面や草地，ときに岩礫地に生える多年草。茎は高さ40～100cm，開出する毛があるものからほとんど無毛のものまである。茎葉は通常輪生，まれに対生あるいは互生。花期は8月。花序の枝は通常互生，横に長く張り出すので，まばらな円錐状となる。花冠は鐘型で淡紫色，先はやや広がり浅く5裂する。ツリガネニンジンと混生しており，見分けにくい，フクシマシャジンの萼裂片は披針形で縁が全縁であり，ツリガネニジンは線形で小突起があることで区別できる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

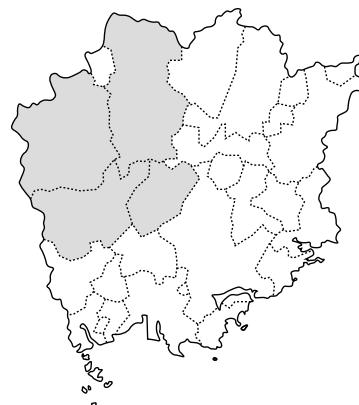
主要文献

中原・羽賀（1983），大橋ほか編（2017b）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



ヤチシャジン

Adenophora palustris Kom.

被子植物 真正双子葉類 キキョウ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

岡山県内では、ごく希に生育していたが、ため池に流れ込む谷川の改修工事、山間の水田の耕作放棄による荒廃、ほ場整備等により、絶滅の危機に貧している。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移、湿地開発、管理放棄、土地造成（農地造成）、その他（ため池改修）

分布状況

県内では吉備高原地域の湿地にごく稀に生育。県外では愛知県、岐阜県、広島県に分布する。

生育状況

湿地に生える多年草で、茎は直立し高さ30～90cmになる。茎は分枝せず紫色を帯び、毛はない。茎葉は互生、長楕円形で長さ2～6cm、やや厚く、鋸歯があり、柄はない。花期は8月。花冠は漏斗状鐘形で淡紫色、先が浅く5裂し、花序軸に穂状につく。

特記事項

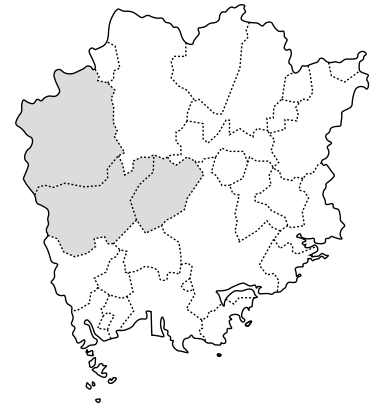
1944年、吉野善介氏が岡山県阿哲郡哲多町（現新見市）でシャジンの一種を採集し、牧野富太郎氏に送られた。牧野氏はツルシャジンとした。1921年、小坂弘氏は岡山県阿哲郡野馳村（現新見市哲西町）で同種を採集され、京都大学に送られた。京都大学では、新種としてアテツシャジンと命名したが、その後ヤチシャジンとされた。

主要文献

中原・羽賀（1983）、難波（1993）、大橋ほか編（2017b）
（浅井幹夫・地職 恵）



撮影：浅井幹夫



シデシャジン

Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.

被子植物 真正双子葉類 キキョウ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北部の一部に知られるのみで、集団数、個体数ともに少ない。人里近くの草地や林縁に生える集団は、適度の草刈りが繰り返されることで生存できている可能性が高いが、草刈りが行われなくなったり、道路の拡幅工事などが行われたりすると存続が危うくなる。

存続を脅かす要因

産地局限、道路工事、業者・マニア採取、管理放棄

分布状況

岡山県では新見市と真庭市に希に分布する。国内では本州と九州に分布し、山野の林縁などに生育している。

生育状況

高さ30～100cmになる多年草。茎は直立し、毛を散生する。茎葉は互生、葉身は卵形から長だ円形、長さ4～10cm。花期は7～8月。花は青紫色、茎頂と上部の葉腋に総状花序につく。花冠は基部まで5裂し、裂片は線形で平開し、先は反り返る。さく果は偏球形で径5～6mm。

関係法令の指定状況

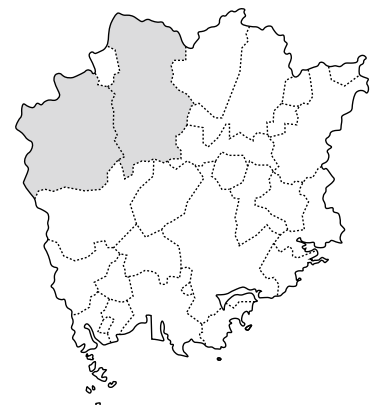
「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）
（狩山俊悟・地職 恵）



撮影：狩山俊悟



バアソブ

Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

被子植物 真正双子葉類 キキョウ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県西部のごく限られた場所に生育するが、集団数、個体数ともに少ない。適度な草刈りを継続しなければ、ほかの植物に覆われてしまう。ため池の堤防に生えているものは、改修工事とともに姿を消してしまう恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、草地開発、管理放棄、その他（ため池改修）

分布状況

岡山県では新見市と高梁市のごく一部に生育し、日当たりのよい草地や林縁に生えている。国内では北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、希である。



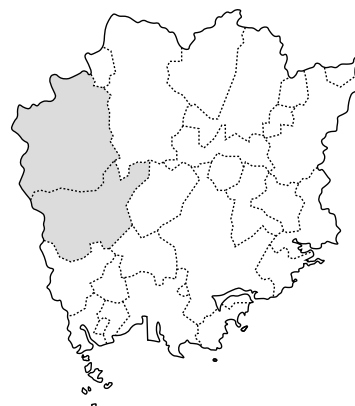
撮影：狩山俊悟

生育状況

多年生のつる草。茎は白毛を散生し、若いときは特に多い。葉は互生、短枝では3～4枚がつき、裏面に白毛が密生する。花期は8月。花冠は鐘形、長さ20～25mm。さく果は偏球形、径10～13mm。種子は長だ円形、濃褐色で光沢があり、翼がない。同属のソルニンジンは、葉の裏面が有毛、種子は褐色で光沢がなく、片側に翼がある。

主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）
（狩山俊悟・地職 恵）



ミツガシワ

Menyanthes trifoliata L.

被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地の水湿地の乾燥化などにより、急激に生育環境が悪化しつつあり、県下最大の群落が消滅するなど、危機的な状況にある。

存続を脅かす要因

産地極限、動物食害（シカ）、湿地開発、その他（湿地の乾燥化）

分布状況

岡山県内では真庭市（蒜山地域）の数カ所の湿地にのみ分布。県外では北海道、本州、九州に分布するが、西南日本では生育地は極めて少ない。国外では北半球に広く分布する。



撮影：片岡博行

生育状況

水湿地や浅い沼などに生育する多年草。根茎は緑色で太く、水面下あるいは泥中を横にはう。根出葉は長い柄があり3小葉を持つ。小葉は無柄で長さ4～12cm、幅2～8cm、卵状楕円形。質は厚く、鈍い鋸歯がある。花期は岡山県では4～5月。花は高さ20～40cmの花茎に総状につき白色、花冠は5深裂し、裂片の内面には白毛が密生する。さく果は球形で直径5～7cm、2裂する。

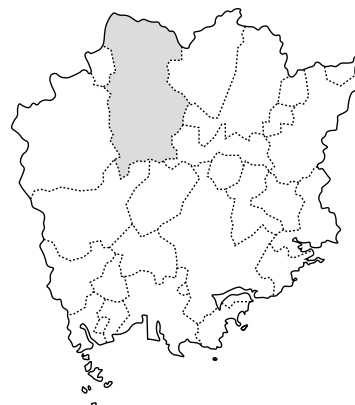
蒜山地域のある集団は2006年頃には個体数、生育面積ともに県下最大であったが、2015年頃には生育する湿原の乾燥化などにより、ほぼ消滅した。他の場所の集団もシカによる食害が心配される。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園および氷ノ山後山那岐山国立公園の指定植物である。

主要文献

門田（2013）、角野（1994、2014）、大橋ほか編（2017b）
（片岡博行）



ヒメシロアサザ

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

県内では南部の水田や休耕田、用水路などに生育することが多く、農薬散布、稲作様式の変化、宅地化など様々な要因によって生育状況が悪化している。

存続を脅かす要因

池沼開発、河川開発、ほ場整備、水質汚濁、農薬汚染（除草剤使用）、動物食害（アメリカザリガニなど）、その他（水田の宅地化）

分布状況

岡山県内ではおもに南部の水田地帯周辺にまれに分布する。県外では本州、四国、九州、沖縄に分布する。国外では朝鮮半島、台湾、中国、ベトナムに分布。

生育状況

ため池、水田などに生育する1年生または多年生の浮葉植物。葉はガガブタに似て円心形～卵心形、より小形で長さ2～6cm、幅2～4cm。表面は紫褐色の斑状模様があることが多く、裏面は淡赤紫色で微小な腺点がある。花期は7～9月。葉柄の基部から長さ1～3cmの花柄を伸ばし水面すれすれに、径8mmほどで花冠の裂片の縁だけに毛がある白色花を咲かせる。結実は大変よく、果実は長楕円形で長さ3～5mm、種子は多数がつまっている。

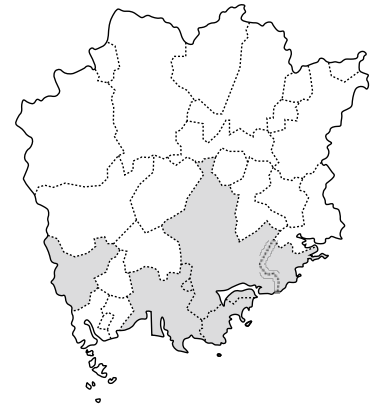
岡山県内では、水田のほか、浅く流れが穏やかな川岸や用水路などにも生育するが、地域によっては水田が埋め立てられ、宅地化されるなどして生育地が減少しつつある。

主要文献

榎本ほか(1995)、角野(2014)、狩山・榎本(2001)、狩山ほか(2008)、大橋ほか編(2017b)、矢原ほか(2015)、山下ほか(2010)
(片岡博行・小島裕子)



撮影：小島辰三



ガガブタ

Nymphoides indica (L.) Kuntze

被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科 ●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

ため池の改修工事や水質汚濁により、生育地が著しく減少している。栄養繁殖のみを行う集団では、一度消滅すると休眠種子からの再生は望めないため、生育環境の一時的な悪化も致命的である。コイやアメリカザリガニ、ヌートリア等による食害も危惧される。

存続を脅かす要因

水質汚濁、池沼開発、管理放棄（ため池）、動物食害

分布状況

岡山県内では、中部と南部のため池にまれに分布する。県外では本州、四国、九州に分布するが、多くの都府県でレッドデータ種とされており、絶滅とされている場合も多い。

生育状況

池沼に生育する多年生の浮葉植物。茎は細くて長く、1～3個の葉をつける。葉は卵状円形で径7～20cm、縁はアサザのような波状にはならず全縁、基部は深い心形。花期は7～9月、花は葉柄の基部に多数束生し、水上に開花する。花冠は径15mmで白色、5裂し、内面全面に長白毛がある。夏から秋にかけて葉柄の基部に細いバナナ状の殖芽を形成する。短花柱花が咲く株と長花柱花が咲く株があり（異型花柱性）、両方の花が混生する集団でなければ結実しない。

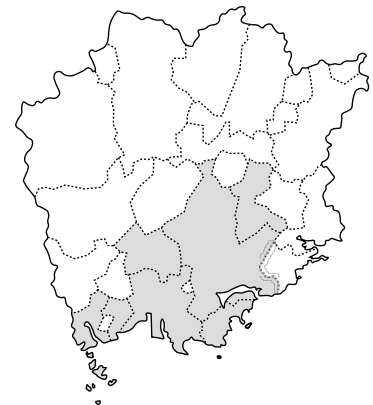
岡山県内での2018年の調査では、過去に記録があった9地点のうち、生育が確認できた地点は4地点のみであったという（末長晴輝氏私信）。

主要文献

榎本ほか(1995)、角野(2014)、狩山・榎本(2001)、大橋ほか編(2017b)、矢原ほか(2015)
(片岡博行・小島裕子)



撮影：小島辰三



アサザ*Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze

被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

生育地の開発や水質の悪化などにより自生地が激減していることに加え、移入の可能性のある集団もしばしば見られ、遺伝子汚染の恐れに加え、外部形態上、岡山県在来のものと区別できないことから、保全上問題となっている。

存続を脅かす要因

池沼開発、河川開発、水質汚濁、業者・マニア採取、その他（移入による遺伝子汚染、在来個体群との競合）

分布状況

岡山県内では南部（岡山市、倉敷市、浅口市）に分布するが、開花が見られる集団は岡山市のみ。国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。全国各地で他地域からの移入、あるいは栽培個体の逸出と思われる集団が存在することが報告されている（上杉ほか、2009・藤井ほか、2015）。

生育状況

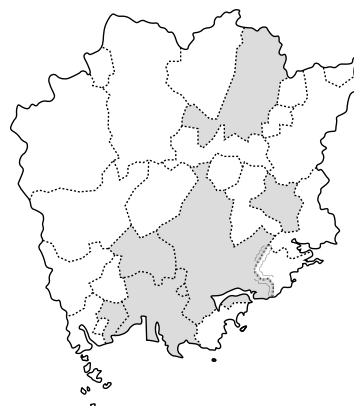
池沼に生育する多年生の浮葉植物。根茎は泥の中をはい、太く長い茎をだす。葉は長い葉柄があり、卵形または円形で径5～10cm、基部は深い心形、縁に波状歯牙がある。花期は6～8月。花は黄色で径3～4cm、5深裂し、縁に毛が顕著。異型花柱性をもち、複数の花型が混在する集団でのみ結実するが、多くの集団は単一の花型のみとなっている。また倉敷市、浅口市の集団を含めて、開花が見られない、または開花がきわめて稀な集団も各地に存在する。

主要文献

榎本ほか（1995）、藤井ほか（2015）、林（2013）、角野（2014）、狩山・榎本（2001）、大橋ほか編（2017b）、上杉ほか（2009）、矢原ほか（2015）
（片岡博行・小島裕子）



撮影：小島辰三

**ノコギリソウ***Achillea alpina* L. var. *longiligulata* H.Hara

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内では、北部の山地草原の、ごく狭い範囲にのみ生育し、個体数は少ない。人為的に管理された草地であるため、管理されなくなり、植生の遷移が進めば消失する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、自然遷移、管理放棄

分布状況

県内で生育が確認できているのは北部の1カ所。倉敷市での現状は不明。日当たりの良い草原に生育する。県外では北海道、本州に分布する。

生育状況

山地の草原に生育する多年草。茎は高さ50～100cm。葉は互生し、くしの葉状に中～深裂する。裂片には鋭鋸歯があり、無柄で基部はやや茎を抱く。花期は7～9月。茎頂に密な散房花序をつくり、頭花は径1cmほど。5～7個の白色の舌状花をつける。庭にも植えられ、ときに逸出したものもみられるため、自生かどうかの判断がつきにくい。

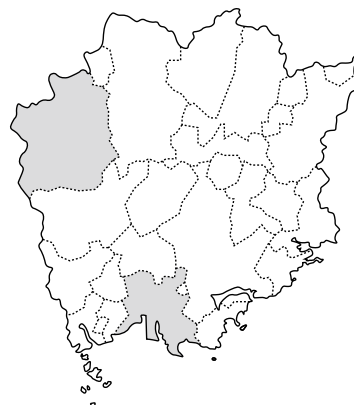
主要文献

畔上（1996）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



ヌマダイコン*Adenostemma lavenia* (L.) Kuntze

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

谷の出口などの堆積と浸食がある、半日陰の湿った場所に生育する。適度な人為的干渉のある場所に生えるものは、遷移による影響を受けやすく、徐々に減少しつつあるように思われる。ただちに絶滅することは無いが、状態には十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

湿地開発, 自然遷移, 土地造成 (農地造成)

分布状況

本州 (関東地方以西), 四国, 九州, 琉球に分布。岡山県南部, 中部の湿地や, 山間の水田の溝などに生育が見られるが少ない。



撮影：難波靖司

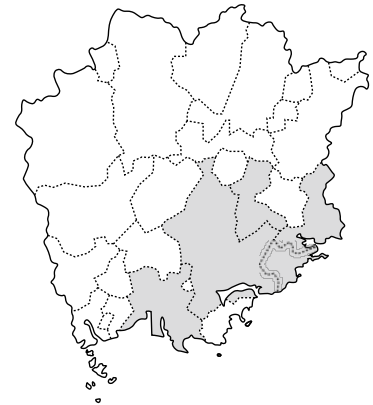
生育状況

半日陰の湿地や水辺に生育する多年草で、葉の質が大根に似ていることによる。茎は高さ30～100cm。葉には長い柄があり、卵形または卵状長楕円形で対生、縁には鈍い鋸歯があり、両面にまばらな短毛がある。花は9～11月に咲き、まばらな散房状に白い頭花をつける。冠毛は粘液をだして動物などにくっつく。

主要文献

北村ほか (1957), 大橋ほか編 (2017b)

(波田善夫)

**クサヤツデ***Ainsliaea uniflora* Sch.Bip.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

山地の岩場や急傾斜地の林内に生育している。伐採などで少しでも生育環境が変化すると、消滅する危険性が高い。

存続を脅かす要因

森林伐採, 自然遷移, 業者・マニア採取

分布状況

県北東部の奈義町などでは夏緑広葉樹林やヒノキ植林の林内や林縁に見られる。林内にあった群生地はヒノキ林の皆伐により株数が激減した。岡山県で最初に標本が採集された場所は絶滅した。林内にあった群生地はヒノキ林の皆伐により株数が激減した。県外では本州 (神奈川県以西～近畿地方の太平洋側), 四国, 九州に分布し、森林の林床に生育する。



撮影：地職 恵

生育状況

高さ40～100cmになる多年草。地下茎は短く横にはう。葉は茎の基部に集まり、長い柄のある掌状の葉を多数束生する。葉身は円形、長さ6～14cm、基部は心形となり、掌状に中裂、裂片は5～7個、先はさらに浅裂し縁に低い鋸歯がある。花期は9～10月。頭花は花茎の先に円錐花序をつくって多数が下向きに開花する。花冠は5裂し、暗紫色、細い枝も紫色を帯びている。

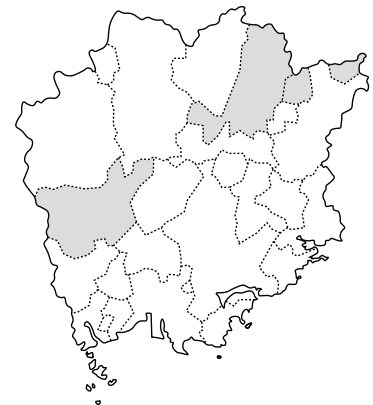
関係法令の指定状況

「自然公園法」による水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編 (2017b), 大久保 (1999)

(高山敬三・狩山俊悟)



チョウジギク

Arnica mallotopus Makino

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では、群落が確認された所もあるが、ごく限られた範囲で、個体数も少ない。50年ほど前に採集された所のものは環境が変わり、確認できないなど、注意深く推移を見守る必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限、河川開発、道路工事、業者・マニア採取、自然遷移

分布状況

岡山県では北部の日本海側の影響が及ぶ山地で希に見られる。開けた環境で、多少とも日が差し込む沢沿いの岩上、湿った草地などに生える。県外では本州（青森県～鳥取県、日本海側地域に偏る）、四国（剣山）の深山の多湿の斜面に生育する。



撮影：地職 恵

生育状況

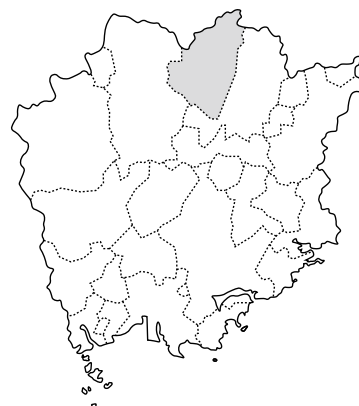
茎は直立し、高さ20～70cmの多年草。茎の上部にはちぢれた毛が多く、葉は対生して長楕円形、先はとがり、縁に細かい鋸歯がある。花期は8～9月。頭花は茎頂に数個つき、柄は長くて密に白毛があり、横向きに咲く。頭花には舌状花がなく、すべて筒状の両性花で、花冠は黄色。花は地味で印象に薄いのが、白くて太く長い花柄が印象に残る。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（地職 恵）



フクド

Artemisia fukudo Makino

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

干潟や河口が開発され、生育地が減少した。

存続を脅かす要因

海岸開発、河川開発

分布状況

本州（近畿地方以西）、四国、九州の海岸に分布する。岡山県内では東部の河口付近や干潟に生育しているが、西部ではほとんど見られなくなっている。



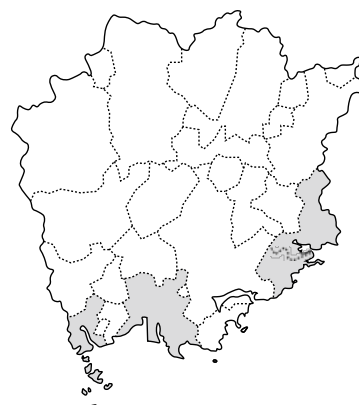
撮影：榎本 敬・難波靖司

生育状況

二年草で全体に強いメロンのような香りがする。根出葉はロゼット状であるが、花時には枯死する。2～3回掌状に深裂し裂片は線形、円頭、幅2mmで、質が厚い。上葉は互生し、3裂または線形で全縁、幅5～7mm。そう果は長さ1.5～2mm。花期は9～12月。塩水につかる位置に生育する近縁種はない。海岸に生えるカワラヨモギは葉の裂片の幅がずっと細い。

主要文献

榎本（1998）、狩山ほか（2008）、大久保（1999）、津坂ほか（2007）
（榎本 敬）



ヒロハヤマヨモギ*Artemisia stolonifera* (Maxim.) Kom.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県内における生育地は限られており、生育地となる半自然草地の減少や植生の変化により個体数を減らしている。

存続を脅かす要因

管理放棄、草地開発

分布状況

県内では、新見市、新庄村、真庭市の中国山地沿いに希に生育する。県外では本州（中国地方）、九州に分布する。

生育状況

山地の乾いた草地に生える高さ50～100cmの多年草。長く地下茎を伸ばし、先に新苗をつくる。茎の中部の葉は長さ7～14cm、幅4.5～8cmの卵形または卵状長楕円形、羽状に浅～中裂する。裏面は綿毛があって灰白色、基部は翼のある短い柄となる。花期は8～10月。頭花は狭い円錐花序に多数つき、幅3～4.5mmの鐘状球形。総苞片は3列、覆瓦状に並ぶ。そう果は長楕円形、長さ1.8mm、幅0.6mm。大陸系の植物で寒冷期に朝鮮半島から九州北部・中国地方に分布を広げたとされる。

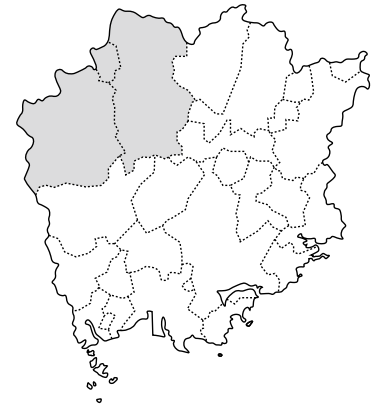
主要文献

畔上 (1996)、北村ほか (1957)、大橋ほか編 (2017b)

(片岡博行)



撮影：片岡博行

**コバナガンクビソウ***Carpesium faberi* C. Winkl.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

個体数が極めて少なく、希にしか生育しない。環境の変化などでは容易に消失してしまうことが考えられる。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、道路工事、自然遷移

分布状況

岡山県内では中部、北部の山地の樹下に希に生育する。県外では本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

茎は高さ50～70cmになる多年草で、軟毛を密生、上部は多くの枝を出す。葉の基部は短いくさび形で急に細くなり、葉柄に翼はない。花期は8～10月。枝の先に點頭する頭花をつけ、基部に頭花より長い苞葉がある。花冠は汚れた黄色。別名、バンジンガンクビソウ。

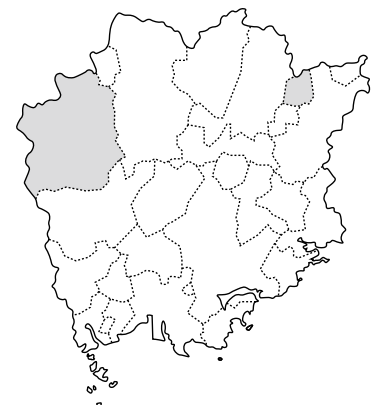
主要文献

畔上 (1996)、北村ほか (1957)、大橋ほか編 (2017b)、大久保 (1999)

(地職 恵)



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ノジギク

Chrysanthemum japonense (Makino) Nakai

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県内に知られている産地はほぼ2カ所のみ。

存続を脅かす要因

産地局限, 海岸開発, その他 (遺伝的攪乱)

分布状況

県内：南東部の海岸, 南部の低地。なお, 岡山市では栽培キクとの交雑体と思われるものが採集されている。

県外：本州 (兵庫県・岡山県・広島県・山口県) の瀬戸内海沿岸, 四国 (高知県・愛媛県) 沿岸, 九州 (大分県・宮崎県・鹿児島県) 沿岸。



撮影：狩山俊悟

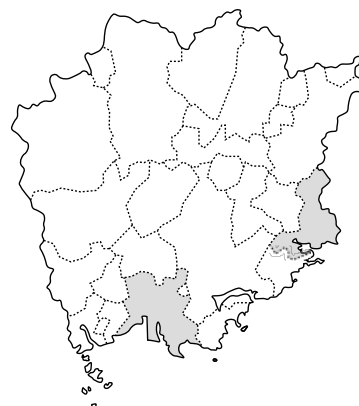
生育状況

海岸に生じる多年草。長い地下茎を伸ばしてふえる。地上茎は斜上してよく分枝する。葉は有柄, 葉身は広卵形, 通常5中裂, ときに3中裂し, 鈍鋸歯縁, 表面は緑色, 毛を散生, 裏面は丁字状毛を密生して灰白色, やや革質。頭花の総苞片は3列, 外片は円頭, 内片よりも明らかに短い。頭花は直径3~4.5cm, 周辺花の1 (~2) 列は舌状, 中央に筒状花が並び, 舌状花冠は10~20mm, 白色, 淡桃色, 希に淡黄色。花期は10~12月。栽培キクとの交雑による遺伝的攪乱が懸念される。

主要文献

Iwatsuki *et al.* (eds.) (1995), 北村ほか (1957), 牧野 (2008), 大橋ほか編 (2017b), 大井 (1992)

(山下 純)



ウスバアザミ

Cirsium tenue Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由

生育地がきわめて限られている。

存続を脅かす要因

森林伐採, 自然遷移, 道路工事 (林道工事)

分布状況

中国地方 (岡山県, 広島県) の特産。岡山県では中部, 北部の山地林内に自生するが少ない。

生育状況

山地の草原に希な多年草。茎は高さ100~150cm。茎葉は薄く羽状中裂, 茎を抱かず, 刺針は太い。花期は10~11月でそのころには根生葉はない。頭花は穂状につき淡紅紫色で, 総苞は筒状でひどく粘る。

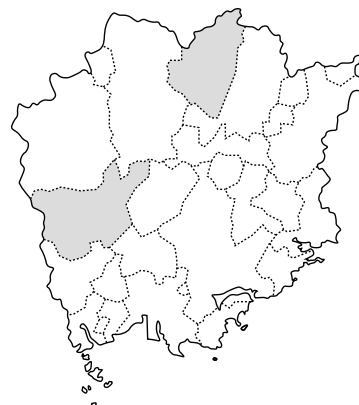


撮影：小島辰三

主要文献

狩山・榎本 (1998, 2001), 難波 (1993), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



サンベサワアザミ*Cirsium tenuisquamatum* Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

全国的にも中国地方のみに産地が局限されており、岡山県内における生育数もわずかである。生育環境が悪化すればただちに絶滅に瀕する可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限，河川開発，管理放棄

分布状況

県内では新見市と真庭市のごく一部で生育が見られる。県外では本州（鳥根県，鳥取県，広島県）に分布する。

生育状況

山間の川岸のやや湿った場所に生える多年草。茎は高さ30～100cmで、くも毛があり分枝する。根出葉は花時にも残り、長さ25～50cm、幅12～20cmの狭楕円形、質はやや薄く、刺針は少ない。花期は10～11月。茎頂に径5cmほどの大型の花が少数點頭して咲き、淡紅紫色、総苞は幅2～3cmで質薄く、細長くて開出斜上し、くも毛がある。頭花は花後に直立する。頭花の基部には2～3枚の苞葉がある。

関係法令の指定状況・特記事項

和名は基準標本産地である鳥根県の三瓶山に由来する。「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

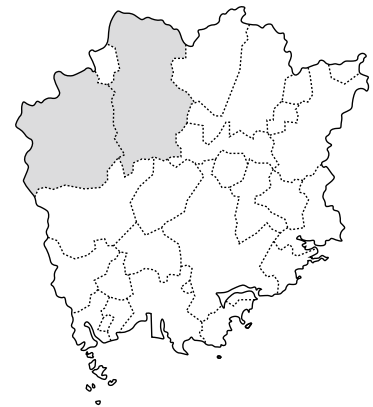
主要文献

北村ほか（1957），大橋ほか編（2017b），鳥根県生活環境部景観自然課編（2004），鳥取県自然環境調査研究会編（2002）

（片岡博行）



撮影：三好 薫

**アゼトウナ***Crepidiastrum keiskeanum* (Maxim.) Nakai

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

産地がきわめて限られている。

存続を脅かす要因

海岸開発，産地局限

分布状況

本州（紀伊半島～伊豆半島），四国，九州（宮崎県・大分県）の海岸岩場に生える。太平洋岸に分布する植物として知られていたが、岡山県では、2001年に瀬戸内海に面した笠岡市の島に隔離分布しているのが発見された。

生育状況

多年草で茎は太くて短く、ロゼット状に根葉を叢生する。枝はほふく状に地上を伸張し、先端にロゼット状の根葉と花茎をつける。葉は互生し、長さ3～10cm、幅1～2cmで鈍鋸歯がある。頭花は黄色で径1.5cm程度。総苞は8mm、内片は7～8mm。そう果は紡錘形で黒褐色、長さ4mm、太さ0.8mmで、冠毛の長さ4.5mmである。花期は10月。近縁種のホソバワダンは葉の基部が茎を抱き、日本海側に分布し、瀬戸内海での記録はない。

特記事項

過去における瀬戸内海での記録もなく、隔離分布の様子など学術上の価値が高い。

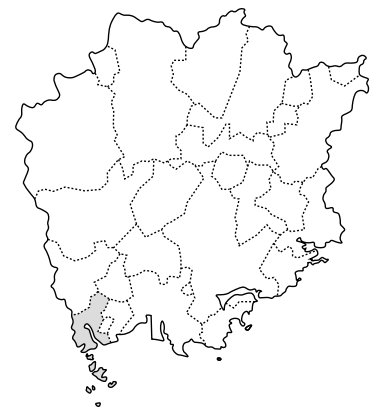
主要文献

大橋ほか編（2017b）

（榎本 敬）



撮影：榎本 敬



ナガバヤクシソウ*Crepidiastrum yoshinoi* (Makino) J.H.Pak et Kawano

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

選定理由

石灰岩の露頭に生育するため、景勝地などでは人為の影響を受けやすい。ただちに絶滅する心配はないが、今後、十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

道路工事（林道工事）、土地造成、その他（景勝地の開発、観光開発）

分布状況

本州（岡山県西部、広島県東部）に分布する。岡山県では主として中西部の石灰岩地に自生。

生育状況

岡山県の石灰岩地に特産する多年草。茎は高さ7～43cm。葉は長柄があり、長さ5～20cm、葉身は楕円形～倒卵状長楕円形。花期は8～10月。総苞は狭い円柱形で、長さ7.5～8mm。内片は5個。小花は5個ある。そう果は褐色、長さ4mm、先は0.5mmの喙となり、面に10～12肋がある。冠毛は汚白色で長さ3.5mm。

特記事項

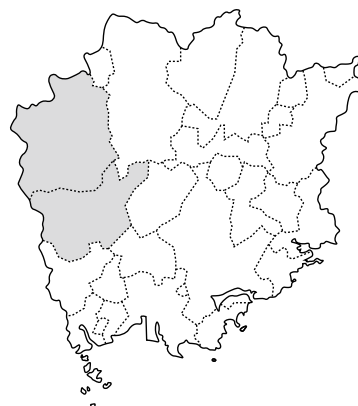
岡山県高梁市（旧成羽町）で、吉野善介氏により採取された標本（1909）が元となり新種発表された。『環境省レッドリスト2017』では和名がイワヤクシソウとされている。

主要文献

北村ほか（1957）、難波（1993）、大橋ほか編（2017b）
（池田 博・難波靖司）



撮影：狩山俊悟

**ヒゴタイ***Echinops setifer* Iljin

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由

岡山県では1カ所からのみ標本が得られているが、その後50年以上にわたって新たな標本も生育情報も得られていない。

分布状況

1950年に岡山県北西部の鳥取県との県境に近い場所で採集された標本が倉敷市立自然史博物館に収蔵されている。岡山県中部（高梁市備中町）に生育するとの情報があったが、同属のルリタマアザミの誤認であった（大久保，1999）。県外では本州（愛知県、岐阜県、鳥取県、広島県、山口県）、九州（長崎県、大分県、熊本県）に分布し、低地から山地の乾いた草原に生育する。

生育状況

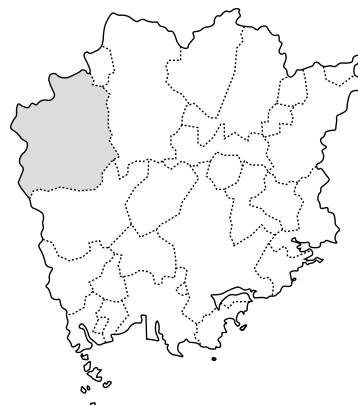
高さ1～2mになる多年草。茎は直立し、くも毛と褐色の長毛がある。根生葉は楕円形～倒披針状楕円形、2回羽状深裂し、縁に短い刺針がある。茎葉も羽状深裂し、根生葉とともに裏面にはくも毛があつて雪白色となる。花期は8～10月。頭花は1個の小花からなり、茎頂または枝先に多数が集まって直径4～5cmの球形の花序となる。小花は瑠璃色。

主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

田の畦や周辺の刈上げ地の半自然草地に生育することが多いが、開発や管理停止などによる草地の減少とともに数を減らしている。

存続を脅かす要因

草地開発, 管理放棄, 河川開発, 湿地開発

分布状況

岡山県内では南部を中心に、中部、北部にも点在して分布。県外では本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

日当たりのよい河川敷や川岸・湿地周辺などの草地に生育する多年生草本。群生し、茎は硬く直立し高さ1～1.5m、下部は無毛。葉は対生し普通3深裂し、裂片は長楕円形で長さ8～13cm、鋭歯があり葉柄は短く、表面に光沢がある。花期は8～9月。花は白っぽい紅紫色で頭花は枝の先に散房状に多数つく。総苞は長さ7～8mm、総苞片は約10個、5個の小花がある。そう果は長さ3mm。茎や葉にクマリンと呼ばれる有香成分があり、強い香りがする。

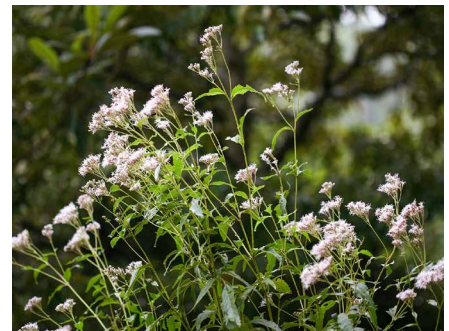
特記事項

近年、フジバカマの名で販売・栽培されているものは、野生の型に比べて小型で葉の裂片が細く、花色が濃いなどの違いが見られ、コバノフジバカマ (*E. fortunei*) として区別することもあるが、大橋ほか編 (2017b) は別種とするのは難しいだろうとしている。

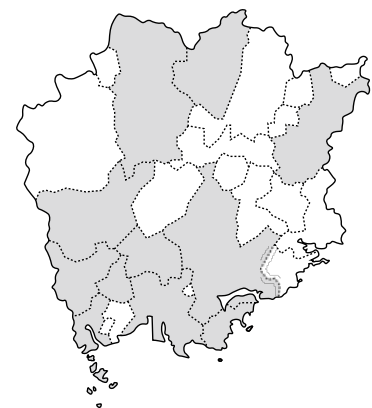
主要文献

林 (1989), Iwatsuki *et al.* (eds.) (1995), 北村ほか (1957), 村田・小山 (1982), 大橋ほか編 (2017b)

(片岡法子)



撮影：西本 孝



ヤナギタンポポ

Hieracium umbellatum L.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地の植生の変化により生育環境が悪化しつつあり、それに伴って生育数も減少しつつある。

存続を脅かす要因

草地開発, 管理放棄, 自然遷移, 帰化競合

分布状況

岡山県内では高梁市、新見市、新庄村、真庭市で採集された標本があるが、生育数は少ない。県外では北海道、本州、四国に分布する。

生育状況

山地のやや湿った草地に生える多年草。茎は高さ30～120cm、上部は短い毛と星状毛が密生する。根出葉や株の葉は花時には枯れる。茎葉は長さ4～12cm、幅5～12mmの細い披針形で多数互生し、ややかたくてざらつく。ふちには少数の鋭い鋸歯があるか、または全縁、先はとがる。花は8～9月、舌状花のみからなる径2.5～3.5cmの黄色の頭花を茎の先に散房状または円錐状に数多くつける。総苞は鐘形で先は開出またはそり返る。そう果は黒褐色で冠毛は長さ約7mm。

関係法令の指定状況・特記事項

自生地の一部で、帰化植物のブタナとの競合が見られる。「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

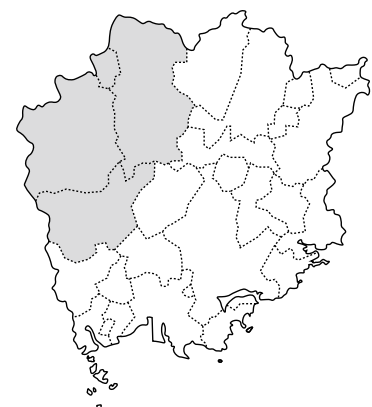
主要文献

畔上 (1996), 北村ほか (1957), 大橋ほか編 (2017b)

(片岡博行)



撮影：片岡博行



カセンソウ

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

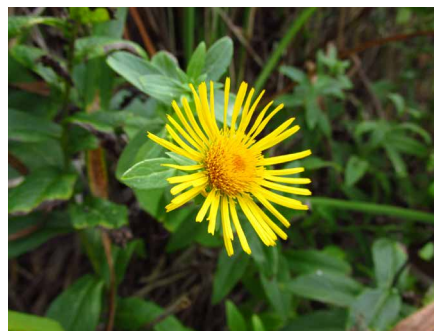
適度に草刈りが行われる草地に生えることが多いが、草地の利用が減るにつれ、草地が他の用途に転用されたり、他の植物に覆われたりして、しだいに目にする機会が減っている。

存続を脅かす要因

草地開発，土地造成，管理放棄

分布状況

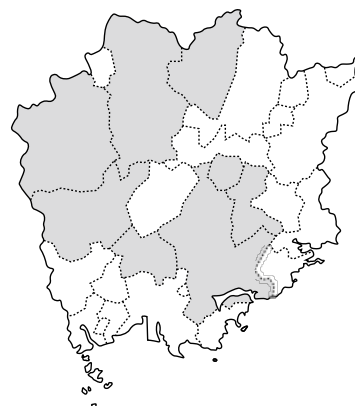
岡山県中部を中心に分布し、人里近くの草地や雑木林の明るい林内、山地の草原などに生える。県外では、北海道、本州、四国、九州に分布し、日当たりのよい草地や湿地に生える。



撮影：狩山俊悟

生育状況

高さ40～80cmになる多年草。茎は直立し、上部で分枝する。根生葉は花時に枯れる。茎葉は洋紙質でかたく、縁に凸状の小歯芽があって、裏面は細脈が浮き出る。花期は7～9月。頭花は茎頂と枝先につき、直径3.5～4cm。総苞は半球形、総苞片は4列に並ぶ。花冠は黄色、周辺の舌状花は雌性、中央の筒状花は両性。そう果は無毛。同属のオグルマは、葉が草質でやわらかく、細脈は目立たず、そう果は有毛。



(狩山俊悟)

主要文献

北村ほか (1957), 大橋ほか編 (2017b)

ホンバニガナ

Ixeridium beauverdianum (H.Lév.) Springate

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

岡山県内における産地は数カ所のみで、生育個体数も少ない。生育環境が悪化すれば絶滅に瀕する可能性が高い。

存続を脅かす要因

湿地開発，土地造成，自然遷移，産地局限

分布状況

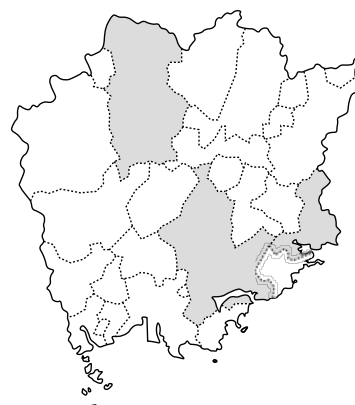
県内では岡山市，備前市，真庭市の数カ所でのみ、採集された標本がある。県外では本州（関東以西），四国，九州にまれに分布。



撮影：難波靖司

生育状況

湿地やため池のふちなど、湿り気のある日当たりのよい草地に生育する希な多年草。茎は直立し高さ16～65cmになり、上部は分枝する。根出葉は緑白色で無毛、長さ5～12cm、幅3～8mmの線状披針形。茎葉はふつう3個つき、線状披針形で基部は茎を抱かない。花は4～10月、茎の上部に散状に多数咲く。頭花は小型で径6～7mm、黄色。小花は5～6個。総苞は細く、開花時に長さ4～5mm、幅約1mm。そう果は褐色、長さ3～4mm、冠毛は汚白色。



(片岡博行)

主要文献

北村ほか (1957), 大橋ほか編 (2017b)

タカサゴソウ*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県内では南部から北部まで確認されているが、草地の植生遷移、道路開発などで、本種が生育できるような環境が減少している。もともと個体数が少ないこともあって、見かけることが少なくなった。

存続を脅かす要因

自然遷移、草地開発、道路工事

分布状況

県内では南部から北部まで広く点在する。県中部を中心に、草地、道端、林縁、山頂などの比較的日当たりのよい乾いた草地で見られる。県外では本州、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ20～50cmの多年草。根生葉は長さ8～24cmで、歯牙または切れ込みがあるものや、全縁のものまで変化が多い。茎葉は互生する。花期は4～7月。上部の枝先に、径2cmほどの頭花をつける。舌状花は白色で、淡い紫色のふちどりがあり、帯紫白色に見える。

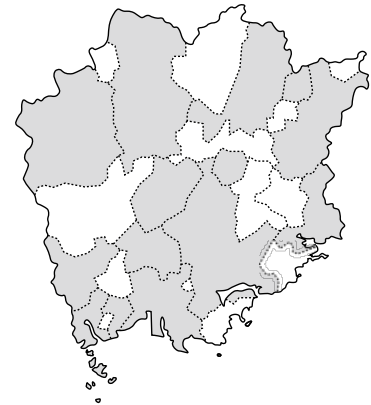
主要文献

林(1989)、北村ほか(1957)、中原・羽賀(1982)、大橋ほか編(2017b)、大久保(1999)

(地職 恵)



撮影：地職 恵

**ハマニガナ***Ixeris repens* (L.) A.Gray

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

砂浜の開発によって生育地そのものが減少している。また海水浴場として利用されている場合には除草される危険性がある。

存続を脅かす要因

海岸開発

分布状況

北海道、本州、四国、九州、琉球の海岸に生える。岡山県内では、南部の笠岡市などの砂地の海岸に生育している。

生育状況

多年草で茎は長く地中をはい、葉と花だけを地上に出す。葉は互生し、長柄があり、やや厚く、三～五角状心形で3～5深裂する。頭花は黄色で径3cm。総苞は長さ10mm程度。そう果は5mm程度で約1mmのくちばしがある、冠毛は白色で長さ6mm。花期は6月。近縁種のオオジシバリも海岸砂地に生育することがあるが、葉やそう果のくちばしが長いことなどで区別される。

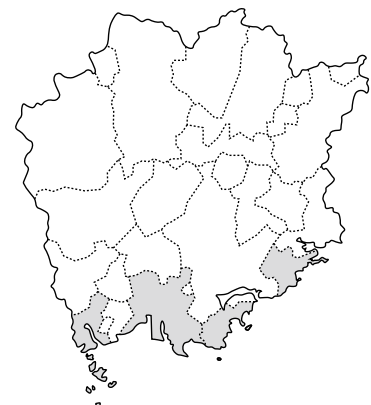
主要文献

榎本(1998)、狩山(1990)、大久保(1999)

(榎本 敬)



撮影：小島辰三



コケセンボンギク

Lagenophora lanata A.Cunn.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅 ●環境省：絶滅危惧ⅠA類(CR)

選定理由

50年以上にわたって生育情報が得られず、絶滅したと思われる。

分布状況

岡山県では大久保(1999)が「日生町(現備前市)鹿久居島に昔たくさん自生していたのは確かだが、絶滅したようだ」と記しており、現在も新たな生育情報は得られていない。県内：絶滅。県外：本州(広島県宮島)、九州、琉球に分布する。

生育状況

海岸の砂地などに生育する小さい多年草。花茎は高さ3.5～12cm、細くて分枝しない。根生葉はロゼット状で軟毛を密生する。花期は7～10月。頭花は白色で小型、茎頂に単生し、総苞は長さ2.5mmで無毛。舌状花は3列。筒状花は少数で実を結ばない。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

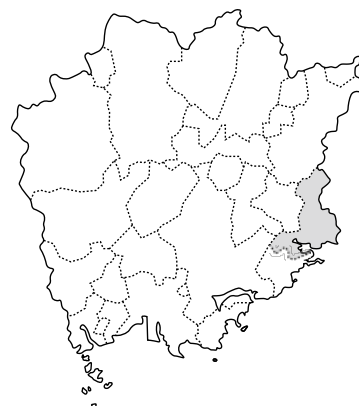
主要文献

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(1997)、北村ほか(1957)、牧野(2008)、大橋ほか編(2017b)、大久保(1999)

(地職 恵)



撮影：狩山俊悟



ミコシギク

Leucanthemella linearis (Matsum.) Tzvelev

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

山間の湿地に点在するが、湿地周辺の森林伐採等により生育地が悪化している。

存続を脅かす要因

湿地開発、森林伐採、自然遷移

分布状況

県内：北部、中部。県外：本州(茨城県以西)、九州。

生育状況

日当たりのよい湿地に生える多年草。地下茎が横に伸びて先端から新芽をだしてふえる。茎は高さ30～100cmになる。葉はふつう1～2対に羽裂し、裂片は狭く表面はばらつき、縁は裏面に曲がる。花期は9～11月。頭花は長柄があり白色で径3～6cm、総苞は長さ5～6cm、総苞片は3列に並び、ほぼ同長で円頭。

関係法令の指定状況・特記事項

1903(明治36)年、二階重楼氏は岡山県吉備郡大和村(現吉備中央町)において採集し、東京大学の中井猛之氏に送った。中井氏はミコシギクであることを二階氏に知らせ、これにより千葉県に次いで岡山県内自生がわかった。生育地の一つである鯉ヶ窪湿原は国指定天然記念物に指定されており、また「岡山県自然保護条例」による自然環境保全地域でもある。本種は同地域の中で保護すべき種に指定されており、採取等が禁止されている。

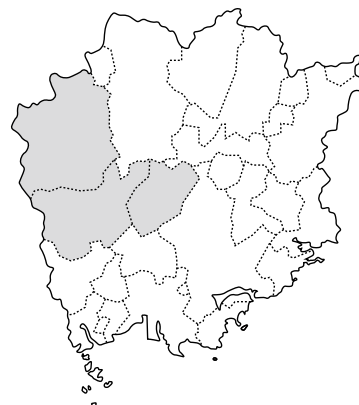
主要文献

畔上(1996)、難波(1993)、大橋ほか編(2017b)

(浅井幹夫)



撮影：浅井幹夫



マルバダケブキ

Ligularia dentata (A.Gray) H.Hara

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育場所が人為的に維持されてきた山地草原であることから、二次草原の減少や、管理放棄による草原の植生遷移が進行し、減少した。もともとの個体数も少なく、生育地に限られるため、まれにしか見られない。

存続を脅かす要因

管理放棄，草地開発，産地局限

分布状況

岡山県内では中国山地の山地草原や、尾根筋の草地でみられる。他の草に抜きん出て生育するためよく目立つ。県外では本州、四国（希）に分布し、中部地方から東北地方の山地の草原や林下には多く、西日本には少ない。

生育状況

茎は高さ80～120cm。根生葉は長い柄のある腎円形で、長さ、幅とも30～40cmになり、薄い洋紙質。茎葉は2個、葉柄の基部がふくれて茎を抱く。花期は7～8月。茎頂に大きな黄色い頭花を散房状につける。頭花は径8cm内外。

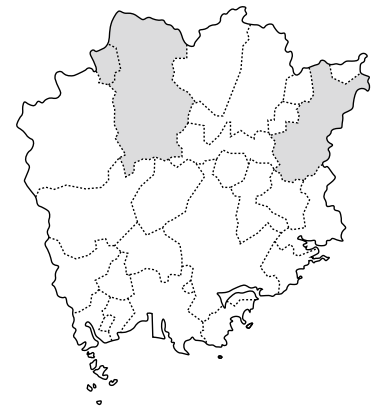
主要文献

畔上 (1996), 中原・羽賀 (1983), 大橋ほか編 (2017b), 大久保 (1999)

(地職 恵)



撮影：地職 恵



ネコノシタ

Melanthera prostrata (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

海水浴場として利用されているため、除草される危険性がある。岡山県では、2004年の台風16号によって玉野市の群落が絶滅し、その後回復が見られない。

存続を脅かす要因

海岸開発，その他（高潮による自然災害）

分布状況

海岸の砂地に生育し、本州（関東および北陸以西）、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布する。岡山県下では、南部の玉野市の1カ所のみで生育している。

生育状況

黄色い頭花をつける多年草で茎は地面を這う。茎の節から根を下ろして生える。葉は対生し、長楕円形で厚く、両面とも非常にざらつき、ネコの舌のようであることから名前がついた。そう果は長さ4mm、幅2.5～3mm、3～4稜形、先には剛毛が密にある。花期は8～11月。近縁種のクマノギクやオオハマグルマは葉がこれほど厚くなく、岡山県下では分布が知られていない。ハマグルマの別名は混乱を招く可能性があるため、使用しない方がよい。

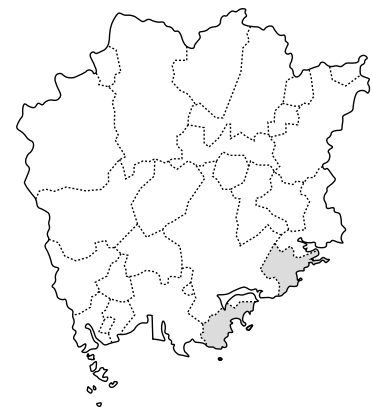
主要文献

榎本 (1998), 狩山ほか (1990), 大久保 (1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



オオモミジガサ

Miricacalia makineana (Yatabe) Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地は岡山県北部に点在し、集団数、個体数ともに少ない。岡山県北西部の自生地ではダム建設により産地の多くが消失した。周辺に残存する個体群の存続が懸念される。

存続を脅かす要因

ダム建設、森林伐採

分布状況

岡山県では北部の中国山地にまれに分布し、山地の沢沿いの夏緑樹林下に生育する。国内では本州（福島県以南）、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ50～80cmになる多年草。茎は葉とともに多細胞の縮れた毛が多い。下部の茎葉は大きく、円形、径25～35cm、掌状に中裂し、裂片はさらに2～3浅裂する。花期は7～9月。頭花は総状花序につき、点頭する。小花は淡黄色で、20個内外ある。そう果は熟すと先がくちばし状に細くなる。

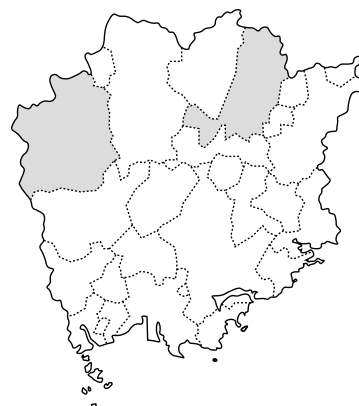
主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



フクオウソウ

Nabalus acerifolius Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地、個体数とも少ない。登山道沿いに生育する個体は、踏みつけによると思われる減少が見られる。生育環境の変化を含めて、十分な注意を払う必要がある。

存続を脅かす要因

産地局限、踏みつけ、森林伐採、その他（登山道の改修）

分布状況

岡山県内では、中国山地の夏緑林下に生育する。県外では本州、四国、九州に分布し、山地の木陰に生える。

生育状況

茎は直立し、高さ35～100cm。全体に開出する腺毛が多い。葉は茎の下部に集まり、円心形で掌状に3～7裂する。花期は9月。茎の上部に円錐状に、まばらに多数の頭花を咲かせる。頭花は横または下向きに咲き、径1.5cmほど。小花は9～13個。舌状花は紫白色で、裏面には黒い条がある。

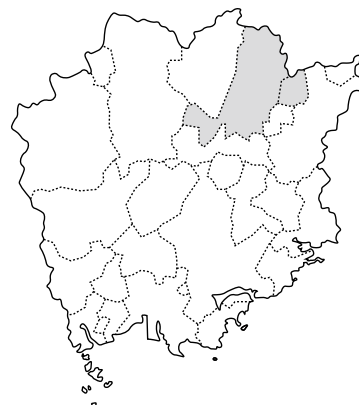
主要文献

畔上（1996）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



タイミンガサ*Parasenecio peltifolius* (Makino) H.Koyama

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

自生地が限られている上に、植林内の谷川沿いに生育するなど、環境変化の影響を直接的に被る可能性が高い。

存続を脅かす要因

森林伐採、産地局限

分布状況

県内：津山市ならびに勝田郡内のブナの自生地に近い高所で数カ所確認されている。勝田郡内の自生地2カ所はいずれも植林（ヒノキの50年以上）で、湿り気の多い谷川沿いである。

県外：本州（新潟県～兵庫県）に分布し、日本海型の分布をしている。



撮影：高山敬三

生育状況

深山の湿った谷間の林床に群生する大型の多年草。茎の高さは1.5 m前後になり、葉の上に突き出ている。上部の茎葉は小さいが、根葉は大きくて葉柄の長さは30～50cm、円形の葉身は径30～65cm、葉の縁は9～14個の裂片に分かれ、縁に不揃いの鋸歯がある。花期は9～10月。茎の端が枝分かれして円錐状に多数の頭花をつける。

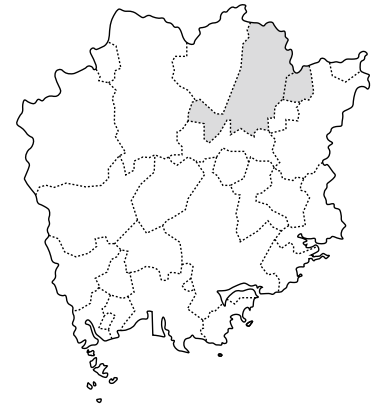
関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（高山敬三）

**ニシノヤマタイミンガサ***Parasenecio yatabei* (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. *occidentalis* (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では1919年に高梁市で採集されて以来確認情報がなく、岡山県版レッドデータブック（2003）では絶滅種となっていた。2007年に88年ぶりに第2の生育地が発見され、本種の生育が明らかとなった（地職、2008）。個体数も少なく、孤立した状態で生育しており、依然危険度は高い。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採

分布状況

県内の生育地は北部の1カ所のみで、谷沿いの湿った夏緑林下に点在する。県外では本州（岐阜県、愛知県、紀伊山地、中国地方）、四国、九州に分布する。

生育状況

高さ60～90cmになる多年草。下部の葉は長柄があり、茎を抱いて短く鞘となる。葉身は円形で掌状に中裂し、縁に微凸鋸歯を散生する。表面は無毛、裏面は脈に沿ってちぢれ毛がある。基部は深く心形となり、盾状につかないことでタイミンガサと区別される。花期は8～9月。頭花は円錐花序に多数つく。ヤマタイミンガサに似るが、本種は総苞片が3～4個、小花が2～4個になる。

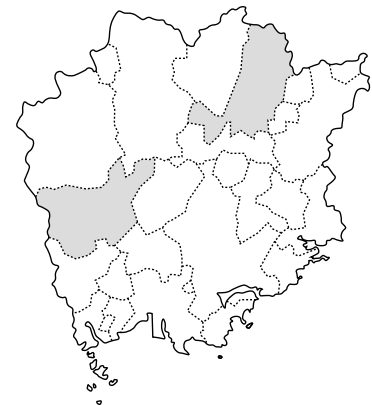


撮影：地職 恵

主要文献

地職（2008）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）

（地職 恵）



アキノハハコグサ

Pseudognaphalium hypoleucum (DC.) Hilliard et B.L.Burtt

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：絶滅危惧ⅠB類(EN)

選定理由

アキノハハコグサの生育環境は、人為的干渉が持続することにより成り立っている場合が多いようで、立地的には開発対象となりやすい。また目立たない植物であるため、現状が把握されないまま開発され、消失する可能性も高い。

存続を脅かす要因

草地開発，管理放棄

分布状況

本州，四国，九州に分布する。岡山県では北部，中部，南部の里草地に点々と自生している。

生育状況

やや乾いた山地林縁や里草地に生える一年草。花期は9～11月で、名前の通り，秋に咲くハハコグサである。茎はハハコグサより高く，30～60cmとなり，上部で分枝し，散房状に多くの頭花をつける。葉の基部が茎を抱く点も特徴である。

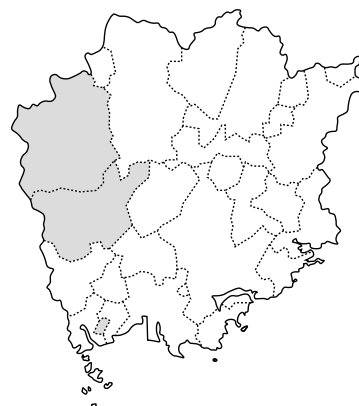
主要文献

北村ほか（1957），大橋ほか編（2017b）

（難波靖司）



撮影：三好 薫



ネコヤマヒゴタイ

Saussurea modesta Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では北西部の高所草原に分布している。生育地である草地や周辺森林の遷移や管理放棄により，生育環境が悪化している。もともと大きな集団は定期的に草刈りが行われてきた草原であり，手入れが行われなくなると他の植物に覆われて存続が危うくなる。

存続を脅かす要因

自然遷移，踏みつけ，管理放棄，草地開発，業者・マニア採取

分布状況

県内では北部の新見市，真庭市の山地のやや高所の草原に見られるが，株数は激減した。県外では本州（兵庫県～中国地方）に分布し，山地の乾いた草原に生える。

生育状況

高さ40～70cmになる多年草。茎は直立し，狭い翼がある。根出葉や茎の下部の葉は披針形または線状披針形，長さは葉柄を含めて20cm前後ある。茎葉は茎に沿下する。花期は8～10月。頭花は数が少なく，密集して散房状につく。総苞は長さ9～10mm，紫褐色でくも毛がある。総苞片は8～9列，最外片は卵状披針形または披針形，鋭尖頭。花冠は淡紅紫色，長さ9mmくらいである。

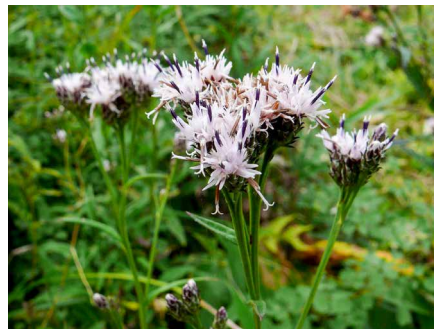
関係法令の指定状況

「自然公園法」ではネコヤマヒゴタイを別名としてキリガミネトウヒレンが氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物とされている。

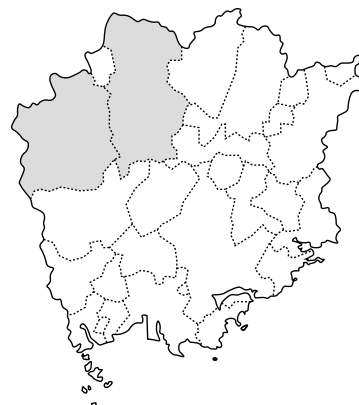
主要文献

大橋ほか編（2017b），大久保（1999）

（高山敬三・狩山俊悟）



撮影：地職 恵



オオダイトウヒレン*Saussurea nipponica* Miq.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では北部の山地に自生するとされるが（大久保, 1999）、集団数、個体数ともに非常に少なく、姿を見かけることはほとんどない。森林伐採や園芸採取のために減少したのかもしれない。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, 業者・マニア採取

分布状況

岡山県では中国山地に分布し、自然林や二次林、半自然草地に生える。本州（近畿地方、中国地方）、四国、九州（北部）に分布し、山中の木陰にまれに生育する。

生育状況

高さ50～100cmになる多年草。茎は直立、狭い翼があり、上部に粉状の細毛がある。根出葉は卵形、花期にも残っている。花期は9～10月。頭花は紅紫色、多数が散房状につく。総苞は広筒形、長さ10～14mm。総苞片は短く外曲し、褐色の細毛がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

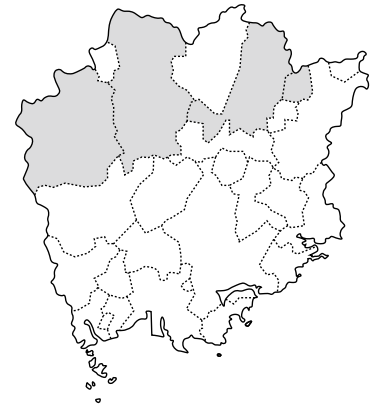
主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）、山口県野生生物保全対策検討委員会（2002）

（狩山俊悟）



撮影：高原千春

**ヒメヒゴタイ***Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

岡山県では北西部の石灰岩地や蛇紋岩地を中心に分布するが、生育地は限定的で集団数、個体数ともに多くない。二次林内の下草刈りや付近の草刈りが適度に行われなくなると、次第に姿を消していく可能性がある。新見市では石灰石の採掘のため、絶滅した集団がある。

存続を脅かす要因

管理放棄, 草地開発, 石灰採掘, 業者・マニア採取

分布状況

岡山県の中中部、北部に点在し、二次林や草地、林縁に生える。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、日当たりのよい草地に生育する。

生育状況

高さ30～150cmになる越年草。茎は直立、上部で分枝する。葉は広皮針形から皮針形、長さ12～18cm、下部のものは羽状に深裂する。花期は8～10月。頭花は紅紫色、多数が散房状につく。総苞は広鐘形、幅10～14mm。総苞片は先に淡紅色で膜質の付属体がある。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

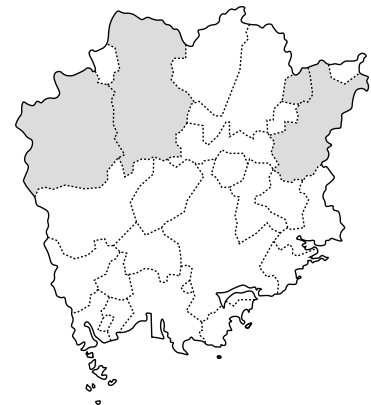
主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



セイトウトウヒレン*Saussurea tanakae* Franch. et Sav. ex Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

1931年、2005年に標本が採集されていたが、確実な生育地は把握されていなかった。2016年に新たに生育地が発見され、2019年現在、岡山県下で把握されているのはこの集団のみである。生育地である半自然草原の管理停止や開発などにより絶滅の恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限、管理放棄、草地開発、業者・マニア採取

分布状況

県内では、真庭市の半自然草原のごく狭い範囲に数十個体が生育している。国内では本州（関東～中部地方、岡山県、広島県）に分布し、山地の草地に生える。日本固有。



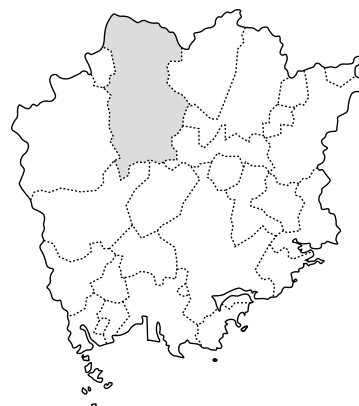
撮影：雪江祥貴

生育状況

高さ70～100cmになる多年草。茎は著しい翼がある。根出葉は花時に枯れ、茎葉は互生、葉身は心形から広卵形、長さ8～15cm。花期は9～11月。花は総状につき、頭花は径15mm。総苞片は鋭頭で8～9列、外片は三角形で短く、覆瓦状に並ぶ。同属のヒメヒゴタイは総苞片の先に膜質で淡紅紫色の付属体があることで、ホクチアザミ、ネコヤマヒゴタイとキクアザミは頭花が密に散房状につくことで、ミヤコアザミは総苞片が鈍頭であることで、オオダイトウヒレンは総苞片の先が短く外曲することで、広島県の帝釈峡に分布するタイシャクトウヒレンは総苞片が13～15列になることで区別できる。

主要文献

加藤ほか編（2011）、北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）
（雪江祥貴・狩山俊悟）

**キクアザミ***Saussurea ussuriensis* Maxim.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では中部から北部にかけての山地の草原に点在する。産地が限られており、開発などによって存続に影響を受ける可能性がある。また生育する草地にササが侵入して、しだいに姿を消しつつある。

存続を脅かす要因

道路工事、草地開発、管理放棄

分布状況

県内では中部、北部に点在し、日当たりの良い草地に生える。国内では本州（福島県以南）、九州に分布し、山地の草原や夏緑樹林の林縁などに生える。



撮影：高田真一

生育状況

高さ30～120cmになる多年草。茎は直立し、翼はない。根生葉は花時にも残る。茎葉は硬く、卵形、長さ7～18cm、羽状に浅～中裂し、3～7対の裂片がある。花期は9～10月。頭花は散房状につく。花冠は長さ11～13mm、淡紅紫色。

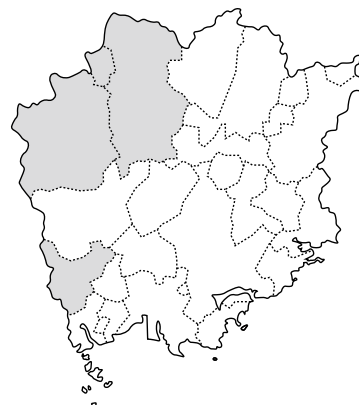
関係法令の指定状況

「自然公園法」による水ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1957）、大橋ほか編（2017b）

（狩山俊悟）



ハンゴンソウ*Senecio cannabinifolius* Less.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

山地の林中や、やや湿り気のある林縁・草原に群生しており、限られた場所しか生育しておらず個体数も少ない。

存続を脅かす要因

自然遷移，産地局限，草地開発

分布状況

県内では県北西部の山地の湿った草原に生えている。国内では北海道，本州（中部地方以北）に分布し，山地の草原や林間の草地に生育する。

生育状況

高さ1～2mになる多年草。茎は太く，しばしば紫色，根茎は横に伏し，太い。葉は互生して，3～7羽状深～全裂し，基部は葉柄につづく。花期は7～9月。茎の先に散房状に多数の黄色頭花をつける。頭花は径2cm，舌状花は4～5個。

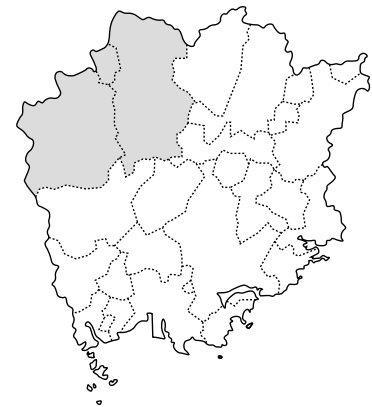
主要文献

畔上（1996），林（1983）

（浅井幹夫・狩山俊悟）



撮影：難波靖司

**キオン***Senecio nemorensis* L.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

もともと生育地，個体数ともに少ない。新しく林道が作られたことにより消失した場所もあり，開発や森林伐採に十分な注意が必要。

存続を脅かす要因

森林伐採，道路工事，産地局限，自然遷移

分布状況

県内では北東部の夏緑林下，林縁，草原，林道脇などに生育する。県外では北海道，本州，四国，九州に分布する。

生育状況

茎の長さ50～100cmの多年草。葉は長だ円形で互生し，縁には不ぞろいの鋸歯があり，分裂しない。花期は8～9月。茎の上部で枝分かれし，多数の黄色い頭花を散房状につける。頭花は径2cmほどで，舌状花は5個。開花していればよく目立つ。

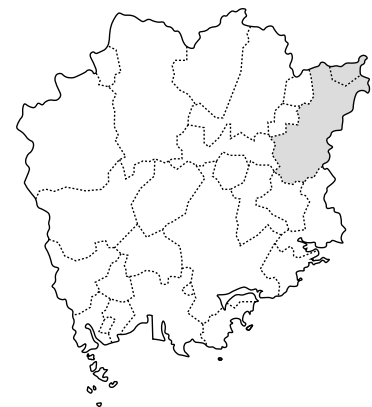
主要文献

畔上（1996），中原・羽賀（1985），大橋ほか編（2017b），大久保（1999）

（地職 恵）



撮影：地職 恵



アオヤギバナ

Solidago yokusaiana Makino

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

産地がきわめて限られている。

存続を脅かす要因

産地局限, その他(出水による流失)

分布状況

本州, 四国, 九州, 琉球(沖縄島)に点在するが少ない。岡山県内では中部の西寄りの一部で知られているだけである。

生育状況

川岸の岩上に生える多年草で茎は直立し, 高さ50cmくらいになる。互生する葉は細長くてほぼ全縁。9~10月, 径1.5cmくらいの頭花が茎の先に穂のように集まって咲く。花は黄色。アキノキリンソウに似ているが, アオヤギバナは葉が線形で細長く, 種子の全体に毛があるが, アキノキリンソウの種子には頭の方に散生するのみである。現地は増水時には冠水するような場所で, 出水による流失の危険が多い。

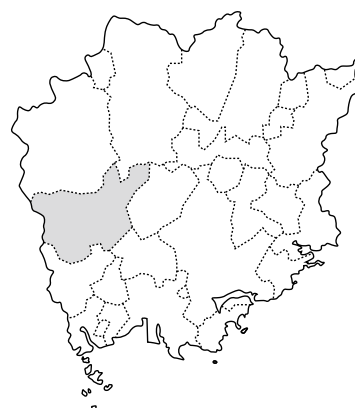
主要文献

狩山ほか(2000), 大久保(1999)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ハバヤマボクチ

Synurus excelsus (Makino) Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育場所が草刈り場などとして維持されてきた山地草原であることから, 農業形態の変化による二次草原の減少や, 管理放棄された草原の植生遷移が進行し, 減少している。

存続を脅かす要因

草地開発, 管理放棄, 自然遷移

分布状況

岡山県内では中部, 北部の日当たりのよい山地草原や林縁などに生育する。県外では本州(福島県以南), 四国, 九州に分布する。

生育状況

茎は高さ100~200cmになる大型の多年草。生育地では, 辺りから抜きん出て背が高い。茎は太くて堅く紫色を帯び, 全体にクモ毛がある。下部の葉は長柄があり, 三角形で基部は鈍型にはりだす。ふちには欠刻状の歯牙があり, 裏面には白い綿毛が密生する。花期は9~10月。暗紅紫色の頭花は径4~5cmで大きく, 枝先に下向きにつく。和名の葉場山は, 草刈り場のある山という意味。

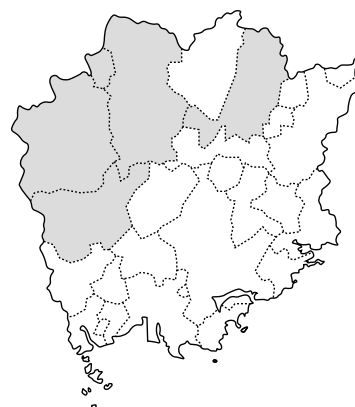
主要文献

林(1989), 中原・羽賀(1983), 大橋ほか編(2017a), 大久保(1999)

(地職 恵)



撮影：波田善夫



ヤマボクチ*Synurus palmatopinnatifidus* (Makino) Kitam. var. *indivisus* Kitam.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が人為的に維持されてきた山地草原や林縁であることから、二次草原の減少や管理放棄されたことによる植生遷移が進行し、減少している。

存続を脅かす要因

草地開発，管理放棄，自然遷移

分布状況

岡山県内では中部，北部に広く点在し，日当たりのよい山地草原，林縁，林道沿いなどに生える。キクバヤマボクチよりずっと少ない。県外では本州（愛知県以西），四国，九州に分布する。



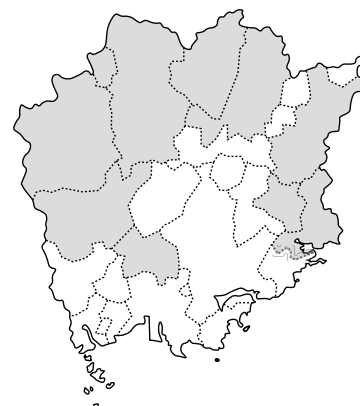
撮影：地職 恵

生育状況

茎の高さが70～100cmになる多年草。葉は卵心形で基部は心形となり，やや薄く，裏面に白い綿毛がある。キクバヤマボクチに似るが，掌状中裂しない。花期は10～11月。淡紫色または淡黄色の頭花は径3.5cmで，総苞片は狭く針状で開出する。花を付けた茎は垂れたようになる。キクバヤマボクチと同じような場所に生育し，根生葉の時には見分けられない。

主要文献

北村ほか（1957），大橋ほか編（2017b），大久保（1999）
（地職 恵）

**コウリンカ***Tephroseris flammea* (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

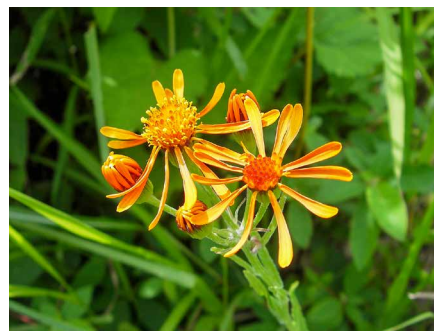
花期は夏であり，山菜採りを装っての採取被害は無いと思われるが，花の形も色も珍しく，乱獲の影響は否定できない。また生育地の環境は人為的干渉により持続している場合が多く，安定的な存続に不安がある。

存続を脅かす要因

業者・マニア採集，管理放棄，自然遷移，草地開発

分布状況

本州に分布し，広島県が西限になっている。岡山県では新見市，真庭市などの県北部において，カヤ場や野焼きによって成立した山地草原，中国山地の稜線に近い半自然草地などに点々とある。より寒冷な本州中部地方では，高層湿原の周囲で見られる植物である。



撮影：難波靖司

生育状況

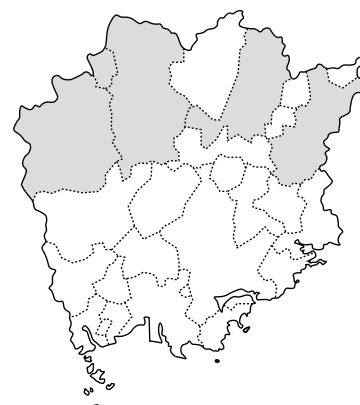
日当たりのよい山地の草原に生える多年草。茎は高さ50～60cmで上部にクモ毛がある。花期は7～8月。頭花は径3～4cmでやや散状につき，赤橙色の長い舌状花が反り返って咲く姿は，色とともに目に付く。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

主要文献

北村ほか（1957），大橋ほか編（2017b）
（難波靖司）



ウラギク

Tripolium pannonicum (Jacq.) Schur

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

干潟や河口が開発され、生育地が減少した。

存続を脅かす要因

海岸開発, 河川開発

分布状況

北海道, 本州(関東以西の太平洋側), 四国, 九州の塩湿地に生える。岡山県内では内湾や河口の干潟などに生育している。以前は笠岡湾干拓地に大きな群落があったが、現在は少ない。

生育状況

一年草。茎は無毛で直立し、高さ30～100cm。上部は分枝し、下部は帯紅色。葉は互生し、無柄で基部はやや茎を抱き、無毛で多肉質。総苞は筒型で、長さ7mm。総苞片は3列。舌状花冠は長さ12～16mm、紫色。冠毛は果時15mm。そう果は長さ3mm、幅1mm。花期は7～12月。近縁な帰化植物のホウキギクも海岸に生えることが多いが、総苞の径が2mmと細く、花は白色であるので、間違えることはない。ヒロハホウキギクは花色がピンクであるが、総苞は径2.5mmである。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

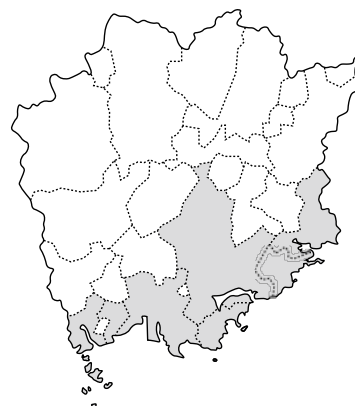
主要文献

榎本(1998a, b), 榎本・河口(1987), 狩山・榎本(1998, 2001), 狩山ほか(2006, 2008), 小島ほか編(2005), 小島ほか(2000), 大久保(1999), 津坂ほか(2007)

(榎本 敬)



撮影：榎本 敬



ヒメシオン

Turczaninovia fastigiata (Fisch.) DC.

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：該当なし

選定理由

真庭市の1カ所で生育が確認されているのみで、個体数もわずかである。生育地である草地が、管理放棄されると絶滅してしまう可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局地, 管理放棄, 草地開発, 業者・マニア採取

分布状況

県内では、真庭市の半自然草原に生育する。狭い範囲に小数個体が生育している。県外では本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国, ウスリー, アムール, 東シベリア。

生育状況

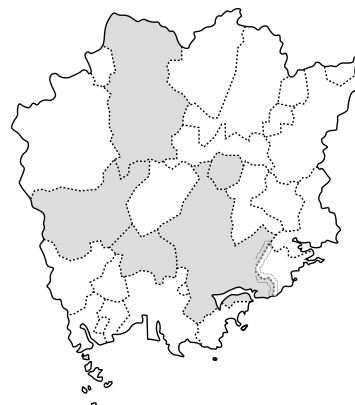
草原や小川のふちなどに生える多年草。茎は高さ30～100cmになり、上部で分枝し、密に短毛がある。葉は線状披針形または披針形で、縁には短毛があり、裏面は緑白色で短毛と腺点があり、上部のものほど小さくなる。花期は8～10月。頭花は径7～9mmと小さく、舌状花は一列で白色。

主要文献

林(2013), 北村ほか(1957), 大久保(1999), 大橋ほか編(2017b)
(雪江祥貴・地職 恵)



撮影：地職 恵



オナモミ*Xanthium strumarium* L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

被子植物 真正双子葉類 キク科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

池のへりなどの生育地が減少した。最近では見つからない。

存続を脅かす要因

帰化競合, その他(ため池改修)

分布状況

北海道から琉球まで日本全土に分布する。岡山県では南部の岡山市, 倉敷市, 旧日生町(現備前市), 中部の旧佐伯町(現和气町)などからの報告があるが, 近年外来種におされてか, 見かけない。

生育状況

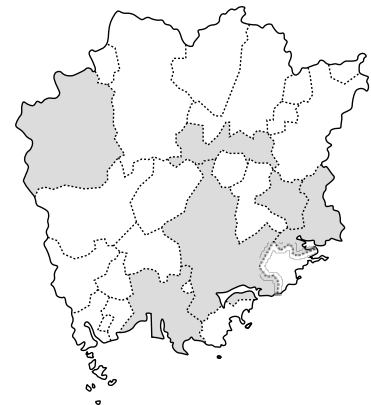
道ばたや荒地に生える一年草で風媒花。茎は高さ20~100cmになる。葉は長い柄があり, 卵状三角形で3浅裂し不揃いな鋸歯がある。両面に剛毛があつてざらつく。花期は8~10月, 筒状花は白色。近似種との区別は果苞と刺で見分けるのがもっともわかりよい。日本には古い時代にアジア大陸から入ってきたと考えられている。

特記事項

分布情報図は過去の標本採集記録による。

主要文献小島ほか(2000), 小島ほか(2005), 大久保(1999)
(榎本 敬)

撮影：小島辰三

**レンプクソウ***Adoxa moschatellina* L.

被子植物 真正双子葉類 レンプクソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

ただちに絶滅が危惧される状況ではないが, 植物体が小さく目立たないため, 生育が把握されにくく, 気付かれないまま生育環境が破壊される恐れがある。

存続を脅かす要因

道路工事, 草地開発, 森林伐採, 土地造成, ほ場整備, 自然遷移

分布状況

岡山県内では中部から北部に分布。おもに石灰岩地に分布するが, 非石灰岩地でも見つまっている。県外では北海道, 本州(広島県以東), 四国(徳島), 九州北部に分布する。国外では北半球の温帯に広く分布。

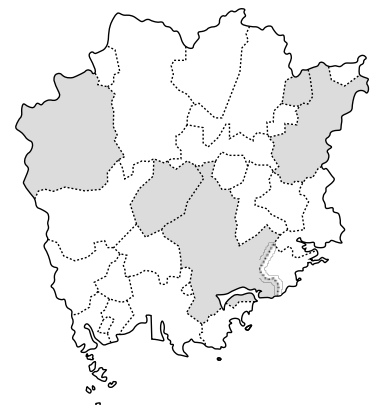
生育状況

全体細くてやわらかく, 無毛の多年草。白色で細い地下茎の先に小さな球茎をつくってふえる。茎は高さ5~17cm, 根出葉は2回3出複葉で, 長い柄があり, 小葉は羽状に中裂する。茎葉は小さく, 1対が対生する。花期は3~5月。花は黄緑色, 直径4~6mmで, 茎の先に5個が頭状に集まって咲く。別名, ゴリンバナ。

岡山県内の自生地では, 林縁, やぶ陰, 道端, クリ林の下, 神社境内など, 比較的人里近くに生育する。

主要文献林(2013), 中原・羽賀(1982), 大橋ほか編(2017b), 大久保(1999)
(片岡博行・地職 恵)

撮影：地職 恵



チョウジガマズミ

Viburnum carlesii Hemsl. var. *bitchiuense* (Makino) Nakai

被子植物 真正双子葉類 レンブクソウ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：準絶滅危惧 (NT)

選定理由

岡山県では石灰岩地に生育が限られ、個体数も少ない。道路沿いのものは道路工事などにより消失してしまう恐れがあるほか、花が美しいため、園芸目的の採取も脅威となっている。

存続を脅かす要因

道路工事, 石灰採掘, 業者・マニア採取

分布状況

県内では中部の阿哲地域を中心に、北部の石灰岩地の一部にも生育。県外では本州（中国地方）、四国（香川県、愛媛県）、九州（福岡県）に分布する。岡山県は分布の東限にあたると思われる。

生育状況

岡山県内では、日当たりのよい石灰岩地の岩角地などに生育している。高さ3mほどになる落葉低木。葉は対生し、長さ3～10cmの広卵形、表面には短い開出毛や分岐毛があり、裏面にも星状毛がある。花期は4～5月。枝先に直径3～6cmの集散花序をだし、香りのよい花を多数つける。7～10mmの長楕円形の核果が黒熟する。

関係法令の指定状況・特記事項

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園ならびに大山隠岐国立公園の指定植物である。吉野善介氏が1902年に新見市で採集した標本をもとに、牧野富太郎博士が同年、チュウゴクガマズミの名で発表した、岡山県をタイプ産地とする植物である。

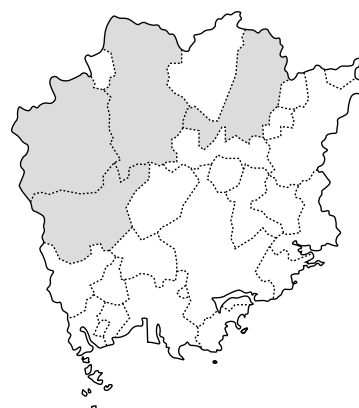
主要文献

茂木ほか（2003）、難波（1993）、大橋ほか編（2017b）、矢原ほか（2015）

（片岡博行・地職 恵）



撮影：地職 恵



ウスバヒョウタンボク

Lonicera cerasina Maxim.

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

岡山県西部の石灰岩地を中心に分布するが、集団数、個体数ともにそれほど多くなく、道路の拡幅工事や観光開発のための歩道整備などで減少する恐れがある。

存続を脅かす要因

産地局限, 道路工事, その他（観光開発）

分布状況

岡山県では中部の数カ所に知られ、二次林や岩角地に生育している。本州（紀伊半島、山陽）、四国、九州に分布し、山地の二次林内に生える。日本固有。

生育状況

高さ2mになる落葉低木。枝は無毛で中実、葉は対生、葉身は倒卵状長だ円形からやや細く、長さ4～10cm、質薄く、先は長く尖る。ふちをのぞき両面ともほぼ無毛。花期は4～5月。花は両性、葉の付け根から花柄をだして2花をつける。花冠は黄白色、2唇形で無毛、長さ6～12mm、上唇は4裂する。果実はだ円形、2個が合着し長さ7～8mm、6月頃、赤色に熟す。同属のオニヒョウタンボクとダイセンヒョウタンボクは、葉が有毛、特に裏面脈上に毛が多い。

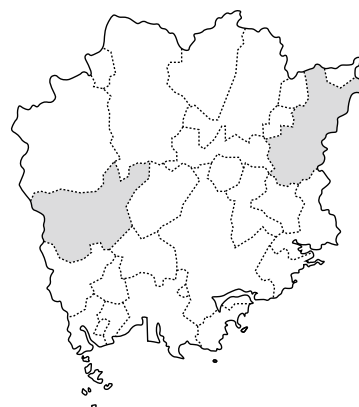
主要文献

加藤ほか編（2011）、北村・村田（1971）、大橋ほか編（2017b）、矢原ほか（2015）

（片岡博行・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ヤマヒョウタンボク*Lonicera mochidzukiana* Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：留意 ●環境省：該当なし

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。小型の低木であるため、森林伐採や下草刈り時に誤伐の恐れがあるほか、植生の遷移による環境変化などで減少する恐れがあり、注意を払う必要がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、自然遷移、産地局限

分布状況

岡山県内ではおもに南部、中部の低山地の林内に生育するが、北部でも見つかっている。県外では本州（東海、近畿、中国地方）、四国、九州に分布する。日本固有。

生育状況

高さ1 m内外の落葉低木。古くなると樹皮は縦にさげ灰色。髄は中実。葉は対生、卵形から長楕円形で先はあまり尖らない。質はやや薄く、両面に毛を散生し全縁。葉表の脈はややへこみ裏側に隆起する。花期は5月。葉腋から斜め上に1 cm内外の柄を出し、先に2花をつける。花は唇形で白色。萼は5裂し、裂片は披針形、縁に腺毛がある。果実は球形で2個が合着し、6～7月に赤熟する。

関係法令の指定状況・特記事項

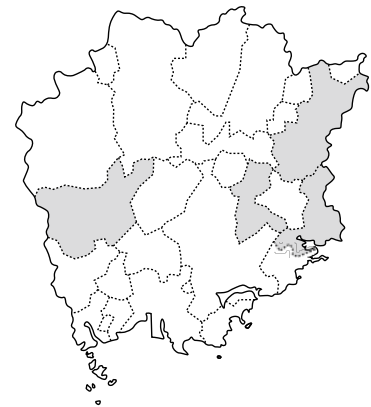
1906（明治39）年、現和気町で牧野富太郎博士が採集。1914（大正3）年、新種として発表した。「自然公園法」による瀬戸内海国立公園の指定植物である。

主要文献

加藤ほか編（2011）、北村・村田（1971）、茂木ほか（2003）、難波（1993）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）
（片岡博行・地職 恵）



撮影：地職 恵

**コウグイスカグラ***Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：絶滅 ●環境省：該当なし

選定理由

1951年に標本が採集されて以降、50年以上にわたって記録がない。

分布状況

岡山県では県東部の兵庫県との県境に近い山地で採集された標本があるのみ。国内では宮城、新潟県以西の本州、四国に分布する。日本固有。

生育状況

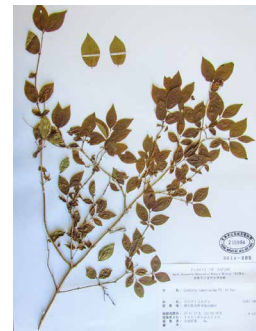
日当たりの良い山地に生育する、高さ1～2 mほどの落葉低木。枝は中実で、密に分枝する。葉は対生、長さ0.6～6 cm、幅0.3～3 cmの卵形～長楕円形で全縁、基部は広いくさび型。葉の両面や葉柄、枝には軟毛が多いが、ときに葉の表面の毛は脱落することがある。花期は4～5月、葉腋に淡黄緑色で長さ1～2 cmの長い漏斗状の花を2個ずつつける。果実は直径6～8 mmの球形の液果で7月頃、赤く熟す。2個の果実は合着するが、ほとんど離生しているように見える。

特記事項

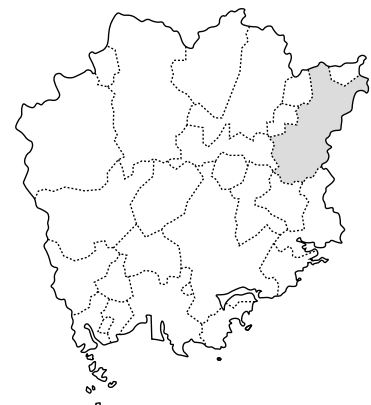
2014年に古屋野寛氏が倉敷市立自然史博物館に寄贈した植物標本の中から、1951年6月に採集された標本が発見され、岡山県にも分布したことが明らかとなった。

主要文献

加藤ほか編（2011）、茂木ほか（2003）、大橋ほか編（2017b）
（片岡博行）



所蔵：倉敷市立自然史博物館



ダイセンヒョウタンボク

Lonicera strophiphora Franch. var. *glabra* Nakai

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

中国山地のブナ帯に生育し、個体数がもともと少ない。生育環境のわずかな変化で減少する可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、業者・マニア採集（園芸採取）、産地局限

分布状況

岡山県内では中国山地のブナ林下などの岩場や岩上にまれに生える。県外では近畿、中国地方に多く分布が見られる。日本固有。

生育状況

高さ1～2mの落葉低木。アラゲヒョウタンボク（オオバヒョウタンボク）に良く似ているが、子房と花柱に毛がない。若い枝は紫褐色で中実。葉は卵形から長楕円状卵形、鋭尖頭で、両面とも毛がある。ふちや裏面の脈上、葉柄には開出する長い毛が多い。花期は4～5月。葉の展開と同じころ、枝先の下部の葉腋から花柄を出し、2個の漏斗状の白い花を咲かせる。苞は葉状で、果実の時期にも残る。果実は2個が並ぶが、合着はしない。6～7月に赤く熟す。和名のダイセンは鳥取県の大山で見つかったことによる。

関係法令の指定状況・特記事項

アラゲヒョウタンボクの品種 *f. glabra* とする見解もある。「自然公園法」による大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

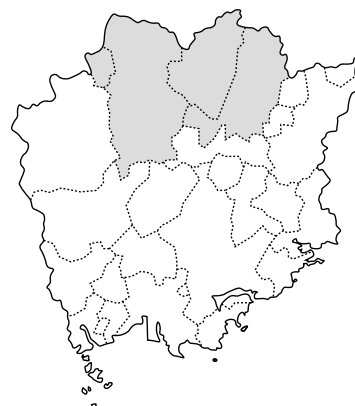
主要文献

加藤ほか編（2011）、北村・村田（1971）、茂木ほか（2003）、大橋ほか編（2017b）、大久保（1999）

（片岡博行・地職 恵）



撮影：地職 恵



オニヒョウタンボク

Lonicera vidalii Franch. et Sav.

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由

県内における生育地は1地域のみだが、1997年に標本が採集されたのを最後に、2019年現在、確実な自生地は把握されていない。

存続を脅かす要因

産地局限、森林伐採、道路工事、業者・マニア採取

分布状況

本州（岩手、群馬、長野、岡山、広島）と島根県隠岐島に隔離的に分布する（福島県のレッドリストにも記載があるが「情報不足」とされている）。中国地方では広島県帝釈峡から岡山県高梁市の石灰岩地に分布する。国外では朝鮮半島南部に分布。

生育状況

高さ3～5mになる落葉小高木。枝は良く分枝し中実。葉は対生、長さ3～9cm、幅2～5cmの倒卵形～長楕円形で先は尖り、基部は円形またはくさび形。葉の両面に毛があり、特に裏面の脈上に立毛が多い。葉裏には微細な腺点がある。葉柄は長さ5～20mmで腺毛がある。花期は5～6月、葉腋から伸びた長さ1～1.5cmの花柄の先に2花がつく。花冠ははじめ白色、のちに淡黄色となる。果実は球形、2個が合着して長さ7～11mm、7～8月に赤く熟す。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

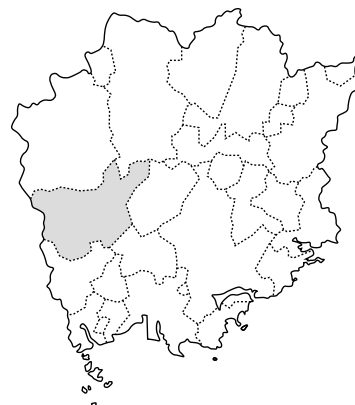
主要文献

福島県生活環境部自然保護課（2019）、茂木ほか（2003）、大橋ほか編（2017b）、矢原ほか（2015）

（片岡博行・高田真一）



撮影：狩山俊悟



マツムシソウ

Scabiosa japonica Miq.

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県での生育地であるカヤ場は徐々に減ってきており、その場を生育地とする種も減少傾向にある。まだカヤ場が存続する地域を中心に生育していることから、だだちに絶滅することはないと思われるが、生育環境も含めた種の状態には十分注意が必要である。

存続を脅かす要因

自然遷移, 管理放棄, 草地開発, 業者・マニア採取

分布状況

岡山県北部にあり、半自然草地や放牧地などの山草地に生える。現状では集団数、個体数ともにそれほど少ないわけではないが、山地の放牧地が急速に減少し、しだいに姿を消している。北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の乾いた草原に生える。

生育状況

高さ30～80cmになる越年草。茎は直立、分枝する。葉は対生、羽状に分裂し、長さ5～10cm、裂片はさらに分裂する。花は8～10月に咲き、長い柄の先に径2.5～5cmの頭状花序を上向きにつける。花冠は淡青色、周辺部の小花は5裂し、外側の裂片が大きいのでびる。中心部の裂片は筒状で等しく5裂する。果時には頭状花序は球形となり、径約1.5cm。果実は8肋条ある小総包に包まれる。

関係法令の指定状況

「自然公園法」による瀬戸内海国立公園、大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

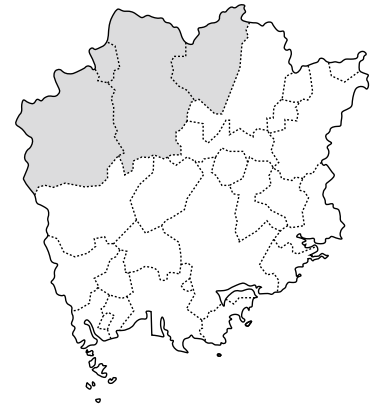
主要文献

大橋ほか編 (2017b)

(波田善夫)



撮影：波田善夫



ニシキウツギ

Weigela decora (Nakai) Nakai

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では生育地が中国山地の一部に限られ、個体数も多くない。林道や登山道沿いのものは、整備・改修のため不用意に伐採されてしまう可能性がある。

存続を脅かす要因

産地局限, 道路工事 (林道工事), その他 (林道や登山道の整備)

分布状況

岡山県では中国山地の一部に分布し、林内や溪谷に生える。本州 (宮城県以南の太平洋側)、四国、九州の山地に広く分布する。日本固有。

生育状況

高さ5mになる落葉小高木。若い枝はほぼ無毛。葉は対生、葉身はだ円形から広だ円形、長さ5～12cm。花期は5～6月。花は両性、枝先や葉の付け根に2～3個ずつつき、白色からしだいに紅色に変わる。果実は円筒形、長さ2～3cm、ほぼ無毛。同属のヤブウツギは若枝や果実が有毛、タニウツギは花が淡紅色であることで区別できる。

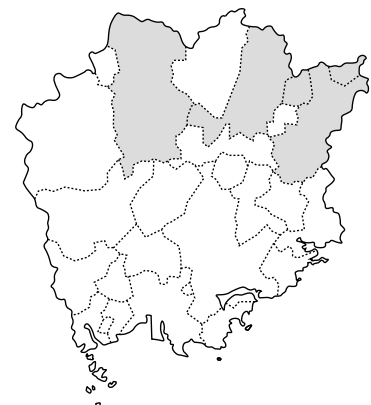
主要文献

加藤ほか編 (2011), 北村・村田 (1971), 大橋ほか編 (2017b)

(狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



イワツクバナウツギ

Zabelia integrifolia (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.

被子植物 真正双子葉類 スイカズラ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

石灰岩地などの特殊な地質の地域に産地が限定されており、個体数も多くない。道路沿いなどに生育するものも多く、拡幅工事等が行われれば消滅する可能性も高い。

存続を脅かす要因

産地局限, 森林伐採, 自然遷移, 道路工事, 土地造成, 石灰採掘

分布状況

岡山県内ではおもに高梁, 新見市周辺の石灰岩地や真庭市の蛇紋岩地などに分布する。県外では本州(中西部), 四国, 九州に点々と分布する。日本固有。

生育状況

高さ2mほどになる落葉低木。枝はよく分枝し、樹皮は灰褐色で6条の縦溝がある。葉は対生し長さ2.5~7cm, 幅1~3cmの倒卵形~長楕円形, 基部はふくらんで相対する基部と合着する。花期は5~6月, 若枝の先に淡紅色を帯びた白色の花を普通2個ずつつける。果実は長さ8~13mmの細い筒状, 4枚のがく片が宿存する。

関係法令の指定状況・特記事項

1914年に吉野善介氏が新見市で初めて採集した(Koidzumi, 1915)。「岡山県自然保護条例」により自然環境保全地域(塩滝地域)の野生動植物保護地区において保護すべき種に指定。また、「自然公園法」による大山隠岐国立公園の指定植物である。

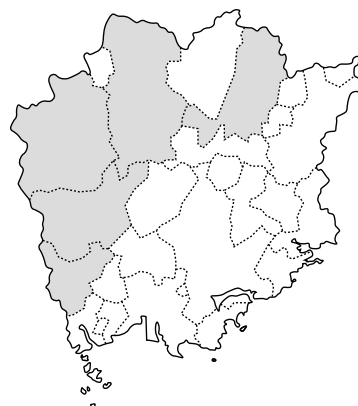
主要文献

加藤ほか編(2011), 北村・村田(1971), Koidzumi(1915) 茂木ほか(2003), 難波(1993), 大橋ほか編(2017b)

(片岡博行)



撮影：片岡博行



コヤスノキ

Pittosporum illicioides Makino

被子植物 真正双子葉類 トベラ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：準絶滅危惧(NT)

選定理由

産地がごく限られており、生育数も少ない。そのため森林伐採などにより容易に消失する恐れがある。

存続を脅かす要因

森林伐採, 産地局限

分布状況

日本では岡山県南東部と兵庫県西南部に分布しているだけだが、中国大陸と台湾にも生えている。岡山県内で生えているのは旧吉永町(現備前市), 旧作東町(現美作市), 旧御津町(現岡山市)のみ。

生育状況

常緑低木。高さは2mほどになり、よく枝分かれする。葉は長楕円形で先がとがり、基部はくさび形に細まるが、鋸歯も毛もなく、小枝の先に集まって輪生状に互生する。短い葉柄がある。5月ごろ黄色い5弁花を開く。雌雄異株。雌株がつける果実は直径1cm余りで秋に熟れて3裂し、赤い種子が現れる。

特記事項

安政3年(1856)に作られた『草木図説』に書かれていたが、実物が確かめられたのは明治33年(1900)。その2年ほど前に兵庫県で見つかった標本を牧野富太郎が確認した。岡山県内では昭和10年(1935)旧吉永町(現備前市)で発見された。

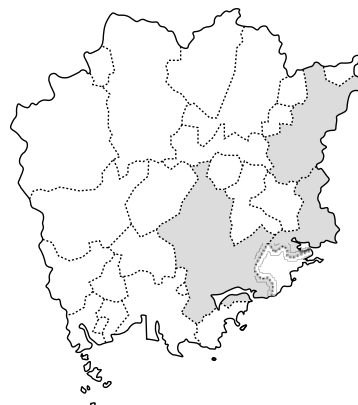
主要文献

大久保(1999), 林(2014), 大橋ほか編著(2017b)

(波田善夫)



撮影：波田善夫・(部分写真：地職 恵)



ウラゲウコギ*Eleutherococcus spinosus* (L.f.) S.Y.Hu var. *nikaianus* (Koidz. ex Nakai) H.Ohba

被子植物 真正双子葉類 ウコギ科

●岡山県：情報不足 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北部中部の山地に自生とされるが（大久保，1999），その後の確かな生育情報がなく，現状不明である。

分布状況

岡山県では北部や中部の山地に分布していたとされる。国内では，本州（近畿地方以西），四国，九州（北部）に分布する。

生育状況

高さ1m前後になる夏緑性小低木である。枝はふつう棘がある。葉は掌状複葉で小葉は5個，長さ1.5～5cm，幅1～2.5cmとなり，上面の脈上に毛状の小突起があり，葉の両面に粗い毛が散生する。下面には短硬毛がある。葉の縁は欠刻状の鋭い重鋸歯があり，葉柄は長さ3～7cmである。花は5月に咲き，長さ2～5cmの柄の先に1個の散形花序をつける。花序は無毛で，小花柄の長さ5～8mm，やや多数の花をつける。果実は球形で直径は約5mm，黒く熟する。同属のヤマウコギは葉がやや大きく，小葉は長さ3～7cm，鋸歯は低く，重鋸歯にならないことで，オカウコギは葉の両面が無毛であることで区別できるとされる。

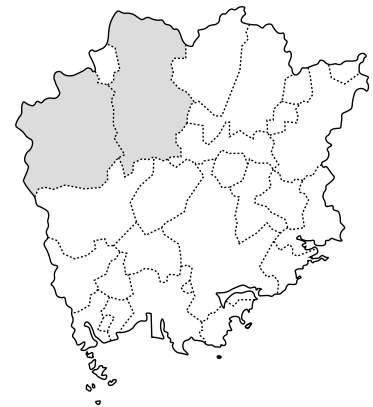
主要文献

大橋ほか編（2017b）

（太田 謙・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟

**ミヤマトウキ***Angelica acutiloba* (Siebold et Zucc.) Kitag. subsp. *iwatensis* (Kitag.) Kitag.

被子植物 真正双子葉類 セリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅱ類 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県北部の2カ所で生育が知られているのみで，個体数もわずかである。溪谷の湿った岩上に生えることから，増水によって流失することがある。新見市の集団は，ダム建設によって一部が水没した可能性が高い。

存続を脅かす要因

産地局限，ダム建設，その他（増水による流失）

分布状況

岡山県では北部の溪谷の湿った岩上に生育する。国内では，北海道，本州（東北地方）に分布し，岡山県は分布の西限にあたる。

生育状況

山地に生える，高さ1m前後になる多年草である。全草に強い香りがある。茎は稲妻形に屈曲し，無毛である。葉は1～3回の羽状複葉となり，両面とも無毛，終裂片は3深裂して重鋸歯がある。花期は7～8月で，花は複散形花序につき，白色，総苞片はないかまに1個ある。果実はだ円形，長さ4～6mm。花期は6～7月である。淡紅色の小さな花が一方に偏ってつく。

特記事項

岡山県は分布の西限にあたりと考えられる。

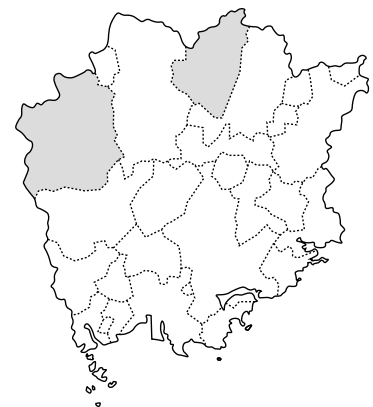
主要文献

牧野（1989），岡山県（2010），大橋ほか編（2017b）

（太田 謙・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ツクシゼリ

Angelica longiradiata (Maxim.) Kitag.

被子植物 真正双子葉類 セリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

岡山県では真庭市の1集団が知られるのみで、少数個体が登山道沿いにまばらに生えているだけである。登山道の適度な草刈りによって集団が維持されており、引き続き同様の管理が行われることが望まれるとともに、登山者による不用意な踏みつけには注意が必要である。

存続を脅かす要因

産地局限, 踏みつけ, 管理放棄

分布状況

岡山県では脊梁山地の半自然草地にごく希に生える。全国では、本州（岡山県）、九州、屋久島に分布する。

生育状況

山中の草地に生える多年草で、高さ40cmとなる。葉は2～3回3出羽状複葉で、細かく切れ込み、終裂片は幅1～5mmであり、鋸歯はない。花期は8～10月。花は複散形花序につき、白色である。果実はだ円形となる。

特記事項

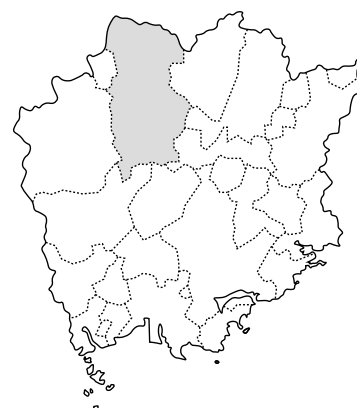
本州では岡山県の1カ所のみで隔離分布し、分布の東限となっている。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）
（太田 謙・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ミシマサイコ

Bupleurum stenophyllum (Nakai) Kitag.

被子植物 真正双子葉類 セリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

草地の減少とともに、しだいに姿を見る機会が減っている。適度な草刈りが繰り返される里草地が維持されなければ、さらに減少に拍車がかかる可能性が高い。

存続を脅かす要因

管理放棄, 自然遷移, 草地開発, 薬用採取

分布状況

岡山県では、県下一円に点在するが、瀬戸内丘陵と中国山地では少ない。国内では本州、四国、九州に分布している。薬用として栽培され、付近に逸出していることがある。

生育状況

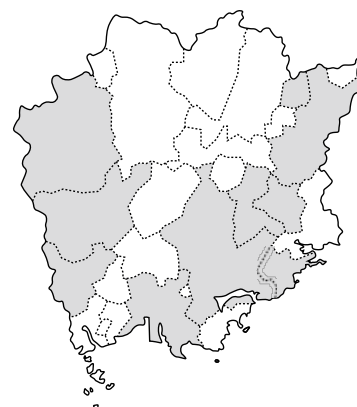
山地や丘陵地の日当たりの良い草地や雑木林下、岩上に生える多年生草本で、高さ40～70cmになる。根茎は太く、茎は直立、上部で分枝する。葉は長皮針形から線形で、長さ4～15cm、幅0.5～1.5mm、平行脈があり、基部は茎を抱かない。花は8～10月に咲き、黄色、複散形花序となり、総苞片や小総苞片は細くて短い。果実は卵球形、長さ約3mmとなる。

主要文献

牧野（1989）、岡山県（2010）、大橋ほか編（2017b）
（太田 謙・狩山俊悟）



撮影：狩山俊悟



ハマボウフウ

Glehnia littoralis F.Schmidt ex Miq.

被子植物 真正双子葉類 セリ科

●岡山県：準絶滅危惧 ●環境省：該当なし

選定理由

自然海岸の減少、荒廃とともに、しだいに姿を見る機会が減っている。鳥しょ部ではまだ個体数の多い場所もあるが、本土側では生育場所が非常に限られ、個体数も多くない。

存続を脅かす要因

海岸開発、その他（若葉が刺身のつまとして食用にされる）

分布状況

岡山県では沿海地に広く分布し、海岸の砂浜に生育する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布し、海岸の砂地に生育する。

生育状況

海岸の砂地に生える多年草で、高さは5～30cmになる。海岸の砂地に深く埋まり、根茎はやや長く伸びる。茎はふつう直立し、全体に白色の長軟毛が密生する。葉は厚く光沢があり、長さ10～20cm、1～2回3出羽状複葉となり、小葉はさらに3裂することが多い。花は6～8月に咲き、白色、密な複散形花序を作る。果実は倒卵形、長さ6～8mm、稜は翼状に隆起し、長軟毛を密生する。

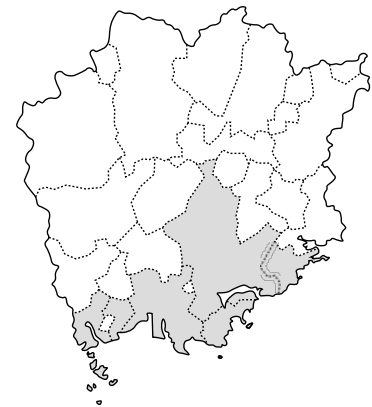
主要文献

牧野(1989)、岡山県(2010)、奥田ほか(1997)、大橋ほか編(2017b)

(太田 謙・狩山俊悟)



撮影：狩山俊悟



フキヤミツバ

Sanicula tuberculata Maxim.

被子植物 真正双子葉類 セリ科

●岡山県：絶滅危惧Ⅰ類 ●環境省：絶滅危惧Ⅱ類(VU)

選定理由

もともと集団数、個体数が少なかったうえに、道路の拡幅工事やマニアの採取などのため減少が著しいため。

存続を脅かす要因

産地局限、道路工事、管理放棄、業者・マニア採取

分布状況

岡山県中部に希にあり、林縁部や里草地に生育する。国内では本州（東海地方以西）、四国、九州に分布する。

生育状況

山地の木陰に希に生育する多年草で、高さ8～20cmになる。茎は根元から分かれて1～3本が直立する。根生葉は5～12cmの葉柄がある。茎葉は短い柄があり、根生葉よりもやや小さくなる。4～5月ごろに、茎の頂部に小散形の花序をつけて、緑色がかった花をつける。

関係法令の指定状況・特記事項

1903年に、国内では初めて高梁市成羽町で発見された。高梁市では本種の自生地を天然記念物に指定して保護している。

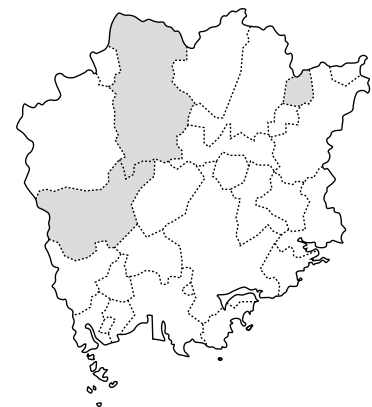
主要文献

牧野(1989)、岡山県(2010)、大橋ほか編(2017b)

(太田 謙・狩山俊悟)



撮影：榎本 敬



主な参考文献

- 愛知県環境部自然環境課編, 2001. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち-植物編-. 714pp. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
- AKASAWA Yoshiyuki, 1975. Notulae ad plantas Sikokianae (VII). 高知女子大学紀要 自然科学編, 23:1-7.
- 秋山茂雄, 1955. 極東亜産スゲ属植物. 257pp. 北海道大学, 札幌.
- 畔上能力, 1996. 山溪ハンディ図鑑2 山に咲く花. 591pp. 山と溪谷社, 東京.
- Brummitt, R.K. and C.E. Powell. 1992. Authors of plant names. 732pp. Royal Botanic Gardens, Kew, London.
- 地職恵, 2008. 岡山県新産のネコノメソウ属 2種及び88年ぶりに確認されたニシノヤマタイミンガサ. 岡山県自然保護センター研究報告, 16: 63-66.
- 地職恵, 2010. 岡山県新産のネコノメソウ属 2種について-続報-. 岡山県自然保護センター研究報告, 17: 9-12.
- 地職恵, 2017. 岡山県から見つかったヒユウガミズキ (マンサク科). 岡山県自然保護センター研究報告, 24: 49-54.
- 地職恵・高見祐一, 2012. 岡山県におけるネコノメソウ属 (その1) -初記録のチシマネコノメソウとマルバネコノメソウの追加産地-. 岡山県自然保護センター研究報告, 19: 13-21.
- 海老原淳 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 475pp. 学研, 東京.
- 海老原淳 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 507pp. 学研, 東京.
- Endo, Yasuhiko and Hiroyoshi Ohashi, 1987. Chromosomes of five infraspecific taxa of *Vicia venosa* (Leguminosae) in Japan. J. Jap. Bot. 62(3): 65-69.
- 榎本敬, 1993. 今,干潟の植物が危ない. 倉敷の自然をまもる会編 自然への思い 岡山-昔を探り,今を見つめて. 214-217. 山陽新聞社, 岡山.
- 榎本敬, 1998a. 岡山県の海岸植物,とくに砂浜,干潟,河口の植物の種類と分布ならびに種子の収集保存に関する研究. 山陽放送学術文化財団リポート 42: 51-55.
- 榎本敬, 1998b. 岡山県邑久町錦海塩田跡の塩生植物. しぜんしくらしき 24: 27.
- 榎本敬, 2001. 鬼城山環境調査報告書 (高等植物). 鬼城山環境調査報告書. pp.53-100. 総社市教育委員会, 総社.
- 榎本敬・藤沢浅・笠原安夫, 1980. 岡山大学農業生物研究所蔵 植物標本目録 (兼・岡山県植物目録). 204pp. 岡山大学農業生物研究所, 倉敷.
- 榎本敬・狩山俊悟・小島裕子・稲若邦典・藤野睦子・池畑怜伸・片山久・木下延子・小島辰三・石橋猛・渡辺修, 1995. 岡山県南部において絶滅が危惧される水草の種類と分布. 倉敷市立自然史博物館研究報告, 10: 15-41.
- 榎本敬・狩山俊悟・小島裕子・稲若邦典・藤野睦子・池畑怜伸・片山久・木下延子・小島辰三・石橋猛・渡辺修, 1996. 岡山県南部における水草の分布と環境. 倉敷市立自然史博物館研究報告, 11: 15-60.
- 榎本敬・狩山俊悟・古屋野寛・小島裕子, 1990. 酒津八幡山周辺地域の植物. 倉敷の自然 - 酒津八幡山地域 -. pp. 11-47. 倉敷市衛生局環境保健部, 倉敷.
- 榎本敬・狩山俊悟・古屋野寛・小島裕子, 1991. 倉敷市由加山系南東部地域の植物. 倉敷市由加山系の自然 - 南東部地域 (特にC地区) -. pp. 11-36. 倉敷の自然をまもる会, 倉敷.
- 榎本敬・木下延子・溝手啓子・小島裕子・片山久・貝原千恵子・一色昌子・栢野邦子・片岡博行・小島辰三・狩山俊悟, 2003. 北の吉備路環境調査報告書. pp.145-253. 総社.
- 榎本敬・小島裕子・林智子・山根宏子・仁木葉子・狩山俊悟, 2002. 清音村植物目録. 92pp. 清音村教育委員会, 清音.
- 榎本敬・河口芳里, 1987. 笠岡湾干拓地の植物相. 倉敷市立自然史博物館研究報告, 2: 1-30.
- 藤井伸二. 2018. 寄主植物を用いたマメダオシ (ヒルガオ科) の生育環境の推定. 植物地理・分類研究, 66(2): 177-184.
- 藤井伸二. 2019. 公開標本データの信頼性に関する検討事例: マメダオシ (ヒルガオ科). 日本生態学会誌, 69(2): 127-131.
- 藤井伸二・上杉龍士・山室真澄, 2015. アサザの生育環境・花型・逸出状況と遺伝的多様性に関する追試. 保全生態学研究, 20: 71-85.
- 福島県生活環境部自然保護課, 2019. ふくしまレッドリスト (2018 年版). <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/redlist-kaiteikouhyou.html>
- 福島県植物誌編さん委員会編, 1987. 福島県植物誌 (1987). 481pp. 福島県植物誌編さん委員会, いわき.

- 浜栄助, 2002. 増補 原色 日本のスミレ. 346pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 浜島繁隆・須賀瑛文, 2005. ため池と水田の生き物図鑑 植物編. 135pp. トンボ出版, 大坂.
- 橋本保・神田淳・村川博実, 1993. カラー版野生ラン. 295pp. 家の光協会, 東京.
- 林将之, 2014. 山溪ハンディ図鑑14 樹木の葉. 山と溪谷社, 東京.
- 林弥栄, 1983. 山溪カラー名鑑 日本の野草. 719pp. 山と溪谷社, 東京.
- 林弥栄, 1989. 山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花. 623pp. 山と溪谷社, 東京.
- 林弥栄, 2013. 山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花 増補改訂新版 (門田裕一 改訂版監修). 664pp. 山と溪谷社, 東京.
- 広島大学理学部付属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会, 1997. 広島県植物誌. 832pp. 中国新聞, 広島.
- 広島県版レッドデータブック見直し検討会, 2004. 改訂・広島県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックひろしま2003—. 515pp. 広島県, 広島.
- 広島県野生生物保護対策検討会編, 1995. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックひろしま. 437pp. 中国新聞社, 広島.
- 檜山庫三, 1962. 牧野標本館雑記 (9) キビヒトリシズカ (新称). 植物研究雑誌, 37(4) 125-127.
- 星野卓二, 2005. 岡山県カヤツリグサ科植物における絶滅危惧種の分布調査と遺伝的多型の解析—ヒルゼンズゲおよびその近縁種—, 財団法人八雲環境科学振興財団研究レポート集, 6: 73-80.
- Hoshino, T. and H. Ikeda, 2003. A new species of *Carex* (Cyperaceae), *C. bitchuensis*, from Okayama Prefecture, Japan. J. Jpn. Bot., 78(1) : 24-28.
- 星野卓二・正木智美・西本真理子, 2002. 岡山県カヤツリグサ科植物図譜 (I) 岡山県スゲ属植物図譜. 229pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 星野卓二・正木智美・西本真理子, 2003. 岡山県カヤツリグサ科植物図譜 (II) 岡山県カヤツリグサ科植物図譜. 229pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 星野卓二・正木智美, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778pp. 平凡社, 東京.
- いがりまさし, 2004. 山溪ハンディ図鑑6 増補改訂日本のスミレ. 287pp. 山と溪谷社, 東京.
- 池田博・高山敬三・狩山俊悟 2003. 岡山県産ヒメヘビイチゴ (バラ科). 倉敷市立自然史博物館研究報告, 18: 5-6.
- 池田博・山本伸子・狩山俊悟・小林禧樹・星野卓二, 2008. 岡山県で50年ぶりに見いだされたクロタマガヤツリ (カヤツリグサ科), 莎草研究 13: 1-7.
- 池田博・吉野由紀夫 2005. ヒメヘビイチゴ (バラ科) の新産地と日本における分布. 植物地理・分類研究 53(1): 75-82.
- Iketani, H., T. Yamamoto, H. Katayama, C. Uematsu, N. Mase, and Y. Sato, 2010. Introgression between native and prehistorically naturalized (archaeophytic) wild pear (*Pyrus* spp.) populations in Northern Tohoku, Northeast Japan. Conservation Genetics: Volume 11(1) : 115-126.
- Iokawa, Y., K. Kohno, and S. Daigobo, 2004. A new variety of *Schoenoplectus mucronatus* (L.) Palla (Cyperaceae) from Japan. J. Jpn. Bot. 79(1) : 1-3.
- 岩槻邦男編, 1992. 日本の野生植物 シダ. 196pls., 311pp. 平凡社, 東京.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 1999. Flora of Japan II c. Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (c). 328pp. Kodansha, Tokyo.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 2001. Flora of Japan II b. Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (b). 321pp. Kodansha, Tokyo.
- Iwatsuki, K., D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 2006. Flora of Japan II a. Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (a). 550pp. Kodansha, Tokyo.
- Iwatsuki, K., T. Yamazaki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 1993. Flora of Japan III a. Angiospermae, Dicotyledoneae, Sympetalae (a). 482pp. Kodansha, Tokyo.
- Iwatsuki, K., T. Yamazaki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 1995a. Flora of Japan I. Pteridophyta and Gymnospermae. 302pp. Kodansha, Tokyo.
- Iwatsuki, K., T. Yamazaki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), 1995b. Flora of Japan III b. Angiospermae, Dicotyledoneae, Sympetalae (b). 181pp. Kodansha, Tokyo.
- 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 179pp. 文一総合出版, 東京.
- 角野康郎, 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 326pp. 文一総合出版, 東京.

維管束植物

- 門田裕一・畔上能力・永田芳男, 2013. 山溪ハンディ図鑑2 山に咲く花 増補改訂新版(門田裕一 改訂版監修). 616pp. 山と溪谷社, 東京.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌2001. 1580pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2018. 神奈川県植物誌2018(上). 902+64pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 神奈川県植物誌調査会編, 2018. 神奈川県植物誌2018(下). 886pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- Kaneko, S., Isagi, Y. and Nakagoshi, N., 2005. A new locality of *Adonis multiflora* (Ranunculaceae) in Japan. *Acta Phytotax. Geobot.*, 56(3) : 261-263.
- 環境庁自然保護局編, 1987. 植物目録. 740pp. 大蔵省印刷局, 東京.
- 環境庁自然保護局野生生物課, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-8 植物 I (維管束植物). 660pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁自然保護局野生生物課, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-9 植物 II (維管束植物以外). 429pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境庁水質保全局瀬戸内海環境保全室, 1988. 瀬戸内海の環境(せとうち環境研究室編). 51pp. ぎょうせい, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2007a. 哺乳類, 汽水・淡水魚類, 昆虫類, 貝類, 植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて, <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648> (2007年8月3日付け環境省報道発表資料, 2009年1月23日閲覧).
- 環境省自然環境局野生生物課, 2007b. レッドリストの修正について, <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8886> (2007年10月5日付け環境省報道発表資料, 2009年1月23日閲覧).
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015. レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-8 植物 I (維管束植物). 646pp. ぎょうせい, 東京.
- 狩山俊悟, 2000. 岡山県初記録のホンゴウソウ. しぜんしくらしき, 32: 24.
- 狩山俊悟, 2003. 岡山県植物誌資料(1) 岡山県のマメ科ソラマメ属. 倉敷市立自然史博物館研究報告, 18: 7-19.
- 狩山俊悟, 2009. 岡山県の樹木図鑑. 99pp. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷.
- 狩山俊悟・榎本敬, 1998. 岡山県におけるレッドリスト1997掲載植物の現状(1). 倉敷市立自然史博物館研究報告, 13: 33-56.
- 狩山俊悟・榎本敬, 2001. 岡山県におけるレッドリスト1997掲載植物の現状(2). 倉敷市立自然史博物館研究報告, 16: 79-102.
- 狩山俊悟・榎本敬・片岡博行・小澤佑二・木下延子, 2006. 向山の植物. 倉敷の自然. pp.19-40. 倉敷市市民環境局環境部, 倉敷.
- 狩山俊悟・榎本敬・小島裕子, 1999. 倉敷市児島由加山の水生植物. 倉敷市立自然史博物館研究報告 14: 1-16.
- 狩山俊悟・榎本敬・小島裕子, 2000. 岡山県植物目録(岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編, 1980)に追加する植物(2). 倉敷市立自然史博物館研究報告 15: 5-13.
- 狩山俊悟・榎本敬・小島裕子・安原清隆, 1990. 岡山県植物目録(岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編, 1980)に追加する植物. 倉敷市立自然史博物館研究報告 5: 1-21.
- 狩山俊悟・榎本敬・古屋野寛・小島裕子, 2000. 倉敷市由加山系の植物. 倉敷市由加山系全域の自然. pp.17-77. 倉敷の自然をまもる会, 倉敷.
- 狩山俊悟・小島裕子・榎本敬, 1994. 岡山県産水草目録. 倉敷市立自然史博物館研究報告, 9: 25-54.
- 狩山俊悟・小島裕子・榎本敬, 2006. 岡山県備前市の植物. 倉敷市立自然史博物館研究報告 21: 1-57.
- 狩山俊悟・小島裕子・榎本敬, 2008. 岡山県瀬戸内市産植物目録. 倉敷市立自然史博物館研究報告 23: 1-74.
- 狩山俊悟・古屋野寛・榎本敬・小島裕子, 1998. 羅生門の植物相 維管束植物. 羅生門自然環境保護・保全調査報告書. pp.45-80. 羅生門自然環境保護・保全調査団, 新見.
- 片岡博行・榎本敬・木下延子・溝手啓子・片山久・一色昌子・小島裕子・狩山俊悟, 2005. 総社市植物目録. 219pp. 総社市生活環境部環境課, 総社.
- 片山久, 1996. 岡山県産竹笹類第I報. 富士竹類植物園報告, 40: 24-47.
- 片山久, 1998. 岡山県産竹笹類第II報. 富士竹類植物園報告, 42: 19-31.
- 片山久, 2003. 岡山県産竹笹類第III報. 富士竹類植物園報告, 47: 13-26.
- 加藤雅啓・海老原淳編, 2011. 国立科学博物館叢書11 日本の固有植物. 503pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- 勝山輝男, 2005. 日本のスゲ. 375pp. 文一総合出版社, 東京.
- 勝山輝男, 2018. ヌマダイコン属 *Adenostemma* J.R.Forst. & G.Forst. 神奈川県植物誌2018(下)(神奈川県植

- 物誌調査会編), pp.1623-1624. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 木村保夫・國井秀伸, 1998. バイカモ (*Ranunculus nipponicus* var. *submersus*) とヒルゼンバイカモ (*R. nipponicus* var. *okayamensis*) のシュートの形態と成長特性の比較. 日本生態学会誌, 48: 257-264
- 北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑 草本編〔I〕合弁花類. 297pp., 70pls. 保育社, 大阪.
- 北村四郎・村田源, 1961. 原色日本植物図鑑 草本編〔II〕離弁花類. 390pp., 72pls. 保育社, 大阪.
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑 草本編〔III〕単子葉類. 464pp., 108pls. 保育社, 大阪.
- 北村四郎・村田源, 1971. 原色日本植物図鑑 木本編〔I〕. 401pp., 72pls. 保育社, 大阪.
- 北村四郎・村田源, 1979. 原色日本植物図鑑 木本編〔II〕. 545pp., 138pls. 保育社, 大阪.
- 小橋理絵子, 2005. 岡山県2ヵ所目のホンゴウソウ発見記. しぜんしくらしき, 52: 2.
- 小島裕子・榎本敬・狩山俊悟, 1990. 高梁市臥牛山の植物. 平成元年度天然記念物"臥牛山の猿生息地"のニホンザル保護・管理調査報告書. pp.48-95. 高梁市教育委員会, 高梁.
- 小島裕子・狩山俊悟・榎本敬・仁木葉子編, 2005. 岡山市植物目録. 259pp. 岡山市環境保全部環境調整課, 岡山.
- 小島裕子・狩山俊悟・片山久・木下延子・榎本敬, 2000. 岡山市産植物目録 改訂版. 155pp. 岡山市保険福祉局保険部環境保全課, 岡山.
- 小島裕子・狩山俊悟・木下延子・片山久・榎本敬, 1999. 岡山市産植物目録. 岡山市産植物目録. 153pp. 岡山市環境保全課, 岡山.
- Kobayashi, T., K. Sasamura and K. Watanabe, 2008. *Arisaema inaense* and *A. nagiense*, Two diploid species of the *A. ovale* group (Araceae). Acta Phytotax. Geobot. 59(1) : 37-43.
- 小林禧樹, 2008. 新種ナギヒロハテンナンショウの発見と記載にまつわる話. 兵庫県植物誌研究会・会報, 75: 1.
- Koidzumi G., 1915. Decades Plantarum Novarum vel minus Cognitarum. Bot. Magg. Tokyo 29(348) : 309-315.
- 高知県・高知県牧野記念財団編, 2009. 高知県植物誌. 844pp. 高知県・高知県牧野記念財団, 高知.
- 古屋野寛, 1993. 倉敷市内のレッドデータ植物 (3). 自然史博物館だよりNo.10.
- 窪田正彦, 1998. 広島県南部でのカラハナソウの発見. 比婆科学, 188: 41-42.
- 窪田正彦・窪田美良子, 2007. 広島県植物誌資料 (8). 比婆科学, 224: 19-23.
- 倉敷市立自然史博物館, 1994. 倉敷市生物目録. 254pp. 倉敷市立自然史博物館, 倉敷.
- 倉田悟・中池敏之編, 1971. 原色日本林業樹木図鑑 改訂版 第1巻. 652pp. 地球出版, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1979. 日本のシダ植物図鑑 1. 628pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1981. 日本のシダ植物図鑑 2. 648pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1983. 日本のシダ植物図鑑 3. 728pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1985. 日本のシダ植物図鑑 4. 850pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1987. 日本のシダ植物図鑑 5. 816pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1990. 日本のシダ植物図鑑 6. 881pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 1997. 日本のシダ植物図鑑 8. 473pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 2004. 日本のシダ植物図鑑 7 (新装版). 409pp. 東京大学出版会, 東京.
- 倉田悟・中池敏之編, 2004. 日本のシダ植物図鑑 8 (新装版). 473pp. 東京大学出版会, 東京.
- 京都府環境部自然環境保全課編, 2015. 京都府レッドデータブック2015第2巻: 野生植物・菌類編. 611pp. 京都府環境部自然環境保全課, 京都.
- 牧野富太郎, 1989. 改訂増補・牧野新日本植物図鑑 (小野幹雄・大場秀章・西田誠編). 1453pp. 北隆館, 東京.
- 牧野富太郎, 2008. 新牧野日本植物圖鑑 (大橋広好・邑田仁・岩槻邦男編). 1458pp. 北隆館, 東京.
- 牧野富太郎・根本莞爾, 1931. 日本植物総覧 訂正増補. 1936. 春陽堂, 東京.
- 正木智美編, 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766pp. すげの会. 岡山.
- 正木智美・勝山輝男・星野卓二, 2006. 日本産スゲ属ホンモンジスゲ類の分類と分布. 莎草研究 12: 1-70.
- Masuyama, S. and Y. Watano, 2010. Cryptic species in the fern *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn. (Parkeriaceae) IV. Taxonomic revision. Acta Phytotax. Geobot. 61(2) : 75-86.
- 茂木透・石井英美・太田和夫・勝山輝男・城川四郎・崎尾均・高橋秀男・中川重年・吉山寛, 2000. 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花-離弁花①. 719pp. 山と溪谷社, 東京.
- 茂木透・石井英美・太田和夫・勝山輝男・城川四郎・崎尾均・高橋秀男・中川重年・吉山寛, 2000. 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花-離弁花②. 719pp. 山と溪谷社, 東京.
- 茂木透・勝山輝男・太田和夫・崎尾均・高橋秀男・石井英美・城川四郎・中川重年, 2001. 山溪ハンディ図鑑 5 樹

維管束植物

- に咲く花—合弁花・単子葉・裸子植物. 719pp. 山と溪谷社, 東京.
- 村田源・小山博滋, 1982. 日本産ヒヨドリバナ属の再検討, 植物分類地理 33: 282-381.
- 邑田仁・大野順一・小林禱樹・東馬哲雄, 2018. 日本産テンナンショウ属図鑑. 360pp. 北隆館, 東京.
- 室井緯, 1956. 岡山県の竹と笹, 備中の植物, 6: 7-17. 吉野植物研究所, 岡山.
- 中原清士・羽賀実, 1982. 原色図鑑 岡山の野の花 春. 253pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 中原清士・羽賀実, 1983. 原色図鑑 岡山の野の花 夏・秋. 269pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 中原清士・羽賀実, 1985. 原色図鑑 続岡山の野の花. 285pp. 山陽新聞社, 岡山.
- 中池敏之 1992. 新日本植物誌シダ篇 増補改訂版. 868pp. 至文堂, 東京.
- 中西弘樹, 2018. 日本の海岸植物図鑑. 271pp. トンボ出版, 大阪.
- 中西弘樹, 2019. 九州新産のトウカイコモウセンゴケとその特徴. 植物地理・分類研究, 67(1):53-58.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000. 日本植物種子図鑑. 642pp. 東北大学出版会, 仙台.
- 難波早苗, 1993. 岡山県内に自生する特殊な植物. 249pp. 財団法人岡山県環境保全事業団, 岡山.
- 難波靖司・波田善夫, 1997. 岡山県における植物分布要因の解析. 岡山県自然保護センター研究報告, 5: 15-41.
- Naohiro, N., S. Takashi, W. Takao and I. Yoshikane, 2004. A new variety of *Scutellaria* (Lamiaceae) from Japan. J. Phytogeogr. Taxon. 52: 127-135.
- 西本孝, 1994. 岡山県のブナ林内におけるチシマザサとチマキザサの分布. 岡山県植物研究会誌, 13: 18-23.
- 西本孝, 2005. 岡山県新産植物 ミタケスゲ. きび野, 99: 5.
- 西本孝・中西哲, 1984. 中国山地東部のブナ林について. 神戸大学大学院自然科学研究科紀要, 2-B: 25-48.
- Niu, L-M. and H. Ohba, 2003. Taxonomic studies in *Deutzia* Thunb. (Saxifragaceae s. l.) in Japan (3) Chromosome numbers of *Deutzia bungoensis* Hatus. and *D. ogatae* Koidz. J. Jpn. Bot. 78(5) : 257-261
- 野田光蔵, 1971. 中国東北区(満洲)の植物誌. 1613pp. 風間書房, 東京.
- 岡本泰典, 2007. 岡山県初記録のアズマツメクサ. しぜんしくらしき, 63: 10-11.
- 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室編, 1980. 岡山大学農業生物研究所所蔵・植物標本目録〔兼・岡山県植物目録〕. 204pp. 岡山大学農業生物研究所雑草学研究室, 倉敷.
- 岡山県. 2010. 岡山県版レッドデータブック2009. pp.1-311. 岡山県環境保全事業団, 岡山.
- 岡山県生活環境部自然環境課, 2003. 岡山県版レッドデータブック. pp.209-402. 財団法人岡山県環境保全事業団, 岡山.
- 岡山県生活環境部自然環境課, 2003. 維管束植物. 岡山県野生生物目録. pp.295-378. 岡山.
- 奥田重俊編. 1977. 生育環境別日本野生植物館. pp.1-631. 小学館, 東京.
- 大場達之, 2010. ヌマダイコンとオカダイコン. 千葉県植物誌資料, 26: 249-251.
- 大場達之・宮田昌彦, 2007. 日本海藻図譜. 114pp. 北海道大学出版会, 札幌
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2015. 改訂新版 日本の野生植物 1 (ソテツ科~カヤツリグサ科). 391pp., 272pls. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2016a. 改訂新版 日本の野生植物 2 (イネ科~イラクサ科). 381pp., 256pls. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2016b. 改訂新版 日本の野生植物 3 (バラ科~センダン科). 338pp., 264pls. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2017a. 改訂新版 日本の野生植物 4 (アオイ科~キョウチクトウ科). 348pp., 256pls. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司編, 2017b. 改訂新版 日本の野生植物 5 (ヒルガオ科~スイカズラ科). 474pp., 284pls. 平凡社, 東京.
- 大井次三郎, 1992. 新日本植物誌 顕花篇 (北川政夫改訂). 1716pp. 至文堂, 東京.
- 大久保一治, 1999. 私の採集した岡山県自然植物目録 付 帰化植物・栽培植物 増補改訂版. 357pp. 岡山花の会, 岡山.
- 長田武正, 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 425pp., 64pls. 保育社, 大阪.
- 長田武正, 1994. 増補 日本イネ科植物図譜. 777pp. 平凡社, 東京.
- 小澤佑二・榎本敬・木下延子・片山久・小島裕子・溝手啓子・剣持玲子・山下純・片岡博行, 2007. 旧山手村植物目録. 120pp. 総社市生活環境部環境課, 総社.
- レッドデータブックひろしま改訂検討委員会, 2013. 広島県の絶滅の恐れのある野生生物 (第3版) - レッドデー

- タブックひろしま2011- . 633pp. 広島県, 広島.
- レッドデータブック近畿研究会, 2001. 改訂・近畿地方の保護上重要な植物-レッドデータブック近畿2001-. 164pp. 財団法人平岡環境科学研究所, 神奈川.
- 鮫島惇一郎, 1989. 北海道の樹木. pp.184. 北海道新聞社, 札幌.
- Sano, R., M. Takamiya, S. Kurita, M. Ito and M. Hasebe, 2000. *Diplazium subsinuatum* and *Di. tomitaroanum* should be moved to *Deparia* according to molecular, morphological, and cytological characters. J. Plant Res. 113(1110) : 157-164.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫編, 1989. 日本の野生植物 木本 I. 321pp., 304pls. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫編, 1989. 日本の野生植物 木本 II. 305pp., 288pls. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982. 日本の野生植物 草本 I 単子葉類. 305pp., 208pls. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982. 日本の野生植物 草本 II 離弁花類. 318pp., 272pls. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫編, 1982. 日本の野生植物 草本 III 合弁花類. 259pp., 224pls. 平凡社, 東京.
- 志賀隆・角野康郎, 2005. ヒメコウホネ (広義) の分類と生育地の現状について. 分類, 5: 113-122.
- 鳥根県環境生活部景観自然課, 2004. 改訂 しまねレッドデータブック-鳥根県の絶滅のおそれのある野生動植物-. 415pp. 財団法人ホシザキグリーン財団, 鳥根.
- 清水建美, 1982. 原色新日本高山植物図鑑 (I). 331pp. 保育社, 大阪.
- 清水建美・門田裕一・木原浩, 2014. 山溪ハンディ 8 高山に咲く花 増補改訂新版. 山と溪谷社, 東京.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七, 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 554pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 杉本順一, 1961. 日本樹木総検索誌. 552pp. 六月社, 大阪.
- 杉本順一, 1973. 改訂増補・日本草本植物総検索誌単子葉編. 630pp. 井上書店, 東京.
- 杉本順一, 1978. 改訂増補・日本草本植物総検索誌 I 双子葉編. 871pp. 井上書店, 東京.
- 鈴木和雄, 1990. 日本のイカリソウ-起源と種分化. 187pp. 八坂書房, 東京.
- 鈴木貞雄, 1978. 日本タケ科植物総目録. 384pp. 株式会社学習研究社, 東京.
- 鈴木貞雄, 1996. 日本タケ科植物総目録 増補改訂版 日本タケ科植物図鑑. 271pp. 聚海書林, 千葉.
- 高宮正之, 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類, 地理, 50(1) : 101-138.
- 高宮正之, 2006. 鳥瞰だけではなく地域情報を生かした虫瞰の植物分類学-ノコギリシダ属を例として-. Bunrui, 6(1) : 1-24.
- Takamiya, M., M. Watanabe and K. Ono, 1997. Biosystematic studies on the genus *Isoetes* in Japan. IV. Morphology and anatomy of sporophytes, phytogeography and taxonomy. Acta Phytotax. Geobot. 48(2) : 89-122.
- Tamura, M. N., S. Fuse, H. Azuma and M. Hasebe, 2004. Biosystematic studies on the family Tofieldiaceae I. Phylogeny and circumscription of the family inferred from DNA sequences of *matK* and *rbcL*. Plant Biology 6(5) : 562-567.
- 徳島県希少野生生物保護検討委員編, 2014. 徳島県版レッドリスト (改訂版) 8. 維管束植物, <https://www.pref.tokushima.lg.jp/file/attachment/463495.pdf> (2019年10月31日閲覧)
- 鳥取県自然環境調査研究会編, 2002. レッドデータブックとっとり-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-(植物編). 203pp. 鳥取県生活環境部環境政策課, 鳥取.
- 津坂真智子・木村陽介・矢野興一・山本伸子・狩山俊悟・榎本敬・池田博・星野卓二, 2007. 岡山県に自生する絶滅危惧植物の染色体数. Naturalistae 11: 15-29.
- 上杉龍士・西廣淳・鷺谷いづみ, 2009. 日本における絶滅危惧水生植物アサザの個体群の現状と遺伝的多様性. 保全生態学研究 14: 13-24.
- 梅沢俊, 1989. 新北海道の花. pp.62. 北海道大学出版会, 札幌.
- Wakabayashi, M. and H. Ohba, 1995. A taxonomic study of *Chrysosplenium fauriae* group (Saxifragaceae), with description of a new species. Acta Phytotax. Geobot. 46(1) : 1-27.
- 鷺谷いづみ, 2006. サクラソウの目 第2版 繁殖と保全の生態学. 238pp. 地人書館, 東京.
- Wiegand, G. 1988. Notes on Japanese Ranunculus subgenus *Batrachium*. Acta Phytotax. Geobot. 39(4-6) : 117-132.

維管束植物

- 藪内喜人, 2018. 岡山県におけるツツイトモ (ヒルムシロ科) の新産地. 水草研究会誌, 106 : pp.24-26.
- 藪内喜人, 2019. 岡山県笠岡市におけるツツイトモ (ヒルムシロ科) の生育と生態. しぜんしくらしき, 111 : pp.11-12.
- 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳 監修, 2015. 絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版. 782pp. 山と溪谷社, 東京.
- 山口県野生生物保全対策検討委員会, 2002. レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 511pp. 山口県環境生活部自然保護課, 山口.
- 山尾僚・波田善夫, 2008. 岡山県岡山市で発見されたホンゴウソウ. *Naturalistae* 12: 41-44
- 山下純・小島裕子・狩山俊悟・榎本敬編, 2010. 岡山市植物目録. 330pp. 岡山市環境局環境保全課, 岡山.
- Yamashita, J. and M. N. Tamura, 2016. Dioscoreaceae. *In* Flora of Japan, IVb. pp.171-179, Kodansha, Tokyo.
- 山崎敬, 1993. クロヅルについて. 植物研究雑誌, 68: 363-366.
- 山崎敬, 2000. カラハナソウ中国地方で発見. 植物研究雑誌, 75: 125.
- 矢野興一・浅間 (尾崎) 聡子・正木智美・勝山輝男・池田博・星野卓二, 2009. 岡山県産クロミノハリイ (カヤツリグサ科) とその保全について. 莎草研究 14: 9-16.
- 米倉浩司・梶尾忠, 2003-. 「BG Plants 和名-学名インデックス.」(YList), <http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/download.php> (2007年4月15日付けダウンロードファイル).
- 米倉浩司・梶尾忠, 2003-. 「BG Plants 和名-学名インデックス.」(YList), http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2009年1月12日閲覧).
- 吉川純幹, 1957・1958・1960. 日本スゲ属植物図譜 1～3. 421pp. 北陸植物の会, 石川.
- 吉野善介, 1929. 備中植物誌. 67pp. 吉野薬店, 高梁.
- 吉沢利忠, 1989. 蒜山 自然と人と. 222pp. 山陽新聞社, 岡山.